

小泉天神西遺跡

上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2025

群馬県上信自動車道建設事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

小泉天神西遺跡

上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2025

群馬県上信自動車道建設事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

上信自動車道は、群馬県渋川市の関越自動車道渋川伊香保インターチェンジと長野県東御市の上信越自動車道東部湯の丸インターチェンジを結ぶ総延長約83kmに及ぶ自動車専用の地域高規格道路として平成6年度から計画設計されました。

現在では平成26年度から吾妻東バイパス2期事業として、吾妻郡東吾妻町箱島から植栗の間で事業が進められています。小泉天神西遺跡は令和4・5年度の2ヶ年にわたり発掘調査が実施されました。発掘調査の結果、縄文時代から中近世にかけての遺構、遺物が数多く出土しました。特に、圈足円面硯や墨書土器など役所などの公的機関の存在を窺わせる資料や、鉄鍬などの鉄製品と鉄滓から想定される小鍛冶の存在など、当時のこの地域の特色を示す遺構・遺物も検出されています。

本報告書刊行に至るまでに、群馬県県土整備部、群馬県上信自動車道建設事務所、群馬県地域創生部、東吾妻町教育委員会及び地元関係者の皆様には多大なご理解とご協力を賜りました。ここに感謝申し上げますとともに、本報告書が地域の歴史解明の資料として活用されることを願い、序といたします。

令和7年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 向田忠正

例 言

1. 本書は、令和4年度・令和5年度上信自動車道建設事業に伴い発掘調査された小泉天神西遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 小泉天神西遺跡の所在地は、群馬県吾妻郡東吾妻町大字小泉字天神920、921、922番地である。
3. 事業主体は、群馬県上信自動車道建設事務所である。
4. 調査主体は、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。
5. 発掘調査の期間と体制は下記のとおりである。

令和4年度	調査期間	令和4年12月1日～令和5年3月31日
	(履行期間)	令和4年4月1日～令和5年3月31日)
	調査担当	須田正久(上席調査研究員・調査統括)・田村 真(主任調査研究員) 鈴木佑太郎(専門員)・多田宏太(専門員)
令和5年度	調査期間	令和5年4月1日～令和5年5月31日
	(履行期間)	令和5年4月1日～令和6年3月31日)
	調査担当	斎藤 聡(主任調査研究員・調査統括)・麻生敏隆(専門調査役)

遺跡掘削工事 株式会社歴史の杜

地上測量委託 株式会社測研

航空写真委託 技研コンサル株式会社

6. 整理の期間と体制は下記のとおりである。

令和5年度	整理期間	令和6年1月1日～令和6年3月31日
	(履行期間)	令和5年4月1日～令和6年3月31日)
	整理担当	岩崎泰一(専門調査役)
令和6年度	整理期間	令和6年4月1日～令和6年11月30日
	(履行期間)	令和6年4月1日～令和7年3月31日)
	整理担当	麻生敏隆

自然科学分析委託 テフラ分析：株式会社火山灰古学研究所

黒曜石製石器産地推定：株式会社パレオ・ラボ

7. 報告書作成の担当者は下記のとおりである。

編 集 麻生敏隆・岩崎泰一

デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員)

本文執筆 第1・2・4章 麻生敏隆・岩崎泰一

第3章 第1・2節 麻生敏隆、第3節 橋本 淳(主任調査研究員・資料統括)・麻生敏隆、

第4・5節 麻生敏隆・神谷佳明(専門調査役) 第6節 麻生敏隆

第5章 第1節 矢口裕之(専門員(補佐))、第2節 神谷佳明、第3節 麻生敏隆

遺物観察表 縄文土器 橋本 淳

縄文石器・石製品 関口博幸(資料第1課長(総括))

土師器・須恵器 神谷佳明 陶磁器 大西雅広(専門調査役)

金属製品 板垣泰之(専門員(主任))

遺構写真 発掘調査担当者

遺物写真 縄文土器・土師器・須恵器 麻生敏隆・岩崎泰一

縄文石器・石製品 関口博幸 陶磁器 大西雅広 金属製品 板垣泰之

8. 発掘調査資料および出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

9. 発掘調査および報告書作成にあたっては、下記の機関・諸氏にご指導ご協力をいただいた。記して感謝いたします。(敬称略)

群馬県上信自動車道建設事務所 群馬県地域創生部文化財保護課 東吾妻町教育委員会 吉田智哉

凡 例

1. 本書で使用した遺構図は、世界測地系(日本測地成果2000 平面直角座標第IX系)を用い測量した。方位は座標北で示した。
2. 等高線・遺構断面図等に記した数値は海拔標高を示す。
3. 遺構名称は、発掘調査時の名称を踏襲して、遺構種別に通し番号で表記した。
4. 遺構の記載のうち、全容が計測できない場合は残存値()で表記した。
5. 遺構の土層断面に記載した色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色表監修『新版標準土色帖』に拠る。

6. 遺構図・遺物図については、各挿図中にスケールを添付した。

7. 遺物の番号は、種別に限らず遺構ごとに通し番号とした。

8. 遺構挿図内で使用したトーン・記号は次の事を示している。

焼土  硬化面  カクラン  土器 ● 石器 ▲ 鉄製品 ■ 陶磁器 ○

9. 遺物挿図内で使用したトーンは次の事を示している。

煤  黒色  燻  灰軸  白色付着物  敲打痕  摩耗痕 

10. 降下テフラは以下の略号を使用した。

As-Kk：浅間粕川テフラ(1128年)

As-B：浅間Bテフラ(1108年)

Hr-FA：榛名二ツ岳渋川テフラ(6世紀初頭)

12. 本書では下記の地形図を編集し、掲載している。

国土地理院1/200,000地勢図「長野」(平成24年5月1日発行)

国土地理院1/200,000地勢図「高田」(平成18年10月1日発行)

国土地理院1/200,000地勢図「宇都宮」(平成23年6月1日発行)

国土地理院1/50,000地形図「草津」「中之条」(平成10年8月1日発行)

吾妻町都市計画図11・17 1/2,500(昭和51年測量)

群馬県10万分の1地質図 群馬県地質図作成委員会 平成11年

目次

序	第6節 中・近世の遺構と遺物	134
例言	(1) 概要	134
凡例	(2) 掘立柱建物	134
目次	(3) 柵	151
挿図目次	(4) 溝	153
文中写真・表目次	(5) 畑	156
写真目次	(6) 土坑	158
第1章 調査の経過と方法	(7) ビット	171
第1節 上信自動車道吾妻東バイパスについて	(8) 遺構外出土遺物	171
第2節 調査に至る経緯	第4章 自然科学分析	172
第3節 発掘調査の経過	第1節 分析の目的と成果	172
第4節 発掘調査の方法	第2節 テフラ分析	173
第5節 整理の方法	第3節 小泉天神西遺跡出土	
第2章 遺跡の概要	黒曜石製石器の産地推定	180
第1節 地理的環境	第5章 まとめ	185
第2節 歴史的環境	第1節 小泉天神西遺跡の地形と地質	185
第3節 基本土層	第2節 小泉天神西遺跡12号竪穴建物出土の	
第3章 発掘された遺構と遺物	須臾器大甕について	191
第1節 概要	第3節 調査のまとめ	200
第2節 旧石器時代	掲載遺物観察表	201
第3節 縄文時代の遺構と遺物	縄文時代 時期別土器数量	222
(1) 概要	縄文石器集計表(器種別・石材別)	224
(2) 竪穴建物	古墳時代以降石器集計表・鉄滓の重さ	225
(3) 土坑	縄文石器集計表(遺構別・器種別)	226
(4) 遺構外出土遺物	陶磁器非掲載集計表	227・228
第4節 古墳時代の遺構と遺物	土坑計測表	229
(1) 概要	ビット計測表	230
(2) 竪穴建物	石器観察表	232
(3) 土坑	写真図版	
(4) ビット	報告書抄録	
第5節 飛鳥～平安時代の遺構と遺物	付図1 縄文時代全体図	(1:200)
(1) 概要	付図2 古墳時代全体図	(1:200)
(2) 竪穴建物	付図3 飛鳥～平安時代全体図	(1:200)
(3) 竪穴状遺構	付図4 中・近世全体図	(1:200)
(4) 土坑		
(5) ビット		
(6) 遺構外出土遺物		

挿図目次

第1図	上信自動車道計画路線図	1	第64図	5号整穴建物(1)	78
第2図	道路の位置	2	第65図	5号整穴建物(2)	79
第3図	上信自動車道吾妻東バイパスの路線と各道路位置図	3	第66図	5号整穴建物出土遺物	80
第4図	調査区と国家水準	6	第67図	6号整穴建物(1)	81
第5図	道路の位置と周辺地帯	8	第68図	6号整穴建物(2)	82
第6図	道路調査区及び周辺地形図	10	第69図	6号整穴建物(3)	83
第7図	周辺道路分布図	13	第70図	6号整穴建物出土遺物(1)	84
第8図	基本土層模式図	16	第71図	6号整穴建物出土遺物(2)	85
第9図	旧石器確認調査全体図	18	第72図	7号整穴建物(1)	86
第10図	旧石器試掘確認トレンチ土層断面図(1)	19	第73図	7号整穴建物(2)	87
第11図	旧石器試掘確認トレンチ土層断面図(2)	20	第74図	7号整穴建物(3)、出土遺物(1)	88
第12図	縄文時代遺構全体図	21	第75図	7号整穴建物出土遺物(2)	89
第13図	20号整穴建物(1)	22	第76図	8号整穴建物(1)	90
第14図	20号整穴建物(2)	23	第77図	8号整穴建物(2)	91
第15図	20号整穴建物出土遺物	24	第78図	8号整穴建物(3)	92
第16図	縄文時代土坑(1)	28	第79図	8号整穴建物出土遺物(1)	93
第17図	縄文時代土坑(2)	29	第80図	8号整穴建物出土遺物(2)	94
第18図	縄文時代土坑(3)	30	第81図	9号整穴建物	95
第19図	縄文時代土坑(4)	31	第82図	9号整穴建物出土遺物	96
第20図	時期別縄文土器出土分布図	33	第83図	10号整穴建物(1)	97
第21図	器種別縄文土器出土分布図	34	第84図	10号整穴建物(2)	98
第22図	縄文時代遺構外出土遺物(1)	35	第85図	10号整穴建物(3)	99
第23図	縄文時代遺構外出土遺物(2)	36	第86図	10号整穴建物出土遺物(1)	100
第24図	縄文時代遺構外出土遺物(3)	37	第87図	10号整穴建物出土遺物(2)	101
第25図	縄文時代遺構外出土遺物(4)	38	第88図	11号整穴建物(1)	102
第26図	縄文時代遺構外出土遺物(5)	39	第89図	11号整穴建物(2)、出土遺物	103
第27図	縄文時代遺構外出土遺物(6)	40	第90図	12号整穴建物(1)	104
第28図	縄文時代遺構外出土遺物(7)	41	第91図	12号整穴建物(2)	105
第29図	縄文時代遺構外出土遺物(8)	42	第92図	12号整穴建物(3)	106
第30図	縄文時代遺構外出土遺物(9)	43	第93図	12号整穴建物(4)	107
第31図	縄文時代遺構外出土遺物(10)	44	第94図	12号整穴建物出土遺物(1)	108
第32図	縄文時代遺構外出土遺物(11)	45	第95図	12号整穴建物出土遺物(2)	109
第33図	縄文時代遺構外出土遺物(12)	46	第96図	12号整穴建物出土遺物(3)	110
第34図	縄文時代遺構外出土遺物(13)	47	第97図	13号整穴建物(1)	111
第35図	縄文時代遺構外出土遺物(14)	48	第98図	13号整穴建物(2)	112
第36図	縄文時代遺構外出土遺物(15)	49	第99図	13号整穴建物(3)	113
第37図	縄文時代遺構外出土遺物(16)	50	第100図	13号整穴建物出土遺物(1)	114
第38図	古墳時代遺構全体図	51	第101図	13号整穴建物出土遺物(2)	115
第39図	19号整穴建物	52	第102図	14号整穴建物	116
第40図	19号整穴建物出土遺物	53	第103図	14号整穴建物出土遺物	117
第41図	48号土坑	53	第104図	16号整穴建物(1)	118
第42図	飛鳥～平安時代遺構全体図	54	第105図	16号整穴建物(2)	119
第43図	1号整穴建物(1)	56	第106図	16号整穴建物(3)	120
第44図	1号整穴建物(2)	57	第107図	16号整穴建物(4)	121
第45図	1号整穴建物出土遺物(1)	58	第108図	16号整穴建物(5)	122
第46図	1号整穴建物出土遺物(2)	59	第109図	16号整穴建物出土遺物(1)	123
第47図	2号整穴建物(1)	60	第110図	16号整穴建物出土遺物(2)	124
第48図	2号整穴建物(2)	61	第111図	17号整穴建物(1)	125
第49図	2号整穴建物(3)	62	第112図	17号整穴建物(2)、出土遺物	126
第50図	2号整穴建物(4)	63	第113図	18号整穴建物(1)	127
第51図	2号整穴建物(5)	64	第114図	18号整穴建物(2)	128
第52図	2号整穴建物出土遺物(1)	65	第115図	18号整穴建物出土遺物	129
第53図	2号整穴建物出土遺物(2)	66	第116図	1号整穴状遺構、出土遺物	130
第54図	2号整穴建物出土遺物(3)	67	第117図	2号整穴状遺構、出土遺物	131
第55図	3号整穴建物(1)	68	第118図	43・46号土坑、出土遺物	132
第56図	3号整穴建物(2)	69	第119図	50号土坑、出土遺物	133
第57図	3号整穴建物出土遺物	70	第120図	遺構外出土遺物	134
第58図	4号整穴建物(1)	72	第121図	中・近世遺構全体図	135
第59図	4号整穴建物(2)	73	第122図	掘立柱建物全体図	136
第60図	4号整穴建物(3)	74	第123図	2号掘立柱建物	137
第61図	4号整穴建物(4)	75	第124図	5号掘立柱建物	138
第62図	4号整穴建物出土遺物(1)	76	第125図	6号掘立柱建物	139
第63図	4号整穴建物出土遺物(2)	77	第126図	7号掘立柱建物	140

第127図	8号掘立柱建物	141
第128図	9号掘立柱建物(1)	142
第129図	9号掘立柱建物(2)	143
第130図	10号掘立柱建物(1)	143
第131図	10号掘立柱建物(2)	144
第132図	11号掘立柱建物	145
第133図	12号掘立柱建物(1)	146
第134図	12号掘立柱建物(2)	147
第135図	13号掘立柱建物(1)	147
第136図	13号掘立柱建物(2)	148
第137図	14号掘立柱建物	149
第138図	15号掘立柱建物	150
第139図	1号櫓	151
第140図	2・3号櫓	152
第141図	1号溝(1)	153
第142図	1号溝(2)、出土遺物(1)	154
第143図	1号溝出土遺物(2)	155
第144図	1・2号畑(1)	156
第145図	1・2号畑(2)、1号畑出土遺物	157
第146図	3号畑	157
第147図	中・近世土坑(1)	165
第148図	中・近世土坑(2)	166

第149図	中・近世土坑(3)	167
第150図	中・近世土坑(4)	168
第151図	中・近世土坑(5)	169
第152図	中・近世土坑(6)	170
第153図	中・近世土坑(7)	171
第154図	中・近世遺構外出土遺物	171
第155図	調査区北壁・試掘トレンチの上層柱状図	177
第156図	中央調査区試掘トレンチの上層柱状図	177
第157図	南深掘トレンチの上層柱状図	177
第158図	野外調査写真	178
第159図	テラ分析写真	179
第160図	黒曜石産地分布図(東日本)	182
第161図	黒曜石製石器の産地推定判別図(1)	183
第162図	黒曜石製石器の産地推定判別図(2)	183
第163図	分析資料写真	184
第164図	泉沢川周辺の地形面区分図	185
第165図	遺跡間の順序対比	188
第166図	榛名山の地質図と断面図	190
第167図	森道跡大費出土11号土坑と出土した須恵器大費	194
第168図	金井下新田道跡1区3号平地建物と出土した須恵器大費	195
第169図	鶴山古窯跡町A道跡1号竪穴建物出土の須恵器大費	196
第170図	黒熊中西道跡2号遺物集積と出土した須恵器大費	197
第171図	東吾妻町新巻跡附道跡7号掘立柱建物遺構図	198

文中写真

写真1	月夜野A道跡の地層断面	189
写真2	棚沢道跡の橋梁工事露頭	189

写真3	月夜野A道跡の中之条泥函に含まれる岩塊	189
-----	---------------------	-----

表目次

第1表	上信自動車道吾妻東バイパス 調査遺跡一覧	4
第2表	周辺道跡一覧表	14
第3表	テラ検出分析結果	176
第4表	東日本黒曜石産地の判別群	181
第5表	分析対象となる黒曜石	182
第6表	測定値および産地推定結果	182
第7表	器種別の産地	182
第8表	地形面区分の概要	186
第9表	遺物観察表	201
第10表	縄文時代 時期別上部数量(1)	222
第11表	縄文時代 時期別上部数量(2)	223

第12表	縄文石器集計表(器種別・石材別点数)	224
第13表	縄文石器集計表(器種別・石材別重量)	224
第14表	縄文石器集計表(掲載点数)	225
第15表	古墳時代以降石器集計表(掲載点数)	225
第16表	鉄滓の重さ	225
第17表	縄文石器集計表(道構別・器種別点数)	226
第18表	陶磁器 非掲載遺物集計表	227
第19表	土坑計測表	229
第20表	ビット計測表	230
第21表	石器観察表	232

写真目次

P.L. 1	1	小泉天神西道跡遠景(西から)	3	70号土坑セクション(南東から)
	2	小泉天神西道跡遠景(南から)	4	70号土坑全景(南東から)
P.L. 2	1	小泉天神西道跡1区2面近景(上空から)	5	71号土坑セクション(南から)
	2	小泉天神西道跡1区4面近景(上空から)	6	71号土坑全景(南東から)
P.L. 3	1	4～6号トレンチ配置(南から)	7	233号ピットセクション(南から)
	2	4～6号トレンチ配置(東から)	8	233号ピット全景(南東から)
	3	7～12号トレンチ配置(東から)	9	234号ピットセクション(南から)
	4	基本土層セクション(南から)	10	234号ピット全景(南から)
	5	1号トレンチセクション(東から)	11	235号ピット全景(南から)
	6	6号トレンチセクション(南から)	12	236号ピットセクション(南から)
	7	7号トレンチセクション(南から)	13	236号ピット全景(南から)
	8	8号トレンチセクション(南から)	14	遺構外遺物出土状況1(東から)
	9	9号トレンチセクション(南から)	15	遺構外遺物出土状況2(東から)
	10	10号トレンチセクション(南から)	P.L. 9	19号竪穴建物全景(西から)
	11	11号トレンチセクション(南から)	2	2区全景(南から)
	12	12号トレンチセクション(南から)	3	19号竪穴建物遺物出土状況(南西から)
	13	テラ分析試料採取地点(南から)	4	19号竪穴建物焼土全(北から)
	14	テラ分析試料採取地点(南から)	5	19号竪穴建物廻り方全景(西から)
	15	テラ分析試料採取状況(南から)	P.L. 10	19号竪穴建物セクションA-A'(北から)
P.L. 4	1	20号竪穴建物全景(西から)	2	19号竪穴建物セクションB-B'(東から)
	2	20号竪穴建物遺物出土状況(西から)	3	19号竪穴建物廻り方セクション(北から)
P.L. 5	1	20号竪穴建物遺物出土状況(南西から)	4	48号土坑セクション(西から)
	2	20号竪穴建物伊輸出状況(北東から)	5	48号土坑全景(西から)
	3	20号竪穴建物伊セクション(北西から)	6	228号ピットセクション(南から)
	4	20号竪穴建物伊廻り方遺物出土状況(南西から)	7	228号ピット全景(南から)
	5	51号土坑セクション(東から)	8	229号ピットセクション(南から)
	6	51号土坑全景(東から)	9	229号ピット全景(南から)
	7	51号土坑逆茂本庭出土状況(東から)	10	230号ピットセクション(南から)
	8	52号土坑全景(西から)	11	230号ピット全景(南から)
	9	53号土坑セクション(南東から)	12	231号ピットセクション(南から)
	10	53号土坑全景(南東から)	13	231号ピット全景(南から)
P.L. 6	1	54号土坑セクション(北東から)	14	232号ピットセクション(南から)
	2	54号土坑全景(北東から)	15	232号ピット全景(南から)
	3	55号土坑セクション(南から)	P.L. 11	1号竪穴建物遺物出土状態(西から)
	4	55号土坑全景(南から)	2	1号竪穴建物セクション(東から)
	5	56号土坑セクション(北西から)	3	1号竪穴建物全景(西から)
	6	56号土坑全景(北東から)	4	1号竪穴建物廻り方セクションB-B'(西から)
	7	56号土坑P1セクション(北東から)	5	1号竪穴建物廻り方全景(西から)
	8	56号土坑P2セクション(北東から)	P.L. 12	2号竪穴建物セクション(西から)
	9	56号土坑P3セクション(北東から)	2	2号竪穴建物遺物出土状態(北から)
	10	57号土坑セクション(南から)	3	2号竪穴建物遺物出土状態(北から)
	11	57号土坑全景(南から)	4	2号竪穴建物遺物出土状態(南から)
	12	58号土坑セクション(南から)	5	2号竪穴建物遺物出土状態(南から)
	13	58号土坑全景(東から)	6	2号竪穴建物廻り方セクション(西から)
	14	59号土坑セクション(南から)	7	2号竪穴建物全景(西から)
	15	59号土坑全景(南から)	8	2号竪穴建物カマドセクション(西から)
P.L. 7	1	60号土坑セクション(南から)	P.L. 13	2号竪穴建物カマド全景(西から)
	2	60号土坑全景(東から)	2	2号竪穴建物P1全景(南から)
	3	60号土坑P1セクション(南から)	3	2号竪穴建物P2全景(南から)
	4	61号土坑セクション(東から)	4	2号竪穴建物P3全景(南から)
	5	61号土坑全景(北から)	5	2号竪穴建物P4全景(南から)
	6	62号土坑セクション(南東から)	6	2号竪穴建物P5全景(北から)
	7	62号土坑全景(南西から)	7	2号竪穴建物P6全景(南から)
	8	63号土坑セクション(北東から)	8	2号竪穴建物P7全景(南から)
	9	63号土坑全景(北西から)	P.L. 14	3号竪穴建物セクション(南から)
	10	64号土坑セクション(北西から)	2	3号竪穴建物遺物出土状況(南から)
	11	64号土坑全景(北から)	3	3号竪穴建物全景(南から)
	12	67号土坑セクション(北西から)	4	3号竪穴建物カマド廻り方セクション(西から)
	13	67号土坑全景(南から)	5	3号竪穴建物カマド全景(西から)
	14	68号土坑セクション(南から)	6	3号竪穴建物カマド廻り方セクション(南から)
	15	68号土坑全景(南から)	7	3号竪穴建物カマド全景(南から)
P.L. 8	1	69号土坑セクション(南から)	8	3号竪穴建物貯蔵穴全景(西から)
	2	69号土坑全景(南から)	P.L. 15	4号竪穴建物セクション(西から)

	2	4号整穴建物遺物出土状況(西から)	4	11号整穴建物掘り方全量(西から)	
	3	4号整穴建物全量(西から)	5	11号整穴建物カマド掘り方セクション(西から)	
	4	4号整穴建物掘り方セクション(西から)	6	11号整穴建物隅石出土状況(西から)	
	5	4号整穴建物掘り方全量(西から)	7	11号整穴建物カマド全量(西から)	
	6	4号整穴建物カマドセクション(北から)	8	11号整穴建物カマド掘り方全量(西から)	
	7	4号整穴建物カマド遺物出土状況(西から)	P.L. 24	1	12号整穴建物セクション(西から)
	8	4号整穴建物カマド全量(北から)	2	12号整穴建物全量(西から)	
P.L. 16	1	4号整穴建物1号上坑全量(西から)	3	12号整穴建物掘り方全量(西から)	
	2	4号整穴建物P 2全量(北から)	4	12号整穴建物カマド遺物出土状況(西から)	
	3	4号整穴建物P 3全量(南から)	5	12号整穴建物カマドセクション(西から)	
	4	4号整穴建物P 4全量(南から)	6	12号整穴建物カマド全量(西から)	
	5	4号整穴建物P 5全量(西から)	7	12号整穴建物カマド全量(西から)	
	6	4号整穴建物P 6全量(西から)	8	12号整穴建物カマド掘り方全量(西から)	
	7	4号整穴建物調査作業風景(南から)	P.L. 25	1	13号整穴建物セクション(西から)
	8	4号整穴建物調査作業風景(南から)	2	13号整穴建物遺物出土状況(西から)	
P.L. 17	1	5号整穴建物掘り方セクション(北から)	3	13号整穴建物掘り方全量(西から)	
	2	5号整穴建物掘り方全量(西から)	4	13号整穴建物カマドセクション(西から)	
	3	5号整穴建物カマド掘り方遺物出土状況(南から)	5	13号整穴建物カマド掘り方全量(西から)	
	4	5号整穴建物カマド構築材出土状況(北から)	6	13号整穴建物カマド全量(西から)	
	5	5号整穴建物カマド掘り方セクション(西から)	7	13号整穴建物鉄製品出土状況(西から)	
	6	5号整穴建物カマド掘り方全量(西から)	8	13号整穴建物カマド掘り方セクション(西から)	
	7	5号整穴建物セクション(東から)	P.L. 26	1	14号整穴建物セクション(西から)
	8	5号整穴建物1号床下土坑全量(東から)	2	14号整穴建物全量(西から)	
P.L. 18	1	6号整穴建物セクション(南から)	3	14号整穴建物カマド掘り方セクション(西から)	
	2	6号整穴建物全量(西から)	4	14号整穴建物カマド掘り方セクション(西から)	
	3	6号整穴建物カマドセクション(南から)	5	14号整穴建物掘り方セクション(北から)	
	4	6号整穴建物カマド遺物出土状況1(西から)	6	14号整穴建物1号床下土坑セクション(南から)	
	5	6号整穴建物カマド遺物出土状況2(西から)	7	14号整穴建物1号床下土坑全量(南から)	
	6	6号整穴建物カマド掘り方セクション(南から)	8	14号整穴建物掘り方全量(西から)	
	7	6号整穴建物カマド全量(西から)	P.L. 27	1	16号整穴建物セクション(西から)
	8	6号整穴建物カマド掘り方全量(西から)	2	16号整穴建物遺物出土状況(西から)	
P.L. 19	1	7号整穴建物セクション(西から)	3	16号整穴建物全量(西から)	
	2	7号整穴建物遺物出土状況(北から)	4	16号整穴建物全量(西から)	
	3	7号整穴建物全量(北から)	5	16号整穴建物掘り方セクション(西から)	
	4	7号整穴建物貯蔵穴遺物出土状況(北から)	6	16号整穴建物掘り方全量(西から)	
	5	8号整穴建物遺物出土状況1(西から)	7	16号整穴建物カマドセクション(南から)	
	6	8号整穴建物遺物出土状況2(西から)	8	16号整穴建物カマド掘り方セクション(西から)	
	7	8号整穴建物遺物出土状況3(西から)	P.L. 28	1	17号整穴建物セクション(西から)
	8	8号整穴建物全量(北から)	2	17号整穴建物遺物出土状況(西から)	
P.L. 20	1	8号整穴建物掘り方セクション(南から)	3	17号整穴建物掘り方セクション(西から)	
	2	8号整穴建物掘り方全量(西から)	4	17号整穴建物カマド掘り方セクション(西から)	
	3	8号整穴建物カマドセクション(南から)	5	17号整穴建物掘り方全量(西から)	
	4	8号整穴建物カマドセクション(西から)	6	17号整穴建物カマド掘り方遺物出土状況(西から)	
	5	8号整穴建物カマド遺物出土状況(西から)	7	17号整穴建物カマド全量(西から)	
	6	8号整穴建物カマド掘り方セクション(西から)	P.L. 29	1	18号整穴建物セクション(北から)
	7	8号整穴建物カマド掘り方セクション(西から)	2	18号整穴建物遺物出土状況(西から)	
	8	8号整穴建物カマド掘り方全量(西から)	3	18号整穴建物掘り方全量(西から)	
P.L. 21	1	8号整穴建物1号床下土坑全量(南から)	4	18号整穴建物掘り方セクション(西から)	
	2	8号整穴建物2号床下土坑全量(南から)	5	1号整穴穴道溝セクション(北西から)	
	3	8号整穴建物3号床下土坑全量(南から)	6	1号整穴穴道溝遺物出土状況(西から)	
	4	8号整穴建物4号床下土坑全量(南から)	7	2号整穴穴道溝全量(北西から)	
	5	9号整穴建物全量(北から)	8	2号整穴穴道溝セクション(南から)	
	6	9号整穴建物セクション(西から)	P.L. 30	1	43号土坑遺物出土状況(南から)
	7	9号整穴建物掘り方セクション(西から)	2	43号土坑遺物出土状況(南から)	
	8	9号整穴建物掘り方全量(北から)	3	46号土坑セクション(南から)	
P.L. 22	1	10号整穴建物セクション(西から)	4	46号土坑全量(西から)	
	2	10号整穴建物遺物出土状況(西から)	5	50号土坑セクション(北から)	
	3	10号整穴建物全量(西から)	6	50号土坑遺物出土状況(北から)	
	4	10号整穴建物カマドセクション(西から)	7	50号土坑遺物出土状況(東から)	
	5	10号整穴建物全量(西から)	8	50号土坑須恵器出土状況(東から)	
	6	10号整穴建物カマド掘り方セクション(西から)	9	50号土坑全量(北から)	
	7	10号整穴建物カマド掘り方全量(西から)	10	218号ピットセクション(南から)	
	8	10号整穴建物掘り方全量(西から)	11	222号ピットセクション(南から)	
P.L. 23	1	11号整穴建物セクション(西から)	12	222号ピット全量(南から)	
	2	11号整穴建物遺物出土状況(北から)	13	223号ピットセクション(南から)	
	3	11号整穴建物掘り方セクション(北西から)			

	14	223号ビット全景(南から)	7	11号独立柱建物P 5全景(南から)	
	15	224号ビットセクション(北から)	8	11号独立柱建物P 6全景(南から)	
P.L. 31	1	224号ビット全景(北から)	9	11号独立柱建物P 7全景(南から)	
	2	225号ビットセクション(南から)	10	11号独立柱建物P 8全景(南から)	
	3	225号ビット全景(南から)	11	12号独立柱建物P 1全景(南から)	
P.L. 32	4	1区北西部全景(上空から)	12	12号独立柱建物P 2全景(南から)	
	1	2号独立柱建物全景(南から)		12号独立柱建物全景(南から)	
	2	2号独立柱建物P 1全景(東から)	P.L. 38	1	12号独立柱建物P 3全景(北から)
	3	2号独立柱建物P 2全景(南から)		2	12号独立柱建物P 4全景(南から)
	4	2号独立柱建物P 3全景(西から)		3	12号独立柱建物P 5全景(南から)
	5	2号独立柱建物P 4全景(北から)		4	12号独立柱建物P 6全景(南から)
	6	2号独立柱建物P 5全景(北から)		5	12号独立柱建物P 7全景(南から)
	7	2号独立柱建物P 6全景(南から)		6	12号独立柱建物P 8全景(南から)
	8	2号独立柱建物P 8全景(北から)		7	12号独立柱建物P 9全景(北から)
	9	2号独立柱建物P 9全景(南から)		8	12号独立柱建物P 9全景(北から)
	10	5号独立柱建物P 1全景(南から)		9	12号独立柱建物P 10全景(南から)
	11	5号独立柱建物P 2全景(南から)		10	13号独立柱建物P 1全景(南から)
	12	5号独立柱建物P 3全景(南から)		11	13号独立柱建物P 2全景(南から)
P.L. 33	1	5号独立柱建物全景(南から)		12	13号独立柱建物P 3全景(南から)
	2	5号独立柱建物P 4全景(南から)	P.L. 39	1	13号独立柱建物全景(南から)
	3	5号独立柱建物P 5全景(南から)		2	13号独立柱建物P 4全景(南から)
	4	6号独立柱建物全景(北から)		3	13号独立柱建物P 5全景(北から)
	5	6号独立柱建物P 1全景(北から)		4	13号独立柱建物P 6全景(北から)
	6	6号独立柱建物P 2全景(北から)		5	13号独立柱建物P 7全景(北から)
	7	6号独立柱建物P 3全景(北から)		6	13号独立柱建物P 8全景(北から)
	8	6号独立柱建物P 4全景(北から)		7	14・15号独立柱建物P 4全景(南から)
	9	6号独立柱建物P 5全景(北から)		8	14号独立柱建物P 1全景(南から)
P.L. 34	1	7号独立柱建物全景(北から)		9	14号独立柱建物P 2全景(北から)
	2	7号独立柱建物P 1全景(南から)	P.L. 40	1	14号独立柱建物P 3全景(南から)
	3	7号独立柱建物P 3全景(南から)		2	14号独立柱建物P 4全景(南から)
	4	7号独立柱建物P 4全景(南から)		3	14号独立柱建物P 5全景(南から)
	5	7号独立柱建物P 5全景(南から)		4	14号独立柱建物P 6全景(南から)
	6	7号独立柱建物P 6全景(南から)		5	14号独立柱建物P 7全景(北から)
	7	7号独立柱建物P 7全景(南から)		6	14号独立柱建物P 8全景(北から)
	8	7号独立柱建物P 8全景(南から)		7	14号独立柱建物P 9全景(北から)
	9	8号独立柱建物全景(南から)		8	14号独立柱建物P 10全景(北から)
P.L. 35	1	8号独立柱建物P 1全景(東から)		9	15号独立柱建物P 1全景(南から)
	2	8号独立柱建物P 2全景(東から)		10	15号独立柱建物P 2全景(南から)
	3	8号独立柱建物P 3全景(西から)		11	15号独立柱建物P 3全景(南から)
	4	8号独立柱建物P 4全景(西から)		12	15号独立柱建物P 4全景(南から)
	5	8号独立柱建物P 5全景(西から)	P.L. 41	1	15号独立柱建物P 5全景(南から)
	6	9号独立柱建物全景(西から)		2	1号欄全景(東から)
	7	9号独立柱建物P 1全景(南から)		3	1号欄P 1全景(南から)
	8	9号独立柱建物P 2全景(南から)		4	1号欄P 2全景(南から)
	9	9号独立柱建物P 3全景(南から)		5	1号欄P 3全景(南から)
	10	9号独立柱建物P 4全景(南から)		6	2号欄P 1全景(南から)
	11	9号独立柱建物P 6全景(南から)		7	2号欄P 2全景(南から)
P.L. 36	12	9号独立柱建物P 7全景(南から)		8	2号欄P 3全景(南から)
	1	9号独立柱建物P 8全景(南から)		9	2号欄P 4全景(南から)
	2	9号独立柱建物P 9全景(南から)		10	2号欄P 5全景(南から)
	3	9号独立柱建物P 10全景(南から)		11	2号欄P 6全景(南から)
	4	10号独立柱建物全景(南から)		12	3号欄P 1全景(南から)
	5	10号独立柱建物P 1全景(南から)		13	3号欄P 2全景(南から)
	6	10号独立柱建物P 2全景(南から)		14	3号欄P 3全景(南から)
	7	10号独立柱建物P 3全景(南から)	P.L. 42	1	3号欄P 4全景(北から)
	8	10号独立柱建物P 4全景(南から)		2	1号溝全景(南から)
	9	10号独立柱建物P 5全景(南から)		3	1号溝遺物出土状況(南から)
	10	10号独立柱建物P 6全景(南から)		4	1号溝セクション(北から)
	11	10号独立柱建物P 7全景(南から)		5	1号溝遺物出土状況(南から)
	12	10号独立柱建物P 8全景(南から)		6	1号煙セクション(西から)
P.L. 37	1	10号独立柱建物P 9全景(南から)		7	1・2号畑全景(西から)
	2	11号独立柱建物P 1全景(南から)		8	3号畑セクション(西から)
	3	11号独立柱建物P 2全景(南から)		9	3号畑全景(東から)
	4	11号独立柱建物全景(南から)	P.L. 43	1	1号土坑セクション(南から)
	5	11号独立柱建物P 3全景(北から)		2	1号土坑全景(南から)
	6	11号独立柱建物P 4全景(北から)		3	2号土坑セクション(南から)
				4	2号土坑全景(南から)

	5	3号土坑セクション(東から)	11	37号土坑全量(南から)
	6	3号土坑全量(東から)	12	38号土坑セクション(西から)
	7	4号土坑セクション(南から)	13	38号土坑全量(西から)
	8	4号土坑全量(南から)	14	39号土坑セクション(南から)
	9	5号土坑セクション(東から)	15	39号土坑全量(東から)
	10	5号土坑全量(北から)	P L. 48	1 40号土坑セクション(西から)
	11	6号土坑セクション(東から)	2	40号土坑全量(東から)
	12	6～8号土坑全量(西から)	3	41号土坑セクション(東から)
	13	7号土坑セクション(北から)	4	41号土坑遺物出土坑(東から)
	14	7号土坑全量(南から)	5	42号土坑全量(北から)
	15	8号土坑セクション(西から)	6	44号土坑セクション(西から)
P L. 44	1	8号土坑全量(西から)	7	44号土坑全量(西から)
	2	9号土坑セクション(南から)	8	45号土坑セクション(南から)
	3	9号土坑全量(北から)	9	45号土坑全量(北から)
	4	10号土坑セクション(南から)	10	47号土坑セクション(東から)
	5	10号土坑全量(北から)	11	48号土坑全量(西から)
	6	11号土坑セクション(東から)	12	49号土坑セクション(南から)
	7	11号土坑全量(北から)	13	49号土坑全量(南から)
	8	12号土坑セクション(南から)	14	65号土坑全量(南から)
	9	12号土坑全量(北から)	15	66号土坑セクション(南西から)
	10	13号土坑セクション(東から)	P L. 49	1 1号ビット全量(南から)
	11	13号土坑全量(北から)	2	2号ビット全量(東から)
	12	14号土坑セクション(南から)	3	3号ビット全量(北から)
	13	14号土坑全量(北から)	4	4号ビット全量(南から)
	14	15号土坑セクション(南から)	5	5号ビット全量(南から)
	15	15号土坑全量(北から)	6	6号ビット全量(南から)
P L. 45	1	16号土坑セクション(南から)	7	7号ビット全量(南から)
	2	16号土坑全量(北から)	8	8号ビット全量(東から)
	3	17号土坑セクション(南から)	9	9号ビット全量(東から)
	4	17号土坑全量(北から)	10	10号ビット全量(東から)
	5	18号土坑セクション(南から)	11	11号ビット全量(東から)
	6	18号土坑全量(西から)	12	12号ビット全量(北から)
	7	19号土坑セクション(南から)	13	13号ビット全量(東から)
	8	19号土坑全量(南から)	14	14号ビット全量(東から)
	9	20号土坑セクション(南から)	15	15号ビット全量(北から)
	10	20号土坑全量(北から)	P L. 50	1 16号ビット全量(北から)
	11	21号土坑セクション(東から)	2	17号ビット全量(北から)
	12	21号土坑全量(北から)	3	18号ビット全量(北から)
	13	22号土坑セクション(東から)	4	19号ビット全量(北から)
	14	22号土坑全量(北から)	5	20号ビット全量(北から)
	15	23号土坑セクション(北から)	6	21号ビット全量(北から)
P L. 46	1	23号土坑全量(北から)	7	22号ビット全量(北から)
	2	24号土坑セクション(南から)	8	23号ビット全量(北から)
	3	25号土坑セクション(南から)	9	24号ビット全量(北から)
	4	25号土坑全量(南から)	10	25号ビット全量(北から)
	5	26号土坑セクション(南から)	11	29号ビット全量(南から)
	6	26号土坑全量(北から)	12	30号ビット全量(南から)
	7	28号土坑セクション(南から)	13	31号ビット全量(南から)
	8	28号土坑全量(南から)	14	32号ビット全量(南から)
	9	29号土坑セクション(南から)	15	35号ビット全量(南から)
	10	29号土坑全量(北東から)	P L. 51	1 36号ビット全量(南から)
	11	30号土坑・136P他セクション(南から)	2	37号ビット全量(南から)
	12	30号土坑全量(北から)	3	38号ビット全量(南から)
	13	31号土坑セクション(南から)	4	40号ビット全量(南から)
	14	31号土坑全量(北から)	5	41号ビット全量(南から)
	15	32号土坑セクション(南から)	6	42号ビット全量(南から)
P L. 47	1	32号土坑全量(北から)	7	43号ビット全量(南から)
	2	33号土坑セクション(西から)	8	44号ビット全量(北から)
	3	33号土坑全量(西から)	9	47号ビット全量(北から)
	4	34号土坑セクション(南から)	10	49号ビット全量(北から)
	5	34号土坑全量(南から)	11	50号ビット全量(北から)
	6	35号土坑セクション(南から)	12	51号ビット全量(北から)
	7	35号土坑全量(南から)	13	52号ビット全量(南から)
	8	36号土坑セクション(南から)	14	53号ビット全量(南から)
	9	36号土坑全量(北から)	15	54号ビット全量(南から)
	10	37号土坑セクション(南から)	P L. 52	1 55号ビット全量(南から)

	2	56号ビット全景(南から)	8	165号ビット全景(南から)
	3	59号ビット全景(南から)	9	166号ビット全景(南から)
	4	60号ビット全景(南から)	10	167号ビット全景(南から)
	5	65号ビット全景(北から)	11	168号ビット全景(北から)
	6	73号ビット全景(西から)	12	169号ビット全景(南から)
	7	75号ビット全景(南から)	13	170号ビット全景(南から)
	8	76号ビット全景(南から)	14	171号ビット全景(南から)
	9	79号ビット全景(東から)	15	172号ビット全景(北から)
	10	87号ビット全景(南から)	P. L. 57	173号ビット全景(南から)
	11	88号ビット全景(南から)	2	174号ビット全景(南から)
	12	91号ビット全景(南から)	3	175号ビット全景(北から)
	13	92号ビット全景(南から)	4	176号ビット全景(南から)
	14	95号ビット全景(南から)	5	177号ビット全景(南から)
	15	98号ビット全景(南から)	6	178号ビット全景(南から)
P. L. 53	1	100号ビット全景(南から)	7	179号ビット全景(北から)
	2	103号ビット全景(南から)	8	180号ビット全景(北から)
	3	105号ビット全景(南から)	9	181号ビット全景(南から)
	4	106号ビット全景(南から)	10	182号ビット全景(南から)
	5	107号ビット全景(南から)	11	187号ビット全景(南から)
	6	108号ビット全景(南から)	12	189号ビット全景(北から)
	7	109号ビット全景(北から)	13	190号ビット全景(西から)
	8	110号ビット全景(北から)	14	191号ビット全景(南から)
	9	111号ビット全景(北から)	15	192号ビット全景(南から)
	10	112号ビット全景(南から)	P. L. 58	193号ビット全景(北から)
	11	113号ビット全景(南から)	2	194号ビット全景(南から)
	12	115号ビット全景(南から)	3	195号ビット全景(南から)
	13	116号ビット全景(南から)	4	196号ビット全景(北から)
	14	118号ビット全景(南から)	5	197号ビット全景(北から)
	15	119号ビット全景(南から)	6	198号ビット全景(北から)
P. L. 54	1	120号ビット全景(南から)	7	202号ビット全景(西から)
	2	121号ビット全景(南から)	8	204号ビット全景(北から)
	3	122号ビット全景(南から)	9	205号ビット全景(南から)
	4	123号ビット全景(北から)	10	206号ビット全景(北から)
	5	124号ビット全景(北から)	11	207号ビット全景(北から)
	6	126号ビット全景(南から)	12	208号ビット全景(西から)
	7	127号ビット全景(南から)	13	209・213号ビット全景(東から)
	8	128号ビット全景(北から)	14	216号ビット全景(東から)
	9	129号ビット全景(北から)	15	217号ビット全景(南から)
	10	130号ビット全景(北から)	P. L. 59	縄文時代：20号竪穴建物、51号土坑、60号土坑、 道構外出土遺物(1)
	11	131号ビット全景(北から)	P. L. 60～69	縄文時代：道構外出土遺物(2)～(11)
	12	132号ビット全景(北から)	P. L. 70	縄文時代：道構外出土遺物(12)
	13	133号ビット全景(南から)		古墳時代：19号竪穴建物出土遺物
	14	136号ビット全景(北から)	P. L. 71	飛鳥～平安時代：1号・2号竪穴建物出土遺物(1)
	15	139号ビット全景(北から)	P. L. 72	飛鳥～平安時代：2号竪穴建物出土遺物(2)
P. L. 55	1	140号ビット全景(北から)	P. L. 73	飛鳥～平安時代：2号竪穴建物出土遺物(3)
	2	142号ビット全景(北から)	P. L. 74	飛鳥～平安時代：2～4号竪穴建物出土遺物
	3	144号ビット全景(南から)	P. L. 75	飛鳥～平安時代：4～6号竪穴建物出土遺物
	4	145号ビット全景(北から)	P. L. 76	飛鳥～平安時代：6・7号竪穴建物出土遺物
	5	146号ビット全景(北から)	P. L. 77	飛鳥～平安時代：8号竪穴建物出土遺物
	6	147号ビット全景(北から)	P. L. 78	飛鳥～平安時代：10号竪穴建物出土遺物
	7	148号ビット全景(北から)	P. L. 79	飛鳥～平安時代：11・12号竪穴建物出土遺物(1)
	8	149号ビット全景(南から)	P. L. 80	飛鳥～平安時代：12号竪穴建物出土遺物(2)
	9	150号ビット全景(北から)	P. L. 81	飛鳥～平安時代：13・14・16号竪穴建物出土遺物(1)
	10	152号ビット全景(北から)	P. L. 82	飛鳥～平安時代：16号竪穴建物出土遺物(2)
	11	153号ビット全景(南から)	P. L. 83	飛鳥～平安時代：17・18号竪穴建物出土遺物、 1号竪穴道構、50号土坑、道構外出土遺物
	12	154号ビット全景(東から)		中・近世：8号竪立柱建物、1号溝出土遺物(1)
	13	155号ビット全景(北から)	P. L. 84	中・近世：1号溝出土遺物(2)、1号堀、 6・41号土坑、道構外出土遺物
	14	156号ビット全景(南から)		
	15	157号ビット全景(南から)		
P. L. 56	1	158号ビット全景(南から)		
	2	159号ビット全景(南から)		
	3	160号ビット全景(南から)		
	4	161号ビット全景(南から)		
	5	162号ビット全景(南から)		
	6	163号ビット全景(南から)		
	7	164号ビット全景(南から)		

第1章 調査の経過と方法

第1節 上信自動車道

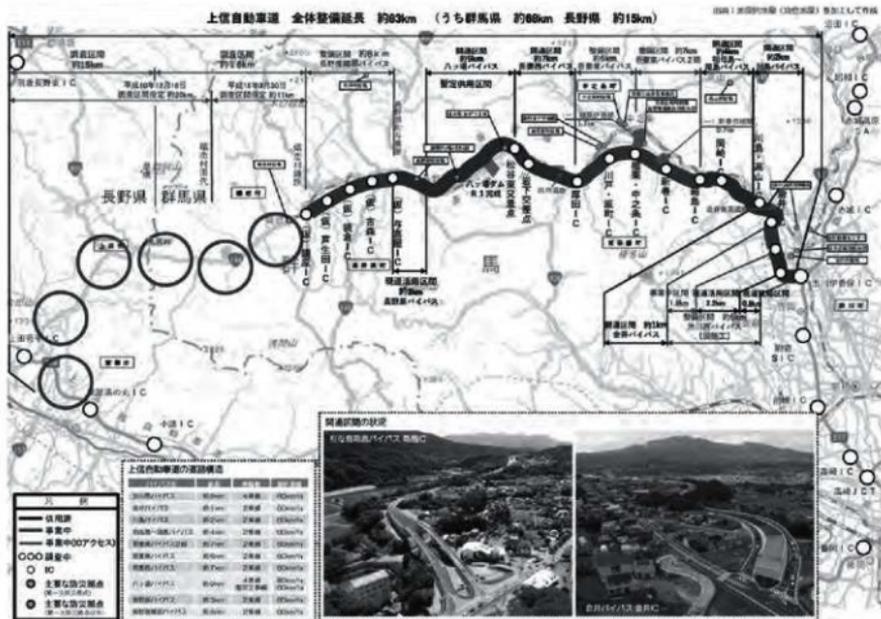
吾妻東バイパスについて

上信自動車道は、防災拠点や物流拠点が集積するエリア間を結ぶ強靱な道路ネットワーク(北群馬渋川エリア～吾妻エリア)に位置付けられ、群馬県渋川市の関越自動車道・渋川伊香保インターチェンジ付近から東吾妻町、長野原町、嬭恋村を経由し、長野県側の上信自動車道に至る延長約83kmの高規格道路である。この道路を整備することにより、過去に数度の土砂崩落による道路寸断があった北群馬渋川エリアと吾妻エリア間の強靱な道路ネットワークが構築され、大規模な災害時においても、救命救助、支援物資輸送、経済活動の確保を可能にし、県民の安全な暮らしや企業などの安定した経済活動を支援する。また移動時間の短縮による物流の効率化、草津

温泉などを中心とした周遊性の向上がはかれる。

この上信自動車道は、起点から県境までを渋川西バイパス(国施工区間約5km)、金井バイパス(約1km)、川島バイパス(約2km)、祖母島～箱島バイパス(約4km)、吾妻東バイパス2期(約7km)、吾妻東バイパス(約6km)、吾妻西バイパス(約7km)、ハッ場バイパス(約9km)、長野原バイパス(約3km)、長野原嬭恋バイパス(約8km)、さらに先の調査区間(約16km)に分かれ、既に現道活用や開通した区間もある。

吾妻東バイパス2期は、国道145号バイパスの一部となる整備区間の一つで、東吾妻町大字植栗の吾妻東バイパス接続地点から同町大字箱島の祖母島～箱島バイパスとの接続地点までの約7kmの区間である。令和2年度より吾妻東バイパスの植栗地区と厚田地区で埋蔵文化財の発掘調査が開始され、全線において用地買収が進められた。



第1図 上信自動車道計画路線図(群馬県HP「上信自動車道」より引用 <http://www.pref.gunma.jp/contents/100010158.pdf>)

第2節 調査に至る経緯

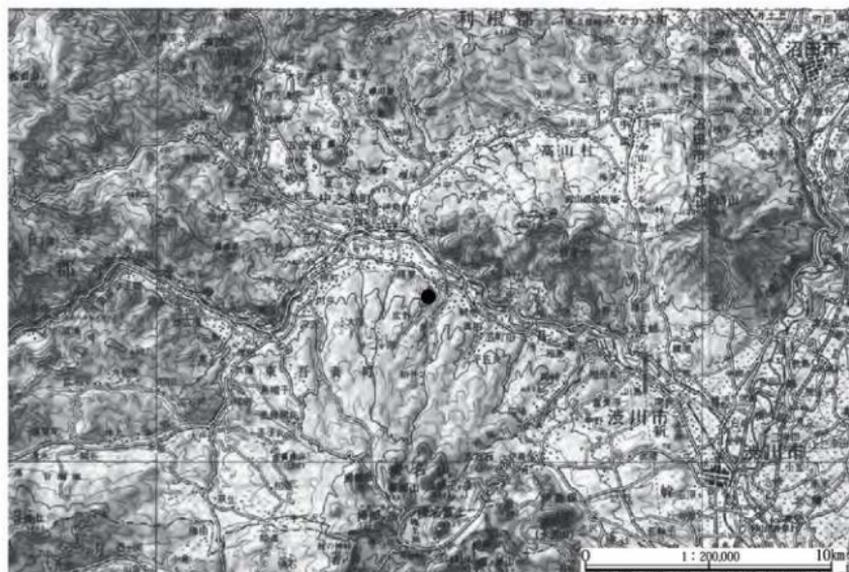
上信自動車道は、令和2年6月に金井ICから箱島ICまでの金井バイパス・川島バイパス・箱島バイパスの区間が開通し、令和6年3月にはハッ場バイパスに繋がる厚田ICから松谷東交差点までの吾妻西バイパスの区間が開通した。

上信自動車道吾妻東バイパス(以下、吾妻東バイパス)は、平成25年5月16日に整備区間の指定を受け、その後に路線測量、関係機関との調整や地元への協力要請を経て用地取得等の工事着工準備が進められた。一方、本地区には、東吾妻町遺跡台帳に小田沢遺跡(遺跡番号173)、下泉A遺跡(遺跡番号182)、下泉B遺跡(遺跡番号183)として登録された周知の埋蔵文化財包蔵地があり、上信自動車道建設に伴う土木工事が計画された事業地内には、その包蔵地内に所在している。

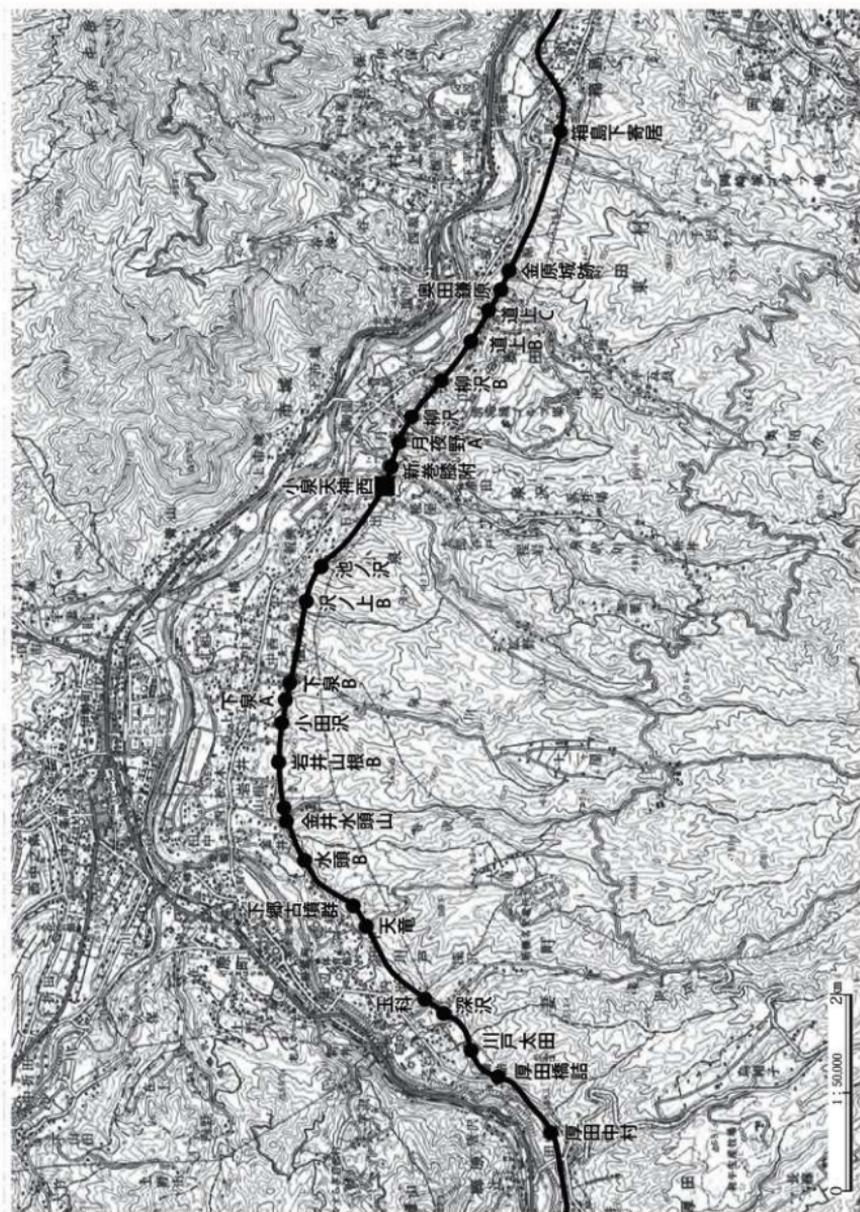
上信自動車道建設事務所(以下、上信道建設事務所)は、令和元年12月4日付上建第32200-12号にて、当該地(植

栗から岩井地区)における埋蔵文化財について、群馬県教育委員会事務局文化財保護課(以下、県文化財保護課)に試掘を依頼した。それを受けて県文化財保護課は、令和元年12月10～12、16～18日に試掘・確認調査を実施した結果、工事対象地内において遺構の存在を確認したため令和2年1月14日付文財第706-107号にて、発掘調査が必要であることを上信道建設事務所長宛に回答した。上信道建設事務所は令和2年5月1日付で東吾妻町教育委員会に必要書類を提出し、東吾妻町教育委員会から群馬県知事に当該地の文化財保護法第94条を進達した。このことにより、工事実施に当たっての遺跡保存が困難であることから、発掘調査による記録保存の措置が執られることとなった。

また、上信道建設事務所は令和2年11月11日付上建第423-1号にて群馬県地域創生部文化財保護課(以下、県文化財保護課)宛、東吾妻町大字川戸地内における埋蔵文化財について試掘を依頼し、それを受けた県文化財保護課では、令和2年11月20日・30日・12月1～4日に東吾妻町大字川戸地内における事業地の試掘・確認調査を



第2図 遺跡の位置(国土地理院1/200,000地勢図「長野」、「宇都宮」を使用)



第3図 上信自動車道吾妻東バイパスの路線と各選線位置図(国土地理院1/50,000地形図「高津」「中之条」を使用)

第1章 調査の経過と方法

第1表 上信自動車道吾妻東バイパス 調査遺跡一覧

	遺構名	調査年度					
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
東 バ イ パ ス 1 期	厚田中村遺跡	○	○				
	厚田橋詰遺跡			○			
	川戸太田遺跡		○				
	深沢遺跡		○		○		
	玉科遺跡					○	
	天竜遺跡			○	○		
	下郷古墳群					○	
	水原B遺跡					○	
	金井水頭山遺跡					○	
	岩井山根B遺跡					○	
	小田沢遺跡	○	○				
	下泉A遺跡	○	○				
下泉B遺跡	○	○					

	遺構名	調査年度					
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
東 バ イ パ ス 2 期	沢ノ上B遺跡				○		
	池ノ沢遺跡			○			
	小泉天神西遺跡			○	○		
	新巻修明遺跡					○	
	月夜野A遺跡				○		
	柳沢遺跡				○	○	
	柳沢B遺跡					○	
	道上B遺跡					○	
	道上C遺跡					○	
	奥田藤原遺跡					○	
	金原城跡					○	
	箱島下海居遺跡				○		

実施し遺構の存在を確認した。県文化財保護課は令和2年12月21日付文財第706-76号にて、発掘調査が一部必要であることを上信道建設事務所長宛に回答した。上信道建設事務所は令和3年2月24日付で東吾妻町教育委員会に必要書類を提出し、東吾妻町教育委員会から群馬県知事に当該地の文化財保護法第94条を差遣した。このことにより、工事実施に当たっての遺跡保存が困難であることから、発掘調査による記録保存の措置が執られることとなった。

県文化財保護課は令和3年10月29日付文財第706-5号で発掘調査が必要であることを上信道建設事務所宛に回答した。

さらに、上信道建設事務所は令和4年にて県文化財保護課宛、埋蔵文化財について試掘を依頼。それを受けた県文化財保護課では、令和4年に東吾妻町大字川戸地内における事業地の試掘・確認調査を実施した結果、遺構の存在を確認した。これを受けて県文化財保護課は令和4年2月4日付文財第707-32号で小泉天神西遺跡での遺構想定表を作成し公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(以下、事業団)に回答した。

本報告書に収録した小泉天神西遺跡の発掘調査は、上信道建設事務所の委託を受けた当事業団が令和4年12月1日～令和5年3月31日までの4ヶ月間と、令和5年4月1日～令和5年5月31日までの2ヶ月間、それぞれ予定し、2ヶ年度に亘り調査担当者6名によって実施された。また、各年度の調査表面積は令和4年度に2886.70㎡、令和5年度に876㎡である。

第3節 発掘調査の経過

令和4年12月、調査期間4ヶ月の予定で発掘調査に着手した。調査区は本線部分(1区)と現道拡幅部分(2区)からなり、まずは本線部分から発掘調査を開始した。工程上の都合で、途中調査班を入れ替え対応した。

県文化財保護課による試掘調査の結果、調査面はHr-FA泥流上面(以下、FA泥流)(第1面:中・近世)、同下面(第2面:古代)、ローム上面(第3面:縄文)が想定されており、これにより掘削を行い、発掘調査を進めることとした。FA泥流は、調査区西側の山側に厚く良好な状態で堆積しており、遺構の集中域ではブロック状に堆積するなど攪拌されていた。調査区中程に浅い埋没谷があり、FA泥流が沈み込んだ状態で堆積していたが、やや攪拌状態で堆積していた。

試掘データに基づき遺構確認したところ、竪穴建物や掘立柱建物が現道拡幅部分(2区)に延びることが明らかになり、現道側を拡張することとなったが、この地点は調査事務所への出入口としていたため、南側へ出入口を移動する必要に迫られた。現道拡幅部は狭長な調査区で、12月14日より調査を開始し、出入口部の付け替え作業を終えたのは年明け1月になってからであった。掘削土の置き場は事務所用地の隣接地に工事用地があり、これを供用させてもらうことで対応した。12月中は中近世掘立柱建物や古代竪穴建物の調査を進め、できるだけ早く縄文期遺構の調査を進めることとしたが、竪穴建物の掘削土量(確認面から床面まで平均で0.7mほど)が想定を

超え、また、石組カマドの保存状態も良好で測量等の難易度が増した。縄文遺物の包含層も厚く調査区全域に広がる事が明らかとなった。以上のような調査の進捗状況、調査工程を見直した結果、調査は次年度に継続されることになり、令和4年度調査は1区1号溝より西の区域を終了させ、それより以東の区域の第2面と第3面の調査は令和5年度に延長されることになった。

令和5年度の発掘調査は、残りの調査遺構量を勘案して4月が担当者2人体制で、5月が担当者1人体制で対応することとなった。昨年度の発掘調査で残されていた本線部分の1区東側部分の調査を実施した。なお、今回の調査では、2区部分で古代に比定される第2面の調査において、古墳時代の遺構が検出されたことから、当初縄文時代に比定した第3面を変更して古墳時代とした。そして、縄文時代を第4面、旧石器時代を第5面とした。

調査日誌抄

<令和4年度>

- 12月1日 1区調査区設定、重機による掘削開始
- 12月2日 遺構確認精査開始
- 12月6日 古代の竪穴建物、中・近世の土坑調査開始
- 12月8日 中・近世のピット調査開始
- 12月14日 2区調査区設定、重機による掘削開始
- 12月27日 掘立柱建物全景写真撮影
- 1月11日 中・近世の掘立柱建物調査開始
- 1月14日 古代の竪穴建物調査開始
- 1月16日 中・近世の掘立柱建物調査終了
- 2月14日 Hr-FA泥流上面(1区)全景写真撮影
- 2月15日 縄文包含層調査開始(2区)
- 2月22日 旧石器調査開始(2区)
- 2月24日 Hr-FA泥流下遺構調査開始(1区)
- 3月1日 縄文包含層の調査開始(1区西)
- 3月2日 埋戻し作業開始(2区)
- 3月10日 縄文時代の土坑調査開始(1区西)
- 3月14日 縄文時代の土坑調査終了
- 3月15日 旧石器調査開始(1区西)
- 3月23日 埋戻し作業開始(1区西)
- 3月28日 令和4年度調査終了、撤収作業

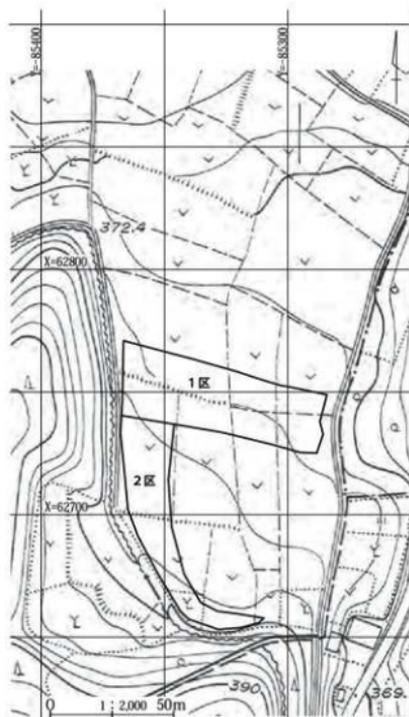
<令和5年度>

- 4月5日 1区東(第2面)調査開始
- 4月12日 掘立柱建物確認
- 4月19日 縄文包含層調査および遺構精査
- 5月1日 遺構精査、法面整備(排水作業)
- 5月2日 縄文時代の土坑・ピット調査
- 5月8日 土坑・ピット調査全景写真準備
- 5月9日 旧石器確認調査開始(1区東)
- 5月22日 縄文時代の土坑調査、旧石器確認調査終了
- 5月26日 撤収準備開始
- 5月31日 撤収

第4節 発掘調査の方法

調査区は本線部分と現道拡幅部分からなり、本線部分を1区、現道拡幅部分を2区として発掘調査を進めた。調査時に用いたグリッド名称については、遺跡毎のグリッド名称は採用せず平面直角座標系IX系(世界測地系)により、測量図には座標の下3ケタ表示を基本とした。

重機による掘削は試掘調査の所見を踏まえたものであり、Hr-FA泥流上面(以下、FA泥流)を第1面(中・近世)として、同下面を第2面(古代)、FA泥流より下の黑色土中の遺構確認面を第3面とした。さらにローム上面を縄文期の第4面、旧石器期を第5面とした。遺構名称については竪穴建物も土坑も遺構種ごとに遺構番号を付けており、遺構番号が重複するということはない。



第4図 調査区と国家座標(吾妻町都市計画図11・17を使用)

第1・2面は、古墳時代6世紀以後の竪穴建物・掘立柱建物、中・近世の掘立柱建物・溝・土坑が確認されている。竪穴建物等の遺構調査は土層観察用のベルトを設定し、調査を進めた。調査は移植ゴテを用い徐々に掘り下げた。遺物等が出土した場合は、これを掘り残し、遺物の出土状態を見極めた上で測量しデータ化した。遺構平面図・土層断面図については基本的に1/20で、カマド平面図・土層断面図については1/10で測量図を作成した。第2・3面で確認した遺構の平面図・土層断面図についても遺構測量図の縮尺は第1面と同様である。

縄文期遺物の包含層調査は、鋤簾を用い掘り下げた。出土遺物は土器・石器類のみであり、全域から土器・石器類が出土した。出土状態が特殊であるような場合(黒曜石等希少石材や威信財)には、その出土状態を記録するように心掛けた。当然、その出土状態は図化および写真撮影は行われることになるが、実態として埋納等が窺えるような状況はなく、器形復元できそうな土器片が散見されただけである。

包含層調査で出土した土器片類や石器片類についてはグリッド(5m)で取り上げ、グリッド毎に遺物分布の濃淡、型式別分布、器種別分布、石材別分布がグラフ化できるよう配慮した。

旧石器時代調査については1区西半で3ヶ所(令和4年度)、1区東半で6ヶ所(令和5年度)で調査を行い、前橋泥流上面まで掘り下げた。遺構測量および航空写真については業者委託して対応した。

第5節 整理の方法

整理作業の実施に際しては、文化財保護課の調整を経て上信自動車道建設事務所と公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団とで令和5年度上信自動車道埋蔵文化財整理事業として一括契約になっており、本遺跡は令和5年度業務3ヶ月(令和6年1～3月まで)を充てた。本遺跡整理業務については、令和6年11月末までが予定され、履行期間内に発掘調査報告書を刊行した。

整理作業は、遺構図については図面台帳を参考に出土遺物を種別に仕分けた。本遺跡出土の土器類には縄文土器片類、土師器や須恵器、陶磁器類、金属器類、石器があり、それぞれについて接合作業を進めた。竪穴建物出土土器類については、接合作業終了後に掲載遺物を検討、復元作業を最小化した。

掲載予定の遺物については長焦点実測用写真や三次元計測機を使い、これを実測素図として等倍の手書き実測図を作成した。そして手書き実測図作成後は、これを掲載サイズの2倍に縮小、トレース図を作成した。こうして得られたトレース図はスキャン後これを報告書作成用のデジタルデータとした。なお、陶磁器については内外面の染付等は実測図に代えて写真を併せ込んで対応した。

竪穴建物その他の遺構から出土した金属製品については、当事業団で簡単な保存処理作業(さび落とし)を行い、必要に応じ形状不明な製品はX線写真により形状を確認し、手書き実測図を作成、土器石器同様、遺物の写真撮影、トレース作業を行い、デジタルデータ化した。

遺構写真については、発掘調査で撮影したものから遺構を記録説明するのに適切な写真を選び、報告書掲載用の写真データとした。また、地形図は1/25,000国土地理院地形図や東吾妻町作成の都市計画図があり、適宜これを使用した。

以上、遺構遺物のデジタルデータおよび本文文字原稿を編集、最終的な報告書印刷データとした。

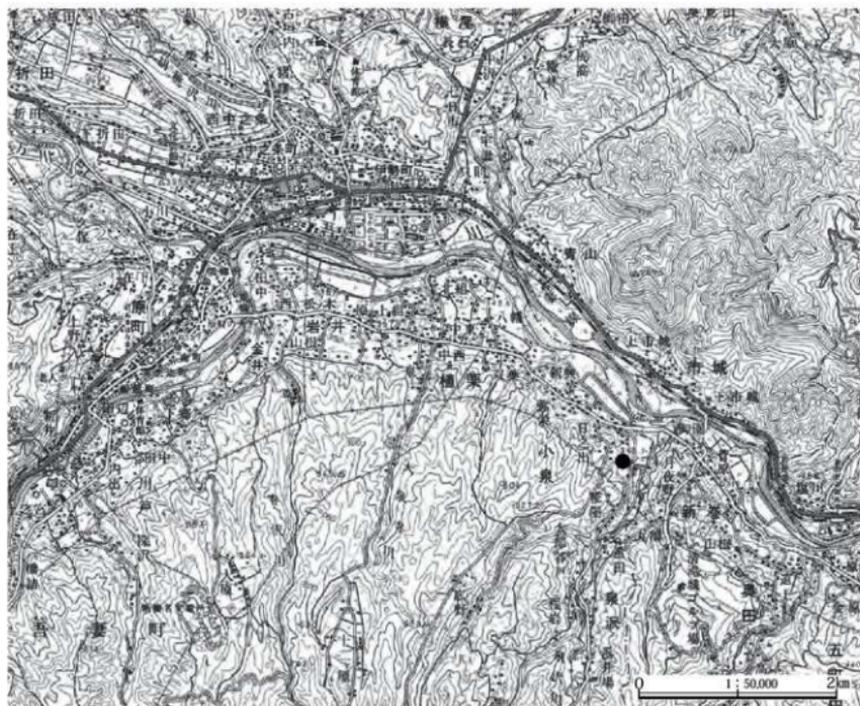
第2章 遺跡の概要

第1節 地理的環境

本遺跡は吾妻郡東吾妻町大字小泉地内にあり、中之条市街地から南東約3.8kmの地点にある。平成18(2006)年に吾妻郡吾妻町と東村が合併、東吾妻町として発足した。町域は東西28km、南北16km、面積は253.91km²ほどで、町の東端を榛名沼尾川が流れ、西は浅間隠山・菅峰と続く古い火山列が並び、南は掃部ヶ岳から浅間隠山を結ぶライン、北は東流する吾妻川を挟んで中之条町に接する。耕地面積は1,721haで、畑地が優先(田地431ha、畑地1,290ha)、山林が20,022haと90%以上を占める。町の人口は12,741人と、前回調査より減少傾向にある。

吾妻川は長野県境烏居峠付近に源流があり、吾妻郡の嬭恋村や長野原町、東吾妻町と中之条町を東進し、最終的に渋川市阿久津付近で利根川に合流する。総延長は76.2kmほどで、途中長野原町長野原地区で白砂川と合流、東吾妻町に入り厚田地区新井で温川と、中之条市街地西の小川地区で四万川、同市街地東の青山地区で名久田川と合流し、徐々に流量を増して利根川に合流する。

長野原町～東吾妻町間の吾妻川流路はジグザク様となり、長野原町林～東吾妻町上郷間は北東、上郷～郷原間は南東へ、続く郷原～四万川間の流路は再び北東方向となる。これに続く四万川～名久田川間(約2km)は略東西方向、名久田川合流点より下流の流路は再び南東方向となる。流域には大小の河岸段丘が形成されており、厚田



第5図 遺跡の位置と周辺地形(国土地理院1/50,000地形図「中之条」を使用)

地区・川合地区・植栗地区は広い段丘面となっており、縄文時代から近世まで断続的に遺跡が形成されている。

地質的には、吾妻川右岸の地質図では榛名山の基盤の上に、榛名山からの土石流や火砕流や岩砕なだれなどが堆積し、途中で中之条湖成層も堆積している。こうした堆積物の状況で、段丘部分が小河川による削り込みによる舌状の微高地の地形の形成が成されている。

小泉天神西遺跡は、榛名山の烏帽子岳付近を水源にして北麓を流下する泉沢川の左岸に位置する。開析された山麓部には、火山麓扇状地の緩斜面が広がっており、小泉天神西遺跡はこの火山麓扇状地の北側の新巻火砕流による堆積面で、火砕流が形成した台地上に立地する。

今回の吾妻地域での上信自動車道建設に伴う発掘調査は、吾妻川右岸の上位河岸段丘面を路線面に利用しており、遺跡の立地条件がかなり似通っている。そこで、各時代の遺構の状況も似通っており、このことを中心に記述していきたい。

第2節 歴史的環境

旧石器時代

旧石器時代の遺跡は本遺跡では確認できなかった。東吾妻町でも発見されておらず、西の鶴恋村や長野原町、さらには中之条町でも明確な出土事例はない。ただし、東の高山村では新田西沢遺跡でAT下位の後期旧石器が検出されている。ナイフ形石器を主体とする石器群で、石器組成は削器や台石で石器製作址と考えられる。石材は黒色安山岩を主体とし、黒色頁岩や珪質珪質岩は僅かである。時期は群馬編年の第1期に属し、年代は35,000年前と考えられる。

縄文時代

吾妻地域のすべての町村で数多く検出されている。

草創期は植栗中原遺跡で3ヶ所のブロックから隆起線土器と推定される土器片と尖頭器や打製石鏃が多数検出されている。年代もB P 13,600年である。

早期は本遺跡で後葉の土器片が2点だけ出土している。この時期の遺跡で最も注目すべきは長野原町の居家以岩陰遺跡で、6ヶ所の岩陰が確認されており、そのう

ちの1号岩陰から40体以上の人骨が検出され、分析から大部分が早期条痕文土器期の古い段階に相当する。

吾妻東部の高山村の八木沢清水遺跡で標系文土器とそれに伴う三角錐石器等が竪穴建物1棟から出土している。長野原町の楡木II遺跡では標系文土器の井草・大丸期から稲荷原期までの20数棟の竪穴建物が検出され、楡鉢状の楕円形で、中央部に大型の石囲が伴う事例も存在する。一方で、竪穴建物廃絶後の屋外炉との考え方も提示されている。多量のスタンプ形石器の出土から採集活動の痕跡とも捉えられる。

前期は、本遺跡でも諸磯の土器が出土しているが四戸遺跡、新井遺跡、唐堀C遺跡から竪穴建物などの遺構と遺物が検出されている。

中期は、本遺跡でも石囲をもつ中期後半の加曾利EⅢ式期の竪穴建物が1棟検出されており、土器片も多数出土している。ハート形土偶が出土した郷原遺跡が著名であり、その後の調査で縄文時代中期後半から後期前半の竪穴建物が検出されている。この土偶と類似する資料が、新潟県阿賀野市の土橋遺跡で最近出土している。

後期は、本遺跡でも土器が出土しているが、郷原遺跡、新井遺跡、上郷岡原遺跡などで遺構・遺物が出土している。

晩期は、本遺跡での出土はないが、唐堀遺跡や万木沢B遺跡での出土がある。彫刻のある木彫が検出された唐堀遺跡では、東北地方で顕著な遮光器土偶が出土し、両地域での関係が共に注目される。

弥生時代

本遺跡では遺構が確認できず遺物もない。

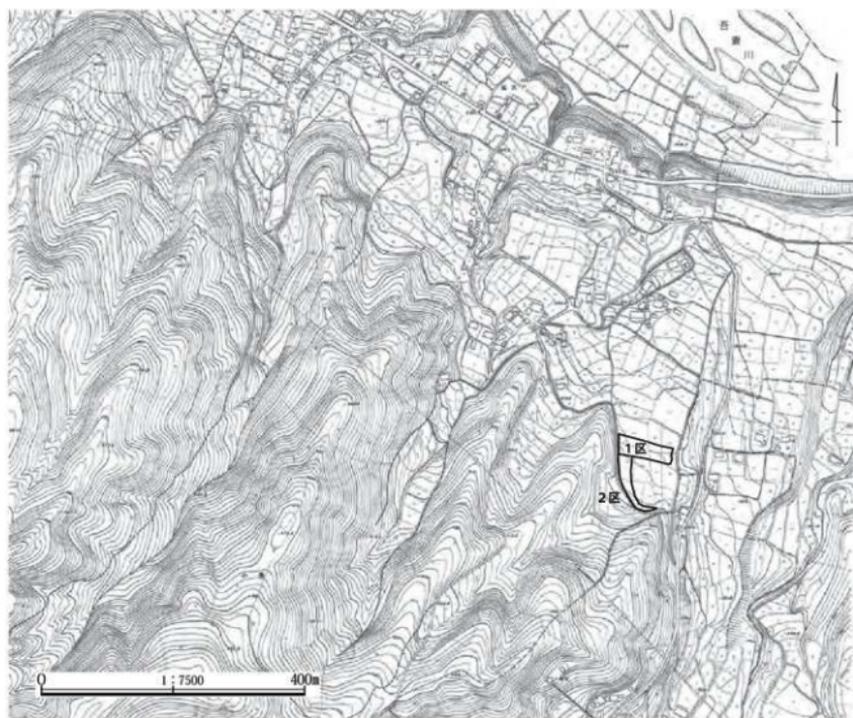
中期は、岩櫃山麓ノ果遺跡・前畑遺跡などの再葬墓の遺構、新井遺跡の竪穴建物2棟が注目される。

後期は、四戸遺跡・四戸の古墳群あわせて32棟の竪穴建物を持つ集落が調査されている。

古墳時代

本遺跡では、前期の竪穴建物1棟、土坑、ピットが少数調査された。

吾妻西部のハッ場では、古墳時代の遺構は、孤立的に竪穴建物が数棟調査されたのみで、古墳の構築はない。対して、当該地域は、弥生時代に引き続いて古墳時代で



第6図 遺跡調査区及び周辺地形図(吾妻町都市計画図11・17 1/2500を使用)

も継続して集落が継続して、古墳も5世紀後半から出現する。本県における古墳所在地の最西北端の地である。

植栗中原遺跡、小測沢B遺跡では、古墳時代前期の竪穴建物が検出されている。そこからは樽式土器が出土し、弥生時代から古墳時代への変換期の様相を表している。集落遺跡は吾妻西バイパス建設に伴う調査で多く確認されている。今まで希薄であった部分に新たにこの時期の遺跡の存在が明確になってきた感がある。東吾妻町の四戸遺跡・四戸の古墳群からは、古墳時代前期から後期に及ぶ竪穴建物が100棟近く検出されている。中期から後期に至っても継続し、唐堀C遺跡、万木沢B遺跡でも後期の集落が存在する。しかし、前期の集落と中期以降の集落とは地域的、規模、内容に歴然とした違いが認められる。吾妻川の対岸(左岸)、中之条町に所在する弥生時

代から継続する大規模集落である伊勢町川端遺跡、伊勢町天神遺跡との関係が密と考えることができるが、未報告であるため内容が明らかではない。吾妻川中流域の河岸段丘上では、西の四戸遺跡～四戸の古墳群と、東の伊勢町を中心とした遺跡群がそれぞれの地域での拠点集落と考えることができる。それぞれの地区は現在の渋川市、沼田市から西に向かい中之条町、東吾妻町を抜け四万御坂峠越えて新潟に向かう、あるいは、吾妻川からいったん四戸で南下し、大戸から須賀尾経由で鳥居峠から長野へ抜ける道の中継点となる箇所にある。このルートは弥生時代のみならず縄文時代あるいはそれ以前より、そして古墳時代以降にも継続して、群馬と長野・新潟を繋ぐ重要な役割を果たしていたことが指摘できる。当時の長期に渡る交流、交通の中継地であり、結果として拠点的

大集落として発展したことが推定される。中流域では発掘調査で明らかになった唐堀遺跡1号墳を西端にして古墳と共に集落も急激に増加する。特に四戸遺跡周辺と中之条町伊勢町川端・天神遺跡を拠点集落として発展していく。また、今まで確認されていなかった生産遺構が東吾妻町温川東岸にある厚田中村遺跡で初めて検出された。6世紀初頭に降下した榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)に覆われた極小区画水田が検出され、植栗山根A遺跡でも同様の小区画水田が発見されている。

飛鳥～平安時代

律令制下において、上野国内には「碓氷・片岡・甘栗・多胡・緑野・那波・群馬・吾妻・利根・勢多・佐位・新田・山田・邑楽」の14の郡が置かれていた。(当初13郡、和銅四(711)年に多胡設置で14郡に増加)。吾妻郡には「長田郷」、「伊勢郷」、「大田郷」の3郷があったとされている。植栗中原遺跡・小沢B遺跡で9世紀から10世紀にかけての竪穴建物が発見され、小沢B遺跡4号竪穴建物から吾妻郡の「吾」の墨書がされた須恵器の椀が出土している。植栗中原遺跡の2号竪穴建物から須恵器杯、椀が10点以上出土し、椀から「太」、杯には「寺」の墨書が確認された。この文字資料からこの地域が「吾妻郡大田郷」にあたるものと推定することができ、周辺には寺があった可能性が指摘できる。植栗周辺には現在でも太田という地名が残り、植栗山根A遺跡の北東に太田小学校・太田中学校(現在は統合され、消防庁舎となっている)がある。また対岸にある中之条町大字「市城」付近は、「官牧」である「市代牧」の比定地とされている。東吾妻町内における奈良・平安時代の遺跡はこれまでは、前畑遺跡などで集落が発見されていたこと、本遺跡の南西約2kmに位置する白鳳期寺院遺跡である金井廃寺の存在に留まっていた。そうした状況下、近年の吾妻西バイパス建設に伴う発掘調査と取り付け道路等の改修・補修工事による発掘調査も増え、奈良・平安時代の遺跡の検出事例は格段に増加し、新たな注目を呼んでいる。さらに金井廃寺の約1km南西には、7世紀代の集落の下郷古墳群が調査・報告されている。遺跡では礎石、布掘りを持つ掘立柱建物群が発見され、中空円面硯が出土した竪穴建物も確認されている。温川の東に位置する新井遺跡でも平安時代(9世紀)の集落が発見されている。四戸遺跡では7世紀

から10世紀前半までの集落が発見され、石組みのカマドが長期に渡って継続されていたことが明らかとなった。植栗中原遺跡の竪穴建物から出土した須恵器杯には「寺」「吾」と書かれた墨書土器も確認され、小沢B遺跡竪穴建物出土「吾」同様、吾妻郡家や寺院との関連も窺われる。四戸遺跡では、9世紀後半の竪穴建物から、ほぼ完形の奈良三彩短頸甕が出土するなど、希少性や特異性も含め、注目される発見が続いた。金井廃寺・四戸遺跡・新井遺跡・植栗中原遺跡・小沢B遺跡もすべて吾妻川右岸の事例である。万木沢遺跡の西にある万木沢B遺跡、唐堀C遺跡、根小屋遺跡でも平安時代の集落の存在が発掘調査によって明らかになってきた。

一方「中之条町誌」では吾妻郡家の比定地として吾妻川右岸の原市町に所在する大宮竈鼓神社を想定している。神社に代々伝えられる轆手大刀を根拠としており、大刀の時期は8世紀初頭期に比定されている。

吾妻東バイパスの建設による発掘調査や周辺の調査が進むにつれ、墨書、中空円面硯等の遺物が伴う下郷古墳群、小泉宮戸・天神遺跡の掘立柱建物等の発見は吾妻川右岸に多くあり、注目されることである。天竜遺跡からは、竪穴建物より銅鏡が出土している。

植栗地域から約2km弱にある金井廃寺は7世紀後半から9世紀前半にかけての寺院跡であり、上野国佐位郡家に隣接し、佐位郡の郡領層が建立した寺院とみられる伊勢崎市上植木廃寺と同范の軒丸瓦が採取されている。県内では前橋市の山王廃寺(放光寺)、伊勢崎市上植木廃寺、太田市の寺井廃寺とこの金井廃寺以外に、現在のところ本格的な白鳳期寺院は発見されていない。吾妻地域にいち早く本格的な寺院を建立できるような経済基盤を有する在地首長が存在していた証である。「長元3(1030)年上野国不与解由状案」(いわゆる「上野国交代記録帳」)定額寺項には、「放光寺」、「法林寺」、「弘輪寺」、「慈廣寺」の四寺の名称が記載されている。「放光寺」が前橋に所在する山王廃寺にあたることは、出土した文字瓦によって確認できることから、「法林寺」、「弘輪寺」、「慈廣寺」の三箇寺が、伊勢崎市上植木廃寺、太田市の寺井廃寺、東吾妻町金井廃寺のどれかにあたるのではないかと考えられている。

生産遺構としては古代の畑や水田も検出されている。厚田中村遺跡では、天仁元(1108)年降下のAs-Bによって

埋没した水田が部分的に検出されている。植栗山根A遺跡では、As-Kk・As-Bに被覆された水田面の畦畔状の高まりや水流を思わせる溝が発見されているが、四戸遺跡でもAs-Bが被覆した水田、畑が部分的に確認された。万木沢B遺跡ではAs-B上に小規模の畑、その上位となる12世紀前半に降下したとみられている浅間・粕川テフラ(As-Kk)・As-Bで埋没した畑が検出されている。こうした古代における水田、畑は四戸遺跡、万木沢B遺跡、唐堀C遺跡において平安時代の集落の上に検出されており、集落廃絶後に大きな土地利用の変換がなされたことを物語っている。

中・近世

天仁元(1108)年の浅間山噴火後、上野国内では荘園開発の動きが活発となる。吾妻郡域においては、12世紀末頃に秀郷流藤原氏である吾妻氏(前吾妻氏)が台頭する。『吾妻鏡』には吾妻八郎・吾妻太郎助光・吾妻四郎助光の名が見えるが、承久3(1221)年に勃発した承久の乱において吾妻助光が戦死したことにより吾妻氏は滅亡したと伝わっている。その後、嘉禎年間(1235～38年)前吾妻氏と同様、秀郷流藤原氏を称する吾妻(下河辺)行家が鎌倉幕府より吾妻郡を賜った。これを学界では、便宜的に後吾妻氏と称している。貞和5(1349)年に吾妻行盛が里見義侯との争いで戦死し、後吾妻氏は滅亡したとの伝承がある。東吾妻町大字岩井の長福寺五輪塔に刻まれた「藤原行盛」がこの吾妻行盛であるとされるが、戦死の一件については疑問視もされている。

14世紀末になると、この地域では秀郷流藤原氏の齊藤氏が台頭してくる。永禄4(1561)年の上杉輝虎の関東東出時の「関東幕注文」には「岩下衆 齊藤越前守六葉柏」とあり、齊藤氏が四戸遺跡の北西約3.5kmに位置する岩下城を中心に勢力を張ったことが窺える。16世紀前半には温川上流の手子丸城(大戸城)に拠った大戸氏が勢力を伸ばし、四戸遺跡の西約3kmに位置する根小屋城に入っている。根小屋城跡は吾妻西バイパス建設に伴い発掘調査され、堅穴状遺構、土坑、ピットなどが検出された。同時に根小屋川を挟んだ対岸の根小屋B遺跡、根小屋城跡の東側に位置する根小屋遺跡も調査されている。永禄6(1563)年、甲斐・信濃を領した武田信玄の上野国西部への侵攻により、大戸氏は武田氏に従属し、武田氏の武將

真田幸隆により齊藤氏の居城であった岩櫛城が落城し、岩櫛城が武田氏の拠点となった。これによって吾妻郡域は武田氏の支配下になる。その後、岩櫛城は天正10(1582)年の武田氏滅亡後に独立した真田氏の支配下となり、元和元(1615)年に江戸幕府によって発せられた「一国一城令」により破却されるまで存続した。この岩櫛城は、令和元(2019)年10月16日に国指定史跡となった。このように吾妻川流域は中世城館跡が多い地域として知られているが、こうした中世・戦国期における覇権・勢力争いの結果であることは言うまでもない。天正14(1586)年の北条氏滅亡後の徳川家康の江戸入府段階でも、吾妻地区は徳川家と上杉家・真田家のせめぎあいの状態である。

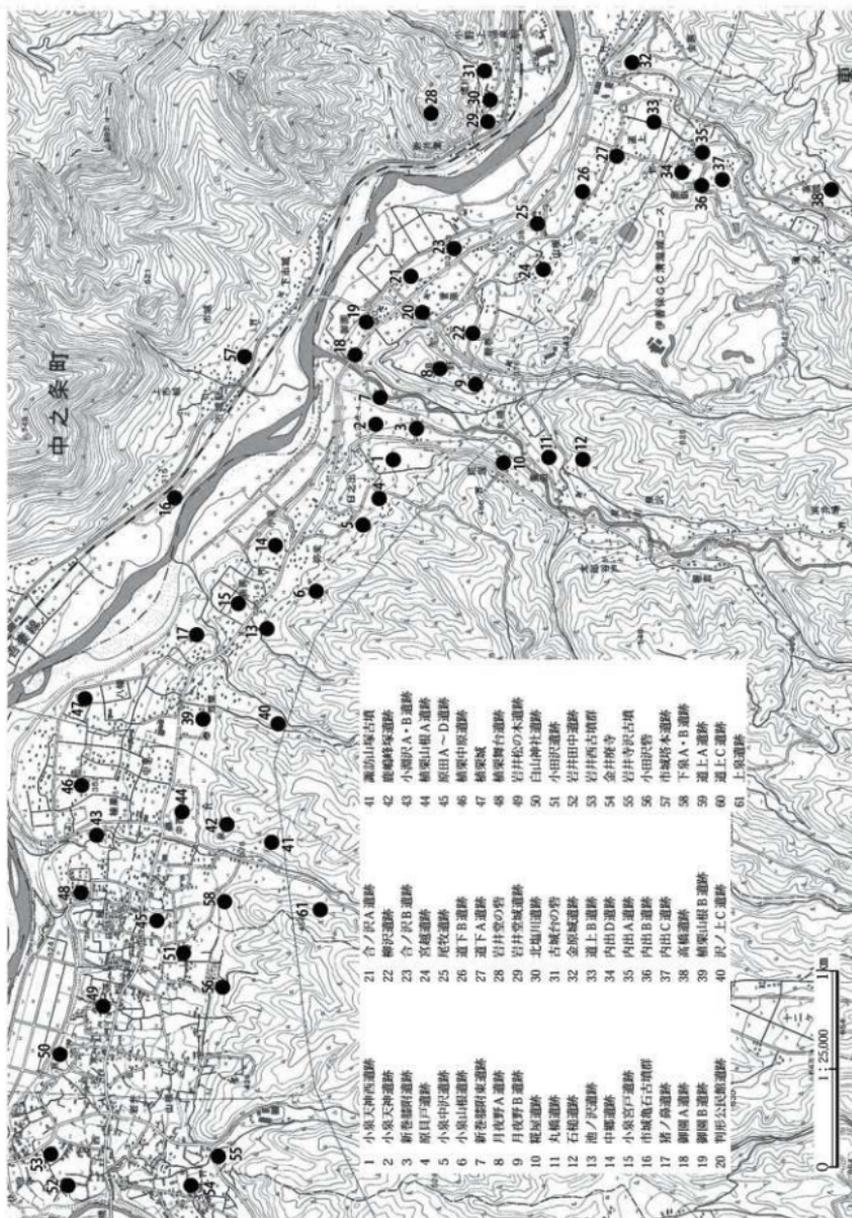
その後の上杉家の越後から会津への転付で一段落して、真田氏の沼田藩領、幕府領、旗本小泉領を経ている。特に、真田氏の所領であった時期には、各地に「水牢」が設置され、新巻の『池の兼師水牢』は町の指定文化財に指定されている。兼師堂の山端の軟石を掘った古池跡が、真田伊賀守による苛政(かせい=厳しすぎる政治)を物語る「水牢」の跡と伝えられている。水牢は、6間(約1.8m)四方を掘り下げ深さ2尺(約60cm)ほどの水をため、周囲に堀をめぐらし木戸を立てた牢屋。水牢は、天和元(1681)年8月11日の山崩れにより埋没したが、その一部が現在も姿を残している。当時の沼田藩主の重視は苛烈を極め、旧暦12月の年貢上納に際して、刑罰として年貢未納の農家の妻子を数人毎に縄で縛って水牢に投獄し、寒中の水の中に立たせたと伝えられている。

江戸時代後期の天明3(1783)年の浅間山の噴火に伴う泥流による被害が「二四石余りの泥入り」であったと伝わっている。

江戸時代から明治時代以降は、小泉村から原町・岩島村・坂上村と合併し、吾妻町となった。さらに平成の大合併で吾妻町と吾妻郡東村とが合併し、東吾妻町となった。

小泉天神西遺跡周辺の寺院・神社をみると、まず泉沢東の荒巻地区にある長徳寺は道元開祖の曹洞宗、正泉寺は空海開祖の真言宗豊山派、観音寺は御園観音とも呼ばれ、吾妻三十三観音(3番札所)でもある。

新巻地区の菅原神社は、菅原道真を祭神とする神社であり、天満宮の系列である。次に、本遺跡に最も近い泉沢より西の小泉地区の八幡宮は、大分県の宇佐八幡の系



第7図 周辺遺跡分布図(国土地理院1/25,000地形図「群馬県町」「金井」を使用)

第2章 遺跡の概要

列だが現状では石の祠だけが存在する。

白鳥神社は日本武尊(ヤマトタケル)を祭神する神社で、いわゆる「白鳥信仰」であり、「大鳥信仰」と同様である。この地域には、3つの白鳥神社があり、ここ小泉と大字奥田と中之条町大字市城字塔本の「宗教法人白鳥神社」である。だが、ほとんどの神社仏閣の創設時期や途中での宗派変更などの詳細は不明である。

参考文献

- 吾妻町教育委員会2003『町内遺跡Ⅰ 小泉宮戸遺跡』
 吾妻町教育委員会2004『町内遺跡Ⅱ 小泉天神遺跡』
 東吾妻町教育委員会2007『町内遺跡Ⅳ 植栗中原遺跡』
 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2023『植栗中原遺跡小沢沢B遺跡』
 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2023『植栗山根A遺跡』
 群馬県文化事業振興会1985『上野河部村誌11 吾妻郡』
 群馬県文化事業振興会1985『茂間山天明噴火史料集成Ⅰ 日記編』萩原進編
 群馬県文化事業振興会1986『茂間山天明噴火史料集成Ⅱ 記録編(1)』萩原進編
 群馬県文化事業振興会1989『茂間山天明噴火史料集成Ⅲ 記録編(2)』萩原進編
 群馬県文化事業振興会1993『茂間山天明噴火史料集成Ⅳ 記録編(3)』萩原進編
 群馬県文化事業振興会1995『茂間山天明噴火史料集成Ⅴ 雑編』萩原進編
 平凡社1987『群馬県の地名 日本歴史地名大系10』

第2表 周辺遺跡一覧表

No	遺跡名	市町村 遺跡番号	時期							種別	参考文献	
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世			近世
1	小泉天神西遺跡	0202		○		○	○	○			本遺跡	3
2	小泉天神遺跡	0094		○		○	○	○	○		集落、古墳	15
3	新巻膝附遺跡	0108					○	○	○	○	散布地、集落、生産遺跡	4.19
4	原貝戸遺跡	0201		○	○			○	○		散布地	4.19
5	小泉中沢遺跡	0093				○		○			散布地	4.19
6	小泉山根遺跡	0199			○		○	○			散布地	14.15.19
7	新巻膝附東遺跡	0149		○				○	○	○	散布地	4.19
8	月夜野A遺跡	0150							○		散布地	4.19
9	月夜野B遺跡	0151		○						○	散布地	4.19
10	榎屋遺跡	0010			○						散布地	4.19
11	丸橋遺跡	0101									散布地	4.19
12	石槌遺跡	0103		○							散布地	9
13	池ノ沢遺跡	0197・0198						○	○		集落	4.19
14	中郷遺跡	0195		○	○			○	○	○	散布地	2
15	小泉宮戸遺跡群	0092		○				○	○		散布地、古墳	16
16	市城亀石古墳群	0041				○					古墳	4.19
17	猪ノ鼻遺跡	0194		○	○		○	○			散布地	4.19
18	御園A遺跡	0144		○	○		○	○			散布地	4.19
19	御園B遺跡	0145		○	○		○	○			散布地	4.19
20	判形公民館遺跡	0104			○						散布地	4.19
21	合ノ沢A遺跡	0147		○	○		○	○			散布地	4.19
22	柳沢遺跡	0100		○							散布地	4.19
23	合ノ沢B遺跡	0148			○		○	○			散布地	4.10.11
24	宮越遺跡	0153		○							散布地	4.19
25	尾牧遺跡	0152					○	○			散布地	4.19
26	道下B遺跡	0155		○	○		○	○	○		集落	4.19
27	道下A遺跡	0154							○	○	集落	4.19
28	岩井堂の砦	0057							○		城館	4.19
29	岩井堂城遺跡	0058							○		城館	4.19
30	北塩川遺跡	0015		○	○						集落	4.19
31	古城台の砦	0052							○		集落	4.19
32	金原城遺跡	0109							○		城館	4.19
33	道上B遺跡	0157		○				○	○	○	集落	4.19

No	遺跡名	市町村 遺跡番号	時期							種別	参考文献	
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世			近世
34	内出D遺跡	0159		○			○	○			集落	4.19
35	内出A遺跡	0105				○					集落	4.19
36	内出B遺跡	0106		○						○	集落	4.19
37	内出C遺跡	0158		○				○	○		集落	4.19
38	高橋遺跡	0131		○				○	○	○	集落	4.19
39	植栗山根B遺跡	0190						○	○	○	散布地	4.19
40	沢ノ上C遺跡	0193						○	○		散布地	4.19
41	諏訪山塚古墳	0185				○					古墳	4.19
42	鹿嶋峰塚遺跡	0064		○							集落	4.19
43	小湧沢A・B遺跡	0187・0188			○	○	○	○				5
44	植栗山根A遺跡	0189		○				○	○	○	集落、生産跡	4.19
45	原田A～D遺跡	0174～0177						○	○		散布地	18
46	植栗中原遺跡	0091		○			○	○	○	○	散布地、集落、古墳	13
47	植栗城	0085								○	城館	4.19
48	植栗舞台遺跡	0090			○	○	○	○			集落	4.19
49	岩井松の木遺跡	0165		○	○		○	○	○		集落、墳墓	4.19
50	白山神社遺跡	0012			○	○					散布地	4.19
51	小田沢遺跡	0173				○	○	○			散布地	4.19
52	岩井田中遺跡	0161・0162				○	○	○			集落	4
53	岩井西古墳群	0057				○					古墳	1.4
54	金井庵寺	0005						○	○		集落、寺院	17.18.19
55	岩井寺沢古墳	0098					○				古墳	4.19
56	小田沢砦	0086								○	城館	4.6
57	市城塔本遺跡	0077				○	○	○	○		散布地、集落	4.12.19
58	下泉A・B遺跡	0182・0183		○	○	○				○	集落	4.18.19
59	道上A遺跡	0156		○						○	集落	4.19
60	道上C遺跡	0256						○	○		集落	9
61	上泉遺跡	0184		○	○			○	○	○	散布地	4.19

参考文献

- 吾妻町教育委員会1979 『金井庵寺遺跡』
- 吾妻町教育委員会2003 『町内遺跡Ⅰ 小泉宮ノ遺跡』
- 吾妻町教育委員会2004 『町内遺跡Ⅱ 小泉天神遺跡』
- 東吾妻町教育委員会2019 『東吾妻町遺跡分布地図』
- 東吾妻町教育委員会2023 『下泉B遺跡』
- 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2015 『市城塔本遺跡』
- 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2023 『植栗中原遺跡・小田沢B遺跡』
- 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2023 『植栗山根A遺跡』
- 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2024 『池ノ沢遺跡』
- 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2024 『川戸太田遺跡』
- 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2020～2023 『年報39～42』
- 群馬県文化事業振興会1972 『群馬県古城遺跡の研究 下巻』
- 群馬県教育委員会1988 『群馬県の中世城館跡』
- 東村教育委員会1984 『棚沢遺跡』
- 東村教育委員会2004 『村内遺跡Ⅰ 新巻郡附遺跡』
- 中之条町誌編纂委員会1976 『中之条町誌』
- 群馬県1938 『上毛古墳総覧』
- 群馬県教育委員会2017 『群馬県古墳総覧』
- マッピングぐんま

第3節 基本土層

小泉天神西遺跡は地理的環境でも触れているように、吾妻川右岸の上位段丘と榛名山から北に傾斜する緩斜面の上に位置する。本遺跡のすぐ北西に位置する小泉天神

遺跡と同様に榛名山の岩体を基礎に浅間山起源の前橋泥流(応桑泥流)を被覆し、その上に榛名山起源の土石流や浅間山起源の火山灰や軽石が堆積する。



第8図 基本土層模式図

第3章 発見された遺構と遺物

第1節 概要

本遺跡での発掘調査により確認できた遺構と遺物の時期は大きく分けて縄文時代、古墳時代、飛鳥～平安時代、及び中・近世に属する4つの文化層であり竪穴建物などの居住空間に関する遺構が主体である。他に畑や溝などの農業生産跡が含まれている。調査面積は2886.70㎡である。

当遺跡で最も古い時代の人類の痕跡としては、縄文時代が確認された。遺構の数は少ないものの竪穴建物や土坑、ピットが確認された。次に、古墳時代では前半の竪穴建物と土坑、ピットが確認された。飛鳥～平安時代では複数の竪穴建物や土坑、ピットが確認された。中・近世では複数の掘立柱建物や溝、畑、土坑、ピットが確認された。

以下、各時代毎の遺構・遺物の特徴をみていくこととする。

旧石器時代は総数12ヶ所の試掘トレンチを設定し、調査したものの遺構や遺物は検出されなかった。その規模は、1ヶ所につき4m×4mを基本にしたトレンチを12本設定し、合計189㎡となる。つまり、今回の発掘調査では総面積2886.70㎡に対して、調査面積が約189㎡であり、割合が6.5%である。

縄文時代では遺構として中期後葉の石囲炉をもつ竪穴建物、土坑やピットが検出された。確認された面は基本土層のIX層上面、いわゆるローム漸移層である。また、遺物としては早期後葉の条痕系土器、中期の加曽利E式などの土器や、打製石鏃、打製石斧などの石器が出土している。

弥生時代では、遺構はまったく確認されていない。

古墳時代では、遺構は4世紀後半の竪穴建物や土坑、ピットが検出された。遺物も少ないものの土器などが出土した。古墳時代中・後期の時期の遺構はまったく検出されていない。

飛鳥～平安時代では、北側へ傾斜する地形のために竪穴建物の北壁の残りが悪いものの、17棟の竪穴建物と

ピットが検出された。浅間Bテフラ(1108)、浅間一和川テフラ(1128)の下で確認されており、本遺跡の基本土層として堆積したこれらの堆積物の存在が、個々の遺構の所属する時期の認定に重要である。

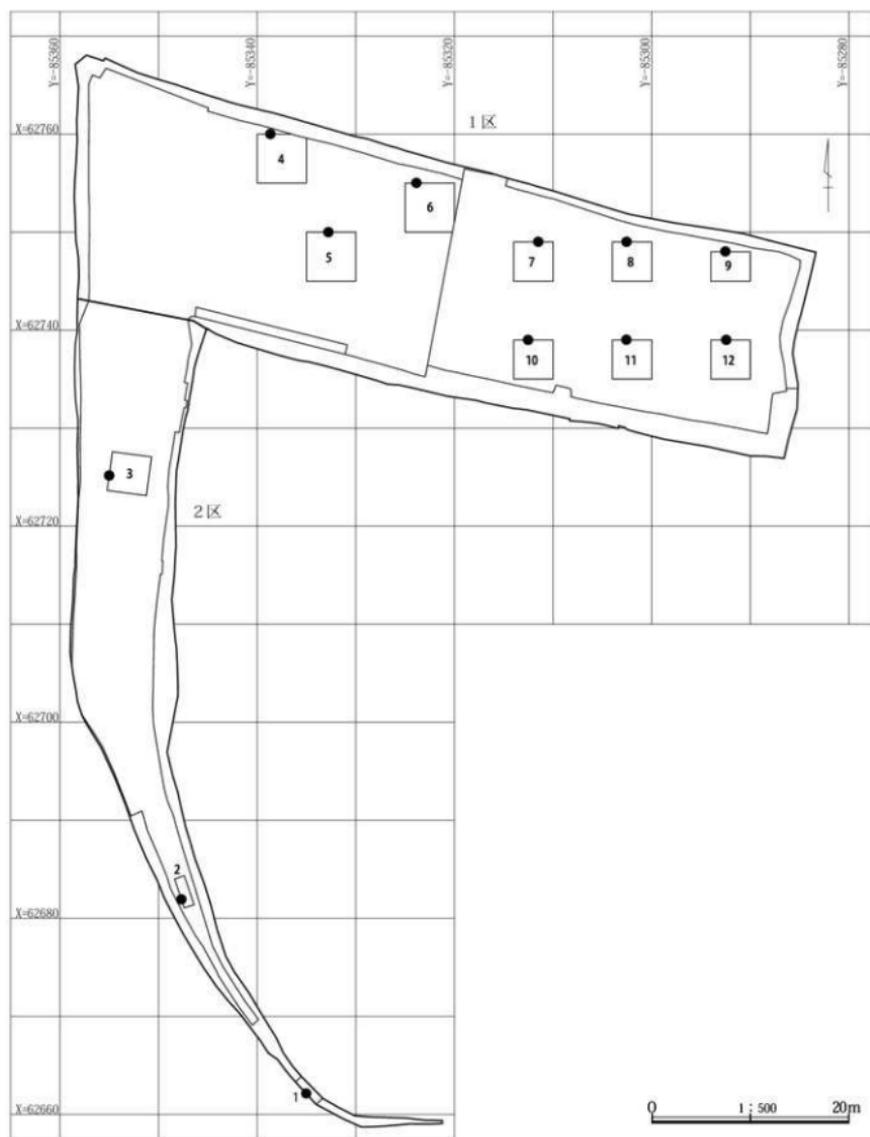
中世以降から近世にかけては、前記した軽石を掘り込んだ溝が1条検出され、堆積した土層の観察から周囲に水田が継続して作られたことが推定される。また、土地の区画と考えられる区割りの痕跡も検出されている。さらに、掘立柱建物12棟、土坑47基やピット193基を検出した。出土遺物は播鉢や碗などの陶磁器の破片が僅かであるが出土しており、18世紀以降のものが大半である。

第2節 旧石器時代

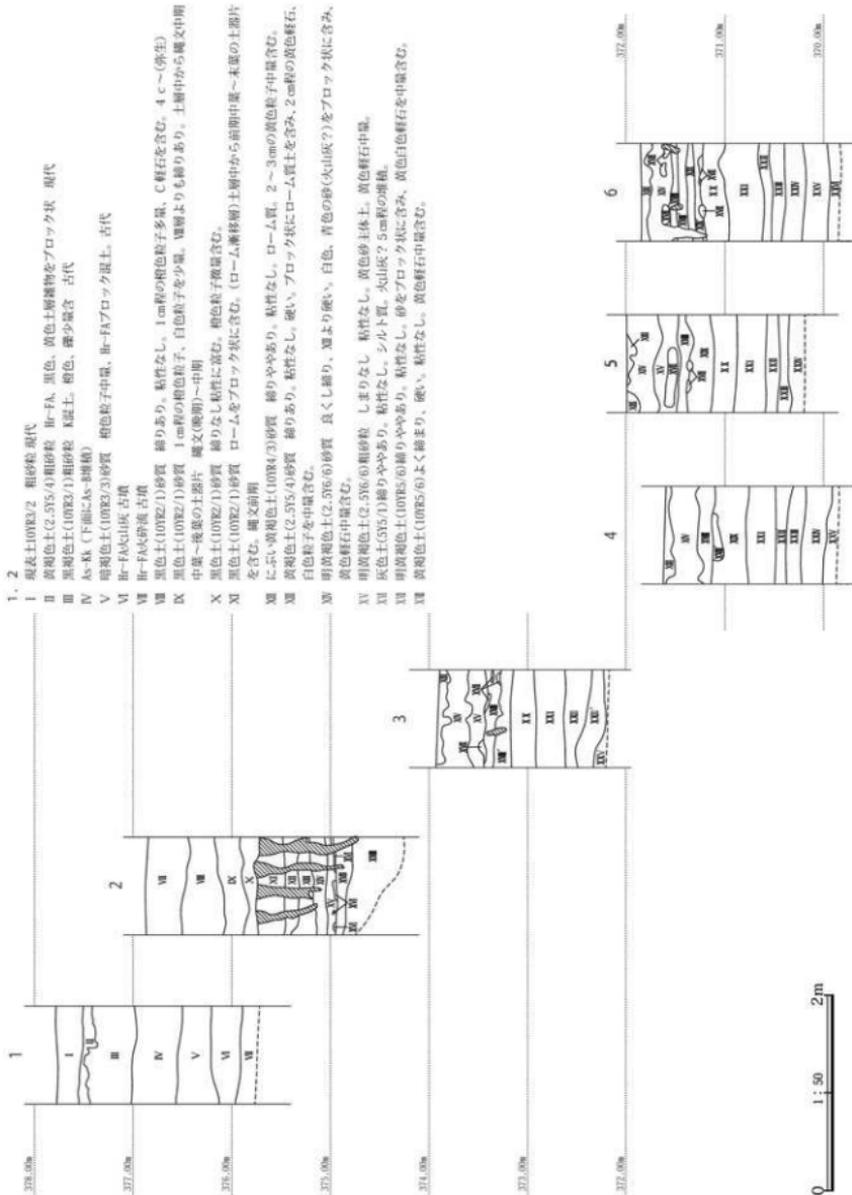
県文化財課による試掘段階では3本の試掘トレンチが設定、それぞれが掘削された。

さらに、令和4年度と令和5年度の本調査中に総数12ヶ所の試掘・確認トレンチを設定し、それぞれに浅間一板鼻黄色軽石(As-YP)や浅間一板鼻褐色軽石(As-BP)などの浅間山起源の火山灰や南の榛名山側からの土石流や泥流が覆い被さっている。その下位に前橋泥流(大桑泥流)を確認した。残念ながら、遺構や遺物は確認されなかった。

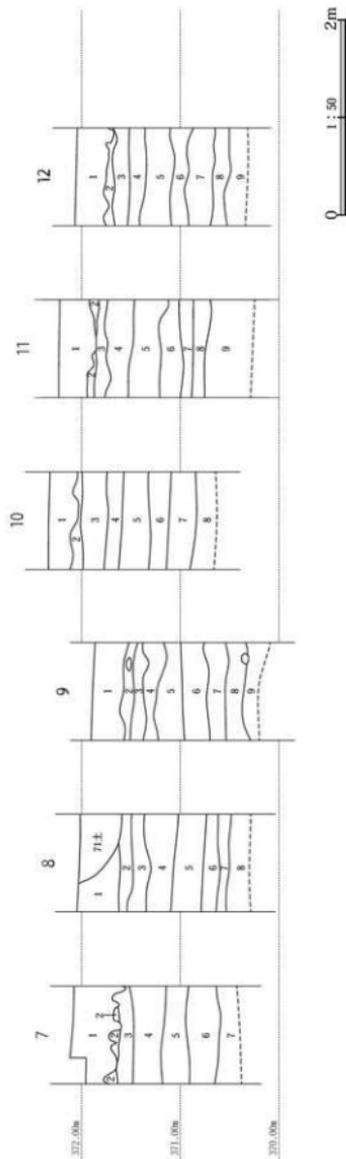
土層そのものは、表土層からはXVIII層目の分離確認されたが、XI層のローム漸移層までは完新世に相当し、XII層からがローム層となる。



第9図 旧石器確認調査全体図



第10図 旧石器試掘確認トレンチ土層断面図(1)



3~6

- Ⅷ 黒色土(10782/1)層状白色粒、黄褐色を含む、区層より色味濃い、織文不明
- Ⅸ 灰黄褐色土(10785/2)ローム層移層、黒色土ブロック、黄褐色粒を含む。
- X 黄褐色土(10785/3)ローム土、黄褐色粒、灰白色灰ブロックを少量含む、縞りあり。
- XI 明黄褐色土(10786/6)明黄褐色火山灰ブロック、まじりこ。
- XII 灰黄色土(10786/1)灰白色灰層ブロック。
- XIII 黄褐色土(10785/8)灰白色灰層ブロックが不層に混在する、黄褐色粒を含む。
- XIV 黄褐色土(10785/6)灰白色灰層ブロックが不層に混在する、細粒黄褐色粒を多量に含む。
- XV 明黄褐色土(10786/8)層状白色粒、黄褐色粒、褐色粒を含む。
- XVI 明黄褐色土(10786/8)層状白色粒、黄褐色粒、褐色粒を含む、灰白色灰層ブロックが不層に混在する。
- XVII 灰黄色土(10786/8)層状白色粒、黄褐色粒を含む、As-Sr二次堆積土。
- XVIII 褐色土(10784/6)層状白色粒、黄褐色粒を多量に含む、As-Sr二次堆積土。
- XIX 褐色土(10784/6)XVIII層に類する、やや縞り強い、As-Sr二次堆積層。
- ⅩⅩ 灰黄褐色土(10788/3)As-Sr一次堆積層。
- ⅩⅪ 黄褐色土(10786/6)φ1~2mmの浮遊軽石(As-K)を含む。
- ⅩⅫ 黄褐色土(10786/8)φ1~2mmのAs-砂が少量混在する。
- ⅩⅬ 褐色土(10786/6)XIX層よりAs-砂を多量に含む、小礫が少量混在する、縞りあり。

7~12

- 1 黒色土(10782/1)砂質、ローム土をブロック状に含む、(ローム層移層)土層中から織文時代後期中層~末層の土層片を含む。
- 2 灰白黄褐色土(10785/3)砂質、縞りややあり、粘性なし、ローム質、2~3cmの黄色粘土中を含む。
- 3 黄褐色土(10785/4)砂質、縞りあり、粘性なし、硬い、ブロック状にローム質土を含む、2cm程度の黄褐色石、白色軽石を中量含む。
- 4 明黄褐色土(10786/6)砂質、縞り長く、5層より硬い、白色、褐色の砂(火山灰?)をブロック状に含む、黄褐色石中量含む。
- 5 明黄褐色土(10786/6)粗砂粒、縞りなし、粘性なし、黄褐色主体土、黄褐色石中量含む。
- 6 灰(935/1)、縞りややあり・粘性なし、シルト質、火山灰、5cm程度の層積。
- 7 明黄褐色土(10785/6)縞りややあり、粘性なし、砂をブロック状に含む、黄色、白色軽石を含む。
- 8 明黄褐色土(10785/6)よく縞り、硬い、粘性なし、黄褐色石中量含む。
- 9 粘板泥炭

第11図 旧石器器器産地トレンチ土層断面図(2)

第3節 縄文時代の遺構と遺物

(1)概要

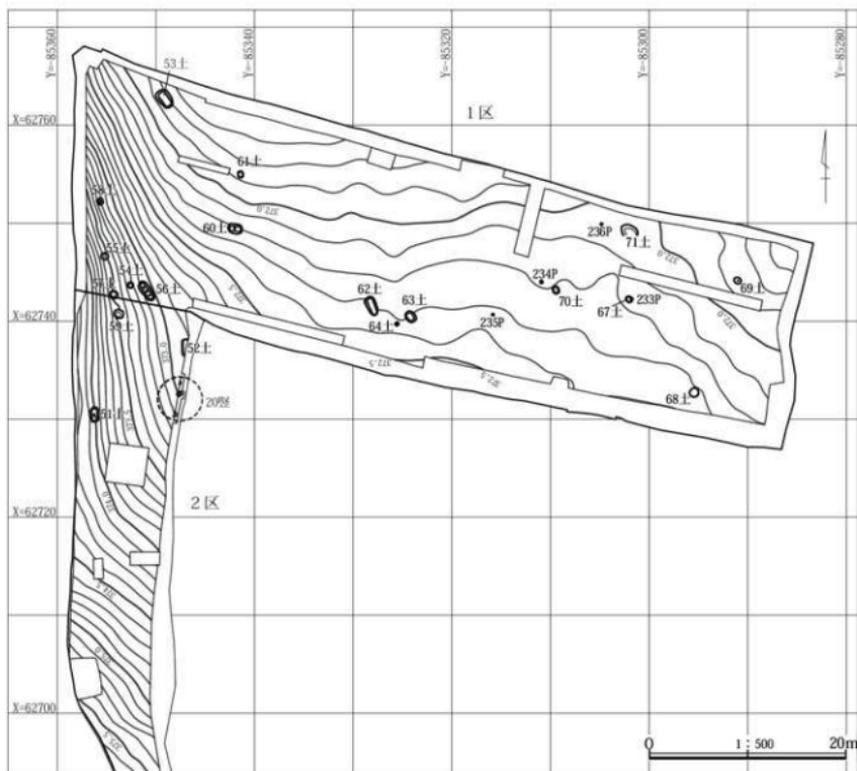
縄文時代の遺構は、竪穴建物1棟・土坑19基・ピット4基が確認されている。

竪穴建物は中期後葉加曾利E3式期に帰属し、本線部分(1区)から南へ10mほど離れた現道拡幅部分(2区)で確認された。遺物包含層調査中に石囲いが確認されたことでその存在が明らかとなり、急遽残地部分を拡張して調査したものである。

土坑は19基が確認され、そのうち7基は陥し穴と考え

られる。陥し穴は丘陵に近い調査区西側を中心に分布し、陥し穴以外の土坑は調査区西側と東側に分かれて分布する傾向にある。ほとんどの土坑で遺物が出土しなかったため、帰属時期を特定することはできなかった。

遺構は伴わないが、遺物包含層中からも多くの遺物が出土している。竪穴建物が確認された中期後葉期の出土量が最も多いが、そのほかに前期後葉期、中期初頭～中葉期、後期の遺物が出土している。特に前期諸磯b式、中期中葉期(勝坂式・阿玉台式・焼町土器・加曾利E1式)の出土量が多く、周囲に概期の遺構が存在する可能性があろう。



第12図 縄文時代遺構全体図

(2) 竪穴建物

中期後葉期の竪穴建物1棟を確認した。後述するとおり、建物のごく一部の調査となったため全容は判然としないが、当地地上に縄文時代集落の存在を示す貴重な調査例となった。

20号竪穴建物(第13～15図、PL.4・5・59)

位置 2区北西部

座標値 X=62729～62734、Y=85347～85348

遺存状況 XI層を掘削中に石囲好²の存在を確認したことで、竪穴建物と認定した。その時点で、西半は床面より下位まで掘り下げられており、また東半は調査区外となるため、調査できたのは石囲好²を含む東西幅50cm程の南北に細長い範囲のみである。

形状 調査した範囲が建物のごく一部であるため、形状は不明である。

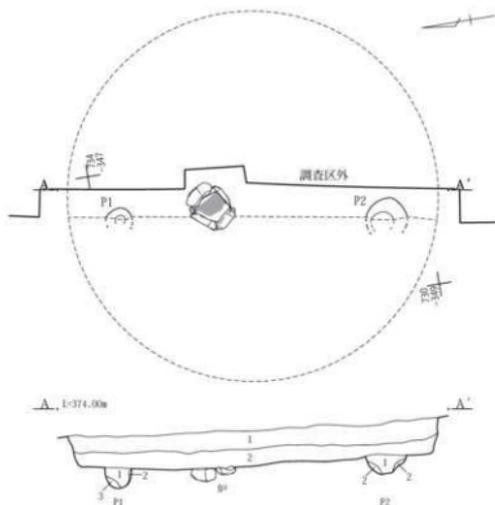
規模 調査区壁面の断面観察により、直径4.50m、深さ46cmを測る。

方位 石囲好²の短軸を基準とすると、N-41°-Wとなる。

床 床面は多少の凸凹が見られるが、ほぼ平坦である。壁溝は確認されていない。

埋没土 上層に黒褐色土、下層に黒色土が堆積しており、基本土層のX層を主体とする。

炉 石囲好²が検出された。位置は建物中央よりやや北側と推測される。楕円形状の掘り方に、4個の礫を「口」の字状に配置する。北東および南西辺に厚みのある礫を配し、北西および南東辺にやや薄い扁平な礫を置く。北角



20号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄褐色粒、褐色粒を少量含む。締りあり。
- 2 黒色土(10YR2/1)黄褐色粒を僅かに含む。混入物希薄。締りあり。

P1

- 1 褐灰色土(10YR4/1)黄褐色粒を少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒・ブロックを含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)黄褐色粒を僅かに含む。

P2

- 1 褐灰色土(10YR4/1)黄褐色粒を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)黄褐色粒を僅かに含む。褐色土ブロックを含む。

0 1:60 2m

第13図 20号竪穴建物(1)

の隙間に小礫1個を詰めている。炉床面の規模は35cm×32cm、深さ7cmを測る。埋没土中には焼土が認められた。

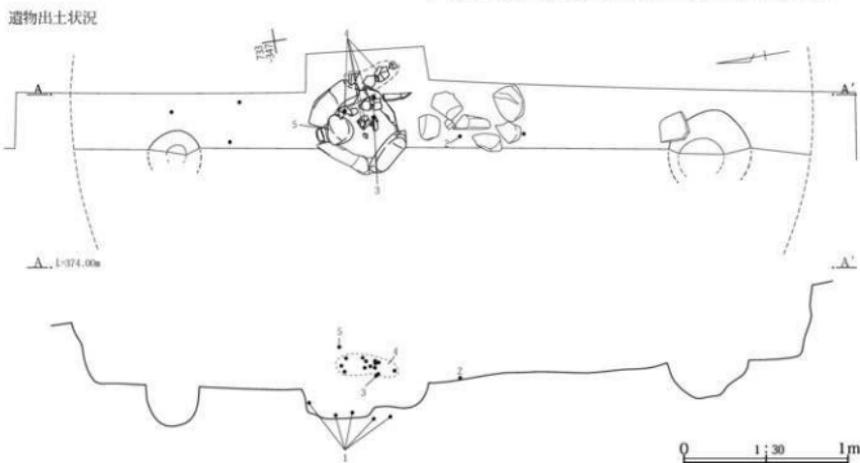
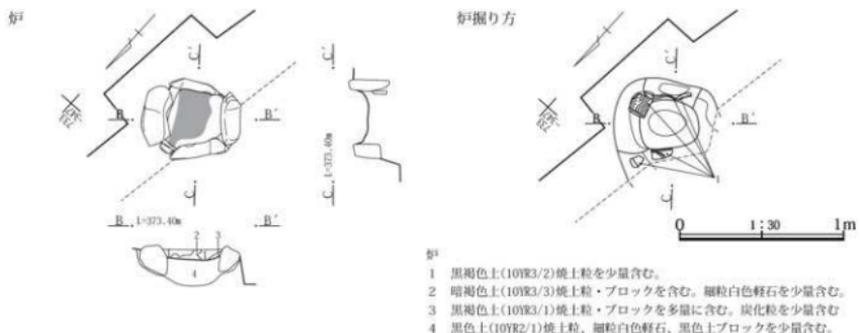
柱 穴 ビット2基を確認した。それぞれの規模(直径×深さ)は、P1:30cm×25cm、P2:50cm×22cmを測る。

遺 物 出土土器は25点で、その内訳は諸磯b式1点、加曾利E3式9点、加曾利E4式1点、中期後葉期14点である。石器は剥片1点、台石1点が出土している。No.4の加曾利E4式は、床面から10cm以上浮いたレベルで出土しており、竪穴建物廃絶後の埋没過程で廃棄されたものと考えられる。No.5の台石も同様であり、また、ほぼ同じ

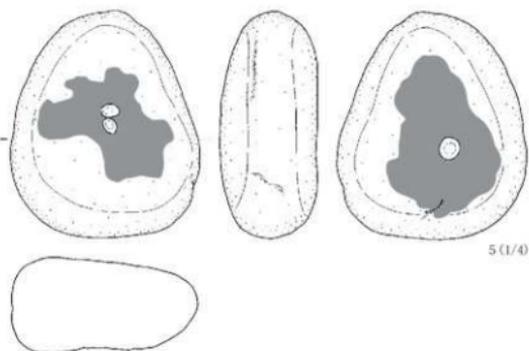
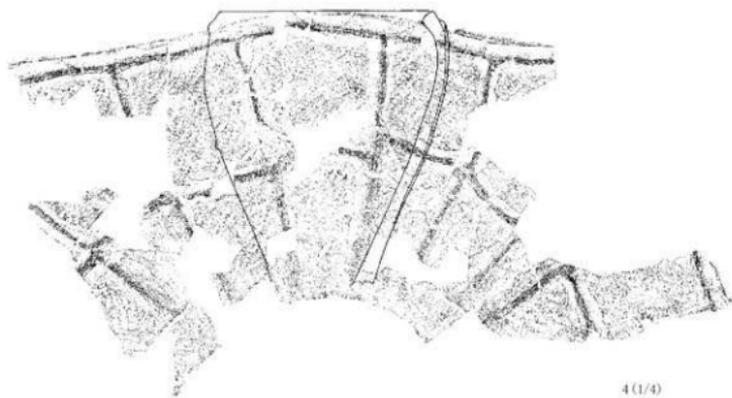
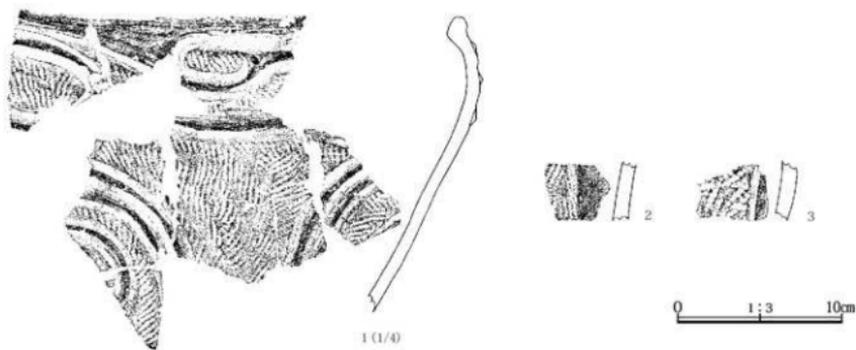
レベルで大型礫がまとまって出土していることから、No.4と同時に廃棄された可能性が高い。一方、炉石の下や炉石に沿ってNo.1の土器片が出土していることから、炉の構築に際して意図的に埋められたものと考えられる。また、No.2がほぼ床直で出土している。

時 期 炉構築時にNo.1を意図的に埋め込んでいる状況や、No.2がほぼ床直で出土していることから、加曾利E3式期と判断される。

重 複 残存する部分での重複は無い。



第14図 20号竪穴建物(2)



第15図 20号竪穴建物出土遺物

(3) 土坑

土坑は19基確認された。そのなかで陥し穴と考えられる土坑が7基あり、うち逆茂木が認められるものが3基ある。51、60号を除いて出土遺物が全く無いため細別時期は不明だが、確認面から縄文時代に帰属するものと判断した。51、60号土坑については陥し穴と考えられるが、それぞれ諸磯b式に比定しうる小破片が1、2点出土している。この遺物をもって諸磯b式期と結論づけるのは早計であるが、4で報告する遺物包含層から多く出土している中期中葉期や中期後葉期が全く出土しないところを見ると、中期前葉期以前の所産である可能性が高い。なお、各土坑の確認面はⅡ層上面であるが、20号竪穴建物の石囲身がⅡ層中で確認されていることを考えると縄文時代の生活面はより上位にあるはずであり、それぞれの土坑、特に中期後葉期は現状よりさらに深さがあったといえる。67、68号土坑は断面形状が円筒状を呈し、一般的な縄文時代の貯蔵穴等の形状を呈すことから、20号竪穴建物の時期に伴う土坑である可能性を考えてもよいであろう。

51号土坑(第16図、PL. 5・59)

位置 2区北西部

座標値 X=62729～62731、Y=-85355～-85356

形状 平面：隅丸長方形 断面：箱状で上半がやや開く。底面中央に逆茂木を設置したと考えられる小穴1基が確認された。規模は直径21cm、深さ40cmである。

規模 長軸1.47m、短軸0.84m、深さ1.02m

方位 N-4°-W

埋没土 黒褐色土を中心にローム土を僅かに含む。

遺物 諸磯b式と考えられる浅鉢破片1点、スクレイパーと刺片が1点ずつ出土している。№1の浅鉢破片は、底面から86cm浮いたレベルで出土している。

重複 無し

所見 形状や逆茂木を設置したと考えられる小穴が見られることから、陥し穴と考えられる。前述したとおり、中期前葉期以前の所産と考えられるが、№1の浅鉢破片が底面から86cm浮いたレベルで出土していることから、埋没課程の最終段階で諸磯b式が混入したと捉えることができ、諸磯b式期以前の可能性を考えることもできよう。

52号土坑(第16図、PL. 5)

位置 2区北東部

座標値 X=62736～62738、Y=-85346～-85347

形状 平面：隅丸長方形 断面：箱状

規模 長軸1.68m、短軸0.58m、深さ0.57m

方位 N-1°-W

埋没土 黒褐色土を中心にローム土を僅かに含む。

遺物 無し 重複 無し

所見 逆茂木を設置したと考えられる小穴は見られないが、形状から陥し穴と考えられる。

53号土坑(第16図、PL. 5)

位置 1区北西部

座標値 X=62761～62763、Y=-85348～-85349

形状 平面：隅丸長方形 断面：箱状で上半が開く

規模 長軸1.99m、短軸1.28m、深さ1.05m

方位 N-35°-W

埋没土 黒褐色土を中心にローム土を僅かに含む。

遺物 無し 重複 無し

所見 逆茂木を設置したと考えられる小穴は見られないが、形状から陥し穴と考えられる。

54号土坑(第16図、PL. 6)

位置 1区南西部

座標値 X=62743、Y=-85352

形状 平面：円形 断面：浅い鉢鉢状

規模 長径0.60m、短径0.59m、深さ0.16m

方位 N-50°-W

埋没土 黒褐色土を中心にローム土を少量含む。

遺物 無し 重複 無し

所見 掘り込みはやや不明瞭である。

55号土坑(第17図、PL. 6)

位置 1区南西部

座標値 X=62746、Y=-85354～-85355

形状 平面：円形 断面：鉢鉢状

規模 長径0.75m、短径0.71m、深さ0.33m

方位 N-62°-E

埋没土 黒褐色土を中心に白色粒を含む。

遺物 無し 重複 無し

56号土坑(第17図、PL. 6)

位置 1区南西部

座標値 X=62742～62744、Y=-85350～-85351

形状 平面：隅丸長方形 断面：箱状で上半が開く。底面に均等な間隔で逆茂木を設置したと考えられる小穴3基が確認された。規模はそれぞれ直径20cm前後、深さ45cm前後を測る。

規模 長軸2.22m、短軸0.98m、深さ0.97m

方位 N-38°-W

埋没土 黒褐色土を中心にローム粒子を多く含む。

遺物 無し 重複 無し

所見 形状や逆茂木を設置したと考えられる小穴が見られることから、陥し穴と考えられる。

57号土坑(第17図、PL. 6)

位置 1区南西部

座標値 X=62742～62743、Y=-85353～-85354

形状 平面：不整形 断面：播鉢状

規模 長径0.83m、短径0.78m、深さ0.23m

方位 N-35°-W

埋没土 黒褐色土を中心にローム粒を多く含む。

遺物 無し 重複 無し

58号土坑(第17図、PL. 6)

位置 1区西部

座標値 X=62751～62752、Y=-85355

形状 平面：不整形 断面：播鉢状2段

規模 長径0.65m、短径0.58m、深さ0.35m

方位 N-23°-W

埋没土 黒褐色土を中心にローム粒を多く含む。

遺物 無し 重複 無し

59号土坑(第17図、PL. 6)

位置 2区西部

座標値 X=62740～62741、Y=-85353～-85354

形状 平面：楕円形 断面：浅い播鉢状

規模 長径1.01m、短径0.84m、深さ0.20m

方位 N-74°-W

埋没土 暗褐色土を中心にローム粒を含む。

遺物 無し 重複 無し

60号土坑(第18図、PL. 7・59)

位置 1区南西部

座標値 X=62748～62749、Y=-85341～-85342

形状 平面：隅丸長方形 断面：箱状で上半、特に長軸側が開く。底面中央に逆茂木を設置したと考えられる小穴1基が確認された。規模は直径21cm、深さ40cmである。

規模 長軸1.48m、短軸0.98m、深さ0.76m

方位 N-81°-W

埋没土 黒色土や暗褐色土を中心にローム粒を多く含む。

遺物 諸磯b式の集合沈線文土器、諸磯b式と考えられる縄文施文土器が各1点出土している。

重複 無し

所見 形状や逆茂木を設置したと考えられる小穴が見られることから、陥し穴と考えられる。形状が類似すること、諸磯b式の土器片を出土することから、51号土坑と同時期に掘削されたものと考えられる。

61号土坑(第18図、PL. 7)

位置 1区北西部

座標値 X=62754～62755、Y=-85341

形状 平面：不整形 断面：浅い播鉢状

規模 長径0.69m、短径0.59m、深さ0.15m

方位 N-10°-W

埋没土 黒色土を中心にローム粒を多く含む。

遺物 無し 重複 無し

所見 掘り込みはやや不明瞭である。

62号土坑(第18図、PL. 7)

位置 1区南部

座標値 X=62740～62742、Y=-85327～-85328

形状 平面：隅丸長方形 断面：箱状で上半が開く

規模 長軸1.97m、短軸0.98m、深さ0.76m

方位 N-14°-W

埋没土 黒色土や黒褐色土を中心にローム粒を多く含む。

遺物 無し 重複 無し

所見 逆茂木を設置したと考えられる小穴は見られないが、形状から陥し穴と考えられる。

63号土坑(第18図、PL. 7)

位置 1区南部

座標値 X=62739 ~ 62741、Y=-85323 ~ -85324

形状 平面：隅丸長方形 断面：箱状で上半が開く

規模 長軸1.20m、短軸0.96m、深さ0.76m

方位 N-39°-W

埋没土 黒色土を中心にローム粒を多く含む。

遺物 無し 重複 無し

所見 他の陥し穴と比べて長軸がやや短い、断面形状から陥し穴と考えられる。

64号土坑(第19図、PL. 7)

位置 1区南部

座標値 X=62739、Y=-85325

形状 平面：円形 断面：浅い掘鉢状2段

規模 長径0.42m、短径0.37m、深さ0.22m

方位 N-15°-E

埋没土 黒色土を中心にローム粒を多く含む。

遺物 無し 重複 無し

67号土坑(第19図、PL. 7)

位置 1区東部

座標値 X=62741 ~ 62742、Y=-85301 ~ -85302

形状 平面：不整形 断面：浅い円筒状

規模 長径0.65m、短径0.60m、深さ0.15m

方位 N-26°-W

埋没土 黒褐色土を中心に黄褐色粒を含む。

遺物 無し 重複 無し

所見 断面円筒状で掘り込みはしっかりしており、縄文時代らしい土坑である。

68号土坑(第19図、PL. 7)

位置 1区南東部

座標値 X=62732 ~ 62733、Y=-85294 ~ -85295

形状 平面：円形 断面：浅い円筒状

規模 長径0.96m、短径0.90m、深さ0.24m

方位 N-32°-E

埋没土 黒褐色土を中心に黄褐色粒を含む。

遺物 無し 重複 無し

所見 陥し穴を除く土坑のなかで、もともと縄文時代

の土坑らしい形状をしている。

69号土坑(第19図、PL. 8)

位置 1区北東部

座標値 X=62743 ~ 62744、Y=-85290 ~ -85291

形状 平面：楕円形 断面：掘鉢状

規模 長径0.76m、短径0.61m、深さ0.41m

方位 N-53°-W

形状 円形

埋没土 黒褐色土を中心に黄褐色粒やローム土を僅かに含む。

遺物 無し 重複 無し

70号土坑(第19図、PL. 8)

位置 1区北東部

座標値 X=62761 ~ 62763、Y=-85309

規模 長径0.79m、短径0.63m、深さ0.16m

方位 N-21°-W

形状 平面：楕円形 断面：浅い掘鉢状

埋没土 暗褐色土を中心にローム土僅かに含む。

遺物 無し 重複 無し

71号土坑(第19図、PL. 8)

位置 1区北東部

座標値 X=62748 ~ 62749、Y=-85309

形状 平面：楕円形か 断面：掘鉢状

規模 長径1.50m、短径1.20m、深さ0.40m

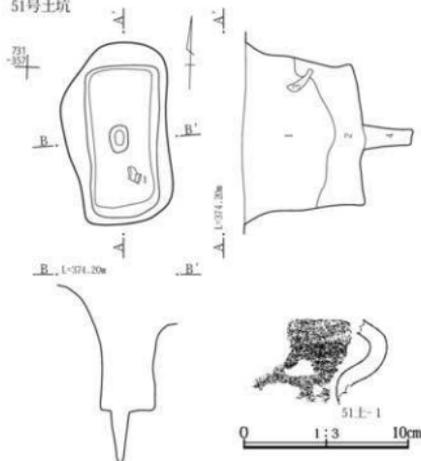
方位 N-28°-W

埋没土 黒褐色土を中心に黄褐色粒を少量含む。

遺物 無し 重複 無し

第3章 発掘された遺構と遺物

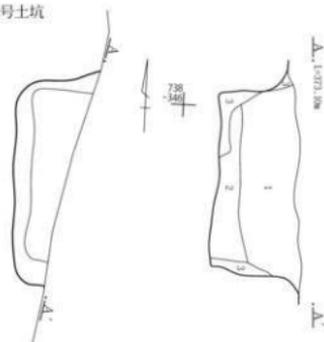
51号土坑



51号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/1)φ1~2mmの黄色粒、褐色粒を30%含む。締りあり。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)φ1~2mmの黄色粒、ローム粒・ブロックを10%含む。やや粘性あり。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)φ1~2mmのローム粒を30%含む。
- 4 黒色土(10YR2/1)φ1mmの黄色粒、ローム粒を40%含む。締りない。

52号土坑



52号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)φ1~2mmの黄色粒、褐色粒、ローム粒を20%含む。締りあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)φ1mmの黄色粒、褐色粒、ローム粒を30%含む。締りあり。
- 3 黒褐色土(10YR2/2)φ1~2mmの黄色粒、褐色粒、ローム粒を10%含む。φ30~50mmロームブロックを10%含む。締りあり。

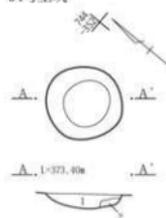
53号土坑



53号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒子、φ3~15mmのローム粒を10%含む。粘性あり。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒子を30%含む。φ5~40mmのローム粒を30%、ロームブロックを含む。粘性あり。

54号土坑



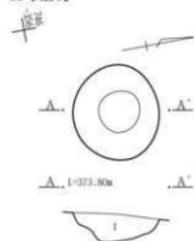
54号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)φ1~2mmの黄色粒、褐色粒、ローム粒を10%含む。粘性あり。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR7/4)ローム粒・ブロックを50%含む。黒色土ブロックを10%含む。



第16図 縄文時代土坑(1)

55号土坑



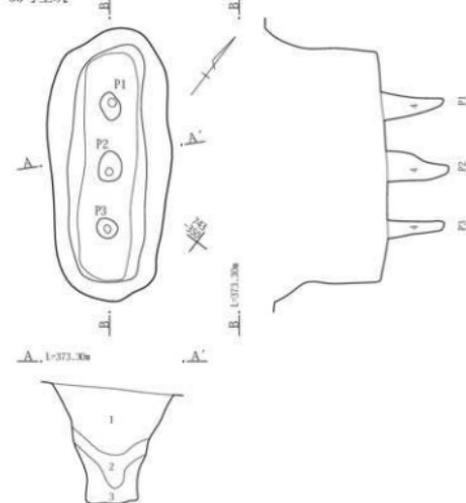
55号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2)φ1~2mmの白色粒を20%含む。
φ1mmの黄色粒、褐色粒を5%含む。

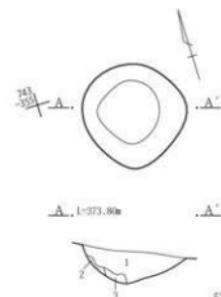
56号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒を含む。φ3~15mmのローム粒を10%含む。粘性あり。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒を含む。φ3~5mmのローム粒を20%含む。粘性あり。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒を多く含む。φ5~40mmのローム粒を30%、ロームブロック含む。粘性あり。
- 4 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を多く含む。φ3~5mmのローム粒を40%含む。粘性あり。

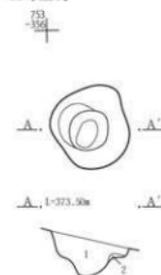
56号土坑



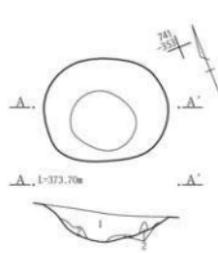
57号土坑



58号土坑



59号土坑



57号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)φ1~2mmの黄色粒、褐色粒、ローム粒を20%含む。細りあり。
- 2 黄褐色土(10YR8/6)ローム主体。黒色土ブロックを20%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)ロームブロックを50%含む。粘性あり。

58号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1)φ1~2mmの黄色粒、ローム粒・ブロックを20%含む。やや細りあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒・ブロックを30%含む。黄褐色粒を1%含む。

59号土坑

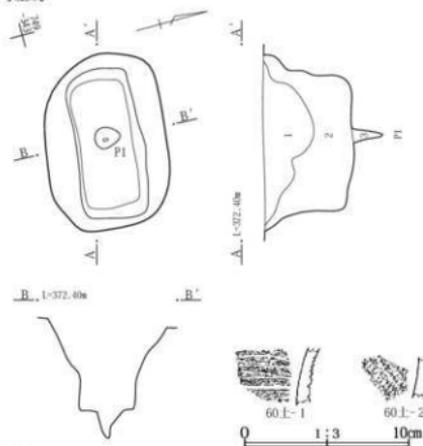
- 1 暗褐色土(10YR3/3)φ1~2mmの黄色粒、褐色粒を20%含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2)ローム粒・ブロックを20%含む。φ1~2mmの黄色粒、褐色粒を10%含む。



第17図 縄文時代土坑(2)

第3章 発掘された遺構と遺物

60号土坑



60号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1) ϕ 1~3mmの黄色粒、棕色粒を30%含む。締りあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒・ブロックを40%含む。 ϕ 1~2mmの黄色粒、棕色粒を5%含む。
- 3 黒色土(10YR2/1) ϕ 1mmの黄色粒、ローム粒を20%含む。締りない。

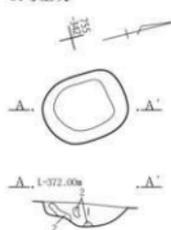
62号土坑



62号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1) ϕ 1~3mmの黄色粒、棕色粒を20%含む。やや粘性あり。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒・ブロックを10%含む。 ϕ 1~3mmの黄色粒、棕色粒を5%含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒・ブロックを40%含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒・ブロックを20%含む。 ϕ 1~2mmの黄色粒を10%含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒・ブロックを30%含む。

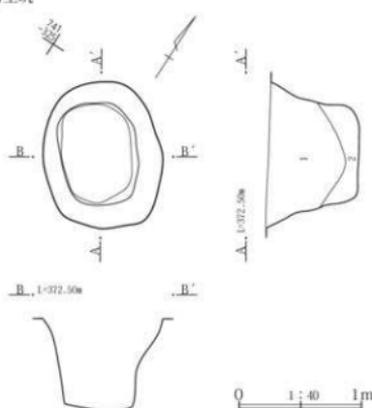
61号土坑



61号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1) ϕ 1~3mmの黄色粒、棕色粒、ローム粒を40%含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR6/2)ローム粒・ブロックを40%含む。 ϕ 1~2mmの黄色粒、棕色粒を20%含む。

63号土坑



63号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1) ϕ 1~3mmの黄色粒、棕色粒を30%含む。ローム粒・ブロックを10%含む。締りあり。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒・ブロックを10%含む。 ϕ 1mmの黄色粒、ローム粒を5%含む。

第18図 縄文時代土坑(3)

64号土坑



64号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)ローム粒・ブロックを20%含む。φ 1～3mmの黄色粒を10%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒・ブロックを40%含む。締り弱い。

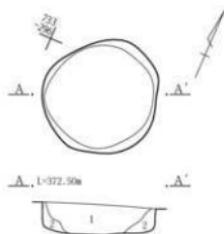
67号土坑



67号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/1)黄褐色粒子層を含む。硬く締まっている。暗褐色土ブロック層を含む。

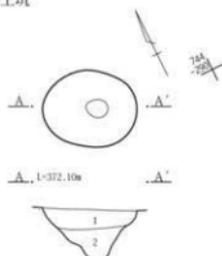
68号土坑



68号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色粒子層を含む。
- 2 暗褐色土(10YR2/2)黄褐色粒子、ローム土層を含む。

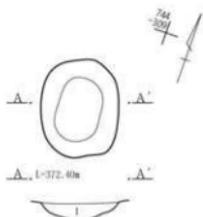
69号土坑



69号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色粒子層を含む。硬く締まっている。
- 2 褐色土(10YR4/4)ローム土層を含む。やや粘質。

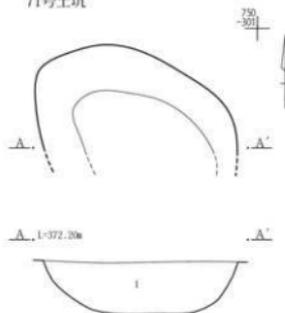
70号土坑



70号土坑

- 1 暗褐色土(10YR2/2)ローム土粒層を含む。やや硬く締まっている。

71号土坑



71号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2)黒色土少量、黄褐色土少量、黄褐色粒層を含む。

0 1:40 1m

(4) 遺構外出土遺物(第22～37図、PL.59～70)

遺構外出土遺物は、縄文時代の遺物包含層であるIX～XI層から出土したものを主体とし、表土や古墳時代以降の遺構内出土のものを含めて扱っている。

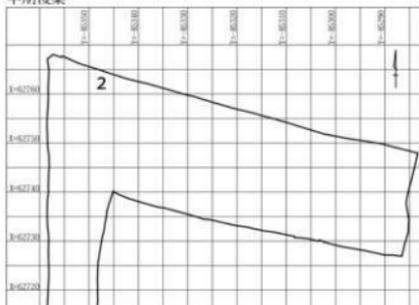
土器については、総数1,984点が出土している。詳細な数量は第10、11表のとおりであるが6期区分で数量を見ると、早期2点、前期289点、中期1,583点、後期14点、不明96点となり、中期の出土量が突出する。最も古い時期は早期後葉条痕文期で、以降、前期後葉諸磯b式～中期後葉期まで数量の差こそあれ、概ね出土が認められる。後期は堀之内1式・2式、後期後半期がわずかに見られる程度である。前期は諸磯b式が比較的まとまった出土量を示し、諸磯c式～中期初頭期はごくわずかとなる。その後は、中期中葉～後葉期が主体をなすが、加曽利E4式期になると急激に減少する傾向が見られる。なお、第10、11表で中期中葉としたものは、勝坂式・焼町土器・加曽利E1式に比定できる土器である。阿玉台式も含めるべきだが、ほかと明瞭に区分できるため阿玉台式として数えた。第20図の分布図にある中期中葉は、阿玉台式も含めた数である。また、中期としたものは縄文施文ないし無文の土器片である。小破片が多く、中期中葉か後葉かの判別が明確にできなかったためまとめてしまったが、後葉期が多いことは確実である。

石器については、総数380点が出土した。剥片石器では、多い順に打製石斧59点、石鏃26点、二次加工剥片15点、石核11点、スクレイパー6点、石匙3点、磨製石斧・石錐・楔形石器・両面調整石器が各2点となり、打製石斧の多さが際立つ。礫石器については凹石10点、磨石9点、台石7点、敲石5点、礫器3点、石皿とスタンピング石器が各1点と、剥片石器に比べて礫石器の出土は多くはない。石製品は、石棒と塊状耳飾りが1点ずつ出土している。詳細は第17表のとおりである。縄文石器は縄文土器と異なり、細かい年代把握が難しいが、打製石斧の形状は短冊形や撥形が多いことから、主に前期～中期の時期にかけてと考えられる。石鏃も器形と茎の有無で、凹基・凸基・平基の無茎と有茎との6種類に区分される。形状から、早期～中期までの範疇に収まるようである。礫石器素材としては粗粒輝石安山岩が最も多く、次に細粒輝石安山岩が多くを占めている。次に、群馬の在地石材で

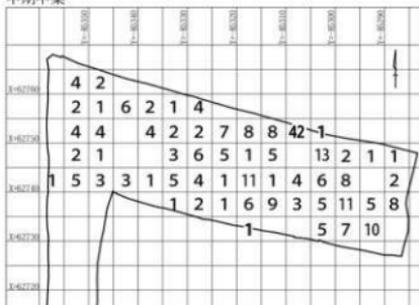
ある黒色や珪質の頁岩が続く。用途による重量の必要なものや、小型で薄手のものに加工しやすいものが選ばれる傾向が見て取れる。

遺物包含層から多く出土した土器型式や石器器種について、第20、21図のとおり、グリッド別の出土分布図を作成した。なお、2区については、グリッド別の調査が行われなかったため記載していない。概ね調査区全域にわたって出土している様子が看取されるが、細かく見ていくと中期中葉期は調査区東側に分布の主体があるように見受けられ、特に750-305グリッドで多量に出土していることが特筆される。加曽利E3式期は調査区中央部に分布の主体があるように見える。石器については概ね調査区全域にわたって出土しており、器種によって大きな分布の違いは認められない。もともと本遺跡が立地する台地の東西幅が80m程と広くないため、台地全体を生活域として利用したということだろう。

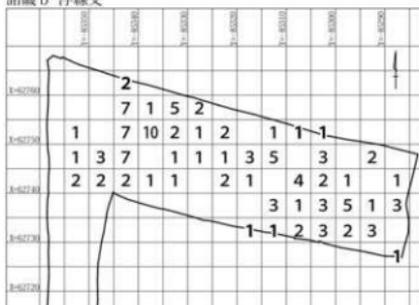
早期後葉



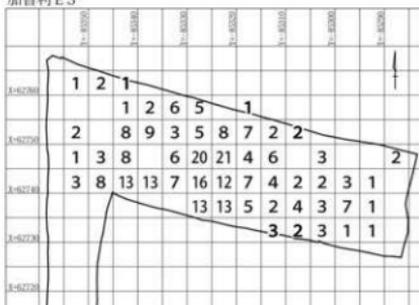
中期中葉



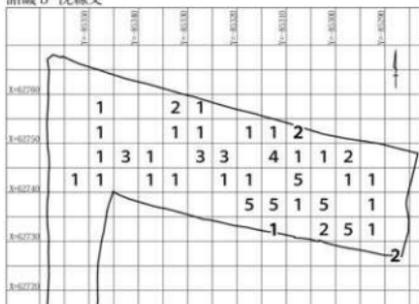
諸磯 b 浮線文



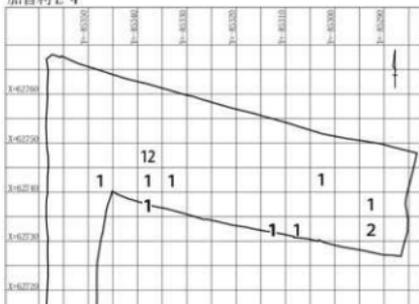
加曾利 E3



諸磯 b 沈線文



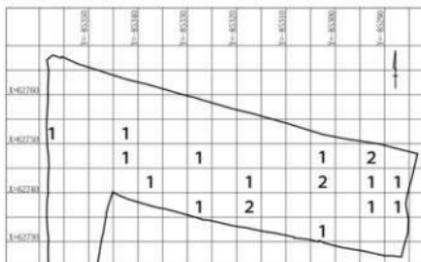
加曾利 E4



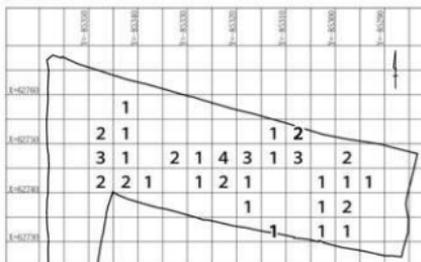
0 1:1,000 50m

第20図 時期別縄文土器出土分布図

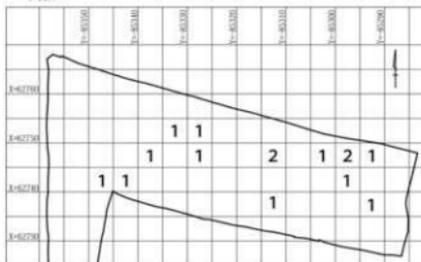
石畿



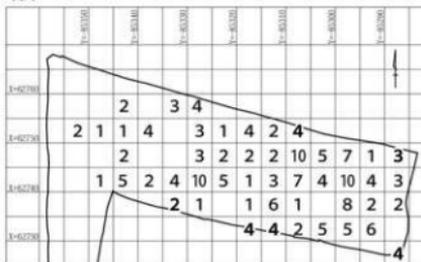
打製石斧



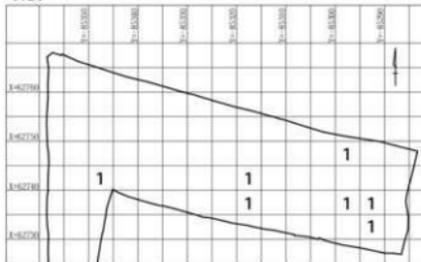
二次加工



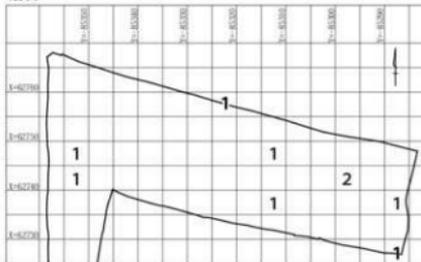
剥片



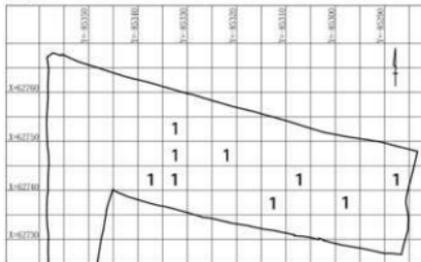
石核



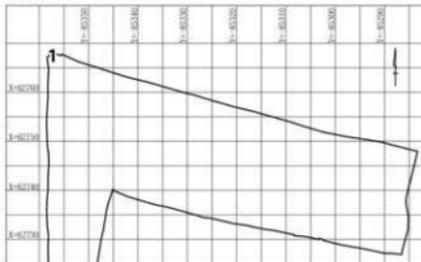
磨石



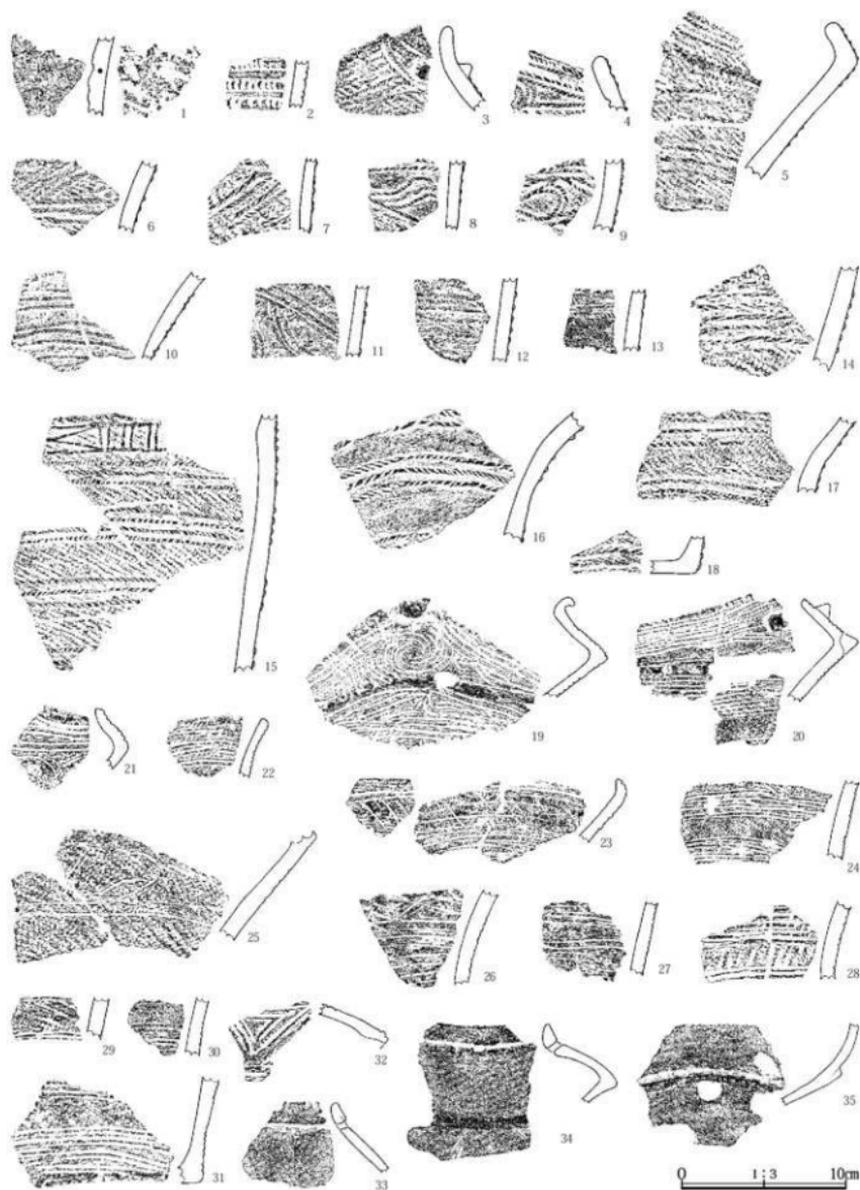
凹石



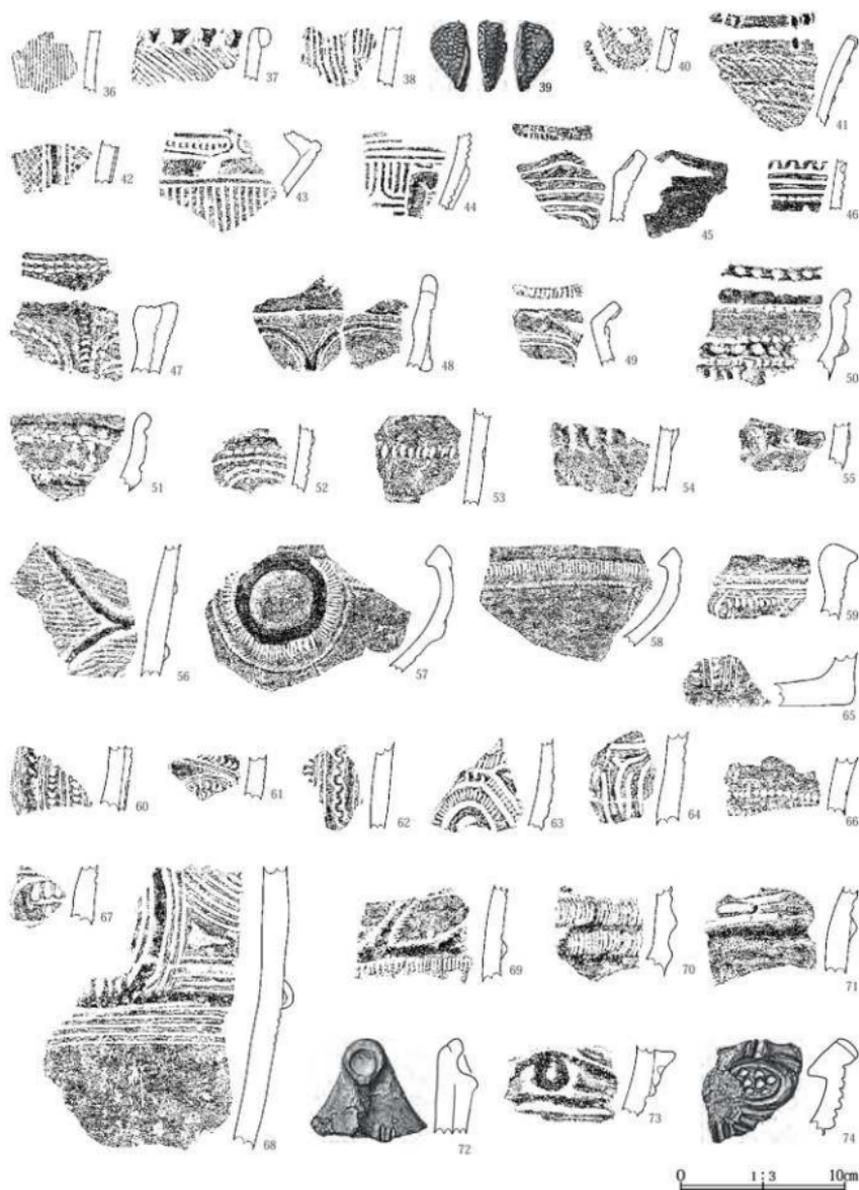
石皿



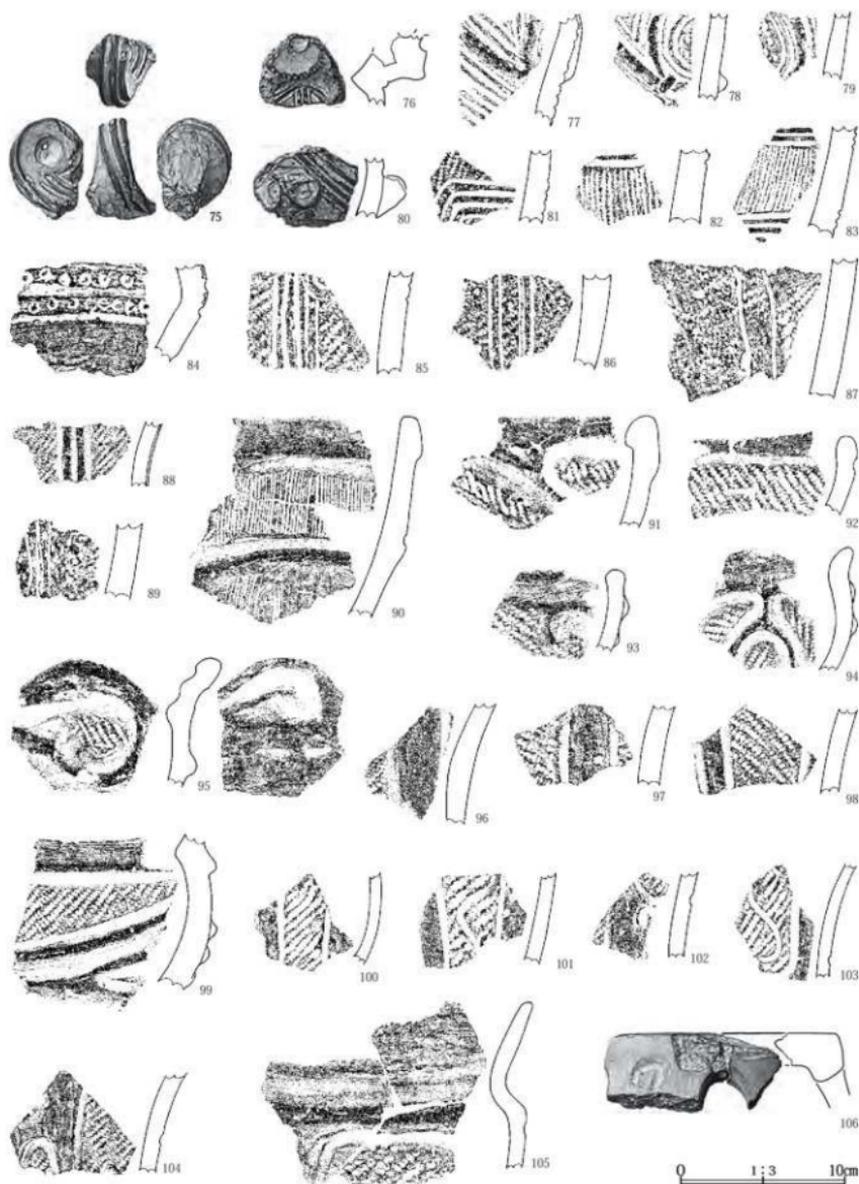
第21図 器種別縄文石器出土分布図



第22図 縄文時代遺構外出土遺物(1)

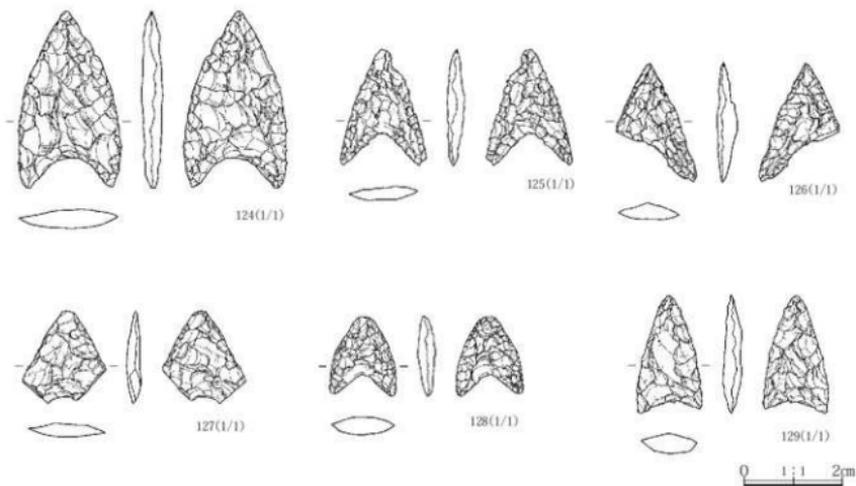
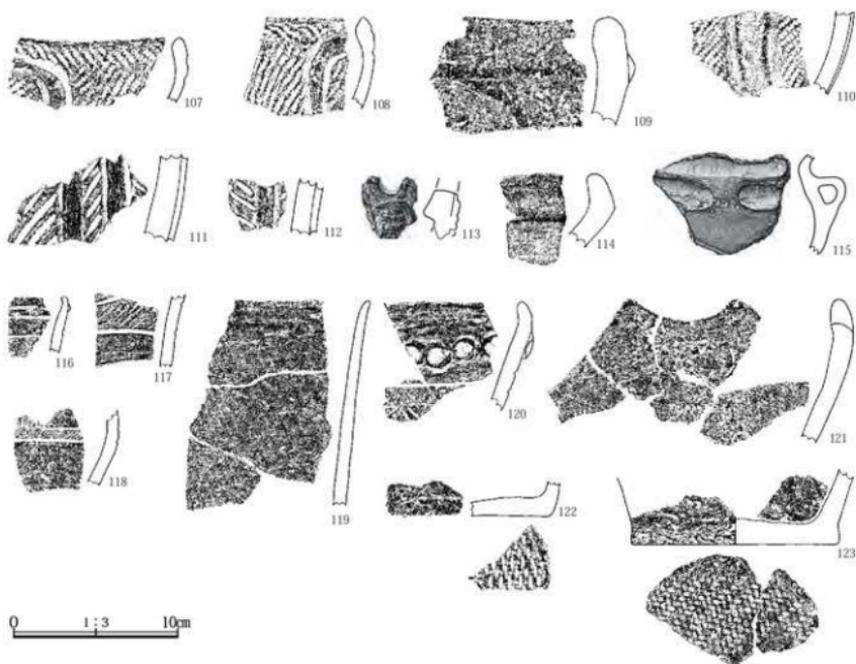


第23図 縄文時代遺構外出土遺物(2)

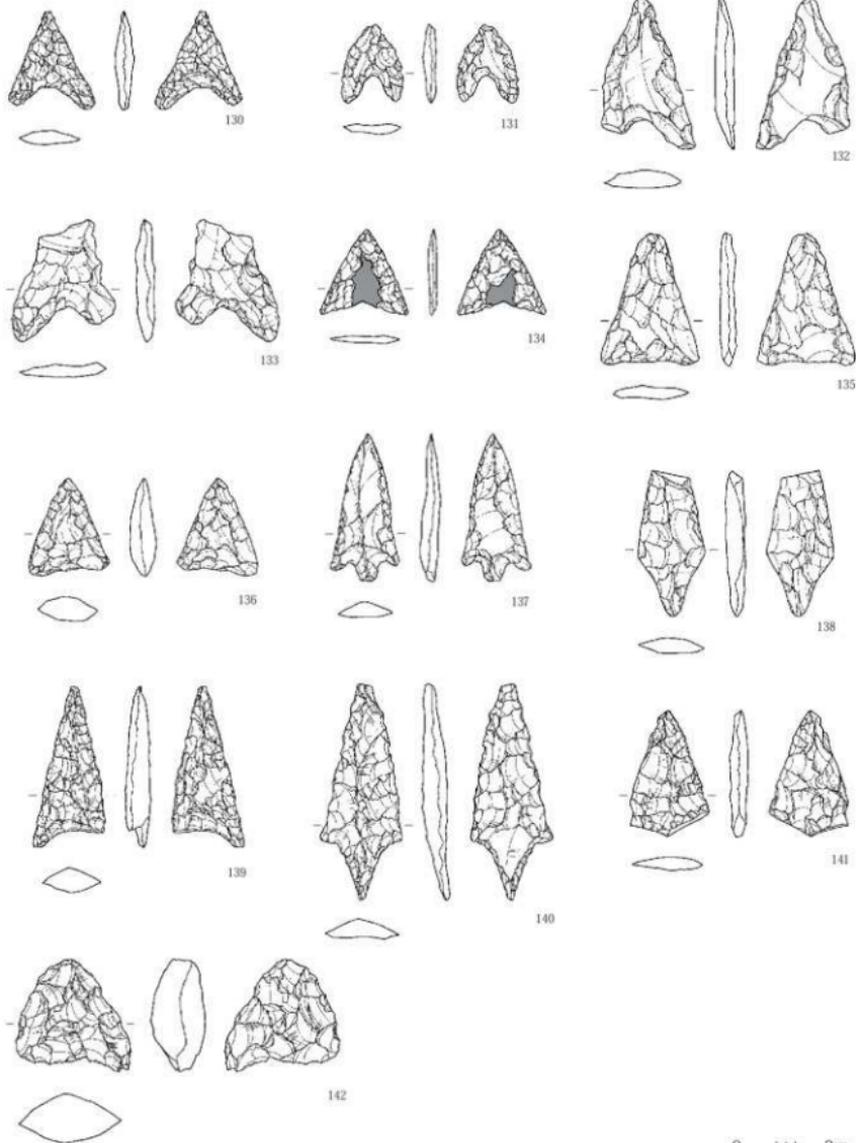


第24図 縄文時代遺構外出土遺物(3)

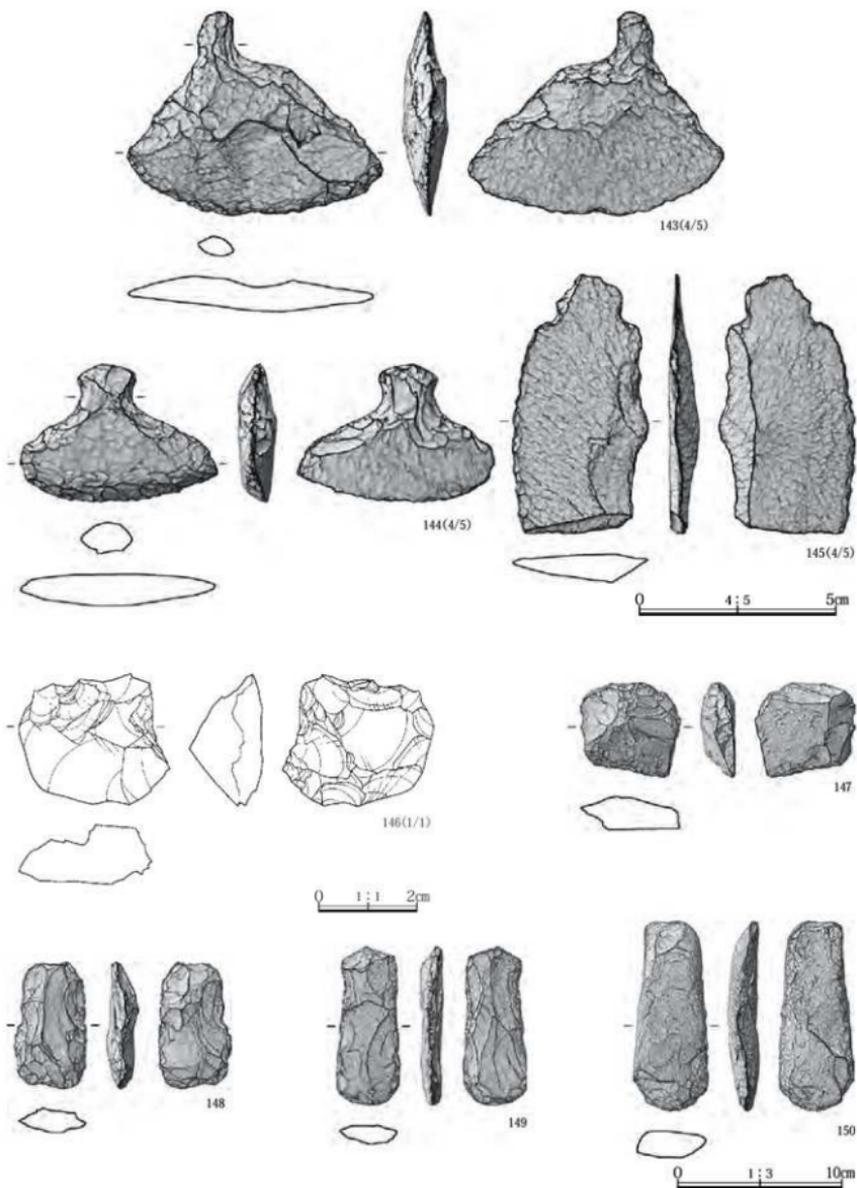
第3章 発掘された遺構と遺物



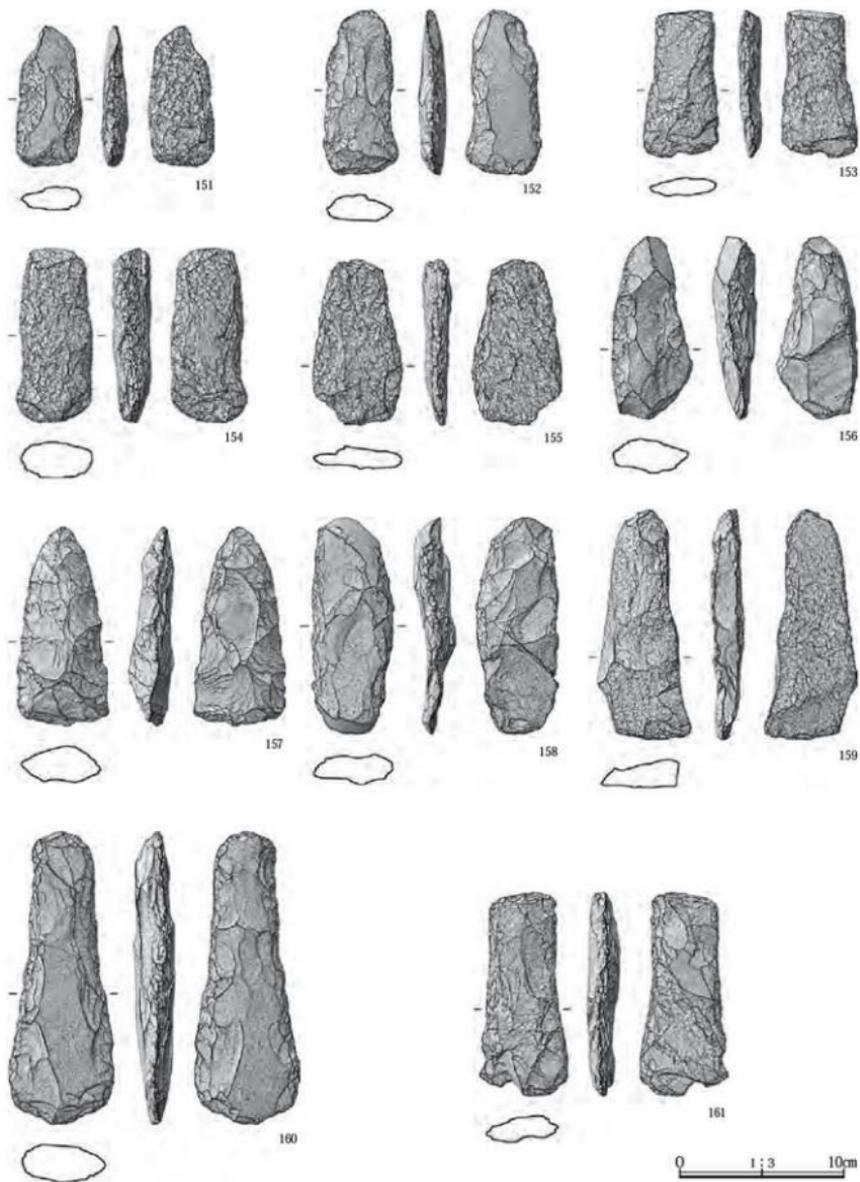
第25図 縄文時代遺構外出土遺物(4)



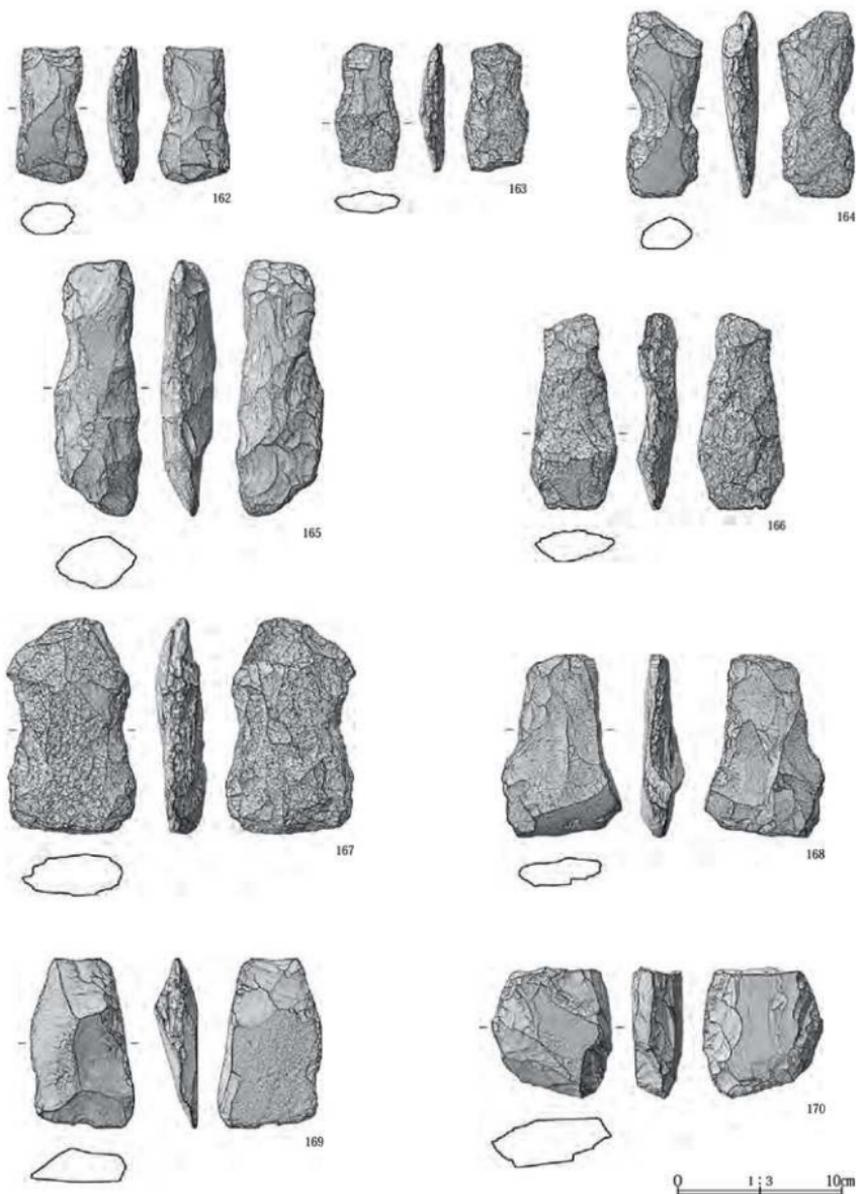
第26図 縄文時代遺構外出土遺物(5)



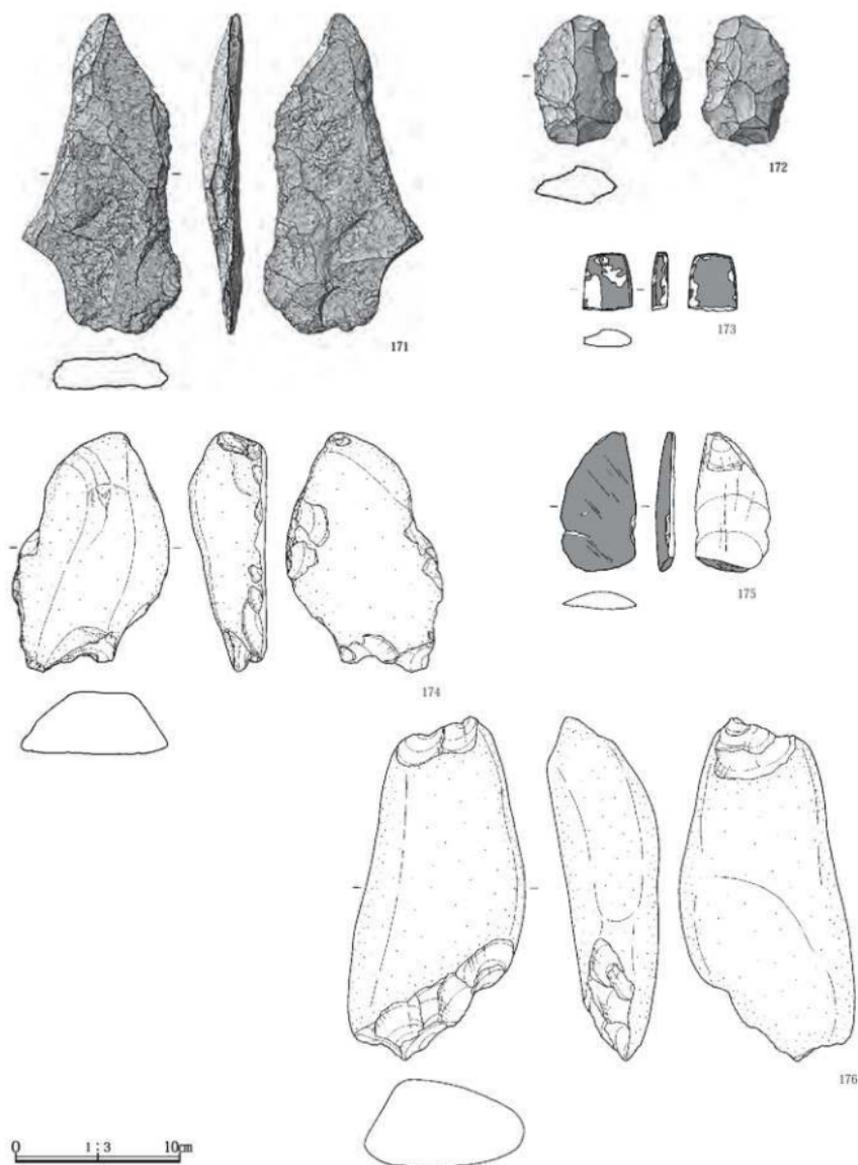
第27図 縄文時代遺構外出土遺物(6)



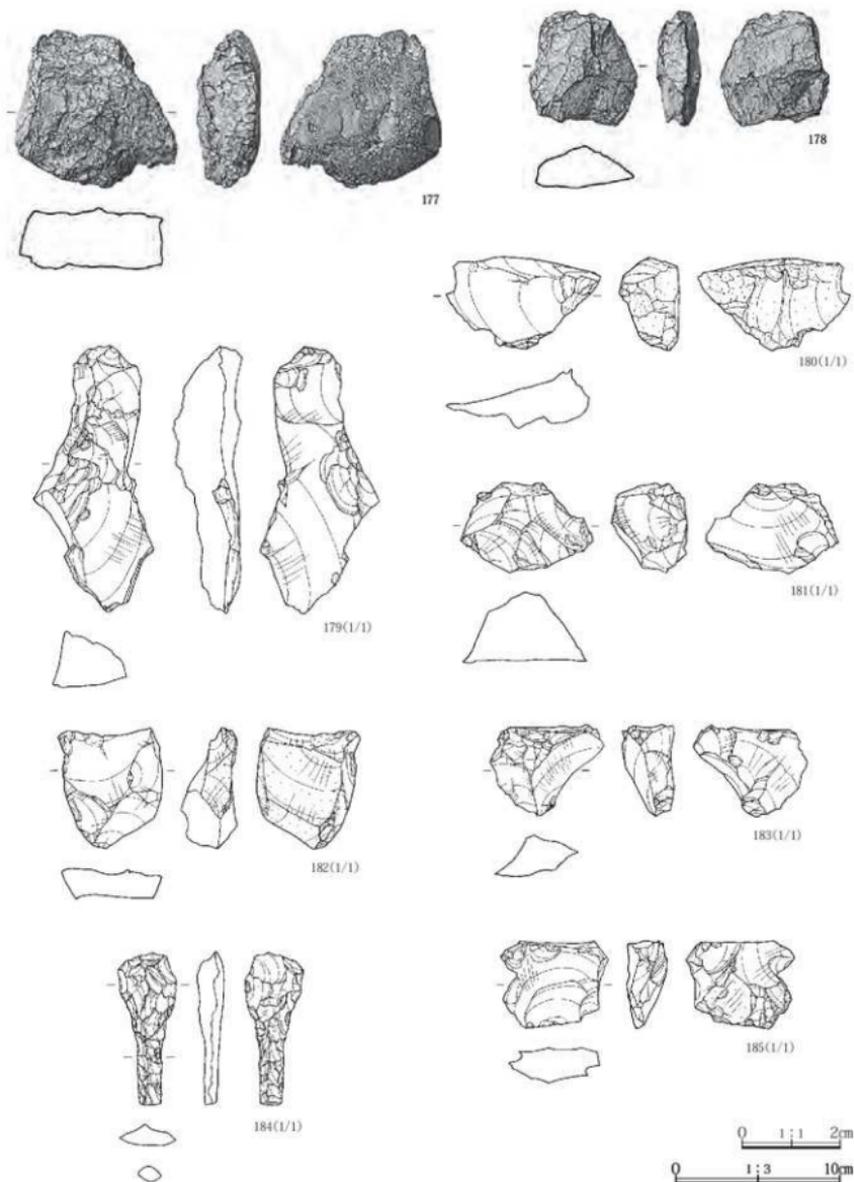
第28図 縄文時代遺構外出土遺物(7)



第29図 縄文時代遺構外出土遺物(8)



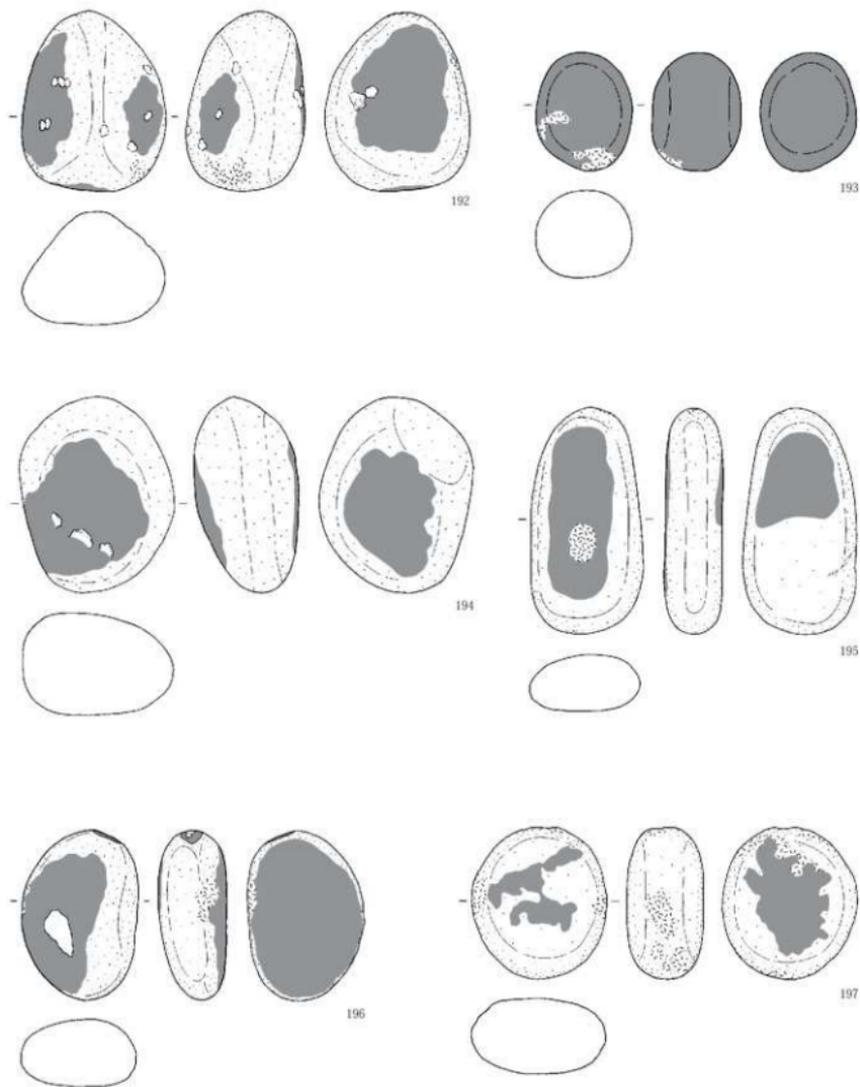
第30図 縄文時代遺構外出土遺物(9)



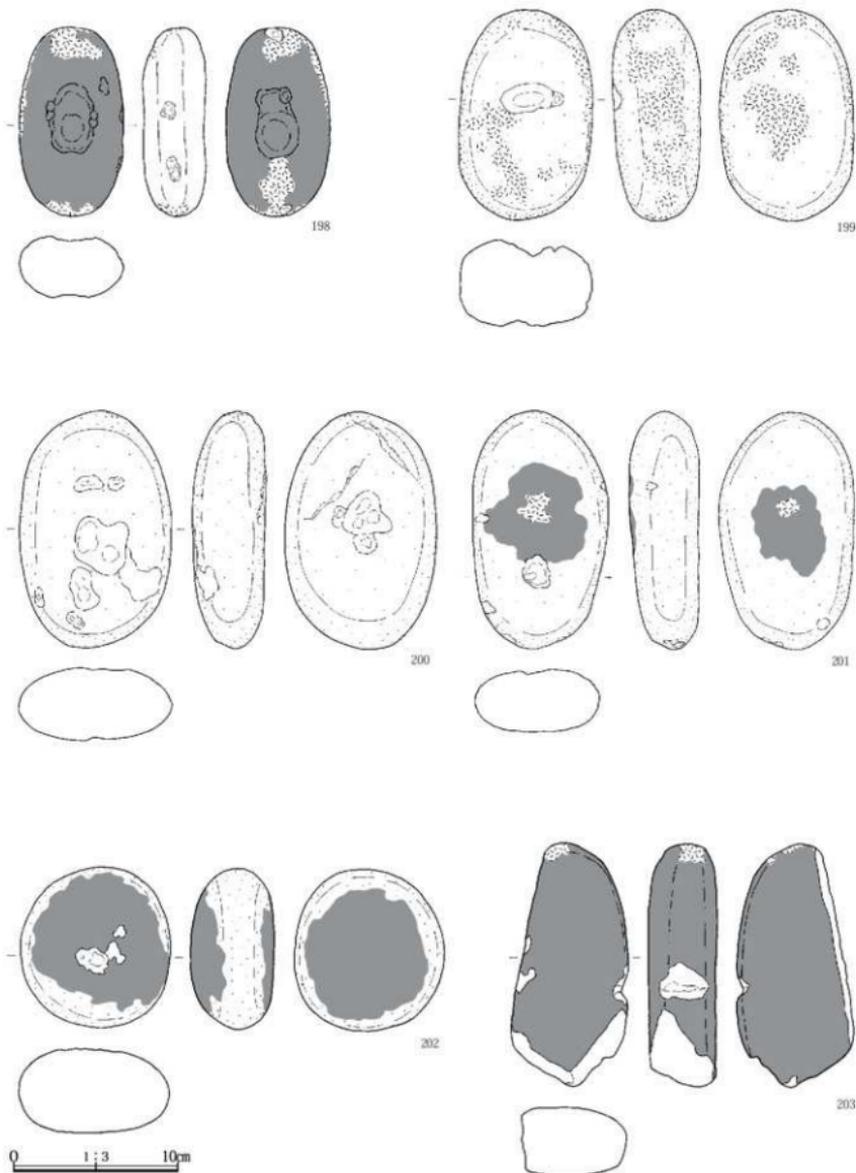
第31図 縄文時代遺構外出土遺物(10)



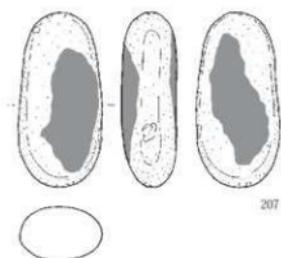
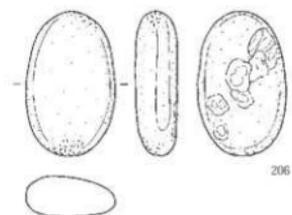
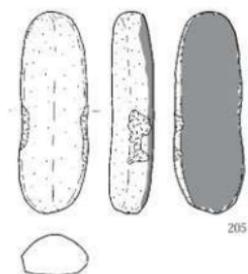
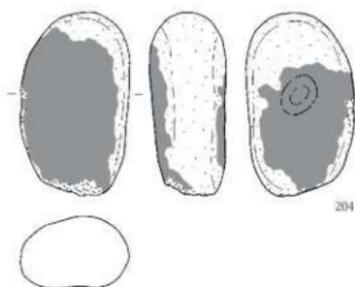
第32図 縄文時代遺構外出土遺物(11)



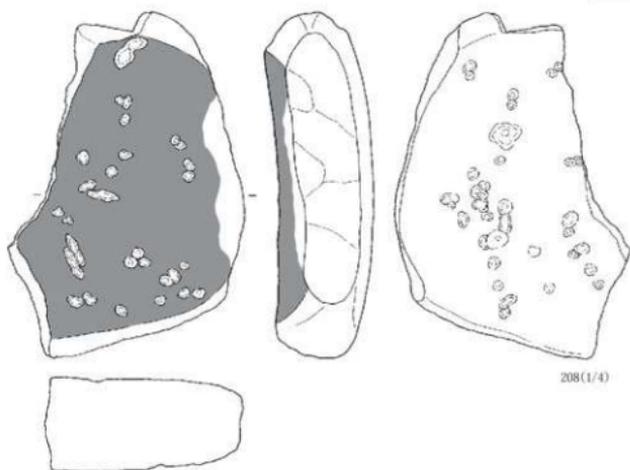
第33図 縄文時代遺構外出土遺物(12)



第34図 縄文時代遺構外出土遺物(13)

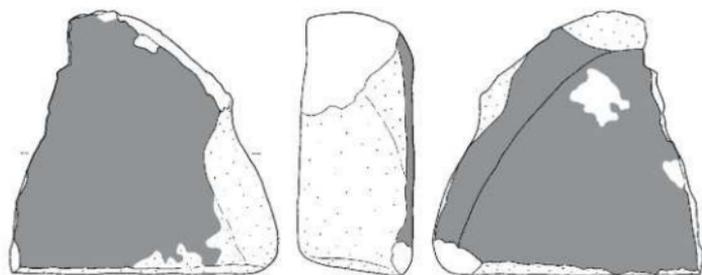


0 1:3 10cm

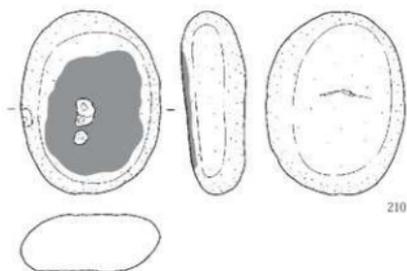


0 1:4 10cm

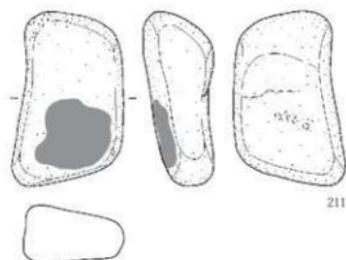
第35図 縄文時代遺構外出土遺物(14)



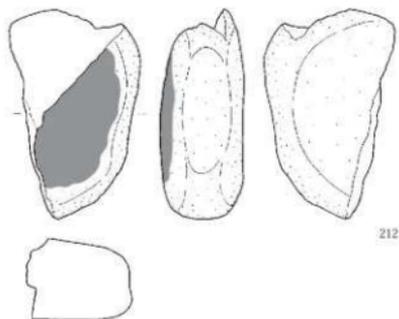
209



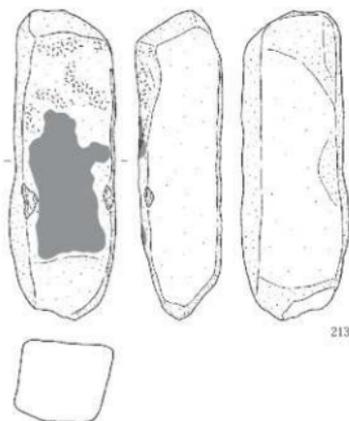
210



211



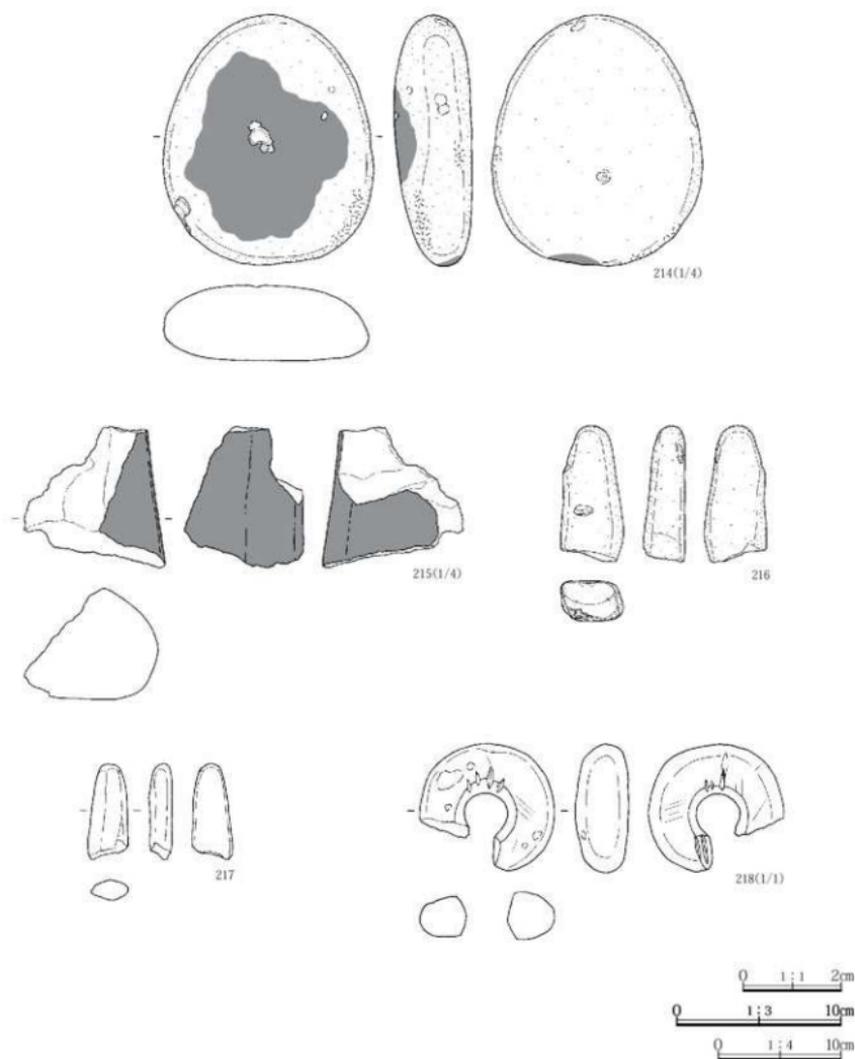
212



213



第36図 縄文時代遺構外出土遺物(15)

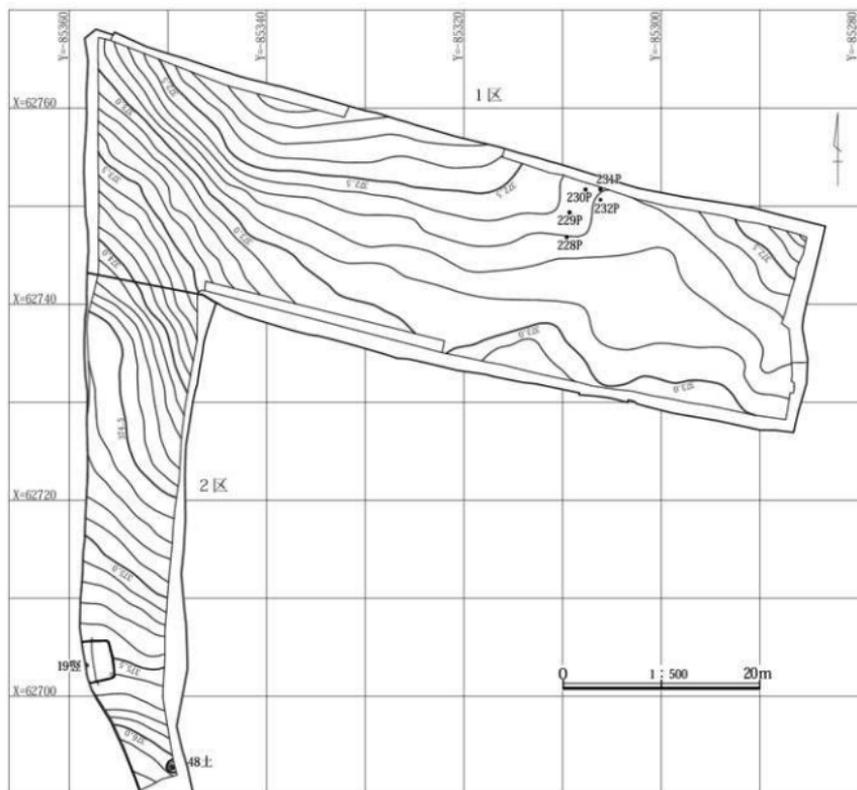


第37図 縄文時代遺構外出土遺物(16)

第4節 古墳時代の遺構と遺物

(1)概要

竪穴建物1棟、土坑1基、ピット5基が確認された。
2区南端部から竪穴建物と土坑、1区北東部からピット
群が確認された。他の時代に比べて、遺構の数が少ない。



第38図 古墳時代遺構全体図

(2) 竪穴建物

19号竪穴建物(第39・40図, PL. 9・10・70)

位置 2区南西部

座標値 X=62701~62705, Y=-85355~-85358

遺存状況 推定される形状は隅丸長方形であるが、西側半分が調査区外に延びている。推定形状の約半分が確認されており、その様子と時期から燃焼施設はカマドではなく、炉と考えられる。

重複 不明

形状 ほぼ正方形に近い四角形であり、四壁ともほぼ直線を指向する。

規模 長軸4.17m、短軸(2.90)m

長軸方向 N-6°-W 床面積 (10.64)m²

床・壁・壁溝 床面は黒褐色土をベースにローム土を多めに含むやや硬めの貼り床である。掘り方調査の時点で壁際に沿って浅い溝状が続いており、壁溝の可能性がある。また、中央部がテラス状にやや高まっている。壁高

は、ほぼ垂直に近い立ち上がりで、残存の良好な南東隅で深さ32cmである。他は22~30cmの残存である。南東隅部分に焼土が検出されたが、薄くて断面が測れなかった。床面は、多少の凹凸を有しながらもほぼ平坦な面をなしていた。

炉 調査範囲外に推定

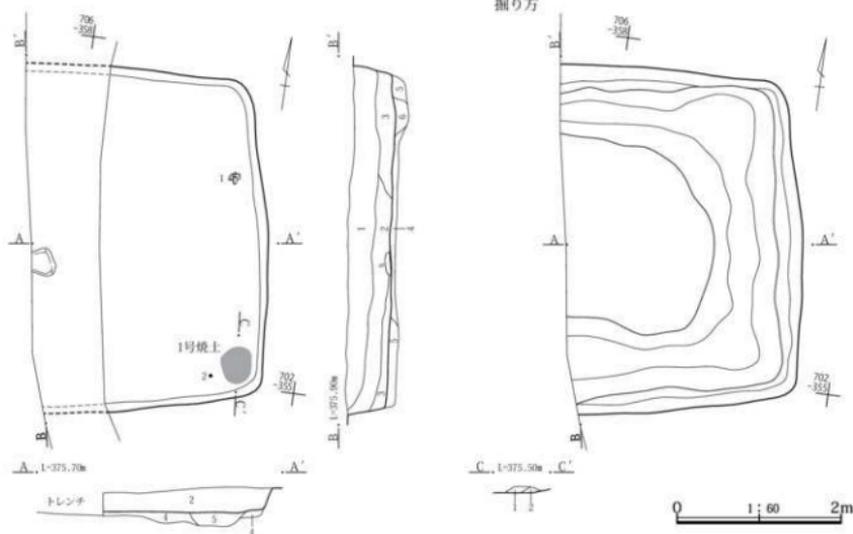
埋没土 上・中層に黒色・黒褐色土、下層に黒褐色土が堆積している。

貯蔵穴 無し

柱穴等 西壁寄りの部分に浅い小さなピットが確認されたが、柱穴は残念ながら確認出来なかった。

掘り方 壁に沿って幅60~100cm、深さ15cm程の掘り込みを施すことで、中央部をテラス状に残している。

遺物 土師器などが出土している。そのうち図示したものは土師器2点である。なお、出土土器は少なく図示した他に埋没土中から土師器胴部1点が出土しているだけであった。図示した1の土師器器台は床面から出土している。2の土師器台付裏とみられる胴部片もその形



第39図 19号竪穴建物

状、整形から共伴しても齟齬はない。19号竪穴建物の時期は図示できた土器が床面より出土した土師器器台と台付甕だけのため、この土器の年代観による。器台は受部中央の穿孔や脚部の透孔が省略されるなど簡素化がみ

られ、古墳時代前期でも後半に想定できるが、出土土器が僅かのため明確な時期の比定までは至らなかった。

時期 出土遺物から4世紀後半と考えられる。

19号穴建物

- 1 黒色土(10YR2/1)褐色粒を僅かに含む。混入物希薄。やや締りあり。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土ブロックを少量含む。褐色粒を少量含む。粘性あり。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)黄褐色土ブロックを少量含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/1)黄褐色土ブロックを多量に含む。締りあり。
- 5 に近い黄褐色土(10Y5/4) Hr-FA粒、ブロックを多量に含む。焼土粒を少量含む。締りあり。
- 6 黒色土(10YR2/1)黄褐色粒を含む。やや粘性あり。

1号焼土

- 1 黒色土(10YR3/1)焼土粒・ブロックを多量に含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)焼土粒を少量含む。



第40図 19号竪穴建物出土遺物

(3) 土坑

48号土坑(第41図、PL.10)

位置 2区南西部、19号竪穴建物の南

座標値 X=62692～62693、Y=-85349～-85350

主軸方位 N-16°-E

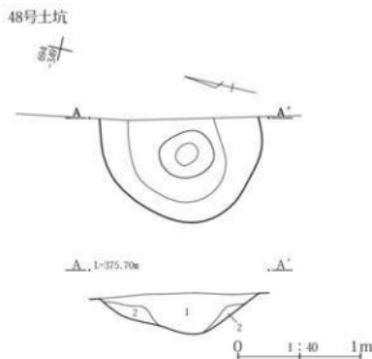
規模 長径(1.10)m、短径(0.89)m、深さ0.35m

形状 やや楕円形、掘鉢状で浅い。

埋没土 黒色土を主体にローム土を少量含む。

遺物 無し

時期 古墳時代



48号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)φ1mmの黄色粒、ローム粒を20%含む。粘性あり。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒・ブロックを10%含む。φ1mmの褐色粒を5%含む。

第41図 48号土坑

(4) ビット

228～232号ビット(付図2、PL.10)

位置 1区北東部

座標値 X=62746～62751、Y=-85306～-85309

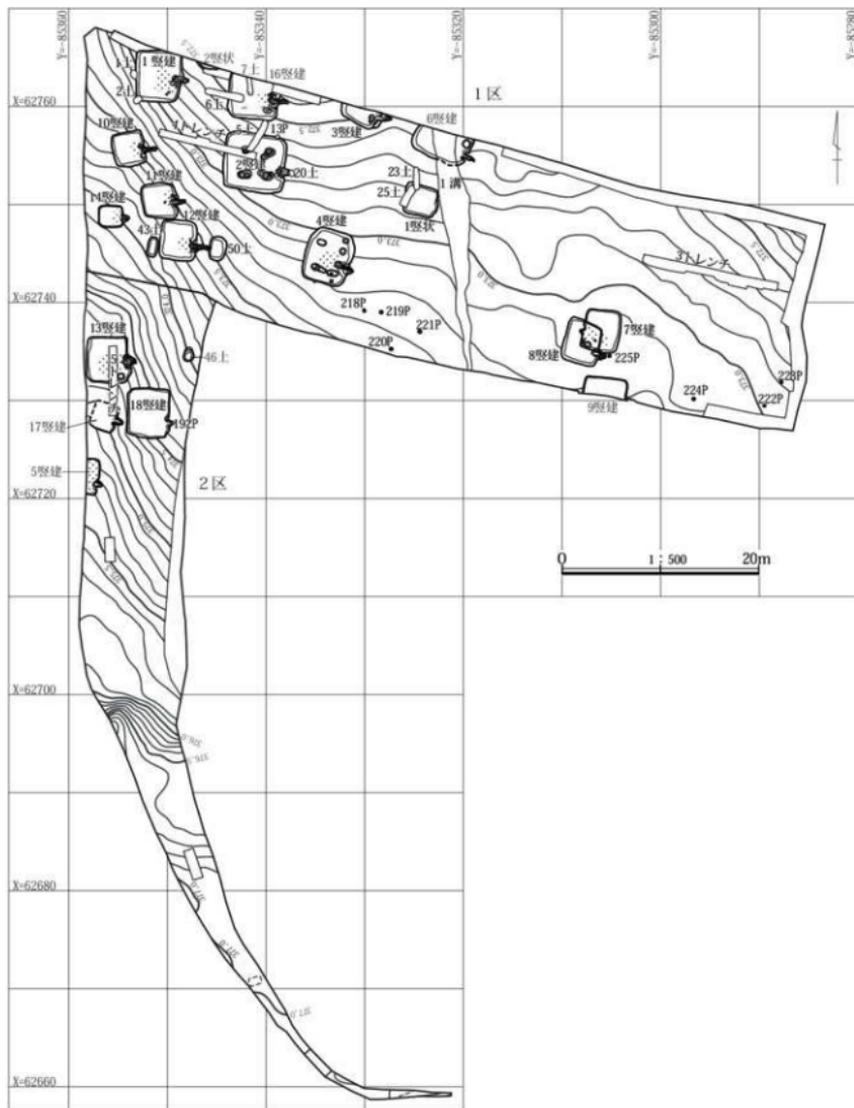
規模 長径(0.20～0.26)m、短径(0.19～0.24)m、深さ(0.11～0.35)m

形状 円形。

埋没土 黒褐色土を主体とする。Hr-FA粒含まない。

時期 古墳時代(Hr-FA粒含まないので、Hr-FA以前の可能性あり)

第5節 飛鳥～平安時代の遺構と遺物



第42図 飛鳥～平安時代遺構全体図

(1) 概要

竪穴建物17棟、竪穴状遺構2棟、土坑3基、ピット10基が確認されている。これらの遺構は、基本土層のⅣ層の浅間柏川テフラ(1123年)の軽石や火山灰と下位の天仁元年の浅間Bテフラ(As-B, 1108年)の軽石や火山灰を除去して、基本土層のⅧ層のその上面での精査作業によって確認された。

遺構では、等高線に沿うようにまるで配置されたような竪穴建物群の存在が目目される。注目すべき遺物としては、須恵器の圓足円面硯や大甕、月夜野型羽釜、黒色土器、灰軸陶器などがあげられる。石製品の紡錘車、金属製品の鉄鎌や刀子なども注目される。1・2号竪穴状遺構、43・46・50号土坑、10基のピットは、埋土及び出土遺物からしてこの時代に該当すると判断した。

(2) 竪穴建物

竪穴建物は17棟が該当する。調査区の西北側を中心に分布する。7世紀後半から8世紀前半にかけて7棟、少し間をあけて9世紀前半から10世紀前半にかけて10棟の建物が建てられている。

1号竪穴建物(第43～46図、PL.11・71)

位置 1区北西部

座標値 X=62760～62765, Y=-85347～-85353

遺存状況 建物の北東隅半分が僅かに調査範囲外に延びて存在。

重複 重複関係は有り。1・2号土坑が建物の西壁を壊しているの、1号土坑と2号土坑が新しい。

形状 南北に長い隅丸長方形

規模 長軸5.25m、短軸4.71m

1号竪穴建物

- 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ3～5mmの軽石を5%含む。締まり少しあり。
- 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ2～3mmの軽石を5%含む。
- 灰黄褐色土(10YR4/2)Hr-FA粒子を含む。φ2～4mmの軽石を5%、φ2～5mmのHr-FA粒を5%含む。締まり少しあり。
- 褐色土(10YR4/1)Hr-FA粒子を含む。φ2～3mmの軽石を5%、φ3～5mmのHr-FA粒を10%含む。φ2～3mmの焼土粒5%、炭化物を含む。
- 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ2～3mmの軽石を5%、φ3～4mmのHr-FA粒を5%含む。締まり少しあり。
- 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ2～4mmの軽石を5%、φ3～5mmのHr-FA粒を10%含む。締まり少しあり。
- にぶい黄褐色土(10YR4/3)Hr-FA粒子を含む。φ4～7mmのHr-FA粒を20%、Hr-FAブロックを少量含む。粘性少しあり。
- 灰黄褐色土(10YR4/2)Hr-FA粒子を含む。φ4～7mmのHr-FA粒を30%含む。粘性少しあり。
- 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ4～20mmのHr-FA粒を20%含む。(掘り方)
- 黒褐色土(10YR2/1)Hr-FA粒子を含む。φ3～5mmのHr-FA粒を10%含む。粘性少しあり。(掘り方)

長軸方向 N-1°-E、ほとんどグリッド軸に沿っている。

床面積 18.55㎡

床・壁・壁溝 壁面の残存は良好で、緩やかに立ち上がる。平面精査や掘り方掘削において、中央部からやや南寄りの床下土坑や南東隅付近での壁溝と思われる痕跡が残っていた。南壁から東壁のカマド部分にかけて斜向する。壁高は南東隅で約50cm、他も60cm程度と深い。カマド手前から中央部にかけて硬化面が広がっている。

埋没土 上層から中層にかけての黒褐色土と褐色土、下層にはHr-FAを含む黒褐色土を主体とする。土層観察では自然埋没と判断できる。

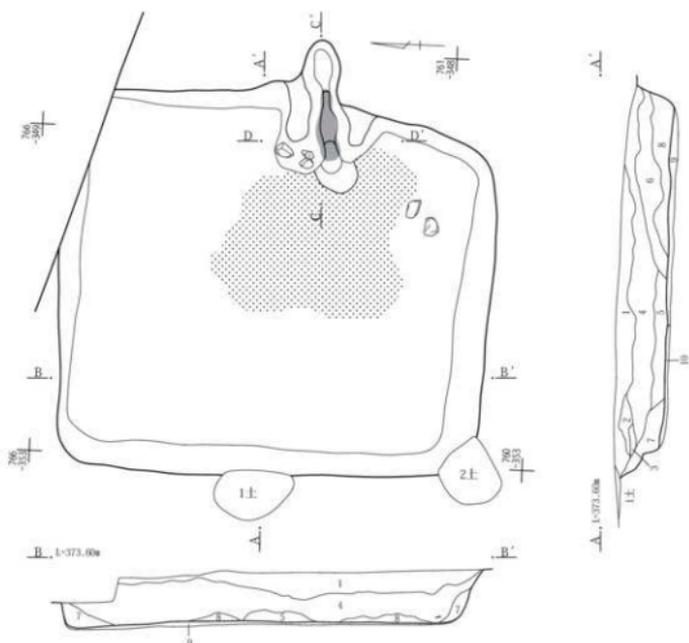
カマド 東壁の中央部からやや南寄りに設置され、袖部はHr-FAを含む粘質土を主体に、若干の石を構築材として用いている。特に左袖の燃焼部の壁には薄い平石が用いられており、数個の石も袖部分にあるものの、組んだりしていないなどしっかりした構造ではない。燃焼部は深さ約20cmの深い掘り方の上に構築されている。掘り方に見られる掘り込みの痕跡からは燃焼部から右袖部分の掘り方での掘り込みの存在と、まるで燃焼部から煙出し部への作り込みをしているような石の配置から、右袖側から左袖へのカマドの再構築、いわゆる造り替えが行われた可能性も考えられる。規模は主軸が約1.9m、袖幅が約0.55mである。カマドの燃焼部から床の中心にかけて焼土の広がり認められたが、その厚さは薄い。

貯蔵穴 確認出来なかった。

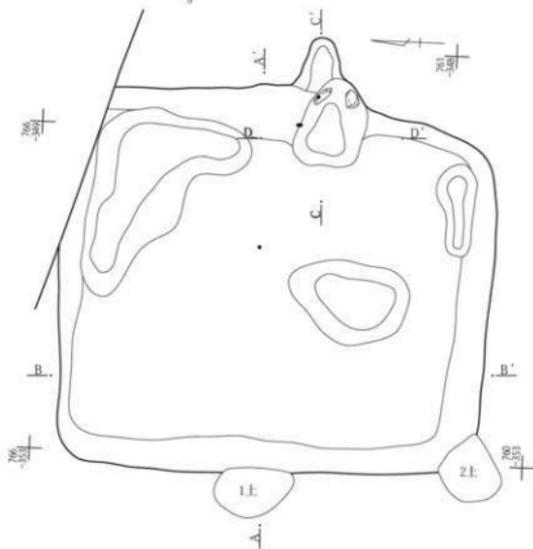
柱穴等 確認出来なかった。

掘り方 床面下5cm以下の深さで、一部に締りのある部分があるものの、明確な貼り床は認められない。

遺物 東壁のカマド付近から南側半分の床面付近を中心に分布する。土器・金属製品など19点を図化した。内訳は1が黒色土器の有台椀、2～5が須恵器杯、6～10



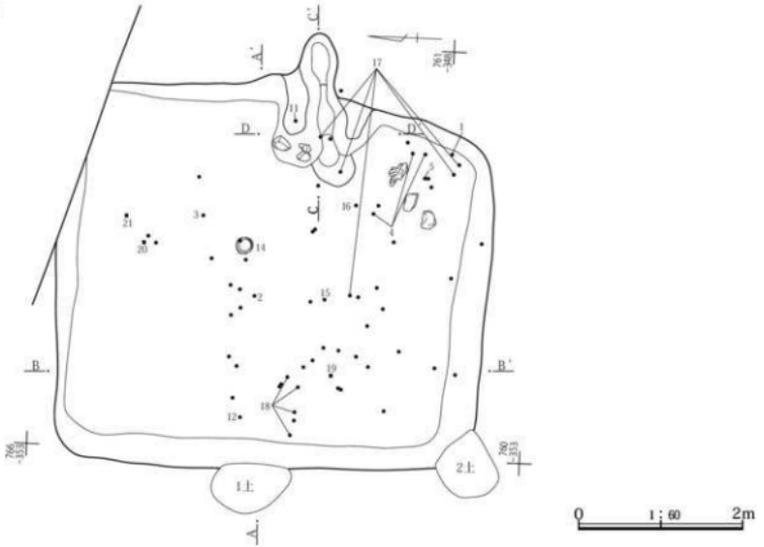
掘り方



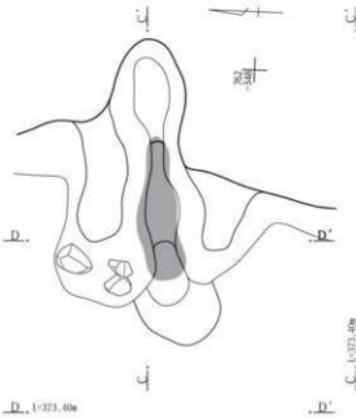
第43図 1号整穴建物(1)

0 1:60 2m

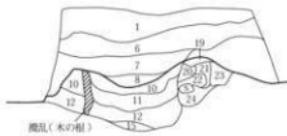
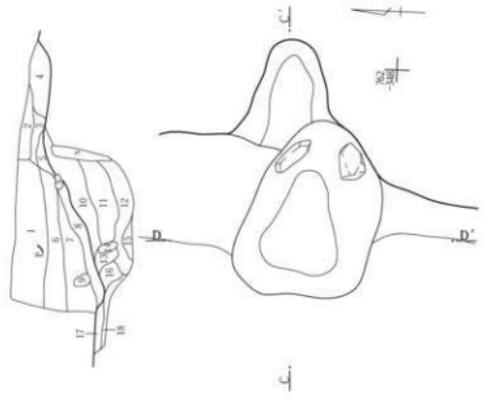
遺物出土状況



カマド



カマド 掘り方



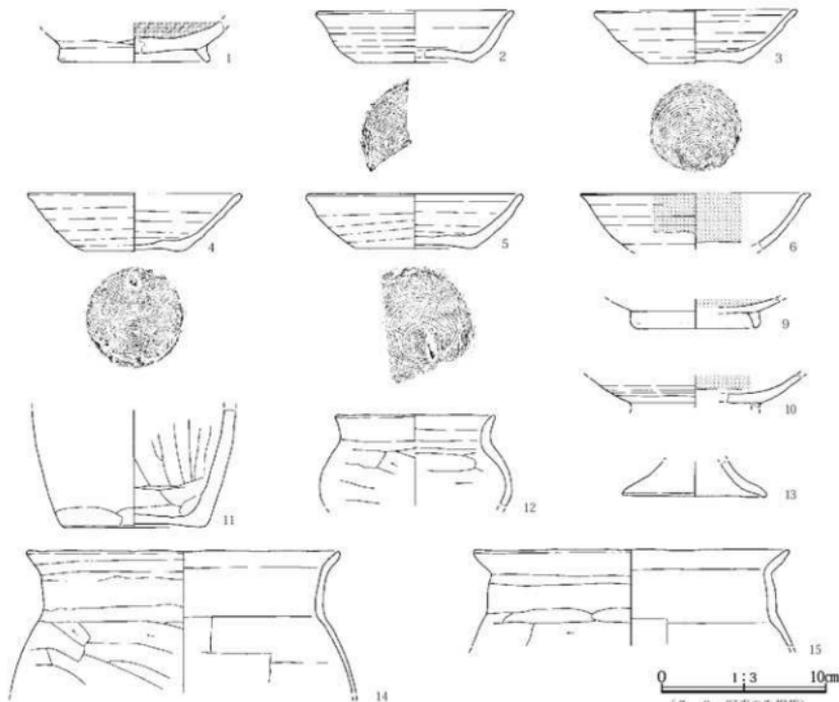
樑(木の柱)

第44図 1号竪穴建物(2)

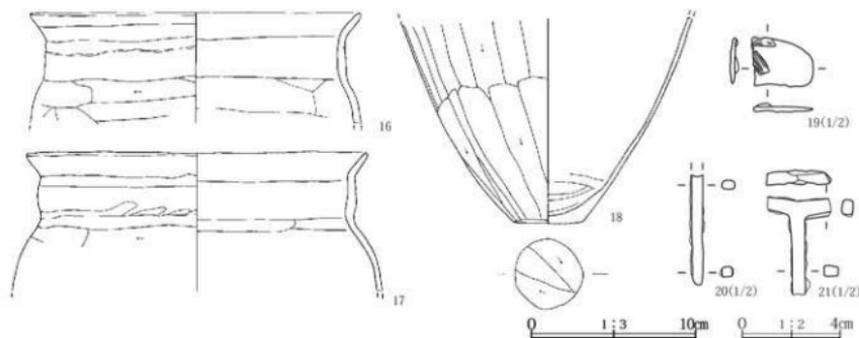
第3章 発掘された遺構と遺物

1号竪穴建物カマド

- 1 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子、 ϕ 1~2mmの白色軽石を全体に含む。暗褐色土ブロックを少量含む。やや縮りあり。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)土層にAs-Kk軽石を含む。黄褐色土ブロックを含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR5/2)Hr-FA粒、ブロックを含む。焼土粒を少量含む。
- 4 濃い黄褐色土(10YR5/3)Hr-FA粒、細粒白色軽石を含む。暗褐色土ブロックを少量含む。
- 5 濃い黄褐色土(10YR5/4)Hr-FA粒、ブロックを多量に含む。焼土粒を少量含む。縮りあり。
- 6 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒、ブロックを含む。 ϕ 1~2mmの白色軽石を全体に含む。焼土粒を少量含む。
- 7 暗褐色土(10YR3/3)Hr-FA粒、ブロックを含む。焼土粒を少量含む。 ϕ 2mmの白色軽石を少量含む。
- 8 濃い黄褐色土(10YR6/4)Hr-FA粒、ブロックを多量に含む。僅かに焼土粒を含む。縮りあり。
- 9 黄褐色土(10YR5/6)Hr-FAブロック主体。
- 10 濃い黄褐色土(10YR5/3) Hr-FA粒、ブロックを含む。焼土粒を少量含む。(掘り方)
- 11 暗褐色土(10YR3/3)焼土粒・ブロックを多量に含む。黒褐色土ブロックを少量含む。(掘り方)
- 12 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒、細粒白色軽石を含む。暗褐色土ブロックを少量含む。(掘り方)
- 13 褐色土(10YR4/4)Hr-FA粒、ブロック、焼土粒を含む。(掘り方)
- 14 黒褐色土(10YR3/1)黒褐色粘質土ブロック主体。(掘り方)
- 15 黒褐色土(10YR3/1)焼土粒・ブロックを含む。径1~2mmのHr-FA粒を少量含む。(掘り方)
- 16 灰黄褐色土(10YR5/2)Hr-FA粒、ブロックを含む。黒褐色土ブロックを少量含む。(掘り方)
- 17 褐色土(10YR4/1)Hr-FA粒、細粒白色粒を含む。(掘り方)
- 18 濃い黄褐色土(10YR7/4)Hr-FA粒、ブロックを多量に含む。黒褐色粘質土ブロックを含む。(掘り方)
- 19 暗褐色土(10YR3/3)Hr-FA粒、ブロックを含む。縮り強い。(掘り方)
- 20 濃い黄褐色土(10YR7/4)Hr-FA粘附ブロック主体。(掘り方)
- 21 灰黄褐色土(10YR5/2)Hr-FA粒、ブロックを含む。(掘り方)
- 22 濃い黄褐色土(10YR6/4)黄色土ブロックを含む。Hr-FA粒、ブロックを少量含む。(掘り方)
- 23 暗褐色土(10YR3/3)Hr-FA灰層ブロック主体。(掘り方)
- 24 濃い黄褐色土(10YR7/4)Hr-FA砂粒子を含む。焼土粒を少量含む。(掘り方)



第45図 1号竪穴建物出土遺物(1)



第46図 1号竪穴建物出土遺物(2)

が灰釉陶器碗、11の須恵器壺、12～18が土師器甕を図示したが、4・5の須恵器杯が床面及び床面近く、11の須恵器壺がカマドから、14・17の土師器甕が床面とカマドから出土しており、1号竪穴建物と共存する。この他、埋没土などから出土した3の須恵器杯、12・15・16・18の土師器甕もその形態から共存しても齟齬はない。なお、時期判定の資料で6～10の灰釉陶器碗が光ヶ丘1号窯式期後期に比定できることから共存の可能性もあるが、土師器甕の年代観が9世紀第3四半期であることから、灰釉陶器の年代観とは若干時間差があり確定には至らない。

時期 床面やカマドから出土した須恵器杯の口唇部が外反、土師器甕がコの字状口縁を呈する形態から9世紀第3四半期の時期に比定できる。

2号竪穴建物(第47～54図、PL.12・13・71～74)

位置 1区西部

座標値 X=62751～62757、Y=-85337～-85344

遺存状況 西側の一部が試掘トレンチで壊されている。

重複 無し

形状 ほぼ隅丸正方形

規模 長軸6.25m、短軸5.86m

長軸方向 N-9°-E

床面積 28.81㎡

床・壁・壁溝 壁面の残存は良好で、ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は平面精査や掘り方掘削でも確認出来なかつ

た。壁高は南東隅で約80cm、他も60cmと深い。床面には、硬化面がほとんど認められなかった。

埋没土 上層から下層まで黒褐色土を主体に堆積していた。

カマド 東壁の中央部から南東隅寄りに設置し、その規模は東西方向がやや北側寄りで20号土坑に煙出し部分が壊されていることから、約120cmよりも長いと想定される。また、南北方向が約50cmをはかる。燃焼部は深さ3～5cmの浅い掘り方の上に構築されている。煙道に沿い石が並んでいる。焼土の残存も多く、壁や焼成面の焼けも激しい。右袖掘り方のやや南側に数個の石が埋め込まれていた痕跡がある。

貯蔵穴 確認出来なかった。

柱穴等 柱穴は4本確認された。それぞれの柱穴の周囲に柱穴に似た痕跡のようなものがあるが、土層断面図から見ると柱を抜き取った痕跡と想定される。なお、P3とP5のみは新旧関係にある。

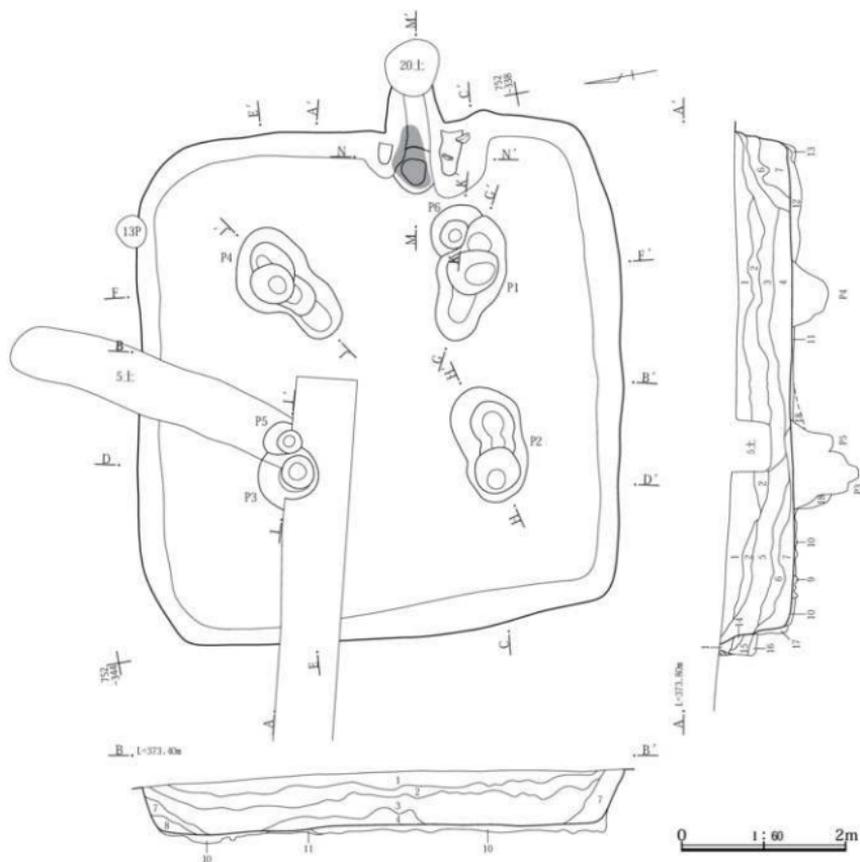
掘り方 床面下5cm以下の深さで、貼り床は認められなかった。中央部にテラス上の高まりが存在する。

遺物 遺物の出土量は少量であるが埋没土中からの出土が多い。須恵器円面碗、須恵器杯の破片・土師器杯の破片・土師器甕の破片である。そのうち図示したものは土器・金属製品など27点である。土器では2・4の土師器杯が床面、5の土師器杯が柱穴P4から、16の土師器甕が柱穴P1から、18・19の土師器甕が床面、20・21の須恵器甕が柱穴P2から出土しており、いずれも2号竪穴建物と共存する関係である。この他、埋没土などから出土した

1・3・6～8の土師器杯、9～12の須恵器杯蓋・杯もその形態から共存しても齟齬はないが、6・7の土師器杯は床面から32～46cm上、須恵器杯蓋・杯は埋没土中からの出土であることから確定には至らない。

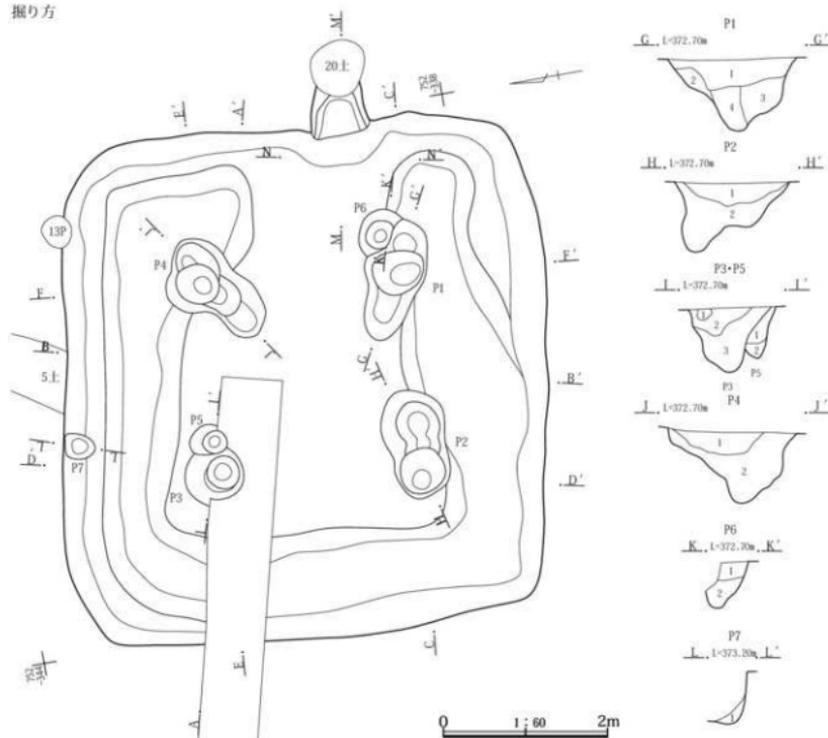
22・23の圈足円面硯は形態から7世紀末から8世紀前半の年代観が与えられ共存するとみられるが、出土位置は床面から11～41cm上からのため確定できない。特徴的な圈足円面硯は硯部海外側の外堤部3分の1片と脚部の脚台部から脚柱部4分の3ほどの破片で、接合はしなかったが、胎土から同一個体と判断できる。硯面は残存して

いなかった。脚柱は垂みのため正円形ではないが径30.9cm、推定器高は11.8cm、硯面の推定径19cmと圈足円面硯としては大型である。脚部には細長方形透孔が穿たれ、外側から内側に向けて穿たれ、内側は整形せずそのままの状態である。脚部を復元すると22本の脚で支えている。なお、硯面の破片は2号竪穴建物だけでなく調査対象範囲内からも出土が確認できなかった。脚柱部上部や外堤部下端の欠損状態を観察すると打ち欠いたとみられ、脚部や外堤部の一部が欠損したのち、残りの脚部を打ち欠き硯面だけを再利用した可能性がある。このような脚部



第47図 2号竪穴建物(1)

掘り方

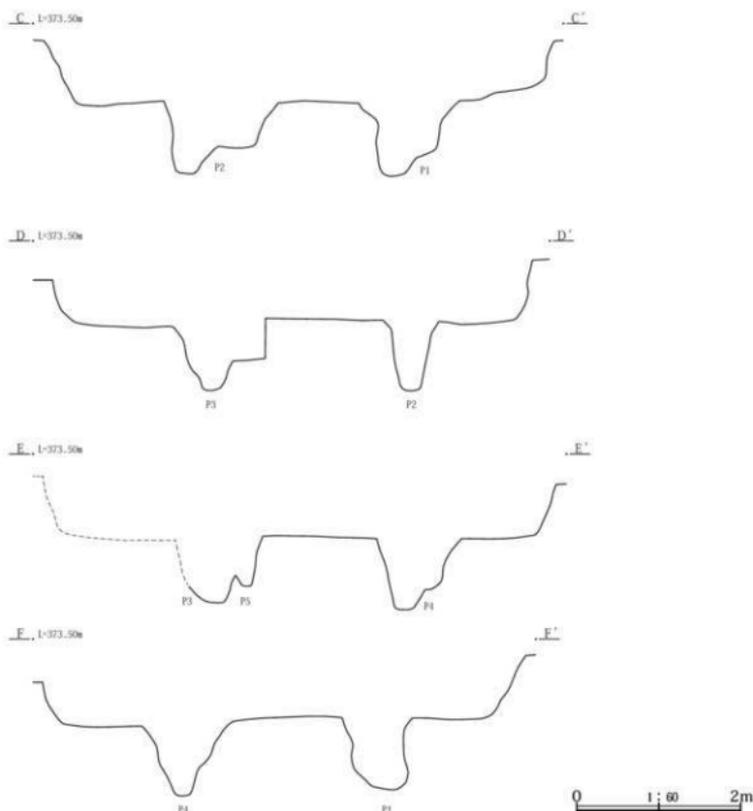


2号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ2～3mmの軽石を5%、φ2～3mmのHr-FA粒を5%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ3mmの軽石を5%、φ3～10mmのHr-FA粒を5%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ3～4mmの軽石を5%、φ3～20mmのHr-FA粒を10%含む。炭化物少量含む。締まりあり。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ3～5mmのHr-FA粒を5%含む。締まりあり。
- 5 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ3～5mmの軽石を5%、φ3～8mmのHr-FA粒を10%含む。炭化物を少量含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ4～7mm軽石を5%、φ5～20mmのHr-FA粒を10%含む。炭化物を少量含む。締まりあり。
- 7 灰黄褐色土(10YR4/2)Hr-FA粒子を含む。φ4～20mmのHr-FA粒を30%、Hr-FAブロックを含む。炭化物を含む。
- 8 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ3～5mmの軽石を5%、φ3～8mmのHr-FA粒を20%含む。Hr-FAブロック、炭化物を含む。
- 9 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を多く含む。φ3～10mmのHr-FA粒を20%含む。締まり少しあり。(掘り方)
- 10 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ3～15mmのHr-FA粒を20%含む。(掘り方)
- 11 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒子を含む。φ2～5mmのHr-FA粒を5%含む。粘性少しあり。(掘り方)
- 12 灰黄褐色土(10YR4/2)Hr-FA粒子を多く含む。φ3～10mmの軽石を5%、φ4～30mmのHr-FA粒を30%含む。(掘り方)
- 13 黒褐色土(10YR2/1)Hr-FA粒子を少量含む。φ2mmのHr-FA粒を5%含む。粘性少しあり。(掘り方)
- 14 暗褐色土(10YR3/3)締りややあり、粘性なし。φ5mm程のHr-FA粒子を中量、礫を少量含む。(掘り方)
- 15 黒褐色土(10YR3/2)締りややあり。Hr-FAブロック少量、黄、白色粒子中量含む。(掘り方)
- 16 黒褐色土(10YR3/2)締りなし、粘性なし、Hr-FA膜上。白色粒子中量含む。(掘り方)
- 17 黒褐色土(10YR3/1)締りあり、粘性なし。Hr-FA中量、炭化物、褐色粒子中量含む。(掘り方)
- 18 黒色土(10YR2/1)締りややあり、粘性ややあり。Hr-FAブロック中量、炭化物、白色粒子少量含む。(掘り方)

第48図 2号竪穴建物(2)

第3章 発掘された遺構と遺物



P1

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)Hr-FA粒子を含む。φ3～10mmの軽石5%、φ3～15mmのHr-FA粒子を20%含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒子を含む。φ3～5mmのHr-FA粒を10%含む。1の層がブロック状に入っている。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ3～20mmのHr-FA粒を20%含む。Hr-FAブロックを含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒子を含む。φ2～5mmのHr-FA粒を5%含む。Hr-FAブロックを含む。

P2

- 1 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ3mmの軽石を5%、φ5～20mmのHr-FA粒を10%含む。
- 2 黒色土(10YR2/1)Hr-FA粒子を含む。φ7～20mmのHr-FA粒を5%含む。粘性あり。

P3

- 1 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ3mmの軽石を5%、φ3～7mmのHr-FA粒を10%含む。粘性少しあり。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)Hr-FA粒子を含む。φ3mmの軽石5%、φ2～20mmのHr-FA粒を20%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ5～10mmの軽石を5%、φ2～15mmのHr-FA粒を20%含む。粘性少しあり。

P4

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)Hr-FA粒子を含む。φ3～10mmの軽石5%、φ3～15mmのHr-FA粒を20%含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒子を含む。φ3～5mmのHr-FA粒を10%含む。1の層がブロック状に入っている。

P5

- 1 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒子を含む。φ2～15mmのHr-FA粒を10%含む。上が粗い。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒子を含む。φ2～7mmのHr-FA粒を15%含む。粘性少しあり。

P6

- 1 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を多く含む。φ4mmの軽石を5%、φ2～10mmのHr-FA粒を30%、φ2～4mmの埴土粒を5%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ2～15mmのHr-FA粒を20%含む。

P7

- 1 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を多く含む。φ3～20mmのHr-FA粒を10%含む。黒色土ブロックを含む。

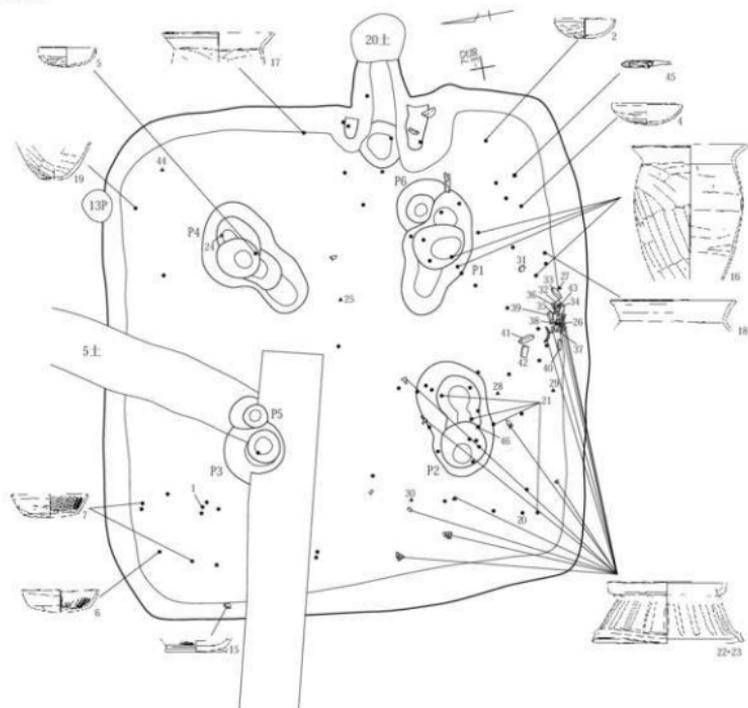
第49図 2号竪穴建物(3)

を取り除いた円面硯の硯面を再利用した例から、2号竪穴建物出土の圓足円面硯でも同様な行為が行われたことが裏付けられる。

時期 床面や柱穴から出土した土師器杯、甕の年代観から与えられるが、2・4の土師器杯は口唇部が内湾、16の土師器甕は胴部上位のヘラ削りが横方向ではなく斜

め方向であることから7世紀第4四半期、5の土師器杯は口縁部が上方へ立ち上がる形態であることから8世紀第1四半期の年代観がそれぞれ与えられ、そこにやや時間差が見られる。つまり相対的に7世紀週末から8世紀初頭の時期に属する建物と考えられる。

遺物出土状況

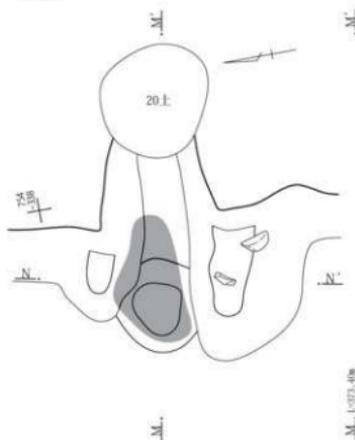


(遺物図)
0 1:10 20cm

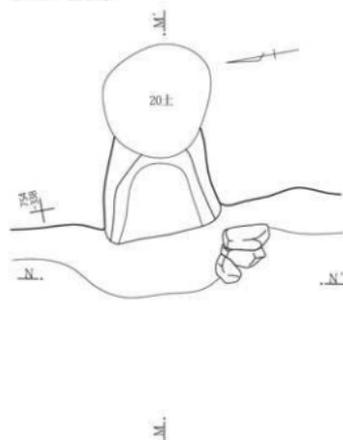
(平面図)
0 1:60 2m

第50図 2号竪穴建物(4)

カマド

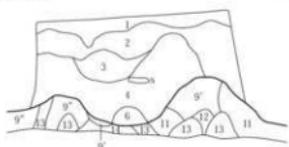


カマド 掘り方



N 1-073.0m

N'

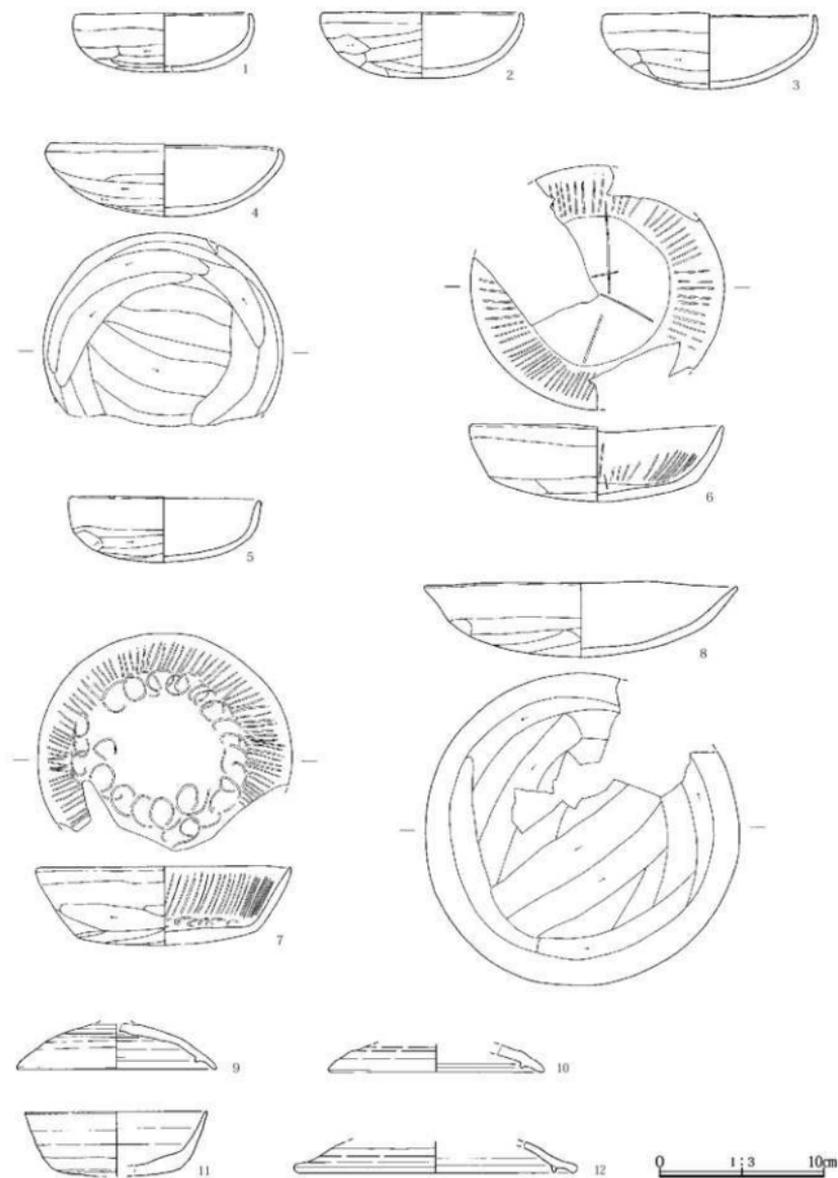


0 1/30 1m

2号竪穴建物カマド

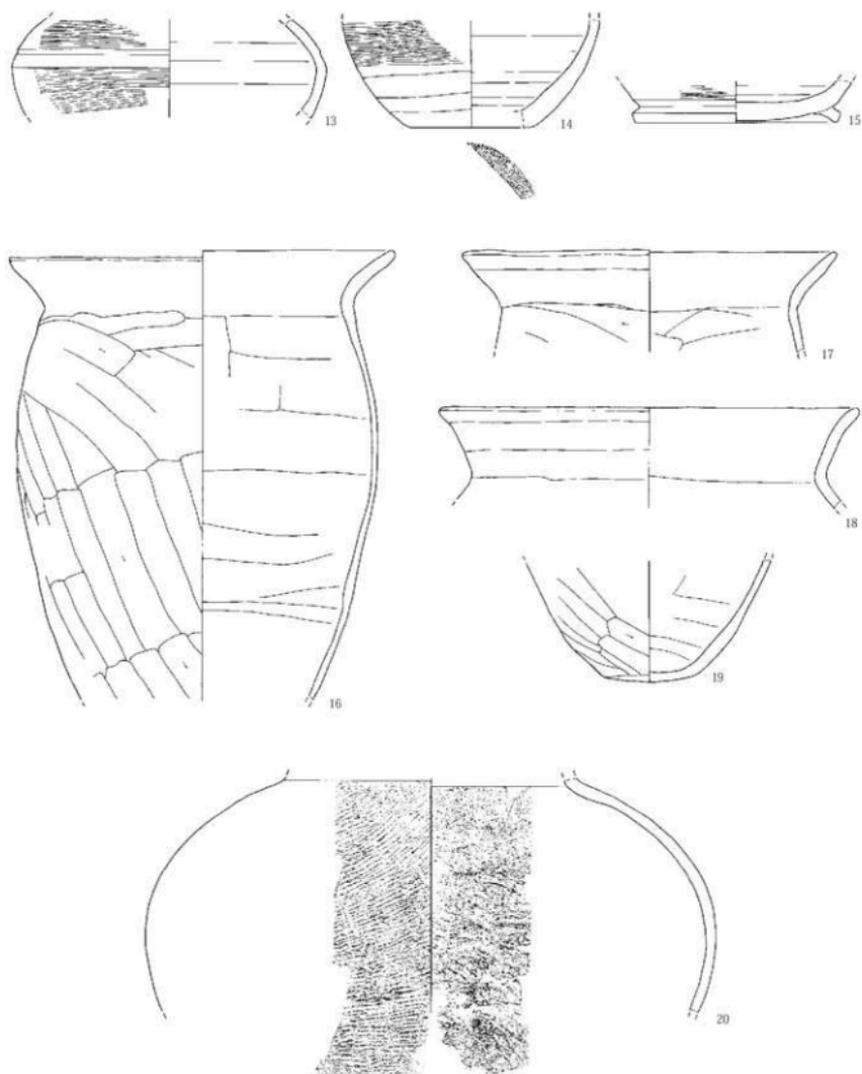
- 1 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ2~3mmの軽石を5%、φ2~4mmのHr-FA粒を5%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ2~3mmの軽石を10%、φ4~10mmのHr-FA粒を10%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ2mmの軽石を5%、φ3~20mmのHr-FA粒を10%含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ3~5mmの軽石を10%、φ2~20mmのHr-FA粒を20%、φ2~20mmの焼土粒を5%含む。焼土ブロックを含む。
- 5 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒子を含む。φ5~8mmのHr-FA粒を10%、φ3~4mmの焼土粒を5%含む。
- 6 褐色土(10YR4/6)Hr-FA粒子を多く含む。φ3~8mmの焼土粒を40%含む。焼土粒を多く含む。
- 7 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ2~5mmのHr-FA粒を5%、φ3mmの焼土粒を5%含む。
- 8 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒子を含む。φ3mmのHr-FA粒を5%含む。粘性少しあり。
- 9 にぶい黄褐色土(10YR5/3)Hr-FA粒子を多く含む。φ2~4mmのHr-FA粒を10%、φ4~20mmの焼土粒を40%含む。Hr-FAブロックを含む。
- 9' 暗褐色土(10YR3/3)Hr-FA粒子を多く含む。φ2~5mmの軽石5%、φ3~7mmのHr-FA粒を20%、φ3mmの焼土粒を5%含む。
- 9'' 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を多く含む。φ2~5mmのHr-FA粒を20%、φ3mmの焼土粒を5%含む。
- 10 灰黄褐色土(10YR4/2)Hr-FA粒子を多く含む。φ2~3mmのHr-FA粒子を30%、φ2~4mmの焼土粒を5%含む。
- 11 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ3~10mmのHr-FA粒を30%、φ3~4mmの焼土粒を5%含む。縮まり少しあり。
- 12 にぶい黄褐色土(10YR5/3)Hr-FA土体層。黒色土粒を少量含む。
- 13 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ2~4mmのHr-FA粒を10%、φ3mmの焼土粒を5%含む。粘性少しあり。
- 14 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を少量含む。φ2mmのHr-FA粒を5%、φ1mmの焼土粒を5%含む。粘性少しあり。

第51図 2号竪穴建物(5)

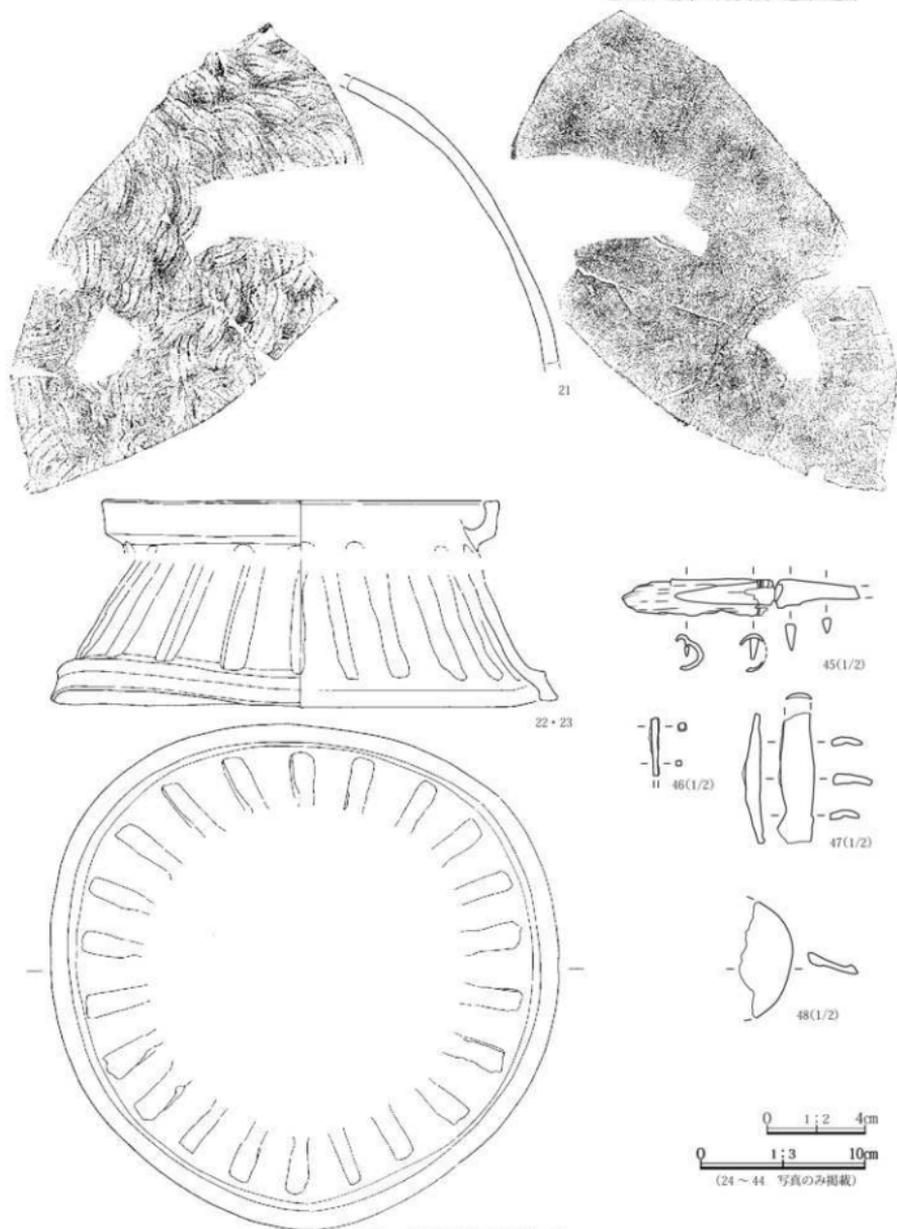


第52図 2号竪穴建物出土遺物(1)

第3章 発掘された遺構と遺物



第53図 2号竪穴建物出土遺物(2)



第54図 2号竪穴建物出土遺物(3)

3号竪穴建物(第55～57図、PL.14・74)

位置 1区北部

座標値 X=62757～62760、Y=-85327～-85332

遺存状況 建物の北側半分が調査範囲外に延びている。

重複 土坑が建物の西壁を壊している。

形状 隅丸長方形

規模 長軸4.18cm、短軸(1.96cm)以上

長軸方向 N-20°-E

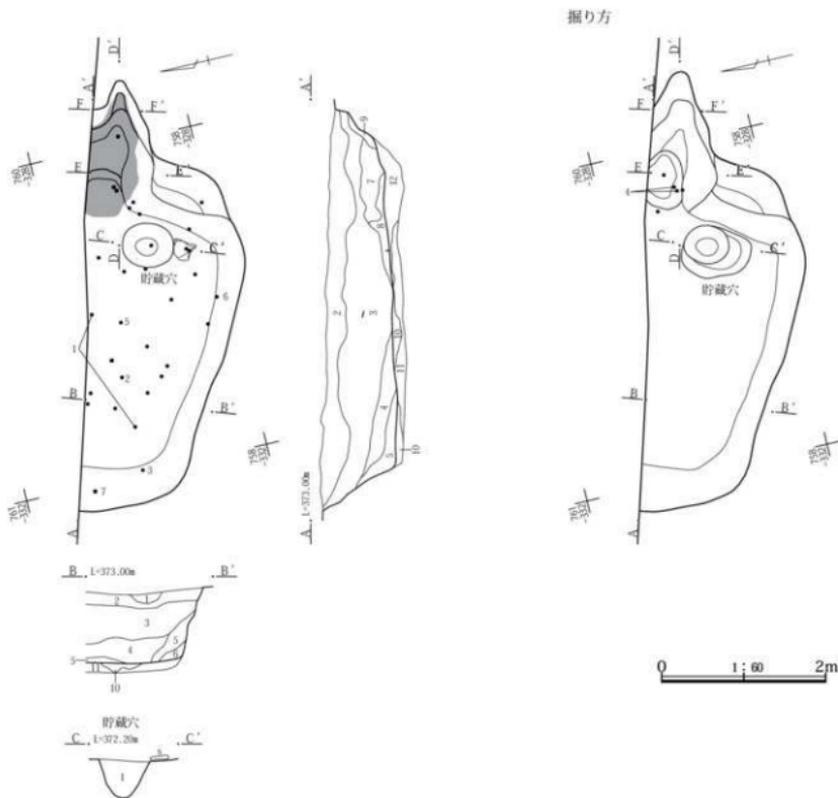
埋没土 黒褐色土を主体としている。

床面積 (4.17)㎡以上

床・壁・壁溝 壁面の残存は良好でしっかりと立ち上がる。壁溝は確認出来なかった。南壁から東壁にやや斜辺となる。壁高は南東隅で約90cm、他も約80cm程度とかなり深いものの硬化面がほとんど認められなかった。

カマド 大部分が調査区内南側に位置する。ただ一切石を構築材として用いておらず、その点が他の竪穴建物との大きな違いである。カマドの燃焼部は浅い掘り方の上に構築されている。焼土の残存も多く壁や焼成面の焼けも激しい。

貯蔵穴 カマドの右袖手前に存在し深さ約30cmである。



第55図 3号竪穴建物(1)

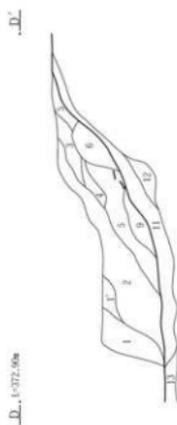
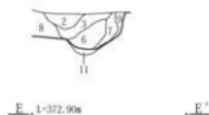
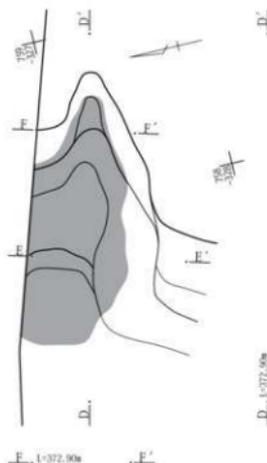
柱穴等 柱穴は確認出来なかった。

掘り方 床面下約15～20cmやや深く、貼り床が確認された。

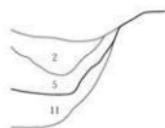
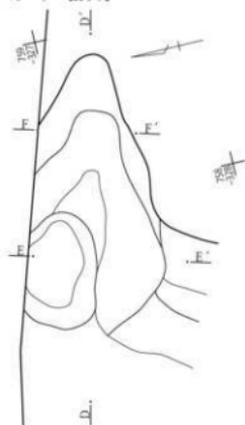
遺物 遺物の出土量は多く、カマド燃焼部内から床面全体に散布している。図示したものは土器・金属製品など8点である。土器では2の須恵器杯が床面、4の土師器甕がカマド燃焼部から出土しており、3号竪穴建物と共存する。この他、埋没土などから出土した須恵器杯、土師器甕もその形態から共存しても齟齬はない。

時期 カマドから出土した土師器甕の年代観から9世紀第3四半期に比定できるが、床面から出土した須恵器杯には口縁部の外反が見られないので9世紀第2四半期の年代観となる。土師器甕との間に時間差が見られる。つまり9世紀第2四半期から9世紀第3四半期でも前半に比定できる。

カマド



カマド 掘り方



0 1:30 1m

第56図 3号竪穴建物(2)

第3章 発掘された遺構と遺物

3号竪穴建物

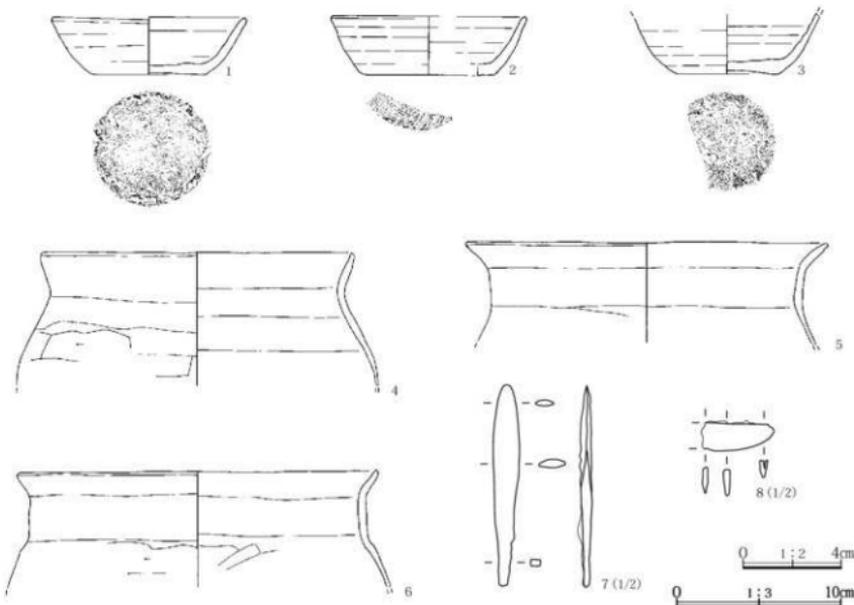
- 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。φ3~5mmの軽石を20%、φ2~4mmの小石5%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)φ3~5mmの軽石(Hr-FA)5%、φ3~4mmの小石5%含む。3mmの焼土粒極少量含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ3~4mmの軽石5%、φ2~8mmのHr-FA粒10%、φ3~7mmの焼土粒5%含む。締まり少しあり。
- 4 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒子を少量含む。φ3~10mmのHr-FA粒を5%含む。粘性少しあり。
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2)Hr-FA粒子を多く含む。φ3~4mmの軽石を5%、φ3~5mm Hr-FA粒を10%、φ2~3mmの焼土粒を5%含む。
- 6 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒子を含む。φ3~6mmのHr-FA粒を5%含む。粘性少しあり。
- 7 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ2~6mmのHr-FA粒を10%、φ2~4mmの焼土粒を10%含む。締まり少しあり。
- 8 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ3~7mmのHr-FA粒を10%、φ2~5mmの焼土粒を10%含む。
- 9 黒褐色土(10YR2/1)φ2~3mmのHr-FA粒を5%含む。粘性あり。幸地山の上と3層の土が混じっている様子がある。
- 10 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ3~9mmのHr-FA粒を20%含む。(掘り方)
- 11 黒褐色土(10YR2/1)粘性あり。(掘り方)
- 12 深い黄褐色土(10YR6/4)Hr-FA粒子を多く含む。φ4~8mmのHr-FA粒を30%、φ3mmの焼土粒を5%含む。ホカマドの袖の可能性あり。(掘り方)

3号竪穴建物 貯蔵穴

- 1 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒子を含む。φ3~5mmの軽石を5%、φ3~4mmのHr-FA粒を5%含む。粘性少しあり。

3号竪穴建物カマド

- 1 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ3~5mmのHr-FA粒を5%含む。締まり少しあり。
- 1' 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ3mmの焼土粒を5%、φ3~5mmのHr-FA粒を5%含む。締まり少しあり。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ3~5mmのHr-FA粒を5%、φ2~8mmの焼土粒10%含む。粘性少しあり。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ2~4mmのHr-FA粒を5%、焼土粒子含む。φ3~4mmの焼土粒20%含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。焼土粒子含む。粘性少しあり。
- 5 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ2mmのHr-FA粒を5%、焼土粒子含む。φ3~10mmの焼土粒を含む。粘性少しあり。
- 6 深い黄褐色土(10YR4/3)Hr-FA粒子を多く含む。φ2~4mmのHr-FA粒を20%、φ2~6mmの焼土粒を5%含む。焼土粒子を含む。
- 7 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を多く含む。φ2~4mmのHr-FA粒を10%含む。
- 8 深い黄褐色土(10YR4/3)Hr-FA粒子を多く含む。φ3~7mmのHr-FA粒を40%含む。締まり少しあり。
- 9 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ3~5mmのHr-FA粒を5%含む。締まりあり。
- 10 灰黄褐色土(10YR4/2)Hr-FA粒子を多く含む。φ3~4mmの軽石を5%、φ3mmの焼土粒を5%含む。
- 11 黒褐色土(10YR2/3)Hr-FA粒子を含む。φ3~8mmのHr-FA粒を20%、φ3~5mmの焼土粒を20%含む。
- 12 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒子を含む。φ3~5mmの焼土粒を10%含む。粘性少しあり。
- 13 深い黄褐色土(10YR5/3)Hr-FA粒子を多く含む。φ3~30mmのHr-FA粒を20%含む。



第57図 3号竪穴建物出土遺物

4号竪穴建物(第58～63図、PL.15・16・74・75)

位置 1区北西部

座標値 X=62741～62747、Y=-85331～-85336

遺存状況 ほぼ完形

重複 無し

形状 隅丸長方形

規模 長軸(4.75)m、短軸(5.57)m

長軸方向 N-20°-E

床面積 18.87㎡

床・壁・壁溝 壁面の残存は良好で緩やかに立ち上がる。床面調査では壁溝は確認出来なかったが、南西側から北東側にやや斜向する。壁高は南東側で80cm、他も約70cm程度と深い。床面には、硬化面がほとんど認められなかった。

埋没土 黒褐色土を主体とし、中層から下層にかけては暗褐色土が堆積していた。

カマド 東壁の中央部からやや南寄りに位置している。両袖から、燃焼部の両壁や煙出し部にかけて楕円礫を構築材として連続して用いており、他の竪穴建物とほぼ同様である。カマドの燃焼部は煙道寄りに半円状に小型の石が7～8個巡らされている。また、煙道部の左右の壁に沿って4～5個の礫が並べられている。深さ約20～40cmの深い掘り方の上に構築されている。燃焼部から床面の中央部にかけて焼土の残存も多く、壁や焼成面の焼土化も激しい。

貯蔵穴 無し

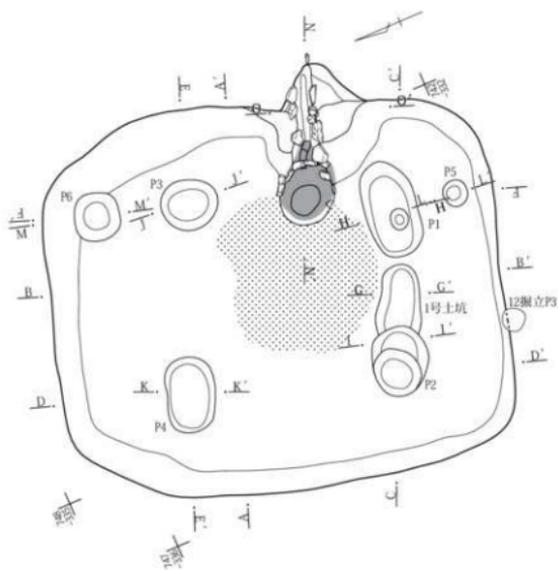
柱穴等 柱穴は掘り方で4基が確認されており、カマド寄りの南東側から、P1、P2、P4、P3の順である。

掘り方 床面下5cm以下の深さで、顕著な貼り床は認められなかった。ただ、床面検出の段階で6基のビットが検出され、そのうちの4基は明らかに柱穴である。掘り方の段階で東西方向の楕円形の形状を呈するビットも数基確認できることから、柱の抜き取りも想定され、建て替えも想定される。また、掘り方段階で東壁から南壁、さらには西壁に沿ってビットを残しながら、ほぼ等間隔の掘り込みが巡り、その中央部がテラス状に残されている。

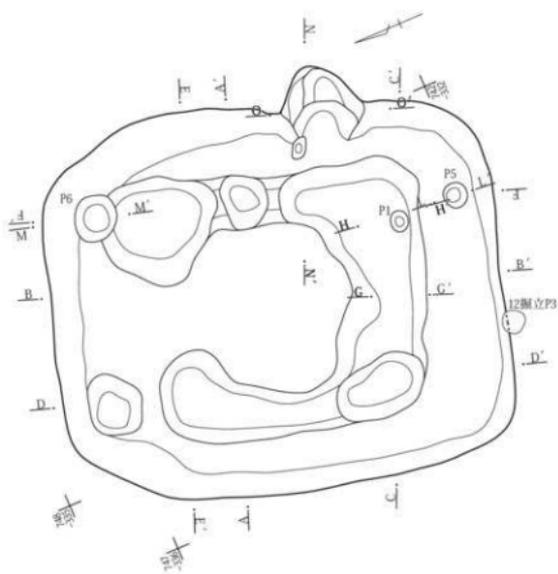
遺物 遺物の出土量は少ないものの、ほぼ全域で出土する。土師器や須恵器の破片が中心である。時期は8世紀後半の建物と推定される。そのうち図示したものは土器や金属製品など20点である。土器では1の土師器杯が柱

穴P4から、7の須恵器杯が柱穴P1から、8の須恵器杯がカマドから、9の須恵器杯が柱穴P2から、11の須恵器長頸壺がカマド煙道、12の須恵器長頸壺が柱穴P3とP6から、13の土師器甕が柱穴P1から、14の土師器甕がカマド袖から、16の土師器甕が床面から出土しており、4号竪穴建物と共存する。この他、埋没土などから出土した1・3・4の土師器杯、6の須恵器杯もその形態から共存しても齟齬はない。

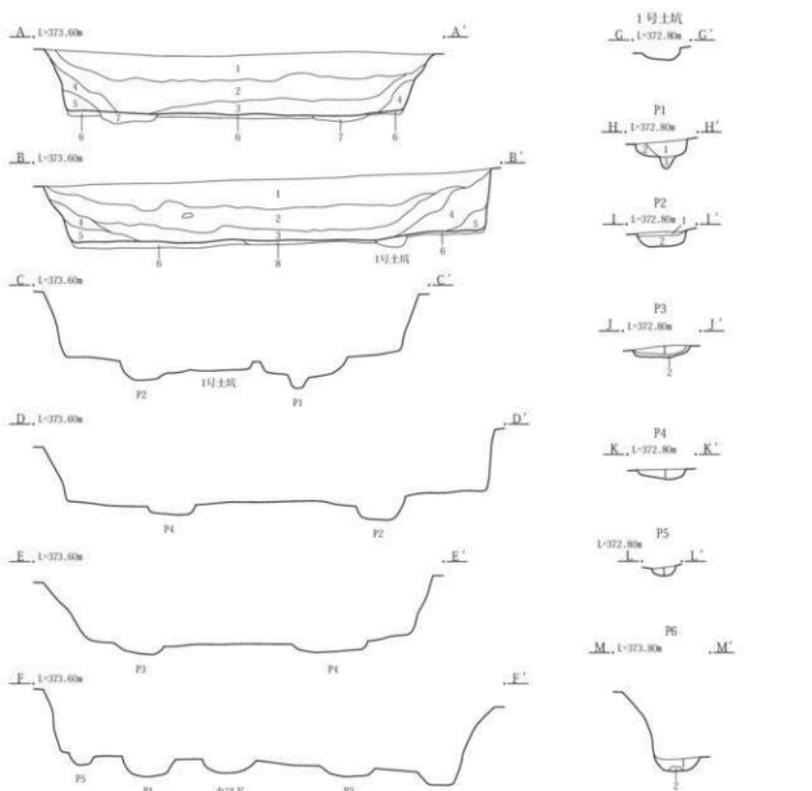
時期 床面やカマド、柱穴から出土した土師器杯が内面に放射状暗文が施され、須恵器杯は底部が手持ちヘラ削りと回転ヘラ起こし後回転ヘラ削りが施されている事から、8世紀前半から第三四半期の年代観が与えられる。土師器甕は小型のもので口縁部がくの字状ではなくやや頸部が認められることから、同様に8世紀第三四半期の年代観が与えられる。こうしたそれぞれの土器の年代観から4号竪穴建物の時期は8世紀第二四半期から8世紀第三四半期に比定できる。



掘り方



第58図 4号竪穴建物(1)



4号竪穴建物

1 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ3～5mmの軽石を5%、φ3～5mmのHr-FA粒を5%含む。

2 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ3～4mmの軽石を5%、φ2～10mmのHr-FA粒を10%含む。締まり少しあり。

3 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ3～7mmのHr-FA粒を5%含む。黒色土ブロックが一部に入っている。

4 暗褐色土(10YR3/4)Hr-FA粒子を多く含む。φ3～5mmの軽石を5%、φ4～20mmのHr-FA粒を20%含む。

5 暗褐色土(10YR3/4)Hr-FA粒子を多く含む。φ4～15mmのHr-FA粒を30%含む。Hr-FAブロックを含む。

6 にぶい黄褐色土(10YR5/4/3)Hr-FA粒子、Hr-FAブロックを含む。締り弱い。

7 にぶい黄褐色土(10YR5/7/3)Hr-FA粒子、Hr-FAブロックを多量に含む。

8 暗褐色土(10YR3/4)Hr-FA粒子、Hr-FAブロックを少量含む。締り強い。

P1

1 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子、φ1mmの黄褐色粒を40%含む。締りあり。

2 暗褐色土(10YR3/3)Hr-FA粒子、φ1mmの黄褐色粒、褐色粒を30%含む。

3 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子、φ1mmの黄褐色粒を10%含む。締りあり。

P2

1 褐色土(10YR6/1)Hr-FA粒子・灰を20%含む。

2 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子、φ1mmの黄褐色粒を30%含む。締りあり。

P3

1 褐色土(10YR6/1)Hr-FA粒子・灰を20%含む。

2 暗褐色土(10YR3/3)Hr-FA粒子、φ1mmの黄褐色粒、褐色粒を30%含む。

1 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子、φ1mmの黄褐色粒を10%含む。締りあり。

P5

1 暗褐色土(10YR3/3)φ30～40mmのHr-FAブロックを10%、φ1～2mm黄褐色粒を30%含む。

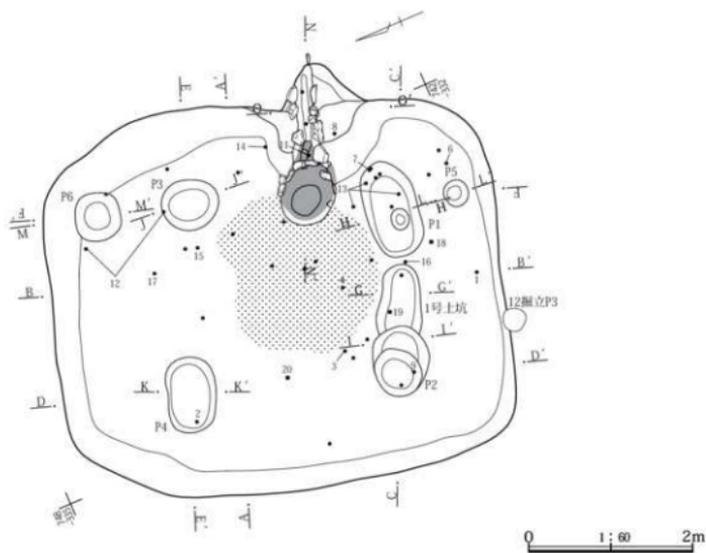
P6

1 暗褐色土(10YR3/3)φ30～40mmのHr-FAブロックを20%、φ1～2mm黄褐色粒を10%含む。

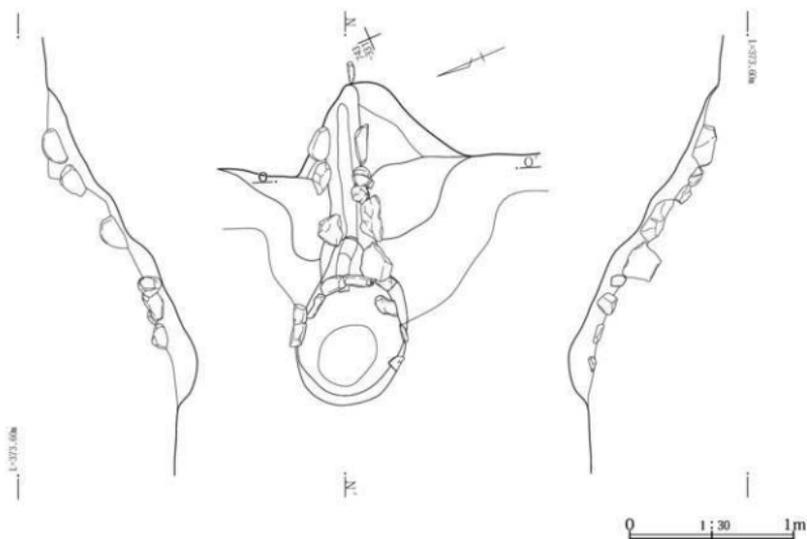
2 黒色土(10YR2/1)黒粘質土ブロック主体。Hr-FA粒を少量含む。

第50図 4号竪穴建物(2)

遺物出土状況

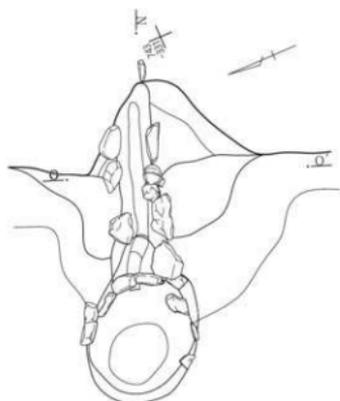


カマド

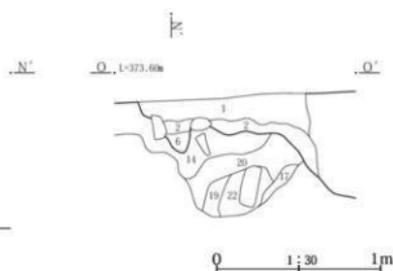
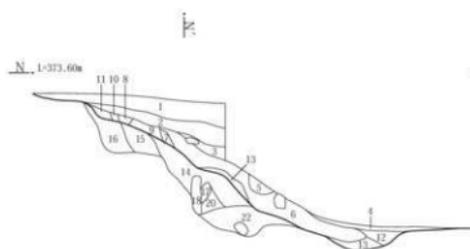
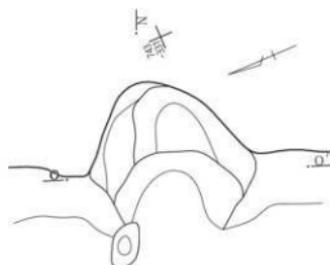


第60図 4号竪穴建物(3)

カマド



カマド 掘り方

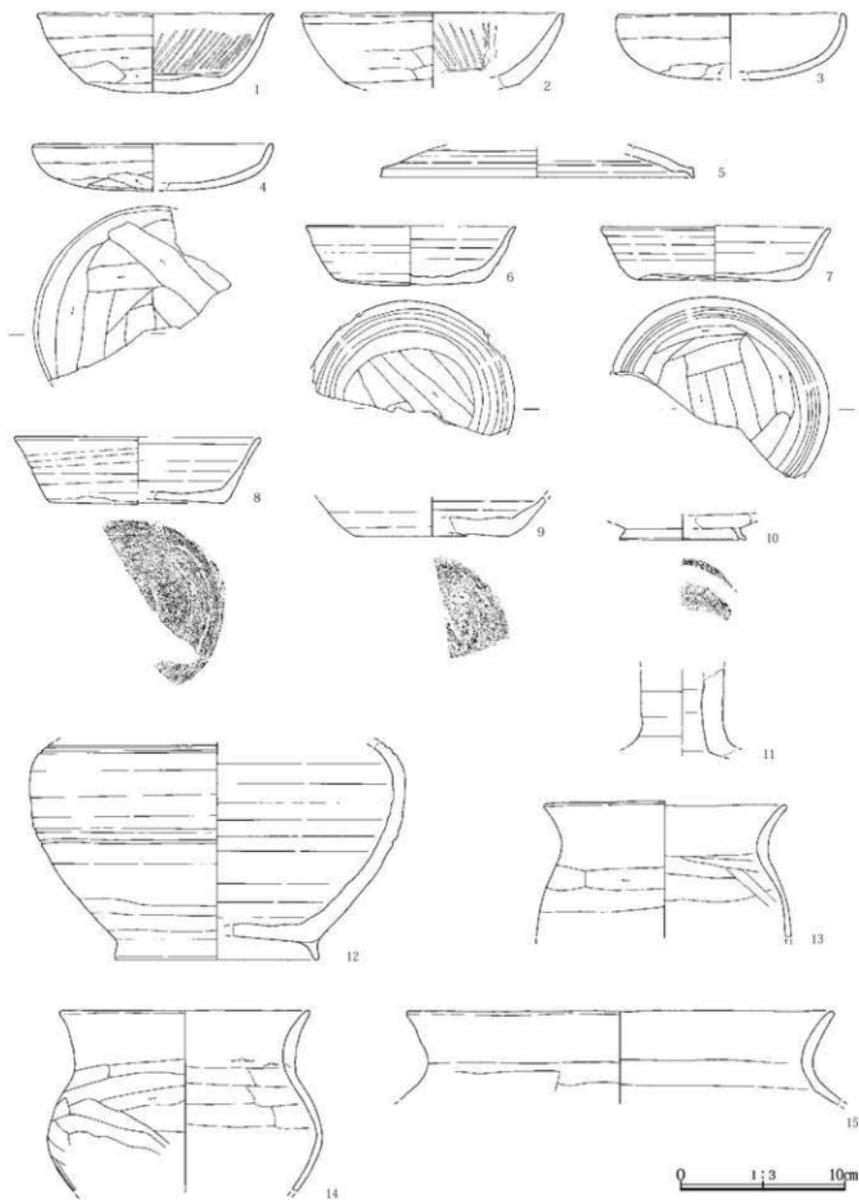


4号竪穴建物カマド

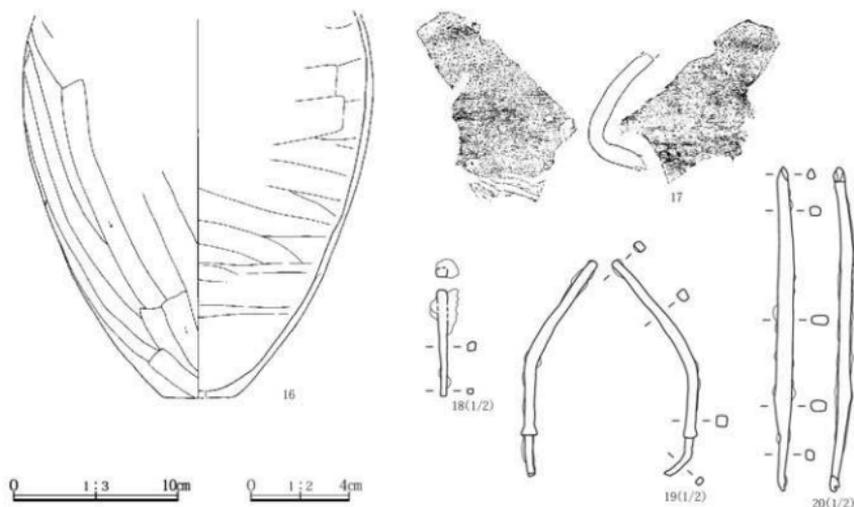
- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)Hr-FA粒、棕色粒を少量含む。やや締りあり。
- 2 灰黄褐色土(10YR6/2)Hr-FA粒、棕色粒、焼土粒・ブロックを含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR6/3)焼土粒・ブロックを多量に含む。Hr-FA粒を少量含む。締りあり。
- 4 暗褐色土(10YR3/3)Hr-FA粒、焼土粒を少量含む。締り強い。
- 5 黒褐色土(10YR2/2)焼土粒、Hr-FA粒を含む。
- 6 黄褐色土(10YR5/8)焼土粒・ブロックを多量に含む。Hr-FA粒、細粒白色軽石を含む。やや粘性あり。
- 7 褐灰色土(10YR4/1)Hr-FA粒、細粒白色粒、焼土粒・ブロックを含む。黒褐色粘質土ブロックを少量含む。
- 8 にぶい黄褐色土(10YR7/0)Hr-FA粒、ブロックを多量に含む。
- 9 暗褐色土(10YR3/3)Hr-FA粒、ブロックを含む。やや粘性あり。
- 10 黒褐色土(10YR3/1)黒褐色土ブロック主体。Hr-FA砂粒を少量含む。
- 11 にぶい黄褐色土(10YR7/2)Hr-FA灰層ブロック主体。
- 12 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒、細粒白色軽石を少量含む。粘質上。
- 13 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒、細粒白色軽石を少量含む。粘質上。
- 14 にぶい黄褐色土(10YR6/0)Hr-FA粒、ブロック、焼土粒を多量に含む。
- 15 暗褐色土(10YR3/3) Hr-FA砂粒を含む。
- 16 黒色土(10YR2/1)黒色粘質土主体。僅かにHr-FA粒、焼土粒を含む。
- 17 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒を少量含む。粘質上。
- 18 褐灰色土(10YR5/1)Hr-FA粒を多量に含む。
- 19 にぶい黄褐色土(10YR7/2)Hr-FA灰層主体。
- 20 灰黄褐色土(10YR6/2)焼土粒・ブロックを多量に含む。Hr-FA粒、棕色粒を含む。
- 21 にぶい黄褐色土(10YR7/3)Hr-FA灰層ブロック、焼土粒を含む。締りあり。
- 22 黒色土(10YR2/1)Hr-FA粒、焼土粒を少量含む。粘質上。

第61図 4号竪穴建物(4)

第3章 発掘された遺構と遺物



第62図 4号竪穴建物出土遺物(1)



第63図 4号竪穴建物出土遺物(2)

5号竪穴建物(第64～66図、PL.17・75)

位置 2区南西部

座標値 X=62720～62724、Y=-85356～-85358

遺存状況 建物の西側部分の半分以上が調査範囲外に延びている。

重複 重複関係ははっきりしていない。

形状 おそらくは隅丸長方形と推定される。

規模 長軸(1.32)m以上、短軸3.66m

長軸方向 S-86°-E

床面積 (3.88)m以上

床・壁・壁溝 壁面の残存は表土からの土層が残っているものの、竪穴建物自体の埋没土の残りは悪く浅い。そのために、壁の立ち上がりも状態が良くない。壁高は前述したように非常に浅い。しかし床面には、硬化面がほぼ全域に認められる。さらに、カマド手前に炭化物が出土している。壁溝と柱穴は確認出来なかった。

埋没土 黒褐色土を主体とした暗褐色土が堆積している。基本土層6層を中心に混入物をほとんど含んでいなかった。床面全面に焼土が認められる。

カマド 東壁の中央部からやや南寄りに位置し、右袖に1個の石があるだけで左袖の作りは良くない。自体の燃

焼部は深さ3～5cmの浅い掘り方の上に構築されている。

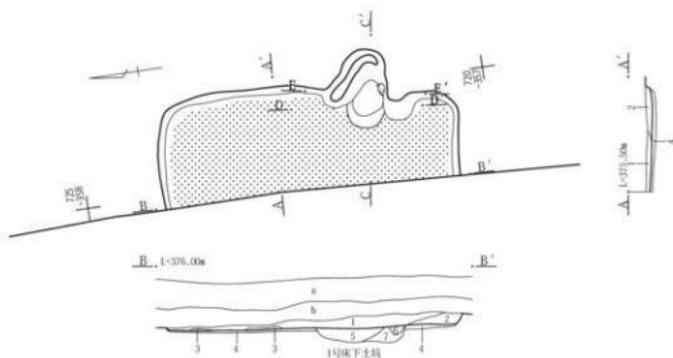
貯蔵穴 無し

柱穴等 柱穴は確認出来なかった。

掘り方 床面下5cm以下の深さで、明確な貼り床は認められなかった。

遺物 遺物の出土量は僅かで、カマドの燃焼部内と南西側に延びる不整形の床下土坑内にある。図示したものは土師器と須恵器など12点である。土器では1～3の須恵器椀が床面、カマド、6～9の土師器甕がカマドから、12の須恵器羽釜が床面から出土している。その他、埋没土などから出土した10の須恵器羽釜も11と同様の形態から共存しても組紐はない。

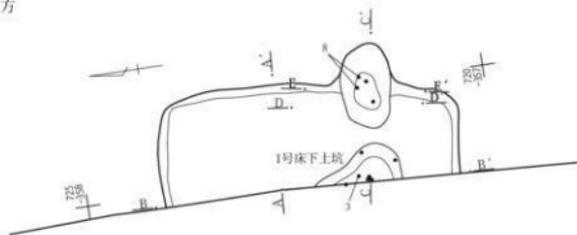
時期 床面やカマドから出土した1の無台椀にみられる底径/口径比が0.45と小さく、7・8の土師器甕も口縁部が退化しているとはいえ、まだコの字状口縁を呈していることから、10世紀第2四半期に比定できる。



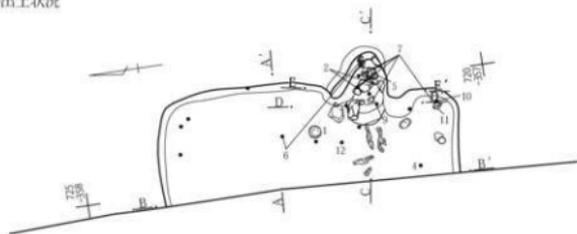
5号竪穴建物

- a 黒褐色土(10YR3/1)締りなし。粘性なし。As-Kk混土。礫、褐色粒子少量含む。
 - b 灰褐色土(10YR4/2)締りややあり。粘性ややあり。FA混土。黄色土ブロック状に含む。造成土。
 - 1 黒褐色土(10YR3/1) 5mm程の黄色、褐色粒子を中量、炭化物を少量含む。締りややあり。粘性なし。
 - 2 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FAブロック上。褐色粒子少量含む。締り、粘性なし。砂質。
 - 3 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FAを少量含む。褐色、炭化物中量含む。締りややあり。粘性なし。砂質。
 - 4 灰黄褐色土(10YR4/2)黄褐色粒。褐色粒を含む。やや粘性あり。(掘り方)
 - 5 に深い黄褐色土(10YR8/3)Hr-FAブロックを多量に含む。暗褐色ブロックを含む。締りあり。不整な堆積上。
 - 6 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FAブロックを少量含む。やや粘性あり。
 - 7 黄褐色土(10YR5/8)Hr-FAブロック主体。褐色粒を少量含む。不整な堆積上。
- * 5～7は1号床下土坑

掘り方



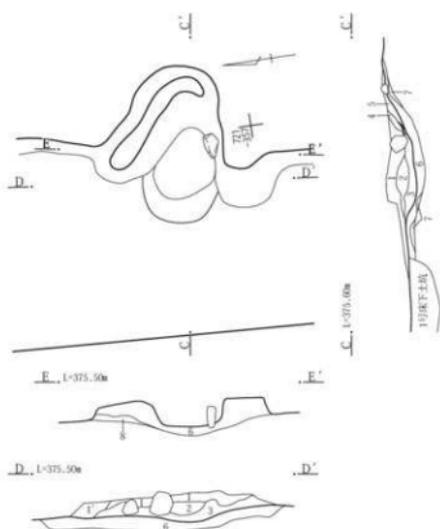
遺物出土状況



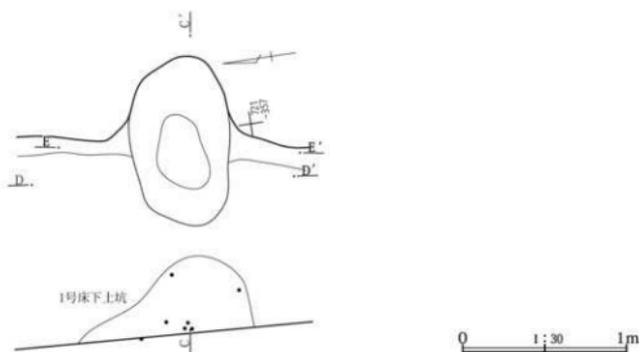
0 1:60 2m

第64図 5号竪穴建物(1)

カマド



カマド 掘り方

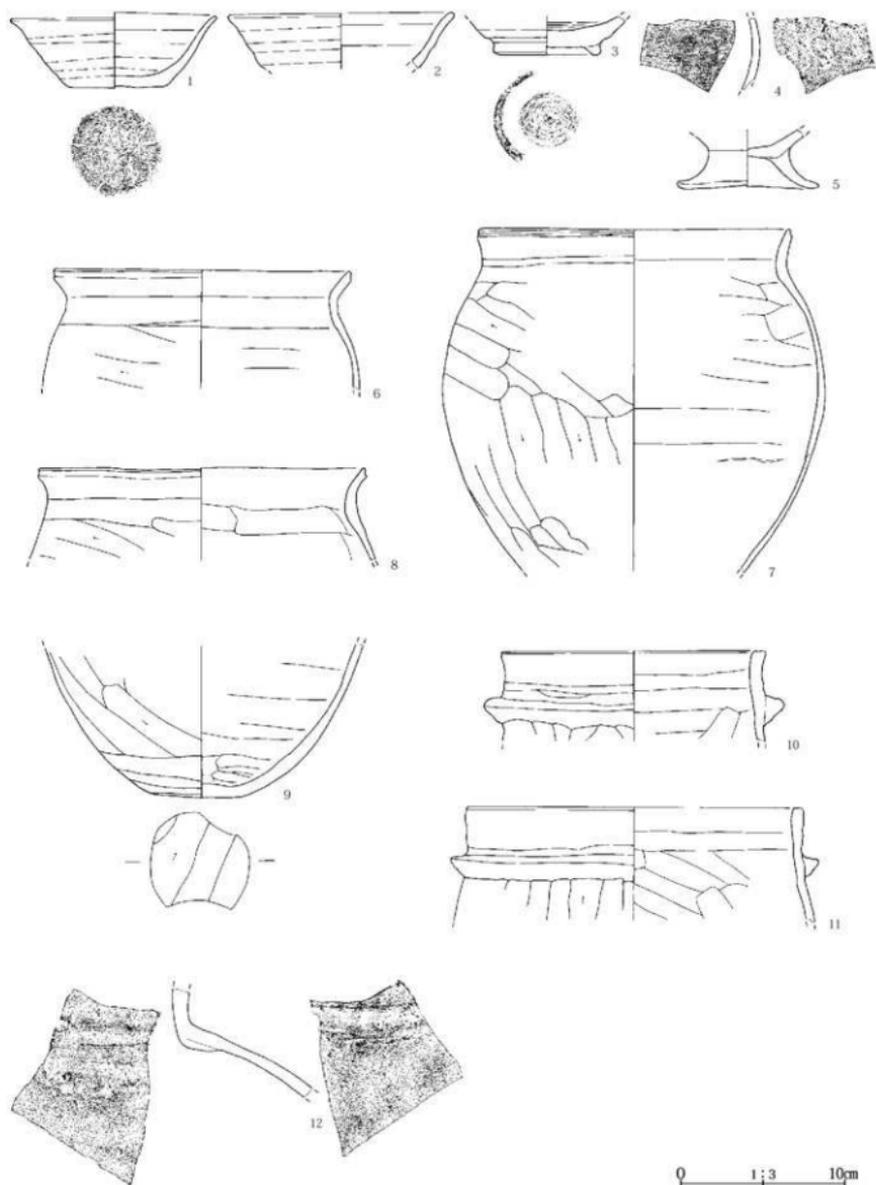


5号竪穴建物カマド

- 1 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FAブロックを少量含む。褐色、炭化物中量含む。粒子を含む。φ3～5mmのHr-FA粒を5%含む。締まり少しあり。
- 1' 黒褐色土(10YR3/1)締りあり、粘性なし。褐色粒子、炭化物中量含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)焼土ブロック、灰、炭化物を中量含む。締まりややあり。粘性なし。
- 3 褐色土(10YR4/1)締まりなし、粘性なし。
- 4 黒褐色土(10YR3/1)締まりなし、粘性なし。
- 5 黄褐色土(10YR5/3)粘土ブロックを中量含む。炭化物、灰を少量含む。締まりややあり、粘性なし。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR4/3)Hr-FA粒、ブロックを含む。焼土粒を少量含む。
- 7 暗褐色土(10YR3/3)Hr-FAブロック、暗褐色土ブロックを含む。
- 8 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒、黄褐色粒を少量含む。粘性あり。

第65図 5号竪穴建物(2)

第3章 発掘された遺構と遺物



第66図 5号竪穴建物出土遺物

6号竪穴建物(第67～71図、PL.18・75・76)

位置 1区中央部

座標値 X=62753～62758、Y=-85318～-85325

遺存状況 建物の北側半分が調査範囲外に延びている。

重複 1号溝が有り、建物の南壁を壊していることから1号溝が新しい。

形状 隅丸長方形

規模 長軸(2.92)m、短軸5.83m

長軸方向 S-72°-E

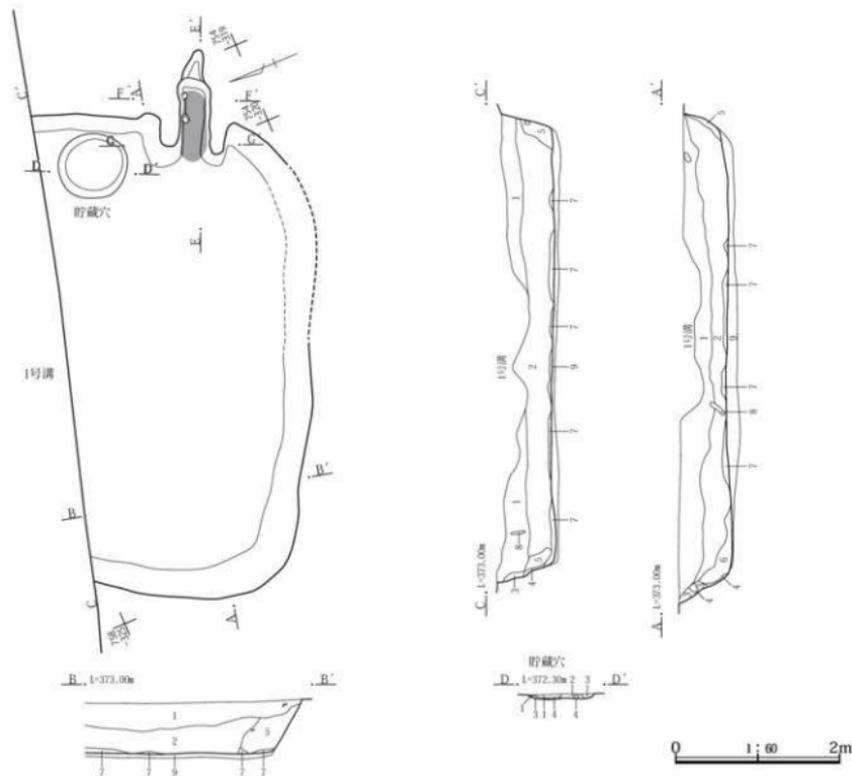
床面積 (13.36)m²以上

床・壁・壁溝 壁面の残存は良好で立ち上がる。壁溝は確認出来なかった。南壁から東壁にやや斜向する。壁高は南東隅で約45cm、他も約60cm程度とやや深い。床面に

は、硬化面がほとんど認められなかった。

埋没土 上層にふい黄褐色土を主体とした暗褐色土、下層に黒褐色土が堆積していた。

カマド 東壁の南東隅寄りに位置し、両袖は石を用いて構築されており、煙道部から煙出し部分にかけては大小の石を用いて、煙の抜ける通路を確保している。煙道の両脇の壁に石を並べて、その上にブリッジ状に細長い石を設置することでアーチを作り出している。左袖の北側には貯蔵穴が存在する。燃烧部は深さ3～5cmの浅い掘り方の上に構築されている。その燃烧部の掘り方の北壁部分に4～5個の小型の石を埋没させることで、燃烧部の空間の確保を図っていたようである。また、南壁の際に大型の楕円形の床下土坑が存在する。



第67図 6号竪穴建物(1)

第3章 発掘された遺構と遺物

貯蔵穴 カマドの左袖手前の東壁寄りに位置し、円形を呈する。

柱穴等 確認されなかった。

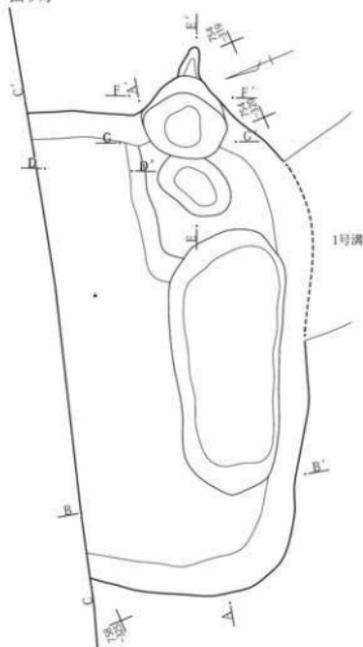
掘り方 床面下約5cm以下と浅く、顕著な貼り床は認められなかった。

遺物 カマドの燃焼部内と床面に散乱した状態での出土である。土師器、須恵器などが出土している。そのうち図示したものは土師器と須恵器と金属製品の15点である。土器では4の須恵器杯が床面、5の土師器台付甕がカマド内から6～10の土師器甕がカマドや床面、貯蔵穴から出土している。この他、埋没土などから出土した1～3の須恵器杯も4と同様または近い形態であること

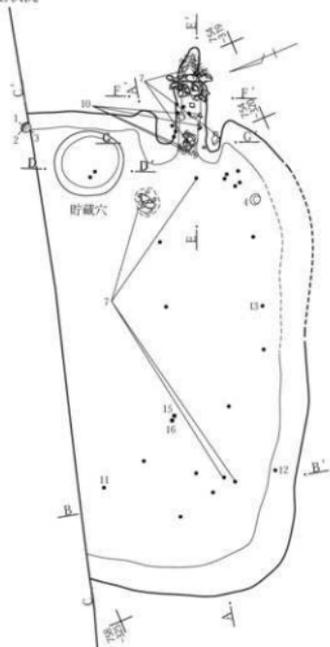
から共存しても齟齬はない。なお、12の土師器杯、13の須恵器杯はその出土位置や8世紀前半から第3四半期の年代観が与えられることから埋没過程後に混入したとみられる。

時期 床面やカマドから出土した須恵器杯が底部は回転系切り無調整であるが、口縁部の開きが小さいことや土師器甕がコの字状口縁に近いが定型した形態より前段階であることから、時期は8世紀末から9世紀前半に比定される。

掘り方



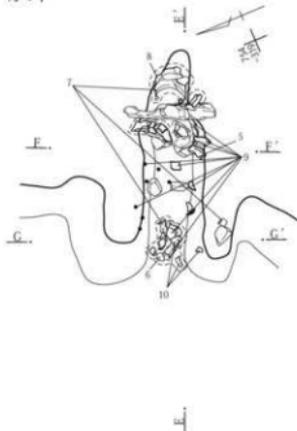
遺物出土状況



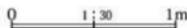
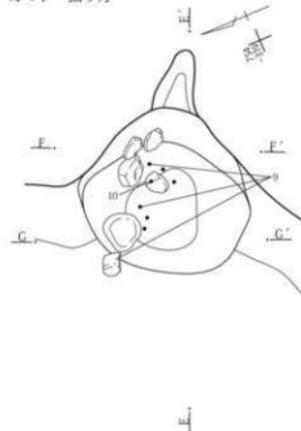
0 1:60 2m

第68図 6号貯蔵穴建物(2)

カマド



カマド 掘り方



6号竪穴建物

- 1 にぶい黄褐色土(10YR7/2)Hr-FA粒・灰ブロックを多量に含む。黄褐色粒、棕色粒を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR6/2)Hr-FA粒・灰ブロック、黄褐色粒、棕色粒を多量に含む。暗褐色土ブロックを含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FAブロックを少量含む。
- 4 黒色土(10YR2/1)黒色粘質土主体。僅かにHr-FA粒を含む。
- 5 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色粒、棕色粒を多量に含む。Hr-FAブロック、暗褐色土ブロックを含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒、黄褐色粒を含む。やや粘性あり。
- 7 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色粒、棕色粒を含む。Hr-FAブロック、黒褐色土ブロックを少量含む。
- 8 黒褐色土(10YR3/1)黒褐色ブロック主体。Hr-FA粒を少量含む。
- 9 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色粒、棕色粒を多量に含む。Hr-FA粒・灰ブロックを少量含む。

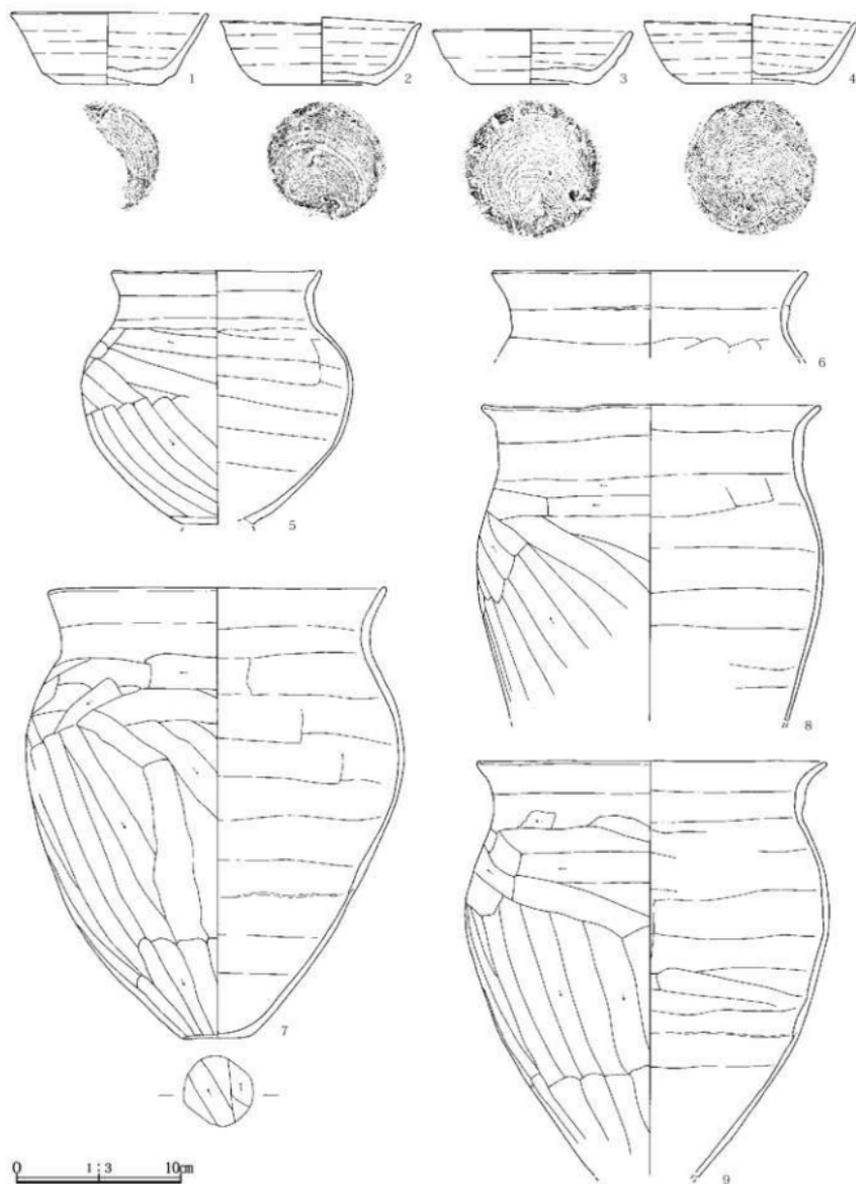
6号竪穴建物貯蔵穴

- 1 暗褐色土(10YR3/3)Hr-FA灰ブロック、黄褐色粒を含む。締りあり。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA灰ブロックを少量含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)黄褐色粒、棕色粒を含む。
- 4 黄褐色土(10YR8/6)黄褐色粒ブロック主体。

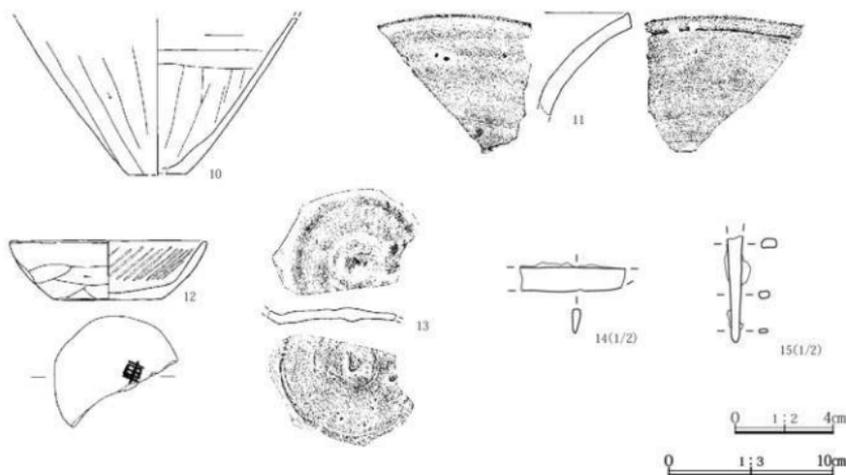
6号竪穴建物カマド

- 1 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒子、 $\phi 1 \sim 2$ mmの白色軽石、黄褐色粒を全体に含むHr-FA粒を少量含む。やや締りあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)Hr-FA砂粒、黄褐色粒を含む。締りあり。
- 3 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色粒、棕色粒を含む。Hr-FA灰ブロックを少量含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/1)黄褐色粒、棕色粒を含む。焼土粒、ブロックを含む。
- 5 暗褐色土(10YR3/4)焼土粒・ブロック、黄褐色粒を多量に含む。締りあり。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR7/2)Hr-FA粒、黄褐色粒、棕色粒を含む。
- 7 黄褐色土(10YR5/8)黄褐色粒、棕色粒を含む。焼土粒を少量含む。
- 8 暗褐色土(10YR3/4)黄褐色粒を含む。やや粘性あり。
- 9 灰黄褐色土(10YR4/2)黄褐色粒、棕色粒を多量に含む。Hr-FA粒を少量含む。締りあり。
- 10 黒褐色土(10YR3/1)黄褐色粒、棕色粒、焼土粒、ブロックを含む。
- 11 黄褐色土(10YR8/6)黄褐色粒ブロック。
- 12 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色粒、棕色粒、焼土粒・ブロックを含む。

第60図 6号竪穴建物(3)



第70図 6号竪穴建物出土遺物(1)



第71図 6号竪穴建物出土遺物(2)

7号竪穴建物(第72～75図、PL.19・76)

位置 1区東部

座標値 X=62734～62739、Y=-85304～-85308

遺存状況 ほぼ完形

重複 7号竪穴建物が8号竪穴建物の北東隅部分を壊している。7号竪穴建物が新しく、8号竪穴建物が古い。

形状 隅丸長方形

規模 長軸4.40m、短軸約3.79m

長軸方向 N-74°-W

床面積 12.50㎡

床・壁・壁溝 壁面の残存は良好で、やや緩やかに立ち上がる。南壁から東壁にやや斜辺となる。壁高は最も深い南東隅で約40cm、他も約30cm程度と深い。床面には、カマド燃焼部の手前から焼土の分布が南側半分に広がっている。硬化面がほとんど認められなかった。壁溝は確認出来なかった。

埋没土 ほぼ黒褐色土を主体とし、一部に暗褐色土を含む。基本土層V層を中心にHr-FA粒を僅かに含んでいた。

カマド カマドは西壁の中央部からやや南寄りに位置し、両袖の構築もしっかりしておらず、燃焼部は深さ3～5cmの浅い掘り方の上に構築されている。掘り方も燃焼部分の下がやや浅く不規則に掘り込まれている。

貯蔵穴 カマドの左袖より南側の南西隅付近に検出された。この貯蔵穴周辺から東壁際にかけて小型の石が建物の壁に沿って存在する。また、東壁際にはほぼ小型の楕円形で貯蔵穴が検出されている。

柱穴等 確認出来なかった。

掘り方 床面下5cm以下の深さで、貼り床は認められなかった。埋床下土坑は1～4号が北東隅付近や中央部から南部分に確認されたが、それぞれ共に非常に浅く、柱穴と考えられる資料は無かった。

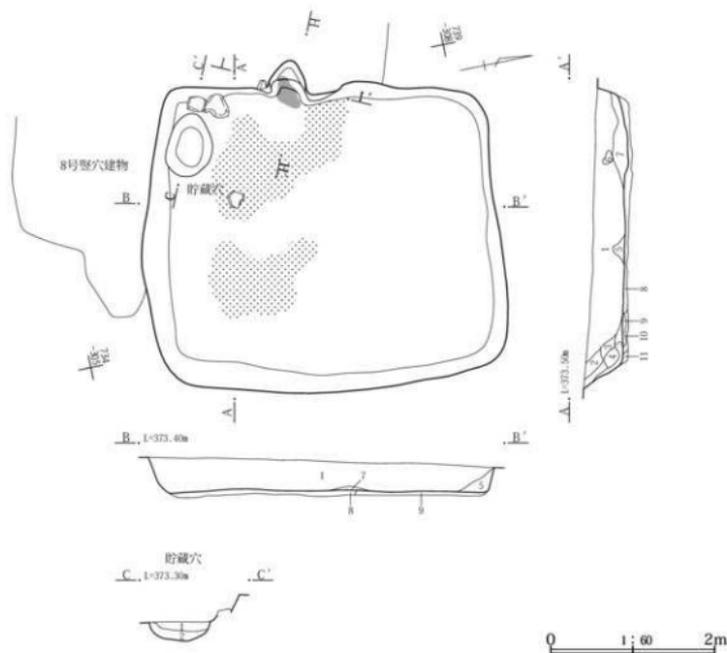
遺物出土状況 遺物の出土量は多くないが、カマドの燃焼部内から建物の南側半分と床下土坑内から出土している。

遺物 土師器、須恵器などが出土している。そのうち図示したものは土師器や須恵器など12点である。土器では1・3の須恵器無台碗、5・6の須恵器碗が床面・貯蔵穴、9～11の土師器甕が床面・貯蔵穴から出土しており、8号竪穴建物と共存する。その他、埋没土などから出土した2・7の須恵器無台碗、12の土師器甕もその形態から共存しても齟齬はない。なお、3の須恵器無台碗の内面底部には吉祥文字である「富」が二文字墨書されていた。

時期 床面や貯蔵穴から出土した須恵器無台碗が酸化

始焼成で口縁部が外反し、土師器は腹部がやや内傾するコの字状口縁であることから9世紀第4四半期の年代

観が与えられる。



7号型穴建物

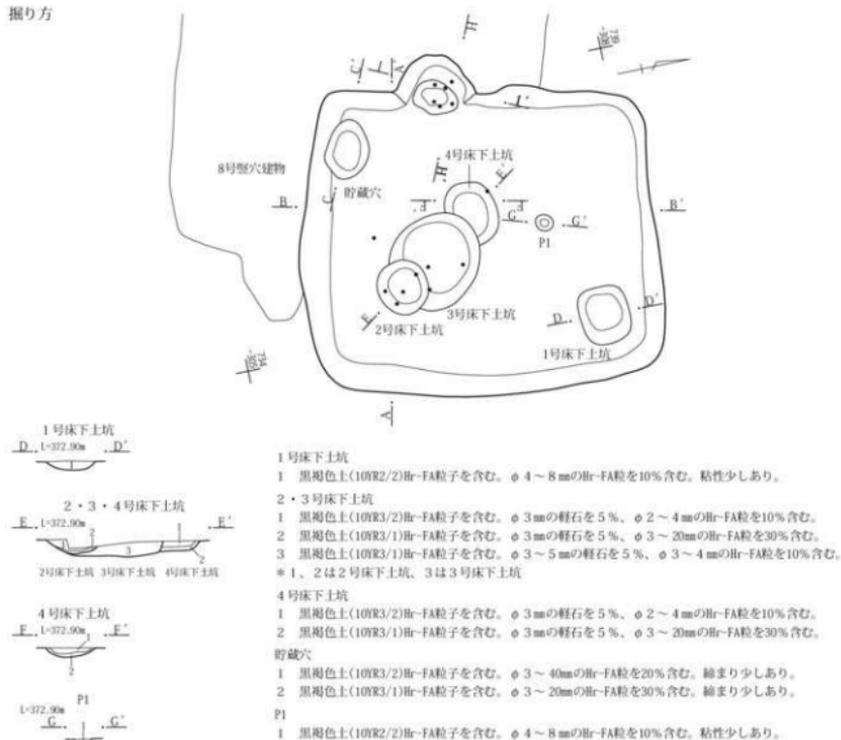
- 1 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ4～7mmの軽石5%、φ2～10mmのHr-FA粒を10%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ3～5mmのHr-FA粒を10%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ4～6mmのHr-FA粒を5%含む。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR7/3)Hr-FA粒子を含む。φ2～20mmのHr-FA粒を20%、Hr-FAブロックを含む。
- 5 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒子を含む。φ3～4mmのHr-FA粒を10%含む。粘性少しあり。
- 6 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を多く含む。φ2～7mmのHr-FA粒を20%含む。
- 7 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を多く含む。φ3～6mmのHr-FA粒を20%含む。Hr-FAブロックを含む。
- 8 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ3～20mmのHr-FA粒を20%含む。
- 9 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ3～5mmのHr-FA粒を5%含む。
- 10 黒褐色土(10YR2/1)Hr-FA粒子を少量含む。
- 11 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒子を含む。φ3～5mmのHr-FA粒を10%含む。

貯蔵穴

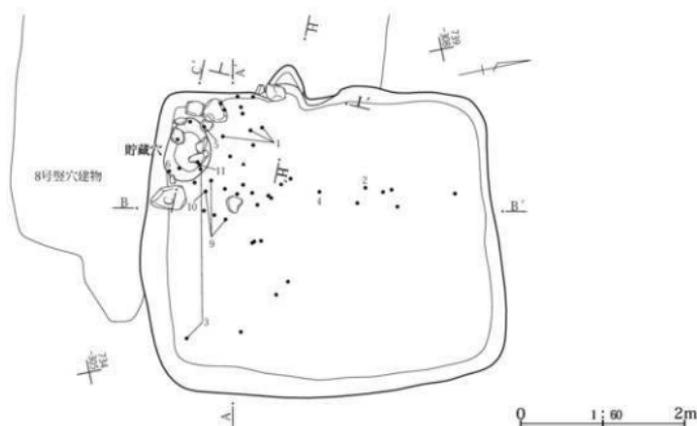
- 1 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ3～40mmのHr-FA粒を20%含む。締まり少しあり。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ3～20mmのHr-FA粒を30%含む。締まり少しあり。

第72図 7号型穴建物(1)

掘り方



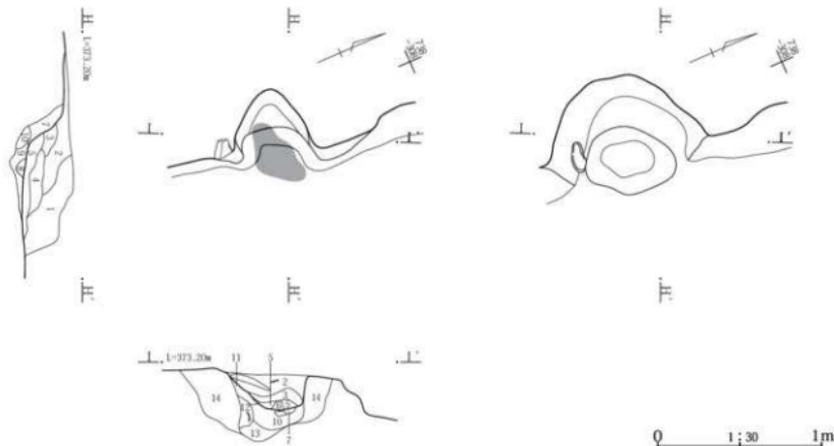
遺物出土状況



第73図 7号型穴建物(2)

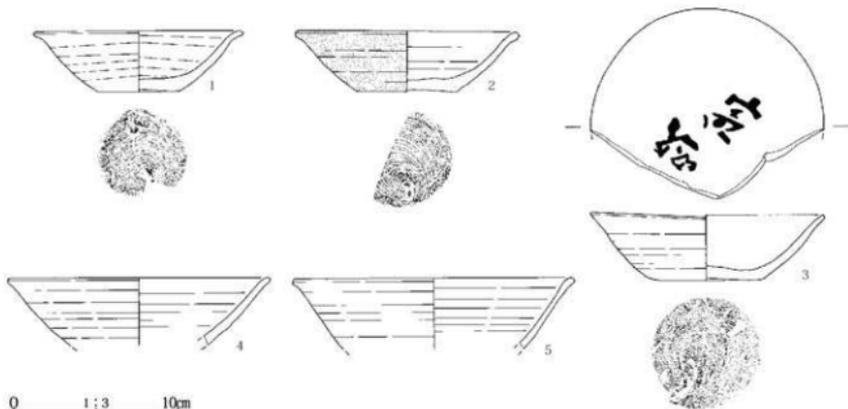
カマド

カマド 掘り方

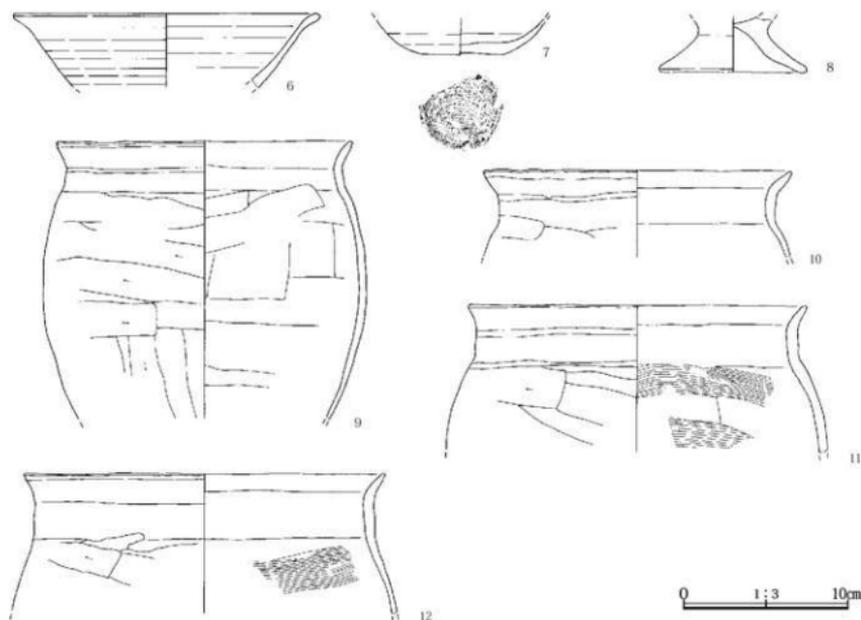


7号竪穴建物カマド

- 1 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ3mmの軽石5%、φ2~4mmのHr-FA粒を10%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ2~10mmのHr-FA粒を20%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ4~6mmのHr-FA粒を40%含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ4mmのHr-FA粒を5%含む。粘性少しあり。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ3~5mmのHr-FA粒を40%、φ1mmの焼土粒を5%含む。
- 6 浅黄褐色土(10YR8/3)Hr-FAブロックを含む。
- 7 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ2~4mmのHr-FA粒を5%含む。
- 8 灰黄褐色土(10YR4/2)Hr-FA粒子を多く含む。φ2~4mmの焼土粒を10%含む。粘性少しあり。
- 9 灰黄褐色土(10YR4/2)Hr-FA粒子を多く含む。φ2~4mmのHr-FA粒を5%、φ3~20mmの焼土粒を10%含む。
- 10 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ2~3mmの焼土粒を10%含む。
- 11 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ2~20mmのHr-FA粒を5%含む。締まり少しあり。
- 12 灰黄褐色土(10YR4/2)Hr-FA粒子を含む。φ3~5mmのHr-FA粒を5%、φ3~20mmの焼土粒を10%含む。
- 13 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ2~5mmのHr-FA粒を5%含む。粘性少しあり。
- 14 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ3~6mmのHr-FA粒を30%含む。締まり少しあり。



第74図 7号竪穴建物(3)、出土遺物(1)



第75図 7号竪穴建物出土遺物(2)

8号竪穴建物(第76～80図、PL.19～21・77)

位置 1区北西部

座標値 X=62733～62738、Y=-85305～-85310

遺存状況 建物の北東隅半分が僅かに調査範囲外に延びている。

重複 8号竪穴建物の北東隅部分が7号竪穴建物に壊されている。8号竪穴建物が古く、7号竪穴建物が新しい。

形状 隅丸長方形

規模 長軸4.40m、短軸3.60m

長軸方向 S-74°-W

床面積 11.97㎡

床・壁・壁溝 壁面の残存は良好で立ち上がる。壁溝と柱穴は確認出来なかった。北壁がやや斜辺となる。壁高は南東隅で約70cm、他も約60cm程度とかなり深い。床面には、締りがややありとのことで硬化面の存在が僅かに認められた。

埋没土 黒褐色土を主体とした層が中心で堆積していた。

カマド 左右袖部分に礫が認められ、石組みカマドの可能性が高い。さらに、煙道部と煙出し部分に扁平な楕円礫を被せている。また、カマドの燃焼部から煙道部分にかけて10～30%の焼土を含み、燃焼部は深さ3～5cmの浅い掘り方埋没土が存在し、掘り込み穴が確認されている。掘り方部分でも、両袖部分と煙道部分の両脇に石を埋め込んだ穴が残されている。

貯蔵穴 床面検出の状態では確認されなかったが、床下で確認された1～3号床下土坑が該当するかも知れない。

柱穴等 確認されなかった。

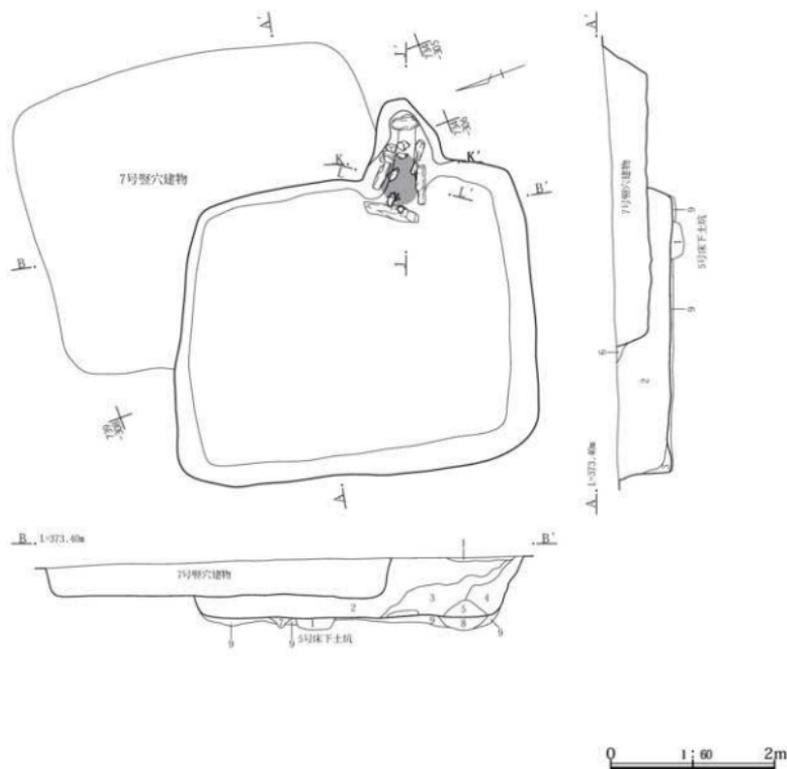
掘り方 床面の掘り方の深さは、床面下5cm以下である。

遺物 遺物は多くはないものの、土師器、須恵器、金属製品などが主に南側半分から出土している。そのうち図示したものは19点と多いが、確実に共伴すると認めら

第3章 発掘された遺構と遺物

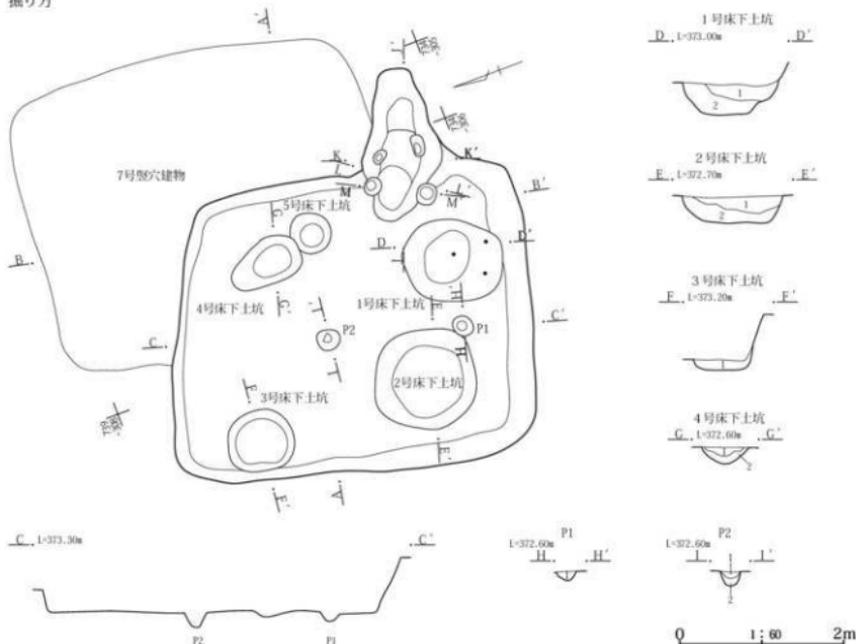
れる位置から出土しているものは、床面から出土した3の土師器杯、掘り方から出土した10の須恵器杯、カマドから出土した15・16の土師器甕の5点だけで、その他は床面より10～53cm上からと埋没土中からである。この中では形態から共伴しても鑑別がないものは5の須恵器杯蓋、11の須恵器杯、12の須恵器椀、13の須恵器鉢、14の土師器甕である。なお、14の土師器甕の胴部上位には白色の付着物が残存していた。

時期 床面、掘り方、カマドから出土した土師器杯、須恵器杯、土師器甕の年代観から求められることになる。これらの土器は残存状態が不良などで不明な点はあるが、15の土師器甕は胴部上位のヘラ削りが斜め方向であることから7世紀後半の年代観が与えられる。3の土師器杯は整形に簡素さが見られるが形態からは8世紀前半の年代観が与えられる。これらから、8号竪穴建物の時期は7世紀後半から8世紀前半に比定するのが妥当とみられる。



第76図 8号竪穴建物(1)

掘り方



8号壑穴建物

- 1 黒褐色上(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。締まり少しあり。
- 2 黒褐色上(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ3~5mmの軽石を5%、φ2~5mmのHr-FA粒を10%含む。締まり少しあり。
- 3 黒褐色上(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ3~5mmの軽石を5%、φ2~7mmのHr-FA粒を20%含む。締まり少しあり。
- 4 暗褐色上(10YR3/3)Hr-FA粒子を多く含む。φ3~5mmの軽石を5%、φ3~20mmのHr-FA粒を30%含む。
- 5 黒褐色上(10YR2/2)Hr-FA粒子を含む。φ2mmのHr-FA粒を5%、φ2mmの焼土粒5%含む。粘性少しあり。
- 6 黒褐色上(10YR3/1)Hr-FA粒子を多く含む。φ3~6mmのHr-FA粒を20%含む。Hr-FAブロックを含む。
- 7 黒褐色上(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ2~20mmのHr-FA粒を20%、φ2~7mmの焼土粒を10%含む。
- 8 黒褐色上(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ2~4mmのHr-FA粒を10%、φ3~7mmの焼土粒を10%含む。
- 9 黒褐色上(10YR2/1)Hr-FA粒子を含む。φ2mmのHr-FA粒を5%含む。粘性あり。

1号床下土坑

- 1 黒褐色上(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ3~7mmの軽石を10%、φ4~15mmのHr-FA粒を20%含む。粘性少しあり。
- 2 黒褐色上(10YR3/2)Hr-FA粒子を多く含む。φ3~20mmのHr-FA粒を30%、φ3~5mmの焼土粒を5%含む。

2号床下土坑

- 1 黒褐色上(10YR2/1)Hr-FA粒子を含む。φ3~5mmの軽石を5%、φ2~8mmのHr-FA粒を5%含む。粘性少しあり。
- 2 黒褐色上(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ2~5mmの軽石を5%、φ3~8mmのHr-FA粒を30%、φ3mmの焼土粒を5%含む。

3号床下土坑

- 1 黒褐色上(10YR2/1)Hr-FA粒子を含む。φ2~4mmのHr-FA粒を5%含む。Hr-FAブロックを含む。粘性あり。

4号床下土坑

- 1 黒褐色上(10YR2/2)Hr-FA粒子を含む。φ2~3mmの軽石を5%、φ2~8mmのHr-FA粒を30%、φ3~5mmの焼土粒を10%含む。
- 2 黒褐色上(10YR2/2)Hr-FA粒子を含む。φ3~7mmのHr-FA粒を10%含む。粘性少しあり。

5号床下土坑

- 1 黒褐色上(10YR3/2)Hr-FA粒子を多く含む。φ2~20mmのHr-FA粒を20%、φ2~10mmの焼土粒を10%含む。

P1

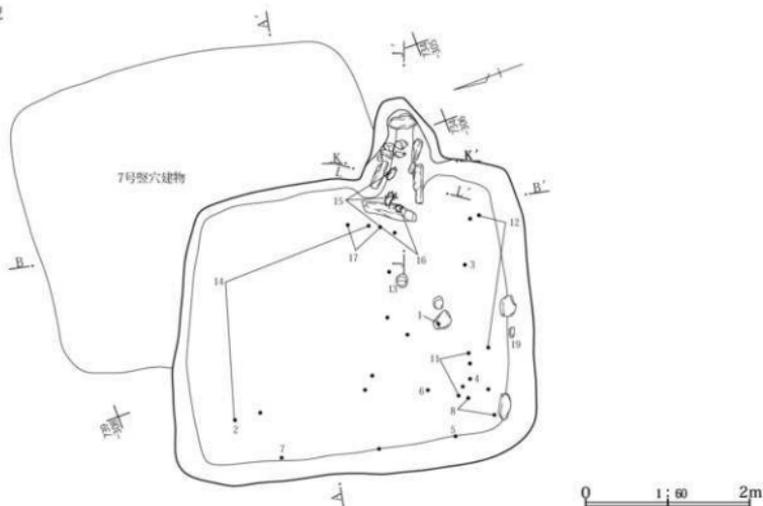
- 1 黒褐色上(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ2~10mmのHr-FA粒を10%含む。

P2

- 1 黒褐色上(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ2~10mmのHr-FA粒を10%含む。
- 2 黒褐色上(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ2~3mmのHr-FA粒を5%含む。

第77図 8号壑穴建物(2)

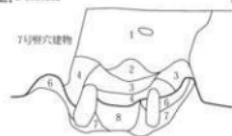
遺物出土状況



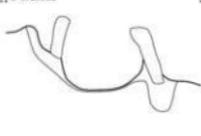
カマド



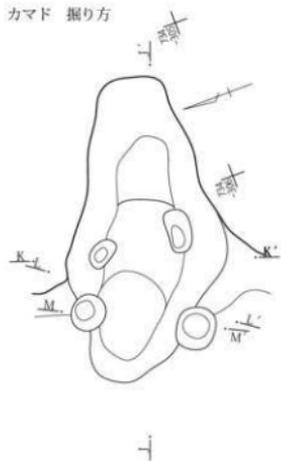
K., 1-373.30m



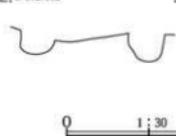
L., 1-372.90m



カマド 掘り方



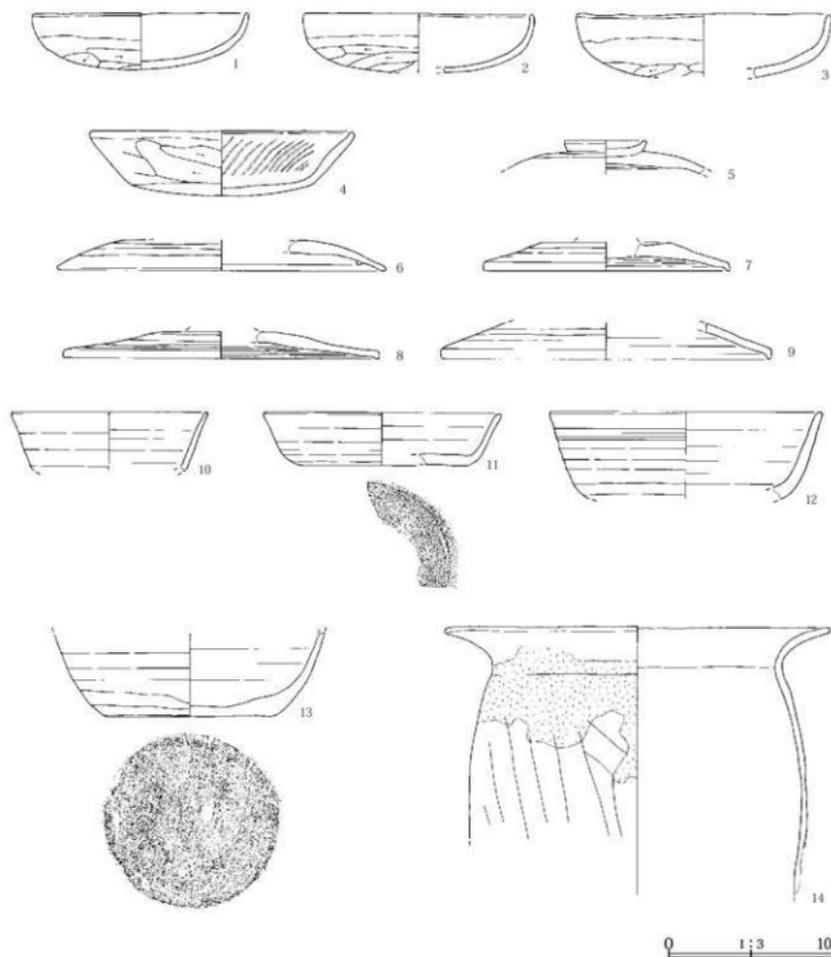
M., 1-372.60m



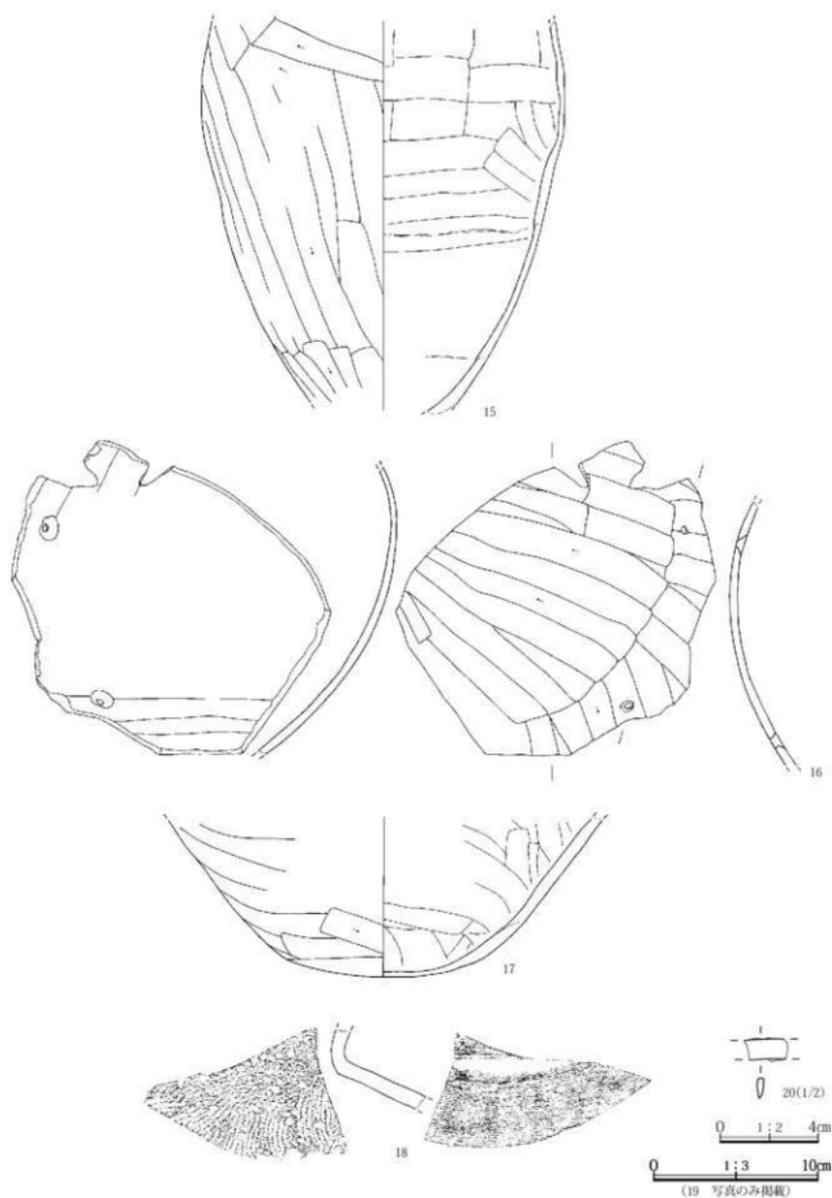
第78図 8号竪穴建物(3)

8号竪穴建物カマド

- 1 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ2～5mmの軽石を5%、φ4～8mmのHr-FA粒を5%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を多く含む。φ3～5mmのHr-FA粒を10%、φ2～4mmの焼土粒を10%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ3～5mmのHr-FA粒を5%、φ2～4mmの焼土粒を20%含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を多く含む。φ8～10mmのHr-FA粒を20%、φ3～8mmの焼土粒を30%含む。
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2)Hr-FA粒子を多く含む。φ2mmの軽石を5%、φ3～30mmのHr-FA粒を10%含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ2～4mmのHr-FA粒を5%、φ3～7mmの焼土粒を10%含む。
- 7 にぶい黄褐色土(10YR4/3)Hr-FA粒子を多く含む。φ2～4mmのHr-FA粒を10%、φ2～4mmの焼土粒を10%含む。
- 8 褐色土(10YR4/6)Hr-FA粒子を多く含む。φ4～15mmのHr-FA粒を20%、φ3～20mmの焼土粒を30%含む。
- 9 黒褐色土(10YR2/1)Hr-FA粒子を含む。φ1mm程度の軽石層をブロック状に含む。粘性少しあり。



第79図 8号竪穴建物出土遺物(1)



第80図 8号竪穴建物出土遺物(2)

9号竪穴建物(第81・82図、PL.21)

位置 1区北西部

座標値 X=62730～62732、Y=-85303～-85307

遺存状況 建物の南側半分が調査範囲外に延びている。

重複 無し

形状 おそらくは隅丸長方形

規模 長軸4.42m、短軸(1.84)m以上

長軸方向 計測不可

床面積 (7.37)m以上

床・壁・壁溝 壁面の残存は良好で、直に近い傾斜で立ち上がる。壁溝は掘り方で北壁の一部に認められる。壁高は南東隅で約10～25cm程度とやや浅い。床面にはやや締りがあり、一部に硬化面が認められる。

埋設土 黒褐色土を主体として、一部に褐灰色土を含む。

カマド 東壁の南側の調査範囲外に存在すると推定される。

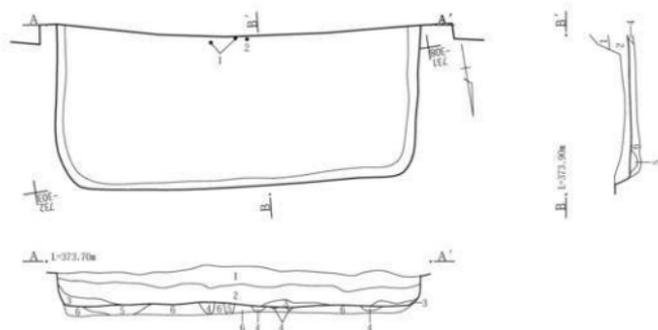
貯蔵穴 南側の調査範囲外に存在すると推定される。

柱穴等 無し

掘り方 床面下約5～10cm以下の深さで、埋設土は黒褐色土を主体とする。北壁際に壁溝と考えられる。

遺物 土師器、須恵器などが僅かに出土している。

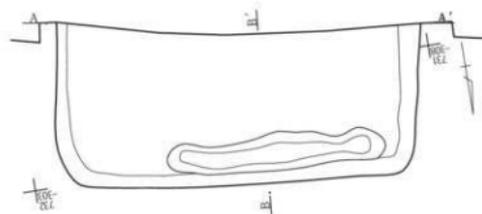
時期 土器から9世紀後半に比定される。



9号竪穴建物

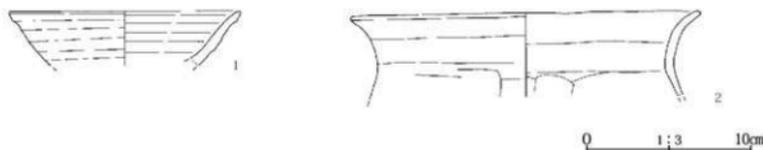
- 1 黒褐色土(10YR2/2)As-Kk混土。φ3～5mmの軽石10%。φ4～7mmのHr-FA粒を5%含む。締まり少しあり。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。φ3～6mmの軽石20%。φ3～10mmのHr-FA粒を30%含む。締まりあり。
- 3 黒褐色土(10YR2/2)As-Kk混土。φ3～4mmの軽石5%。φ3～4mmのHr-FA粒を5%含む。粘性あり。
- 4 黒褐色土(10YR3/1)φ10～30mmのHr-FA粒を40%含む。粘性少しあり。
- 5 褐灰色土(10YR4/1)Hr-FA粒子を含む土が軽粒に入る。φ5mmのHr-FA粒を5%含む。
- 6 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒子を含む。φ2～3mmのHr-FA粒を5%含む。粘性あり。

掘り方



第81図 9号竪穴建物

0 1:60 2m



第82図 9号竪穴建物出土遺物

10号竪穴建物(第83～87図、PL.22・78)

位置 1区北西部

座標値 X=62754～62757、Y=-85352～-85356

遺存状況 ほぼ完形

重複 無し

形状 隅丸長方形

規模 長軸3.53m、短軸3.3m

長軸方向 N-82°-E

床面積 (7.96)㎡

床・壁・壁溝 壁面の残存は良好で、垂直に近い状態で立ち上がる。壁溝は確認出来なかった。他の竪穴建物に比べて、かなり西に傾いている上に西壁から南壁にやや斜向する。壁高は南西隅で約60cm、他も約50cm程度とやや深い。床面には、硬化面がほとんど認められなかった。
埋没土 上層に灰黄褐色土を主体として黄橙色粒を多量に含み、下層は黒褐色土が堆積していた。

カマド 東壁のほぼ中央から南側に設置されている。両袖は共に幅広く東壁よりやや突出している。天井部には大型の礫を多用してブリッジ状に燃焼部を確保しているようであるが、かなり崩れた感がある。また、煙道の左右の壁に5個以上の扁平な石を用いて、煙の通り道を確保している。煙出し部分には石も無く、緩やかな傾斜で煙を外に運び出していたのであろう。掘り方で、煙道部の北壁側に楕円形の石を据えるための穴が3個、南側に2個が残存する。また、カマドの燃焼部前から床の中央部にかけて焼土が広がっている。燃焼部は深さ3～5cmの浅い掘り方の上に構築されている。

貯蔵穴 確認されなかった。

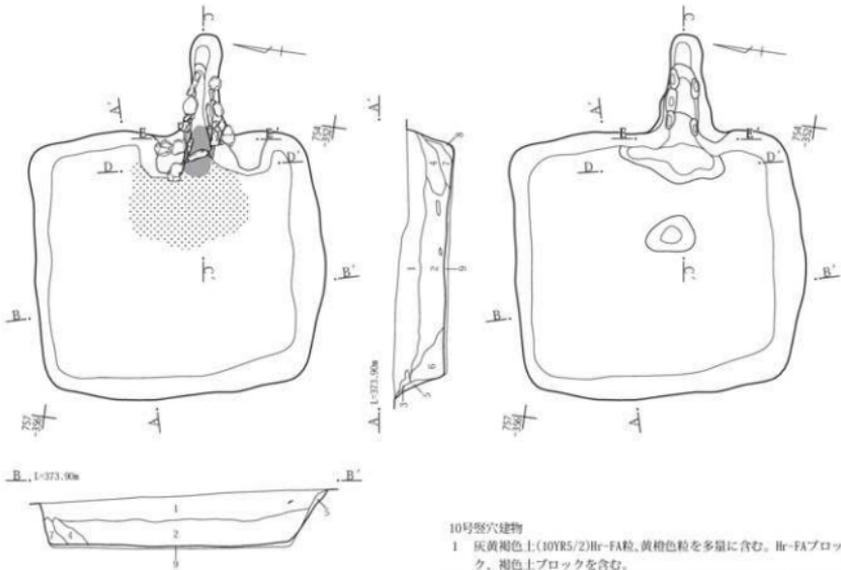
柱穴等 柱穴と考えられるビットが1基検出されたが、規模は長径6cm、短径4.5cm、深さ8cmである。

掘り方 床面下5cm以下の深さで、明確な貼り床は認められなかった。

遺物 南側半分に多量の礫と共に、遺物が分布している。遺物の出土量も多く、土師器、須恵器が出土している。そのうち図示したものは23点にも及ぶ。土器では1・5・8の土師器杯が床面とカマドから、11・12の須恵器杯がカマドから、13の須恵器盤もカマドから、17の須恵器壺もカマドから、19・20の土師器甕がカマドと床面から出土している。この他、埋没土などから出土した土師器杯、須恵器杯、14の須恵器高盤もその形態から共伴しても鑑別はない。なお、23の須恵器長頸壺は胴部にカキメが施され、やや古い様相もあるが、胴部がやや長い形態とみられ、8世紀後半以降の年代観が与えられることから混入品と判断した。

時期 床面やカマドから出土した土師器杯が口唇部内湾、土師器甕は胴部上位のへら削りが斜め方向であることなどから7世紀第4四半期の年代観が与えられるが、カマドから出土している11の須恵器杯の底部がほぼ平底であることから8世紀第1四半期の年代観が与えられ、7世紀第4四半期から8世紀第1四半期の間に比定できる。

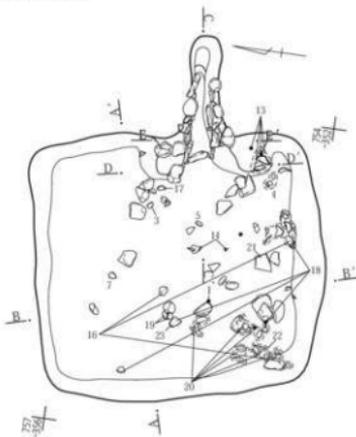
掘り方



10号整穴建物

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)Hr-FA粒・黄褐色粒を多量に含む。Hr-FAブロック、褐色土ブロックを含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒・ブロックを多量に含む。やや締りあり。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)Hr-FA砂粒子、Hr-FA粒を含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒・ブロックを多量に含む。φ20cm以上のHr-FAブロックが混在する。
- 5 黒色土(10YR2/1)Hr-FA粒を含む。粘性あり。
- 6 暗褐色土(10YR3/4)Hr-FA砂粒子を多量に含む。
- 7 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒・ブロックを多量に含む。Hr-FA砂粒子を少量含む。締りあり。
- 8 黒色土(10YR2/1)Hr-FA粒・ブロックを含む。僅かにHr-FA砂粒子を含む。やや粘性あり。
- 9 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FAブロックを含む。粘性あり。

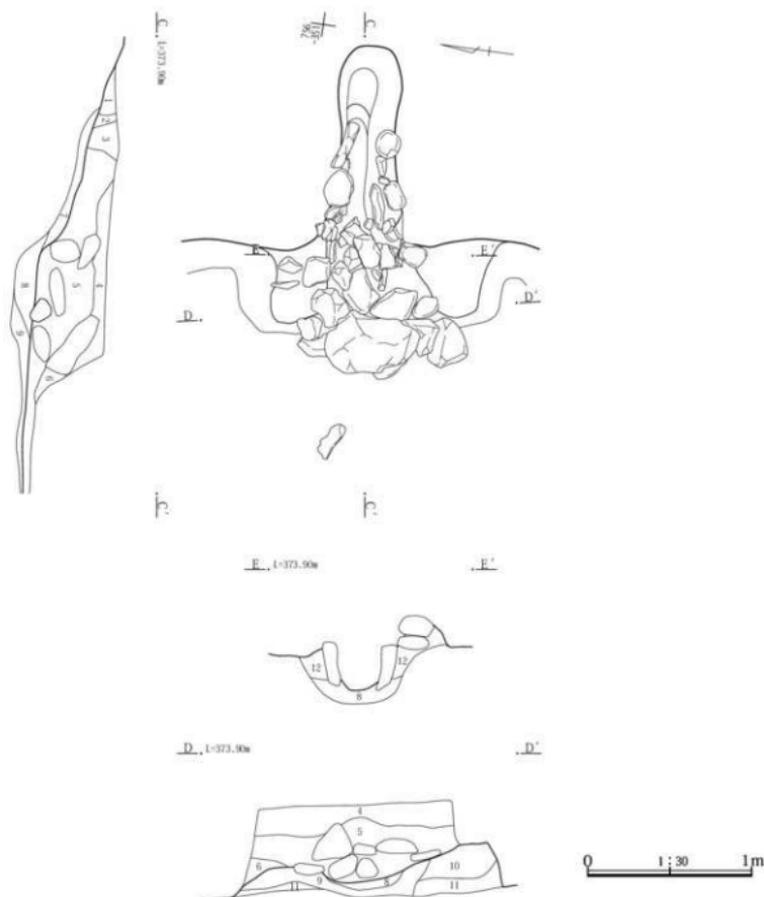
遺物出土状況



0 1:60 2m

第83図 10号整穴建物(1)

カマド

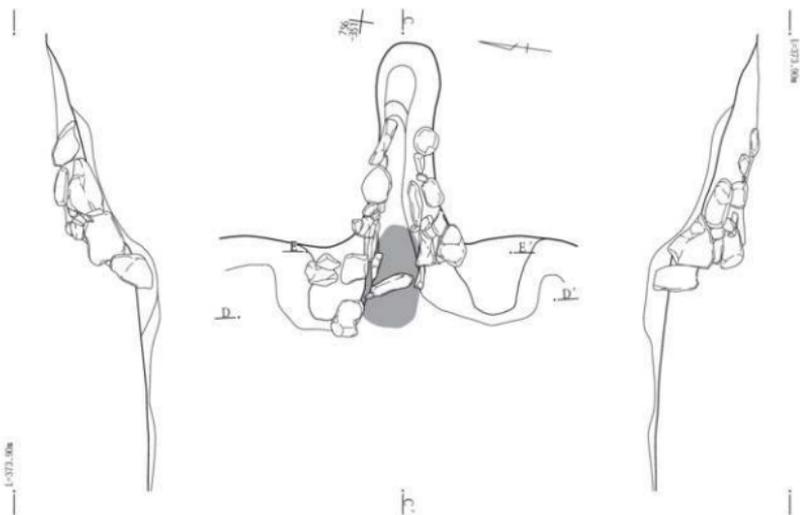


10号竪穴建物カマド

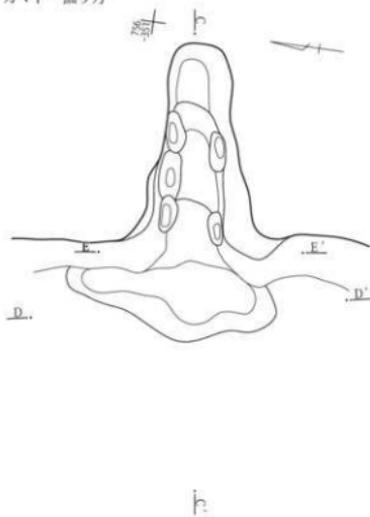
- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)Hr-FA粒・ブロックを含む。橙色粒を少量含む。
- 2 黄褐色土(10YR5/8)Hr-FA粒、橙色粒を含む。やや粘性あり。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)Hr-FA粒を含む。やや締りあり。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2)Hr-FA粒、細粒橙色粒を多量に含む。締りあり。
- 5 灰黄褐色土(10YR5/2)Hr-FA粒、細粒橙色粒を多量に含む。Hr-FAブロックを含む。僅かに焼土粒が混在する。締りあり。
- 6 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒を含む。粘性あり。
- 7 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒を少量含む。
- 8 暗褐色土(10YR3/3)Hr-FA粒・ブロックを含む。焼土粒を少量含む。
- 9 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒・ブロックを含む。やや粘性あり。
- 10 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒・ブロック、細粒白色粒を含む。締りあり。
- 11 黒色土(10YR2/1)の10~50mmのHr-FA粒ブロックが不整に混在する。
- 12 にぶい黄褐色土(10YR4/3)Hr-FA粒・ブロックを含む。褐色土ブロックを少量含む。締りあり。

第84図 10号竪穴建物(2)

カマド

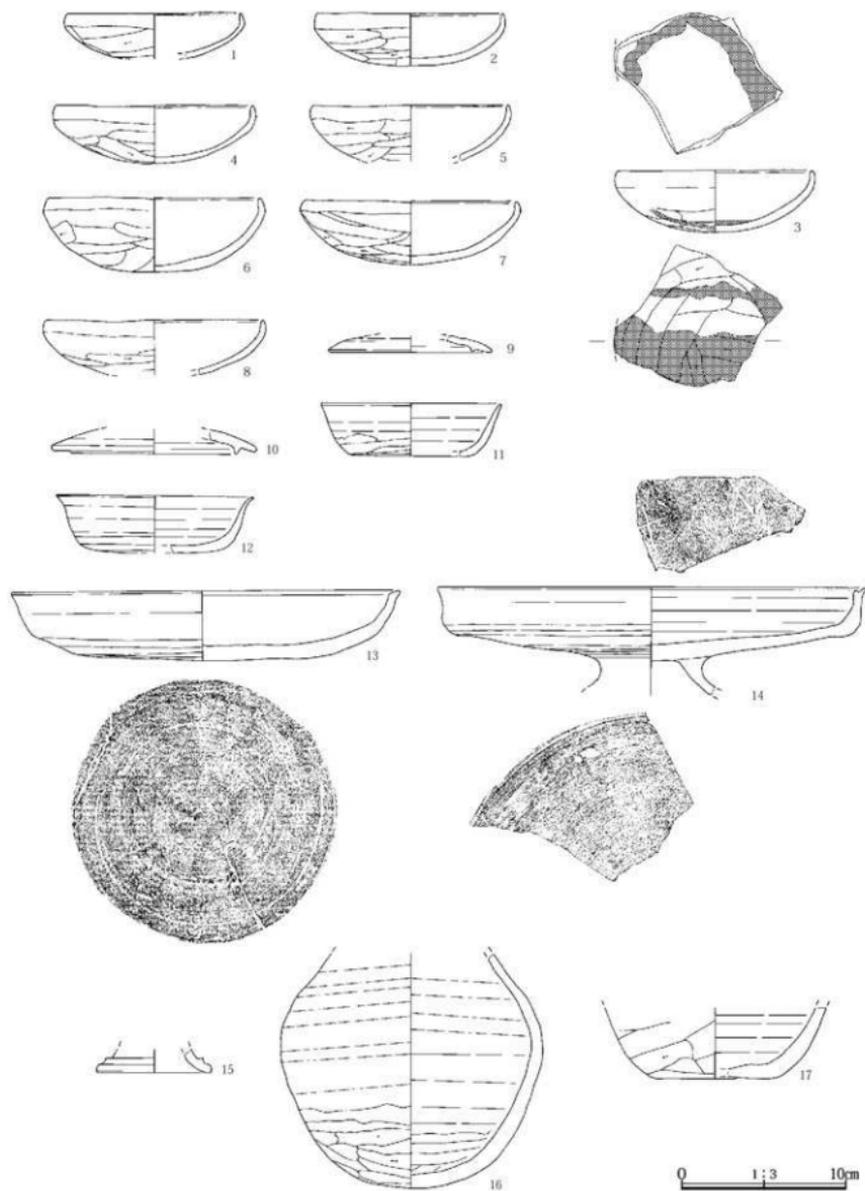


カマド 振り方

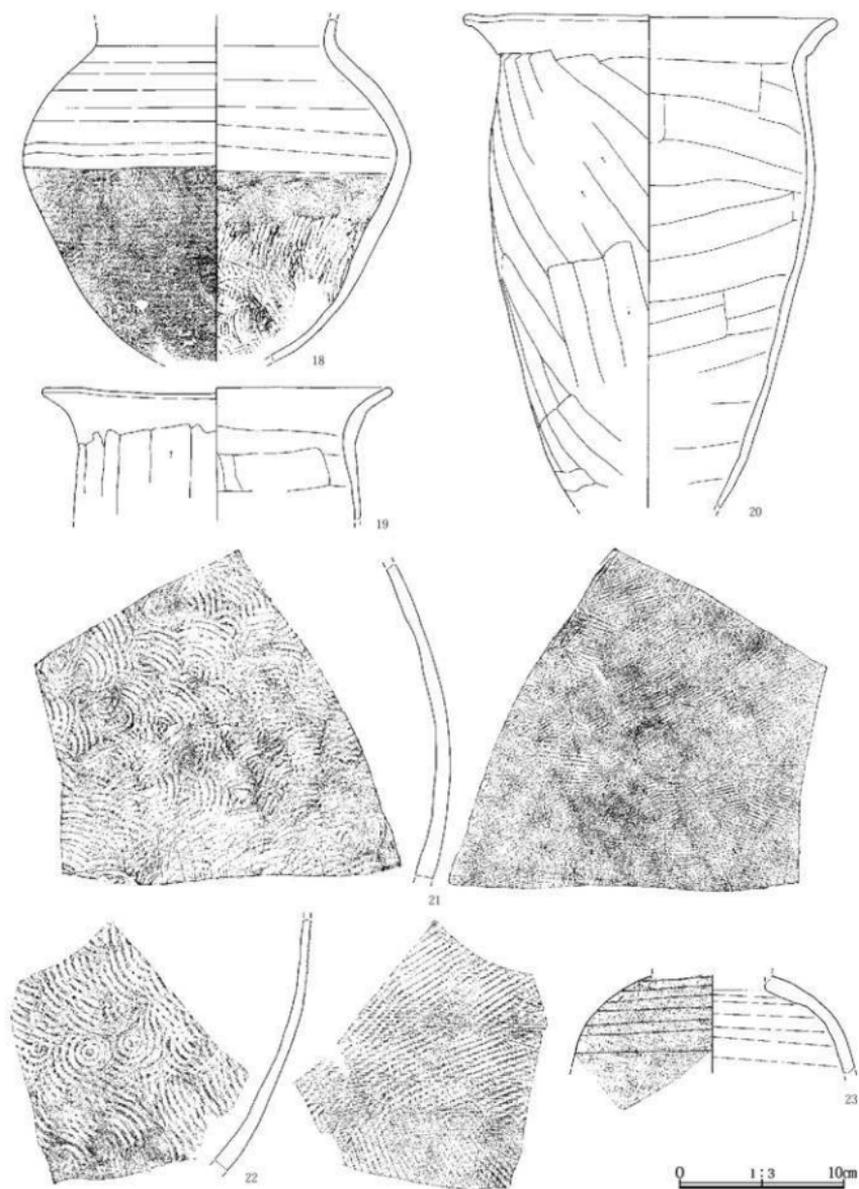


第85図 10号彫穴建物(3)

第3章 発掘された遺構と遺物



第86図 10号竪穴建物出土遺物(1)



第87図 10号竪穴建物出土遺物(2)

11号竪穴建物(第88・89図、PL.23・79)

位置 1区北西部

座標値 X=62748～62752、Y=-85348～-85352

遺存状況 ほぼ完形

重複 無し

形状 隅丸方形

規模 長軸3.66m、短軸3.45m

長軸方向 N-9°-W

床面積 9.13㎡

床・壁・壁溝 壁面の残存は良好で、やや緩やかに立ち上がる。壁溝と柱穴は確認出来なかった。南壁から東壁にやや斜辺となる。壁高は北で約50cm、他も約50cm程度とやや深い。床面には硬化面がほとんど認められなかった。

埋没土 上層に灰黄褐色土を主体に、下層には黒褐色土が堆積していた。

カマド 東壁のほぼ中央部からやや南に寄った位置に設置されている。両袖は共に幅広で東壁よりやや突出して

いる。煙道部分の両壁には扁平なやや大型の礫と小型の石が組み合わさって、壁を保護するように並んでおり、煙出し部分との境には特に大型の礫が設置されている。燃焼部から両袖の手前部分には焼土が薄く広がっている。燃焼部は深さ3～5cmの浅い掘り方の上に構築されており、両袖の部分には構築材としての大型の礫がしっかりと設置できるような楕円形の掘り込みがそれぞれ1個ずつ認められた。

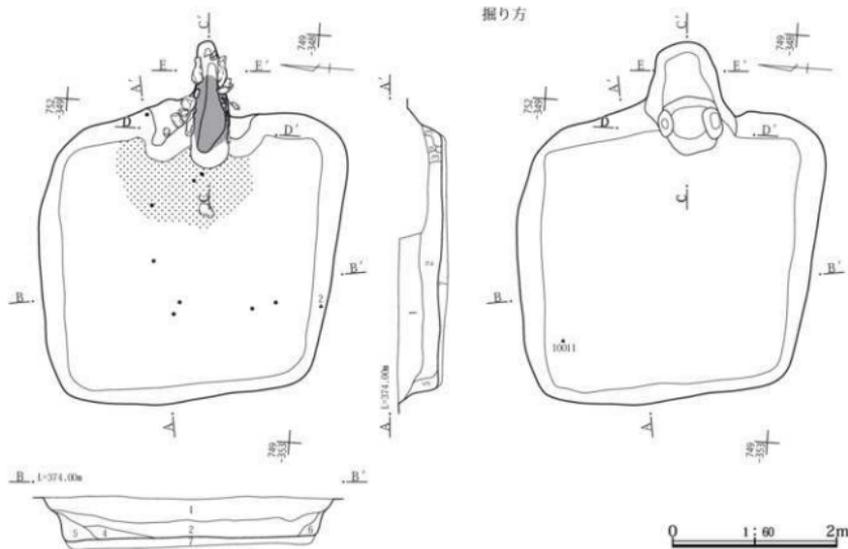
貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴等 確認されなかった。

掘り方 床面下5～10cm以下の深さで、しっかりとした貼り床は認められなかった。

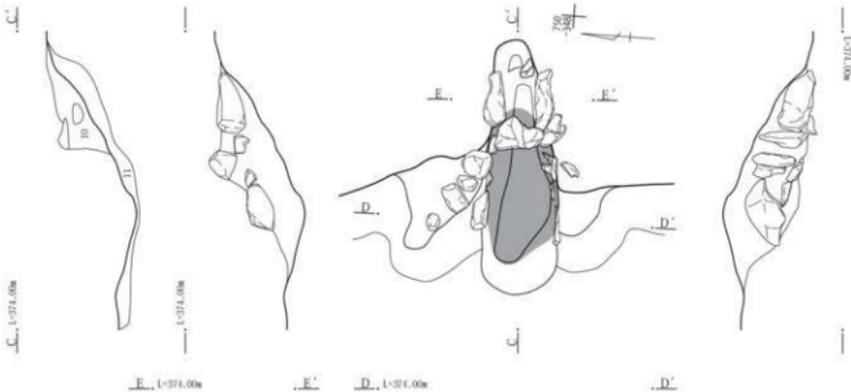
遺物 遺物の出土量は僅かで、中央部を中心に散布している。図示したものは僅かに土師器と石製品の2点である。1の土師器杯は掘り方から出土している。2は砥石である。

時期 土師器杯より7世紀後半～末に比定できる。

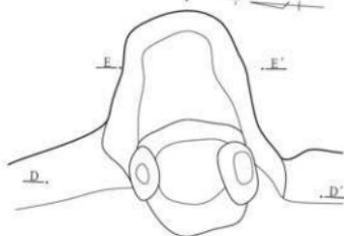


第88図 11号竪穴建物(1)

カマド



カマド 振り方

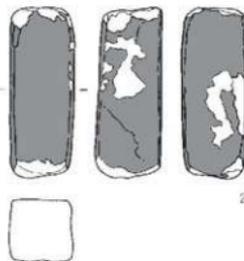


11号型穴建物

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)Hr-FA粒・Hr-FAブロック、黄褐色粒を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒・ブロックを含む。締りあり。
- 3 明黄褐色土(10YR7/6)Hr-FA灰層ブロック主体。
- 4 暗褐色土(10Y3/3)Hr-FA粒・ブロックを含む。黒褐色粘質土ブロックを少量含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒・Hr-FA灰層ブロックを多量を含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA砂粒を多量に含む。Hr-FAブロックを少量含む。
- 7 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒・ブロックを含む。やや粘性あり。

11号型穴建物カマド

- 10 褐色土(10YR3/3)Hr-FA砂粒、暗褐色土ブロックを含む。
- 11 にふい黄褐色土(10YR6/4)黄褐色粒を多量に含む。暗褐色土ブロックを含む。やや締りあり。
- 12 にふい黄褐色土(10YR5/4)黒褐色土ブロック、黄褐色粒を含む。
- 13 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA砂粒を少量含む。
- 14 明黄褐色土(10YR6/8)Hr-FA砂粒、灰層ブロック、黄褐色粒を含む。
- 15 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA砂粒、黄褐色粒を含む。



第89図 11号型穴建物(2)、出土遺物

12号竪穴建物(第90～96図、Pl.24・79・80)

位置 1区北西部

座標値 X=62774～62748、Y=-85345～-85350

遺存状況 ほぼ完形

重複 カマドの煙出し部分の先端が50号土坑に壊されており、50号土坑が新しい。

形状 隅丸長方形

規模 長軸4.09m、短軸3.61m

長軸方向 N-8°-E

床面積 (7.96)㎡

床・壁・壁溝 壁面の残存は良好で立ち上がる。壁高は西壁で約65cm、他も65cm程度とやや深い。南壁から東壁にかけてやや斜向する。床面には硬化面がほとんど認められなかった。掘り方の段階で、北壁と西壁の一部に確認されている。

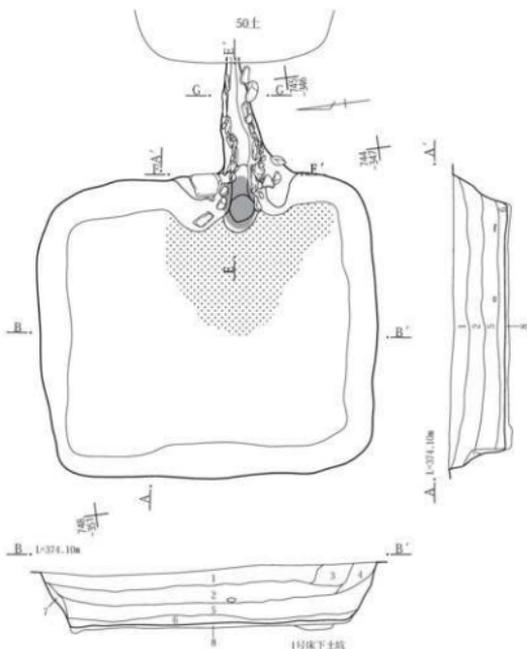
埋没土 上層から中層にかけては黄褐色粒を含む灰黄褐色土、下層に黒褐色土が堆積していた。

カマド 東壁の中央から南東隅寄りに設置されている。燃焼部から両袖の周辺に焼土が薄く広がっていた。両袖は共に幅広く東壁よりやや突出しており、袖から燃焼部、煙道部、さらには煙出し部にかけて小型やや扁平な楕円礫を用いて、壁の保護を強化するとともに、大型の石や礫を被せることで空間を確保し、緩やかな傾斜が煙の排出の手助けをしている。掘り方にも楕円形の穴がいくつもあり、おそらくはカマドの石を固定するための穴と考えられる。燃焼部は深さ10cm程の掘り方の上に構築されているが、しっかりとした貼付ではない。また、石や礫の出土も竪穴建物の南半分に多く、あるいはカマドの石組の崩落なのかも知れない。床面の掘り方では、北壁と西壁、それに東壁の一部に壁溝の痕跡と思われる細長い掘り込みが認められた。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴等 確認出来なかった。

掘り方 床面下5～10cm以下の深さで、しっかりとした



12号竪穴建物

- 1 灰黄褐色土(10YR6/2)Hr-FA粒・Hr-FAブロック、黄褐色粒を多量に含む。橙色粒を少量含む。締りあり。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2)Hr-FA粒・Hr-FAブロック、黄褐色粒を多量に含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR6/4)Hr-FA灰主体。Hr-FA粒を含む。締り弱い。
- 4 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒・Hr-FAブロック、黄褐色粒、橙色粒を含む。締りあり。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒を多量に含む。Hr-FA灰を含む。やや粘性あり。
- 6 黒色土(10YR2/1)Hr-FA粒・Hr-FAブロックを少量含む。粘性あり。
- 7 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒、黄褐色粒を含む。粘性あり。
- 8 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FAブロックを少量含む。粘性あり。

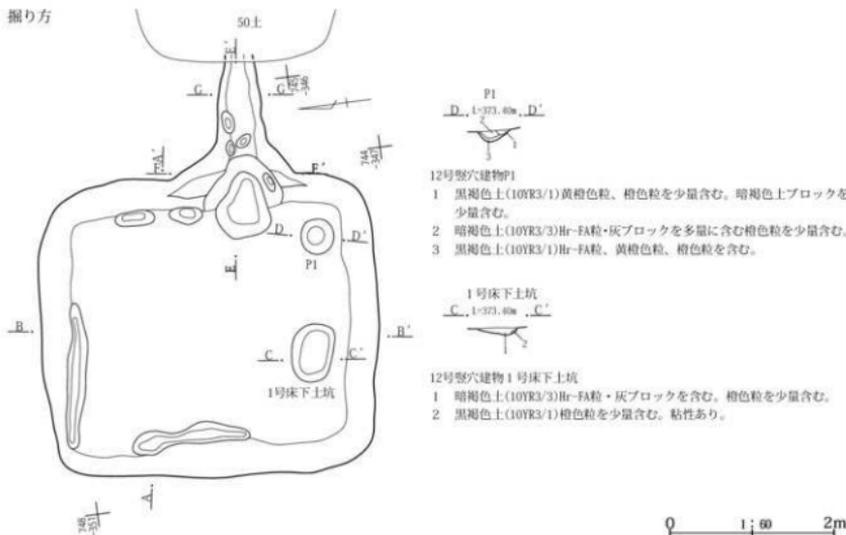
第90図 12号竪穴建物(1)

貼り床は認められなかった。また、南壁の際に楕円形の浅い床下土坑とピットが確認された。

遺物 一部の遺物がカマドや床面から出土しているが大部分は埋没土中からである。土器17点、金属製品1点を図示している。土器では1・2・3の土師器杯がカマドから、9～13の土師器甕がカマドや床面からの出土であり、12号竪穴建物と共存する。この他、3の土師器杯、5～8の須恵器瓶・壺も出土位置は床面からだいぶ離れた位置からの出土であるが、その形態から共存しても齟齬はない。また、14の須恵器大甕は掘り方、床面直上から床面より50cm上、覆土、2号竪穴建物をはじめ他遺構に及ぶ広範囲から出土しているが、12号竪穴建物から多くの破片が出土していることからこの竪穴建物に共存するものと考えられる。なお、この須恵器大甕については別項に記載した。このように、12号竪穴建物の時期は床面やカマドから出土した土師器杯、土師器甕の年代観か

ら比定できるが、これらの土器では形態や整形に相違があることから時間幅が想定できる。

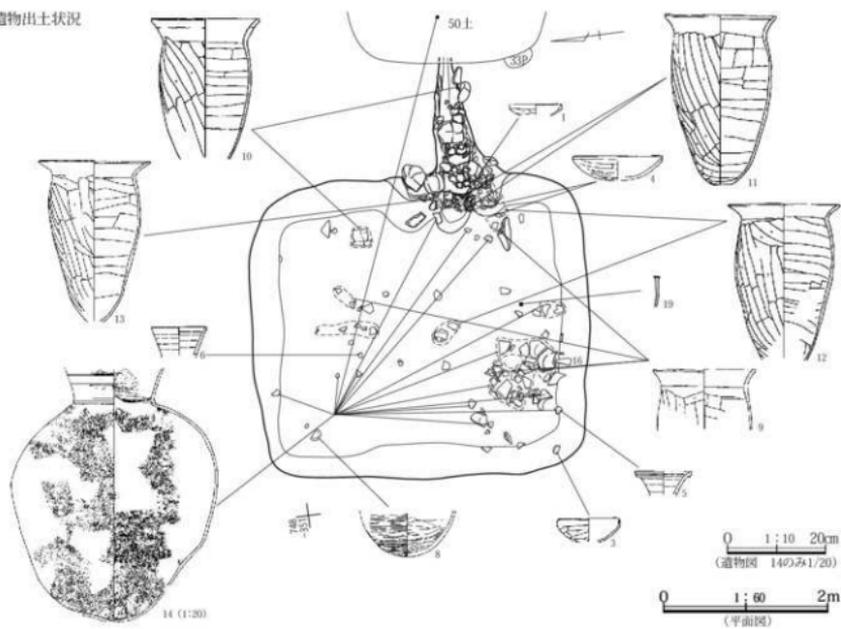
時期 1・2の土師器杯は口縁部下の稜は作られていないが、須恵器蓋模倣杯の系譜で7世紀後半代、3の土師器甕は丸底で口縁部が内湾しており、宮都の土師器杯の影響を受けたものであり、さらに口径が17.7cmと大型している点から7世紀第4四半期、10・11の土師器甕は胴部の膨らみも僅かで整形も若干斜め方向のヘラ削りが行われているにすぎないことから7世紀第3四半期、12・13の土師器甕は胴部の膨らみも同様であるが、胴部上位に横方向に近いヘラ削りが施されていることから10・11より後出の7世紀第4四半期の年代観が与えられる。こうした土器の年代観から12号竪穴建物は7世紀第3四半期に構築されているが、主に7世紀第4四半期に存続していたと想定できる。



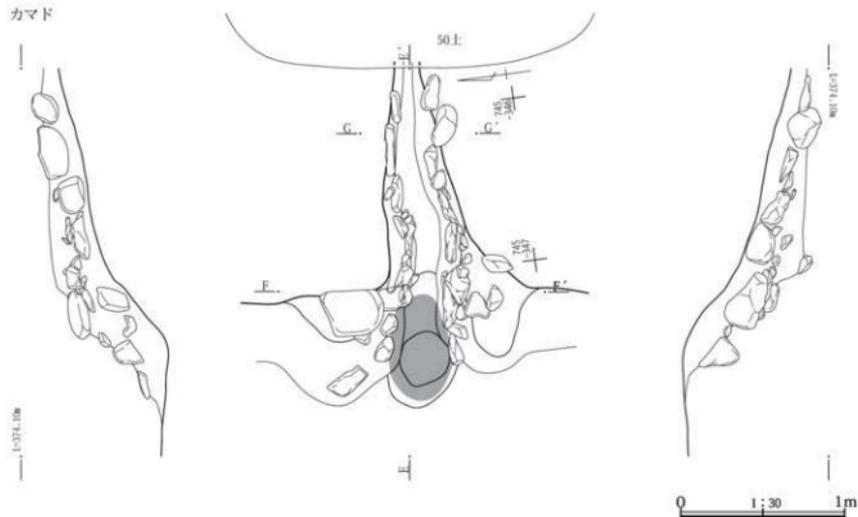
第91図 12号竪穴建物(2)

第3章 発掘された遺構と遺物

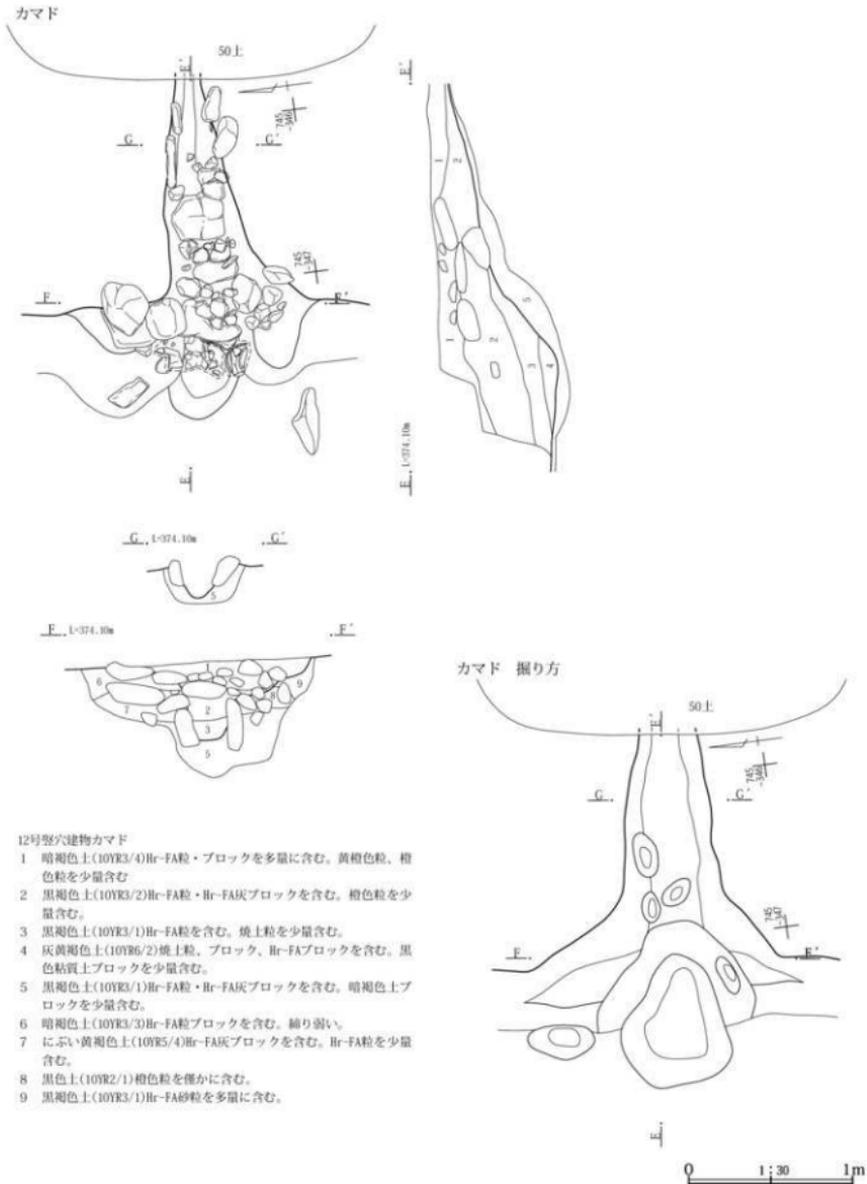
遺物出土状況



カマド

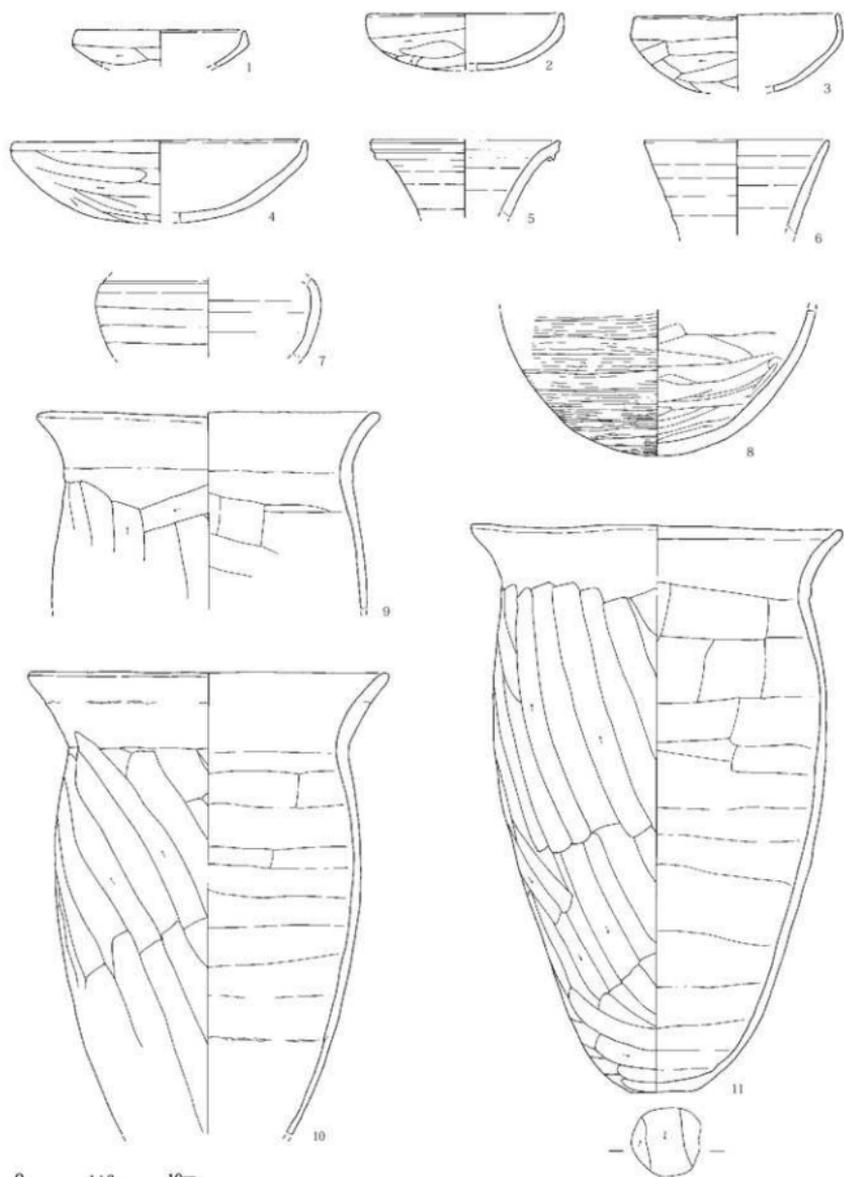


第92図 12号竪穴建物(3)

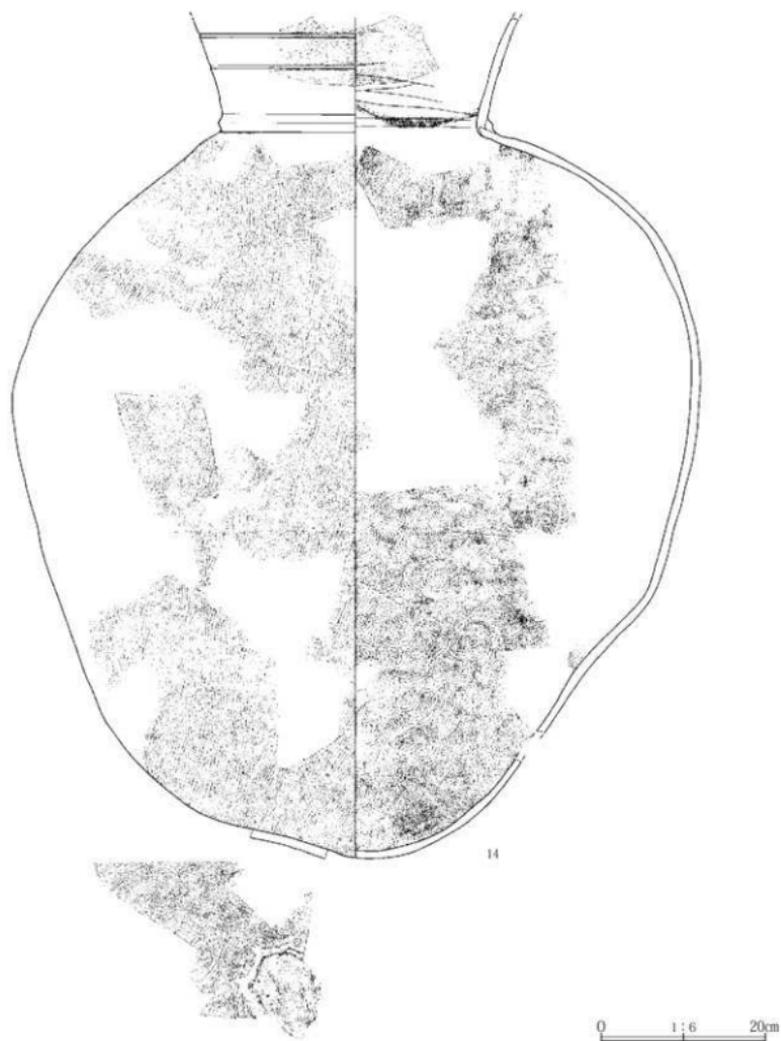


第93図 12号竪穴建物(4)

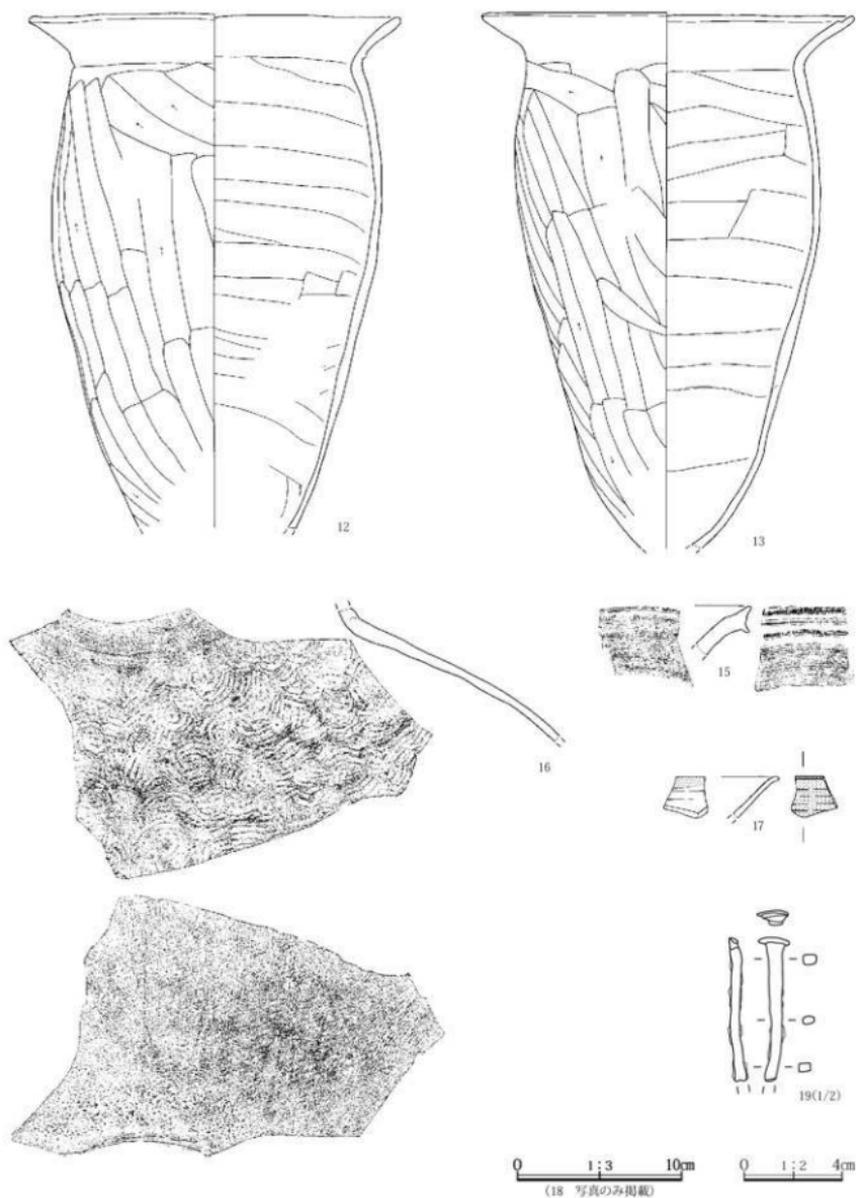
第3章 発掘された遺構と遺物



第94図 12号竪穴建物出土遺物(1)



第95図 12号竪穴建物出土遺物(2)



第96図 12号竪穴建物出土遺物(3)

13号竪穴建物(第97～101図、PL.25・81)

位置 2区北西部

座標値 X=62731～62736、Y=-85353～-85358

遺存状況 試掘トレンチに南壁の一部から中央部を帯状に壊されている。

重複 無し

形状 隅丸方形

規模 長軸4.64m、短軸4.10m

長軸方向 N-1°-E

床面積 (16.45)㎡

床・壁・壁溝 壁面の残存の状態は良くは無いが、壁は直に立ち上がる。壁高は北壁際で約30cm、他も30cm程度とやや浅い。床面には、硬化面がほとんど認められなかった。壁溝は確認されていない。

埋没土 上層に褐灰色土、下層に黒褐色土が堆積している。

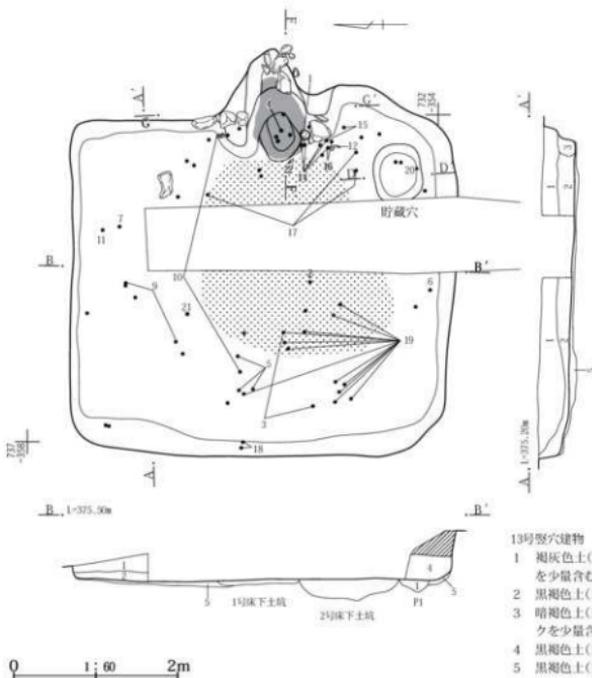
カマド 東壁のほぼ中央に設置され、東壁から両袖が幅広くそれぞれ3点ほどの石を構築材として用いている。煙出し部分にも大小7個程の石が設定されている。掘り方では、楕円形の穴が両袖から煙道部にかけて6個残されている。構築材として利用された石の埋め込み穴と推定される。燃焼部は深さ約10cmの掘り方の上に構築されている。

貯蔵穴 試掘トレンチにより西側一部が壊されているが、カマド右袖手前の南東隅部分に存在する。

柱穴等 確認されなかった。

掘り方 床面下5cm以下の浅さで、貼り床は認められなかった。床面の掘り方では、南東隅に楕円形の貯蔵穴、柱穴と推定される楕円形の小型のピットや床下土坑が多数確認されている。

遺物 ほぼ全域に遺物が出土しているが特にカマド燃焼部内から手前にかけて多い。図示したものは土師器や



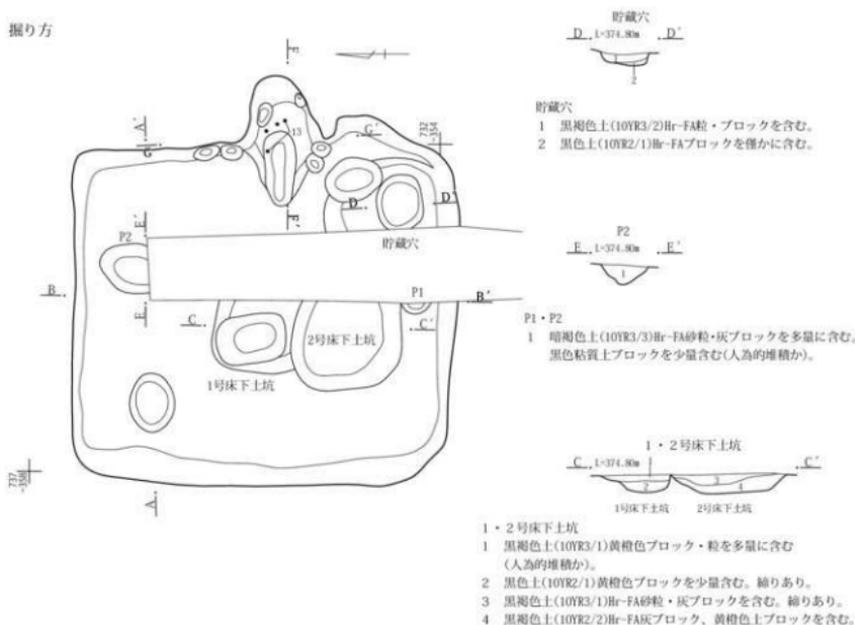
第97図 13号竪穴建物(1)

第3章 発掘された遺構と遺物

須恵器、灰釉陶器に石製品の砥石1点、金属製品2点など19点とやや多い。土器では1・4が須恵器椀、10が灰釉陶器椀、13が土師器甕、14～16の須恵器羽釜がカマドから出土しており、13号竪穴建物と共存する。その他、埋没土などから出土した須恵器の椀、灰釉陶器の皿・椀などもその形態や窯式期から共存しても齟齬はない。なお、14～17の須恵器羽釜はその形態からおそらく14～16が月夜野古窯跡群産、17が吉井古窯跡群産と見られる。**時期** カマドから出土した須恵器無台椀、土師器甕、須恵器羽釜の年代観が与えられる。1の須恵器無台椀は

底径/口径比が0.39と小さくなっていることから10世紀第2四半期、13の土師器甕は5号竪穴建物、7の土師器甕と同様な形態であることから10世紀第2四半期、14の須恵器羽釜は胴部の膨らみが鐙径より大きいことから10世紀第1四半期に比定できる。なお、カマドから出土している10の灰釉陶器椀は虎渓山1号窯式期に比定できることから、10世紀後半以降の年代観が与えられる。つまり10世紀第2四半期を主とし、10世紀第3四半期まで継続したと想定できる。

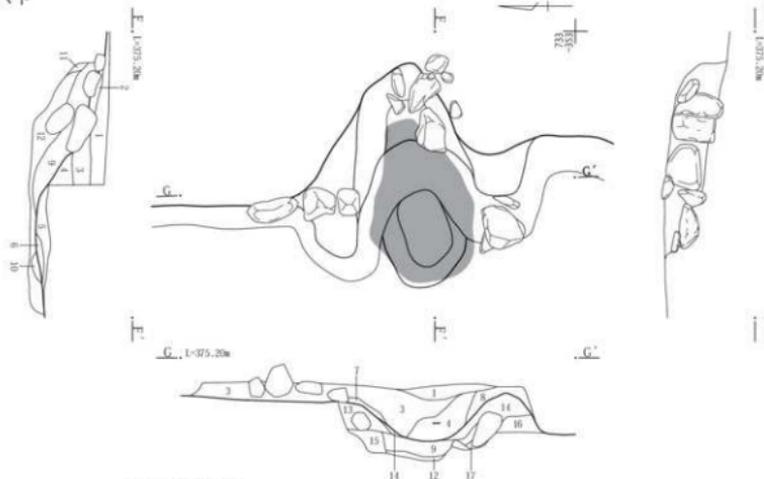
掘り方



0 1:60 2m

第98図 13号竪穴建物(2)

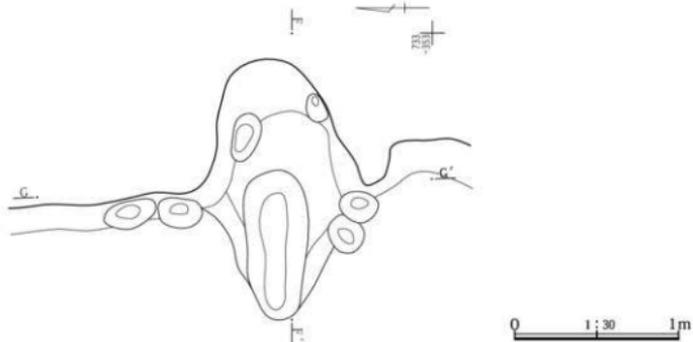
カマド



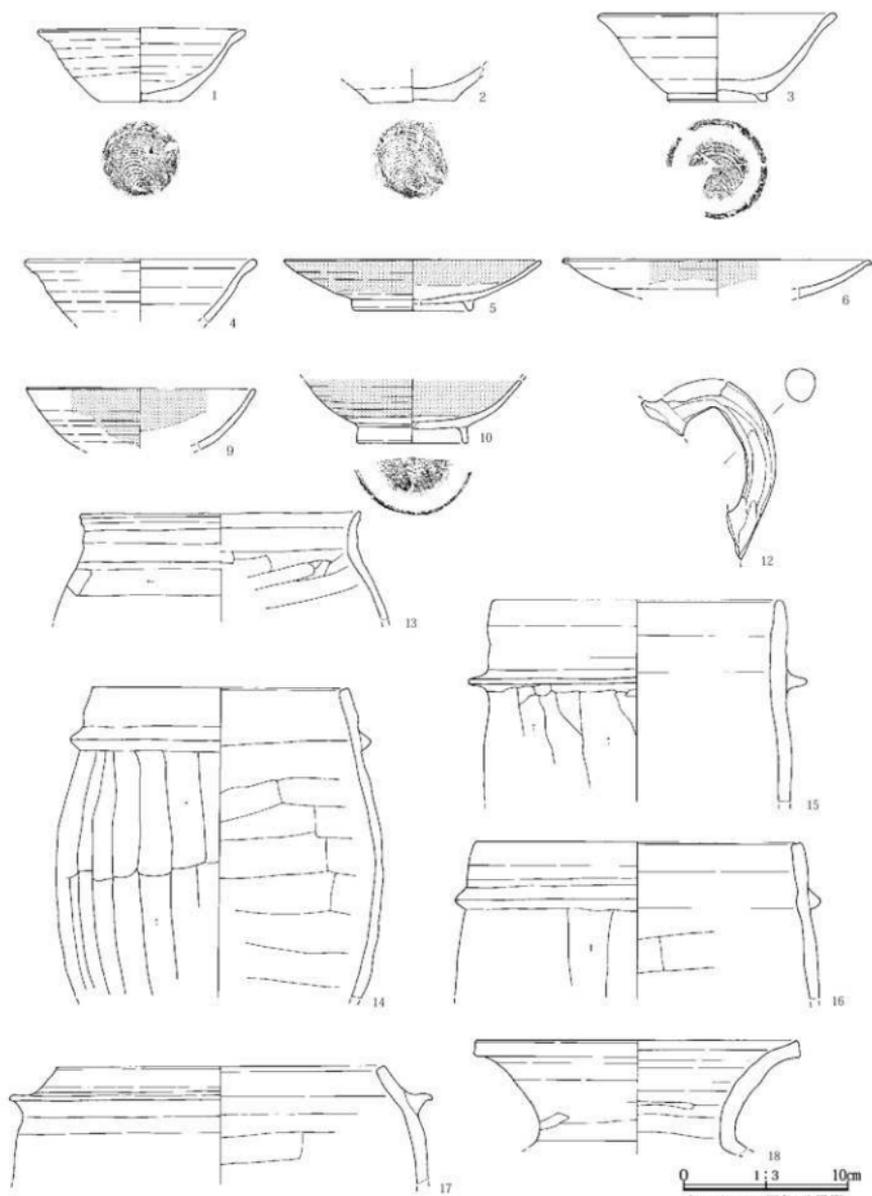
13号竪穴建物カマド

- 1 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒、焼土ブロックを含む。締りあり。
- 2 黒色土(10YR2/1)Hr-FA灰を少量含む。やや粘性あり。
- 3 暗褐色土(10YR3/4)Hr-FA粒、黄褐色粒、橙色粒を含む。締りあり。
- 4 褐色土(10YR4/4)Hr-FA灰ブロック、黄褐色粒、橙色粒を多量に含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/1)焼土粒・ブロックを含む。
- 6 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA砂粒・灰ブロックを含む。
- 7 黄褐色土(10YR5/8)焼土粒主体。固く締まる。
- 8 灰黄褐色土(10YR4/2)Hr-FA粒・灰を含む。僅かに焼土粒を少量含む。
- 9 暗褐色土(10YR3/3)焼土・ブロックを多量に含む。黒褐色土ブロックを少量含む。
- 10 黒褐色土(10YR3/1)焼土粒・ブロックを含む。
- 11 明黄褐色土(10YR6/8)Hr-FA粒を多量に含む。締りなし。
- 12 暗褐色土(10YR3/3)焼土ブロックを含む。やや締りあり。
- 13 黒褐色土(10YR2/2)φ1～2mmの小石を多量に含む。焼土ブロックを含む。
- 14 褐色土(10YR4/1)焼土粒を少量含む。
- 15 黄褐色土(10YR7/8)焼土ブロック主体。
- 16 黒色土(10YR2/1)Hr-FA灰を多量に含む。締りあり。
- 17 灰黄褐色土(10YR5/2)焼土粒を含む。締りあり。

カマド 掘り方

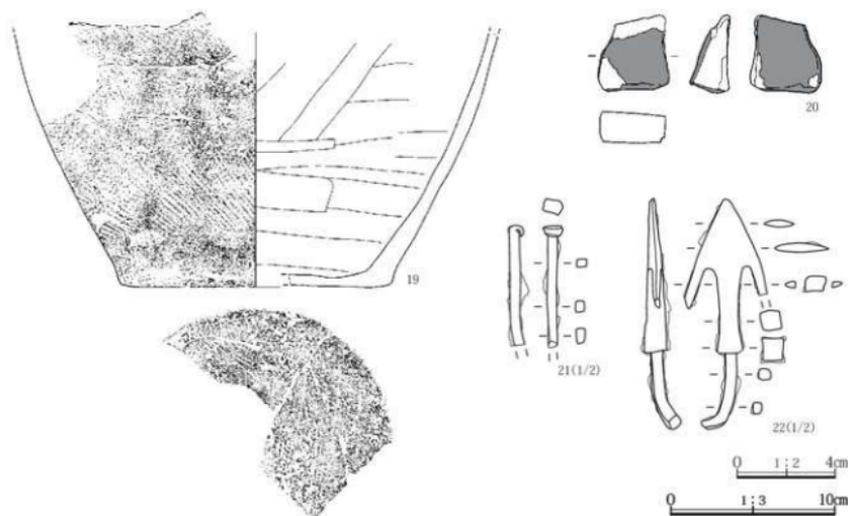


第90図 13号竪穴建物(3)



第100図 13号竪穴建物出土遺物(1)

0 1:3 10cm
(7・8・11 写真のみ掲載)



第101図 13号竪穴建物出土遺物(2)

14号竪穴建物(第102・103図、PL.26・81)

位置 1区北西部

座標値 X=62747～62749、Y=-85338～-85343

遺存状況 ほぼ完形

重複 無し

形状 隅丸長方形

規模 長軸4.43m、短軸2.20m

長軸方向 N-1°-E

床面積 4.43㎡

床・壁・壁溝 壁面の残存は良好で立ち上がる。壁溝と柱穴は確認出来なかった。南壁から東壁にやや斜向する。壁高は南東隅で約30cm、他も約30cm程度と浅い。床面には、カマド手前の東半分の床が硬化面である。

埋没土 上層には灰黄褐色土、下層には黒褐色土が堆積していた。

カマド 東壁の中央からやや南に設置され、両袖は東壁からやや張り出しており、それぞれ小型の石を構築材としている。燃烧部は深さ約5～10cmの浅い掘り方の上に構築されている。カマドの両袖から床の中心部にかけて、焼土が薄く広がっている。

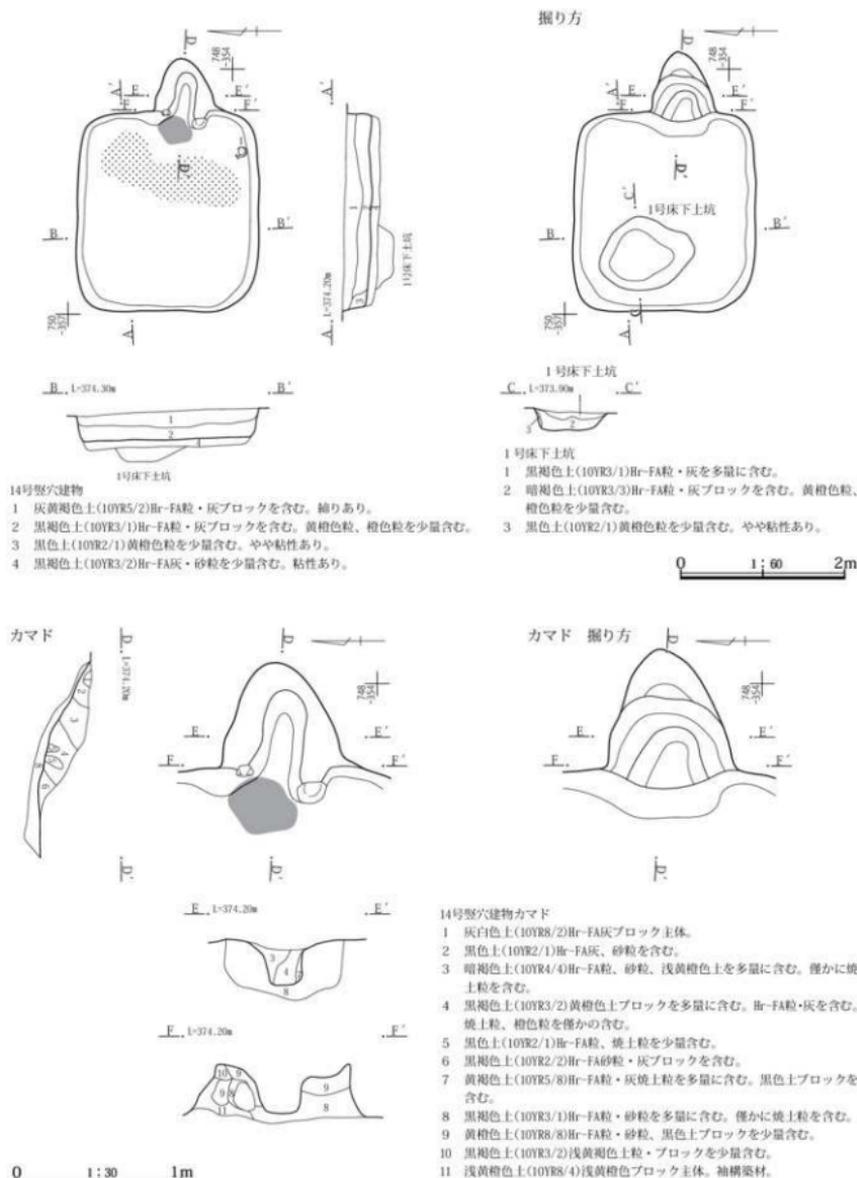
貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴等 確認されなかった。

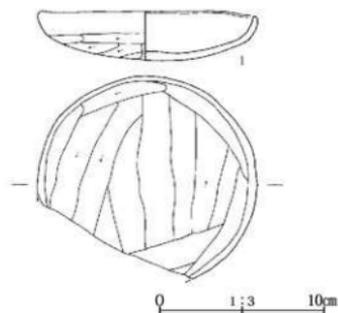
掘り方 床面下10cm以下の深さで、しっかりとした貼り床は東側に認められた。竪穴建物の北西部に楕円形の床下土坑が存在し、長軸約120cm、短軸約90cm、深さ約20cmである。

遺物 1点の土師器杯が床面からの出土であり、図示した。それ以外は埋没土中他から出土している。埋没土中からは、土師器甕の口縁部、胴部、底部小片が6点29g、カマドから土師器甕の口縁部小片1点3gが出土しているのみであった。

時期 図示できた土器が床面より出土した土師器杯だけのため、この土器の年代観による。1の土師器杯は器高が低くなっているが、口縁部が僅かに内湾気味に立ち上がり、体部から底部は全面へら削りが施されていることから8世紀第2四半期の年代観が与えられる。



第102図 14号竪穴建物



第103図 14号竪穴建物出土遺物

16号竪穴建物(第104～110図、PL.27・81・82)

位置 1区北西部

座標値 X=62758～62763、Y=-85338～-85343

遺存状況 北西隅から北東隅にかけての北壁部分が調査区域外に延びている。

重複 5号土坑と6号土坑と7号土坑と8号土坑に壊されていることから、土坑がそれぞれ新しく、16号竪穴建物が古い。

形状 隅丸長方形

規模 長軸5.0m、短軸(4.35)m以上

長軸方向 N-6°-E 床面積 (16.97)m²以上

床・壁・壁溝 壁面の残存は良好でほぼ垂直に立ち上がる。床面では壁溝と柱穴は確認出来なかった。南壁から東壁にやや斜辺となる。壁高は西壁で約70～75cm、東壁でも約60cm程度と深い。

埋没土 黒褐色土を主体とする。

カマド 東壁の南東隅に寄って設置されており、東壁からの両袖の幅広い張り出しはしっかりとしており、左袖には大小の石を用いて構築材としており、右袖も数個の石を利用していた様である。

カマド 燃焼部から煙道部、さらには煙出し部分にかけて大小7個ほどの細長い礫や石を連ねて壁の補強を図っている。さらに、煙道部分に扁平な楕円礫を架けて煙の流れる空間を確保している。燃焼部を支える袖の両側幅広でそれぞれ3点ほどの石を構築材として用いている。煙出し部分にも細長い石を据えることで、カマドの強度確保と煙出しの空間の確保を図っている。カマドの掘り

方では、楕円形の穴が両袖から煙道部にかけて6個残されている。構築材として利用された石の埋め込み穴と推定される。燃焼部は深さ3～5cmの浅い掘り方の上に構築されている。カマドの燃焼部前に焼土の分布が認められる。カマドの南側には貯蔵穴が存在し、西壁に沿った細長い掘り込みや東壁のカマド北側に残るものは、周溝かも知れない。P4などは断面や断面形状から柱穴の可能性が高い。南壁に接するピット群のP2、P3、P5、P7などは竪穴建物の南側からの出入りの梯子などの設置に伴う穴かも知れない。なお、遺物の出土量は多く、カマドの燃焼部から南壁近くに多く認められる。

貯蔵穴 カマド右袖手前、南東隅に楕円形。

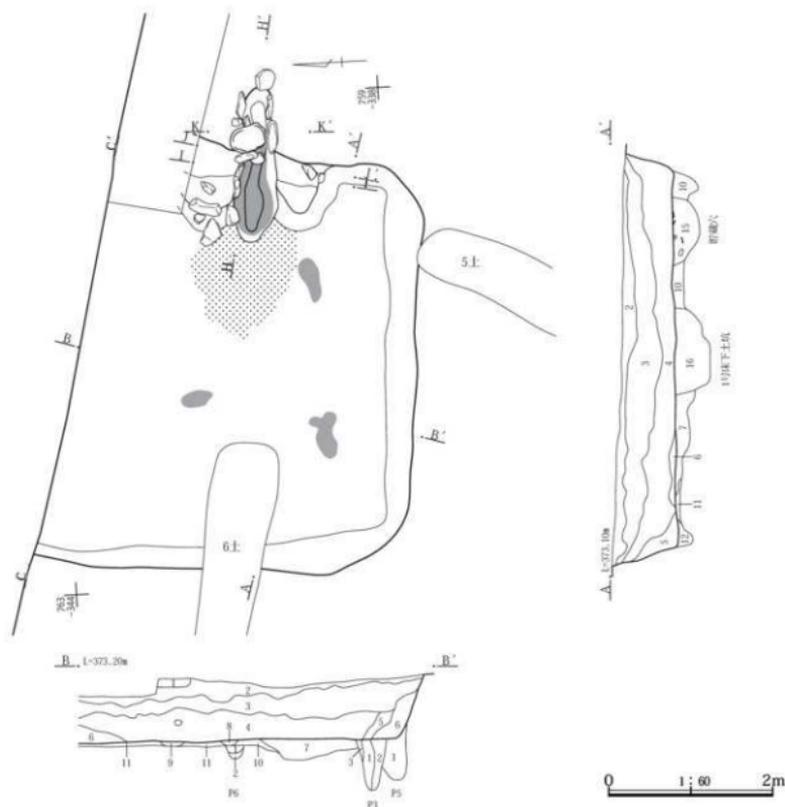
柱穴等 P4が柱穴と考えられているがそれ以外は壁柱穴

掘り方 床面下5cm以下の深さで、しっかりとした貼り床は認められなかった。

遺物出土状況 数多くの遺物がカマドや貯蔵穴、掘り方内から出土している。

遺物 土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、石製品の紡錘車、金属製品の刀子などが出土している。そのうち図示または写真を掲載したものは土器、陶器など51点(うち写真のみ掲載15点)である。土器では1～6・9～11の須恵器無台椀、有台椀が貯蔵穴、カマド掘り方から、P1、17・18・22の灰釉陶器皿、椀が貯蔵穴、カマド、掘り方から、38の黒色土器長頸甕が床面、39～42・44・45の土師器甕が貯蔵穴、カマドから出土する。なお、床面から17cm上より出土した須恵器有台椀の外面部には横位に「八月」と墨書されていた。この他、13～16の須恵器椀の体部にも墨書が見られたが小片のため判読には至っていない。

時期 貯蔵穴、カマド、掘り方から出土した須恵器無台椀、有台椀、土師器甕の年代観が与えられる。須恵器無台椀、有台椀とも酸化焰焼成または還元焰焼成でも甘い焼成で、口縁部が反外する形態から9世紀第4四半期、43の土師器甕は口縁部形態がコの字状に近いが器壁が厚くなって9世紀第4四半期、その他40～42は口縁部形態がより形骸化が進んでおり10世紀第1四半期の年代観が与えられる。また、共存する灰釉陶器皿・椀は大原2号窯式期に比定され、10世紀前半の年代観が与えられる。つまり須恵器や土師器と共存する灰釉陶器の年代観と須恵器羽釜が共存しない点から16号竪穴建物の時期は9世紀第4四半期から10世紀初頭に比定できる。

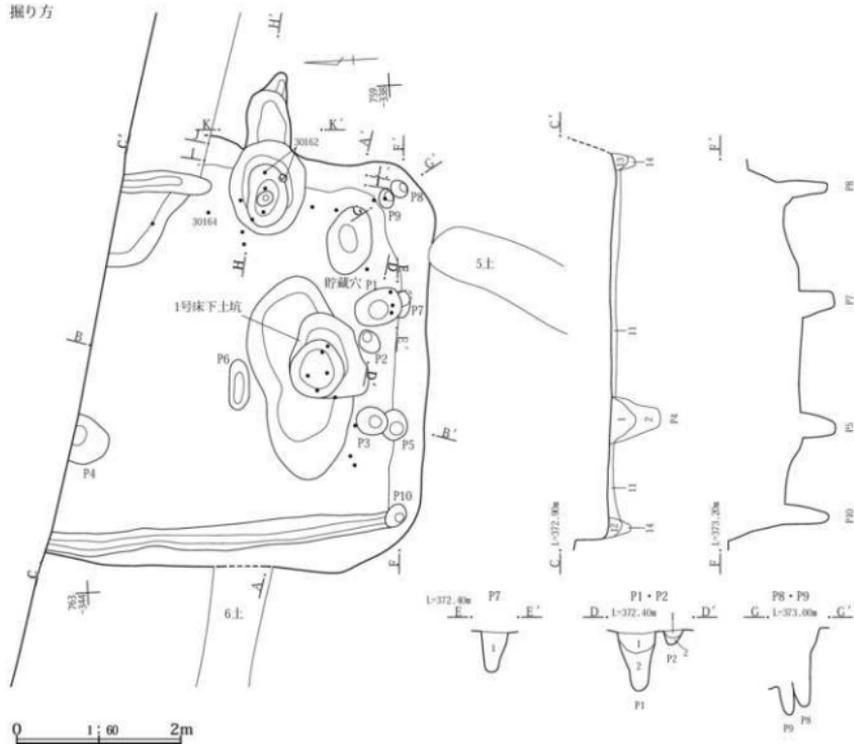


16号竪穴建物

- 1 灰白色土(10YR8/2)As-Ka類。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒を含む。φ3～8mmの軽石を20%含む。締まり少しあり。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒を含む。φ3～5mmの軽石を5%、φ3～5mmのHr-FA粒を5%含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒を含む。φ4～20mmのHr-FA粒を10%含む。締まり少しあり。
- 5 灰黄褐色土(10YR5/2)Hr-FA粒を多く含む。φ10～30mmのHr-FA粒を20%含む。
- 6 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒を含む。φ5～10mmのHr-FA粒を5%含む。
- 7 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒を多く含む。φ4～30mmのHr-FA粒を30%、φ4～10mmの焼土粒を10%含む。
- 8 灰黄褐色土(10YR4/2)Hr-FA粒を多く含む。φ2～4mmのHr-FA粒を5%含む。締まり少しあり。
- 9 褐色土(10YR4/1)Hr-FA粒を多く含む。締まり少しあり。
- 10 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒を含む。φ3～20mmのHr-FA粒を20%含む。粘性少しあり。
- 11 黒褐色土(10YR2/1)Hr-FA粒を含む。φ2～4mmのHr-FA粒を5%含む。粘性あり。
- 12 褐色土(10YR5/1)Hr-FA粒を含む。φ3mmのHr-FA粒を5%含む。
- 13 灰黄褐色土(10YR4/2)Hr-FA粒を含む。φ2～4mmのHr-FA粒を5%含む。
- 14 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒を含む。φ4mmのHr-FA粒を5%含む。粘性少しあり。
- 15 灰黄褐色土(10YR4/2)Hr-FA粒を含む。φ2～10mmのHr-FA粒を30%、φ3mmの焼土粒を5%含む。Hr-FAブロックを含む。粘性少しあり。(貯蔵穴)
- 16 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒を多く含む。φ4～30mmのHr-FA粒を30%、φ4～10mmの焼土粒を10%含む。(1号床下土坑)

第104図 16号竪穴建物(1)

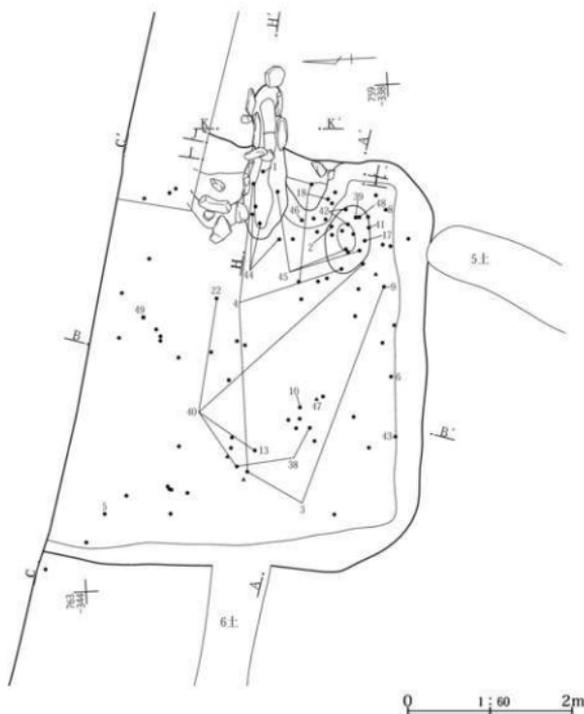
掘り方



- P1
 1 灰黄褐色土(10YR4/2)Hr-FA粒子を含む。φ2mmの軽石5%、φ3~20mmのHr-FA粒を30%含む。
 2 暗褐色土(10YR3/3)Hr-FA粒子を含む。φ2~25mmのHr-FA粒を20%含む。粘性少しあり。
- P2
 1 灰黄褐色土(10YR4/2)Hr-FA粒子を含む。φ2mmの軽石5%、φ3~20mmのHr-FA粒を30%含む。
 2 暗褐色土(10YR3/3)Hr-FA粒子を含む。φ2~25mmのHr-FA粒を20%含む。粘性少しあり。
- P3
 1 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ2~4mmのHr-FA粒を10%含む。
 2 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒子を含む。φ2~5mmのHr-FA粒を10%含む。締まり少しあり。
 3 黒褐色土(10YR2/1)Hr-FA粒子を含む。粘性少しあり。
- P4
 1 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ2~3mmのHr-FA粒を5%含む。炭化物を少量含む。
 2 黒褐色土(10YR2/1)Hr-FA粒子を含む。φ2~5mmのHr-FA粒を10%含む。粘性少しあり。
- P5
 1 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ3~10mmのHr-FA粒を20%、焼土粒を5%含む。
- P6
 1 灰黄褐色土(10YR4/2)Hr-FA粒子を多く含む。φ2~10mmのHr-FA粒を20%含む。Hr-FAブロックを含む。
 2 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒子を含む。φ3~7mmのHr-FA粒を10%含む。粘性少しあり。
- P7
 1 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を多く含む。φ3~15mmのHr-FA粒を20%含む。締まり少しあり。

第105図 16号貯穴建物(2)

遺物出土状況

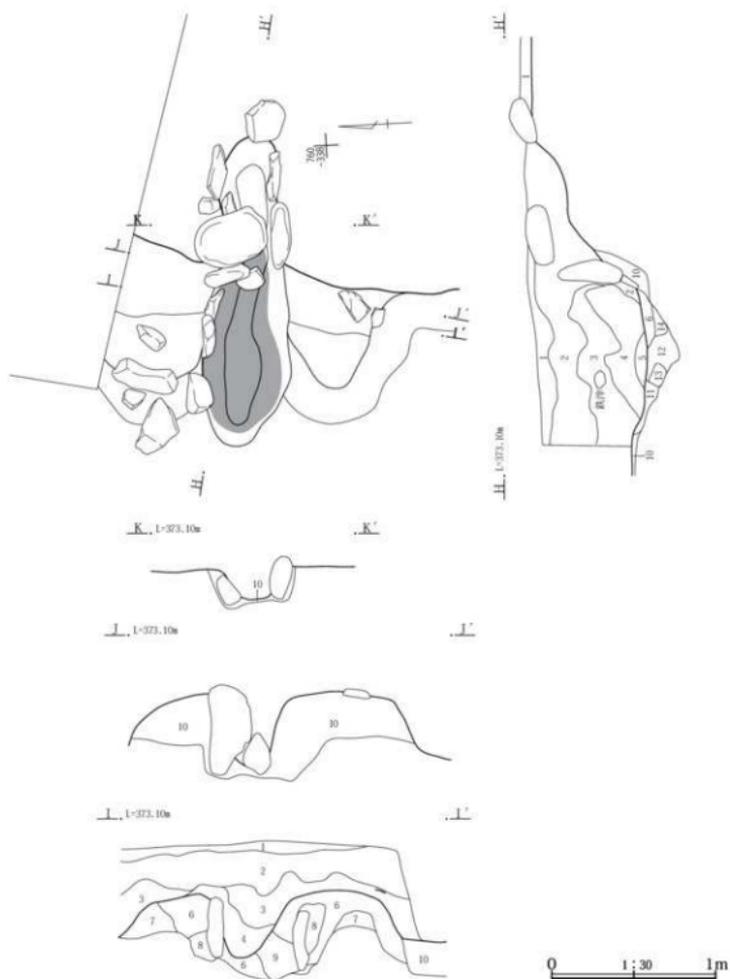


16号竪穴建物カマド

- 1 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ3~7mmの軽石を20%含む。締まり少しあり。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ3~5mmの軽石を5%、φ3~5mmのHr-FA粒を10%、φ3mmの焼土粒を5%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒子を含む。φ3~7mmのHr-FA粒を10%、φ3~5mmの焼土粒を10%含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/4)Hr-FA粒子を含む。φ3~4mmのHr-FA粒を5%、φ3~7mmの焼土粒を10%含む。
- 5 褐色土(10YR4/6)Hr-FA粒子を含む。φ3~5mmのHr-FA粒を5%、φ3~5mmの焼土粒を20%含む。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR5/3)Hr-FA粒子を含む。φ4~5mmのHr-FA粒を20%、φ2~4mmの焼土粒を5%含む。締まり少しあり。
- 7 灰黄褐色土(10YR5/2)Hr-FA粒子を含む。φ2~4mmの軽石を10%、φ5~10mmのHr-FA粒を5%、φ2~4mmの焼土粒を5%含む。
- 8 灰黄褐色土(10YR6/2)Hr-FA粒子を含む。砂岩ブロックを含む。φ3~10mmのHr-FA粒を5%、φ2~3mmの焼土粒を10%含む。焼土粒子を含む。粘性少しあり。
- 9 暗褐色土(10YR3/3)Hr-FA粒子を含む。φ5~20mmのHr-FA粒を10%、φ3~20mmの焼土粒を5%含む。粘性少しあり。
- 10 暗褐色土(10YR3/3)Hr-FA粒子を含む。φ2~4mmのHr-FA粒を10%、φ2~3mmの焼土粒を5%含む。
- 11 にぶい褐色土(7.5YR6/4)焼土粒粒子を含む。φ2~3mmの焼土粒を5%含む。
- 12 褐色土(7.5YR4/3)Hr-FA粒子を含む。φ2~4mmのHr-FA粒を10%、φ3~5mmの焼土粒を20%含む。
- 13 褐色土(7.5YR4/6)焼土粒子を多く含む。焼土主体の層。
- 14 灰黄褐色土(10YR4/2)Hr-FA粒子を含む。φ4~20mmのHr-FA粒を10%、φ5~8mmの焼土粒を10%含む。底面に近いほど焼土が多くなっている。

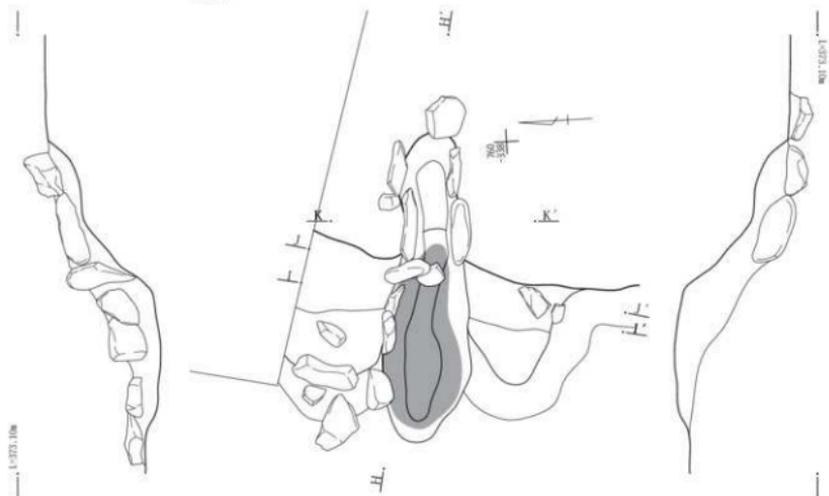
第106図 16号竪穴建物(3)

カマド

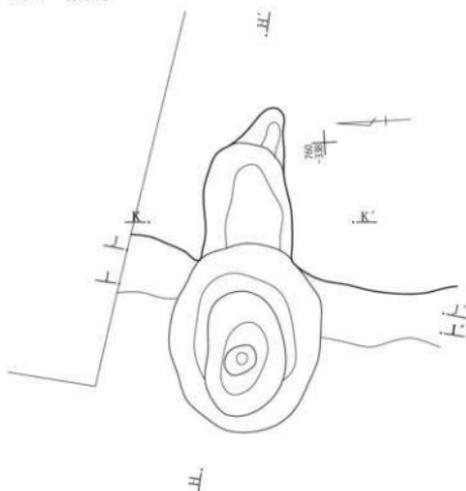


第107図 16号竪穴建物(4)

カマド

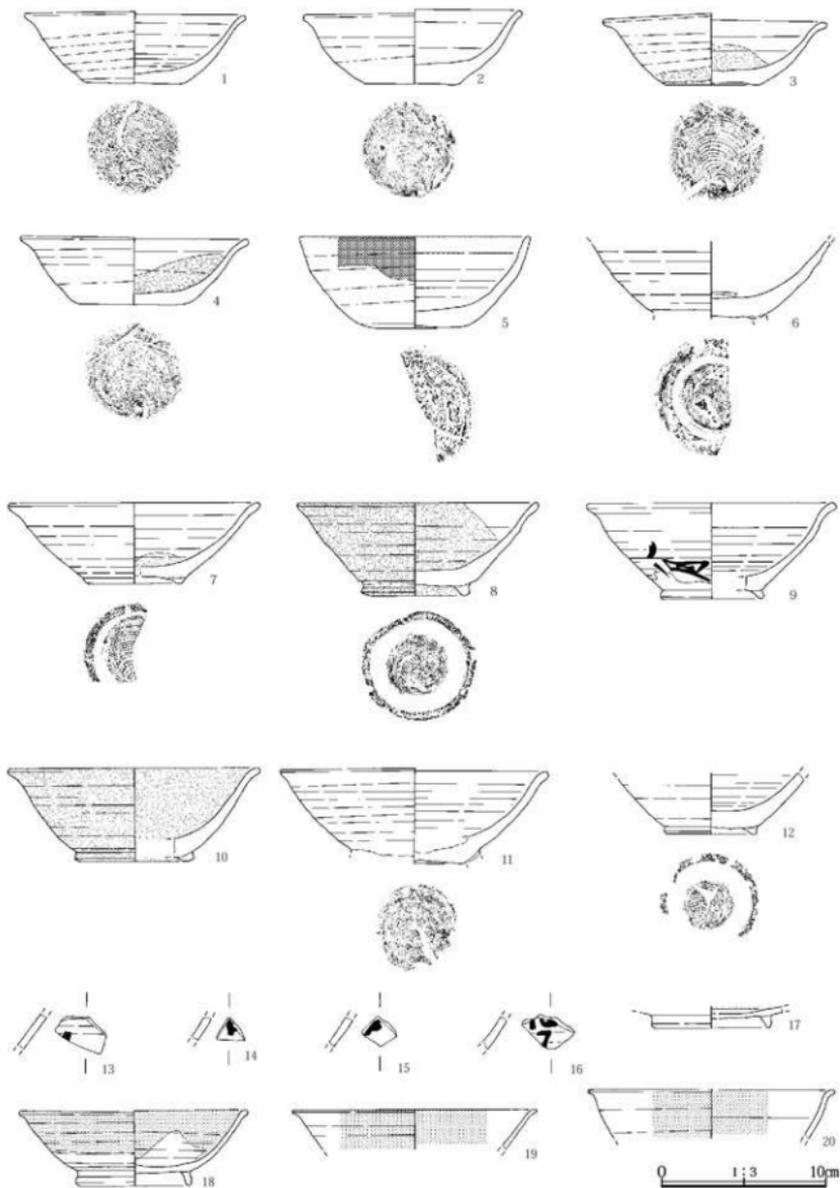


カマド 掘り方

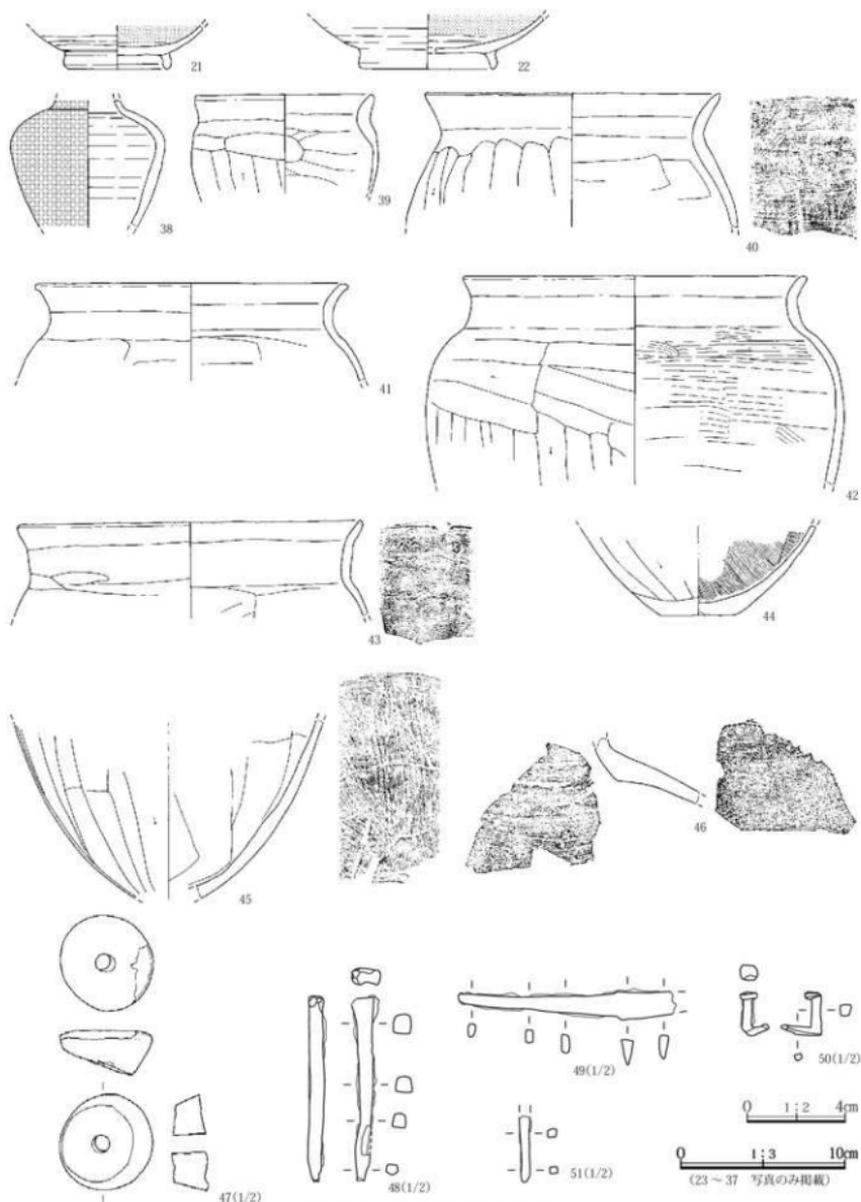


0 1:30 1m

第108図 16号竪穴建物(5)



第109図 16号竪穴建物出土遺物(1)



第110図 16号竪穴建物出土遺物(2)

17号竪穴建物(第111・112図、PL.28・83)

位置 2区北西部

座標値 X=62726～62729、Y=-85354～-85357

遺存状況 壁面の残存状況は極めて悪く、北壁と西壁の立ち上がりが確認しにくい。

重複関係 無し

形状 隅丸長方形

規模 長軸(2.82)m、短軸(2.60)m

長軸方向 N-20°-E

床面積 (16.97)㎡

床・壁・壁溝 壁高は南東隅で約5～10cm、他も僅か5cm程度とかなり浅い。床面には硬化面がほとんど認められなかった。

埋没土 薄くにぶい灰黄褐色土と黄褐色土が堆積していた。

カマド 東壁の中央部からやや南寄りに設置されているが残りは良くなく、両袖も東壁から張り出しているもののしっかりと構築はされていない。ただ、左袖に1個の石が設置され、その下の掘り方にも設置のための穴が開いていた。燃焼部は深さ3～5cmの浅い掘り方の上に構築されている。

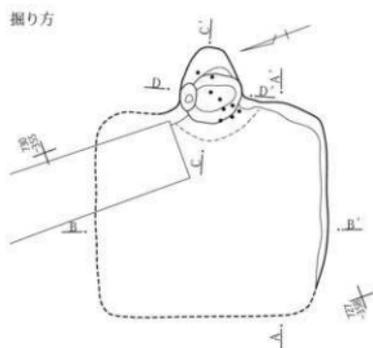
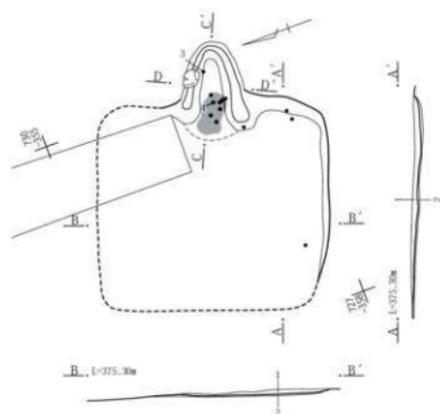
貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴等 確認されなかった。

掘り方 床面下5cm以下の薄さで、貼り床はほとんど認められなかった。

遺物 一部の遺物が床面やカマド内から出土している。出土量は僅かで図示したものは土師器と須恵器や金属製品など5点である。土器では3・4の須恵器甕が床面及び床面近くから出土している。共存する土器は須恵器甕片のため9世紀から10世紀前半という大雑把な年代観しか与えられないため、1の須恵器椀や2の土師器甕が共存するか判断しづらいが、図示できなかった土器に1の須恵器無台椀と同様な形態のものがカマドから出土しており、1・2の土器も共存しても齟齬はないとみられる。

時期 共存する須恵器甕が大雑把な年代しか与えられないため、共存するとみられる1の須恵器無台椀の年代観を援用することとする。この土器は還元焼成ではあるが、底部から体部が大きく開く形態であることから9世紀第4四半期の年代観が与えられる。



17号竪穴建物

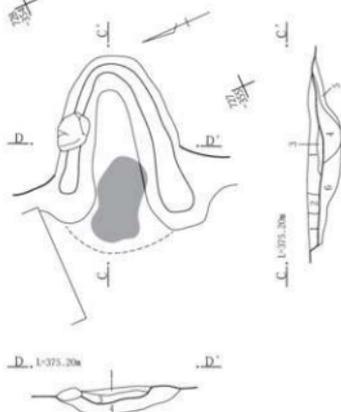
- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/3)Hr-FA粒を少量含む。締まりなし。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)Hr-FA粒・砂粒を含む。

0 1:60 2m

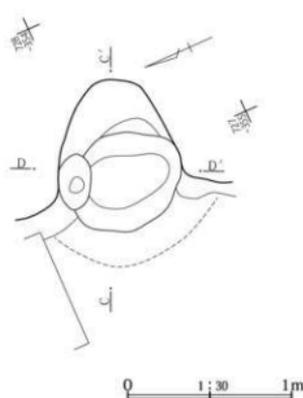
第111図 17号竪穴建物(1)

第3章 発掘された遺構と遺物

カマド

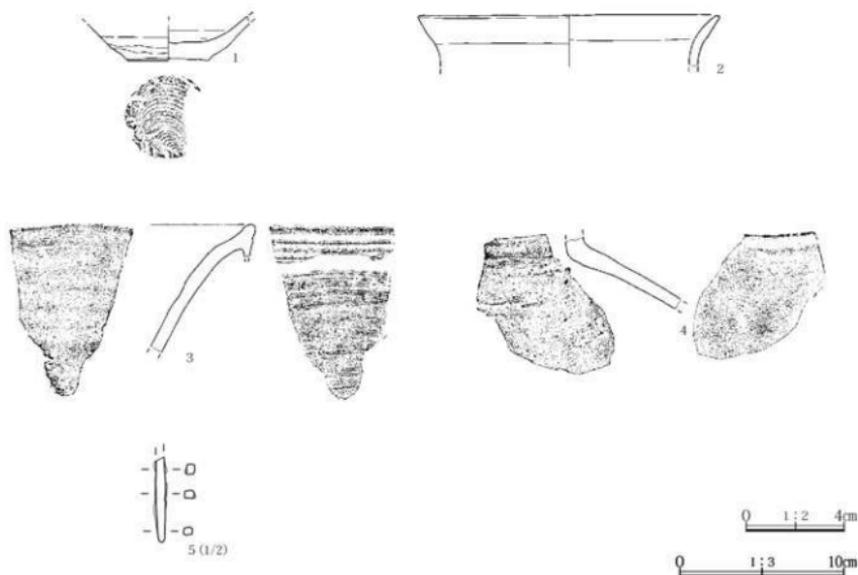


振り方



17号竪穴建物カマド

- 1 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA砂粒を含む。褐色粒を少量含む。
- 2 褐色土(10YR4/4)黒褐色土ブロックを含む。褐色粒を少量含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)Hr-FA砂粒・灰層ブロックを含む。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2)Hr-FA灰層ブロックを含む。Hr-FA砂粒を少量含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒・Hr-FA灰層ブロックを含む。暗褐色土ブロックを少量含む。
- 6 濃い黄褐色土(10YR5/4)Hr-FA砂粒を多量に含む。締りなし。



第112図 17号竪穴建物(2)、出土遺物

18号竪穴建物(第113～115図、PL.29・83)

位置 2区北部

座標値 X=62726～62731、Y=-85349～-85354

遺存状況 ほぼ完形

重複 192号ピットにカマドの煙出し部分を壊されていることから192号ピットが新しい。

形状 隅丸長方形

規模 長軸5.12m、短軸4.20m

長軸方向 N-3°-E

床面積 17.85㎡

床・壁・壁溝 壁面の残存は良好で立ち上がる。壁溝は確認出来なかった。南壁から西壁にかけてやや斜向する。壁高は南東隅で約45cm、他も約40～35cm程度とやや深い。床面には硬化面がほとんど認められなかった。

埋没土 埋没土は、上層にぶい黄褐色土、下層にぶい黄橙褐色土が堆積していた。

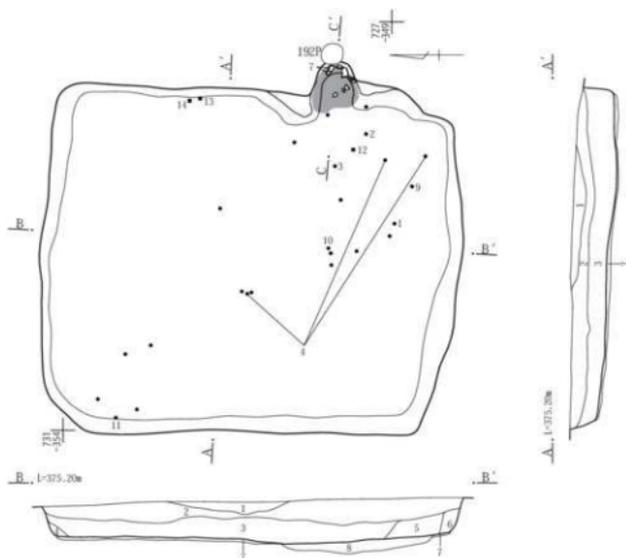
カマド 東壁の中央部から南東隅に近い部分に設置されている。煙出し部分を192号ピットに壊されている。その煙出し部に3個ほどの小型の石が並べられている。燃焼部は深さ3～5cmの浅い掘り方の上に構築されており、薄く焼土が存在する。両袖もあまりしっかりと構築されておらず、燃焼部奥と煙出し部分に小型の石が4個ほど設置されている。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴等 確認されなかった。

掘り方 床面下5cm以下の深さで、貼り床は認められなかった。南壁付近に長軸約240cm、短軸約190cm、深さ約5～10cmの大型の楕円形の床下土坑、カマドの左袖手前にピットが検出されている。

遺物 遺物の出土量は多くないものの、カマド周辺を中心に床の南半分に広がっている。図示したものは土師器、須恵器、金属製品など15点である。土器では2の須恵器



18号竪穴建物

- 1 暗褐色土(10YR3/3)Hr-FA粒・灰を含む。褐色粒を少量含む。
- 2 ぶい黄褐色土(10YR5/4)Hr-FA粒・灰を多量に含む。締りあり。
- 3 ぶい黄褐色土(10YR6/4)Hr-FA粒・灰を含む。締りあり。
- 4 明黄褐色土(10YR7/6)Hr-FA粒を多量に含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA粒を含む。褐色土ブロックを少量含む。

- 6 灰黄褐色土(10YR2/1)Hr-FA粒・砂粒を含む。締り弱い。
- 7 暗褐色土(10YR3/4)Hr-FA粒、黒褐色土ブロックを少量含む。
- 8 ぶい黄褐色土(10YR7/3)Hr-FA粒・灰ブロックを含む。黄褐色粒を少量含む。締り弱い。

0 1:60 2m

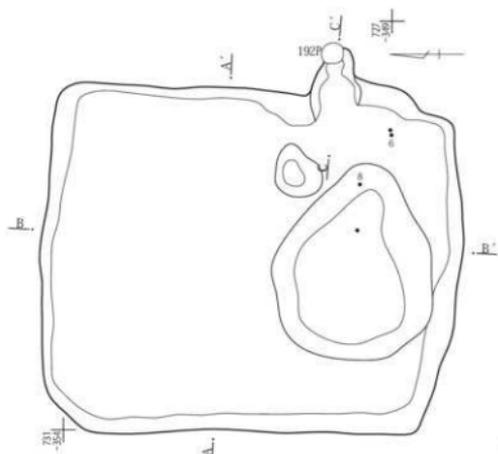
第113図 18号竪穴建物(1)

椀がカマド、6～8の土師器甕がカマドや床面から出土しており18号竪穴建物と共存する。この他、埋没土から出土の須恵器椀や須恵器羽釜もその形態から共存しても齟齬はない。5の須恵器椀は口縁部小片ではあるが外面に墨書が見られる。

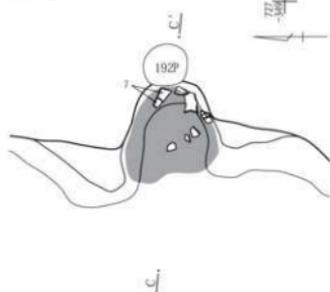
時期 カマドや床面から出土した須恵器椀や土師器甕の年代観が与えられる。2の須恵器椀は9世紀第4四半期、6・7の土師器甕は口縁部のコの字状が退化した状

態から10世紀第1四半期に、8の土師器甕は口縁部がコの字状を呈しているが、器壁がやや厚くなっており9世紀第4四半期の年代観が与えられる。確実に共存する土器の年代観と埋没土中ではあるが、須恵器羽釜の存在から16号竪穴建物より若干後出の9世紀末から10世紀第1四半期に比定できる。

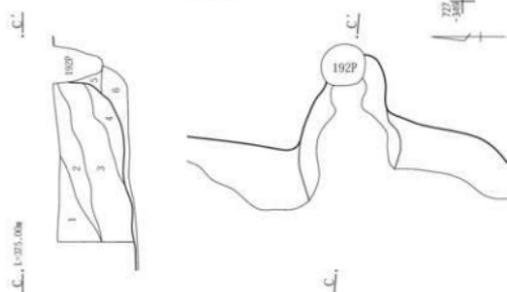
掘り方



カマド



掘り方

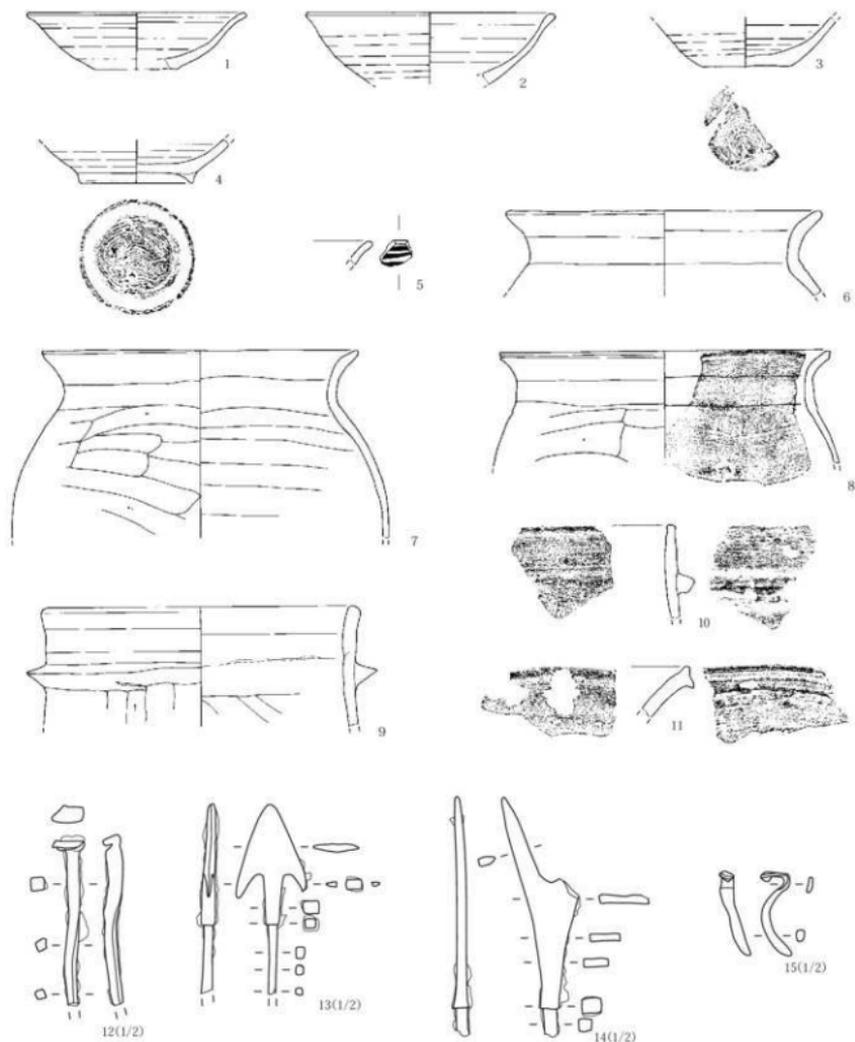


18号竪穴建物カマド

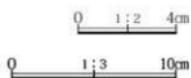
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)Hr-FA粒・灰層ブロックを含む。褐色粒を少量含む。
- 2 褐色土(10YR4/1)Hr-FA粒・灰・砂粒を含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒・Hr-FA灰・砂粒・焼土粒を含む。φ1～2mmの小石を少量含む。締り弱い。

- 4 灰黄褐色土(10YR6/2)焼土粒、Hr-FA粒・灰を含む。黄褐色粒を少量含む。締りあり。
- 5 暗褐色土(10YR3/1)Hr-FA灰層ブロックを含む。Hr-FA砂粒を少量含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/2)焼土粒、Hr-FA粒・灰ブロックを含む。締り弱い。

第114図 18号竪穴建物(2)



第115図 18号竪穴建物出土遺物



(3) 竪穴状遺構

竪穴状遺構は、1区北西部に2基確認された。いずれもカマド・貯蔵穴・柱穴などが確認できない竪穴状の遺構である。

1号竪穴状遺構(第116図、PL.29・83)

位置 1区北西部

座標値 X=62748～62752、Y=-85320～-85323

遺存状況 ほぼ完形

重複 23号土坑と25号土坑にそれぞれ北壁と西壁の一部を壊されていることから、23号土坑と25号土坑が新しい。

形状 隅丸長方形

規模 長軸3.4m、短軸3.1m

長軸方向 N-8°-E

床面積 7.40㎡

床・壁・壁溝 南西隅の部分の壁面の残存は良好で、緩やかに立ち上がる。壁溝は確認出来なかった。

カマド 無し

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴等 確認されなかった。

掘り方 床下約20cmの厚さで、ほぼ全体に認められる。

埋没土 にふい黄褐色土を中心に約40cm、黒褐色土を中心とする掘り方が約15cmである。

遺物 床の南半分には僅かに出土。土師器、須恵器などが出土している。そのうち図示したものは須恵器の1点だけである。1の須恵器有台杯は底面から出土している。

時期 底面から出土している1の須恵器有台杯から、7世紀末から8世紀第1四半期に比定できる。



1号竪穴状遺構

- 1 にふい黄褐色土(10YR4/3)Hr-FA粒・灰ブロックを多量に含む。黒色粘質土ブロックを含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)φ5～10cmのHr-FA灰ブロックを多量に含む。黒色粘質土ブロックを含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒・灰ブロックを含む。粘性あり。

第116図 1号竪穴状遺構、出土遺物

2号竪穴状遺構(第117図、PL.29)

位置 1区北西部

座標値 X=62763～62765、Y=-85344～-85346

遺存状況 南西隅部分だけの検出であり、大部分は北側の調査範囲外に延びている。

重複 不明

形状 おそらくは隅丸長方形

規模 計測不能

長軸方向 計測不能

床面積 計測不能

床・壁・壁溝 床や溝は確認出来なかった。壁面の残存は良好で、緩やかに立ち上がる。床面が僅かに検出されているだけで、壁溝は確認出来なかった。

埋没土 褐灰色土を主体にHr-FA粒や灰を含む。

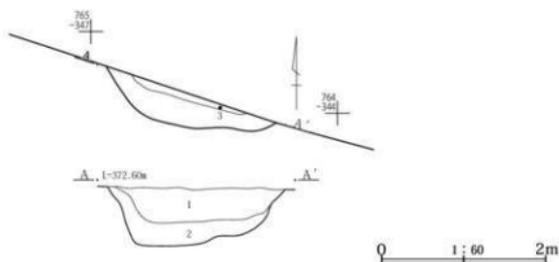
カマド 無し

貯蔵穴 不明

柱穴等 不明

遺物 遺物は土器などが出土しているが床面からの出土は無い。そのうち図示したものは土師器の2点と須恵器の1点である。図示した土器はすべて埋没土中のため、共存するか否かの判断には至らなかった。

時期 共存すると判断できる土器が存在しないため決定できないが、1の土師器杯が8世紀前半、2の土師器杯が8世紀後半の年代観が与えられることから8世紀代の遺構と想定したい。



2号竪穴状遺構

- 1 褐灰色土(10YR5/1)Hr-FA粒・灰を含む。橙色粒を少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)Hr-FA粒・灰ブロックを含む。黄橙色粒、橙色粒を含む。



第117図 2号竪穴状遺構、出土遺物

(4)土坑

土坑は1区南西部及び2区北部からまとまりをもって確認されている。

43号土坑(第118図、PL.30)

位置 1区南西部

座標値 X=62744 ~ 62746、Y=-85350 ~ -85352

重複 無し

主軸方位 N-8°-E

規模 長径2.02m、短径1.01m、深さ0.42m

形状 隅丸長方形

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 須恵器の椀と土師器の甕が出土。

時期 9世紀後半

46号土坑(第118図、PL.30)

位置 2区北東部

座標値 X=62734 ~ 62735、Y=-85347 ~ -85348

重複 無し

主軸方位 N-6°-E

規模 長径1.40m、短径1.10m、深さ0.42m

形状 円形

埋没土 黒色土が主体である。

遺物 灰釉陶器の椀が出土。

時期 10世紀前半

50号土坑(第119図、PL.30)

位置 1区南西部

座標値 X=62744 ~ 62746、Y=-85343 ~ -85345

重複 2号柵P1と重複。2号柵が新しい。

主軸方位 N-10°-E

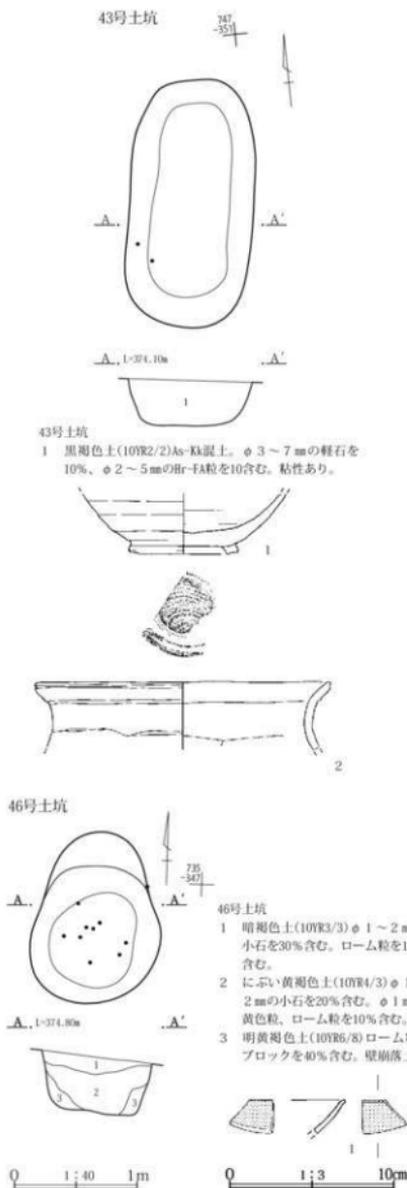
規模 長径2.50m、短径1.69m、深さ0.73m

形状 隅丸長方形

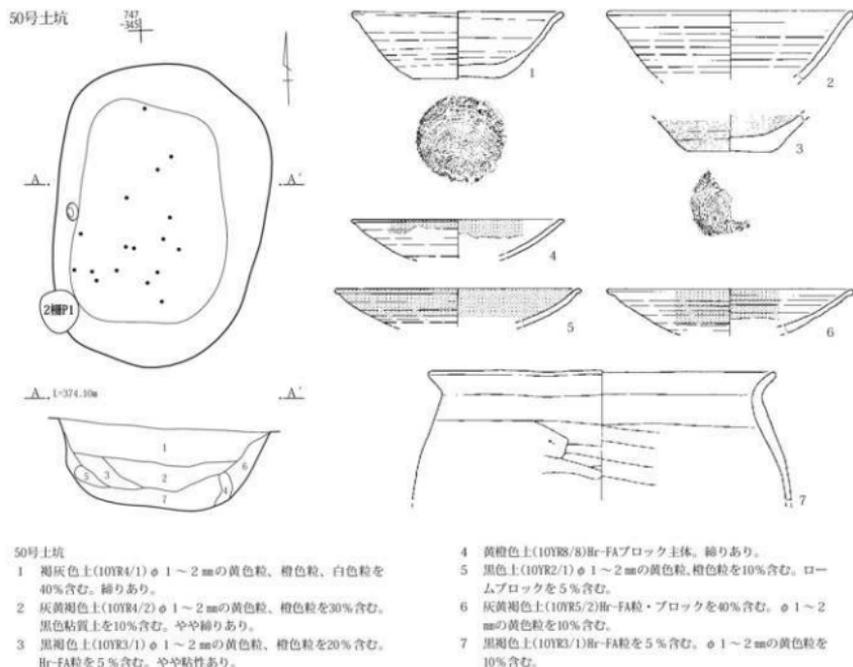
埋没土 黒色土が主体である。

遺物 須恵器の椀や土師器の甕、灰釉陶器の皿が出土。

時期 9世紀後半



第118図 43・46号土坑、出土遺物



第119図 50号土坑、出土遺物

(5)ピット

ピットは、1区南部からある程度のまとまりをもって確認された。

218～221号ピット(付図3、PL.30)

位置 1区南中央部

座標値 X=62735～62739、Y=-85324～-85320

規模 長径(0.20～0.34)m、短径(0.20～0.32)m、深さ(0.09～0.27)m

形状 円形

埋没土 黒褐色土を主体とする。

時期 飛鳥～平安時代

222～225号ピット(付図3、PL.30・31)

位置 1区南東部

座標値 X=62729～62734、Y=-85287～-85305

規模 長径(0.25～0.30)m、短径(0.20～0.30)m、深さ(0.07～0.31)m

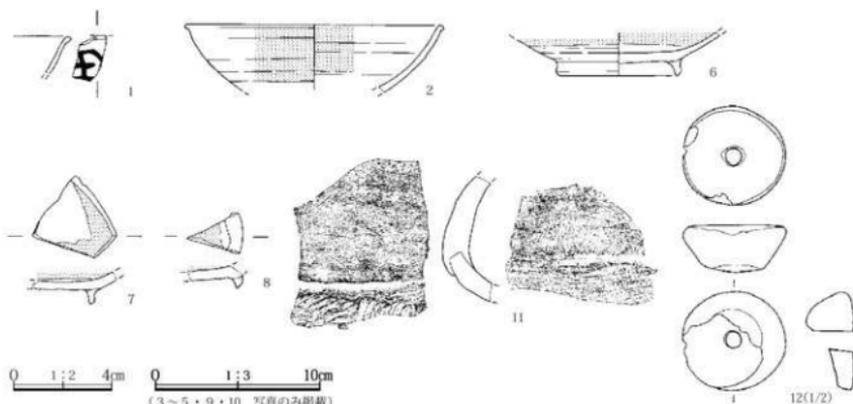
形状 円形

埋没土 にぶい黄褐色土を主体とする。

時期 飛鳥～平安時代

(6) 遺構外出土遺物(第120図、PL.83)

フク土から須恵器、灰軸陶器、石製紡輪が出土した。



第120図 遺構外出土遺物

第6節 中・近世の遺構と遺物

(1) 概要

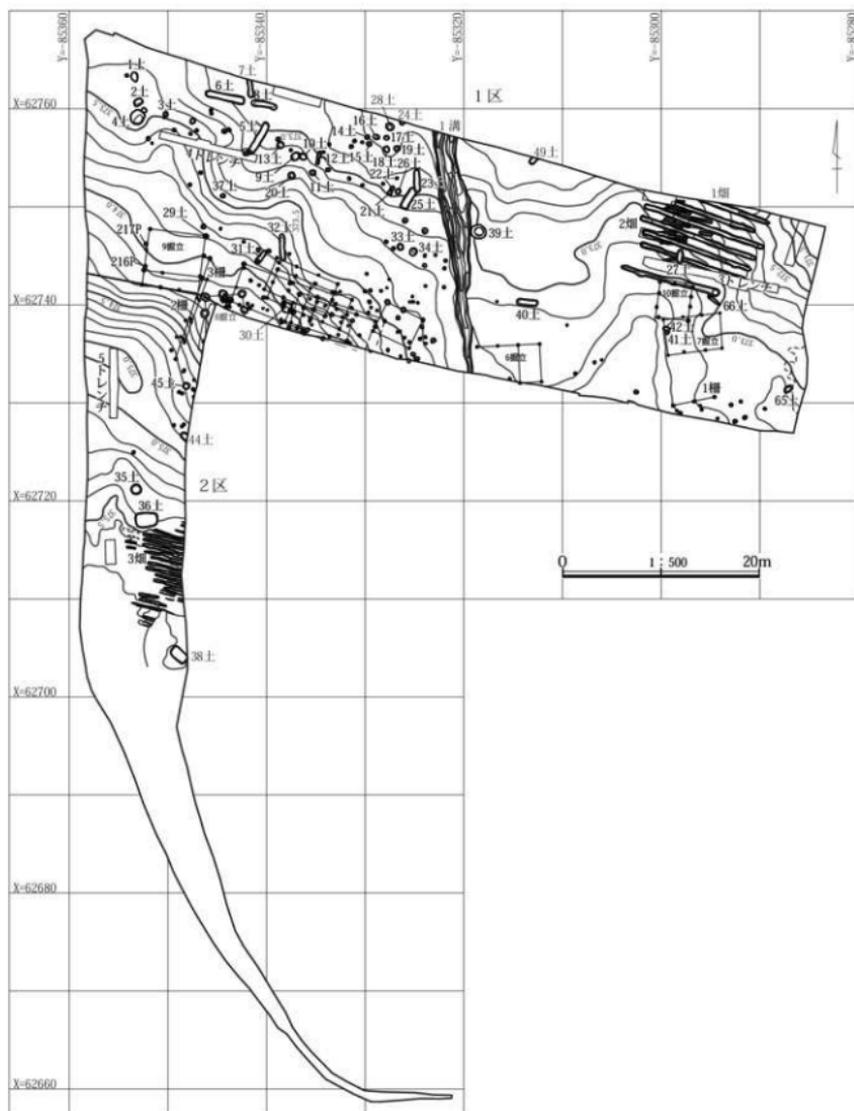
古代末以降から中世や近世にかけては、浅間山からの火山活動に伴う軽石や火山灰が降り積もっており、それが時期判定の基準となることが多い。火山灰などの多量の噴出物が何層にも堆積している。これらの軽石などを振り込んだ遺構や、それらに覆われた遺構も存在しそのことが時期判断の基準に利用できる。

遺構は、掘立柱建物12棟、柵3基、溝1条、畑3区画、土坑47基、ピット149基が検出されている。(第1面)

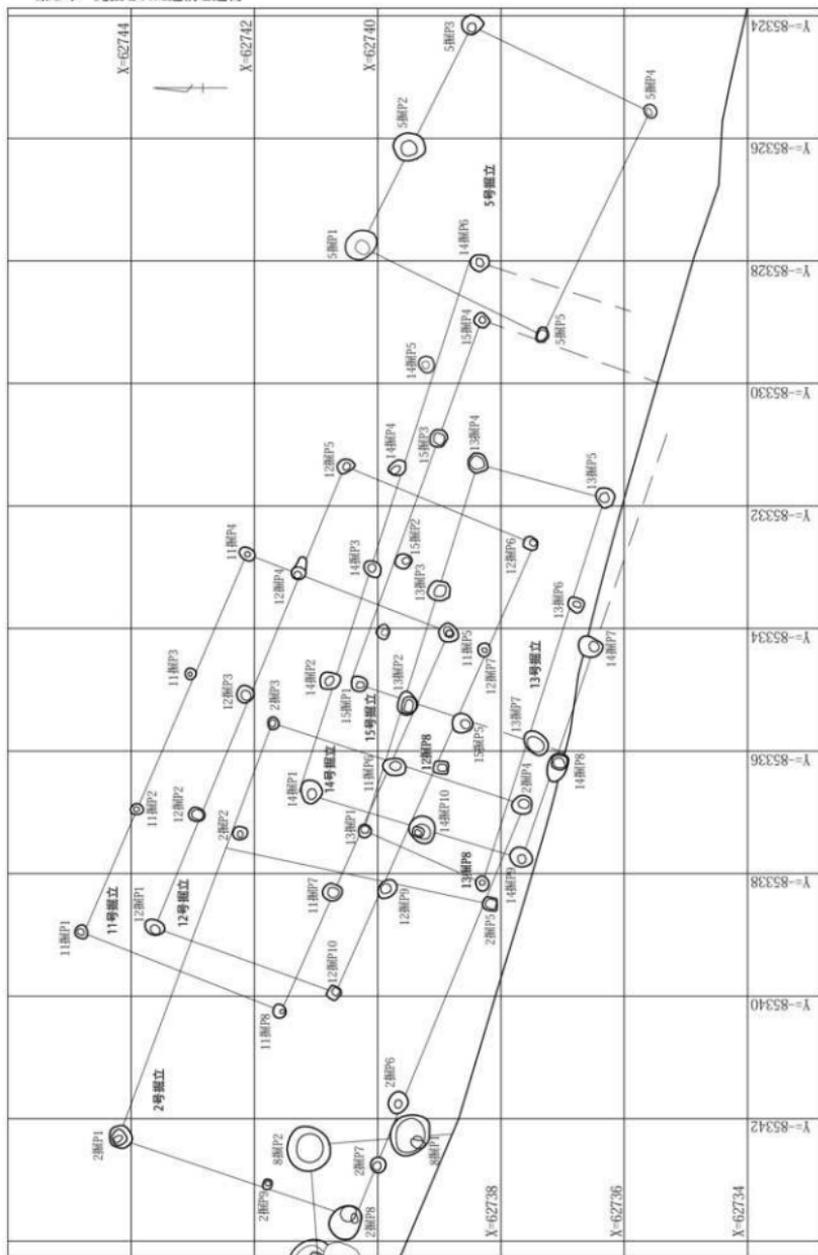
また、調査段階では十数もの掘立柱建物が確認、検出されたが整理段階での検討で中・近世12棟に組み換えを行った。この作業の過程で掘立柱建物そのものの欠番(1・3・4)やピットの名称が変更になる資料が生じた。そのために、その配置などの解釈に一部の修正が必要となった。柱の計測値は長径：短径で表している。

(2) 掘立柱建物

掘立柱建物は、12棟確認された。1区南西部を中心に集中して建てられており、1区東部にも数棟建てられている。遺構の確認面や、フク土の状況から、中・近世と判断したものである。



第121図 中・近世遺構全体図



第122図 掘立柱建物全体図

2号掘立柱建物(第123図、PL.32)

位置 1区南西部

座標値 X=62737~62744, Y=-85335~-85343

重複 無し

形状 おそらく4間×2間の東西棟長方形建物

規模 7.20m×4.30m

面積 30.18㎡

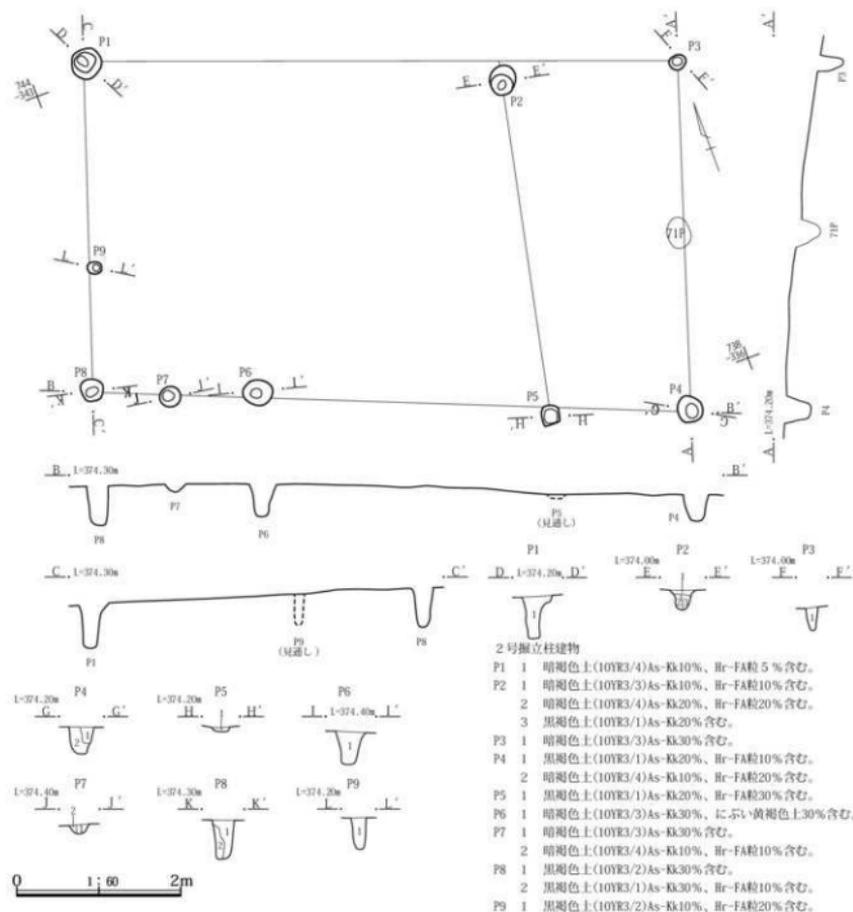
主軸方向 N-18°-E

状況 明確な柱穴は9基で、柱の規模はP1が0.38m :

0.36m, P2が0.36m : 0.31m, P3が0.11m : 0.09m, P4が0.31m : 0.30m, P5が0.24m : 0.21m, P6が0.35m : 0.32m, P7が0.25m : 0.25m, P8が0.28m : 0.27m, P9が0.18m : 0.15mである。柱同士の距離を示す柱間寸法は、1-2:5.1m, 2-3:2.15m, 3-4:4.25m, 4-5:1.70m, 5-6:3.60m, 6-7:1.05m, 7-8:0.95m, 8-9:1.50m, 9-1:2.50mである。礎石など無し。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。



第123図 2号掘立柱建物

5号掘立柱建物(第124図、PL.32・33)

位置 1区南西部

座標値 X=62735 ~ 62740、Y=-85324 ~ -85329

重複 無し

形状 2間×1間の東西棟長方形建物

規模 4.00m×3.25m

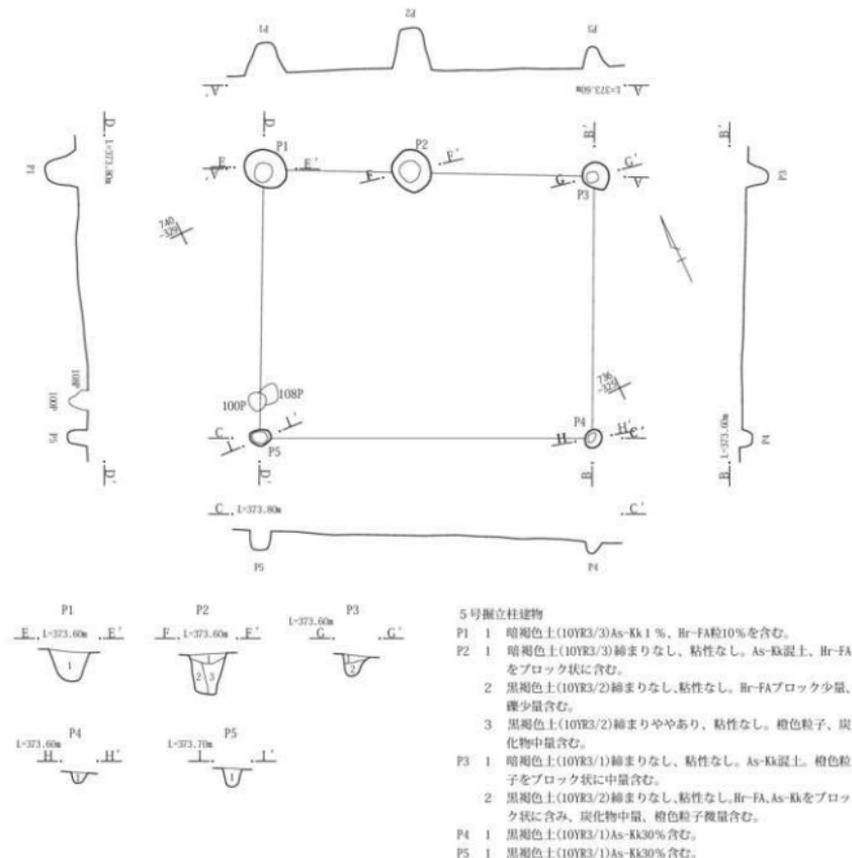
面積 13.31㎡

主軸方向 N-25°-E

状況 明確な柱穴は5基で、柱の規模はP1が0.52m×0.45m、P2が0.50m×0.45m、P3が0.33m×0.30m、P4が0.24m×0.20m、P5が0.25m×0.20mである。柱同士の距離を示す柱間寸法は、1-2:1.80m、2-3:2.20m、3-4:3.20m、4-5:4.00m、1-3:4.00mである。貼り床もしっかりとはしていないうえに礎石など無し。

遺物 無し

時期中・近世。明確な時期は不明。



第124図 5号掘立柱建物

6号掘立柱建物(第125図, PL.33)

位置 1区中央部

座標値 X=62731 ~ 62736, Y=-85312 ~ -85318

重複 無し

形状 おそらく3間×1間の東西棟長方形建物

規模 6.30m×3.85m

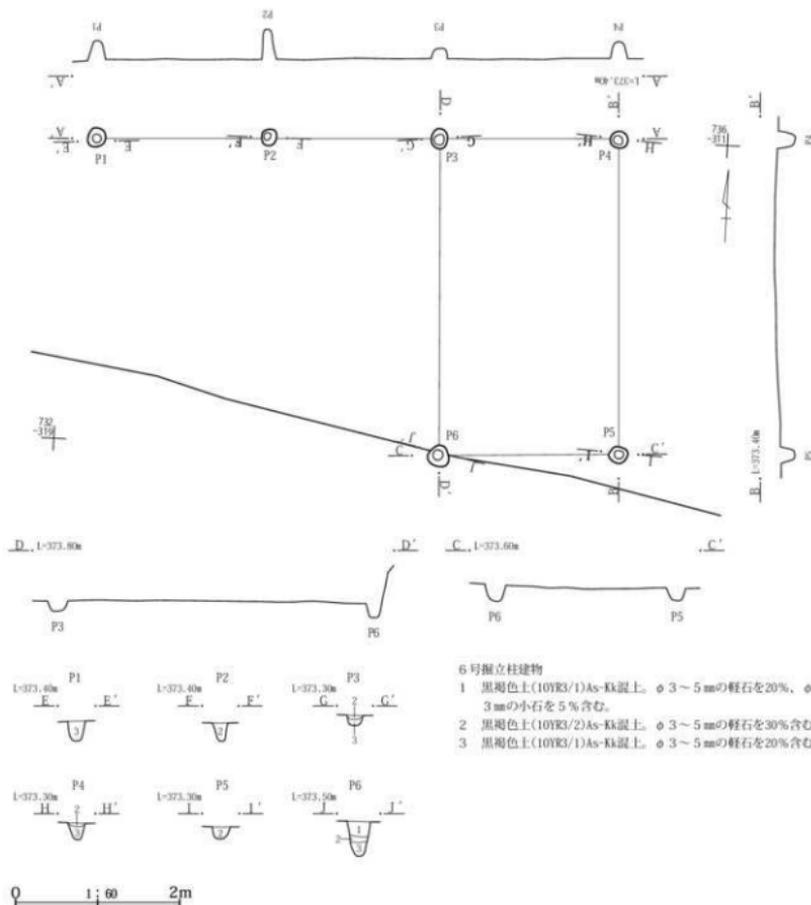
面積 22.16㎡

主軸方向 N-3°-E

状況 明確な柱穴は6基で、柱の規模はP1が0.24m : 0.21m、P2が0.21m : 0.19m、P3が0.25m : 0.20m、P4が0.22m : 0.21m、P5が0.21m : 0.20m、P6が0.27m : 0.26mです。柱同士の距離を示す柱間寸法は、1-2 : 2.10m、2-3 : 2.10m、3-4 : 2.20m、4-5 : 3.85m、5-6 : 2.17m、3-6 : 3.85mである。貼り床もしっかりとはしていないうえに礎石など無し。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。



第125図 6号掘立柱建物

7号掘立柱建物(第126図、PL.34)

位置 1区東部

座標値 X=62734 ~ 62739、Y=-85293 ~ -85299

重複 無し

規模 5.70m×3.60m

面積 20.46㎡

主軸方向 N-3°-W

形状 3間×1間の東西棟長方形建物

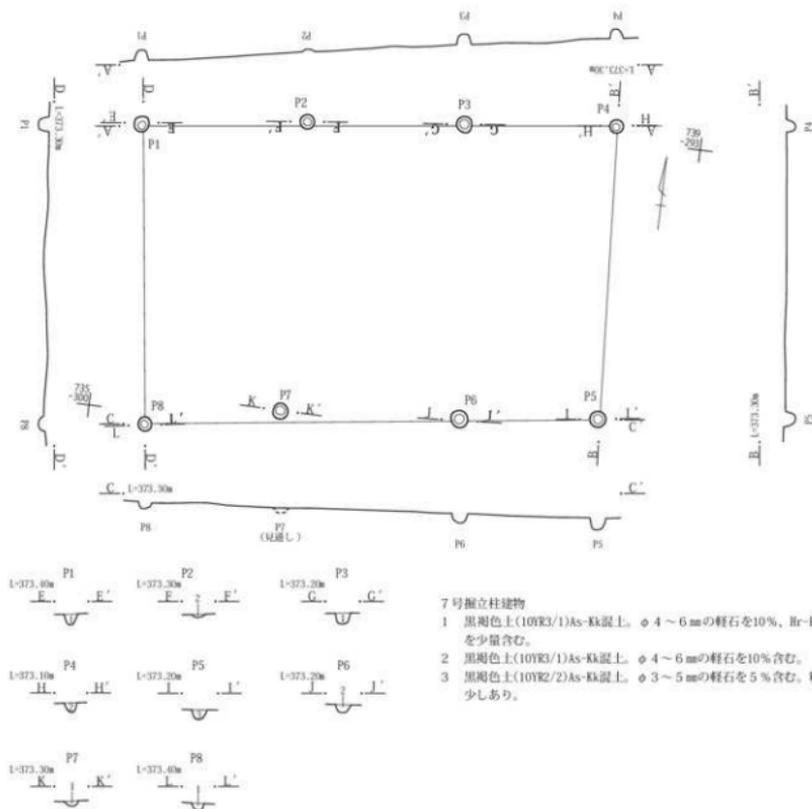
状況 柱穴は8基で、柱の規模はP1が0.20m:0.18m、

P2が0.18m:0.18m、P3が0.20m:0.19m、P4が0.16m:

0.16m、P5が0.20m:0.20m、P6が0.21m:0.20m、P7が0.19m:0.18m、P8が0.18m:0.17mである。柱同士の距離を示す柱間寸法は、1-2:2.00m、2-3:1.90m、3-4:1.85m、4-5:3.60m、5-6:1.70m、6-7:2.20m、7-8:1.65m、8-1:3.65m、2-7:3.50m、3-6:3.60m、4-6:3.55mである。貼り床もしっかりとはしていないうえに礎石など無し。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。



第126図 7号掘立柱建物

8号掘立柱建物(第127図、PL.34・35・83)

位置 1区南西部

座標値 X=62737～62742、Y=-85342～-85347

重複 P3に209号ピットが重複し、209号ピットが新しい。

形状 おそらく2間×2間以上の北南棟長方形建物

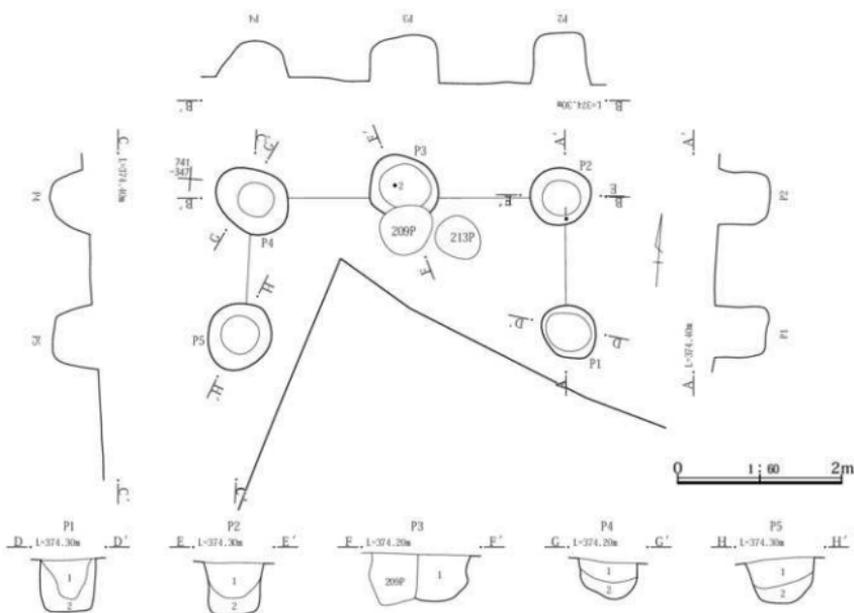
規模 3.85m×(1.70)m

状況 個々の柱痕の径も大きく、P1は0.70m:0.62m、P2が0.74m:0.69m、P3が0.88m:0.76m、P4が0.9m:0.75m、P5が0.84m:0.77m、柱同士の距離を示す柱

間寸法は、1-2:1.65m、2-3:1.90m、3-4:1.70m、4-5:1.65mと大きい。

遺物 土師器、須恵器などが柱穴より出土している。図示できるものはなく、P2から出土した須恵器甕の2点の写真を掲載した。これ以外からも、いくつかの7世紀後半～8世紀代の年代が与えられる。

時期 柱穴より古代の土器片が出土するが、柱穴覆土に浅間粕川テフラ多く含んでおり中・近世とする。



8号掘立柱建物

P1 1 褐灰色土(10YR6/1)As-Kkを30%含む。

2 灰黄褐色土(10YR6/2)As-Kkを10%、Hr-FAB灰ブロックを40%含む。

P2 1 褐灰色土(10YR6/1)As-Kkを30%、Hr-FAB灰ブロックを10%含む。

2 灰黄褐色土(10YR6/2)As-Kkを20%、Hr-FAB灰ブロックを30%含む。

P3 1 褐灰色土(10YR6/1)As-Kkを20%、Hr-FAB灰ブロックを30%、黒色土ブロックを5%含む。

P4 1 にふい黄褐色土(10YR6/4)As-Kkを20%、Hr-FAB灰ブロックを70%含む。

2 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FAB灰ブロックを30%含む。

P5 1 にふい黄褐色土(10YR6/4)As-Kkを20%、Hr-FAB灰を80%含む。

2 明黄褐色土(10YR6/6)As-Kkを10%、Hr-FAB灰ブロックを50%、黒色土ブロックを5%含む。

第127図 8号掘立柱建物

9号掘立柱建物(第128・129図、PL.35・36)

位置 1区南西部

座標値 X=62741～62747、Y=-85346～-85352

重複 12号竪穴建物と重複しているが9号掘立柱建物の方が新しい。

形状 おそらく3間×3間の東西棟長方形の建物

規模 5.90m×5.70m

面積 33.18㎡

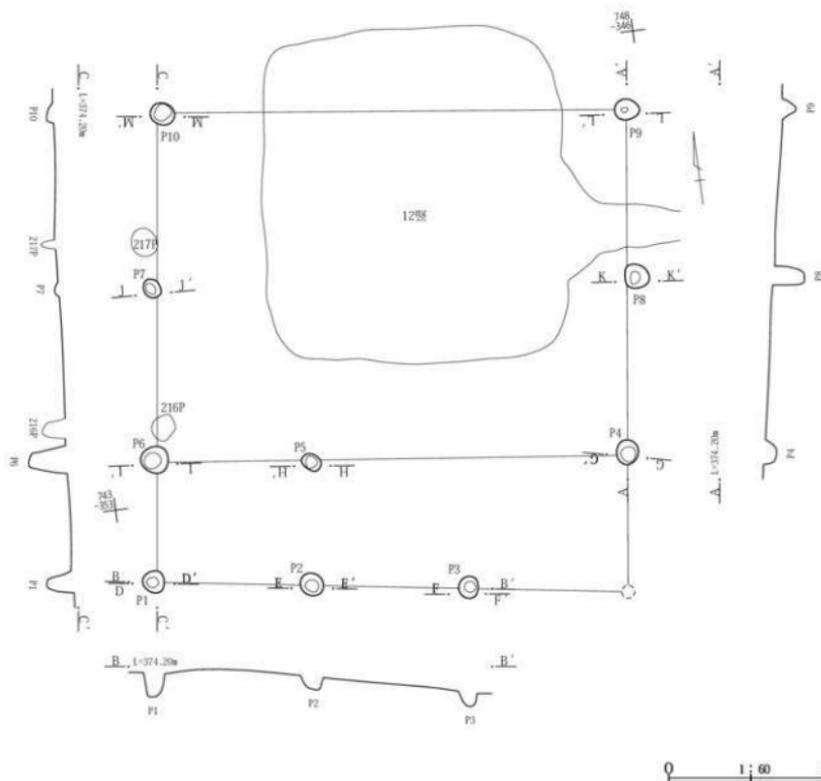
主軸方向 N-7°-E

状況 柱穴は10基で、柱の規模はP1が0.27m:0.26m、P2が0.29m:0.27m、P3が0.27m:0.24m、P4が0.30m:

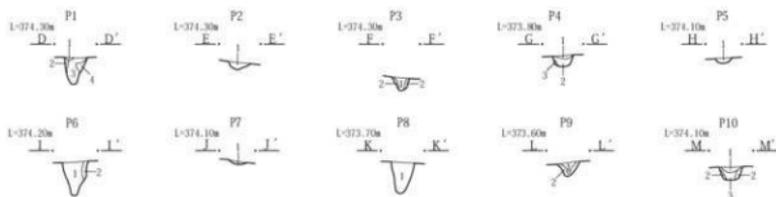
0.28m、P5が0.25m:0.19m、P6が0.34m:0.33m、P7が0.23m:0.20m、P8が0.29m:0.29m、P9が0.30m:0.25m、P10が0.30m:0.27mである。柱同士の間隔を示す柱間寸法は、1-2:1.94m、2-3:1.90m、4-6:5.75m、4-5:3.83m、5-6:1.90m、6-7:3.10m、7-8:5.87m、8-9:2.05m、9-10:5.65m、2-5:1.52m、1-6:1.45m、4-8:2.15m、7-10:2.15mである。貼り床もしっかりとはいないうえに礎石など無し。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。



第128図 9号掘立柱建物(1)



9号掘立柱建物

- | | |
|--|--|
| <p>P1 1 褐灰色土(10YR6/1)As-Kkを10%、Hr-FA灰ブロックを40%含む。
2 褐灰色土(10YR5/1)As-Kkを5%、Hr-FA灰ブロックを50%含む。
3 明黄褐色土(10YR6/6)As-Kkを10%、Hr-FA灰ブロックを30%含む。
4 褐灰色土(10YR5/1)As-Kkを5%、Hr-FA灰を70%含む。締まりあり。</p> <p>P2 1 明黄褐色土(10YR6/6)As-Kkを10%、Hr-FA灰ブロックを30%含む。
P3 1 明黄褐色土(10YR6/6)As-Kkを10%、Hr-FA灰ブロックを20%含む。
2 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA灰ブロックを20%含む。粘性あり。
P4 1 褐灰色土(10YR6/1)As-Kkを10%、Hr-FA灰ブロックを40%含む。
2 褐灰色土(10YR5/1)As-Kkを5%、Hr-FA灰ブロックを50%含む。
3 褐灰色土(10YR5/1)As-Kkを5%、Hr-FA灰を70%含む。締まりあり。
P5 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kkを5%、Hr-FA灰ブロックを40%含む。</p> | <p>P6 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kkを10%、Hr-FA灰ブロックを30%含む。
2 褐灰色土(10YR5/1)Hr-FA灰を10%含む。
P7 1 明黄褐色土(10YR6/6)As-Kkを10%、Hr-FA灰ブロックを30%含む。
P8 1 褐灰色土(10YR5/1)As-Kkを5%、Hr-FA灰を70%含む。締まりあり。
P9 1 褐灰色土(10YR5/1)As-Kkを5%、Hr-FA灰ブロックを50%含む。
2 褐灰色土(10YR6/1)As-Kkを10%、Hr-FA灰ブロックを30%含む。
P10 1 に赤い黄褐色土(10YR7/2)As-Kkを10%、Hr-FA灰を50%含む。
2 褐灰色土(10YR5/1)As-Kkを5%、Hr-FA灰ブロックを20%含む。締りあり。
3 褐灰色土(10YR4/1)Hr-FA灰・灰を30%含む。粘性あり。</p> |
|--|--|

第129図 9号掘立柱建物(2)

10号掘立柱建物(第130・131図、Pl.36・37)

位置 1区東部

座標値 X=62738～62742、Y=-85296～-85300

重複 無し

形状 おそらく2間×3間の東西棟長方形の建物

規模 3.60m×3.30m

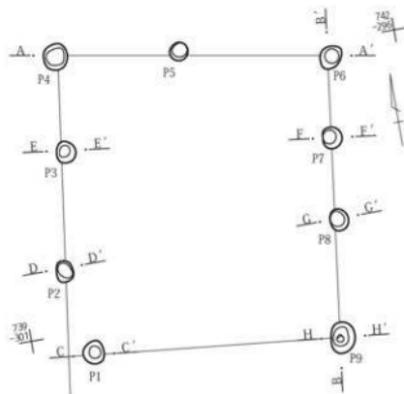
面積 11.80㎡

主軸方向 N-7°-E

状況 柱穴は9基で、柱の規模はP1が0.28m:0.25m、P2が0.26m:0.21m、P3が0.26m:0.23m、P4が0.33m:0.29m、P5が0.23m:0.21m、P6が0.27m:0.26m、P7が0.27m:0.25m、P8が0.27m:0.23m、P9が0.38m:0.30mである。柱同士の距離を示す柱間寸法は、1-2:1.00m、2-3:1.50m、3-4:1.15m、4-5:1.50m、5-6:1.85m、6-7:1.00m、7-8:1.00m、8-9:1.45mである。貼り床もしっかりとはしていないうえに礎石など無し。

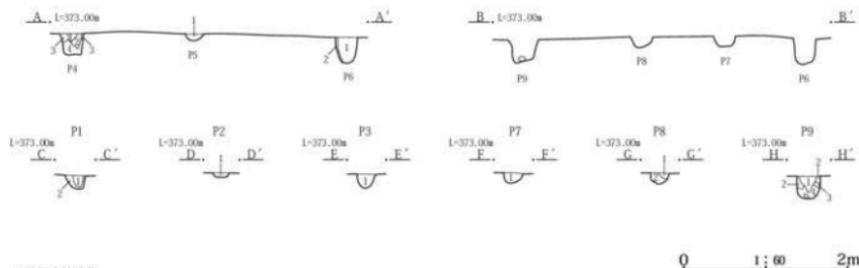
遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。



第130図 10号掘立柱建物(1)

第3章 発掘された遺構と遺物



10号掘立柱建物

- P1 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)Hr-FAを主体とし黒色土ブロック(φ10mm以下)を少量含む。締まり弱い。
 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)Hr-FAを主体とし黒色土ブロック(φ20mm以下)をやや多量含む。粘性・締まりやや強い。
 P2 1 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒を多量含む。粘性・締まりやや強い。
 P3 1 黒色土(10YR2/1)Hr-FAブロック(φ20mm以下)をやや多量含む。粘性・締まりやや強い。
 P4 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)Hr-FAを主体とし黒色土粒を少量含む。粘性・締まりやや強い。
 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)Hr-FAを主体とし黒色土粒をやや多量含む。粘性・締まりやや強い。
 3 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒を多量含む。粘性・締まりやや強い。
 4 黒色土(10YR2/1)Hr-FAブロック(φ15mm以下)をやや多量含む。粘性・締まりやや強い。
 P5 1 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FAブロック(φ25mm以下)を多量含む。粘性・締まりやや強い。

- P6 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)Hr-FAを主体とし黒色土ブロック(φ30mm以下)を少量含む。粘性・締まりやや強い。
 2 黒色土(10YR2/1)Hr-FAブロック(φ15mm以下)をやや多量含む。粘性・締まりやや強い。
 P7 1 黒色土(10YR2/1)Hr-FAブロック(φ20mm以下)をやや多量含む。粘性・締まりやや強い。
 P8 1 黒色土(10YR2/1)Hr-FA粒をやや多量含む。粘性・締まりやや強い。
 2 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FAブロック(φ10mm以下)をやや多量含む。粘性・締まりやや強い。
 P9 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)Hr-FAを主体とし黒色土粒を少量含む。粘性・締まりやや強い。
 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)Hr-FAを主体とし黒色土粒をやや多量含む。粘性・締まりやや強い。
 3 黒褐色土(10YR2/2)Hr-FA粒を多量含む。粘性やや強い。締まりやや弱い。
 4 黒褐色土(10YR2/2)FA粒を多量含む。粘性やや強い。締まりやや弱い。

第131図 10号掘立柱建物(2)

11号掘立柱建物(第132図、PL.37)

位置 1区中央南部

座標値 X=62738 ~ 62744, Y=-85332 ~ -85340

重複 12・13・14・15号掘立柱建物と重複するが、新旧関係は不明である。

形状 おそらく3間×1間の東西棟長方形の建物

規模 6.70m×3.50m

面積 23.28㎡

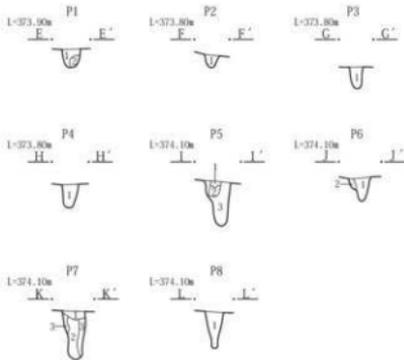
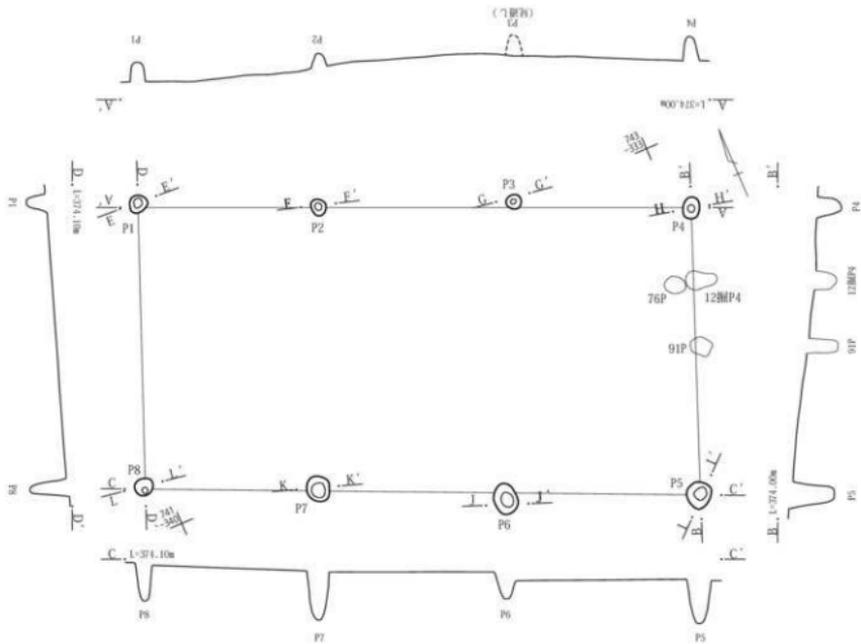
主軸方向 N-21°-E

状況 柱穴は8基で、柱の規模はP1がφ0.23m:0.22m、P2がφ0.21m:0.19m、P3がφ0.19m:0.19m、P4がφ0.27m:0.20m、P5がφ0.32m:0.30m、P6がφ0.38m:0.29m、P7がφ0.31m:0.28m、P8がφ0.26m:0.23mである。柱同士の間隔を示す柱間寸法は、1-2:2.20m、2-3:2.38m、3-4:2.15m、4-5:3.50m、5-6:2.35m、6-7:2.30m、

7-8:2.10m、8-1:3.50mである。貼り床もしっかりとはいっていないうえで礎石など無し。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。



11号掘立柱建物

- P1 1 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk20%、Hr-FA粒10%
 2 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk20%、Hr-FA粒10%
- P2 1 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk30%、Hr-FA粒5%
 P3 1 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk20%、Hr-FA粒10%
- P3 2 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk20%、Hr-FA粒10%
- P4 1 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk5%、Hr-FA粒5%
 2 暗褐色土(10YR3/4)As-Kk10%、Hr-FA粒5%
- P5 1 掘戻土(10YR4/1)白色土粒10% (朽ちた木の痕跡)
 2 黒褐色土(10YR3/2)Hr-FA5%
 3 暗褐色土(10YR3/3)Hr-FAブロック(5~20mm)10%、Hr-FA粒10%
- P6 1 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk30%、Hr-FA粒1%
 2 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk30%、暗褐色土40%
- P7 1 暗褐色土(10YR3/4)As-Kk20%、Hr-FA粒30%
 2 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk20%、Hr-FA粒10%
 3 暗褐色土(10YR3/4)As-Kk10%、Hr-FA粒40%
- P8 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk30%、Hr-FA粒1%

0 1:60 2m

第132図 11号掘立柱建物

12号掘立柱建物(第133・134図、PL.37・38)

位置 1区南西部

座標値 X=62737 ~ 62743、Y=-85331 ~ -85340

重複 11・13・14・15号掘立柱建物と重複するが、新旧関係は不明である。

形状 おそらく3間×1間の東西棟長方形の建物

規模 8.40m×3.20m

面積 26.97㎡

主軸方向 N-22°-E

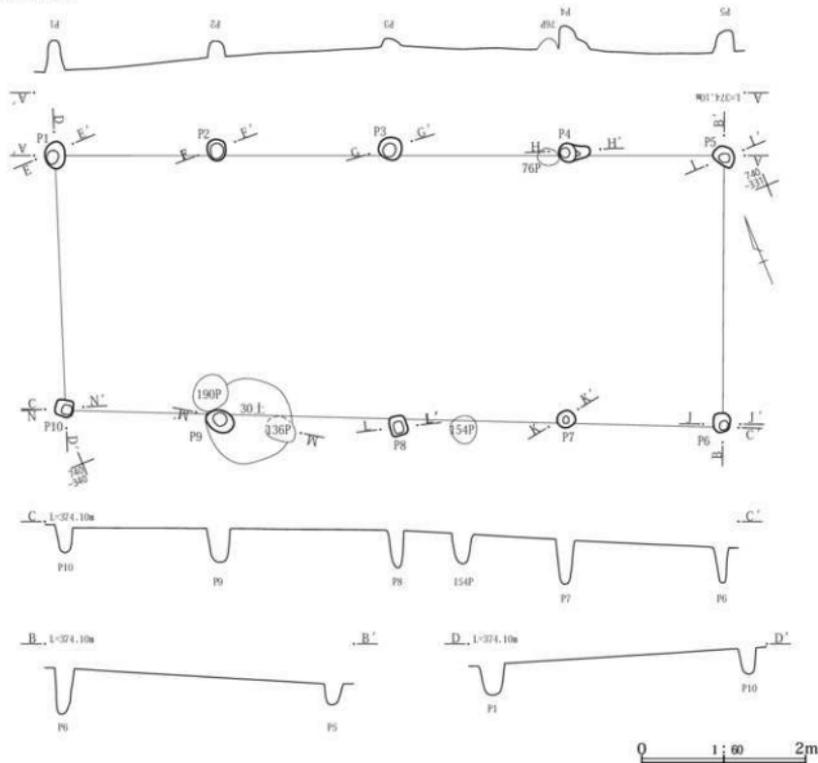
状況 柱穴は10基で、柱の規模はP1が0.32m:0.25m、P2が0.25m:0.22m、P3が0.27m:0.27m、P4が0.38m:

0.23m、P5が0.28m:0.22m、P6が0.24m:0.21m、P7が0.22m:0.20m、P8が0.24m:0.20m、P9が0.35m:0.27m、P10が0.22m:0.20mである。柱同士の間隔を示す柱間寸法は、1-2:2.00m、2-3:2.10m、3-4:2.15m、4-5:1.95m、5-6:3.3m、6-7:1.93m、7-8:2.05m、8-9:2.15m、9-10が1.85m、4-7が3.27m、3-8が34m、2-9が3.25mである。貼り床もしっかりとはしていないうえに礎石など無し。

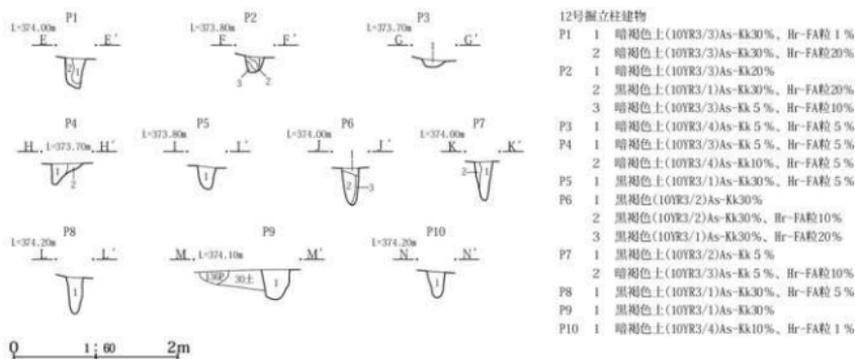
遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

12号掘立柱建物



第133図 12号掘立柱建物(1)



第134図 12号掘立柱建物(2)

13号掘立柱建物(第135・136図、PL.38・39)

位置 1区南東部

座標値 X=62736～62740, Y=-85331～-85338

重複 11・12・14・15号掘立柱建物と重複するが、新旧関係は不明である。

形状 おそらく3間×1間の東西棟長方形の建物

規模 6.50m×2.10m

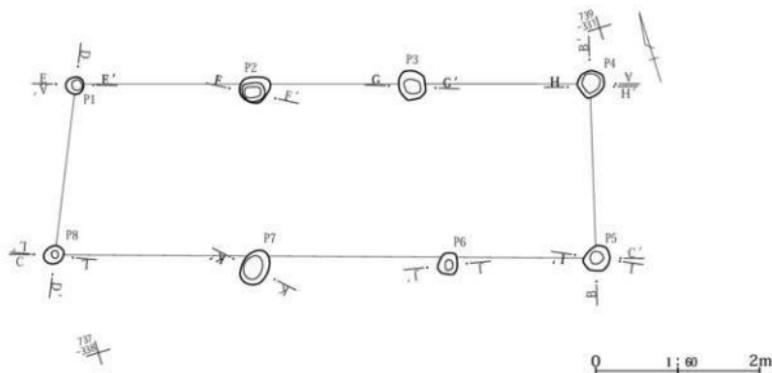
面積 13.58㎡

主軸方向 N-14°-E

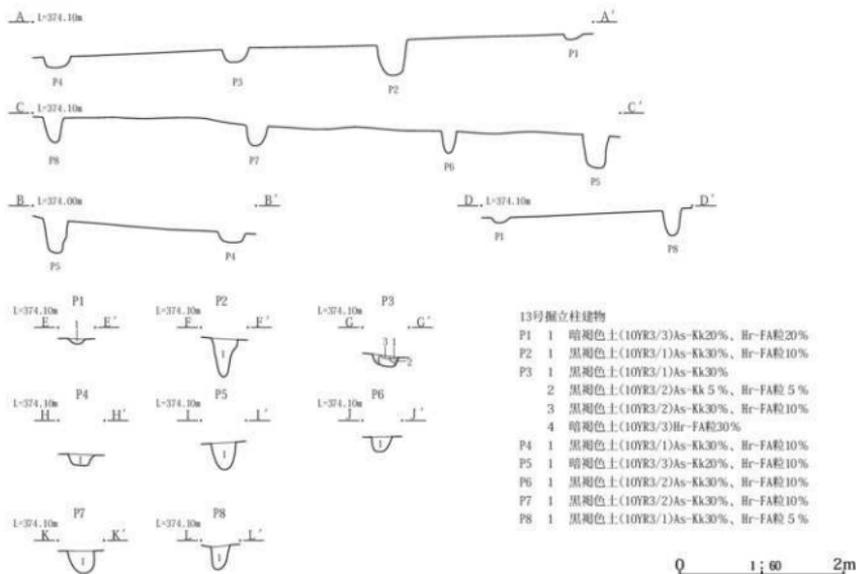
状況 柱穴は8基で、柱の規模はP1が0.22m:0.22m、P2が0.35m:0.32m、P3が0.35m:0.32m、P4が0.32m:0.30m、P5が0.34m:0.30m、P6が0.27m:0.24m、P7が0.45m:0.32m、P8が0.25m:0.22mである。柱同士の間隔を示す柱間寸法は、1-2:2.2m、2-3:1.95m、3-4:2.15m、4-5:2.15m、5-6:1.80m、6-7:2.35m、7-8:2.40mである。貼り床もしっかりとはしていないうえに礎石など無し。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。



第135図 13号掘立柱建物(1)



13号掘立柱建物

- P1 1 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk20%, Hr-FA粒20%
- P2 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk30%, Hr-FA粒10%
- P3 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk30%
- 2 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk 5%, Hr-FA粒 5%
- 3 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk30%, Hr-FA粒10%
- 4 暗褐色土(10YR3/3)Hr-FA粒30%
- P4 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk30%, Hr-FA粒10%
- P5 1 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk20%, Hr-FA粒10%
- P6 1 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk30%, Hr-FA粒10%
- P7 1 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk30%, Hr-FA粒10%
- P8 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk30%, Hr-FA粒 5%

第136図 13号掘立柱建物(2)

14号掘立柱建物(第137図、PL.39・40)

位置 1区南東部

座標値 X=62736 ~ 62741, Y=-85328 ~ -85337

重複 12・13・15号掘立柱建物と重複するが、新旧関係は不明である。

形状 おそらく5間×2間の東西棟長方形の建物

規模 6.20m×3.50m

面積 34.66㎡

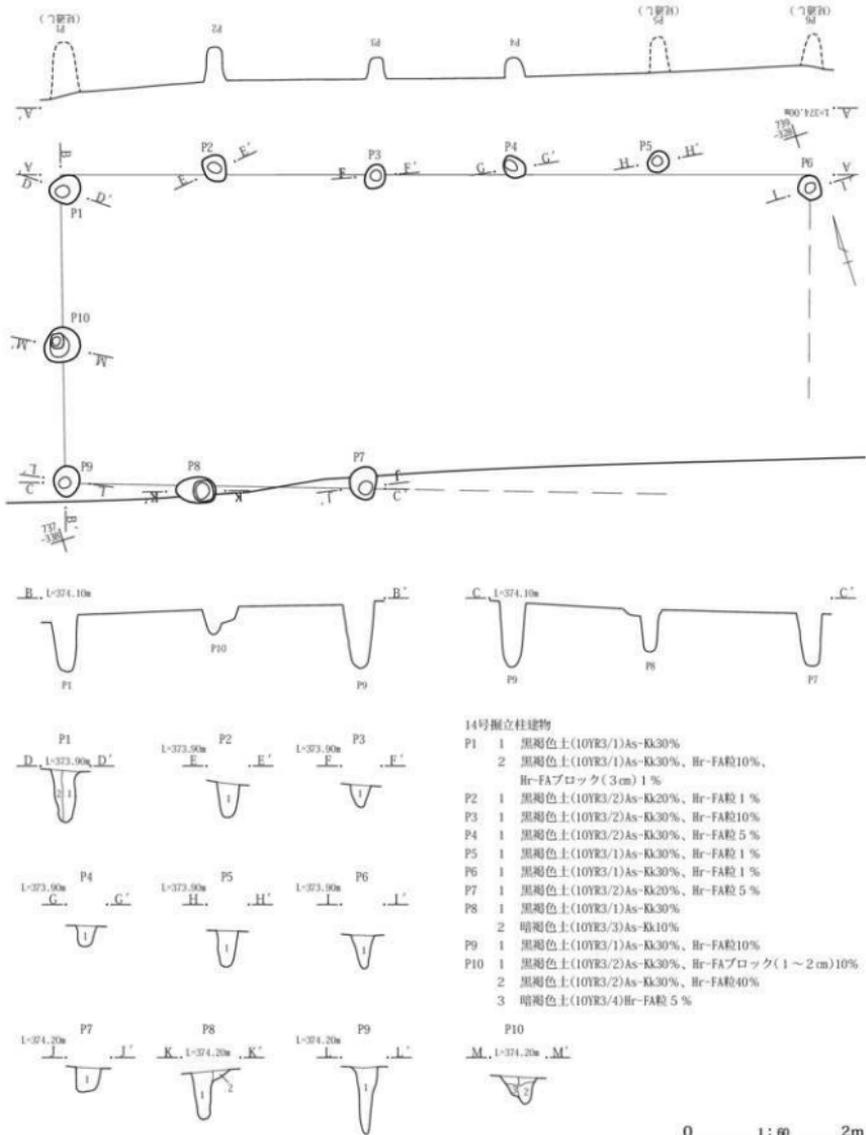
主軸方向 N-20°-E

状況 柱穴は10基で、柱の規模はP1が0.37m:0.35m、

P2が0.33m:0.28m、P3が0.32m:0.25m、P4が0.30m:0.24m、P5が0.27m:0.24m、P6が0.30m:0.28m、P7が0.40m:0.31m、P8が0.48m:0.32m、P9が0.38m:0.32m、P10が0.46m:0.42mである。柱同士の距離を示す柱間寸法は、1-2:1.85m、2-3:1.95m、3-4:1.65m、4-5:1.80m、5-6:1.90m、7-8:1.97m、8-9:1.65m、9-1:1.75mである。貼り床もしっかりとはしていないうえに礎石など無し。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。



第137図 14号掘立柱建物

15号掘立柱建物(第138図、PL.39・40)

位置 1区南東部

座標値 X=62738～62740、Y=-85328～-85335

重複 11・12・13・14号掘立柱建物と重複するが、新旧関係は不明である。

形状 おそらく3間×2間の東西棟長方形の建物

規模 6.20m×3.50m

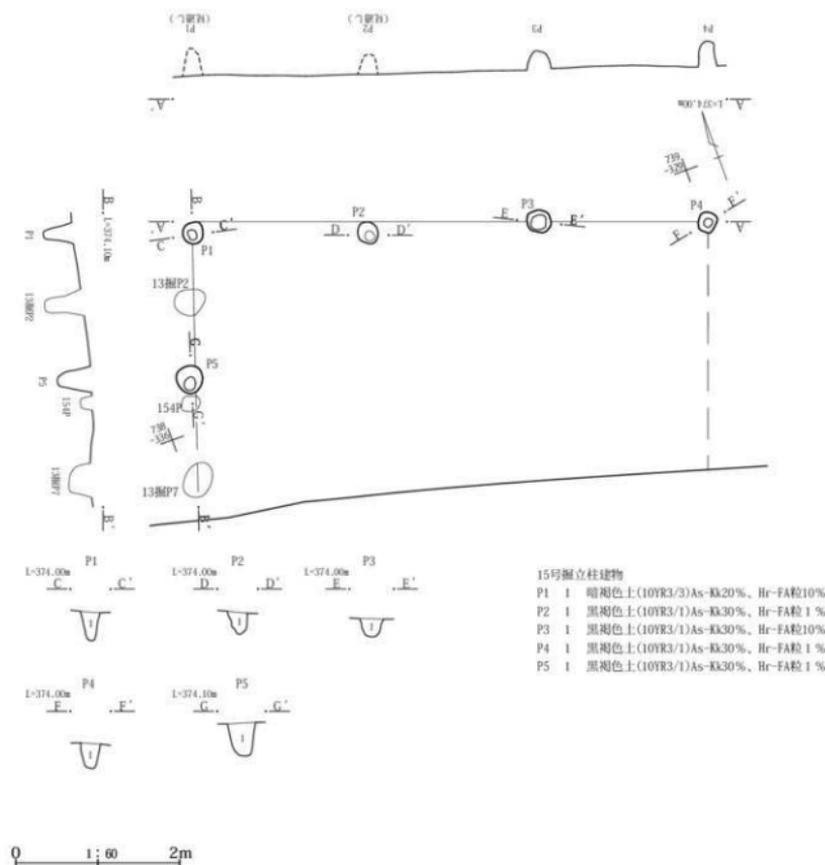
面積 20.27㎡

主軸方向 N-20°-E

状況 柱穴は5基で、柱の規模はP1が0.28m×0.25m、P2が0.27m×0.25m、P3が0.28m×0.28m、P4が0.25m×0.22m、P5が0.35m×0.32mである。柱同士の距離を示す柱間寸法は、1-2:2.15m、2-3:2.10m、3-4:2.05m、1-5:1.75mである。貼り床もしっかるとはしていないうえに礎石など無し。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。



第138図 15号掘立柱建物

すべての掘立柱建物がその主軸が東西方向で地形に即して使用されていたと考えられ南面を入口とすることで現代と同様に風避けを意識したものと考えられる。同様に、テラス状の土地利用が想定され限られた空間を利用していることから、掘立柱建物の建て替えが行われたと推定されそこから生じる問題としては、その建て替えが実際に3ないしは4棟の重複関係が平面上で認められるものの、その個々の新旧関係が定かでないことである。柱穴同士の切り合いがない限り、切り合い関係が無い状態で新旧関係を確認は出来ない。

(3) 柵

計3基の柵を確認した。1区東南部に東西方向に1号柵が、北に位置する7号掘立柱建物と近い主軸方向で建てられる。また、2区北部から1区南西部にかけて、南北方向に2・3号柵が並んですぐ西側の掘立柱建物群と近い主軸方向で建てられている。

1号柵(第139図、PL.41)

位置 1区東部

座標値 $X=62729 \sim 62730$, $Y=-85294 \sim -85299$

重複 無し

主軸方位 $N-77^{\circ}-W$ 7号掘立柱建物に近い方向に主軸がある。

状況 1号畑と同様に東西方向よりやや傾いている。

埋没土 黒褐色土とAs-Kkが混土。軽石、Hr-FA粒を少量

含む。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

2号柵(第140図、PL.41)

位置 1区南西部から2区北部

座標値 $X=62734 \sim 62744$, $Y=-85345 \sim -85349$

重複 無し

主軸方位 $N-19^{\circ}-E$ 西側の掘立柱建物群と近い方向に主軸がある。

状況 1号畑と同様に東西方向よりやや傾いている。

埋没土 黒褐色土とAs-Kkが混土。軽石、Hr-FA粒を少量含む。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

3号柵(第140図、PL.41)

位置 1区南西部から2区北部

座標値 $X=62736 \sim 62742$, $Y=-85345 \sim -85348$

重複 無し

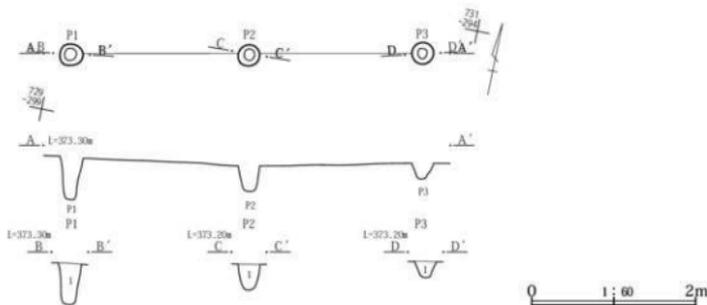
主軸方位 $N-19^{\circ}-E$ 西側の掘立柱建物群と近い方向に主軸がある。

状況 1号畑と同様に南方よりやや傾いている。

埋没土 黒褐色土とAs-Kkが混土。軽石、Hr-FA粒を少量含む。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。



1号柵

1 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk混土。3～8mmの軽石を20%、2～4mmのHr-FA粒を5%含む。

第139図 1号柵

(4) 溝

溝は、1区中央部を南北に縦断し南から北に流れるもので、水路としての利用が想定される。

1号溝(第141～143図、PL.42・83・84)

位置 1区中央部

座標値 X=62733～62757、Y=-85319～-85323

重複 無し

形状 幅が狭く浅い掘鉢状

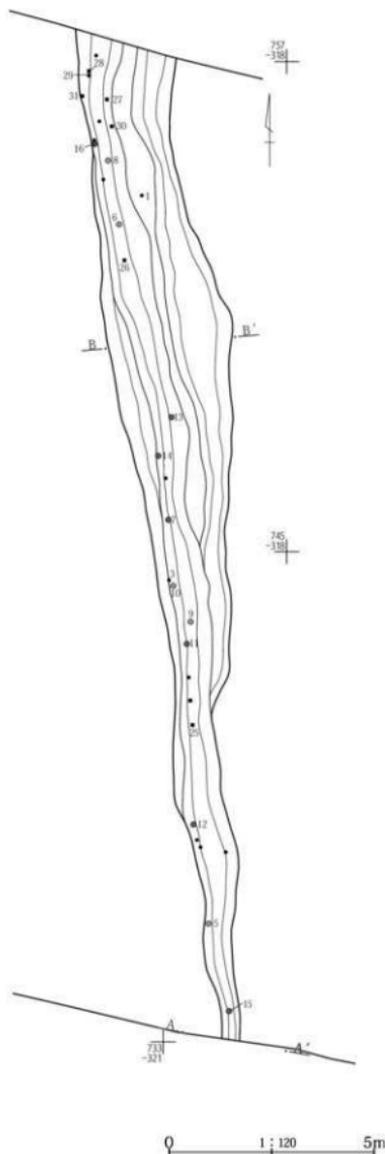
規模 確認された長さは約25m

状況 遺構の掘り込み面が基本土層のII層であることから、想定される時期は中世から近世にかけてである。堆積した土層の観察から何度も水が流れた痕跡が確認され、傾斜に沿って南から西北に向けて緩やかに傾斜している。1本の溝が1区のほぼ中央を南北に貫くように北へ流れ出しているが、途中で2本に分かれ穏やかに蛇行するようになっており、その段階での時期差があるのかもしれない。埋没土中には砂や小礫が含まれている。また緩やかに蛇行する様子から自然流路と考えられるが、おそらくは農耕用の水路的な役割として、下流周囲に広がる水田などへの水の供給の目的利用されたものと考えられる。

古い耕地図などからもこの場所に細長い区画が、南から北へ継続しており沢の存在が推定される。現在は南西の丘陵部際に流れる水路の前身とも考えられ、丘陵を横切るように北上していたと思われる。それが土地利用の変化に合わせて西際に流れを変えられたと推測される。

遺物 遺物が埋没土から覆土にかけて中・近世の遺物が出土。

時期 出土遺物から近世か。



第141図 1号溝(1)

A, 1:374.000

A'

B, 1:374.000

B'

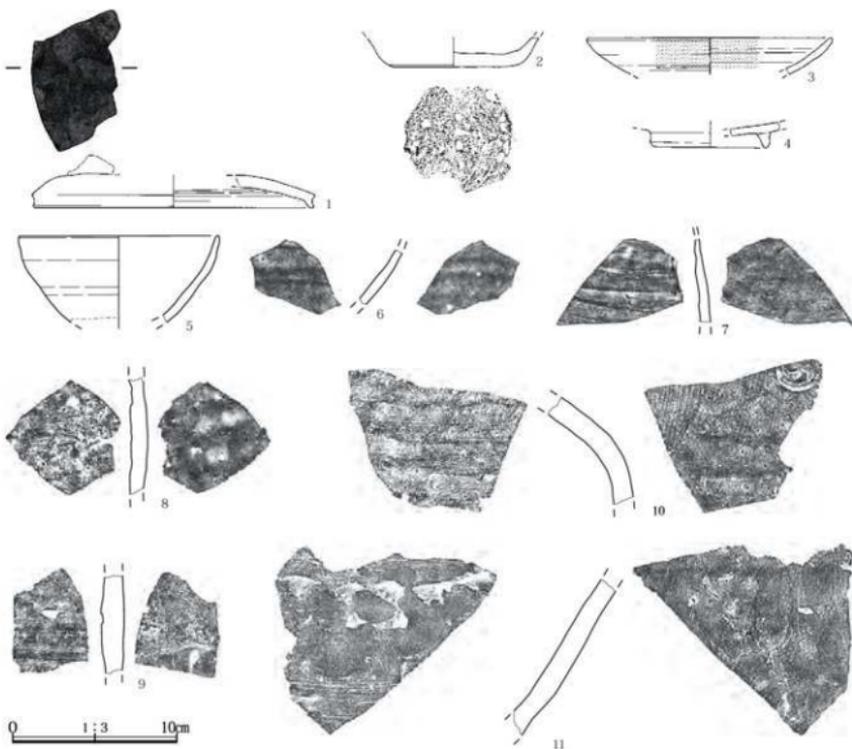


0 1:40 1m

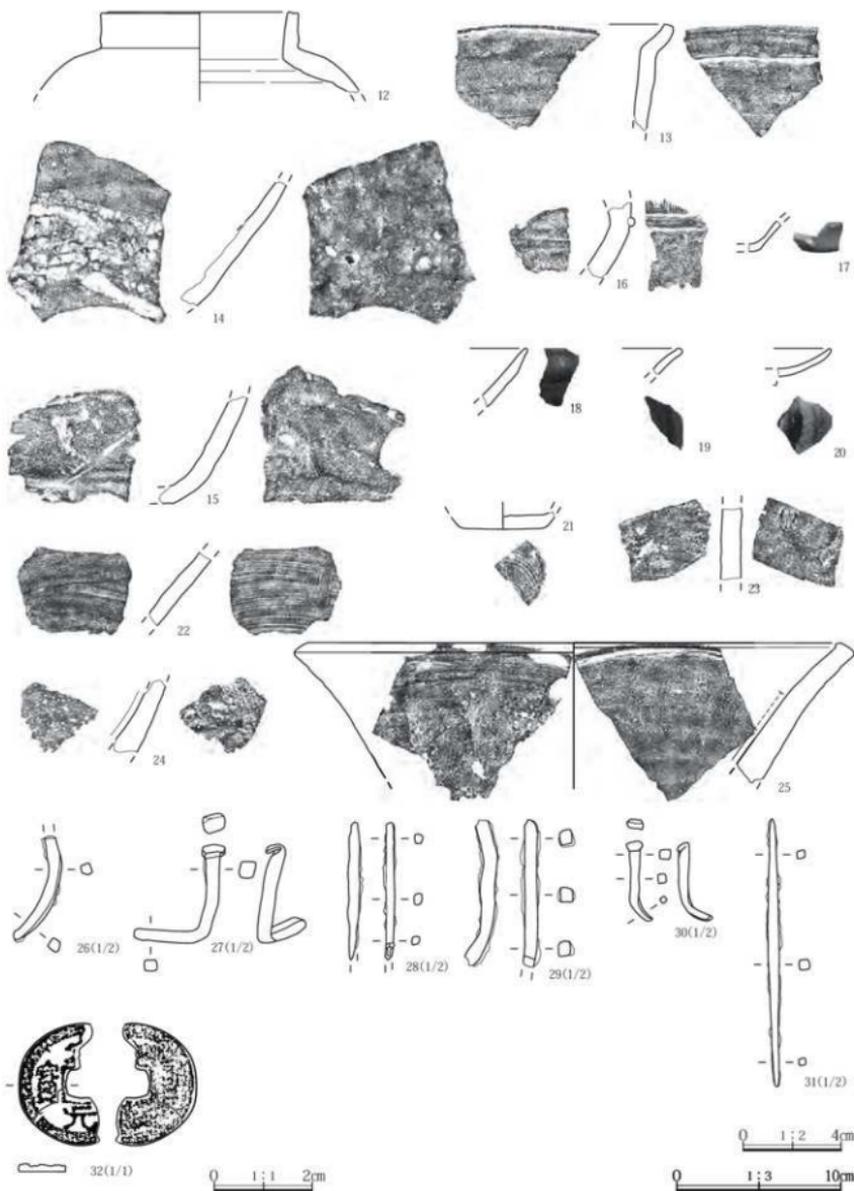
1号溝

- 1 黒褐色土(10YR3/1)締りややあり。粘性なし。As-Kk混土。10cmほどの礫を中量、橙色粒子を少量含む。
- 2 黒色土(10YR2/1)締りややあり。粘性なし。ブロック状に黒色土を含み、橙色、炭化物を中量含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)締りなし。粘性なし。10cm~20cmの礫、土器破を多量に含む。橙色粒子中量。

- 4 黒褐色土(10YR3/1)締りややあり。粘性なし。礫を少量、橙色粒子中量含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/1)締りややあり。粘性なし。As-Kk混土。礫多量含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/2)締りややあり。粘性なし。
- 7 にぶい黄褐色土(10YR4/3)締りなし。粘性なし。BR+FA混土。



第142図 1号溝(2)、出土遺物(1)



第143図 1号溝出土遺物(2)

(5) 畑

1区北東部に1・2号畑、2区東部中央に3号畑がある。いずれの畑の時期も特定しにくいが確認面から中世以後と考えられる。走行方位はいずれもほぼ東西方向であり、傾斜に併行する形である。傾斜をうまく利用してテラス状に成形した台地の土地利用に沿ったものである。

1号畑(第144・145図、PL.42・84)

位置 1区北東部

座標値 X=62741～62750、Y=-85289～-85304

重複 重複関係は2号畑と27号土坑とあり、新旧関係はセクションでの観察から、2号畑が1号畑よりも古く27号土坑が1・2号畑よりも新しい。さらに3号試掘トレンチに、2号畑と同様に南側の一部を壊されている。

主軸方位 N-70°-W

状況 西南方向よりやや傾いている。7条の畝間が検出された。当然最低でも6本の畝が存在したと考えられ

る。畝の幅と畝間の幅が64cmであるが作物は不明である。

埋没土 黒褐色土を主体とし、As-Kkが混じる。

遺物 中・近世の陶磁器が少しみられる。

時期 おそらく近世。

2号畑(第144・145図、PL.42)

位置 1区北東部

座標値 X=62744～62750、Y=-85294～-85300

重複 重複関係は1号畑と27号土坑とあり、新旧関係はセクションでの観察から、2号畑が1号畑よりも古く、27号土坑が1・2号畑よりも新しい。さらに3号試掘トレンチに、1号畑と同様に南側の一部を壊されている。

主軸方位 N-82°-W ほぼ東西方向

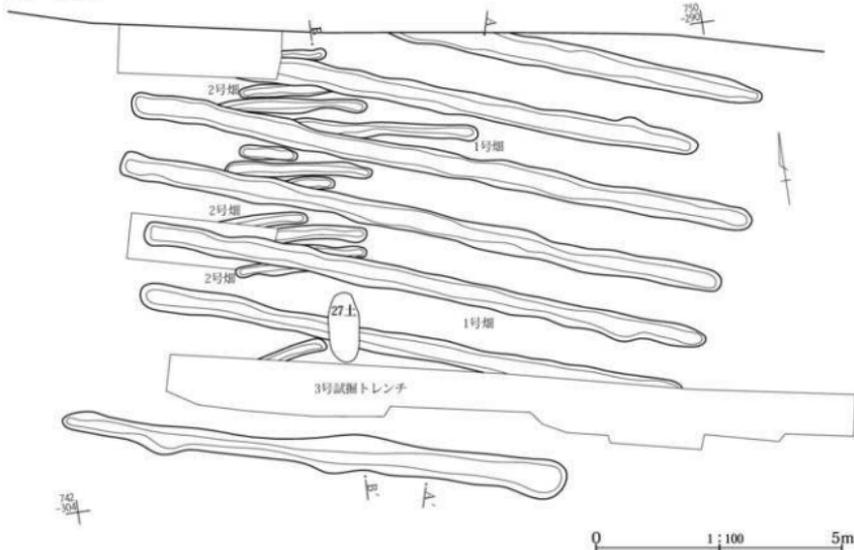
形状 11条以上の畝間が検出された。当然最低でも10本の畝が存在したと考えられる。畝の幅20cmと畝間の幅35cmであり作物は不明である。

埋没土 黄褐色土を主体とする。

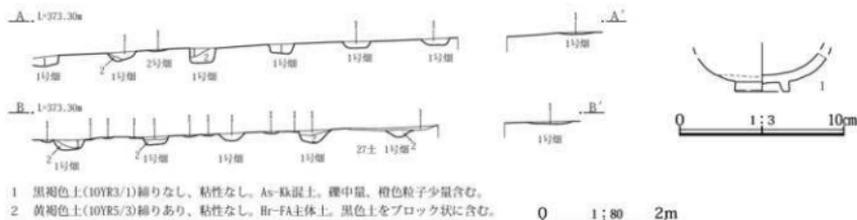
遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

1号・2号畑



第144図 1・2号畑(1)



第145図 1・2号畑(2)、1号畑出土遺物

3号畑(第146図、PL.42)

位置 2区東部

座標値 X=62707～62717、Y=-85348～-85353

重複 無し

主軸方位 N-77°-W

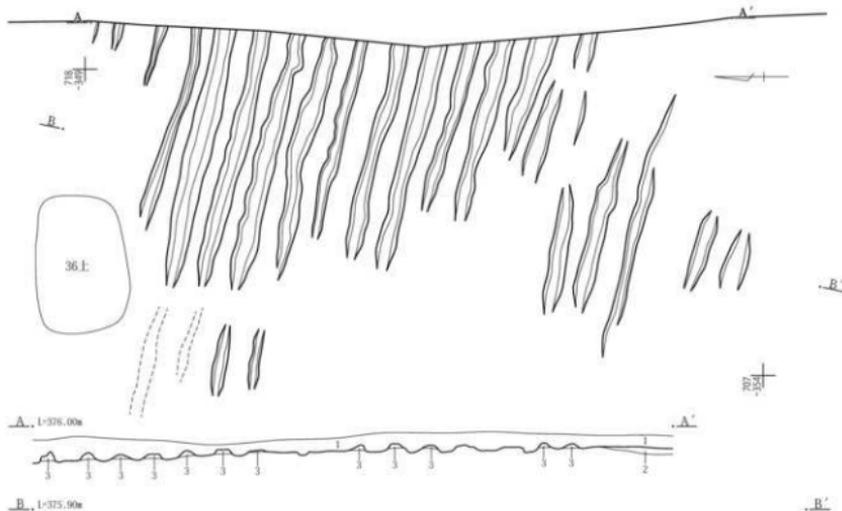
状況 1号畑と同様に東西方向よりやや傾いている。20条近い畝間が見出された。当然最低でも20本の畝が存在したと考えられる。

埋没土 1号溝と同様な黒褐色土を主体としAs-Kkが混じる。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

いずれの畑の時期は特定しにくいが確認面から中世以後と考えられる。走行方位はいずれもほぼ東西方向であり、傾斜に併行する形である。傾斜をうまく利用してテラス状に成形した台地の土地利用に沿ったものである。



3号畑

- 1 黒褐色土(10YR3/1)締りなし、粘性なし、As-alk土、礫中量、褐色粒子少量含む。
- 2 黄褐色土(10YR5/3)締りあり、粘性なし、Hr-FA主体土、黒色土をブロック状に含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)締りややあり、粘性ややあり、褐色粒子中量、礫、炭化物少量含む。

第146図 3号畑

(6)土坑

土坑は、総数47基確認された。1区北西部に集中しており、1区東部、2区中央部に少数存在する。

1号土坑(第147図、PL.43)

位置 1区北西部

座標値 X=62762～62763、Y=-85353

重複 無し

主軸方位 N-14°-W

形状 楕円形

規模 長径1.00m、短径0.68m、深さ0.08m

埋没土 黒褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

2号土坑(第147図、PL.43)

位置 1区北西部

座標値 X=62760～62761、Y=-85352～-85353

重複 無し

主軸方位 N-69°-E

規模 長径0.88m、短径0.66m、深さ0.13m

形状 隅丸長方形

埋没土 黒褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

3号土坑(第147図、PL.43)

位置 1区北西部

座標値 X=62759、Y=-85350

重複 無し

主軸方位 N-20°-E

規模 長径0.47m、短径0.47m、深さ0.14m

形状 円形

埋没土 黒褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

4号土坑(第147図、PL.43)

位置 1区北西部

座標値 X=62758～62759、Y=-85352～-85353

重複 無し

主軸方位 N-79°-W

規模 長径4.01m、短径0.85m、深さ0.24m

形状 楕円形

状況 床面は平らでやや硬く締まっている。

埋没土 黒褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

5号土坑(第147図、PL.43)

位置 1区北西部

座標値 X=62755～62758、Y=-85339～-85342

重複 4号トレンチと重複。

主軸方位 N-30°-E

規模 長径3.55m、短径0.70m、深さ0.42m

形状 隅丸長方形

状況 おそらくは「イモ穴」と想定される。4号試掘トレンチにより南端を壊されている。

埋没土 黒褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

6号土坑(第147図、PL.43・84)

位置 1区北西部

座標値 X=62760～62761、Y=-85342～-85346

重複 無し

主軸方位 N-78°-W

規模 長径4.01m、短径0.82m、深さ0.24m

形状 隅丸長方形

状況 おそらくは「イモ穴」と想定される。

埋没土 黒褐色土が主体である。

遺物 鉄製品の釘が出土。

時期 中・近世。明確な時期は不明。

7号土坑(第148図、PL.43)

位置 1区北西部

座標値 X=62761～62763、Y=-85341

重複 無し

主軸方位 N-6°-W

規模 長径(1.84)m、短径0.49m、深さ0.39m
形状 隅丸長方形
埋没土 黒褐色土が主体である。
遺物 無し
時期 中・近世。明確な時期は不明。

8号土坑(第148図、PL.43・44)

位置 1区北西部
座標値 X=62759～62760、Y=-85338～-85341
重複 無し
主軸方位 N-80°-W
規模 長径2.58m、短径0.58m、深さ0.48m
形状 隅丸長方形
状況 おそらくは「イモ穴」と推定される。
埋没土 黒褐色土が主体である。
遺物 無し
時期 中・近世。明確な時期は不明。

9号土坑(第148図、PL.44)

位置 1区北西部
座標値 X=62754～62755、Y=-85336～-85337
重複 無し
主軸方位 N-43°-E
規模 長径0.94m、短径0.71m、深さ0.10m
形状 円形
埋没土 黒褐色土が主体である。
遺物 無し
時期 中・近世。明確な時期は不明。

10号土坑(第148図、PL.44)

位置 1区北西部
座標値 X=62754～62755、Y=-85335～-85336
重複 無し
主軸方位 N-47°-W
規模 長径0.75m、短径0.66m、深さ0.09m
形状 円形
埋没土 暗褐色土が主体である。
遺物 無し
時期 中・近世。明確な時期は不明。

11号土坑(第148図、PL.44)

位置 1区北西部
座標値 X=62753、Y=-85335
重複 無し
主軸方位 N-16°-W
規模 長径0.51m、短径0.50m、深さ0.24m
形状 円形
埋没土 暗褐色土が主体である。
遺物 無し
時期 中・近世。明確な時期は不明。

12号土坑(第148図、PL.44)

位置 1区北西部
座標値 X=62754～62755、Y=-85334
重複 無し
主軸方位 N-10°-E
規模 長径1.37m、短径0.31m、深さ0.14m
形状 隅丸長方形
状況 いわゆる「イモ穴」である。
埋没土 暗褐色土が主体。
遺物 須恵器の無台碗が混入。
時期 中・近世。明確な時期は不明。

13号土坑(第148図、PL.44)

位置 1区北西部
座標値 X=62755～62756、Y=-85338
重複 無し
主軸方位 N-31°-E
規模 長径0.72m、短径0.69m、深さ0.27m
形状 円形
埋没土 暗褐色土が主体である。
遺物 土師器の杯と須恵器の甕の混入。
時期 中・近世。明確な時期は不明。

14号土坑(第149図、PL.44)

位置 1区中央北部
座標値 X=62756～62757、Y=-85329～-85330
重複 無し
主軸方位 N-50°-E
規模 長径0.47m、短径0.35m、深さ0.23m

形状 円形

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

15号土坑(第149図、PL.44)

位置 1区中央北部

座標値 X=62756、Y=-85329

主軸方位 N-85°-W

規模 長径0.49m、短径0.43m、深さ0.42m

形状 円形

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

16号土坑(第149図、PL.45)

位置 1区中央北部

座標値 X=62756～62757、Y=-85328～-85329

重複 無し

主軸方位 N-18°-W

規模 長径0.63m、短径0.50m、深さ0.16m

形状 円形

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

17号土坑(第149図、PL.45)

位置 1区中央北部

座標値 X=62756～62757、Y=-85327～-85328

重複 無し

主軸方位 N-5°-E

規模 長径0.50m、短径0.43m、深さ0.14m

形状 円形

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

18号土坑(第149図、PL.45)

位置 1区中央北部

座標値 X=62755～62756、Y=-85327～-85328

重複 無し

主軸方位 N-24°-W

規模 長径0.63m、短径0.52m、深さ0.16m

形状 円形

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

19号土坑(第149図、PL.45)

位置 1区中央北部

座標値 X=62755～62756、Y=-85326～-85327

重複 無し

主軸方位 N-70°-E

規模 長径0.58m、短径0.55m、深さ0.78m

形状 円形。形状から柱痕と推定される。

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

20号土坑(第149図、PL.45)

位置 1区中央北部

座標値 X=62752～62753、Y=-85337

重複 無し

主軸方位 N-62°-W

規模 長径0.71m、短径0.65m、深さ0.28m

形状 円形

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

21号土坑(第149図、PL.45)

位置 1区中央北部

座標値 X=62751、Y=-85327

重複 無し

主軸方位 N-7°-W

規模 長径0.45m、短径0.45m、深さ0.07m

形状 円形

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

22号土坑(第149図、PL.45)

位置 1区中央北部

座標値 X=62751 ~ 62752、Y=-85327

重複 無し

主軸方位 N-26°-E

規模 長径0.47m、短径0.35m、深さ0.27m

形状 円形

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

23号土坑(第150図、PL.45・46)

位置 1区中央北部

座標値 X=62751 ~ 62753、Y=-85324 ~ -85325

重複 25号土坑と重複。23号土坑が新しい。

主軸方位 N-3°-W

規模 長径2.35m、短径0.61m、深さ0.20m

形状 隅丸長方形

状況 いわゆる「イモ穴」である。

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

24号土坑(第150図、PL.46)

位置 1区中央北部

座標値 X=62758、Y=-85325 ~ -85326

重複 無し

主軸方位 N-53°-W

規模 長径0.50m、短径(0.36)m、深さ0.35m

形状 円形か

埋没土 黒色が強い暗褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

25号土坑(第150図、PL.46)

位置 1区中央北部

座標値 X=62749 ~ 62751、Y=-85324 ~ -85326

重複 23号土坑と重複。25号土坑が古い。

主軸方位 N-30°-E

規模 長径2.35m、短径0.76m、深さ0.35m

形状 隅丸長方形

状況 いわゆる「イモ穴」である。

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

26号土坑(第150図、PL.46)

位置 1区中央北部

座標値 X=62751、Y=-85326

重複 無し

主軸方位 N-33°-E

規模 長径0.51m、短径0.49m、深さ0.16m

形状 円形

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

27号土坑(第150図)

位置 1区北東部

座標値 X=62744 ~ 62745、Y=-85297 ~ -85298

重複 1号畑と重複。27号土坑が新しい。

主軸方位 N-6°-E

規模 長径1.43m、短径0.62m、深さ0.05m

形状 隅丸長方形

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

28号土坑(第150図、PL.46)

位置 1区中央北部

座標値 X=62757 ~ 62758、Y=85327

重複 無し

主軸方位 N-46°-W

規模 長径0.83m、短径0.72m、深さ0.23m

形状 円形

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

29号土坑(第150図、PL.46)

位置 1区西部
 座標値 X=62746 ~ 62747、Y=-85345 ~ -85346
 重複 無し
 主軸方位 N-16°-W
 規模 長径0.48m、短径0.48m、深さ0.24m
 形状 円形
 埋没土 暗褐色土が主体である。
 遺物 無し
 時期 中・近世。明確な時期は不明。

30号土坑(第150図、PL.46)

位置 1区南西部
 座標値 X=62739 ~ 62740、Y=-85337 ~ -85338
 重複 136号ピットと12号掘立柱建物と190号ピットと重複。136号ピットと12号掘立柱建物が新しい。190号ピットは古い。
 主軸方位 N-40°-E
 規模 長径1.05m、短径0.97m、深さ0.24m
 形状 円形
 埋没土 暗褐色土が主体である。
 遺物 無し
 時期 中・近世。明確な時期は不明。

31号土坑(第150図、PL.46)

位置 1区南西部
 座標値 X=62744 ~ 62745、Y=-85340 ~ -85341
 重複 無し
 主軸方位 N-38°-E
 規模 長径1.52m、短径0.48m、深さ0.10m
 形状 隅丸長方形
 状況 いわゆる「イモ穴」である。
 埋没土 暗褐色土が主体である。
 遺物 無し
 時期 中・近世。明確な時期は不明。

32号土坑(第151図、PL.46・47)

位置 1区南西部
 座標値 X=62744 ~ 62647、Y=-85338
 重複 無し

主軸方位 N-4°-W

規模 長径2.70m、短径0.50m、深さ0.45m
 形状 隅丸長方形
 状況 いわゆる「イモ穴」である。
 埋没土 暗褐色土が主体である。
 遺物 無し
 時期 中・近世。明確な時期は不明。

33号土坑(第151図、PL.47)

位置 1区中央部
 座標値 X=62745 ~ 62746、Y=-85326
 重複 無し
 主軸方位 N-26°-W
 規模 長径0.67m、短径0.59m、深さ0.23m
 形状 円形
 埋没土 暗褐色土が主体である。
 遺物 無し
 時期 中・近世。明確な時期は不明。

34号土坑(第151図、PL.47)

位置 1区中央部
 座標値 X=62745、Y=-85324 ~ -85325
 重複 無し
 主軸方位 N-30°-E
 規模 長径0.81m、短径0.69m、深さ0.56m
 形状 円形
 状況 柱痕の可能性もある。
 埋没土 暗褐色土が主体である。
 遺物 無し
 時期 中・近世。明確な時期は不明。

35号土坑(第151図、PL.47)

位置 2区中央部
 座標値 X=62720 ~ 62721、Y=-85352 ~ -85353
 重複 無し
 主軸方位 N-25°-W
 規模 長径1.02m、短径1.02m、深さ0.17m
 形状 円形
 埋没土 暗褐色土が主体である。
 遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明

36号土坑(第151図、PL.47)

位置 2区中央部

座標値 X=62717～62718、Y=-85351～-85352

重複 無し

主軸方位 N-85°-E

規模 長径2.25m、短径1.49m、深さ0.52m

形状 隅丸長方形

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 灰軸陶器の椀が混入。

時期 中・近世。明確な時期は不明。

37号土坑(第151図、PL.47)

位置 1区西部

座標値 X=62750～62751、Y=-85344

重複 無し

主軸方位 N-52°-W

規模 長径0.42m、短径0.40m、深さ0.17m

形状 円形

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

38号土坑(第151図、PL.47)

位置 2区中央部

座標値 X=62703～62705、Y=-85348～-85349

重複 無し

主軸方位 N-45°-W

規模 長径1.85m、短径1.09m、深さ0.25m

形状 隅丸長方形

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

39号土坑(第152図、PL.47)

位置 1区中央部

座標値 X=62746～62748、Y=-85317～-85319

重複 無し

主軸方位 N-10°-E

規模 長径1.53m、短径1.39m、深さ(1.81)m以上

形状 円形

状況 ロート状に開いた口縁部から筒状に下に更に潜ることから井戸と考えられる。

埋没土 黒色土が主体である。

遺物 須恵器の有台椀が混入。

時期 中・近世。明確な時期は不明。

40号土坑(第152図、PL.48)

位置 1区東部

座標値 X=62739～62740、Y=-85312～-85314

重複 無し

主軸方位 N-85°-W

規模 長径2.12m、短径0.62m、深さ0.79m

形状 隅丸長方形

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

41号土坑(第152図、PL.48・84)

位置 1区東部

座標値 X=62737、Y=-85299

重複 42号土坑と重複。41号土坑が古い。

主軸方位 N-47°-E

規模 長径0.41m、短径0.40m、深さ0.18m

形状 円形

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 鉄釘片

時期 中・近世。明確な時期は不明。

42号土坑(第152図、PL.48)

位置 1区東部

座標値 X=62737、Y=-85299

重複 41号土坑と重複。42号土坑が新しい。

主軸方位 N-70°-W

規模 長径0.66m、短径0.41m、深さ0.41m

形状 隅丸長方形

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

44号土坑(第152図、PL.48)

位置 2区北部

座標値 X=62725～62726、Y=-85720～-85721

重複 無し

主軸方位 N-52°-W

規模 長径(0.77)m、短径0.67m、深さ0.07m

形状 隅丸長方形か

状況 床面はほぼ均等でそれほど硬く締まっていたはいない。おそらくは「イモ穴」と推定される。

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

45号土坑(第152図、PL.48)

位置 2区北東部

座標値 X=62731～62732、Y=-85347～-85348

重複 無し

主軸方位 N-33°-E

規模 長径0.65m、短径0.64m、深さ0.33m

形状 円形 壁がほぼ垂直に立ち上がっている。

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

49号土坑(第153図、PL.48)

位置 1区北東部

座標値 X=62754～62755、Y=-85312～-85313

重複 無し

主軸方位 N-40°-E

規模 長径(0.77)m、短径0.53m、深さ0.43m

形状 隅丸長方形

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

65号土坑(第153図、PL.48)

位置 1区東南部

座標値 X=62731、Y=-85386～-85387

重複 無し

主軸方位 N-51°-E

規模 長径0.88m、短径0.55m、深さ0.28m

形状 隅丸長方形

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

66号土坑(第153図、PL.48)

位置 1区東部

座標値 X=62739～62740、Y=-85294～-85295

重複 無し

主軸方位 N-51°-W

規模 長径1.47m、短径0.29m、深さ0.17m

形状 隅丸長方形

埋没土 暗褐色土が主体である。

遺物 無し

時期 中・近世。明確な時期は不明。

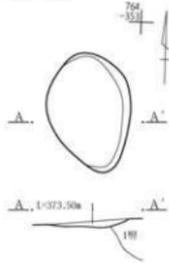
これまでの土坑の調査から、大きく3種に分類される。

①隅丸長方形 ②円形 ③楕円形

なかでも細長い長方形の土坑については従来の分析からいわゆる「イモ穴」と考えられいくつも確認されている。主軸も南北方向、あるいは東西方向であることから土地利用の区画の境界を表すものと考えられる。

ピットは215基と多数検出されている。大部分が柱状の円形の細長くぼみであり、掘立柱建物や柵列の痕跡の可能性もある。だが一方でまだ検討の余地があるものもある。

1号土坑



1号土坑

1 黒褐色(10YR3/1)As-Kk30%、Hr-FA粒10%

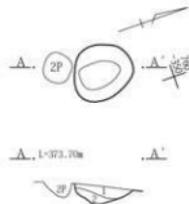
2号土坑



2号土坑

1 黒褐色(10YR3/1)As-Kk30%、Hr-FA粒10%

3号土坑



3号土坑

1 暗褐色(10YR3/4)Hr-FA粒10%
2 暗褐色(10YR3/4)Hr-FA粒20%

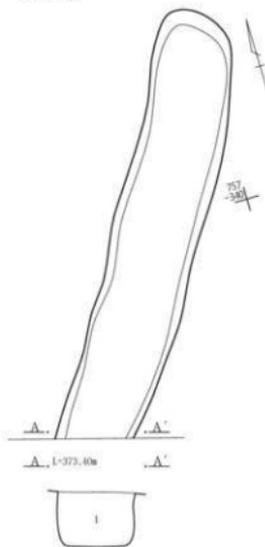
4号土坑



4号土坑

1 黒褐色(10YR3/1)As-Kk30%、Hr-FA(火砕流)5%

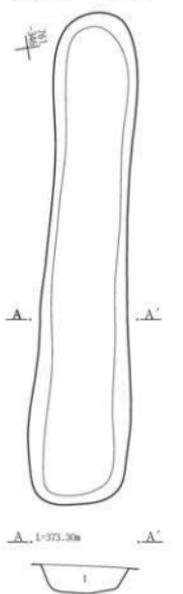
5号土坑



5号土坑

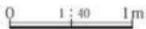
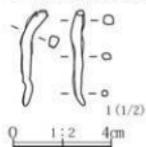
1 黒褐色(10YR3/1)As-Kk30%、Hr-FA粒10%

6号土坑



6号土坑

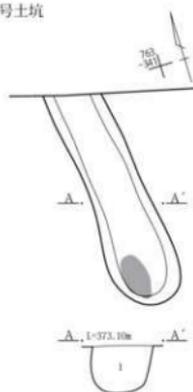
1 黒褐色(10YR3/1)As-Kk30%



第147図 中・近世土坑(1)

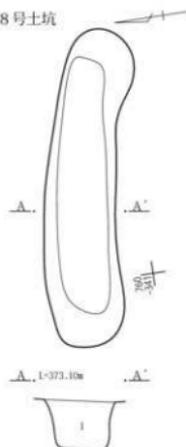
第3章 発掘された遺構と遺物

7号土坑



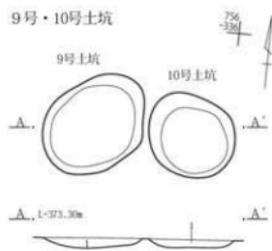
7号土坑
1 黒褐色(10YR3/1)As-Kk30%

8号土坑



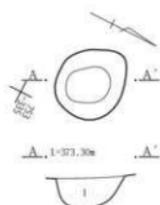
8号土坑
1 黒褐色(10YR3/1)As-Kk30%

9号・10号土坑



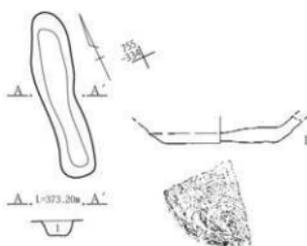
9号・10号土坑
1 暗褐色(10YR3/3)Hr-FA粒10%

11号土坑



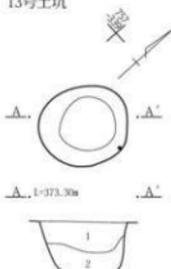
11号土坑
1 暗褐色(10YR3/3)Hr-FA粒10%、黒色土5%

12号土坑

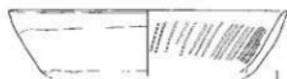


12号土坑
1 暗褐色(10YR3/3)Hr-FA粒5%、黒色土1%

13号土坑

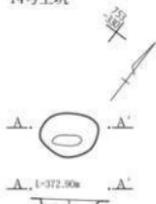


13号土坑
1 黒褐色土(10YR3/2)礫りややあり、粘性なし。
As-Kk混土、Hr-FA粒子中量、炭化物少量含む。
2 黒褐色土(10YR3/2)礫りややあり、粘性あり。



第148図 中・近世土坑(2)

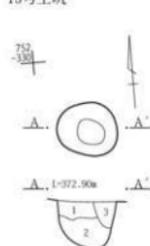
14号土坑



14号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)締りなし。Hr-FA混上。炭化物少量。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)締りややあり。粘性ややあり。橙色粒子中量。
- 3 褐色土(10YR4/1)締りなし。粘性なし。Hr-FA主体上(火砕流層)。橙色粒子少量。

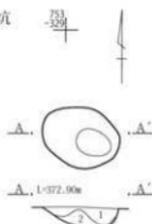
15号土坑



15号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)締りややあり。粘性なし。Hr-FA混上。炭化物少量。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)締りなし。粘性ややあり。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)締りややあり。粘性なし。

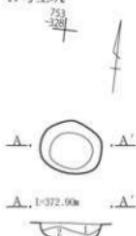
16号土坑



16号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)締りなし。粘性ややあり。Hr-FA混上。炭化物中量、白色粒子少量含む。5mmの橙色粒子中量。焼土微量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)締りなし。粘性ややあり。Hr-FAをブロック混上。炭化物中量、白色粒子少量含む。

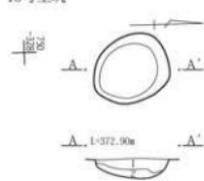
17号土坑



17号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)締りややあり。粘性なし。Hr-FA混上。橙色粒子中量。焼土粒子少量含む。炭化物中量。橙色粒子少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)締りややあり。粘性なし。Hr-FA少量。炭化物中量。

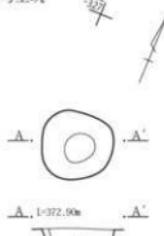
18号土坑



18号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)締りややあり。粘性なし。Hr-FA中量。橙色粒子中量。炭化物少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)締りややあり。粘性ややあり。Hr-FA少量。炭化物中量含む。

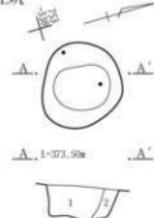
19号土坑



19号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)締りややあり。粘性なし。橙色粒子、Hr-FA中量、炭化物中量。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)締りややあり。粘性あり。Hr-FA混上。橙色粒子、炭化物中量。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)締りややあり。粘性なし。橙色粒子少量。炭化物中量含む。

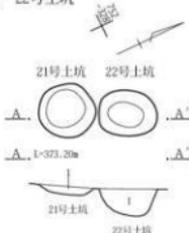
20号土坑



20号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)締りなし。粘性ややあり。As-砂少量。Hr-FA、橙色粒子中量、炭化物少量含む。
- 2 灰黄色土(10YR4/2)締りなし。粘性ややあり。粘性なし。Hr-FA混上。炭化物少量。

21号・22号土坑



21号土坑

- 1 暗褐色(10YR3/4)Hr-FA(火砕流)粒子10%

22号土坑

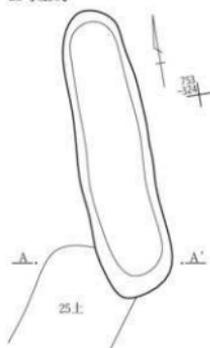
- 1 暗褐色(10YR3/3)Hr-FA粒10%



第149図 中・近世土坑(3)

第3章 発掘された遺構と遺物

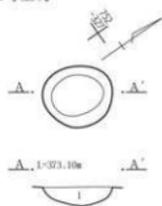
23号土坑



23号土坑

1 黒褐色(10YR3/1)As-Kk30%

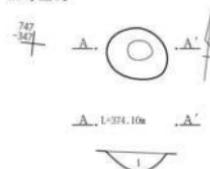
26号土坑



26号土坑

1 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒・ロックを含む。

29号土坑

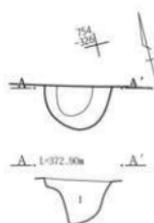


29号土坑

1 暗褐色(10YR3/3)Hr-FA粒を5%含む。



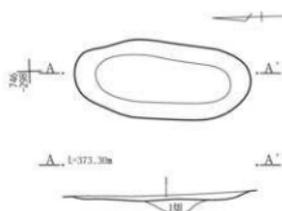
24号土坑



24号土坑

1 暗褐色(10YR3/3)Hr-FA粒20%

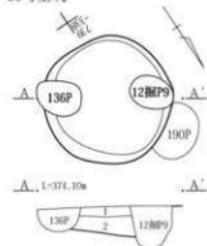
27号土坑



27号土坑

1 暗褐色土(10YR3/3)粘りなし。粘りなし。小礫、橙土粒僅かに含む。

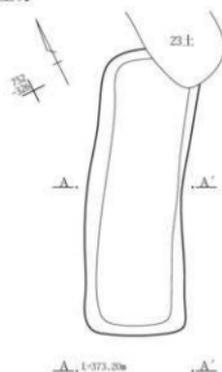
30号土坑



30号土坑

1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk30%、Hr-FA粒10%

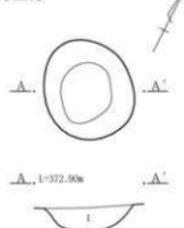
25号土坑



25号土坑

1 暗褐色土(10YR3/3)粘りなし。粘性なし。As-Kk混土。Hr-FAブロック少量含む。
2 黒褐色土(10YR3/1)混土。Hr-FAブロック少量含む。

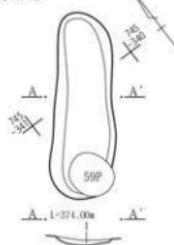
28号土坑



28号土坑

1 黒褐色(10YR3/1)As-B 5%

31号土坑

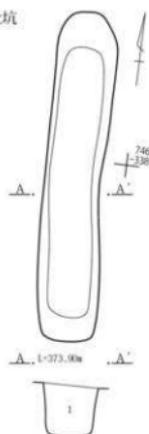


31号土坑

1 暗褐色(10YR3/4)As-Kk 5%、Hr-FA粒20%

第150図 中・近世土坑(4)

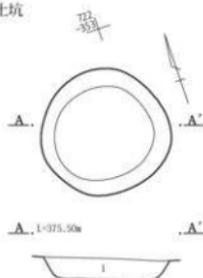
32号土坑



32号土坑

1 黒褐色(10YR3/2)As-kk30%、Hr-FA粒20%

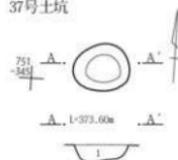
35号土坑



35号土坑

1 黒褐色上(10YR3/1)締りなし、粘性なし。As-kk泥上、
橙色粒子を中量含む。

37号土坑

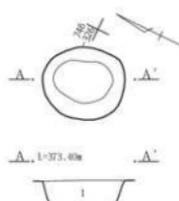


37号土坑

1 暗褐色(10YR3/3)Hr-FA(火砕流)粒子90%



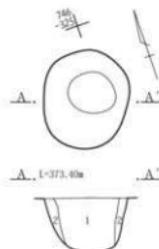
33号土坑



33号土坑

1 暗褐色(10YR3/3)Hr-FA粒10%

34号土坑



34号土坑

1 暗褐色(10YR3/4)Hr-FA粒10%、黒色土20%
2 暗褐色(10YR3/4)Hr-FA粒10%

36号土坑

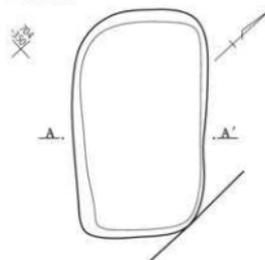


36号土坑

1 黒褐色上(10YR3/2)締りややあり。粘性ややあり。
Hr-FA少量。橙色粒子微量含む。
2 黒褐色上(10YR3/2)締りややあり。粘性ややあり。
Hr-FA泥上。橙色粒子、炭化物微量含む。



38号土坑



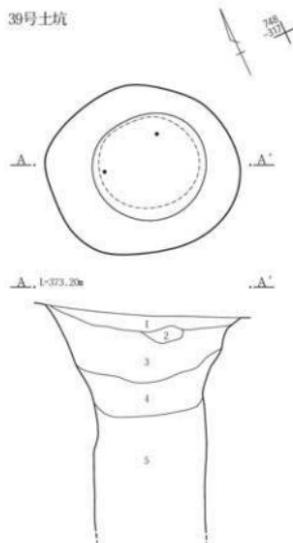
38号土坑

1 黒褐色上(10YR3/1)締りややあり。
粘性ややあり。Hr-FAブロック少量。
As-kk泥上。橙色粒子少量。

第151図 中・近世土坑(5)

第3章 発掘された遺構と遺物

39号土坑

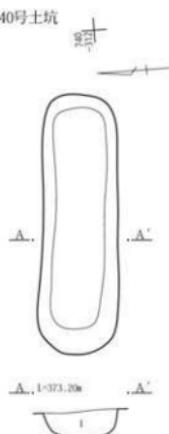


39号土坑

- 1 褐色土(10YR6/1)As-Kk混土。φ1~3mmの軽石を30%含む。Hr-FA粒を10%含む。
- 2 にふい黄褐色土(10YR7/4)φ2~3mmのHr-FAブロックを40%含む。φ1~2mmのAs-Kk軽石を10%含む。
- 3 にふい黄褐色土(10YR5/3)As-Kk混土。φ1~2mmのAs-Kk軽石を20%含む。Hr-FAブロックを30%含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3)φ3~5mmのHr-FAブロックを10%含む。φ2~4mmのロームブロックを5%含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/1)φ1mmほどのローム粒を30%含む。粘性強く締りし。



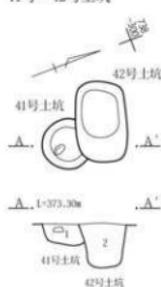
40号土坑



40号土坑

- 1 褐色土(10YR6/1)As-Kkを40%含む。黒褐色粘質土を10%含む。

41号・42号土坑

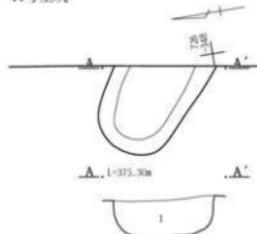


41号・42号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。φ3~5mmの軽石を10%、Hr-FA粒子を含む。φ50mmのHr-FAブロックを含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。φ3~5mmの軽石を20%含む。



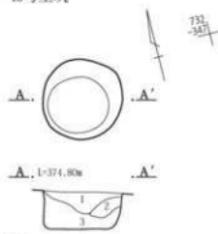
44号土坑



44号土坑

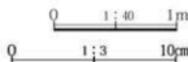
- 1 黒褐色土(10YR3/1)Hr-FA粒子を含む。φ3~8mmの軽石を20%、φ3~20mmのHr-FA粒を5%含む。締まり少しあり。

45号土坑



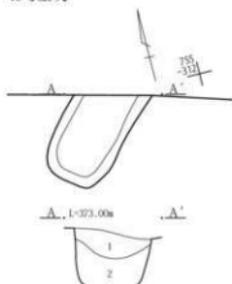
45号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2)As-Kk混土。Hr-FA粒子を含む。φ3~6mmの軽石を5%、φ3~5mmのHr-FA粒を10%含む。
- 2 灰褐色土(10YR4/2)Hr-FA粒子を含む。φ3~4mmの軽石を5%、φ3~5mmのHr-FA粒を20%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。Hr-FA粒子を含む。φ2~5mmの軽石を5%、φ2~4mmのHr-FA粒を5%含む。粘性少しあり。



第152図 中・近世土坑(6)

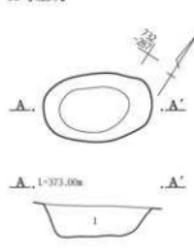
49号土坑



49号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk混土。φ3～7mmの軽石を30%、φ3～5mmの小石を10%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。φ1～7mmの軽石を30%、φ3～5mmの小石を20%含む。

65号土坑



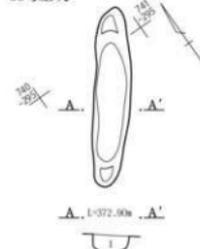
65号土坑

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)Hr-FAを主体とし黒色土ブロック(φ10mm以下)を少量含む。締まり弱い。

66号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2)As-Kk、Hr-FA粒、黒色土ブロック(φ20mm以下)をやや多量含む。締まりやや強い。

66号土坑



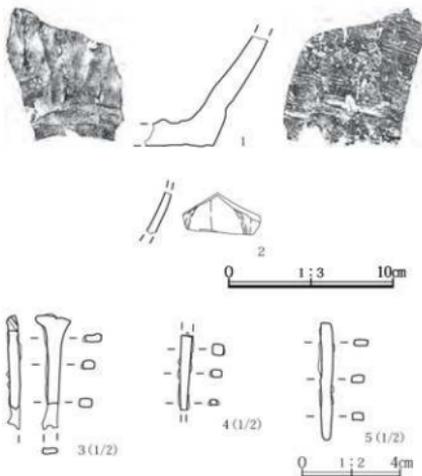
第153図 中・近世土坑(7)

(7)ピット(付図4、PL.49～58)

ピットは149基と多数確認されている。大部分が柱状の円形の細長い穴である。1区中央部の掘立柱建物群が建てられた箇所に集中して確認されており、掘立柱建物や柵の柱穴になる可能性もある。この集中区の北側及び東側からもピットが散在して確認されている。

(8)遺構外出土遺物(第154図、PL.84)

特徴的な遺物として、13世紀と考えられる中国大陸の龍泉窯系青磁の鎗蓮弁文碗や鉄釘などが出土している。



第154図 中・近世遺構外出土遺物

第4章 自然科学分析

第1節 分析の目的と成果

テフラ分析

目的：

本遺跡では、As-Kk、As-B、Hr-FAと思われるテフラが確認された。As-Bについては後者のテフラ堆積状況は安定的ではなく実際に降下テフラなのか確定する必要がある。Hr-FAについては、谷部において複数のユニットが確認できる。最も良好な場所で4層からなるユニットが確認できる。これらが火砕流に由来する一時的なものなのか、二次的なものなのか等のメカニズムを明らかにする必要がある。また、Hr-FA層下には黒ボク土が形成され、下位には複数の褐色土や砂礫層が堆積する。明確なローム層が検出されていないことから、各層に含まれるテフラ分析を通して基本土層の成因を明らかにする必要がある。そこで、各層中に含まれるテフラの抽出、各降下テフラの確定を目的として地質調査も含め、分析業務を専門業者に委託する。

試料採取及び地質調査について：

試料は3地点から全13点を採取した。第1地点は1区北壁土層で、As-Kk、As-B、Hr-FAかかるテフラ分析として2点の試料を採取した。第2地点は1区2号トレンチ壁でHr-FA土層に係るテフラ分析として2点を採取した。2区東壁土層に係る資料としてはHr-FA下面土層9点採取し、地質調査も行った。

分析結果：

(1) 検出されたテフラについて

地質調査とテフラ分析によって、第1地点は1区北壁土層の資料1は1128年に浅間火山から噴出したと考えられる浅間粕川テフラ層(As-Kk)に同定される。資料2においては1108年の浅間Bテフラ層(As-B)に同定される。As-Kkにおいては肉眼でも観察することができるが、その下位層にAs-Bがあることが検出されたことは重要な資料である。

第2地点の資料についてはHr-FAに同定されるという結果を得た。また、第3地点からは、黒ぼく土の下位からAs-Sr、As-BPが混在しており、ローム層の下位層は純粋な堆積状況ではなく、地滑りや泥流などに由来するという結果を得た。

分析により、本遺跡においては下位層から浅間板鼻褐色軽石群(As-BP)、浅間白糸軽石(As-Sr)、浅間板鼻黄色軽石や浅間草津軽石(As-YPk)スリッコ火山、約7300年前の鬼界アカホヤ火山灰(k-Ah)、浅間C軽石(As-C)、榛名二ツ岳浅川テフラ(Hr-FA)、浅間Bテフラ層(As-B)、浅間粕川テフラ層(As-Kk)などが検出された。

(2) テフラと遺跡の年代観について

また、本遺跡の縄文前期～中期にかけての遺物包含層は、少なくともK-Ah以降に形成されたものであるという確証を得た。この火山灰は年代決定において縄文時代の草創期と早期とを分ける重要な鍵層であり、ここでもそのことを実証している。

検出されたテフラと文化面の関係

【1面】

浅間粕川テフラ層(As-Kk, 1128年)

浅間Bテフラ層(As-B, 1108年)

【2面】

榛名二ツ岳浅川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)

浅間C軽石(As-C, 3世紀後半)

【3面】

鬼界アカホヤ火山灰(k-Ah, 約7,300年前)

【4面】

浅間板鼻褐色軽石

浅間草津軽石(As-YP・K, 約1.65～1.5万年前)

浅間白糸軽石(As-Sr, 約2.2万年前)

浅間板鼻褐色軽石群

(As-BP Group, 約2.9～2.4万年前)

小泉天神西遺跡黒曜石裂石器の原産地推定

目的：

小泉天神西遺跡からは、周辺地域に於いて数少ない縄文時代の遺構や遺物の出土が見られ、黒曜石裂石器が出土している。

今回、小泉天神西遺跡出土の縄文時代黒曜石13点の石材原産地を推定することで、当該地における当時のものの動きや、それに伴う人々の交流の様相、生活の在り方などを具体的に知る上で有力な手掛かりを得るために、科学的分析を通じて黒曜石の原産地を推定する分析業務を実施した。

近年、試料の非破壊分析方式が向上したことにより、縄文時代の遺跡から出土した黒曜石の全点分析が行い易くなった。

実際に、吾妻地域や利根地域でも同様の分析を実施しており、赤城山西南麓まで含めた縄文時代の黒曜石原産地の具体的な傾向が把握出来つつあり、今回の報告資料でさらに資料が蓄積され、黒曜石の産地・流通についても明らかになることが想定された。

分析結果：

小泉天神西遺跡の出土黒曜石裂石器の産地推定により、信州系の原産地が主流である可能性が高まった。最近実施された上信自動車道関係の唐堀遺跡や、渋川市赤城町の棚下込山遺跡での分析結果でも、信州系の原産地が主体であり、この傾向は県内での一般的な傾向であることが分かってきた。

参考文献

- 関口博幸編 2022 「第14節 黒曜石の産地推定(2019・2020)」『唐堀遺跡 2』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
佐藤元彦編 「第2項 棚下込山遺跡出土黒曜石の産地推定」『棚下込山遺跡』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

第2節 テフラ分析

はじめに

北関東地方西部の吾妻川流域には、榛名、浅間、草津白根などの北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方や中国地方、さらには九州地方など遠方の火山から噴出したテフラ(tephra, 火山砕屑物あるいは火砕物のこと)が数多く降灰している。とくに、後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代、さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログ(たとえば町田・新井, 2011)などに収録されており、考古遺跡でテフラに関する調査分析を行って、年代や層位が明確な指標テフラを検出することで、遺物包含層や遺構の年代などに関する情報が得られるようになっている。

東吾妻町小泉天神西遺跡の発掘調査においても、層位や年代が不明な土層から遺物が検出されたことから、野外調査(地質調査)を実施して、土層やテフラ層の層序記載ならびに高純度での分析試料の採取を行った。さらに、実験室内においてテフラ分析(テフラ検出分析)を行って、指標テフラの検出同定を実施した。調査分析の対象地点は、調査区北壁・試掘トレンチ、中央調査区試掘トレンチ、南深掘トレンチの3地点である。

調査地点の土層層序

(1)調査区北壁・試掘トレンチ

下位より黒色土(層厚10cm以上)、成層したテフラ層(層厚18cm)、黄色細粒火山灰ブロック混じりで黄色がかった灰色土(層厚11cm)、灰褐色土(層厚26cm)、暗灰色土(層厚7cm)、褐色粗粒軽石混じり褐色砂質細粒火山灰層(層厚2cm, 軽石の最大径34mm)、褐色軽石混じりでやや暗い灰色土(層厚5cm)、黄褐色軽石層(軽石の最大径17mm, 石質岩片の最大径3mm)が認められ、その上位に軽石などの垂角礫を含む腐植質土壌が厚く形成されていた(第154図)。これらのうち、成層したテフラ層は、下部の円磨をやや受けた灰白色軽石混じりで比較的海法の良い灰色粗粒火山灰層(層厚11cm, 軽石の最大径9mm)と、上部の黄色砂質細粒火山灰層(層厚7cm)から構成される。

(2)中央調査区試掘トレンチ

ここでは、黒色土(層厚5cm)の上位に成層した厚いテフラ層(層厚49.4cm)が認められた(第153図)。このテフラ層は、下位より円磨をやや受けた灰白色軽石混じりで比較的淘汰の良い灰色粗粒火山灰層(層厚9cm)、桃灰色砂質粗粒火山灰層(層厚9cm)、淘汰が比較的悪い砂質細粒火山灰層(層厚8cm)、淘汰の良い灰色粗粒火山灰層(層厚0.8cm)、やや黄色がかった灰色砂質細粒火山灰層(層厚3cm)、気泡を含む成層して灰色がかった黄色砂質細粒火山灰層(層厚3cm)、桃色シルト質細粒火山灰層(層厚0.6cm)、灰色砂質細粒火山灰層(層厚1cm)、かすかに成層し黄色がかった灰色砂質細粒火山灰層(層厚15cm)からなる。

(3)南深掘トレンチ

南深掘トレンチでは、前述の成層したテフラ層の下位の土層をよく観察できた(第156図)。ここでは、下位より黄～灰色軽石や橙色軽石に富むやや灰色がかった黄色土(層厚10cm、軽石の最大径20mm)、黄～灰色軽石や橙色軽石に富む黄褐色土(層厚26cm、軽石の最大径14mm)、やや粗粒の黄色軽石混じり黄褐色土(層厚14mm、軽石の最大径28mm)成層したテフラ層や青灰色細粒火山灰さらに黄色粗粒火山灰のブロックを含む黄灰色土(層厚26cm)、固結した褐色細粒火山灰ブロック(最大層厚3cm)を含む黄色細粒軽石混じり暗灰褐色土(層厚26cm)、黄褐色細粒火山灰ブロック混じり暗灰褐色土(層厚22cm)、わずかに褐色がかった黒灰色土(層厚26cm)、黄色細粒軽石混じりでわずかに明るい黒褐色土(層厚30cm、軽石の最大径4mm)、黄色細粒軽石混じり黒褐色土(層厚18cm、軽石の最大径3mm)、黒色土(層厚8cm)が認められた。

これらのうち、ブロック状に認められた成層したテフラ層は、下位より青灰色細粒火山灰層(層厚1cm)、黄色軽石質粗粒火山灰層(層厚4cm)、黄白色細粒火山灰層(層厚0.2cm)、桃色砂質細粒火山灰層(層厚0.8cm)からなる。発掘調査では、いわゆる黒ボク土中に挟在する黄色細粒軽石混じりでわずかに明るい黒褐色土から、縄文時代前期や中期の土器片が検出されるらしい。

テフラ分析(テフラ検出分析)

(1)分析試料と分析方法

テフラ層やテフラ粒子の由来を求めするために、テフラ粒子の岩相や量などを定性的に明らかにするテフラ検出分析を実施した。分析の対象は、上述3地点で採取した試料のうちの16点で、分析手順は次のとおりである。

- 1) 砂分に応じて電子天秤で試料4～10gずつを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 恒温乾燥器により80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察。

(2)分析結果

テフラ検出分析の結果を第3表に示す。調査区北壁・試掘トレンチの試料2には、淡灰色、淡褐色、褐色の軽石(最大径10.2mm)や、その細粒物であるスポンジ状軽石型ガラスが比較的多く含まれている。軽石は比較的良く発泡している。磁鉄鉱などの不透明鉱物を除く重鉱物(以降、重鉱物)には、斜方輝石と単斜輝石が認められる。また、試料1には、淡灰色、灰褐色、白色、さらにそれらが繡状に混じった軽石(最大径9.7mm)や、その細粒物であるスポンジ状軽石型ガラスが多く含まれている。軽石は比較的良く発泡しており、重鉱物に斜方輝石と単斜輝石が認められる。

中央調査区試掘トレンチの試料10には、白色、灰白色、灰色の軽石や、その細粒物であるスポンジ状軽石型ガラスが多く含まれている。軽石の発泡はさほど良くない。重鉱物には角閃石や斜方輝石が認められる。これらのテフラ粒子は、このテフラ層のすぐ下位の試料11にも比較的多く含まれている。

南深掘トレンチの試料25の黄色軽石は、おもに白色や黄色がかった白色の火山ガラスからなり、斑晶重鉱物に斜方輝石、単斜輝石、そして少量の角閃石が認められる。試料22の黄色軽石質粗粒火山灰層軽石層には、スポンジ状あるいは繊維束状に発泡した黄色軽石(最大径3.2mm)のほか、その細粒物である黄白～白色のスポンジ状あるいは繊維束状軽石型ガラス、さらに無色透明の分厚い中間型(以降、中間型)の火山ガラスが多く含まれている。重鉱物は、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

試料21の固結した褐色細粒火山灰ブロックには、無色透明の中間型ガラスや、白色のスポンジ状あるいは繊維

束状の軽石型ガラスが比較的多く含まれる。ただ、全体的には細粒の岩片に富む。重鉱物には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

試料20～11にかけては、無色透明や淡褐色の中間型ガラス、それに白色の繊維束状あるいはスポンジ状の軽石型ガラスが目立つ傾向にある。その中で、試料15では、わずかではあるが淡褐色のバブル型ガラスや褐色の繊維束状軽石型ガラスが認められた。この試料や試料14には、灰色スポンジ状軽石型ガラスがわずかに含まれている。

試料13～11で認められた褐灰色の軽石やスポンジ状軽石型ガラスが検出された。また、試料13～11には、スポンジ状に良く発砲した灰白色軽石型ガラスが少量ずつ含まれている。さらに、試料11では、発泡がさほど良くない白色の軽石(最大径2.6mm)や火山ガラスが検出された。重鉱物については、試料20～16で斜方輝石と単斜輝石、試料15～12でほかに少量の角閃石、さらに試料11で角閃石が目立つ。

考察

(1) テフラ層やテフラ粒子の由来

調査区北壁・試掘トレンチの成層したテフラ層は、層相から6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳洪川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 2011など)に同定される。そして、少なくとも下部については、二ツ岳第1軽石流と呼ばれた火砕流堆積物(FPF-1, 新井, 1979)に対比される。試料2が採取された褐色粗粒軽石混じり褐灰色砂質細粒火山灰層は、層相や軽石の岩相、さらに重鉱物の組み合わせから、1108(天仁元)年の浅間Bテフラ層(As-B, 荒巻, 1968, 新井, 1979, 町田・新井, 2011)に同定される。また、その上位の試料1が採取された黄褐色軽石層は、層位や層相などから、1128(大治3)年に浅間火山から噴出したと考えられている浅間柏川テフラ層(As-Kk, 早田, 1991, 1996, 2004など)に同定される。

中央調査区試掘トレンチで認められた成層したテフラ層は、層相からHr-FAに同定される。そのうち、少なくとも下位の3層は層相からFPF-1に対比される。東吾妻町小田沢遺跡におけるHr-FA関連堆積物の区分(火山灰考古学研究所, 既報告)と比較すると、この地点の気泡を含む成層して灰色がかった黄色砂質細粒火山灰層は0d-3

と考えられる。

南深掘トレンチの試料25の黄色軽石は、岩相などから、約2.2万年前に浅間火山から噴出した浅間白糸軽石(As-Sr, 町田ほか, 1984, 早田, 2019など)と考えられる。また、同層準に認められる橙色軽石は、岩相から約2.9～2.4万年前の浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 新井, 1962, 町田・新井, 2011, 早田, 2019など)と考えられる。これらの軽石が混在していることから、本遺跡で認められるローム層の下部は地すべりや泥流などに由来するいわゆる斜面堆積物と考えられる。

その上位の黄褐色土中に含まれるやや粗粒の黄色軽石は、層位や岩相から、約1.65～1.5万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石層(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 2011)と考えられる。また、一部については、As-YPの噴火に関係して噴出したと一般に考えられている浅間草津軽石(As-K, 新井, 1979, 町田・新井, 2011など)に由来する可能性が高い。

試料22が採取されたテフラ層については、岩相から、As-Kあるいはその上部のテフラ層の可能性が高い。また、試料21が採取された固結した褐色細粒火山灰ブロックは、その層相などから、西毛地域で「スリック」と呼ばれてきたテフラ層(早田, 2000)と考えられる。なお、本遺跡の南方には、As-YPの上位に成層した浅間堀井戸テフラ層(As-Hi, 早田, 1995)があって、これらとの層位関係に関しては不明点が多い。引き続きテフラ調査分析を実施して、浅間火山軽石流末期ころの噴火活動史が解明されると良い。

試料15に含まれる淡褐色のバブル型ガラスは薄手である。それに、褐色の繊維束状軽石型ガラスの存在を合わせると、これらの火山ガラスは、約7,300年前の鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah, 町田・新井, 1978, 2011など)と考えられる。また、この試料や試料14にわずかに含まれる灰色スポンジ状軽石型ガラスは、テフラの分布と本遺跡の位置との関係などを合わせると、浅間六合軽石(As-Kn, 早田, 1996など)やそれに関係するテフラの可能性が指摘されよう。

試料13～11で認められた褐灰色の軽石やスポンジ状軽石型ガラスは、層位や岩相から、手持山南麓周辺で認められる吹屋軽石(FkP, 火山灰考古学研究所, 2023印刷中)のように思われる。また、同層準で認められるスポンジ

状に良く発砲した灰白色軽石型ガラスは、岩相から3世紀後半に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 町田・新井, 1992, 坂口, 2010)と考えられる。FkPとAs-Cの層位関係については不明な点もあるが、おそらくFkPの方が下位と思われる。

試料11に含まれる発泡がさほど良くない軽石や角閃石で代表される鉱物は、5世紀に榛名火山から噴出した榛名有馬テフラ(Hr-AA, 町田ほか, 1984など)の可能性も完全には否定できないものの、層位から本遺跡に到達したFPF-1の発生に先だつHr-FAの可能性が高い。

本遺跡において縄文時代前～中期の土器片が出土する土層は、わずかながら上下と比較するとやや色調が明るく、K-Ahなどが検出されることから、最終的な土層の形成時期はK-Ah降灰後で、いわゆる淡色黒ボク土(層, 早田, 1990)に対比される可能性がある。

まとめ

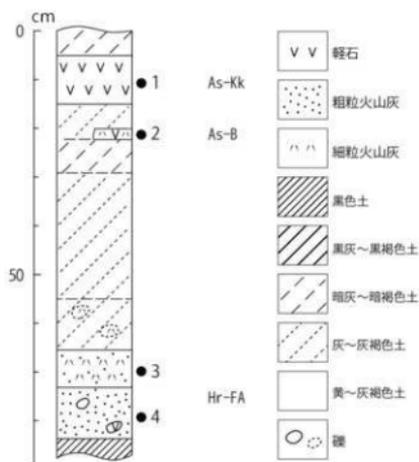
東吾妻町小泉天神西遺跡令和4年度発掘調査区において、野外調査(地質調査)とテフラ分析(テフラ検出分析)を実施した。その結果、下位より浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 約2.9～2.4万年前)、浅間白糸軽石(As-Sr, 約2.2万年前)、浅間板鼻黄色軽石や浅間草津軽石(As-YP・K, 約1.65～1.5万年前)、スリッコ火山灰、鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah, 約7,300年前)、浅間C軽石(As-C, 3世紀後半)、榛名ニツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)、浅間Bテフラ層(As-B, 1108年)、浅間粕川テフラ層(As-Kk, 1128年)など多くのテフラ層を検出することができた。本遺跡の縄文時代前～中期の遺物包含層は、少なくともK-Ah降灰後に形成された土層と考えられる。

第3表 テフラ検出分析結果

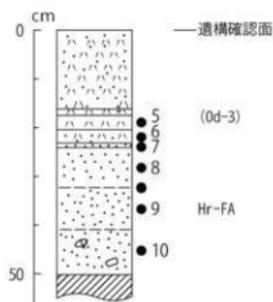
試料	軽石・スコリア		火山ガラス			重鉱物	
	量	色調	最大径	量	形態		色調
1	***	淡灰, 灰褐, 白	9.7mm	**	pm (sp)	淡灰, 灰褐, 白	opx, cpx
2	**	淡灰, 淡褐, 褐	10.2mm	**	pm (sp)	淡灰, 淡褐, 褐	opx, cpx
10	**	白, 灰白, 灰	5.0mm	***	pm (sp)	白, 灰白, 灰	am, opx
11	*	白	2.6mm	**	nd, pm (sp)	白, 褐灰, 灰白	am, opx, cpx
12				**	nd, pm (fb, sp)	無色透明, 灰白, 白, 褐灰	opx, cpx, (am)
13	(*)	褐灰	4.9mm	*	pm (sp), md	褐灰, 灰白, 白, 無色透明	opx, cpx, (am)
14				**	nd, pm (fb, sp)	無色透明, 淡褐, 白, 灰	opx, cpx, (am)
15				**	nd, pm (fb, sp), bw	無色透明, 淡褐, 褐, 白, 灰	opx, cpx, (am)
16				**	nd, pm (fb, sp)	無色透明, 淡褐, 白	opx, cpx
17				**	nd, pm (fb, sp)	無色透明, 淡褐, 白	opx, cpx
18				***	nd, pm (fb, sp)	無色透明, 淡褐, 白	opx, cpx
19				***	nd, pm (fb, sp)	無色透明, 淡褐, 白	(opx, cpx)
20				***	nd, pm (fb, sp)	無色透明, 淡褐, 白	(opx, cpx)
21				**	nd, pm (fb, sp)	無色透明, 白	opx, cpx
22	*	黄	3.2mm	***	pm (sp, fb), md	黄白, 白, 無色透明	opx, cpx
25				**	pm (sp)	白, 黄白	opx, cpx, (am)

****: とくに多い, ***: 多い, **: 中程度, *: 少ない, (*): 非常に少ない。

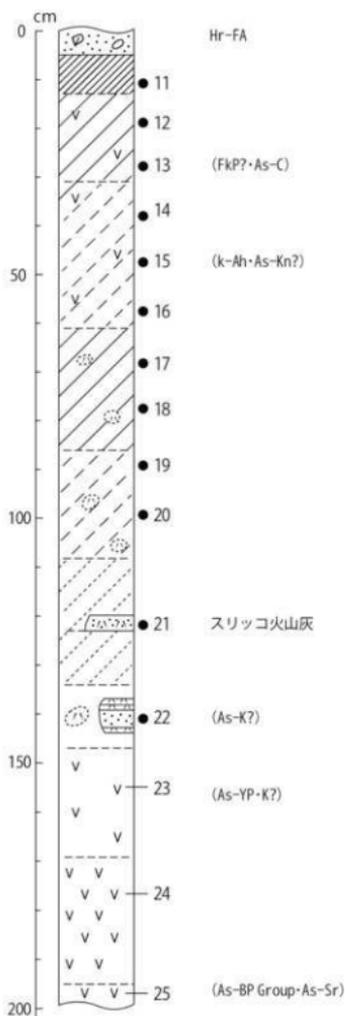
bw: バブル型, pm: 軽石型, md: 中間型, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, 重鉱物は不透明鉱物以外で、○は量が少ないことを示す。



第155図 調査区北壁・試掘トレンチの土層柱状図
●：テフラ分析試料の層位，数字：テフラ分析の試料番号。



第156図 中央調査区試掘トレンチの土層柱状図
●：テフラ分析試料の層位，数字：テフラ分析の試料番号。



第157図 南深掘トレンチの土層柱状図
●：テフラ分析試料の層位，数字：テフラ分析の試料番号。



写真1 調査区北壁・試掘トレンチ



写真2 調査区北壁・試掘トレンチ



写真3 中央調査区試掘トレンチ



写真4 南深掘トレンチ



写真5 南深掘トレンチ上部



写真6 南深掘トレンチ最下部

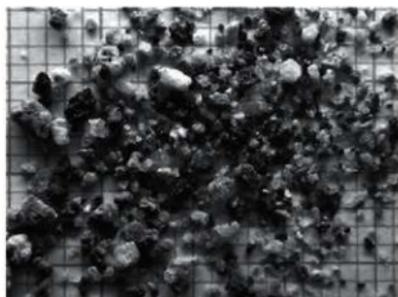


写真1 試料11

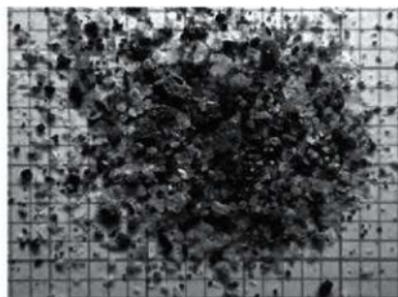


写真2 試料13



写真3 試料15 (中央：淡褐色バブル型ガラス)

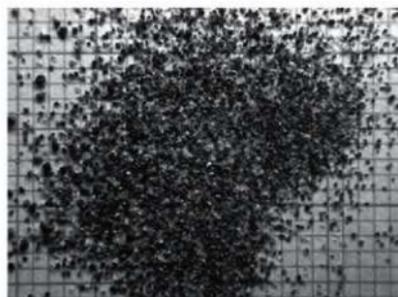


写真4 試料21

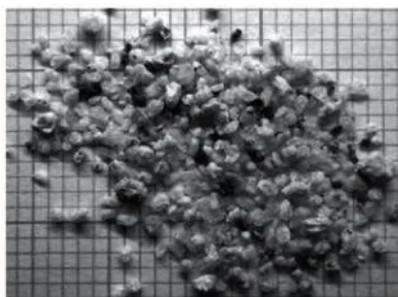


写真5 試料22

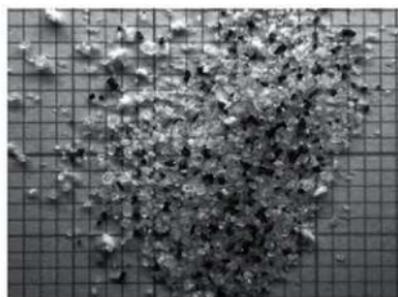


写真6 試料25

写真3以外：落射光下(背後は1mmメッシュ)
写真3：透過光(スケールを右に示す)

0.2mm

文献

- 新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
- 新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層。考古学ジャーナル, no.53, p.41-52.
- 荒牧重雄(1968)浅間火山の地質。地質研専報, no.14, p.1-45.
- 町田 洋・新井房夫(1976)広域に分布する火山灰—始良TnA山灰の発見とその意義。科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫(1978)九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ—アコホヤ火山灰。第四紀研究, 17, p.143-163.
- 町田 洋・新井房夫(2011)「新編火山灰アトラス—日本列島とその周辺(第2編)」, 東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫(1984)テフラと日本考古学—考古学研究に関するテフラのカタログ。古文化財編集委員会編「古文化財研究に関する保存科学と人文・自然科学」, p.865-928.
- 坂口 一(1986)榛名二ツ岳起源FA・F層下の土師器と須志器。群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
- 坂口 一(2010)高崎市・中居町一丁目遺跡周辺集落の動向—中居町一丁目遺跡R22の永田耕作地と周辺集落との関係—。群馬県埋蔵文化財調査事業団編「中居町一丁目遺跡3」, p.17-22.
- 早田 勉(1989)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害。第四紀研究, 27, p.297-312.
- 早田 勉(1990)群馬県の自然と風土。群馬県史編さん委員会編「群馬県史通史編1 原始古代1」, p.37-129.
- 早田 勉(1991)浅間火山の生い立ち。佐久考古通信, no.53, p.2-7.
- 早田 勉(1995)テフラからさぐる浅間火山の生い立ち。御代町誌編纂委員会編「御代町誌 自然編」, p.23-43.
- 早田 勉(1996)関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴—とくに御影第1テフラより上位のテフラについて—。名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, no.7, p.256-267.
- 早田 勉(2000)第四紀の環境変化と自然災害。安中市市史刊行委員会編「安中市史 第1巻 自然編」, p.36-72.
- 早田 勉(2004)火山灰編年学からみた浅間火山の噴火史—とくに平安時代の噴火について—。かみつけの里博物館編「1108—浅間火山—中世への激動」, p.45-56.
- 早田 勉(2019)北関東地方西部における旧石器時代の火山噴火と環境変化。令和元年度岩窟フォーラム講演要旨集, p.19-25.
- 早田 勉(2023印刷中)吹屋恵久保遺跡2・3区火山灰分析。渋川市教育委員会編「吹屋恵久保遺跡2」

第3節 小泉天神西遺跡出土黒曜石製石器の産地推定

はじめに

吾妻郡東吾妻町小泉地内に所在する小泉天神西遺跡から出土した黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

試料と方法

分析対象は、小泉天神西遺跡より出土した黒曜石製石器13点である(第5表)。発掘調査では黒曜石製石器は100点程出土しており、調査担当者が残存の良好な石器13点を選定し、分析対象とした。時期は、縄文時代の前期～中期が中心とみられている。

試料は、測定前に超音波洗浄器やメラミンフォーム製スポンジと精製水を用いて、測定面の洗浄を行った。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジ株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム(Rh)、X線検出器はSDD検出器である。測定条件は、測定時間100sec、照射径8mm、管電圧50kV、管電流1000 μ A、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタにPb測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた(望月, 1999など)。本方法では、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム(K)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)、ルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の合計7元素のX線強度(cps; count per second)について、以下に示す指標値を計算する。

- 1) Rb 分率=Rb 強度 \times 100/(Rb 強度+Sr 強度+Y 強度+Zr 強度)
- 2) Sr 分率=Sr 強度 \times 100/(Rb 強度+Sr 強度+Y 強度+Zr 強度)
- 3) Mn 強度 \times 100/Fe 強度
- 4) log (Fe 強度/K 強度)

次に、これらの指標値を用いた2つの判別図(横軸Rb分率-縦軸Mn強度×100/Fe強度の判別図と横軸Sr分率-縦軸log(Fe強度/K強度)の判別図)を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定する。この方法は、できる限り蛍光X線のエネルギー差が小さい元素同土を組み合わせて指標値を算出するため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊分析が望ましい考古遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。ただし、風化試料の場合、log(Fe強度/K強度)の値が減少する点に注意が必要である(望月, 1999)。試料の測定面にはなるべく平滑な面を選んだ。

判別図のバックデータとなる原石試料は、採取原石を割って新鮮な面を露出させた上で、産地推定対象試料と同様の条件で測定した。第4表に判別群一覧とそれぞれの原石の採取地点および点数を、第160図に各原石の採取地の分布図を示す。

分析結果

第6表に石器の測定値および算出した指標値を、第161・162図に黒曜石原石の判別図に石器の指標値をプロットした図を示す。視覚的にわかりやすくするため、図では各判別群を楕円で取り囲んである。

分析の結果、3点が鷹山群(長野県、和田エリア)と小深沢群(長野県、和田エリア)の重複域、9点が星ヶ台群(長野県、諏訪エリア)の範囲にプロットされた。

分析番号3は、第161図では鷹山群と小深沢群の重複域の範囲にプロットされたが、第162図では鷹山群と小深沢群の重複域の範囲の下方にプロットされた。これは、先述したように遺物の風化による影響と考えられ(望月、1999)、鷹山または小深沢群に属する可能性が高い。

第6表に、判別図法により推定された判別群名とエリア名を示す。第7表に器種別の産地を示す。

おわりに

小泉天神西遺跡より出土した黒曜石製石器13点について、蛍光X線分析による産地推定を行った。その結果、4点が須田、9点が諏訪エリア産と推定された。

第4表 東日本黒曜石産地の判別群

都道府県	エリア	判別群名	原石採取地
北海道	白滝	白滝1	赤石山山頂(43)、八号沢露頭(15)
		白滝2	7の沢川支流(2)、JR露頭(10)、十勝石沢露頭直下河床(11)、アジサイの滝露頭(10)
	赤井川	赤井川	曲川・土木川(24)
	上土幌	上土幌	十勝三股(4)、タウシュベツ川右岸(42)、タウシュベツ川左岸(10)、十三ノ沢(32)
	釧路	釧路山	釧路山(5)
		所山	所山(5)
	豊浦	豊浦	豊浦(10)
	旭川	旭川	近文台(8)、南駒台(2)
	名寄	名寄	忠烈布川(19)
	秩父別	秩父別1	中山(65)
秩父別2			
遠軽	遠軽	社名瀬川河床(2)	
	生田原	生田原	仁田布川河床(10)
留辺蘂	留辺蘂1	ケショマツ川河床(9)	
	留辺蘂2		
釧路	釧路	釧路市営スキー場(9)、阿寒川右岸(2)、阿寒川左岸(6)	
青森	木造	出来島	出来島海岸(15)、鶴ヶ坂(10)
	深浦	八森山	岡崎浜(7)、八森山公園(8)
	青森	青森	天田内川(6)
秋田	男鹿	金ヶ崎	金ヶ崎温泉(10)
		脇本	脇本海岸(4)
岩手	北上川	北上折居1	
		北上折居2	北上川(9)、真城(33)
		北上折居3	
宮城	宮崎	福ノ倉	福ノ倉(40)
	色麻	松平	松平(40)
	仙台	秋保1	土蔵(18)
		秋保2	
		塩竈	塩竈(10)
山形	羽黒	月山	月山荘前(24)、大越沢(10)
		柳町	たらのき代(19)
新潟	新発田	板山	板山牧場(10)
	新津	金津	金津(7)
	佐渡	真光寺	追分(4)
栃木	高梁山	甘藷沢	甘藷沢(22)
		七海沢	七海沢(3)、宮川(3)、枝持沢(3)
長野	和田	西御屋	芙蓉パラライト土砂集積場(30)
		鷹山	鷹山(14)、東御屋(54)
		小深沢	小深沢(42)
		土屋橋1	土屋橋西(10)
		土屋橋2	新和田トンネル北(20)、土屋橋北西(58)、土屋橋西(1)
	古野	古野	和田トンネル上(28)、古野(38)、和田峠スキー場(28)
		ブドウ沢	ブドウ沢(20)
		牧ヶ沢	牧ヶ沢下(20)
		高松沢	高松沢(19)
		諏訪	星ヶ台
神奈川	箱根	芦ノ湯	芦ノ湯(20)
		畑宿	畑宿(51)
静岡	天城	鍛冶屋	鍛冶屋(20)
		上多賀	上多賀(20)
東京	神津島	恩賜島	恩賜島(27)
		砂崎島	砂崎島(20)
鳥取	隠岐	久見	久見パラライト中(6)、久見採掘現場(5)
		真浦	真浦海岸(3)、加茂(4)、岸浜(3)

引用文献

望月明彦(1999) 上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定。大和市政教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2—上和田城山遺跡篇—」: 172-179, 大和市政教育委員会。

第4章 科学分析

第5表 分析対象となる黒曜石

分析番号	登録番号	出土位置	取上番号	時代	層位	器種	形態	残存率	法量(mg)			
									長さ	幅	厚さ	重量
1	10008	1区7号竪穴建物	38	縄文		打製石鏃	凹基無茎鏃	欠損	18	16	3	0.7
2	10009	1区8号竪穴建物		縄文		打製石鏃	凹基無茎鏃	完形	35	21	4	2.5
3	10027	1区遺構外	8	縄文		石核		完形	55	24	13	9.8
4	10039	1区735-290	28	縄文		打製石鏃	凹基無茎鏃	完形	23	17	4	0.7
5	10041	1区735-290		縄文		石核		完形	18	31	11	4.6
6	10054	1区735-315		縄文		石核		完形	18	26	14	5.4
7	10067	1区740-295		縄文	埴輪	二次加工湖片		完形	18	22	8	2.7
8	10077	1区740-310		縄文	埴輪	打製石鏃	未完成品	完形	22	23	10	3.7
9	10079	1区740-315		縄文	埴輪	打製石鏃	凹基無茎鏃	完形	15	13	3	0.5
10	10081	1区740-315		縄文	埴輪	石核		完形	18	24	10	3.2
11	10105	1区745-295		縄文	埴輪	石核		完形	26	20	10	4.8
12	10157	1区750-340		縄文	2-2面	打製石鏃	凹基無茎鏃	欠損	23	16	4	0.7
13	10161	1区750-355		縄文	2-2面	打製石鏃	凹基無茎鏃	完形	17	18	7	0.4

第6表 測定値および産地推定結果

分析番号	K強度(cps)	Mn強度(cps)	Fe強度(cps)	Rb強度(cps)	Sr強度(cps)	Y強度(cps)	Zr強度(cps)	助分率	Mn/100 Fe		Sr分率	log Fe/k	判別群	エリア	分析番号
1	311.9	121.9	1169.3	919.0	353.3	475.4	943.1	34.15	10.43	13.13	0.57	屋ヶ台	諏訪	1	
2	299.2	114.6	1078.6	854.7	330.8	446.1	882.2	34.00	10.62	13.16	0.56	屋ヶ台	諏訪	2	
3	334.2	146.3	1181.7	1582.5	101.7	674.8	886.8	48.75	12.38	3.13	0.55	鷹山?or 小深沢?	和田?	3	
4	291.5	111.6	1061.1	865.3	328.8	442.8	882.9	34.34	10.51	13.05	0.56	屋ヶ台	諏訪	4	
5	273.5	128.1	1049.6	1347.3	105.5	582.9	797.0	47.56	12.20	3.73	0.58	鷹山or 小深沢	和田	5	
6	293.0	112.9	1023.5	820.9	312.8	424.1	856.7	34.00	11.03	12.96	0.54	屋ヶ台	諏訪	6	
7	299.0	117.6	1064.3	837.5	325.2	437.2	857.9	34.07	11.05	13.23	0.55	屋ヶ台	諏訪	7	
8	314.5	122.1	1123.9	880.2	339.7	459.8	909.2	34.00	10.86	13.12	0.55	屋ヶ台	諏訪	8	
9	269.8	132.6	1093.0	1512.3	90.7	645.5	845.0	48.89	12.14	2.93	0.61	鷹山or 小深沢	和田	9	
10	310.2	117.5	1115.0	848.9	324.1	429.3	849.1	34.63	10.54	13.22	0.56	屋ヶ台	諏訪	10	
11	378.2	145.1	1348.6	993.7	377.9	495.5	975.4	34.96	10.76	13.29	0.55	屋ヶ台	諏訪	11	
12	296.2	146.4	1186.8	1634.0	101.9	703.5	931.0	48.48	12.33	3.02	0.60	鷹山or 小深沢	和田	12	
13	191.7	72.6	737.7	541.6	200.2	265.5	516.8	35.53	9.84	13.14	0.59	屋ヶ台	諏訪	13	

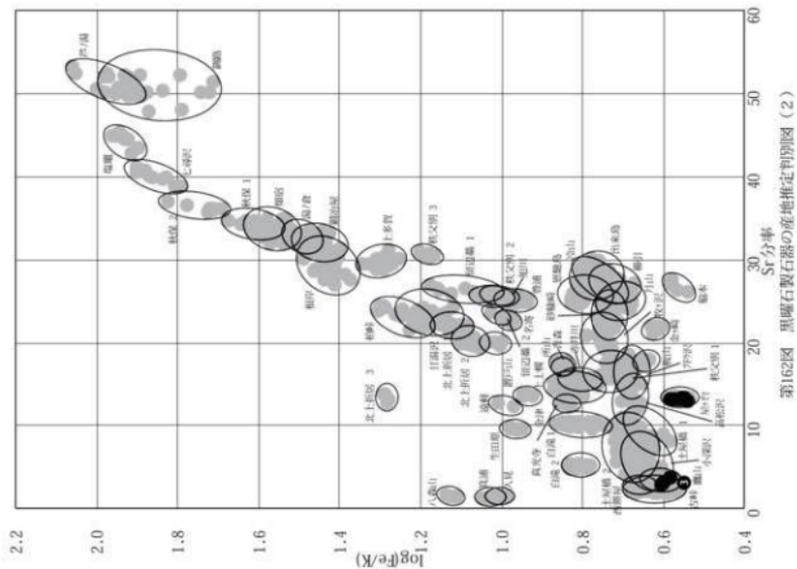
第7表 器種別の産地

器種	和田	諏訪	合計
石鏃	2	4	6
凹基無茎鏃		1	1
二次加工湖片		1	1
石核	2	3	5
合計	4	9	13

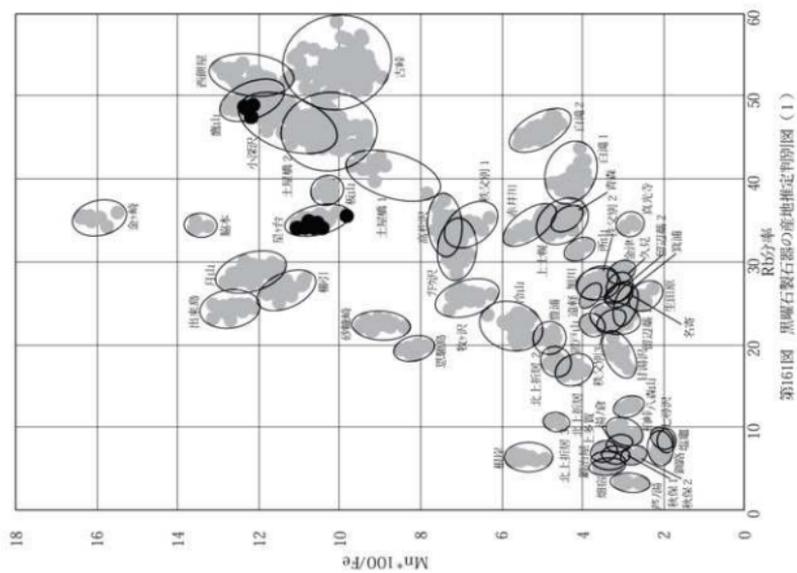


第160図 黒曜石産地分布図(東日本)

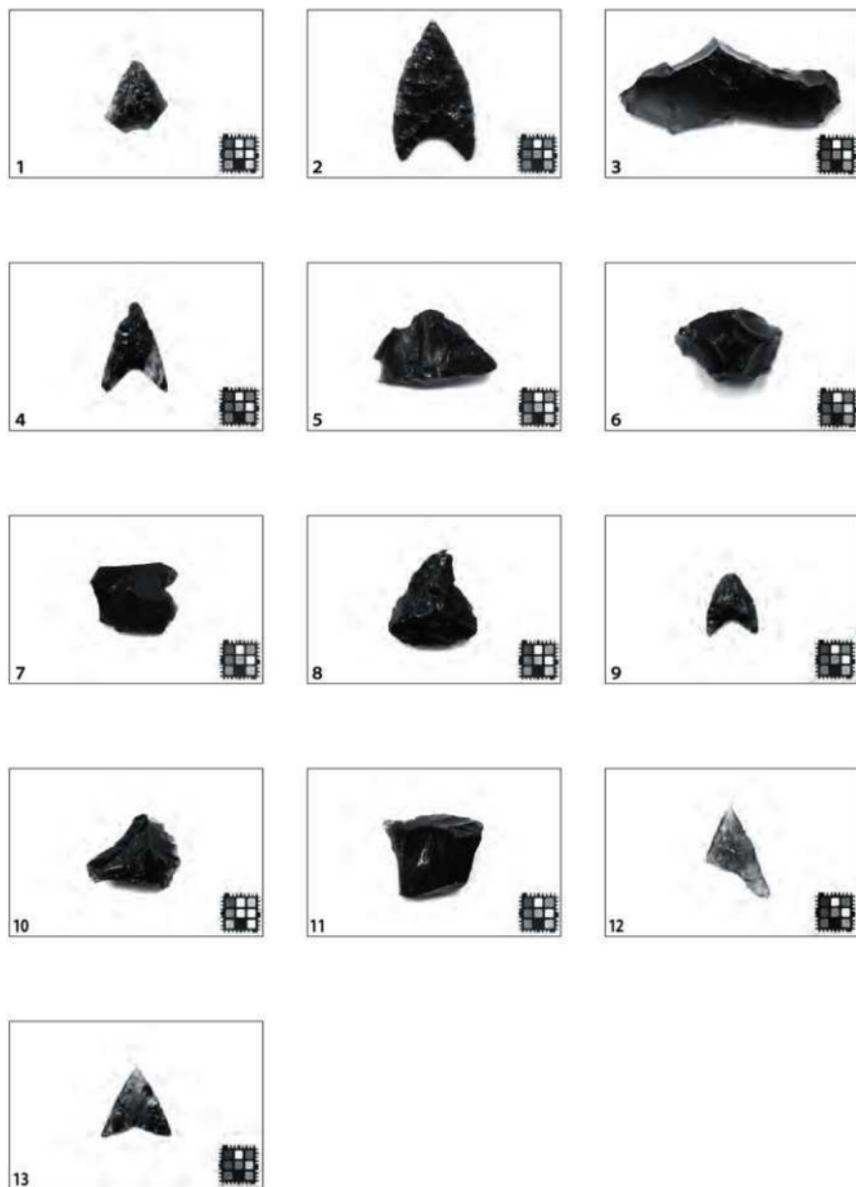
- 1.白滝
- 2.赤井川
- 3.上土岐
- 4.四戸
- 5.豊前
- 6.旭川
- 7.名寄
- 8.枝父別
- 9.道新
- 10.牛田原
- 11.新田原
- 12.黒路
- 13.木込
- 14.深田
- 15.青森
- 16.男前
- 17.北上川
- 18.宮崎
- 19.色麻
- 20.高行
- 21.塩竈
- 22.羽黒
- 23.新野田
- 24.新津
- 25.長渡
- 26.高野山
- 27.和田
- 28.諏訪
- 29.野村
- 30.箱根
- 31.天城
- 32.神津島
- 33.隠岐



第162図 黒曜石製石器の産地推定判別図(2)



第161図 黒曜石製石器の産地推定判別図(1)



第163図 分析資料写真

第5章 まとめ

第1節 小泉天神西遺跡の

地形と地質

はじめに

小泉天神西遺跡は榛名山北麓の泉沢川左岸に位置し、周辺には上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴い発掘調査を実施した新巻懸附遺跡や月夜野A遺跡、柳沢遺跡が所在する。

これらの遺跡が位置する吾妻川右岸の台地は、榛名山麓の末端から吾妻川河床までの間に5段の地形面がみられる(第164図)。

守屋(1966)は中之条盆地の河岸段丘を上位から萮原面、成田原面、中之条面、伊勢町面に区分し、中之条面と伊勢町面はⅠ・Ⅱに細分した。山口(1975)は中之条面を一括し、伊勢町面はⅠ～Ⅳに細分した。また、泉沢川付近の段丘は中之条面と伊勢町Ⅳ面に区分した。竹本ほか(1987)は伊勢町面をⅠ～Ⅲに区分し、泉沢川左岸の段丘は中之条面と伊勢Ⅲ面に区分し、泉沢川左岸の平坦面

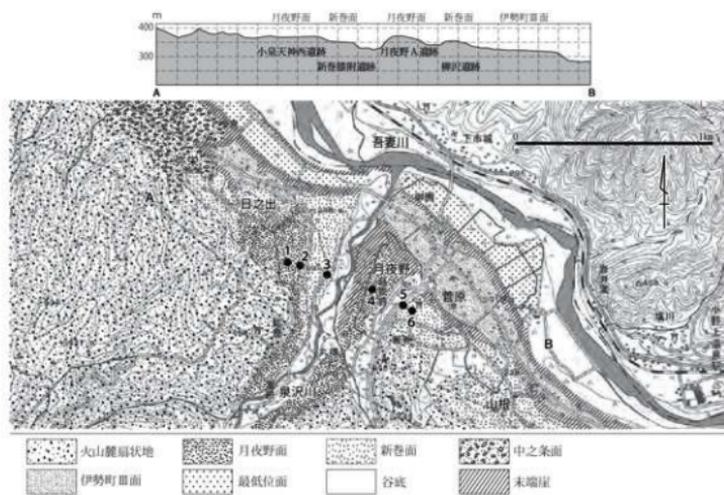
を沖積錐とした。吉田・須貝(2005)は中之条盆地に分布する中之条泥流について明らかにし、泉沢川付近の段丘は中之条面と伊勢町Ⅲ面に区分した。

竹本(2008)は泉沢川に分布する火砕流を榛名三原田テフラに伴う火砕流堆積物とし、新巻火砕流と呼んだ。早田(2000)も榛名箱田テフラに伴う火砕流を山根火砕流と呼んでいる。三原田テフラと箱田テフラは名称の異なる同一のテフラであり、新巻と山根はこの地域の大字と小字名であるため、これらは同じ火砕流の可能性がある。

地形

(1)火山麓扇状地

泉沢川は榛名山の鬘柳山(1350m)や烏帽子ヶ岳(1363m)付近を水源に榛名山麓を刻み、東吾妻町小泉で吾妻川と合流する。泉沢川上流の山体部は外輪山を構成する鬘柳山から東吾妻町迦葉付近の標高700～650m付近で溶岩や火砕岩類から構成される。山麓部は標高700～650m付近から東吾妻町小泉付近の標高360mで、開析さ



1 小泉天神西遺跡 2 小泉天神西遺跡東工事露頭 3 新巻懸附遺跡 4 月夜野A遺跡 5 柳沢遺跡西工事露頭 6 柳沢遺跡

第164図 泉沢川周辺の地形面区分図

れた山麓頂部には火山麓扇状地の緩斜面が広がる。

深沢川から泉沢川の間にある火山麓扇状地は、標高620～580mの大原や標高620～560mの十二原、標高620～580mの広野や標高600～550mの迦葉に平坦面が広がる。榛名山北麓の火山麓扇状地は、成層した火山砕屑物の火山麓扇状地堆積物から構成され、水鉛谷大町Aテフラ群を挟む吾妻ローム層に覆われる。矢口(2024)は火山麓扇状地の形成期を440～379ka (Kaは1000年前)とし、6万年間で形成されたと推定した。

小泉天神西遺跡周辺の火山麓扇状地は末端崖を形成し、崖は標高520～360mで比高差は160mである。

(2) 月夜野面

泉沢川右岸の月夜野A遺跡が所在する地形面は、谷を挟んで柳沢遺跡が所在する地形面とは約10mの比高差があり、これを新たに月夜野面と呼ぶ(第8表)。月夜野面の標高は370～360mであり、泉沢川との比高差は40mである。泉沢川左岸では、同面に小泉天神西遺跡が所在し、泉沢川の重田や左岸の東吾妻町小泉の日之出付近の標高380～350mにかけて平坦面が広がる。日之出では標高350m付近に末端崖が存在する。月夜野面は新巻火砕流の堆積面であり火砕流が形成した台地であるが、上

位の中之条泥流が薄く地形面を覆う。

(3) 新巻面

泉沢川右岸の柳沢遺跡が所在する地形面を新たに新巻面と呼ぶ。標高は370～350mで、菅原神社の北では比高差20mの末端崖で下位面に接する。泉沢川左岸の東吾妻町小泉の弥栄付近の標高370～350mや新巻膝附遺跡が所在する標高370～350m付近も同面に対比される。新巻面は新巻火砕流が浸食をされた平坦面を上位の中之条泥流が厚く覆う。

(4) 中之条面(吉田・須貝2005)

泉沢川左岸の東吾妻町小泉の新興から弥栄付近の標高360～340m付近は中之条面に対比され、下位面との比高差は10mである。中之条面は中之条泥流の堆積面で岩なだれ堆積物が形成した台地である。

(5) 伊勢町Ⅲ面(吉田・須貝2005)

群馬県道35号が通る弥栄付近の標高340～330mや泉沢川右岸の県道35号が通る東吾妻町新巻の菅原付近の標高330～310mは伊勢町Ⅲ面に対比される。あずま温泉桔梗館の南では比高差15mの末端崖で吾妻川の最低位面に接する。伊勢町Ⅲ面は吾妻川の低位段丘面で円～亜亜からなる伊勢町礫層から構成され、黒色土がこれを覆う。

第8表 地形面区分の概要

名称	標高・末端崖(m)	区分	構成層	被覆層
伊勢町Ⅲ面	340～310	15	堆積面	伊勢町礫層 黒色土
中之条面	360～340	10	堆積面	中之条泥流 上部ローム層
新巻面	370～350	10	浸食面	中之条泥流 上部ローム層
月夜野面	380～350	10	堆積面	新巻火砕流 中之条泥流
火山麓扇状地面	620～550	160	堆積面	火山麓扇状地堆積物 吾妻ローム層

地質

(1) 新巻火砕流堆積物下部(新称)

新巻火砕流(竹本2008)の下部は泉沢川兩岸の月夜野面と新巻面で確認された層厚1.22mの火砕流堆積物である(第164図)。月夜野A遺跡では標高368mで層厚0.5m+の赤褐色軽石流堆積物(下部Ⅰ)であり、全体が高温酸化を呈している。上位には層厚0.72mの灰褐色火砕流堆積物(下部Ⅱ)が重なる(写真1)。新巻膝附遺跡西の橋梁工事露頭では標高369mで層厚5m+の白色軽石流堆積物からなり、一部が高温酸化を呈する。柳沢遺跡西の橋梁工事露頭では標高357mで層厚2.5mの桃灰色火砕流堆積物からなり、下位は層厚0.4mの粗粒の軽石質火山礫を多く含むユニットがみられる。

柳沢遺跡西での新巻火砕流は、層厚6m+の成層した凝灰質亜角～角礫層の火山麓扇状地堆積物を不整合で覆う(写真2)。上位は上部ローム層の板鼻褐色テフラ1・2に水平に覆われ、一部は谷を埋めるよう斜交関係で覆われる。これらの火山灰土は層厚2mの中之条泥流堆積物に覆われている。日之出の町道沿いでも中之条泥流の下位にある上部ローム層の板鼻褐色テフラが露出しており、新巻火砕流を覆うと考えられる。

火砕流に含まれる軽石質火山礫は径50～100mmの角閃石軽石であり、径50mmの灰色安山岩角礫を含む。基質は極粗粒～粗粒火山灰で普通角閃石、直方輝石、斜長石、石英が含まれる。新巻膝附遺跡西と柳沢遺跡西の分布標高は369～354.5mであり、火砕流の推定層厚は14.5mである。

(2)新巻火砕流堆積物上部(新巻)

新巻火砕流上部は泉沢川右岸の月夜野A遺跡で確認された火砕流堆積物である。月夜野A遺跡では新巻火砕流堆積物下部を覆い、標高367mで層厚は0.83mである。月夜野A遺跡で確認した新巻火砕流上部の層序は、下位より以下のとおりである。

上部Ⅰ：層厚0.18mの灰～灰褐色細粒火山灰互層(5ユニット)は上方に細粒化する。

上部Ⅱ：層厚0.15mの灰色火砕流堆積物は径10mm大の灰色安山岩垂角～角礫を含み、基質は灰色の粗粒～中粒火山砂である。

上部Ⅲ：層厚0.50mの灰褐色火砕流堆積物は径40～100mmの灰色安山岩角礫を含む。基質は灰褐色中粒火山砂からなる。

火砕流に含まれる軽石質火山礫と基質の粗粒火山灰には普通角閃石、直方輝石、斜長石、石英が含まれる。月夜野A遺跡では上位を層厚0.17mの中之条泥流が直接覆い、火山灰土は欠損している。

新巻火砕流の下部と上部は、下部の層相が榛名山南麓の白川火砕流と類似するが上部の層相は白川火砕流の層相とはやや異なっている。上部Ⅰの火山灰層は赤城南麓の八崎テフラ上部にみられる降下ユニットに類似し、新巻火砕流下部と上部Ⅰは八崎テフラに伴う火砕流とサーマルから発生した降下火山灰の可能性がある。現状では新巻火砕流上部Ⅱ・Ⅲは白川火砕流とは別の火砕流である可能性を指摘したい。

しかし、月夜野A遺跡における新巻火砕流と中之条泥流間の火山灰土は欠損しており、また柳沢遺跡西では浸食により火砕流上半部が欠損しており、上位の火山灰土との層序関係は不十分である。このように新巻火砕流の対比に関する層序学的確証は、未だ必要な情報が欠いている。

(3)中之条泥流堆積物(吉田・須貝：2005)

中之条泥流は泉沢川右岸の月夜野・新巻面を層厚2～1.7mで覆い、中之条面を構成する岩なだれ堆積物である。月夜野A遺跡では層厚1.7mで径40～60mmの赤褐色安山岩角礫を多く含み、基質は灰褐色粗粒～細粒砂である。径2.3mの溶結火砕岩～火砕成溶岩(アグルチネート)の巨大岩塊が岩なだれ堆積物の頂部に浮いた堆積状況がみられる(写真3)。中之条泥流の基質は軽石と粗粒火山

灰からなり単斜輝石、直方輝石、斜長石が含まれる。

月夜野A遺跡や柳沢遺跡では上位を上部ローム層が覆い、層厚5cmの黄褐色砂質火山灰を挟んで層厚0.15mの浅間板鼻褐色テフラ3に覆われる。中之条泥流と浅間板鼻褐色テフラ3間の火山灰は砂質の塊状無層理で、層相は上部ローム層の火山灰土に似る。これは岩なだれ堆積物が高速で流れた際に生じた降下物かもしれない。浅間板鼻褐色テフラ3上位には火山灰土に浅間白糸テフラ、浅間板鼻黄色テフラの粗粒火山灰、浅間草津テフラなどの浅間系テフラが挟在し、黒色土に覆われる。

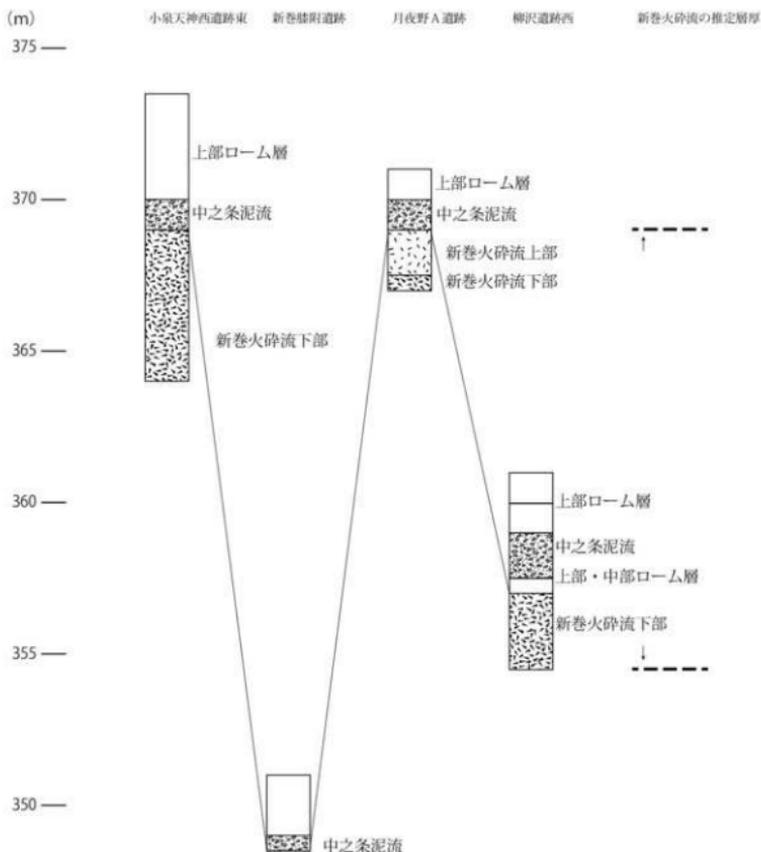
テフラと火砕流の年代

榛名山南麓の白川火砕流は、広域テフラのDKPとAT間にある榛名八崎テフラに伴う堆積物であり、榛名カルデラを形成したと考えられた。下司・大石(2011)は白川火砕流に含まれる放射性炭素の未校正年代値を45kaとし従来の年代観と調和的であると示した。しかし、大石ほか(2011)は榛名山南麓の白川火砕流に含まれる斜長石の屈折率から白川火砕流とは類似するがレンジの異なる屈折率を示す里見火砕流堆積物の分布を明らかにし、43±8kaのTL年代を報告した。

一方で榛名山の北東に分布する榛名箱田テフラは、関口ほか(2011)により吹屋遺跡で38580～36270cal y BPの較正年代が得られ、矢口(2011)は吹屋遺跡や荒砥北原Ⅱ遺跡で得られた放射性炭素年代から榛名三原田テフラの推定暦年代を37.0～34.0kaとした。また小原ほか(2021)は榛名箱田テフラの年代を36～35ka cal BPとした。矢口(2024)は榛名八崎テフラに伴う白川火砕流による榛名カルデラの形成を50kaとし、38kaに榛名三原田テフラに伴う新巻火砕流と榛名富士溶岩ドーム形成の可能性を指摘した。

新井・矢口(1994)が示した榛名山北東麓の吉岡町水沢(渋川市明保野)や高山村茶屋ヶ松の柱状図ではATとAs-JL間に榛名中郷(榛名三原田)テフラ、榛名御嶽テフラ、榛名八崎テフラ、茶屋ヶ松テフラ、大山倉吉テフラが挟在する。矢口(2024)は県内の中期更新世の火山灰土の堆積速度を0.017～0.066mm/年であるとしたが、新井・矢口(1994)が示した後期更新世の火山灰土は3万年間の堆積速度が0.088mm/年となる。

これを用いた年代推定では、これらのテフラを広域テ



第165図 道路間の層序対比

フラの60kaのDKPと30kaのATの年代で内挿すると榛名三原田テフラは41.3ka、榛名御蔭テフラは45.2ka、榛名八崎テフラは52.6ka、茶屋ヶ松テフラは56.0kaの推定年代を示す。

榛名北麓の泉沢川に分布する新巻火砕流は角閃石や石英を含有することから榛名三原田テフラや榛名八崎テフラに伴う堆積物であることは確実である。しかし火砕流は新田のいずれのテフラに対比されるか現状では課題が残る。新巻火砕流は現状において榛名三原田テフラに伴う噴出物である可能性が高いが以下の3点が今後の課題

となる。

層序学的には、堆積面を形成する新巻火砕流を覆うAT以下の火山灰土が白川火砕流のそれに対して半分の層厚になること。又は火山灰土を挟んで榛名八崎テフラや白川火砕流との層序が確認されること。年代学的には、火砕流から得られた放射性炭素の校正年代が40～36ka前後を示すこと。岩石記載及び鉱物学的には、火砕流に含まれる斜長石の屈折率が榛名八崎テフラや白川火砕流と異なること、である。

なお、下岡ほか(2023)によれば、群馬県境に近い長野

県の八風山遺跡と香坂遺跡からはYt-Pm4テフラの下から日本列島における後期旧石器時代最初頭の石器群が検出され、その較正年代は35～34kaを示す。榛名山北部の中部ローム層ではATと榛名三原田テフラ間がこの層準に対比される。

旧石器の確認調査は、可能な限り榛名三原田テフラ付近までを到達目標とすべきであろう。今後は同テフラの放射性炭素較正年代を含めた高精度年代測定を行う必要がある。また、後期旧石器時代最初頭の石器群を使用した人類は利根川上流でどのような動態を示したであろう。今後、榛名三原田テフラを指標として原産地周辺でMIS3前半期の遺跡発見に大きな期待が掛けられる。

(矢口裕之)

文献(年代順)

- 守屋以智雄(1966)吾妻川流域の地形発達。地理学評論, 39, 51-62.
 山口一俊(1975)中之条盆地とその周辺の地形。駒澤大学院地理学研究所, 5, 28-39.
 竹本弘幸・米澤 宏・由井得雄・小池一之(1987)中之条湖成層の順序とフィッシュ・トラック年代。駒沢地理, 23, 93-108.
 新井雅之・矢口裕之(1994)榛名火山の後期更新世未から完新世の噴火史。日本第四紀学会講演予稿集, 24, 174-175.
 早田 勉(2000)榛名火山—山頂部のカルデラと溶岩円頂丘群。貝塚裏平・小池一之・遠藤邦彦・山崎晴雄・鈴木毅彦(編)日本の地形, 第四巻, 關東・伊豆小笠原弧。東京大学出版会, 東京, 61-64.
 吉田英嗣・須貝俊彦(2005)“24,000年前の中之条泥流”イベントが中之条盆地の河川地形発達に与えた影響。第四紀研究, 44 (1), 1-13.
 竹本弘幸(2008)榛名山の活動と中之条盆地・烏川・碓氷川・鑄川の段丘。日本地質学会(編)日本地方地質誌。関東地方。朝倉書店, 東京, 357-361.
 下司信夫・大石雅之(2011)榛名火山の後期更新世及び完新世噴出物から得られた炭素14年代。地質調査研究報告, 62 (3/4), 177-183.
 大石雅之・下司信夫・下岡順直(2011)斜長石斑晶の屈折率を用いた火山噴出物の識別—榛名火山南麓を中心に分布する噴出物を例に。第四紀研究, 50 (6), 295-308.
 関口博幸・早田勉・下岡順直(2011)群馬の旧石器編年のための基礎的研究—関東地方北西部における石器層の出土層位、テフラ層序、数値年代の整理と検討—。公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要, 29, 1-20.
 矢口裕之(2011)関東平野北西部、前橋堆積盆地の上部更新統から完新統に関わる諸問題。公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要, 29, 21-40.
 小塚俊行・鈴木茂・関口博幸(2021)後期旧石器時代の環境変遷史とテフラ年代の現状—真原遺跡の分析結果を中心に—公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要, 39, 1-20.
 下岡順直・国武貞克・早田勉・大石雅之・須藤隆司(2023)北八ヶ岳横岳火山を起源とする八ヶ岳新第四テフラ(Yt-Pm4)の噴出年代。第四紀研究, 62 (4), 159-163.
 矢口裕之(2024)火山灰層序と古地形による榛名火山の噴火史。群馬県立自然史博物館研究報告, 28, 95-114.



写真1 月夜野A遺跡の地層断面

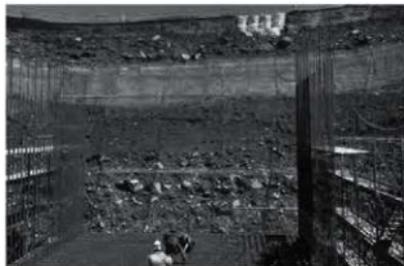
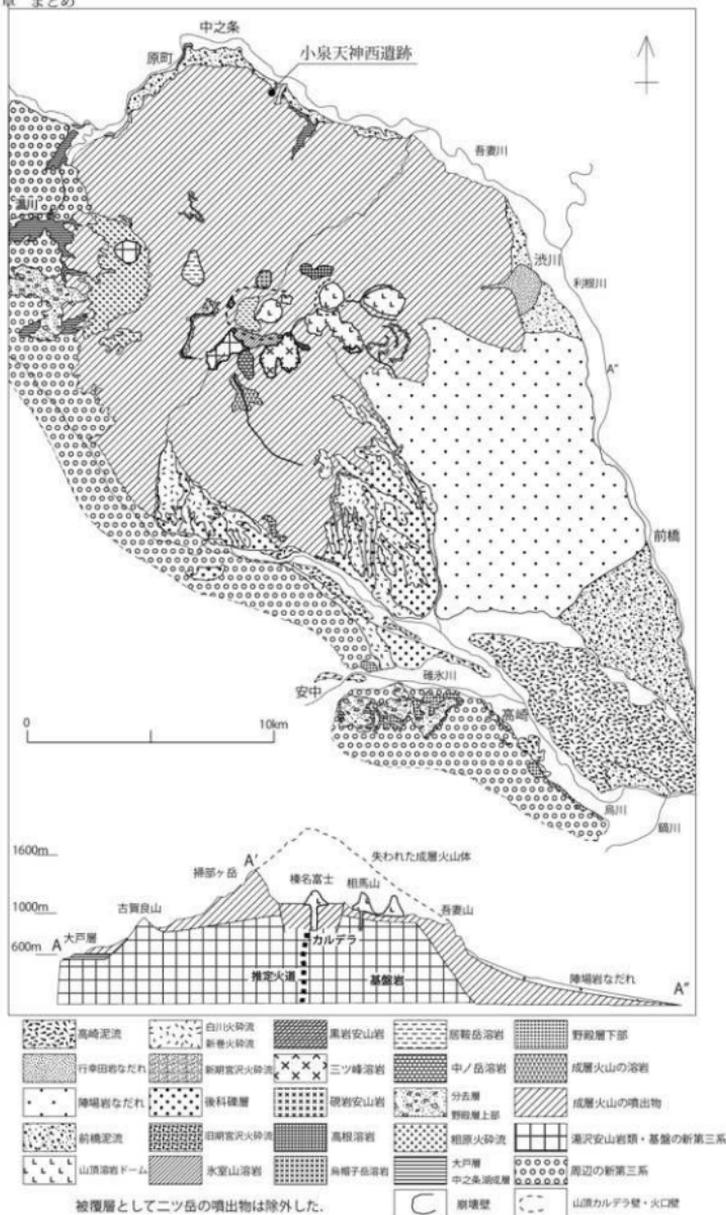


写真2 柳沢遺跡西の植架工事露頭



写真3 月夜野A遺跡の中之条泥流に含まれる岩塊



第166図 榛名山の地質図と断面図(参考図:矢口2024)

第2節 小泉天神西遺跡12号竪穴 建物出土の須恵器大甕について

はじめに

小泉天神西遺跡は吾妻郡東吾妻町に所在する飛鳥時代から平安時代の竪穴建物を中心とする集落遺跡である。竪穴建物は7号竪穴建物と8号竪穴建物が重複する以外は単独で占地しており7世紀から10世紀前半にかけての散村的様相が窺える。周辺の小泉天神遺跡や新巻膝附遺跡、小泉宮戸遺跡では6世紀後半代から竪穴建物や掘立柱建物、終末期古墳が輸出されており、この地域では古墳時代後期に集落が形成され、7世紀後半には古代吾妻評大田里の一村落を構成する集落であったとみられる。

発掘調査では2号竪穴建物から大型の須恵器圓足円面硯や12号竪穴建物から残存器高102cmの須恵器大甕が出土しており注目された。特に器高100cmを超える大甕が集落から出土した例は少ない。こうした点からこの須恵器大甕について若干の考察を行った。

大甕の出土状態と出土遺構について

12号竪穴建物14の須恵器大甕は40cm前後の比較的大きな破片から5cm前後の破片で出土している。接合作業の結果、約2分の1が残存していた。その破片は第95図に示されているように12号竪穴建物南西部だけでなく北部やカマドからも出土している。さらに発掘調査区全域に目を向けたところ、12号竪穴建物のカマド煙道部と重複する50号土坑、同じく重複する8号掘立柱建物柱穴をはじめ、北東10mに位置する2号竪穴建物、北北西10mの10号竪穴建物、北15mの16号竪穴建物、南15mの18号竪穴建物など半径15mの広範囲から破片が出土していた。こうした破片が散乱した中でも12号竪穴建物南西部では大きな破片が重なって床面直上から50cm上にかけての位置から出土している。さらに掘方では甕の破片がまとまって出土した下に楕円形を呈し、規模が径0.70×0.50m、床面から0.10mの浅い掘り込みが検出されており、この状態から須恵器大甕が据え置かれていたことが想定できる。

なお、接合作業では特徴的な大型甕であることから遺構外を含め、すべての遺構から同一個体の可能性がある

破片を抽出し接合を試みた。その結果、口縁部は頸部に接合する下位の破片と拓本を提示した中位の破片以外の口縁部上位から口唇部に至る破片を見つけることはできなかった。こうした状態からこの大甕は12号竪穴建物に持ち込まれた当初から口縁部上半が欠損していたことも想定できる¹⁾。

この大甕の成形は胴部が叩き締め成形、口縁部はロク口成形によって別々に作られて頸部にて結合され、頸部外面に所謂「補強帯」と呼ばれる断面四角形の粘土紐が貼付されている。補強帯は断面四角形の状態が保たれ、角がつまみ上げられやや尖った状態である。口縁部は残存状態が不良で全貌が不明であるが、残存片からは2条の凹線による区画が施され、凹線上に波状文が施されている。

後述した補強帯大甕の例から口縁部は凹線によって4段に区画され、最下段は無文、下から2段目以上に波状文が施されているとみられる。胴部外面には平行叩き痕が残る。内面は口縁部下半から頸部にかけてヘラナデ、胴部は同心円状アテ痕が明瞭に残る。胴部の形態は均一ではなく胴部上半の膨らみ状態は箇所によって異なる。これは下半に見られる成形後の歪みが要因とも考えられる。さらに底部には焼成時の室内部での置台と見られる他甕個体の破片が貼り着き、剥がすことができなかったためかそのままの状態であった。

なお、須恵器大甕が出土した12号竪穴建物からは土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄製品などが出土しており、そのうち図示や写真を掲載したものは土器、陶器が17点ある。土器では1・2・3土師器杯がカマド、9～13土師器甕がカマド、床面からの出土しており12号竪穴建物と共存する。この他、3土師器杯、5～8須恵器甕・壺も出土位置は床面からだいぶ離れた位置からの出土であるが、その形態から共存しても齟齬はないとみられる。

12号竪穴建物の時期は床面やカマドから出土した土師器杯、土師器甕の年代観から比定できるが、これらの土器では形態や整形に相違があることから時間幅が想定できる。そのため各土器についてみると以下ようになる。1・2土師器杯は口縁部下の稜は作られていないが、須恵器蓋模倣杯の系譜で7世紀後半代、3土師器甕は丸底で口縁部が内湾しており、宮都の土師器杯の影響を受けたものであり、さらに口径が17.7cmと大型している点から7世紀第4四半期、10・11土師器甕は胴部上位、所謂

肩の張りもあり大きくなく整形も若干斜め方向のヘラ削りが行われているにすぎないことから7世紀第3四半期、12・13土師器甕は胴部の膨らみは同様であるが、胴部上位に横方向に近いヘラ削りが施されていることから10・11より後出の7世紀第4四半期の年代観が与えられる。こうした土器の年代観から12号竪穴建物物は7世紀第3四半期に構築されているが、主に7世紀第4四半期に存続していたと想定できる。

大甕の生産地について

須恵器大甕は頸部に補強帯が貼付されている地域色の強い須恵器甕である。須恵器甕の中で補強帯が貼付されたもの出土は神奈川県横須賀市や千葉県、長野県などからも出土しているが、その中心は群馬県、埼玉県、栃木県西部である。現在のところ、窯跡からの出土例は太田市金山古窯跡群管ノ沢遺跡や八幡窯跡、亀山窯跡、埼玉県寄居町末野窯跡などで確認されている。しかし、胎土や口縁部の文様構成などから藤岡市藤岡古窯跡群、高崎市乗附・観音山古窯跡群、安中市秋間古窯跡群でも生産されていたことが指摘されている。

須恵器補強帯甕の口縁部は凹線による区画や波状文が施されており、その文様構成に特徴があり、この特徴は生産地によって異なることが指摘されている¹²⁾。須恵器補強帯甕の出土状況から西毛地域では4段構成の波状文が主体を占めているが、東毛地域では3段構成の波状文が主体を占める傾向があるとされている。こうした中、金山古窯跡群では管ノ沢遺跡で4段構成の波状文が一定量存在するが圧倒的に3段構成の波状文であるとされている。こうした研究成果や胎土の特徴から小泉天神西遺跡12号竪穴建物物から出土した須恵器補強帯大甕も金山古窯跡群で生産され、吾妻の地に持ち込まれた可能性が高い。

須恵器大甕の年代について

須恵器大甕の中でも補強帯が貼付された甕の研究は北関東地域での特色をもつ須恵器であることから、早くから研究が進み、酒井清治氏、橋本博文氏、田中広明氏、藤野一之氏らによって論考が発表されている。その中で、変遷について詳細に検討しているのは田中氏である。田中氏の研究によると補強帯大甕は6世紀後半から8世紀初頭にかけてみるのが可能で、その変遷は①頸部補強帯の断面形状、②文様区画線の表現方法、③波状文の表

現方法、④施文順序、⑤施文単位の変化と組み合わせによって4期の変遷が提示されている。

小泉天神西遺跡12号竪穴建物物出土の須恵器大甕は田中氏の分類では①頸部補強帯の断面形状は方形に突出しているが上部・側面ともへこまず補強帯端部より垂下させた線が外側になることからD類、②文様区画線の表現方法は一本線による凹線であることからB類、③波状文の表現方法は波状文の単位が6本、振幅20mmであることからC類、④施文順序はB類、⑤施文単位は口縁部上半が存在しないため判然としないが3単位Aに分類することができる。

この分類は田中氏の補強帯変遷Ⅲ期に相当するもので実年代は7世紀中葉から後葉の年代観が与えられる。

この年代観は12号竪穴建物の存続時期と7世紀第3四半期から第4四半期とほぼ同様である。ただし、Ⅲ期の初期段階である7世紀中葉に生産されたとすれば、12号竪穴建物構築以前に生産されていたことになる。

集落での出土例

須恵器大甕の出土例は古墳からのものが圧倒的に多くみることができる。そうした中で器高が100cmを超えるか、これに近い須恵器の大甕は高崎市八幡観音山古墳(推定高99cm)、小八木志志貝戸遺跡2-066号遺構(1001残存高97cm・1002残存高85cm・1004推定高90cm)、高崎市多胡古墳群を構成する東志免木遺跡3号墳(器高104cm・器高104cm)、藤岡市東平井古墳群時沢支群K-2号墳(推定高82cm)・K-7号墳(器高98cm)などを挙げるができるが、古墳からの出土も決して多いとは言えない状況である。さらに集落からの出土例となると高崎市下佐野遺跡や藤岡市森遺跡、太田市大道西遺跡、大道東遺跡、鹿島浦遺跡、渋川市金井下新田遺跡などに限られている。

下佐野遺跡では6世紀中葉に比定される5区4号竪穴建物物から推定高80cmの須恵器大甕(報告書第132図284)の他、複数の須恵器大甕片が出土している。報告者は床面よりやや上位の出土状況から他の竪穴建物物で使用されていた須恵器大甕が廃絶され、埋没過程にあった5区4号竪穴建物物に投棄されたとしている。

森遺跡では11号土坑から器高109cmを測る須恵器大甕(報告書第73図1)が出土している。11号土坑は形状が長方形に近く、規模は2.15m×1.85m、深さ1.20mと大型のものである。さらに、底面の北東側、大甕が出土した

下からは楕円形の径1.25×0.85m、底面から0.1mほどの落ち込みが検出されており、この落ち込みは須恵器大甕を据えた痕跡とみられる。報告者はこの須恵器大甕の年代観を同遺跡で検出した13・14号竪穴建物と平行する時期に比定しているが、後述する金井下新田遺跡出土の甕と比較しても胴部上位の膨らみ状態が弱いことや口唇部形状¹³などを考慮するともう少し下った6世紀後半から7世紀代の年代観が適切と考える。また、性格については胴部上位から口縁部の大半を欠くことから、遺構を土坑墓、須恵器大甕を埋葬のために使用したと推定しているが、埋没土状態の観察では炭化物や焼土を含む土砂がほぼ水平に堆積しており、須恵器大甕が破損し潰れた状態になった後に埋没したと判断できる。また、破片の間に土砂の流入した痕跡がみられないことから破損前に固形物が入っていたとは判断できない。さらに古墳時代の墓制に遺体を甕に納める埋葬事例をみることができない¹⁴から別な用途に使用された可能性が高いと考えられる。

大道西遺跡では初期の東山道側溝から器高73cmの須恵器甕(報告書第111図10)と口縁部だけの残存であるが口径56cmと大型の須恵器甕片(報告書第111図11)が出土している。これらの大甕も東山道が廃絶したときに側溝に廃棄された可能性がある。

大道東遺跡では大型須恵器甕の破片が多量に出土しているが、器高が復元できる個体は存在していない。口径50cmを超える破片(報告書第435図5229)や頸部径が40cmの破片(報告書第422図5161)がみられる。こうした破片は器高100cmを超えるものとみられる。なお、遺跡は金古窯跡群菅ノ沢遺跡などの須恵器窯から至近の距離にあり須恵器製品の集積地の可能性があり、集積した段階で大きく破損したものが廃棄されたとみられる。

鹿島浦遺跡では4区9号竪穴建物から底部を欠くが口縁部から胴部下位までの残存高80cmの須恵器大甕(報告書第351図9)が出土している。なお、出土した竪穴建物は8世紀第2四半期から第3四半期比定されるが、大甕は埋没土からの出土で伴するか断定できない。

金井下新田遺跡では1区3号平地建物からほぼ完形に近い器高88cmの須恵器大甕(報告書第107図8)が出土している。出土した平地建物は梁行3間、桁行3間の4.63×5.74mの建物で北東側2分の1は調査区外のため全貌

は不明である。構築は椽名山噴火(Hr-FA)以前と見られ、Hr-FAの火砕流(Sa)によって倒壊、埋没している。須恵器大甕は南壁の内側に潰れた状態で出土しており、火砕流(Sa)ですっぽりと覆っていたことから火砕流(Sa)が発生する以前に壊れて潰れていたとされている。須恵器大甕の出土位置は床面の平坦面で設置状況については不明であるが、甕が出土した北側に径0.45m、深さ0.15mほどの掘り込みが検出されており、ここに据えられていた甕が椽名山噴火による地震で倒れて壊れた可能性は想定できる。

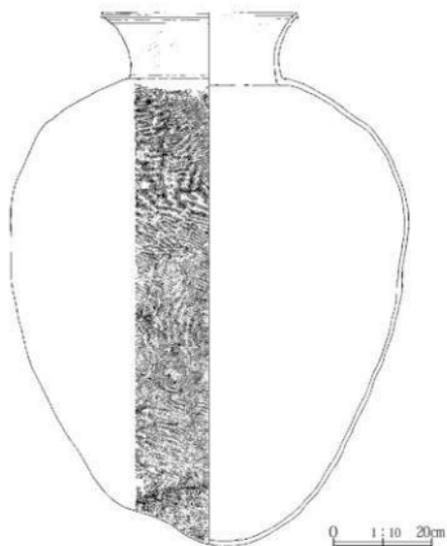
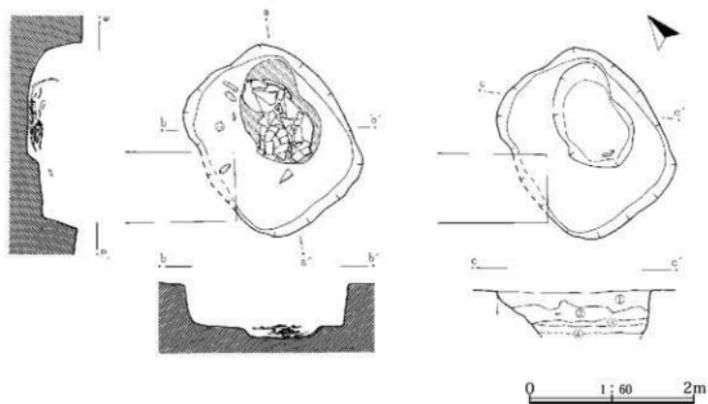
須恵器大甕は大阪府陶邑古窯跡群産の可能性が高く、生産時期はM T 15(陶器山15号窯型式)、6世紀初頭に比定¹⁵されている。陶邑古窯跡群産の須恵器は数多くないが蓋杯を中心に高杯、甕など小型品がもたらされていることは知られているが、甕などの大型品はごく僅かで金井下新田遺跡の豪族の覇権の大きさについて窺い知ることができる。

大甕は火砕流に覆われており、その後の影響を受けていないが、内容物などの痕跡が残っていないため、なかに貯蔵物があったとすると液体であった可能性が高い。

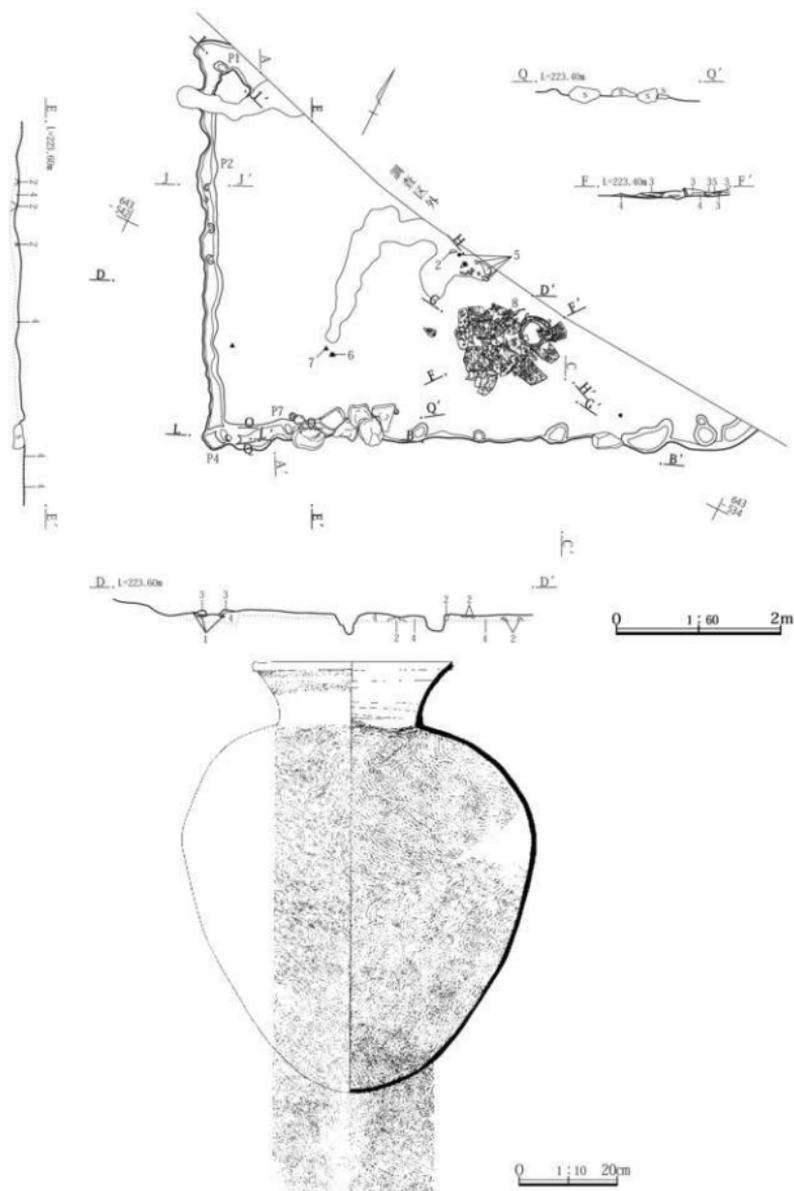
大甕の流通・移動

古墳時代の土器移動の様相は判然としませんが、貢納や分配が主であったとみられる。その後、律令期には都城に市が設置され、いろいろな品が商品として売買されていたことが知られおり、平城京の市では土器も取り扱われ、その価格も正倉院文書などに残っている。

地方では須恵器生産地の窯元が発注された須恵器に対価を刻書した資料もある。これは埼玉県鳩山町鳩山古窯跡群広町遺跡A地区1号竪穴建物から出土した須恵器甕に「大甕直布六十段」と焼成前に刻書されたものである。これは甕の価格を表しているとの見解もあるが、この須恵器甕は口径21.9cm、器高は推定31cmで容量が約25%の小型のものである。これに対して天平勝宝七(775)年「越前国使等解文」では3石(現在の1石3斗程度、約230%)と広町A遺跡出土の約9倍の容量をもつ甕の価格が幅40束と記載されている。また、天平十一(739)年の「伊豆国正税帳」に唐布1段が幅10束あるとの記載がある。すなわち、3石(約230%)の容量をもつ須恵器甕は幅40束または布4段ということになり、鳩山古窯跡群広町遺跡A地区から出土した甕と刻書された値段は実際より大きく異



第167図 森道跡大甕出土11号土坑と出土した須恵器大甕
事業団19集第72図・73図(裏は1/6→1/10で掲載)



第168図 金井下新田道跡1区3号平地建物と出土した須恵器大甕
事業団684集第168図・第107図(甕は1/4→1/10)

なるなどの指摘もなされている。なお、都城市では土器が商品として売られている記録があるが、ここでは杯、椀、盤などの食器が中心で貯蔵具である甕については小型のものしか記録は見られない。こうした面からも中型や大型の甕は生産地に直接注文していた可能性が窺える。

小泉天神西遺跡から出土した須恵器大甕も器高100cmを超える大甕で胴部の容量は歪みもあり正確な値を求めるのは難しいが、凡そ200ℓを超える。この容量は「越前国使等解文」での3石の容量をもつ甕に近く、稲40束または布4段と同等の対価が必要であった可能性が高い。

須恵器大甕はその出土例が稀であることや文献での市の取り扱いについての記載がないことから、特別な注文により生産されたものと想定できる。生産地が小泉天神西遺跡から直線距離で50°離れた金山古窯跡群と推定されることから、運搬にも相当の対価が求められたか、吾妻の地へ複数人によって数日かけて運び込んだことが推測できる。さらに、大甕の出土例は竪穴建物からは極めて稀で、集落単位でもわずかな例が見られるだけであることを考慮すれば、発注者は個人ではなく集落なり村落

単位、その中でも富豪層による発注であったことが想定できる。

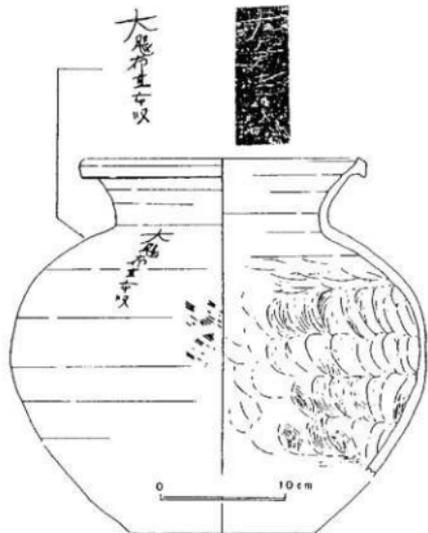
大甕の使用

前項で記したように須恵器大甕は個人の所有と考えるより集落や村落単位による所有とみるほうが適切である。こうした点から須恵器大甕が竪穴建物で単なる水甕として使用されたとはみることはいえない。では、この須恵器大甕がどのような使用がなされたか検討したいが、須恵器甕の出土例の項で検討したように群馬県内の須恵器大甕の多くは使用状態を残している例は少なく、使用状態及び近い状態を残しているのは森遺跡11号土坑と金井下新田遺跡1区3号平地建物、小泉天神西遺跡12号竪穴建物の3例だけである。

そのため、集落遺跡以外に例をもとめると高崎市黒熊中西遺跡で小から大に近い須恵器甕がまとまって出土している例がある。黒熊中西遺跡は9世紀後半から11世紀にかけての寺院とこれに付随する集落遺跡である。須恵器甕がまとまって出土しているのは2号遺物集積と呼称されている遺構で図示されている土器が須恵器椀15点、須恵器鉢1点、灰釉陶器輪花椀1点、ロクロ土師器小型甕2点、同甕1点、器高50cm以下の須恵器平底甕5～6点、器高50cm以上の須恵器甕8点以上、須恵器羽釜4点がある。遺物が集中して出土した周りには溝や小規模な土坑が伴い、丸底の須恵器甕を据え置いた可能性が窺える。須恵器甕は形が分かる個体だけでも13個体以上である。報告書は廃棄・投棄の可能性も考慮しつつ、近接する方形を呈する80号土坑、81号土坑の存在から寺院に付随する工房の可能性を示唆しているが、詳細については語られていない。なお、黒熊中西遺跡から出土した大甕については田中広明氏によって関東地方の出土例を検討する中で「水の貯蔵を含めた酒の生産、醸造、貯蔵に使用され容器と考えておきたい」とされている¹⁶。

寺院での須恵器大甕については以前からの研究で酒や酢、醤、漬物等の醸造や貯蔵施設であったことが明らかにされている。

須恵器大甕の使用例として酒や酢等の醸造や貯蔵については関根真隆氏によって「薩摩国正税帳」、「豊後国正税帳」、「大倭国正税帳」に甕の内容物として酒、醤、酢が貯蔵されていたことが指摘されている¹⁷。これらの酒、醤、酢についてはその量と貯蔵している甕の数が記

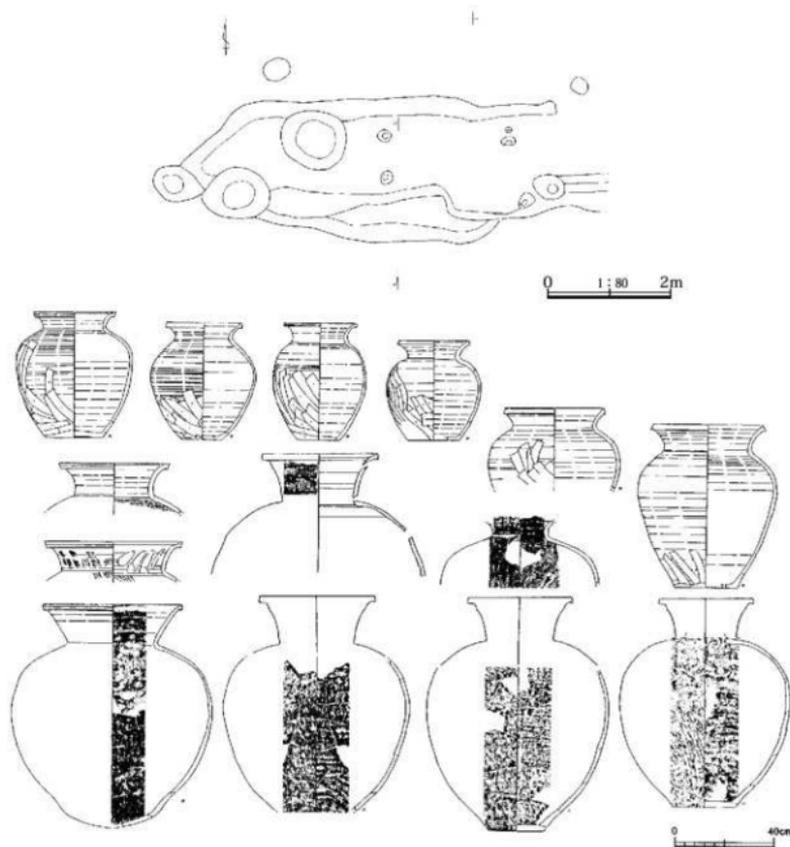


第169図 鳩山古窯跡広町A遺跡1号竪穴建物出土の須恵器甕
鳩山窯跡群IV336図

載されているようで甕1個の容量は2石7斗〜7石1斗5升であったとされている。さらに2018年12月に古代官衙・集落研究会で「官衙・集落と大甕」と題した研究会で提示されている。この研究会では都城をはじめ全国各地の大甕出土状況や文献からの検討がなされている。特に文献からは三船隆之氏によって地方における富豪層による酒や酢の醸造・貯蔵の様相を『宇津保物語』を引用して明らかにされている²⁴。その中で『令集解』28儀制令春時祭田条では村落の祭礼で飲酒が行われていたこと

が知られ、集落内で酒の醸造が行われていた可能性がある。」としている。

小泉天神西道跡12号竪穴建物は7世紀第3四半期から第4四半期にかけての時期に比定され、律令制定初期に当たり、春時祭田などの祭礼も古墳時代から行われていた祭祀がこの時期に整備されたと見られ、12号竪穴建物の須恵器大甕でも酒の醸造が行われていた可能性が想定できる。

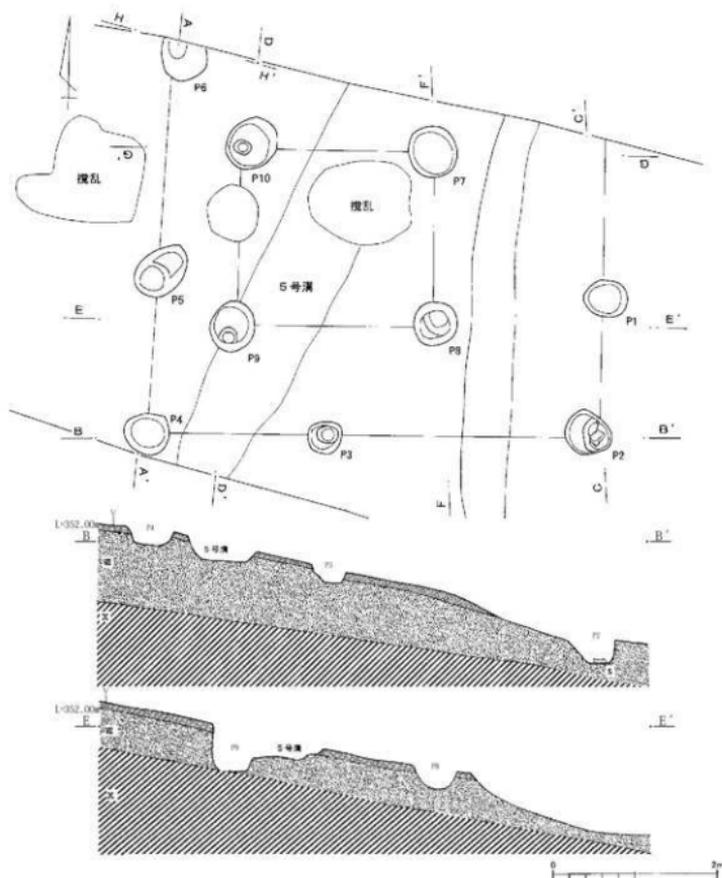


第170図 黒熊中西道跡2号遺物集積と出土した須恵器大甕
169集235図(1/40→1/80で掲載)
2号遺物集積から出土した須恵器大甕(田中2019から転載)

まとめ

小泉天神西遺跡の周辺遺跡を見ると東側に位置する新巻膝附遺跡には7世紀後半に比定される張り出しを持つ9号竪穴建物やこの竪穴建物と同じ方位で同様な時期の土器を出土している7号掘立柱建物が検出されている。この7号掘立柱建物は北側が調査区外のため全貌は明らかでないが、1間×1間(2メートル四方)の4本柱建物の周りを4本柱からなる建物の柱とは並びがそろわない柱列が囲む特異な建物が検出されている。7号掘立柱建物が立地する地形は西から東へ大きく傾斜しており、南

側の柱列では西側の柱穴P4と東側の柱穴P2では高低差1.20mある。この高低差がある地形に竪柱建物を建てることは難しいと考えられ、外側の柱列は掘立柱建物の柱穴と想定するより内側建物を区画するための柵と想定できる。こうした特異な建物は前橋市烏羽遺跡や東吾妻町下郷古墳群で検出された神社遺構¹⁹とも想定できる。この新巻膝附遺跡7号掘立柱建物と小泉天神西遺跡12号竪穴建物は900mと至近距離にあり、祭礼の時の酒を醸造して貯蔵していたことが想定できる。



第171図 東吾妻町新巻膝附遺跡7号掘立柱建物遺構図
(報告書第19図を改編)

また、12号竪穴建物は酒の醸造・貯蔵施設とみられるならば、居住空間だけではなく黒黒中西遺跡2号遺物集中と同様な工房も兼ねていた可能性もある。

今回、律令初期にあたる竪穴建物から出土した須恵器大甕からやや大胆な復元を試みたが、この復元には官衙・集落研究会での成果もあり、概一的な外れとはいえない。また、これだけの大甕は集落からの出土例が稀であることからこの村落や郷を掌握する豪族の財力の大きさを窺い知ることができる。さらに今まで古代吾妻郡には古代上毛野国内に四か所しか存在しない白鳳寺院である金井鹿寺が建立されており、大田・伊参・長田の三郷からなる小部であるにもかかわらず、伽藍を有する寺院を建立することが可能な権勢や財力を有していたことが知られていたが、その実態はわからない状態であった。こうしたなか、近年の吾妻川右岸では下郷古墳群や古代吾妻郡を東西に横断する上信道自動車道の発掘調査からは東吾妻町四戸遺跡、新井遺跡、天竜遺跡、小田沢遺跡などで古代吾妻郡の郷里制を構成する古代集落が発掘調査されて多くの成果が得られている。特に四戸遺跡では多くの鉄製工具や奈良三彩短頸甕、天竜遺跡では銅鏡、小田沢遺跡では灰陶器浄瓶²¹⁾など一般集落遺跡から出土例をみることがない遺物が出土しており、こうした遺物の評価が課題となっている。今後、これらの成果を検討することにより古代吾妻郡地域における実像に迫ることが可能であると考えられる。

(神谷佳明)

注

- 注1 須恵器大甕が長期にわたって使用されていることは橋本県内から出土した須恵器大甕の生産時期と出土遺構を検討した津野 仁氏によって明らかにされている。
- 注2 藤野一之氏は「北関東型須恵器の成立と展開」の中で発状文の文様構成について指摘している。
- 注3 陶器古窯跡群の遺構について津野 仁氏によって詳細な分析が行われ、各窯までの形状形態が提示されている。
- 注4 古墳時代の埋葬については当事業団杉山秀次氏から事例の教示を受けた。
- 注5 金井下新田遺跡出土の須恵器については藤野一之氏の論考を参照した。
- 注6 報告書は2号遺物集中を「工房、簡倉、雑倉などの所産と捉え得るとし、大型器種が集中する集落遺構は例が無いが、大型器種の住持館などの居住空間には常置できない要素を考えると、集落内に一括して大甕を設置する空間も想定している。これに対して田中広明氏は2019「大甕における官衙・集落と大甕」第22回古代官衙・集落研究会報告書 官衙・集落と大甕」独立行政法人奈良文化財研究所のなかで「寺院における大甕の使用を考え、水廻りの豊富な石廻りの井戸などから酒の生産、貯蔵にかかわる遺構」としている。
- 注7 関根隆興1969「第八章 奈良時代の厨房用具 大型 貯蔵用具」『奈良朝食生活の研究』吉川弘文館、時・由加・題など第3部 貯蔵用具についての研究が行われている。
- 注8 三舟隆之氏は『宇津保物語』吹上には「これは酒醜。十石入るばかりの瓶ばかり居て、酒造りたり。酢、鹽、漬物皆同じごとしたり。

- 敷殿などもあり。」(『宇津保物語』一 日本古典文学大系 岩波書店)とあり、地方の富家層による酒、酢、鹽、漬物つくりの様子を示している。
- 注9 下郷古墳群3号竪穴柱建物は榎柱2間×2間の内側に2本の柱を持つ特異な建物である。報告者は断定していないが、神社建築の大鳥造(大阪府大鳥神社)に例があるとしている。
- 注10 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2020「四戸遺跡」・2022「新井遺跡」・2024「年報」42による。

引用・参考文献

- 赤原浩一2007「須恵器の価格と流通」『春日部市庄和町史編纂資料(14) 原始・古代資料一考古』春日部市教育委員会
- 笠井秀規2004・2005「『延喜式』の上巻について(上)・(下)」『延喜式研究』20号・21号延喜式研究会
- 笠井秀規2009「『食(食)』(ホトク)と食・加(モタイ)に関する参考文献」『国立歴史民俗博物館研究報告』第218集 国立民族博物館
- 入沢雪絵2001「県内の古墳出土の大甕について」『小八木志良氏戸遺跡群2』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 木村理恵2019「大甕の生産・流通の変遷について—垂下形縁帯口縁をもつ大甕を中心に—」第22回古代官衙・集落研究会報告書 官衙・集落と大甕」独立行政法人奈良文化財研究所
- 小井清治2001「小八木志良氏戸遺跡出土の須恵器」『小八木志良氏戸遺跡群2』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 関根隆興1969「奈良朝食生活の研究」吉川弘文館
- 田中広明1993「縁帯のある大甕の生産と流通」『埼玉考古』30号 埼玉考古学会
- 田中広明2019「関東における官衙・集落と大甕」第22回古代官衙・集落研究会報告書 官衙・集落と大甕」独立行政法人奈良文化財研究所
- 津野 仁2017「古代須恵器大甕の耐久—本県域の事例から—」研究紀要」25号(公報)とちぎまづつ財団 埋蔵文化財センター
- 橋本博文1980「縁帯を有する須恵器大甕について」『大久保山1』早稲田大学出版部
- 藤野一之2009「北関東型須恵器の成立と展開 (8) 甕」『群馬・金山丘陵塚跡群』駒澤大学考古学研究室
- 藤野一之2019「群馬県における須恵器生産の拡大と人集の多様性」『古墳時代の須恵器と地域社会』4—書房
- 藤野一之2021「金井下新田遺跡出土須恵器の基礎的考察」『金井下新田遺跡—古墳時代以降編—』分析・論考編。公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 三舟隆之2019「大甕を使う」第22回古代官衙・集落研究会報告書 官衙・集落と大甕」独立行政法人奈良文化財研究所
- 渡辺 一1992「第4部 成果と問題点 第2章 奈良・平安時代 第2節 出土遺物の検討 1 文字資料」『嶋山窯跡群Ⅳ—工人集落編(2)』嶋山窯跡群調査委員会・嶋山町教育委員会
- 吾妻郡吾妻町教育委員会1979「金井鹿寺遺跡」
- 吾妻郡吾妻町教育委員会2003「町内遺跡1 小泉宮戸遺跡」吾妻町埋蔵文化財調査報告書第13集
- 吾妻郡吾妻町教育委員会2004「町内遺跡2 小泉天神遺跡」吾妻町埋蔵文化財調査報告書第15集
- 吾妻郡東村教育委員会2004「村内遺跡1 新巻跡附遺跡」東村埋蔵文化財調査報告書第1集
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1983「森遺跡・中1遺跡・中2遺跡」財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1986「下佐野遺跡2 地区1」縄文時代・古墳時代編
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1986「鳥羽遺跡・H・1区」財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1992「黒黒中西遺跡(1)」財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1994「黒黒中西遺跡(2)」財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2001「小八木志良氏戸遺跡群2」財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1986「下佐野遺跡2 地区1」縄文時代・古墳時代編
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2010「大鳥西遺跡」財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2010「大鳥東遺跡(3)」財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2010「鳥籠遺跡(2)」公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2014「下郷古墳群」公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2020「四戸遺跡」公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2021「金井下新田遺跡—古墳時代以降編—」
- 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2024「新井遺跡」財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団1999「未野遺跡2」財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第207集
- 奈良市教育委員会2019「特別展「平城京の市と商品」」嶋山窯跡群調査委員会・嶋山町教育委員会1992「嶋山窯跡群Ⅳ—工人集落編(2)』一
- 高野町教育委員会2006「町内遺跡10 未野窯跡群5 支那部」高野町文化財調査報告書第27集

第3節 調査のまとめ

小泉天神西遺跡の調査では、縄文時代・古墳時代・飛鳥～平安時代のほか、中・近世に及ぶ遺構・遺物が検出されている。本節では、特筆される項目について簡潔にまとめておきたい。

古墳時代～古代

古墳時代から古代の竪穴建物、4世紀代が1棟、7世紀後半2棟、8世紀前半が3棟、8世紀後半が1棟、9世紀前半が1棟、9世紀後半が5棟、10世紀前半が3棟、10世紀後半が1棟の18棟であり、際立った増減は認められないが、5～6世紀代の竪穴建物は検出されておらず、古墳時代から古代まで継続的に営まれた集落とは考えにくく、7世紀後半に新たな集落展開があった可能性が高い。特に7世紀末から8世紀初頭に位置つけた2号竪穴建物からは、土師器上野型暗文杯のほかに、大型圍足円面硯の硯脚部と海部が出土しているだけでなく、須恵器の盤が出土した竪穴建物もあることが特筆される。これらの資料は、古代の集落で普遍的に出土するものではなく、近傍に大型圍足円面硯を使用し得る施設が存在が示唆される。吾妻川右岸の遺跡からは、東吾妻町の四戸遺跡から奈良三彩短頸壺、小田沢遺跡からは「延」と刻書された灰軸陶器浄瓶、天竜遺跡では完形の銅鏡が出するなど、時期には幅があるものの、寺院や官衙との関連を想定し得る遺物が出土しているので、当例も同じ文脈で理解すべきものである可能性がある。また、10世紀代の13号竪穴建物からは吉井型羽釜と月夜野型羽釜、さらに武蔵型甕が出土したほか、灰軸陶器の椀や皿、須恵器の把手付瓶なども出土しており、多方面から土器を調達していたことがわかる。

石組みカマド

小泉天神西遺跡では、16棟の竪穴建物のうち8棟の竪穴建物のカマドに構築材として礫を使用していた。

吾妻地域では、礫をカマド構築材としている例として、姉山遺跡が知られており、当時は煮炊きだけでなく暖房の効果も想定されてきた。また、小泉宮戸遺跡の報告では、高橋氏により同様の構造を持つカマドを「石蓋石組煙道カマド」と呼称し、類似として吾妻郡東吾妻町の東

上野遺跡、小泉天神遺跡、渋川市の白井仁位屋遺跡、利根郡昭和村の森下中田遺跡などのほか、県外の例として長野県佐久市跡部磯田遺跡をあげている。

羽釜

須恵器の羽釜については、上野圏内では10世紀前半頃に生産が始まり、その生産地は西毛の吉井地区と北毛の月夜野地区の窯群を中心としており、それぞれ「吉井型」と「月夜野型」と呼称されている。

本遺跡でも、その両方が出土しており、5号竪穴建物から「月夜野型」、13号竪穴建物から「吉井型」と「月夜野型」がそれぞれ出土している。18号竪穴建物からも「月夜野型」が出土していることから、本遺跡でも「月夜野型」が「吉井型」より比率が高いと言える。

西の八ッ場地区でも同様な傾向が窺え、楡木Ⅱ遺跡の様に「月夜野型」が「吉井型」よりも2倍以上出土している遺跡も存在している。このように、月夜野型の数が優勢する傾向が特徴である。

参考文献

- 1 吾妻町教育委員会1979 『金井庵寺遺跡』
- 2 吾妻町教育委員会2003 『町内遺跡1 小泉宮戸遺跡』
- 3 吾妻町教育委員会2004 『町内遺跡Ⅱ 小泉天神遺跡』
- 4 東吾妻町教育委員会2019 『東吾妻町遺跡分布地図』
- 5 東吾妻町教育委員会2023 『下泉B遺跡』
- 6 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2015 『市城塔本遺跡』
- 7 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2023 『植葉中原遺跡小田沢B遺跡』
- 8 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2023 『植葉山根A遺跡』
- 9 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2024 『池ノ沢遺跡』
- 10 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2024 『川戸太田遺跡』
- 11 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2020～2023 『年報39～42』

高橋政光 2003 「(3)「石蓋石組煙道カマド」について」

『町内遺跡1 小泉宮戸遺跡』吾妻町教育委員会

板岡正信 2003 「月夜野型羽釜」『研究紀要21』

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編 2024 『八ッ場の考古学

—古の記憶—』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

第9表 遺物観察表

●縄文時代

20号竪穴建物出土遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 別	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第15図 PL.59	1	縄文土器 深鉢	伊賀り方 口縁~胴上破片				細砂、赤色粒/ふ つう/	隆帯による口縁部積凹区画、2条隆帯による胴部渦巻状 文を施し、丸縄文を充填施文する。	加曾利E3式
第15図 PL.59	2	縄文土器 深鉢	床上1cm 胴部破片				細砂、輝石/良好/	沈線による胴部懸垂文を施し、丸縄文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第15図 PL.59	3	縄文土器 深鉢	床上7cm 胴部破片				粗砂/良好/	沈線による胴部懸垂文を施し、丸縄文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第15図 PL.59	4	縄文土器 深鉢	床上9~18cm 口縁~胴下位 4/5	口	17.5		粗砂、白色粒、輝 石/良好/	口縁下に横位隆帯をめぐらし、以下、不揃いの間隔で7条 の隆帯を重下させ胴中で横位隆帯でつなぐが、横位隆帯 も区画によって位置がずれている。隆帯区画内に丸縄文を 縦位充填施文する。	加曾利E4式
第15図 PL.59	5	礫石器 台石	床上24cm 完形	長 幅	185 厚 153	重 79 3135.6	粗粒輝石安山岩	扁平な楕円礫を素材、表裏面に摩耗痕、凹み。	

51号土坑出土遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 別	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第16図 PL.59	1	縄文土器 深鉢	底上86cm 胴部破片				細砂、雲母/良好/	胴部が丸く内湾し、下位で屈曲する。無文。	諸磯b式か

60号土坑出土遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 別	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第18図 PL.59	1	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片				粗砂/良好/	横位集合沈線をめぐるす。	諸磯b式
第18図 PL.59	2	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片				粗砂、輝石/良好/	丸縄文を横位施文する。	諸磯b式か

縄文時代遺構外

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 別	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第22図 PL.59	1	縄文土器 深鉢	760-340 2-2面 胴部破片				粗砂、輝石、石英、 礫粒/ふつう/	斜位の擦痕を施す。	早期条紋文系 か
第22図 PL.59	2	縄文土器 深鉢	740-290 IX層 胴部破片				粗砂/良好/	連続爪形文を横位多段に施す。	諸磯b式
第22図 PL.59	3	縄文土器 深鉢	735-295 IX層 口縁部破片				粗砂、輝石/ふつ う/	内傾する波状口縁で、波頂部が3尖となるようた。浮線 によるモチーフを施し、瘤状突起を付す。	諸磯b式
第22図 PL.59	4	縄文土器 深鉢	730-300 IX層 口縁部破片				粗砂/ふつう/	内傾する波状口縁、浮線をめぐるし、波頂部に渦巻状 文を施す。	諸磯b式
第22図 PL.59	5	縄文土器 深鉢	730-290 IX層 口縁部破片				粗砂、輝石/良好/	波状口縁で口縁がくの字状に内傾する。浮線を多段にめ ぐるす。地文に丸縄文を横位施文。	諸磯b式
第22図 PL.59	6	縄文土器 深鉢	735-310 IX層 胴部破片				粗砂、輝石/良好/	横位浮線をめぐるし、浮線によるモチーフを施す。地文 に丸縄文を横位施文。	諸磯b式
第22図 PL.59	7	縄文土器 深鉢	740-350 2-2面 胴部破片				粗砂/良好/	横位浮線をめぐるし、浮線によるモチーフを施す。地文 に丸縄文を横位施文。	諸磯b式
第22図 PL.59	8	縄文土器 深鉢	745-300 IX層 胴部破片				粗砂、輝石/良好/	横位浮線をめぐるし、浮線によるモチーフを施す。	諸磯b式
第22図 PL.59	9	縄文土器 深鉢	30型穴 胴部破片				粗砂/良好/	横位浮線をめぐるし、浮線によるモチーフを施す。地文 に丸縄文を横位施文。	諸磯b式
第22図 PL.59	10	縄文土器 深鉢	745-345 2-2面、 750-335 2-2面 胴部破片				粗砂/ふつう/	3条1単位の横位浮線をめぐるし、浮線間に刺突を施す。	諸磯b式
第22図 PL.59	11	縄文土器 深鉢	730-305 IX層 胴部破片					10と同一個体。浮線によるモチーフを施す。	諸磯b式
第22図 PL.59	12	縄文土器 深鉢	730-300 IX層 胴部破片				粗砂、輝石、石英 /良好/	横位浮線をめぐるす。	諸磯b式
第22図 PL.59	13	縄文土器 深鉢	745-310 2-2面 胴部破片				粗砂、輝石/ふつ う/	横位浮線をめぐるす。	諸磯b式
第22図 PL.59	14	縄文土器 深鉢	735-295 IX層 胴部破片				粗砂、輝石/良好/	横位浮線をめぐるす。地文に丸縄文を横位施文。	諸磯b式
第22図 PL.59	15	縄文土器 深鉢	755-340 2-2面 胴部破片				粗砂、輝石/ふつ う/	横位浮線を多段にめぐるす。一部、浮線帯間に縦位、X字 状の浮線を施す。地文に丸縄文を横位施文。	諸磯b式
第22図 PL.60	16	縄文土器 深鉢	745-345 2-2面 胴部破片				粗砂、輝石/良好/	横位浮線をめぐるす。	諸磯b式
第22図 PL.60	17	縄文土器 深鉢	714-358 2-2面 胴部破片				粗砂/ふつう/	横位浮線をめぐるす。地文に丸縄文を横位施文。	諸磯b式
第22図 PL.60	18	縄文土器 深鉢	3面 底部破片				粗砂、輝石/良好/	横位浮線をめぐるす。	諸磯b式

遺物観察表

種 別 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎上/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第228 PL-60	19	縄文土器 深鉢	745-305 口縁部破片				粗砂、輝石/良好	靴先状の口縁部。波頂部は3実となり、頂部が強く外反する。口縁部は口縁に沿って集合沈線をめぐるし、波頂部下に入組状文を配す。間隙に弧状、縦位、波状の平行沈線を充填する。屈曲部下も集合沈線による三角形の区画内に波状の平行沈線を配す。	諸磯b式
第228 PL-60	20	縄文土器 深鉢	730-310 IX層、 730-315 IX層、 2-1面 口縁部破片				粗砂、細礫、輝石/ 良好	波状口縁で口縁がくの字状に内屈する。波頂部が3実となるよう、横位集合沈線をめぐるし、波頂部下に瘤状突起を付す。地文に乱縄文を横位施文。	諸磯b式
第228 PL-60	21	縄文土器 深鉢	730-300 IX層 口縁部破片				粗砂、輝石/良好	波状口縁で口縁が強く内湾する。横位集合沈線、平行沈線によるモチーフを施す。	諸磯b式
第228 PL-60	22	縄文土器 深鉢	740-315 IX層 口縁部破片				粗砂、輝石/良好	口縁が強く外反する。横位集合沈線をめぐるす。	諸磯b式
第228 PL-60	23	縄文土器 深鉢	740-340 2-2面、 740-345 2-2面、 745-340 2-2面 口縁部破片				粗砂、輝石/良好	口縁が短く内湾する。横位集合沈線をめぐるし、沈線間隙に斜位の単沈線を充填する。	諸磯b式
第228 PL-60	24	縄文土器 深鉢	2面 胴部破片				粗砂、細礫、輝石/ 良好	横位集合沈線をめぐるす。地文に乱縄文を横位施文。	諸磯b式
第228 PL-60	25	縄文土器 深鉢	745-340 2-2面 口辺部破片				粗砂、輝石/ふつ う	靴先状口縁の屈曲部下の部位。2条の横位単沈線による区画内に単沈線による木葉文、平行沈線による弧状文を配す。	諸磯b式
第228 PL-60	26	縄文土器 深鉢	3整器の方 胴部破片				粗砂、輝石/良好	横位集合沈線をめぐるす。沈線間隙にX字状の平行沈線を施す。	諸磯b式
第228 PL-60	27	縄文土器 深鉢	755-345 2-2面 胴部破片				粗砂、輝石/良好	横位集合沈線をめぐるす。	諸磯b式
第228 PL-60	28	縄文土器 深鉢	735-310 IX層 胴部破片				粗砂/良好	横位集合沈線をめぐるす。地文に乱縄文を横位施文。	諸磯b式
第228 PL-60	29	縄文土器 深鉢	1面 胴部破片				粗砂、輝石/良好	横位集合沈線をめぐるす。地文に乱縄文を横位施文。	諸磯b式
第228 PL-60	30	縄文土器 深鉢	2面 胴部破片				粗砂、輝石/良好	横位集合沈線をめぐるす。	諸磯b式
第228 PL-60	31	縄文土器 深鉢	735-290 IX層 底部破片				粗砂、輝石/良好	横位集合沈線をめぐるす。地文に乱縄文を横位施文。	諸磯b式
第228 PL-60	32	縄文土器 浅鉢	6整穴 胴部破片				細砂、輝石/良好	2条沈線による三角形モチーフを施し、沈線間に切み付す。	諸磯b式
第228 PL-60	33	縄文土器 浅鉢	745-305 IX層 口縁部破片				粗砂/良好	口縁部が若干肥厚し、くの字状に強く外屈する。屈曲部に凹孔をめぐるす。	前期後葉
第228 PL-60	34	縄文土器 浅鉢	730-300 口縁部破片				粗砂、輝石/良好	肩部がくの字状に強く内屈し、口縁が短く外屈する。口縁の屈曲部に凹孔をめぐるす。	前期後葉
第228 PL-60	35	縄文土器 浅鉢	735-310 IX層 胴部破片				粗砂、輝石/良好	胴下位で段がつく。	前期後葉
第238 PL-60	36	縄文土器 浅鉢	745-320 2-2面 胴部破片				粗砂、輝石/良好	縦位、レンズ状の集合沈線を施す。	諸磯c式
第238 PL-60	37	縄文土器 深鉢	2-1面 口縁部破片				細砂、細礫/ふつ う	隆帯貼付により口縁部を肥厚させ、端部を歯状に削り取る。肥厚部下は斜位の集合沈線を充填施文する。	十三罍提式
第238 PL-60	38	縄文土器 深鉢	755-345 2-2面 胴部破片				粗砂/良好	縦位、弧状の半隆起線を施し、印刻を施す。	十三罍提式
第238 PL-60	39	縄文土器 深鉢	735-330 2-2面 突起				粗砂/良好	耳状の突起。全面に結節凹線を施す。	晴ヶ峯式
第238 PL-60	40	縄文土器 深鉢	2面 胴部破片				粗砂/良好	沈線による楕円状のモチーフを施し、中央に凹形の印刻を施文。結節凹線を充填施文する。トロフィー形の器形か。	晴ヶ峯式
第238 PL-60	41	縄文土器 深鉢	2整穴 口縁部破片				粗砂、輝石/ふつ う	口縁部に3条の赤浮線をめぐるし、乱縄文を横位施文する。口唇部にも赤浮線を付す。	晴ヶ峯式
第238 PL-60	42	縄文土器 深鉢	735-300 IX層 胴部破片				粗砂/良好	隆帯を垂下させて平行沈線を沿わせ、斜格子目文を充填施文する。	松原土器
第238 PL-60	43	縄文土器 深鉢	750-305 IX層 口辺部破片				粗砂、輝石、雲母/ 良好	口縁部がくの字状に内屈する。口縁部は半隆起状の平行沈線による楕円状目文を横位に連ね、内部に縦位沈線を充填施文。楕円文間に印刻を施す。屈曲部は丸く肥厚させ、刻みを付す。屈曲部下は1条の横位平行沈線をめぐるし、縦位沈線を充填施文、部分的にへら切りが見られる。	五領ヶ台式
第238 PL-60	44	縄文土器 深鉢	2面 胴部破片				粗砂、輝石、雲母/ 良好	半隆起線による文様構成。横位にめぐらして文様帯を区画、爪形文を施したまぼこ状隆帯を逆し字状に付し、杵状文を配して間隙に印刻を施す。	五領ヶ台式
第238 PL-60	45	縄文土器 深鉢	755-340 2-2面 口縁部破片				粗砂、輝石/良好	波状口縁。横位、弧状の沈線を施す。地文に乱縄文を横位施文。口縁部内部をくの字状に屈曲させ、三角凹線を施す。口唇部に切み付す。	五領ヶ台式
第238 PL-60	46	縄文土器 深鉢	745-335 2-2面 胴部破片				粗砂/良好	交互刺突、横位沈線、竹筒外皮による刺突列をめぐるす。	五領ヶ台式
第238 PL-60	47	縄文土器 深鉢	745-305 IX層 口縁部破片				粗砂、チャート、 雲母/良好	口縁部にT字状の隆帯を付し、2条の三角押文による杵状文を施す。口唇部にも三角押文を施文。	阿玉台式
第238 PL-60	48	縄文土器 深鉢	730-290 IX層 口縁部破片				粗砂、チャート、 雲母/良好	左右対称の波状口縁か。口縁部を肥厚させて下端を角押文で削し、文様帯内に向押文を合わせた隆帯による逆弧状文をめぐるす。突起部分は突出させる。	阿玉台式
第238 PL-60	49	縄文土器 深鉢	755-335 2-2面 口縁部破片				粗砂、雲母/良好	口縁がくの字状に外屈する。弧状隆帯を付し、2条の三角押文による杵状文を施す。口唇部に切み付す。	阿玉台式

採 掘 PL.No.	No.	種 類 種 別	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第2304 PL.60	50	縄文土器 深鉢	730-295 IX層 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	肥厚口縁と押捺隆帯により口縁部文様帯を区画、角押文を沿わせる。隆帯下にヒダ状圧痕をめぐらす。口唇部にも刺状文を施す。	阿玉台式
第2304 PL.60	51	縄文土器 深鉢	730-290 IX層 口縁部破片		粗砂、チャート、 雲母/ふつう/	肥厚口縁と隆帯により口縁部文様帯を区画、角押文による棒状文を施す。	阿玉台式
第2304 PL.60	52	縄文土器 深鉢	1 厚盤方 製部破片		粗砂、チャート、 雲母/良好/	横位隆帯をめぐらし、2条の角押文によるモチーフを施す。	阿玉台式
第2304 PL.61	53	縄文土器 深鉢	755-340 2-2面 製部破片		粗砂、チャート、 雲母/良好/	割目目列をめぐらす。	阿玉台式
第2304 PL.61	54	縄文土器 深鉢	725-285 IX層 製部破片		細砂/良好/	ヒダ状圧痕をめぐらす。	阿玉台式
第2304 PL.61	55	縄文土器 深鉢	745-350 2-2面 製部破片		粗砂、チャート、 雲母/良好/	ヒダ状圧痕をめぐらす。	阿玉台式
第2304 PL.61	56	縄文土器 深鉢	750-340 2-2面 製部破片		粗砂、輝石/良好/	U字状、逆U字状隆帯を連続させて付す。地文に18縄文を施す。	阿玉台式
第2304 PL.61	57	縄文土器 深鉢	750-305 口縁部破片		粗砂、輝石/良好/	口縁部が内湾する。低平な隆帯による凹文を付し、角押文、三角押文を沿わせ、口縁下にめぐらす。口縁内面肥厚。	鍋板式
第2304 PL.61	58	縄文土器 深鉢	750-305 口縁部破片			S7と同一個体。	鍋板式
第2304 PL.61	59	縄文土器 深鉢	745-340 2-2面 口縁部破片		粗砂、チャート/ 良好/	平行沈線によるモチーフを施し、刺状を沿わせる。口唇部肥厚。	鍋板式
第2304 PL.61	60	縄文土器 深鉢	750-305 製部破片		細砂/良好/	爪形刺状を伴う弧状隆帯。平行沈線、爪形刺状列を垂下させる。	鍋板式
第2304 PL.61	61	縄文土器 深鉢	750-305 IX層 製部破片		細砂/良好/	斜位の平行沈線に爪形刺状列を沿わせ、平行沈線による楕円状区画を施し、区画内に爪形刺状を充填する。	鍋板式
第2304 PL.61	62	縄文土器 深鉢	750-305 製部破片		細砂、輝石/良好/	縦位集合沈線、コンパス文、爪形刺状列を垂下させる。	鍋板式
第2304 PL.61	63	縄文土器 深鉢	750-315 IX層 製部破片		粗砂/良好/	U字状、逆U字状沈線を連続させて同心円状に施し、沈線間に角押文を充填する。	鍋板式
第2304 PL.61	64	縄文土器 深鉢	750-305 製部破片		粗砂/良好/	横位、縦位、弧状の沈線を施し、隙間に三文文を配す。	鍋板式
第2304 PL.61	65	縄文土器 深鉢	750-305 成部破片		細砂/良好/	縦位集合沈線、爪形刺状列を垂下させる。	鍋板式
第2304 PL.61	66	縄文土器 深鉢	750-310 IX層 製部破片		細砂、輝石/良好/	三角押文を横位にめぐらす。	鍋板式
第2304 PL.61	67	縄文土器 深鉢	750-305 製部破片		粗砂/良好/	横位沈線、楕円状区画を施し、区画内に縦位短沈線を施す。	鍋板式
第2304 PL.61	68	縄文土器 深鉢	750-335 2-2面、 760-340 2-2面 製部破片		粗砂、輝石/良好/	横位隆帯、集合沈線をめぐらして文様帯を区画、弧状隆帯を付し、集合沈線によるモチーフ、印刷を施す。文様帯下は無文。	鍋板式
第2304 PL.61	69	縄文土器 深鉢	750-315 2-2面 製部破片		粗砂/良好/	横位、斜位の隆帯を付し、三角押文を沿わせる。横位隆帯下は角押文をめぐらす。	鍋板式
第2304 PL.61	70	縄文土器 深鉢	750-310 IX層 製部破片		粗砂/良好/	横位棒状の隆帯を付し、三角押文、角押文を施す。	鍋板式
第2304 PL.61	71	縄文土器 深鉢	2 面 製部破片		粗砂、輝石/良好/	横位隆帯をめぐらして文様帯を区画、沈線によるモチーフを施す。文様帯下は無文。	鍋板式
第2304 PL.61	72	縄文土器 深鉢	750-300 X層 口縁部破片		粗砂、チャート、 輝石、雲母	波状口縁。波頂部に環状突起を付し、下端から隆帯を垂下、縦位沈線を施す。	新巻類型
第2304 PL.61	73	縄文土器 深鉢	740-300 IX層 製部破片		粗砂/良好/	横位、弧状の隆帯をめぐらし、環状突起を付す。	新巻類型
第2304 PL.61	74	縄文土器 深鉢	750-310 IX層 口縁部破片		細砂、輝石、雲母 /良好/	口縁内面を突出させる。隆帯による楕円文、半隆起線によるモチーフを施し、楕円文内に刺状を充填する。	焼町土器
第2404 PL.61	75	縄文土器 深鉢	750-335 2-2面 口縁部破片		粗砂/良好/	波頂部の環状突起。半隆起線によるモチーフを施す。	焼町土器
第2404 PL.61	76	縄文土器 深鉢	750-315 口縁部破片		粗砂、チャート、 輝石/良好/	波頂部の環状突起。突起部に爪形刺状、三角押文を施し、突起下に平行沈線によるモチーフを施す。	焼町土器
第2404 PL.61	77	縄文土器 深鉢	740-325 2-2面 製部破片		粗砂、輝石/良好/	縦位、弧状の隆帯を付し、半隆起線を施す。	焼町土器
第2404 PL.61	78	縄文土器 深鉢	750-320 2-2面 製部破片		粗砂、輝石/良好/	斜位、弧状の隆帯を付し、平行沈線を沿わせ、楕円状区画内に刺状を充填する。	焼町土器
第2404 PL.61	79	縄文土器 深鉢	740-345 2-2面 製部破片			78と同一個体。	焼町土器
第2404 PL.61	80	縄文土器 深鉢	735-310 IX層 製部破片		粗砂、輝石/良好/	半隆起線によるモチーフを施し、環状の環状突起を付す。	焼町土器
第2404 PL.61	81	縄文土器 深鉢	2-1面 製部破片		粗砂/良好/	斜位刺状文を地文とし、2条の平行沈線によるクラック状文を施す。	三原田式
第2404 PL.61	82	縄文土器 深鉢	740-320 2-2面 製部破片		細砂/良好/	器系文/縦位刺状文を地文とし、横位平行沈線をめぐらす。	三原田式
第2404 PL.62	83	縄文土器 深鉢	735-300 IX層 製部破片		粗砂/良好/	器系文/縦位刺状文を地文とし、横位平行沈線をめぐらす。	三原田式
第2404 PL.62	84	縄文土器 深鉢	735-315 IX層 製部破片		粗砂、細砂/良好/	横位沈線を複数めぐらし、沈線間に凹形竹筒刺状列を施す。無文帯を併し、下端にも沈線が見られる。	加曾利E2式
第2404 PL.62	85	縄文土器 深鉢	745-285 IX層 製部破片		粗砂、石英/良好/	縦位刺状文を地文とし、平行沈線による懸垂文、渦巻状文を施す。	加曾利E2式

遺物観察表

採 掘 Pl.No.	No.	種 類 種 別	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第24回 PL.62	86	縄文土器 深鉢	740-335 2-2面 胴部破片		粗砂、石英/良好/	丸胴部施文を地文とし、2条の平行沈線による懸垂文を施す。	加曾利E2式
第24回 PL.62	87	縄文土器 深鉢	745-325 2-2面 胴部破片		粗砂/良好/	丸胴部施文を地文とし、2条沈線による懸垂文を施す。	加曾利E2式
第24回 PL.62	88	縄文土器 深鉢	735-325 2-2面 胴部破片		粗砂/良好/	丸胴部施文を地文とし、2条隆帯による懸垂文を施す。	加曾利E2式
第24回 PL.62	89	縄文土器 深鉢	735-320 2-2面 胴部破片		粗砂、輝石/良好/	丸胴部施文を地文とし、2条の平行沈線による懸垂文を施す。	加曾利E2式
第24回 PL.62	90	縄文土器 深鉢	730-300 DX層 口縁部破片		粗砂/良好/	隆帯による口縁部区画を施し、低位条線を充填施文、胴部は低位条線を地文とし、2条沈線による懸垂文を施す。	加曾利E3式
第24回 PL.62	91	縄文土器 深鉢	740-350 2-2面 口縁部破片		粗砂/ふつう/	隆帯による口縁部楕円状区画を施し、丸胴部を充填施文する。	加曾利E3式
第24回 PL.62	92	縄文土器 深鉢	750-340 2-2面 口縁部破片		粗砂、細礫/良好/	口縁部区画に丸胴部を横位充填施文する。	加曾利E3式
第24回 PL.62	93	縄文土器 深鉢	2-1面 口縁部破片		細砂、輝石/ふつ う/	口縁部区画にワラビ手文を施し、丸胴部を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第24回 PL.62	94	縄文土器 深鉢	740-340 2-2面 口縁部破片		細砂、輝石/ふつ う/	波状口縁、隆帯による横位、逆U字状モチーフを施し、丸胴部を充填施文する。	加曾利E3式
第24回 PL.62	95	縄文土器 深鉢	745-325 2-2面 口縁部破片		粗砂/良好/	舌状突起を付す波状口縁、隆帯による口縁部楕円状区画を施し、丸胴部を充填施文する。波頂部内面にもワラビ手文を施文。	加曾利E3式
第24回 PL.62	96	縄文土器 深鉢	760-350 2-2面 胴部破片		細砂/ふつう/	沈線による懸垂文を施し、丸胴部を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第24回 PL.62	97	縄文土器 深鉢	740-335 2-2面 胴部破片		粗砂、石英/良好/	2条沈線による懸垂文を施し、丸胴部を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第24回 PL.62	98	縄文土器 深鉢	755-330 2-2面 胴部破片		粗砂/良好/	沈線による懸垂文を施し、丸胴部を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第24回 PL.62	99	縄文土器 深鉢	745-320 2-2面 口辺部破片		細砂、輝石/ふつ う/	隆帯による口縁部区画を施し、丸胴部を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第24回 PL.62	100	縄文土器 深鉢	760-340 2-2面 胴部破片		粗砂/良好/	沈線による懸垂文を施し、丸胴部を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第24回 PL.62	101	縄文土器 深鉢	745-320 2-2面 胴部破片		粗砂/良好/	沈線による懸垂文を施し、丸胴部を充填施文、蛇行懸垂文を施す。	加曾利E3式
第24回 PL.62	102	縄文土器 深鉢	4 壺穴 胴部破片		粗砂、チャート/ ふつう/	沈線による懸垂文を施し、丸胴部を縦位充填施文。無文部にさらに逆U字状モチーフ、ワラビ手状懸垂文を施し、丸胴部を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第24回 PL.62	103	縄文土器 深鉢	745-320 2-2面 胴部破片		細砂/良好/	沈線による逆U字状モチーフを施し、丸胴部を充填施文、蛇行懸垂文を施す。	加曾利E3式
第24回 PL.62	104	縄文土器 深鉢	740-340 2-2面 胴部破片		粗砂/良好/	沈線による懸垂文を施し、丸胴部を縦位充填施文。無文部にさらに逆U字状モチーフを施し、丸胴部を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第24回 PL.62	105	縄文土器 向耳壺か	750-310 DX層 口縁部破片		粗砂、輝石/良好/	口縁部無文帯、胴部に沈線による逆U字状モチーフを施し、丸胴部を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第24回 PL.62	106	縄文土器 深鉢	2-1面 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う/	円形透かし間にワラビ手状沈線を施す。	加曾利E3式
第25回 PL.62	107	縄文土器 深鉢	740-330 2-2面 口縁部破片		粗砂/良好/	口縁部が狭く内湾する。2条沈線による逆U字状モチーフを施し、文様外に丸胴部を充填施文する。	加曾利E4式
第25回 PL.62	108	縄文土器 深鉢	735-335 2-2面 口縁部破片		粗砂/良好/	口縁部が狭く内湾する。2条沈線による逆U字状モチーフを施し、文様外に丸胴部を充填施文する。	加曾利E4式
第25回 PL.62	109	縄文土器 深鉢	735-290 DX層 口縁部破片		粗砂、細礫、輝石 /良好/	口縁部が狭く内湾する。横位隆帯をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、隆帯による逆U字状モチーフを施し、丸胴部を充填施文する。	加曾利E4式
第25回 PL.62	110	縄文土器 深鉢	745-320 2-2面 胴部破片		粗砂/良好/	2条隆帯による弧状モチーフを施し、丸胴部を充填施文する。	加曾利E4式
第25回 PL.62	111	縄文土器 深鉢	740-335 2-2面 胴部破片		粗砂、輝石/良好/	隆帯による懸垂文を施し、斜位の短沈線を充填施文する。	罫上式
第25回 PL.63	112	縄文土器 深鉢	1 壺穴 胴部破片		粗砂、輝石/良好/	隆帯による懸垂文を施し、斜位の短沈線を充填施文する。	罫上式
第25回 PL.63	113	縄文土器 深鉢	745-300 DX層 口縁部破片		粗砂/良好/	波頂部の環状突起、突起下にさき状の突起を付し、隆帯を沿わせる。	加曾利系
第25回 PL.63	114	縄文土器 浅鉢	745-345 2-2面 口縁部破片		粗砂、輝石/良好/	口縁部がくの字状に内湾する。無文、外面赤色塗彩。	中期後葉か
第25回 PL.63	115	縄文土器 深鉢	750-310 DX層 胴部破片		粗砂、細礫、輝石 /良好/	頸部でくの字状に外屈し、屈曲部下に隆帯をめぐらし、橋把手を付す。胴部に弧状の沈線が見られる。	中期後葉か
第25回 PL.63	116	縄文土器 深鉢	730-295 DX層 口縁部破片		粗砂/ふつう/	口縁部には隆帯をめぐらし、以下、帯状沈線によるモチーフを施し、丸胴部を充填施文する。	甕之内 2式
第25回 PL.63	117	縄文土器 深鉢	760-350 2-2面 胴部破片		細砂、輝石/良好/	帯状沈線によるモチーフを施し、丸胴部を充填施文する。	甕之内 2式
第25回 PL.63	118	縄文土器 深鉢	730-295 DX層 胴部破片		細砂/ふつう/	帯状沈線によるモチーフを施し、丸胴部を充填施文する。	甕之内 2式
第25回 PL.63	119	縄文土器 深鉢	735-310 DX層 口縁部破片		粗砂、輝石/良好/	無文。	甕之内 2式
第25回 PL.63	120	縄文土器 深鉢	750-330 2-2面、 755-330 2-2面 口縁部破片		粗砂、チャート/ 良好/	口縁部が狭く内湾する。押除隆帯をめぐらし、以下、沈線によるモチーフを施す。	加曾利B式

採 取 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第250 PL.63	121	縄文土器 深鉢	750-305 IX層 口縁部破片				粗砂/良好/	瓦頭の波状口縁か。無文。	後期
第250 PL.63	122	縄文土器 深鉢	730-310 IX層、 730-315 IX層、 2-1面 底部破片				粗砂/良好/	残存部は無文。底面に副文痕。	後期前葉
第250 PL.63	123	縄文土器 深鉢	735-310 底部破片	底	12.5		粗砂、輝石/良好/	残存部は無文。底面に副文痕。	後期前葉
第250 PL.63	124	滑片石器 石鏃	1区8整穴 完形	長 21	厚 2.5	4	黒曜石	凹基無茎鏃、ほかの石鏃と比較して大型である。	産地分析
第250 PL.63	125	滑片石器 石鏃	1区735-290 完形	長 17	厚 0.7	4	黒曜石	凹基無茎鏃、先端部に衝撃剝離痕。	産地分析
第250 PL.63	126	滑片石器 石鏃	1区750-340 欠損	長 16	厚 0.7	4	黒曜石	凹基無茎鏃、左脚部欠損。	産地分析
第250 PL.63	127	滑片石器 石鏃	1区7整穴 欠損	長 18	厚 0.7	3	黒曜石	凹基無茎鏃、左右脚部欠損。	産地分析
第250 PL.63	128	滑片石器 石鏃	1区740-315 完形	長 13	厚 0.5	3	黒曜石	凹基無茎鏃、左側縁中央部がやや張り出す。	産地分析
第250 PL.63	129	滑片石器 石鏃	1区745-340 完形	長 14	厚 1.1	3	黒色安山岩	凹基無茎鏃、二等辺三角形を呈する。	
第260 PL.63	130	滑片石器 石鏃	1区745-290 完形	長 19	厚 2	2	チャート	凹基無茎鏃。	
第260 PL.63	131	滑片石器 石鏃	1区745-290 完形	長 13	厚 0.5	2	黒色頁岩	凹基無茎鏃、長脚鏃。	
第260 PL.63	132	滑片石器 石鏃	1区745-300 完形	長 19	厚 1.9	3	黒色頁岩	凹基無茎鏃、縦長割片素材、調整加工は粗く左右非対称形である。	
第260 PL.63	133	滑片石器 石鏃	1区745-325 欠損	長 21	厚 1.5	3	珩質頁岩	凹基無茎鏃、上半部欠損。調整加工は粗い。	
第260 PL.63	134	滑片石器 石鏃	1区750-355 完形	長 18	厚 0.4	1	黒曜石	磨製凹基無茎鏃、表裏面の矢羽状基部に擦痕が顕著に認められる。	産地分析
第260 PL.63	135	滑片石器 石鏃	1区730-300 完形	長 20	厚 1.5	2	珩質頁岩	平基無茎鏃。	
第260 PL.64	136	滑片石器 石鏃	1区740-310 完形	長 20	厚 1.5	5	黒色頁岩	平基無茎鏃、正三角形を呈する。	
第260 PL.64	137	滑片石器 石鏃	1区740-290 完形	長 14	厚 1.2	4	珩質頁岩	凹基有茎鏃、縦長割片素材、長短比2:1の細身二等辺三角形を呈する。	
第260 PL.64	138	滑片石器 石鏃	1区740-285 完形	長 14	厚 1.6	4	珩質頁岩	凹基有茎鏃、先端部欠損。	
第260 PL.64	139	滑片石器 石鏃	1区735-315 完形	長 33	厚 5	2	赤碧玉	凹基無茎鏃、長短比2:1超の細身二等辺三角形を呈する。右脚部欠損。	
第260 PL.64	140	滑片石器 石鏃	1区740-315 完形	長 16	厚 2.3	5	碧玉	凸基有茎鏃、側縁の調整はやや粗く鋸歯状を呈する。	
第260 PL.64	141	滑片石器 石鏃	1区740-300 欠損	長 16	厚 0.7	4	珩質頁岩	左右脚部を欠損、形態不明。	
第260 PL.64	142	滑片石器 石鏃	1区740-310 完形	長 22	厚 3.7	10	黒曜石	未成品。厚みがあり整形の途中段階と推定。	産地分析
第270 PL.64	143	滑片石器 石鏃	1区750-320 完形	長 65	厚 25.1	10	黒色頁岩	横形、縦長割片素材で下端部は弧状を呈し片面調整。上半部対部から換み部は両面調整。	
第270 PL.64	144	滑片石器 石鏃	1区遺構外 完形	長 50	厚 14.3	10	黒色頁岩	横形、縦長割片素材で下端部は弧状を呈し片面調整。上半部対部から換み部は両面調整。	
第270 PL.64	145	滑片石器 石鏃	1区740-295 欠損	長 34	厚 15	7	黒色頁岩	縦形、縦長割片素材、換み部の作出は粗い、下半部欠損。	
第270 PL.64	146	滑片石器 楔形石鏃	1区740-310 完形	長 31	厚 9.5	14	珩質頁岩	裏面に180度対向の剝離痕が顕著に残る。	
第270 PL.64	147	滑片石器 楔形石鏃	1区755-330 完形	長 62	厚 77.7	18	黒色安山岩	裏面を呈し、表裏面の上下両端部に180度対向する剝離痕、大型割片素材。	
第270 PL.64	148	滑片石器 打製石鏃	1区1整穴 完形	長 44	厚 62.6	7	珩質頁岩	短冊形、対部再生により長さが増小している。	
第270 PL.64	149	滑片石器 打製石鏃	1区6整穴 完形	長 39	厚 61.4	13	黒色頁岩	短冊形、先端部に摩擦痕。	
第270 PL.64	150	滑片石器 打製石鏃	1区16整穴 完形	長 46	厚 127.2	19	黒色頁岩	短冊形、表面は風化により剥落が進む。	
第280 PL.64	151	滑片石器 打製石鏃	1区745-345 完形	長 39	厚 63.2	16	細粒輝石安山岩	短冊形、先端部に摩擦痕、右側縁中央部に潰れ、表面に被熱(赤化)痕跡。	
第280 PL.65	152	滑片石器 打製石鏃	1区730-295 完形	長 46	厚 87.9	16	珩質頁岩	短冊形、先端対部と右側縁に摩擦痕がわずかに認められる。	
第280 PL.65	153	滑片石器 打製石鏃	1区740-290 完形	長 46	厚 68.8	13	珩質頁岩	短冊形、表裏面全体に摩擦痕が点在、上端部欠損。	
第280 PL.65	154	滑片石器 打製石鏃	1区740-340 完形	長 47	厚 169.5	22	細粒輝石安山岩	短冊形、表裏面全体に摩擦痕が点在、左右両側縁は潰れが顕著、上端部欠損。	
第280 PL.65	155	滑片石器 打製石鏃	1区745-295 完形	長 55	厚 95.1	17	細粒輝石安山岩	短冊形、左右両側縁を主体に調整加工、対部に摩擦痕がわずかに残る。	
第280 PL.65	156	滑片石器 打製石鏃	1区遺構外 完形	長 49	厚 140.9	26	珩質頁岩	短冊形、端部対部にわずかに摩擦痕が認められる。	

遺物観察表

採 掘 Pt.No.	No.	種 類 種 別	出土位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石 材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第289 PL-65	157	割片石磨 打製石斧	2区遺構外 完形	長 122	厚 27	黒色頁岩	楕形、対部に最大幅を持つ、先端は尖頭形に整形している。	
第289 PL-65	158	割片石磨 打製石斧	1区745-295 完形	長 122	厚 21	珪質頁岩	短冊形、左右両側縁を主体に調整加工、対部に摩耗痕が顕著に残る。	
第289 PL-65	159	割片石磨 打製石斧	1区745-320 完形	長 141	厚 19	粗粒輝石安山岩	短冊形、先端対部にわずかに摩耗痕が残る。	
第289 PL-65	160	割片石磨 打製石斧	1区16整穴 完形	長 179	厚 23	黒色頁岩	短冊形、先端対部付近に最大幅を持つ、左右両側縁中央部は摩耗により潰れている。	
第289 PL-65	161	割片石磨 打製石斧	1区750-305 完形	長 124	厚 19	珪質頁岩	短冊形、右側と上端部縁辺に摩耗痕。	
第289 PL-65	162	割片石磨 打製石斧	1区4整穴 完形	長 84	厚 18	珪質頁岩	短冊形、右側縁中央部や快入、左右両側縁と先端対部に摩耗痕。	
第289 PL-65	163	割片石磨 打製石斧	1区745-345 完形	長 80	厚 14	粗粒輝石安山岩	短冊形、左右両側縁上半部寄りに緩やかな快入部、表面上部に摩耗痕。	
第289 PL-65	164	割片石磨 打製石斧	1区730-310 完形	長 114	厚 21	粗粒輝石安山岩	短冊形、左右両側縁中央部に快入部を持つ、摩耗痕が部分的に認められる。	
第289 PL-65	165	割片石磨 打製石斧	1区735-300 完形	長 157	厚 31	黒色頁岩	短冊形、左右両側縁の上半部寄りに緩やかな快入部がある。全体的に厚みがある。	
第289 PL-65	166	割片石磨 打製石斧	1区740-340 完形	長 121	厚 23	粗粒輝石安山岩	短冊形、表面面に磨耗痕が点在。	
第289 PL-66	167	割片石磨 打製石斧	1区735-295 完形	長 133	厚 27	粗粒輝石安山岩	分銅形、左右両側縁中央部に緩やかな快入部を持つ。対部は扁平。	
第289 PL-66	168	割片石磨 打製石斧	1区745-305 完形	長 112	厚 22	珪質頁岩	楕形、対部は鈍角な平方で摩耗痕が部分的に残る。	
第289 PL-66	169	割片石磨 打製石斧	1区740-300 完形	長 107	厚 24	黒色頁岩	短冊形、幅広形態で、左右両側縁に調整加工、対部は扁平。	
第289 PL-66	170	割片石磨 打製石斧	1区11整穴 完形	長 83	厚 29	珪質頁岩	打製石斧の下半部、欠損後に二次加工が施される。	
第289 PL-66	171	割片石磨 打製石斧	2区遺構外 完形	長 197	厚 25	粗粒輝石安山岩	楕形、左右非対称、大型部で対部付近に最大幅を持つ。	
第289 PL-66	172	割片石磨 打製石斧	1区740-295 完形	長 78	厚 25	珪質頁岩	短冊形、対部の整形は粗い。	
第289 PL-66	173	割片石磨 磨製石斧	1区745-305 欠損	長 35	厚 10	輝緑岩	下半部欠損、小型の定向式磨製石斧の破片と推定される。	
第289 PL-66	174	礫石器 礫器	1区745-290 完形	長 146	厚 47	粗粒輝石安山岩	平坦面を持つ逆向縁を素材、端部に粗い刃部を作出。	
第289 PL-66	175	割片石磨 磨製石斧	1区745-305 完形	長 85	厚 12	変玄武岩	素材は磨製石斧の破片(割片)で主要割離面の端部を研磨して刃部作出。	
第289 PL-66	176	礫石器 礫器	1区745-295 完形	長 210	厚 69	粗粒輝石安山岩	細長い扁平礫を素材、下端部は大型の割離により刃部作出。	
第289 PL-66	177	割片石磨 石核	1区735-295 完形	長 98	厚 37	チャート	大型の円礫を分割して石核素材とし、分割面で小型割片を割離している。	
第289 PL-66	178	割片石磨 石核	1区730-290 完形	長 68	厚 26	ホルンフェルス	摩耗痕が残ることから欠損した打製石斧を転用している。	
第289 PL-67	179	割片石磨 石核	1区遺構外 完形	長 55	厚 13	黒曜石	厚みのある縦長割片を素材、表面で小型割片を割離。	産地分析
第289 PL-67	180	割片石磨 石核	1区735-285 完形	長 31	厚 4.6	黒曜石	小型原石(ズリ)を利用。	産地分析
第289 PL-67	181	割片石磨 石核	1区735-315 完形	長 18	厚 14	黒曜石	厚みのある割片を素材、表面、側面でも小型割片を割離。	産地分析
第289 PL-67	182	割片石磨 石核	1区745-295 完形	長 26	厚 5.4	黒曜石	厚みのある割片を素材、表面、側面でも小型割片を割離。	産地分析
第289 PL-67	183	割片石磨 石核	1区740-315 完形	長 18	厚 10	黒曜石	小型の原石(ズリ)を素材、表面で小型割片を割離。	産地分析
第289 PL-67	184	割片石磨 下り丸	1区740-295 完形	長 30	厚 6	流紋岩	端部欠損、離部断面は菱形を呈する。	
第289 PL-67	185	割片石磨 二次加工割片	1区740-295 完形	長 18	厚 10	黒曜石	小型原石(ズリ)を利用。	産地分析
第289 PL-67	186	割片石磨 両面調整石 器	1区735-300 完形	長 46	厚 23	珪質頁岩	表裏両面全体を平坦割離で調整。	
第289 PL-67	187	割片石磨 両面調整石 器	1区745-305 完形	長 60	厚 31	黒色安山岩	円盤状で平坦調整が両面を覆う。全周する側縁は細部調整により刃部を作出している。	
第289 PL-67	188	礫石器 凹石	2区5整穴 完形	長 140	厚 55	粗粒輝石安山岩	やや厚みのある長方形の礫を素材、表面に凹み。	
第289 PL-67	189	礫石器 凹石	1区735-295 完形	長 91	厚 46	粗粒輝石安山岩	扁平な楕円礫を素材、表面中央に凹み、側縁に最打痕。	
第289 PL-67	190	礫石器 凹石	1区740-285 完形	長 91	厚 62	粗粒輝石安山岩	やや厚みのある扁平な円礫を素材、右側面は面取りした磨耗痕。	
第289 PL-67	191	礫石器 凹石	1区740-305 完形	長 88	厚 689.3	粗粒輝石安山岩	やや不整形な円礫を素材、側縁と端部に磨耗痕、最打痕、表裏面に凹み。	
第289 PL-67	192	礫石器 磨石	1区725-285 完形	長 106	厚 70	粗粒輝石安山岩	断面三角形の厚みのある円礫を素材、表面面に磨耗痕。	

挿入 PL.No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第339回 PL.67	193	礫石器 磨石	1区735-285 完形	長 72 幅 59 厚 54 320.5	粗粒輝石安山岩	球状の円礫を素材、表裏面に摩耗痕。	
第339回 PL.68	194	礫石器 磨石	1区740-295 完形	長 119 幅 94 厚 64 998.1	粗粒輝石安山岩	扁平な円礫を素材、表裏面に摩耗痕。	
第339回 PL.68	195	礫石器 磨石	1区740-350 完形	長 138 幅 70 厚 36 561.9	粗粒輝石安山岩	扁平な長楕円礫を素材、表裏面に摩耗痕、敲打痕。	
第339回 PL.68	196	礫石器 磨石	1区745-310 完形	長 103 幅 70 厚 40 460.4	粗粒輝石安山岩	扁平な楕円礫を素材、表裏面に摩耗痕、敲打痕。	
第339回 PL.68	197	礫石器 磨石	1区745-350 完形	長 93 幅 81 厚 46 486.8	粗粒輝石安山岩	扁平な楕円礫を素材、表裏面に摩耗痕、敲打痕。	
第340回 PL.68	198	礫石器 凹石	1区740-315 完形	長 114 幅 64 厚 37 377.2	粗粒輝石安山岩	扁平な楕円礫を素材、表裏面全体に摩耗痕、中央にやや深い大型の凹み。	
第340回 PL.68	199	礫石器 凹石	1区740-335 完形	長 129 幅 82 厚 53 800.2	粗粒輝石安山岩	扁平な楕円礫を素材、表面に凹み、端部・側縁に敲打痕。	
第340回 PL.68	200	礫石器 凹石	1区745-320 完形	長 146 幅 92 厚 44 827.6	粗粒輝石安山岩	扁平な楕円礫を素材、表裏面に浅い凹み。	
第340回 PL.68	201	礫石器 凹石	1区745-330 完形	長 144 幅 82 厚 42 806.8	粗粒輝石安山岩	扁平な楕円礫を素材、表裏面に中央に摩耗痕、敲打痕。	
第340回 PL.68	202	礫石器 凹石	1区750-330 完形	長 98 幅 91 厚 50 717.4	粗粒輝石安山岩	扁平な円礫を素材、表裏面に摩耗痕、表面中央に浅い凹み。	
第340回 PL.68	203	礫石器 磨石	1区755-320 完形	長 148 幅 71 厚 41 639.9	粗粒輝石安山岩	扁平で細長い楕円礫を素材、表裏面に摩耗痕と敲打痕、右側縁に剣状の加工痕。	
第350回 PL.68	204	礫石器 敲石	1区735-320 完形	長 112 幅 66 厚 47 492	粗粒輝石安山岩	扁平な楕円礫を素材、表裏面に摩耗痕、裏面中央に凹み。	
第350回 PL.69	205	礫石器 敲石	1区740-310 完形	長 123 幅 42 厚 27 231.1	粗粒輝石安山岩	断面三角形の棒状礫を素材、左右両側縁の同じ位置に挟入状の敲打痕。	
第350回 PL.69	206	礫石器 敲石	1区740-310 完形	長 88 幅 54 厚 25 176.7	粗粒輝石安山岩	扁平な楕円礫を素材、裏面に浅い凹み。	
第350回 PL.69	207	礫石器 敲石	1区745-300 完形	長 105 幅 51 厚 33 297.7	粗粒輝石安山岩	扁平な長楕円礫を素材、上下両端部に敲打痕、表裏面に摩耗痕。	
第350回 PL.69	208	礫石器 石皿	1区765-355 欠損	長 282 幅 192 厚 90 535.5	粗粒輝石安山岩	扁平な大型礫を素材、四縁部は削面、表裏面は平坦面で摩耗痕と小型の凹みが多数認められる。	
第360回 PL.69	209	礫石器 台石	1区遺構外 欠損	長 216 幅 220 厚 94 656.1	粗粒輝石安山岩	扁平な大型礫を素材、左半部欠損、表裏面は平坦面で摩耗痕が認められる。	
第360回 PL.69	210	礫石器 台石	1区8号穴 完形	長 149 幅 114 厚 52 1071.1	粗粒輝石安山岩	扁平な楕円礫を素材、表面に磨耗痕と凹み。	
第360回 PL.69	211	礫石器 台石	1区730-295 完形	長 142 幅 91 厚 56 1055.8	粗粒輝石安山岩	扁平な長方形の礫を素材。	
第360回 PL.70	212	礫石器 台石	1区740-350 欠損	長 171 幅 107 厚 67 1462.2	粗粒輝石安山岩	大型の台石の破片、扁平な大型礫を素材、表面に磨耗痕。	
第360回 PL.70	213	礫石器 台石	1区750-310 完形	長 252 幅 88 厚 70 2540.5	粗粒輝石安山岩	角柱状礫を素材、表面に磨耗痕、敲打痕が認められる。	
第370回 PL.70	214	礫石器 台石	1区750-315 完形	長 204 幅 172 厚 62 3418	粗粒輝石安山岩	扁平な楕円礫を素材、表面に磨耗痕と凹み。	
第370回 PL.70	215	礫石器 台石	1区750-315 欠損	長 115 幅 114 厚 96 1014.9	粗粒輝石安山岩	大型の台石の破片、大型の石棒破片の可能性もあるが、断面形が楕円と推定されるため台石とした。	
第370回 PL.70	216	礫石器 スタンプ形 石器	1区730-290 完形	長 84 幅 37 厚 25 114.7	粗粒輝石安山岩	角柱状の細長い礫を素材とし端部を打ち割って平坦面(ネ方面)を作出。	
第370回 PL.70	217	石製品 石棒	1区745-305 完形	長 59 幅 25 厚 14 26.2	結晶片岩	棒状礫を素材、下半部欠損、調整の痕跡はないが石棒素材の可能性が推定される。	
第370回 PL.70	218	石製品 塊状耳飾り	1区750-330 欠損	長 24 幅 27 厚 8.3	メノウ	円環状を呈し断面は厚みがある、左半部が一部欠損。	

●古墳時代

19号竪穴建物出土遺物観察表

挿入 PL.No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第400回 PL.70	1	土師器 器台	床面 ほぼ完形	口 8.5 踵 6.2 高 8.8	細砂粒/良好/灰黄	受部と脚部の結合状態不明。受部口縁部はヨコナデ、結合部から脚部は縦方向ハケメ(1cm当たり7本)。内面は受部底部にハケメが残る。脚部内面は横方向ハケメ。	
第400回	2	土師器 台付糞	+8.9 1号焼土 のそば 胴部片		細砂粒/良好/灰黄	胴部は外面がハケメ(1cm当たり6本)。内面はナデ。	

●飛鳥～平安時代

1号竪穴建物出土遺物観察表

挿入 PL.No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第450回	1	黒色土器 台付桶	+36.4 底部一体部下位 片	底台 8.9 8.8	細砂粒/酸化/灰 黄褐色	ロクロ整形、回転は右回り。内面黒色処理。底部は回転ヘラナデ。高台は附付。内面は全面ヘラミガキ後さらに放射状ヘラミガキ。	

遺物観察表

挿入 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第45図 PL.71	2	須臾器 杯	+55.0 1/5	口 底	11.8 7.0	高 3.1	細砂粒/還元焰/灰	ロコロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第45図 PL.71	3	須臾器 杯	+27.1 1/3	口 底	12.2 5.8	高 3.2	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロコロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第45図 PL.71	4	須臾器 杯	床面～+14.0 ほぼ完形	口 底	12.8 6.0	高 3.5	細砂粒/還元焰/灰	ロコロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第45図 PL.71	5	須臾器 杯	+5.6 1/3	口 底	13.0 7.2	高 3.3	細砂粒/還元焰/灰 白	ロコロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第45図 PL.71	6	灰輪陶器 検	フク上 口縁部～体部片	口	13.8		微砂粒/還元焰/褐 灰	ロコロ整形、回転は右回り。施釉方法は刷毛塗りか。口唇部はわずかに外反。	光ヶ丘1号窯 式期
PL.71	7	灰輪陶器 検	フク上 体部下半片				微砂粒/還元焰/褐 灰	ロコロ整形、回転は右回り。施釉方法は刷毛塗りか。	光ヶ丘1号窯 式期。写真のみ
PL.71	8	灰輪陶器 検	フク上 体部片				微砂粒/還元焰/褐 灰	ロコロ整形、回転は右回り。施釉方法は刷毛塗りか。	光ヶ丘1号窯 式期。写真のみ
第45図	9	灰輪陶器 検	フク上 底部～体部下位 片	底 台	7.8 7.2		微砂粒/還元焰/灰 白	ロコロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ。高台は貼付。施釉範囲は内面全体か。高台は三日月状を呈する。	光ヶ丘1号窯 式期
第45図	10	灰輪陶器 検	フク上 底部～体部下位 片	底	7.7		微砂粒/還元焰/褐 灰	ロコロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ。体部最下位は回転ヘラ削り。高台は貼付。施釉方法は刷毛塗り。	光ヶ丘2号窯 式期
第45図 PL.71	11	須臾器 壺	カマド袖 底部～胴部下半 片	底	8.8		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄褐	ロコロ整形、回転は右回りか。底部と胴部最下位にヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。内面は酸化焙焼状態。	
第45図	12	土師器 小型壺	+23.1 口縁部～胴部中 位片	口 胴	9.6 11.7		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第45図	13	土師器 台付壺	フク上 台部片	台	8.6		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	内外面ともヨコナデ。	
第45図 PL.71	14	土師器 壺	床面 口縁部～胴部上 位片	口	19.0		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部はヨコナデ、頸部はナデ。胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第45図	15	土師器 壺	+11.6 口縁部～胴部上 位片	口	19.0		細砂粒/良好/灰褐	口縁部はヨコナデ、頸部はナデ。胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第46図	16	土師器 壺	+13.5 口縁部～胴部上 位片	口	20.0		細砂粒/良好/明赤 褐	外面頸部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第46図 PL.71	17	土師器 壺	+23.6～+31.7、 カマド燃焼部 口縁部～胴部上 位片	口	20.5		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部はヨコナデ、頸部はナデ。胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第46図 PL.71	18	土師器 壺	+33.4～+47.6 底部～胴部下位 片	底	4.1		細砂粒/良好/黒黒	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ、胴部は器面磨滅のため単位不明。	
第46図 PL.71	19	鉄製品 未製品か	+9.0 完形か	長 幅	(2.5) 2.0	厚 0.15 3.0		木質が付着している。孔は確認できない。総組み具状であるがはっきりとしない。欠け部分は埋藏時には欠けていたと見られる。	
第46図 PL.71	20	鉄製品 釘か	+30.5 一部欠損	長 幅	4.5 0.5	厚 0.5 3.8		断面長方形、脚部に向けて断面正方形に近くなる。上端部は欠損してあり、鏝の可能性もあるか。	
第46図 PL.71	21	鉄製品 不明製品	+38.4 完形	長 幅	4.0 2.5	厚 0.5 7.0		T字状の鉄製品。上部中央に凹みが見られることから、1本の棒状の製品に切込みを入れ、二股に加工しているか。	

2号竈穴建物出土遺物観察表

挿入 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第52図 PL.71	1	土師器 杯	+14.1 1/4	口 底	10.6 11.0	高 3.5	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部はヨコナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第52図 PL.71	2	土師器 杯	床面 1/2	口 底	12.1 12.4	高 4.0	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第52図 PL.71	3	土師器 杯	フク上 1/2	口 底	12.8 13.1	高 4.6	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第52図 PL.71	4	土師器 杯	床面 3/4	口 底	13.9 14.5	高 4.4	細砂粒/良好/にぶ い橙	口唇部はヨコナデ、口縁部はナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第52図 PL.71	5	土師器 杯	-23.6 (P4内) 1/2	口 高	11.5 4.0		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部はヨコナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第52図 PL.71	6	土師器 杯	+38.3、フク上 2/3	口 底	15.1 15.3	高 4.7	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り。体部は器面磨滅のため単位不明。内面は体部から口縁部に放射状暗文。底部にへら掻き。	
第52図 PL.71	7	土師器 検	+32.4～+46.6 3/4	口 底	15.2 11.0	高 4.8	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ。体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面は体部から口縁部に放射状暗文後底部磨滅にらせん状暗文。	
第52図 PL.71	8	土師器 杯	フク上 3/4	口 底	18.7 16.0	高 4.5	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	

採 掘 Pt.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石 材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第52回	9	須恵器 杯蓋	フク上 口縁部～天井部 片	口 12.0 9.6	細砂粒/還元焼/濁 灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り。内面にカエリを作る。	平城宮分類杯 G諸
第52回	10	須恵器 杯蓋	フク上 口縁部～天井部 片	口 13.0 10.4	細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形、回転は右回り。内面にカエリを作る。	平城宮分類杯 G諸
第52回 PL.71	11	須恵器 杯	フク上 1/3	口 10.9 底 8.7	4.0 細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部から体部下位に回転ヘラ削り。	平城宮分類杯 G諸
第52回	12	須恵器 杯蓋	フク上 口縁部片	口 16.8 力 14.4	細砂粒(褐色粒)/ 還元焼/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。内面にカエリを貼付で作る。	平城宮分類杯 B諸
第53回	13	須恵器 長頸壺	フク上 胴部片	胴 19.0	細砂粒/還元焼/濁 灰	ロクロ整形、回転は右回り。胴部縁上に凹線を通らし、凹線と上縁下はカキメ。	
第53回	14	須恵器 壺	フク上 底部～胴部下片	底 7.4	細砂粒/還元焼/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。胴部下位は回転ヘラ削り、中位はカキメ。	
第53回	15	須恵器 長頸壺	+67.6 底部片	底 台 12.0 12.0	細砂粒/還元焼/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、胴部はカキメ。高台は貼付。	
第53回 PL.72	16	土師器 甕	-0.8～-5.2 (P1内と周辺) 口縁部～胴部下 位片	口 23.1 胴 21.7	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第53回	17	土師器 甕	+50.5、フク上 口縁部～胴部上 位片	口 22.5	細砂粒/良好/にぶ い期	口縁部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第53回	18	土師器 甕	床面 口縁部～胴部上 位片	口 25.0	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第53回	19	土師器 甕	床面 底部～胴部下位 片	底 5.8	細砂粒/良好/にぶ い期	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第53回 PL.71	20	須恵器 甕	+18.6、フク上 頸部～胴部中位 片	頸 18.0 胴 34.8	細砂粒/還元焼/黄 灰	胴部は叩き締め成形。外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ貝痕が残る。	
第54回	21	須恵器 甕	床面～+22.2 (P2内と周辺)、 フク上 胴部上半片		細砂粒/還元焼/灰 白	胴部は叩き締め成形。外面の叩き痕はナデ消されているが、内面は同心円状アテ貝痕が残る。	
第54回 PL.72	22	須恵器 甕足面陶片	+9.0～+16.0 外壁底片	外 壁 底 23.8	細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形。外壁部は複合口縁状を呈する。残存破片下端に縦長方形透孔の痕跡が残る。	22と同一個体
第54回 PL.72	23	須恵器 甕足面陶片	+11.2～+41.3、 フク上 胴部片	脚 底 高 30.9 7.8	細砂粒/還元焼/灰	縦長方形透孔、複元脚即2。脚下部は外反し、端部が凹曲。端部は平坦面を作る。内外面ともナデ。透孔は穿孔時の切り離し状態のままである。平面形状は読みみられる。	22と同一個体
PL.72	24	礫石器 こもあみ石 文形	1区2型穴 文形	122厚 長 37重 380	粗粒輝石安山岩	棒状礫を素材、摩耗痕や敲打痕などの使用痕の判定は困難である。	写真のみ
PL.72	25	礫石器 こもあみ石 文形	1区2型穴 文形	140厚 長 63重 751.5	粗粒輝石安山岩	棒状礫を素材、摩耗痕の判定は困難であるが、端部に敲打痕がわずかに残る。	写真のみ
PL.72	26	礫石器 こもあみ石 文形	1区2型穴 文形	161厚 長 63重 597.7	粗粒輝石安山岩	やや不整形な棒状礫を素材、摩耗痕や敲打痕などの使用痕の判定は困難である。	写真のみ
PL.72	27	礫石器 こもあみ石 文形	1区2型穴 文形	143厚 長 72重 726.3	粗粒輝石安山岩	棒状礫を素材、摩耗痕の判定は困難であるが、端部に敲打痕がわずかに残る。	写真のみ
PL.72	28	礫石器 こもあみ石 文形	1区2型穴 文形	110厚 長 44重 370.4	粗粒輝石安山岩	棒状礫を素材、摩耗痕や敲打痕などの使用痕の判定は困難である。	写真のみ
PL.72	29	礫石器 こもあみ石 文形	1区2型穴 文形	138厚 長 61重 542	変質安山岩	棒状礫を素材、摩耗痕の判定は困難であるが、端部に敲打痕がわずかに残る。	写真のみ
PL.73	30	礫石器 こもあみ石 文形	1区2型穴 文形	125厚 長 53重 342	変質安山岩	棒状礫を素材、摩耗痕や敲打痕などの使用痕の判定は困難である。	写真のみ
PL.73	31	礫石器 こもあみ石 文形	1区2型穴 文形	長 85厚 51重 231.8	粗粒輝石安山岩	やや小型の楕円礫を素材、摩耗痕や敲打痕などの使用痕の判定は困難である。	写真のみ
PL.73	32	礫石器 こもあみ石 文形	1区2型穴 欠損	長 86厚 66重 320.1	粗粒輝石安山岩	棒状礫を素材、摩耗痕や敲打痕などの使用痕の判定は困難である。下半部欠損。	写真のみ
PL.73	33	礫石器 こもあみ石 文形	1区2型穴 文形	149厚 長 63重 719.3	変質安山岩	棒状礫を素材、摩耗痕や敲打痕などの使用痕の判定は困難である。	写真のみ
PL.73	34	礫石器 こもあみ石 文形	1区2型穴 文形	133厚 長 60重 418.3	粗粒輝石安山岩	棒状礫を素材、摩耗痕や敲打痕などの使用痕の判定は困難である。	写真のみ
PL.73	35	礫石器 こもあみ石 文形	1区2型穴 文形	135厚 長 64重 500.9	粗粒輝石安山岩	棒状礫を素材、摩耗痕や敲打痕などの使用痕の判定は困難である。	写真のみ
PL.73	36	礫石器 こもあみ石 文形	1区2型穴 文形	128厚 長 55重 409.1	粗粒輝石安山岩	棒状礫を素材、摩耗痕や敲打痕などの使用痕の判定は困難である。	写真のみ
PL.73	37	礫石器 こもあみ石 文形	1区2型穴 文形	150厚 長 56重 567.1	変質安山岩	棒状礫を素材、摩耗痕や敲打痕などの使用痕の判定は困難である。	写真のみ
PL.73	38	礫石器 こもあみ石 文形	1区2型穴 文形	129厚 長 57重 491	粗粒輝石安山岩	棒状礫を素材、摩耗痕や敲打痕などの使用痕の判定は困難である。	写真のみ
PL.73	39	礫石器 こもあみ石 文形	1区2型穴 文形	140厚 長 50重 690.1	粗粒輝石安山岩	棒状礫を素材、摩耗痕や敲打痕などの使用痕の判定は困難である。	写真のみ

遺物観察表

挿入 PL.No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
PL-73	40	礫石器 こもあみ石	1区2整穴 完形	長	126 59	厚 41 557.9	粗粒輝石安山岩	棒状礫を素材、摩耗痕や敲打痕などの使用痕の判定は困難である。	写真のみ
PL-73	41	礫石器 こもあみ石	1区2整穴 完形	長	167 62	厚 47 772.5	閃緑岩	棒状礫を素材、摩耗痕や敲打痕などの使用痕の判定は困難である。	写真のみ
PL-74	42	礫石器 こもあみ石	1区2整穴 完形	長	137 72	厚 43 788	閃緑岩	幅広い長方形礫を素材、摩耗痕や敲打痕などの使用痕は判定できない。	写真のみ
PL-74	43	礫石器 こもあみ石	1区2整穴 完形	長	131 56	厚 47 637.3	粗粒輝石安山岩	棒状礫を素材、摩耗痕や敲打痕などの使用痕の判定は困難である。	写真のみ
PL-74	44	礫石器 こもあみ石	1区2整穴 完形	長	124 62	厚 51 739.8	かこう岩	棒状礫を素材、摩耗痕や敲打痕などの使用痕の判定は困難である。	写真のみ
第54回 PL-74	45	鉄製品 刀子	床直 一部欠損	長	9.6 1.5	幅 0.4 9.3		柄部分の木質と紐状の痕跡が確認できる。刃部はかなり研ぎ減りが見られる。	
第54回 PL-74	46	鉄製品 釘か	-4.9 一部欠損	長	2.4 0.2	幅 0.3 0.7		頭部に当たる部分は古い欠けとなり、頭部は確認できない、胴部は欠損する。	
第54回 PL-74	47	鉄製品 不明製品	フク上 一部	長	5.4 1.7	幅 0.3 11.2		ヤリガンナ状だが、不定形で裏も凹凸が目立つ、反りなどは近いが詳細不明。	
第54回 PL-74	48	鉄製品 不明製品	フク上 一部欠損	径	(4.8)	厚 0.4 7.8		紡輪状の形状を持つ製品。中心部の穴は確認できず、縁の部分が盛り上がる。古い欠損が見られる。	

3号竪穴建物出土遺物観察表

挿入 PL.No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第57回 PL-74	1	須石器 杯	+41.1～+59.5 1/2	口 底	11.7 6.8	高 3.5	細砂粒/還元焰/灰	口ロコ型、回転は右回り。底部は回転系切り無調整。	
第57回 PL-74	2	須石器 杯	-4.3 口縁部～底部片	口 底	11.7 7.8	高 3.6	細砂粒/還元焰/灰	口ロコ型、回転は右回り。底部は回転系切り無調整。	
第57回 PL-74	3	須石器 杯	+49.7 底部～口縁部下位片	底	6.0		細砂粒/還元焰/灰 黄褐色	口ロコ型、回転は右回り。底部は回転系切り無調整。	
第57回 PL-74	4	土師器 甕	カマド焼成部 口縁部～胴部上位片	口	18.8		細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部から胴部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第57回 PL-74	5	土師器 甕	+27.6 口縁部～胴部上位片	口	21.8		細砂粒/良好/にぶ い褐色	口縁部から胴部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第57回 PL-74	6	土師器 甕	+19.0 口縁部～胴部上位片	口	21.9		細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部から胴部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第57回 PL-74	7	鉄製品 不明製品	+79.8 完形か	長	8.3 1.2	厚 0.3 9.5		柳葉鏝の形状を持つが、間がない点や左右のバランスが悪く、詳細は不明。上部は西丸造のように刃部が作られる。切っ先に近い部分が残存する。刃がやや打つように削れており、未製品または素材の可能性もある。	
第57回 PL-74	8	鉄製品 刀子	フク上 破片	長	(3.0)	厚 0.3 2.1			

4号竪穴建物出土遺物観察表

挿入 PL.No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第62回 PL-74	1	土師器 碗	+11.5、フク上 3/4	口 底	14.2 9.0	高 4.8	細砂粒/良好/橙 褐色	口縁部はヨコナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り。内面は体部から口縁部に斜射状暗文。	
第62回 PL-74	2	土師器 碗	+31.5 (P4内) 口縁部～体部片	口 底	15.8 10.6		細砂粒/良好/明赤 褐色	口唇部はヨコナデ、口縁部はナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り。内面は体部から口縁部に斜射状暗文。	
第62回 PL-74	3	土師器 杯	+30.4 1/4	口 高	13.6 4.0		細砂粒/良好/にぶ い褐色	口縁部はヨコナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第62回 PL-74	4	土師器 杯	+16.2 1/3	口 高	14.6 2.8		細砂粒/良好/にぶ い赤褐色	口縁部はヨコナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第62回 PL-74	5	須石器 杯蓋	フク上 口縁部～天井部片	口	18.9		細砂粒/還元焰/褐 灰	口ロコ型、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。口縁部は端部を折り面削。	
第62回 PL-74	6	須石器 杯	+33.4 1/2	口 底	12.7 8.9	高 3.6	細砂粒/還元焰/黄 灰	口ロコ型、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り。内面に降灰付着。	
第62回 PL-74	7	須石器 杯	+10.2 (P1内) 1/2	口 底	13.9 10.6	高 3.3	細砂粒/還元焰/灰	口ロコ型、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
第62回 PL-74	8	須石器 杯	カマド袖 1/2	口 底	14.8 10.6	高 4.1	細砂粒/還元焰/灰 白	口ロコ型、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り起こし後回転ヘラ削り。	
第62回 PL-74	9	須石器 杯	+28.7 (P2内) 底部～体部下位片	底	9.4		細砂粒/還元焰/灰 白	口ロコ型、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り起こし後回転ヘラ削り。	
第62回 PL-74	10	須石器 台付杯	フク上 底部片	底 台	7.0 7.4		細砂粒/還元焰/灰	口ロコ型、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は削付。断面は燻化状態。	
第62回 PL-74	11	須石器 壺	カマド焼成部 頸部片	頸	5.4		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/褐灰	口ロコ型、回転は右回り。内面に降灰付着。	
第62回 PL-74	12	須石器 長頸壺	+34.6～+35.0 (P3、P6内) 底部～胴部上位片	底 台	12.0 12.2	高 22.8	細砂粒/還元焰/黄 灰	口ロコ型、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、胴部は下位に回転ヘラ削り、胴部中位と上位に各2条の凹線が通る。高台は削付。	

挿入 PL.No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第62図 PL. 74	13	土師器 費	+14.4~+18.7 (内内) 口縁部~胴部上 位片	口 14.6		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にヘラナデ。
第62図 PL. 74	14	土師器 費	カマド袖 口縁部~胴部片	口 15.0 胴 16.5		細砂粒/良好/にぶ い赤褐色	内面頸部に輪積みが残る。口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にヘラナデ。
第62図	15	土師器 費	+19.3 口縁部~胴部上 位片	口 25.6		細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部はヨコナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にヘラナデ。
第63図 PL. 75	16	土師器 費	床面 底部~胴部片	底 4.0 胴 11.2		細砂粒/良好/明赤 褐色	底部と胴部はへら削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。
第63図	17	須恵器 費	+17.9 口縁部下平~胴 部上位片			細砂粒/還元焰/灰	口縁部はロクロ成型、胴部は叩き締め成形。胴部は外面に平行叩き痕、内面に同心円状アテ具痕が残る。
第63図 PL. 75	18	鉄製品 釘か	+57.2 完形か	長 4.4 幅 0.4 厚 3.0	0.2		両端部は古い欠けとなる。上部は劣化により空胴化している。下部がやや細くなり釘状となるか。
第63図 PL. 75	19	鉄製品 不明製品	+12.2 完形か	長 8.8 幅 0.5 重 7.8	0.5		台形筒を持つ。蕨状の製品だが、方形が確認できない。頸部、茎部ともにねじれを持つ。上下端部の欠損は古いものとなる。
第63図 PL. 75	20	鉄製品 不明製品	+26.8 完形	長 13.3 幅 0.8 重 19.3	0.5		方形の断面を持つ棒状の製品。鉄線の斜線を縦くしたような部分もあるが、はっきりとしない。先端部も意識して作られていないように見える。

5号竈穴建物出土遺物観察表

挿入 PL.No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第66図 PL. 75	1	須恵器 無台榺	床面 完形	口 12.3 底 5.8	4.6	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転系切り無調整か、面磨減のため不明。
第66図	2	須恵器 榺	カマド燃焼部 口縁部~体部片	口 13.4		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。
第66図	3	須恵器 有台榺	-11.8 底部~体部下位 片	底 6.4 台 5.6		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転系切り、高台は貼付。
第66図 PL. 75	4	灰輪陶器 榺	+18.5 胴部片			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法不明。
第66図	5	土師器 台付費	カマド燃焼部 台部	台 7.8		細砂粒/良好/にぶ い褐色	台部は胴部に貼付。台部は内外面ともヨコナデ、胴部はへら削り。
第66図	6	土師器 費	カマド燃焼部、 床面 口縁部~胴部上 位片	口 17.8		細砂粒/良好/にぶ い赤褐色	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にヘラナデ。口唇部に凹線が通る。
第66図 PL. 75	7	土師器 費	カマド燃焼部、 床面 口縁部~胴部片	口 18.8 胴 23.2		細砂粒/良好/灰黄 褐色	内面胴部に輪積みが残る。口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にヘラナデ。口唇部に凹線が通る。
第66図	8	土師器 費	カマド燃焼部 口縁部~胴部上 位片	口 19.8		細砂粒/良好/灰黄 褐色	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にヘラナデ。口唇部に凹線が通る。
第66図 PL. 75	9	土師器 費	カマド燃焼部 底部~胴部下位 片	底 6.0		細砂粒/良好/灰黄 褐色	底部と胴部はへら削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。底部は楕円形。径6.0×6.8cm。
第66図	10	須恵器 羽釜	+6.5 口縁部~胴部上 位片	口 16.0 胴 18.2		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄褐色	ロクロ整形。筒は貼付。胴部は下方から筒に向けての縦方向へら削り。内面は胴部から口縁部にヘラナデ。内外面の一部に炭が付着。
第66図	11	須恵器 羽釜	床面 口縁部~胴部上 位片	口 20.2 胴 22.4		細砂粒/酸化焰/灰 黄褐色	ロクロ整形。筒は貼付。胴部は下方から筒に向けての縦方向へら削り。内面は胴部から口縁部にヘラナデ。
第66図	12	須恵器 費	+10.1 頸部~胴部上位 片			細砂粒/還元焰/灰	胴部は叩き締め成形。口縁部はロクロ成型。口縁部は頸部にて胴部と結合。胴部の外面叩き痕、内面アテ具痕はナデ消され、わずかに痕跡が残るだけである。

6号竈穴建物出土遺物観察表

挿入 PL.No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第70図 PL. 75	1	須恵器 杯	+26.5 ほぼ完形	口 11.9 底 6.0	高 4.4	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転系切り無調整。底部は疑似高台状を呈す。
第70図 PL. 75	2	須恵器 杯	+27.3 完形	口 12.0 底 6.9	高 4.1	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転系切り無調整。
第70図 PL. 75	3	須恵器 杯	+24.7 完形	口 12.1 底 7.2	高 3.4	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転系切り無調整。
第70図 PL. 75	4	須恵器 杯	-0.9 ほぼ完形	口 12.8 底 8.0	高 4.2	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転系切り無調整。
第70図 PL. 75	5	土師器 台付費	カマド燃焼部 口縁部~胴部下 位片	口 12.5 胴 16.5		細砂粒/良好/にぶ い赤褐色	台部は胴部に貼付。口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にヘラナデ。

遺物観察表

挿入 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第700	6	土師器 器	カマド煙道部 口縁部～胴部上 位片	口 19.0		細砂粒/良好/にぶ い橙	外面肩部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部はヨコナデ、 胴部はへら削り。内面は胴部にへらナデ。	
第700	7	土師器 器	体面+15.2、 カマド煙道部 3/4	口 20.4 底 23.0 高 4.3 27.6		細砂粒/良好/にぶ い橙	内面肩部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部はヨコナデ、 胴部と底部はへら削り。内面は底部から胴部にへらナデ。	
第700	8	土師器 器	カマド煙道部 口縁部～胴部中 位片	口 20.4 口 21.0		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はへら削り。内面は胴部 にへらナデ。	
第700	9	土師器 器	カマド煙道部 口縁部～胴部	口 21.1 口 22.0		細砂粒/良好/明灰	内面肩部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部はヨコナデ、 胴部はへら削り。内面は胴部にへらナデ。	
第710	10	土師器 器	貯蔵穴、カマド 煙道部 底部～胴部下位 片	底 3.4		細砂粒/良好/にぶ い黄褐	底部と胴部はへら削り。内面は底部から胴部にへらナデ。	
第710	11	須恵器 器	+11.3 口縁部片			細砂粒/還元焰/黒 褐	ロクロ整形、回転は右回り。内面は降灰が厚く付着。	
第710	12	土師器 杯	+53.5、 1/3	口 11.8 高 6.6 3.6		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部はヨコナデ、体部と底部は手持ちへら削り。内面は 体部から口縁部に斜放射状痕。外面底部に磨き、1車1と 判読。	混入品
第710	13	須恵器 杯	+16.0 底部片	底 8.6		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転へら削り後回転 へら削り。	混入品
第710	14	鉄製品 刀子	体面 一部	長 4.3 厚 1.0 幅 1.8 4.8	0.3		両端が欠ける刀子の刃部。欠損部に錆が生成されているた め、古い時期に欠損している可能性もある。	
第710	15	鉄製品 鉄鏝	体面 一部	長 4.4 厚 0.6 幅 2.9	0.4		断面長方形の断面を持つが間は確認できない。欠損部は古 い欠けとなる。	

7号竪穴建物出土遺物観察表

挿入 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第740	1	須恵器 無台椀	体面～+7.9 1/4	口 12.4 高 5.0 3.7		細砂粒/還元焰/に ぶい黄褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。
第740	2	須恵器 無台椀	+20.4 1/4	口 13.2 高 6.0 3.7		細砂粒/還元焰/こ げ黒褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。
第740	3	須恵器 無台椀	体面、貯蔵穴 2/3	口 13.9 高 6.7 4.2		細砂粒/還元焰/に ぶい黄褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。内 面底部に準書2文字、「富」「富」と判読。
第740	4	須恵器 椀	+19.6 口縁部～体部片	口 15.6		細砂粒/還元焰/に ぶい黄	ロクロ整形、回転は右回り。
第740	5	須恵器 椀	貯蔵穴 口縁部～体部片	口 16.8		細砂粒/還元焰/灰 黄褐	ロクロ整形、回転は右回り。
第750	6	須恵器 椀	貯蔵穴 口縁部～体部片	口 18.2		細砂粒/還元焰/に ぶい黄褐	ロクロ整形、回転は右回り。
第750	7	須恵器 無台椀	フク上 底部～体部片	底 5.0		細砂粒/還元焰/に ぶい黄褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。
第750	8	土師器 台付費	フク上 台部片	台 8.6		細砂粒/良好/にぶ い橙	胴部と台部の貼付状態不鮮明。台部は内外面ともヨコナデ。
第750	9	土師器 器	体面 口縁部～胴部中 位片	口 17.8 口 19.6		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はへら削り。内面は胴部 にへらナデ。口唇部に凹線が通る。
第750	10	土師器 器	体面 口縁部～胴部上 位片	口 18.6		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はへら削り。内面は胴部 にへらナデ。
第750	11	土師器 器	貯蔵穴 口縁部～胴部上 位片	口 20.4		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はへら削り。内面は胴部 にへらナデ。一部に木目が現れハケメ状を呈する。
第750	12	土師器 器	フク上 口縁部～胴部上 位片	口 21.8		細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はへら削り。内面は胴部 にへらナデ。一部に木目が現れハケメ状を呈する。口唇部 に凹線が通る。

8号竪穴建物出土遺物観察表

挿入 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第790	1	土師器 杯	+39.2、 3/4	口 13.0 高 3.4		細砂粒/良好/にぶ い赤	口縁部はヨコナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手 持ちへら削り。
第790	2	土師器 杯	+27.8、フク上 1/2	口 13.8		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部はヨコナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手 持ちへら削り。
第790	3	土師器 杯	体面 1/2	口 15.3		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部はヨコナデ、体部はナデ。底部は手持ちへら削り。
第790	4	土師器 杯	+17.0、フク上 1/5	口 15.8 高 11.0 3.9		細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部と底部は手持ちへら削り。内面は 体部から口縁部に斜放射状痕。
第790	5	須恵器 杯蓋	+9.9 蓋～天井部片	蓋 5.0		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転へら削り。蓋は 円盤状粘土を貼付し、周囲をつまみ上げ環状に作る。天井 部に降灰付着。
第790	6	須恵器 杯蓋	+38.3 口縁部～天井部 片	口 19.8 口 16.6		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転へら削り。内面 にカエリを作る。

挿入 PL.No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第790	7	須恵器 杯蓋	+17.5 口縁部～天井部 片	口 14.8		口クロ整形、回転は右回り。天井部は中程まで回転へう削り。口縁部は端部を折り曲げ。		
第790	8	須恵器 杯蓋	+41.6～+52.8、 フク上 口縁部～天井部 片	口 19.0		口クロ整形、回転は右回り。天井部は回転へう削り。口縁部は端部を折り曲げ。		
第790	9	須恵器 杯蓋	フク上 口縁部～天井部 片	口 19.8		口クロ整形、回転は右回り。天井部は回転へう削り。口縁部は端部を折り曲げ。		
第790	10	須恵器 杯	振り方 口縁部～底部片	口 11.8 底 9.6		口クロ整形、回転は右回り。底部はへう削りか、残存がわずかなため不詳。	平城宮分類杯 G蓋	
第790	11	須恵器 杯	+31.9～+45.8 口縁部～底部片	口 14.3 底 10.0	3.2	細砂粒/還元焼/灰	口クロ整形、回転は右回り。底部は回転へう削り。	
第790	12	須恵器 碗	+30.3～+31.5 口縁部～底部片	口 16.3		細砂粒/還元焼/灰	口クロ整形、回転は右回り。底部周縁は回転へう削り。口縁部下に凹線が2条走る。	
第790 PL.77	13	須恵器 鉢	+23 底部～体部	底 10.0		細砂粒/還元焼/灰 白	口クロ整形、回転は右回り。底部と体部下位は回転へう削り。	
第790 PL.77	14	土師器 甕	+13.6～+27.8、 フク上 口縁部～胴部上 半片	口 23.2 胴 20.4		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部はヨコナデ、胴部は斜め方向から縦方向へう削り。内面は胴部にヘラナデ、器面磨滅のため単位不明。外面胴部に胴部上位に白色の付着物。	
第800 PL.77	15	土師器 甕	カマド燃焼部 胴部片	胴 22.0		細砂粒/良好/にぶ い褐	内面胴部に輪積み痕が残る。外面は斜めから縦方向へう削り。内面はヘラナデ。	
第800 PL.77	16	土師器 甕	カマド燃焼部 胴部片			細砂粒/良好/にぶ い褐	胴部は外面へう削り。内面はヘラナデ。大半は器面磨滅のため単位不明。上位と下位に焼成後の穿孔。	
第800 PL.77	17	土師器 甕	カマド燃焼部、 付近 底部～胴部下位 片	底 11.9		細砂粒/良好/にぶ い黄褐	内面胴部に輪積み痕が残る。底部と胴部はへう削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第800	18	須恵器 甕	フク上 頸部～胴部上位 片			細砂粒/酸化焼/明 赤褐	胴部は叩き締め成形。外面の叩き痕はナデ消されているが、内面には同心円状アテ貝痕が残る。	
PL.77	19	磯石器 こもあみ石	1区8型穴 完形	長 137 幅 57 厚 38 重 503.3		粗粒輝石灰山岩	棒状稜を素材、摩耗痕や最打痕などの使用痕の判定は困難である。	写真のみ
第800 PL.77	20	鉄製品 刀子	フク上 破片	長 1.8 厚 0.2 重 1.3			向端が欠けとなる刀子の一部。片刃のように見えるが、錆びと汚化ではっきりとしない。	

9号型穴建物出土土遺物観察表

挿入 PL.No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第820	1	須恵器 碗	+10.9～+15.6 口縁部～体部片	口 13.8		細砂粒/還元焼/灰 黄	口クロ整形、回転は右回り。	
第820	2	土師器 甕	+17.4、フク上 口縁部～胴部上 位片	口 21.0		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部はヨコナデ、頸部はナデ、胴部はへう削り。内面は胴部にヘラナデ。	

10号型穴建物出土土遺物観察表

挿入 PL.No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第860 PL.78	1	土師器 杯	体面 口縁部～底部片	口 10.5 最 10.8		細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部から底部は手持ちへう削り。	
第860 PL.78	2	土師器 杯	フク上	口 11.3 最 11.5	3.2	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部はヨコナデ、体部から底部は手持ちへう削り。	
第860 PL.78	3	土師器 杯	+9.4、 1/4	口 11.8 最 12.2	3.7	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部はヨコナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちへう削り。内外面の一部に煤が付着。	
第860 PL.78	4	土師器 杯	+18.3、 1/3	口 11.9 最 12.1	3.5	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部はヨコナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちへう削り。	
第860 PL.78	5	土師器 杯	体面 口縁部～底部片	口 11.9 最 12.1		細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部から底部は手持ちへう削り。	
第860 PL.78	6	土師器 杯	フク上	口 12.8 最 13.5	4.5	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部はヨコナデ、体部は上位がナデ、中位から底部は手持ちへう削り。	
第860 PL.78	7	土師器 杯	+15.5、フク上 1/4	口 12.9 最 13.3	3.9	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部から底部は手持ちへう削り。	
第860 PL.78	8	土師器 杯	カマド、フク上 口縁部～底部片	口 13.2 最 13.5		細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちへう削り。	
第860	9	須恵器 杯蓋	フク上 口縁部片	口 9.8 力 7.4		細砂粒/還元焼/灰 白	口クロ整形、回転は右回り。内面にカエリを作る。	
第860	10	須恵器 杯蓋	フク上	口 12.6 力 10.0		細砂粒/還元焼/灰 白	口クロ整形、回転は右回り。内面にカエリを作る。	
第860 PL.78	11	須恵器 杯	カマド、フク上 口縁部～底部片	口 10.8 底 7.0	3.2	細砂粒/還元焼/灰 白	口クロ整形、回転は右回り。底部から体部下半は回転へう削り。	
第860 PL.78	12	須恵器 杯	フク上	口 12.0 底 8.0	3.4	細砂粒/還元焼/灰 白	口クロ整形、回転は右回り。底部から体部下半は回転へう削り。	
第860 PL.78	13	須恵器 盤	カマド脇 4/5	口 23.8 底 15.8	4.3	細砂粒/還元焼/灰 白	口クロ整形、回転は右回り。底部から体部下位は回転へう削り。	

遺物観察表

種別 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第868号 PL.78	14	須臬器 高盤	+19.9～+47.2 口縁部～胴部片	口 底 25.6 24.2	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。胴部は貼付、底部は回転ヘラ削り。口唇部は内傾し凹縁が巡る。内面底部に「×」の線刻。	
第868号 PL.78	15	須臬器 不明	胴方 胴部端部片	脚 6.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。端部に上断面三角形の小凸部を作る。小型鉢または壺か。	
第868号 PL.78	16	須臬器 壺	+54.1、フク上 底部～胴部	胴 16.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部から胴部下位は手持ちヘラ削り。内面は底部から胴部下位にヘラナデ。	
第868号 PL.78	17	須臬器 壺	カムド袖 底部～胴部下位	底 8.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰/白	ロクロ整形、回転は右回り。底部と胴部は手持ちヘラ削り。	
第871号 PL.78	18	須臬器 壺	+13.8～+49.7 頸部～胴部	頸 胴 14.6 23.5	細砂粒/還元焰/灰	底部から胴部下半は叩き締め成形。上半から頸部はロクロ成型。胴部下半は外面の叩き締めはナデ消され、かすかに残る。内面は同心円状アテ具痕が残る。胴部最大径部分に回転ヘラ削り。	
第871号 PL.78	19	土師器 甕	+16.7、カムド、 フク上 口縁部～胴部上位片	口 20.8	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、胴部は下から頸部へ向けての縦方向ヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第871号 PL.78	20	土師器 甕	床面～+43.5、 フク上 口縁部～胴部下位片	口 胴 22.0 19.6	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部はヨコナデ、胴部は上半が頸部へ向けての斜め、下半は底部方向への縦方向ヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第871号 PL.78	21	須臬器 壺	床面 胴部片		細砂粒/還元焰/灰 白	胴部は叩き締め成形。外面には平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
第871号 PL.78	22	須臬器 壺	+43.5 胴部片		細砂粒/還元焰/灰	胴部は叩き締め成形。外面は平行叩き痕後間を開けたカキメ、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
第871号 PL.78	23	須臬器 壺	+21.3 頸部～胴部上半片	頸 7.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。胴部はカキメ。	長頸壺か、混入品

11号竪穴建物出土遺物観察表

種別 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第898号 PL.79	1	土師器 杯	胴方 口縁部～底部片	口 底 11.8 12.1	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部はヨコナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第898号 PL.79	2	礫石器 砥石	+47.5 完形	長 幅 103 39 重 41 304.4	凝灰岩	角柱状の礫を素材、4面に研磨痕。	

12号竪穴建物出土遺物観察表

種別 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第948号 PL.79	1	土師器 杯	カムド燃焼部、 フク上 口縁部～体部片	口 底 10.2 10.6	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第948号 PL.79	2	土師器 杯	カムドフク上 1/4	口 高 11.8 3.5	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部はヨコナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第948号 PL.79	3	土師器 杯	+63.9、フク上 1/2	口 底 12.2 12.9	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部はヨコナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第948号 PL.79	4	土師器 杯	カムド燃焼部、 フク上 1/4	口 底 17.4 18.0	高 5.0 細砂粒/良好/橙	口唇部はヨコナデ、口縁部から体部、底部は手持ちヘラ削り。	
第948号 PL.79	5	須臬器 瓶	+57.5、フク上 口縁部片	口 11.4	細砂粒/酸化焰/ロ くい橙	ロクロ整形、回転は右回り。口唇部は面を作り、浅い凹縁が巡る。口唇部下に断面三角形の凸部を作る。	横瓶または平瓶か
第948号 PL.79	6	須臬器 長頸壺	+16.2 口縁部片	口 11.1	細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。	
第948号 PL.79	7	須臬器 壺	フク上 胴部片	胴 13.7	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。胴部上位に凹縁が巡り、下半は回転ヘラ削り。	長頸壺か
第948号 PL.79	8	須臬器 壺	+23.4 底部～胴部下片		細砂粒/還元焰/灰 白	底部から胴部は叩き締め成形。外面はカキメ、内面はアテ具痕をナデ消している。	直口壺か
第948号 PL.79	9	土師器 甕	床面、カムド袖、 フク上 口縁部～胴部上位片	口 20.5	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第948号 PL.80	10	土師器 甕	床面、カムド 裏面、フク上 口縁部～胴部片	口 胴 21.4 18.6	細砂粒/良好/にぶ い橙	内外面に輪轆み痕が残る。口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第948号 PL.80	11	土師器 甕	カムド燃焼部、 フク上 ほぼ完形	口 底 22.0 19.5 高 4.2 34.7	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部はヨコナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第968号 PL.80	12	土師器 甕	カムド袖、フク 上 口縁部～胴部	口 胴 22.1 19.9	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第968号 PL.80	13	土師器 甕	カムド燃焼部 口縁部～胴部	口 底 22.3 18.2	細砂粒/良好/橙	内面胴部に輪轆み痕が残る。口縁部はヨコナデ、胴部はヘラ削り、胴部最上位は一段のみ縦方向ヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第95回 PL.79	14	須臾器 大型甕	床直、+12～ +53、フク上、2・ 8、10・18型穴、 8、10・18型穴、 1区1面 口縁部下半～底部	胴 胴	31.6 88.0	細砂粒/還元焰/灰	胴部は叩き締め成形、口縁部は口クロ成形。口縁部と胴部は胴部にて結合、頸部外面に断面内肉形の輪帯帯を貼付。口縁部は残存状態が不良で全貌が不明であるが、2条の凹線による区画が施され、凹線上に波状文が施されている。内面は口縁部下半から頸部にかけてヘラナデ。胴部は外面に平行叩き痕、内面に同心円状アテ具痕が明瞭に残る。胴部は上半の形状は胴所によって異なり、下半は成形後の歪みが見られる。底部に焼成時の置台と見られる他費個体の小片が埋りついている。	推定器高100 ～110cm	
第96回	15	須臾器 甕	フク上 口縁部片			細砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形、回転方向不明。口唇端部は上方に引き出され、口唇部下に断面三角形の凸部を作る。		
第96回	16	須臾器 甕	+44.7 胴部～胴部上位 片			細砂粒/還元焰/灰 白	胴部は叩き締め成形、胴部にて口縁部と結合。胴部は外面の叩き痕はナデ消されているが、内面は同心円状アテ具痕が残る。		
第96回	17	灰輪陶器 甕	フク上 口縁部片			微砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形、回転は右回り。施釉方法不明。口唇部はわずかに外反。	大原2号窯式 期。混入品	
PL.80	18	灰輪陶器 甕	フク上 口縁部片			微砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形、回転は右回り。施釉方法不明。	東濃産。窯式 期不明。混入 品。写真のみ	
第96回 PL.80	19	鉄製品 釘か	+59.1 一部欠損	長 幅	(5.9) 1.2	厚 重	0.4 5.4	胴部の一部が欠損している。胴部が潰されて直になっているが折り返しは見られない。胴部に近い部分がわずかに広がる。	

13号竪穴建物出土遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第100回 PL.81	1	須臾器 無台檢	カマド袖 完形	口 底	12.2 4.8	高 4.5	細砂粒/酸化焰/灰 黄	口クロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第100回 PL.81	2	須臾器 無台檢	+10.2 底部～底部下位 片	底	5.2		細砂粒/還元焰 み/灰白	口クロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第100回 PL.81	3	須臾器 有台檢	+6.0～+10.2 1/3	口 底	14.2 6.0	台 高 5.8 5.3	細砂粒/酸化焰/灰 黄	口クロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第100回 PL.81	4	須臾器 有台檢	カマド燃焼部 口縁部～一部片	口	13.8		細砂粒/酸化焰/灰 白	口クロ整形、回転は右回り。	
第100回 PL.81	5	灰輪陶器 甕	+7.7～+10.7 1/4	口 底	15.4 7.3	台 高 7.0 3.1	微砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。高台は丸みのある三日月状を呈する。	大原2号窯式 期
第100回 PL.81	6	灰輪陶器 甕	+21.8 底部～一部片	口	18.4		微砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形、回転は右回り。施釉方法は漬け掛け。口唇部はわずかに外反。	大原2号窯式 期
PL.81	7	灰輪陶器 甕	+7.4 口縁部片				微砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形、回転は右回り。残存片は全面施釉されており、施釉方法は不明。口唇部は外反。	大原2号窯式 期。写真のみ
PL.81	8	灰輪陶器 甕	フク上 口縁部片				微砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形、回転は右回り。残存片は全面施釉されており、施釉方法は不明。口唇部は外反。	大原2号窯式 期。写真のみ
第100回 PL.81	9	灰輪陶器 甕	+9.6～+10.4 底部～一部片	口	13.8		微砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形、回転は右回り。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期～虎渓山1 号窯式期
第100回 PL.81	10	灰輪陶器 甕	+13.5。カマド 袖 底部～一部片	底 台	6.6 6.6		微砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、糸切り痕がかすかに残る。高台は貼付。施釉方法は刷毛塗りや、高台は細長い三角形を呈す。	虎渓山1号窯 式期
PL.81	11	灰輪陶器 甕	+12.0 口縁部片				微砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形、回転は右回り。残存片は全面施釉されており、施釉方法は不明。口唇部は外反。	大原2号窯式 期。写真のみ
第100回 PL.81	12	須臾器 壺	カマド袖 把手片				細砂粒/酸化焰/灰 黄	把手は胴部に貼付が著落。整形はナデ、貼付箇所はココナデ。把手中ほどの径は2.0cm。	
第100回 PL.81	13	土師器 甕	カマド煙道部 口縁部～胴部上 位片	口	16.8		細砂粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部から頸部はココナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。口唇部に凹線が通る。	
第100回 PL.81	14	須臾器 羽釜	カマド袖、カマ ド燃焼部 口縁部～胴部 中位片	口 胴	15.4 18.2	胴 18	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄	口クロ整形、回転は右回り。胴は貼付。胴部は下方から胴へ向けての縦方向ヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第100回 PL.81	15	須臾器 羽釜	カマド袖 口縁部～胴部上 位片	口 胴	17.5 20.5	胴 18	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄	口クロ整形、回転は右回り。胴は貼付。胴部は下方から胴へ向けての縦方向ヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。器面磨滅のため単位不明。	
第100回 PL.81	16	須臾器 羽釜	カマド袖 口縁部～胴部上 位片	口 胴	19.8 22.2		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄	口クロ整形、回転は右回り。胴は貼付。胴部は下方から胴へ向けての縦方向ヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第100回 PL.81	17	須臾器 羽釜	+12.0～+39.7 口縁部～胴部上 位片	口 胴	19.9 25.7		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄	口クロ整形、回転は右回り。胴は貼付。内面は胴部にヘラナデ。	
第100回 PL.81	18	須臾器 甕	+20.8～+29.3 口縁部片	口	19.4		細砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形、回転は右回り。頸部付帯は内外面ともヘラナデ。	
第101回 PL.81	19	須臾器 甕	+6.0～+11.3 底部～胴部下半 片	底	16.4		細砂粒/酸化焰/灰 黄褐	胴部は叩き締め成形。底部はヘラ削り、胴部には平行叩き痕が残る。内面は底部から胴部にヘラナデ。	

遺物観察表

挿入 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第10109 PL.81	20	礫石器 砥石	1区13号穴建物 完形	長幅 47 44	厚 23 52.4	凝灰岩	上半部欠損、表面は研磨により著しく擦り減る。
第10109 PL.81	21	鉄製品 釘	-7.5 一部欠損	長幅 5.0 0.8	厚 0.4 5.3		脚部が欠損している。脚部の折り返しが見られるが、下端部に向けて断面が幅が長い長方形から縦長長方形に変化する。
第10109 PL.81	22	鉄製品 鏝	カマド燃焼部 ほぼ完形	長幅 9.4 3.5	厚 0.9 24.9		長頸狭頭三角形鏝。台形側、両丸造。頸部の端部がやや曲がる。

14号竪穴建物出土土物観察表

挿入 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第10309 PL.81	1	土師器 杯	床面 3/4	口 12.9 3.0	高	微砂粒/良好/ぶい橙	口縁部はココナデ、体部から底部は手持ちへ削り。

16号竪穴建物出土土物観察表

挿入 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第10909 PL.81	1	須恵器 無台椀	カマド燃焼部、 カマド袖 3/4	口 13.2 5.8	高 13.2 4.4	微砂粒/還元焼/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。
第10909 PL.81	2	須恵器 無台椀	貯蔵穴、フク土 3/4	口 13.1 5.5	高 4.6	微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。
第10909 PL.81	3	須恵器 無台椀	-10.4 ~ -17.8、 フク土 ほぼ完形	口 13.3 5.7	高 4.3	微砂粒/還元焼 のみ・焼/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。内外面の下半は焼成。
第10909 PL.81	4	須恵器 無台椀	-10.4、貯蔵穴、 カマド袖、フク土 ほぼ完形	口 13.5 6.3	高 4.1	微砂粒/酸化焼/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。内面下半は焼成。
第10909 PL.82	5	須恵器 無台椀	-17.5、フク土 1/4	口 13.8 6.9	高 5.6	微砂粒/還元焼 のみ・焼/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。
第10909 PL.82	6	須恵器 有台椀	-17.3 底部一体部片	底 7.0		微砂粒/酸化焼/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、糸切り痕がわずかに残る。高台は貼付が欠損。
第10909 PL.82	7	須恵器 有台椀	フク土 1/4	口 14.9 6.1	台 4.9	微砂粒/酸化焼/灰 黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。
第10909 PL.82	8	須恵器 有台椀	-17.5、フク土 1/3	口 14.5 7.2	台 5.8 5.6	微砂粒/還元焼 のみ・焼/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。内面体部にヘラミガキか、単位不鮮明、内外面とも一部を陰き焼成。
第10909 PL.82	9	須恵器 有台椀	-17.8 口縁部～底部片	口 14.8 6.0	台 5.8 5.8	微砂粒/還元焼 のみ・焼/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は切り離し技法不明、高台は貼付。外面体部に墨書、「八月」と判読。
第10909 PL.82	10	須恵器 有台椀	-12.8、PI 1/4	口 15.0 7.1	台 6.6 5.7	微砂粒/酸化焼/に ぶい橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は切り離し技法不明、高台は貼付。内外面とも焼成。
第10909 PL.82	11	須恵器 有台椀	カマド袖、フク土 1/2	口 16.0 6.2		微砂粒/還元焼/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付が欠損。
第10909 PL.82	12	須恵器 有台椀	フク土 底部一体部片	底 5.7 5.4		微砂粒/酸化焼/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。
第10909 PL.82	13	須恵器 椀	体面 体部片			微砂粒/酸化焼/に ぶい黄橙	ロクロ整形。外面に墨書、残存が少なく判読不能。
第10909 PL.82	14	須恵器 椀	フク土 体部片			微砂粒/酸化焼/灰 黄	ロクロ整形。外面に墨書、残存が少なく判読不能。
第10909 PL.82	15	須恵器 椀	フク土 体部片			微砂粒/酸化焼/灰 黄	ロクロ整形。外面に墨書、残存が少なく判読不能。
第10909 PL.82	16	須恵器 椀	フク土 体部下位片			微砂粒/酸化焼/灰 黄橙	ロクロ整形。外面に墨書、残存が少なく判読不能。
第10909 PL.82	17	灰輪陶器 椀	貯蔵穴 底部片	底 7.3 7.0	台 7.0	微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は不明。高台は丸みを待つ三日月状を呈す。
第10909 PL.82	18	灰輪陶器 椀	-12.6、カマド袖 2/3	口 13.6 6.8	台 6.6 4.6	微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、体部下位は回転ヘラ削り、高台は貼付。施釉方法は不明。高台は丸みを待つ三日月状を呈す。
第10909 PL.82	19	灰輪陶器 椀	フク土 口縁部～体部片	口 14.6		微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は不明。口唇部は小さく外反。
第10909 PL.82	20	灰輪陶器 椀	フク土 口縁部～体部片	口 14.8		微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は不明。口唇部は外反。
第11009 PL.82	21	灰輪陶器 椀	フク土 底部～体部下位片	底 6.4 6.0	台 8.0	微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、体部下位は回転ヘラ削り、高台は貼付。施釉方法は不明。高台は丸みを待つ三日月状を呈す。
第11009 PL.82	22	灰輪陶器 椀	-15.3 底部～体部下片	底 8.0 8.0	台	微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は不明。内面底部に重ね焼き痕が残る。高台はやや丸みを待つ三日月状を呈す。
PL.82	23	灰輪陶器 椀	フク土 口縁部片			微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は不明。口唇部は外反。
PL.82	24	灰輪陶器 椀	フク土 口縁部片			微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は不明。口唇部は外反。

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・ 整 形 の 特 徴	備 考
PL-82	25	灰輪陶器 鏡	フク上 口縁部片				微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形, 回転は右回り。施軸方法は不明。口唇部は外反。	光ヶ丘1号窯 式期～大原2 号窯式期。写 真のみ
PL-82	26	灰輪陶器 鏡	フク上 口縁部片				微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形, 回転は右回り。施軸方法は不明。口唇部は外反。	光ヶ丘1号窯 式期～大原2 号窯式期。写 真のみ
PL-82	27	灰輪陶器 鏡	フク上 口縁部片				微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形, 回転は右回り。施軸方法は不明。口唇部は外反。	大原2号窯式 期。写真のみ
PL-82	28	灰輪陶器 鏡	フク上 口縁部片				微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形, 回転は右回り。施軸方法は不明。口唇部は外反。	大原2号窯式 期。写真のみ
PL-82	29	灰輪陶器 鏡	フク上 口縁部片				微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形, 回転は右回り。施軸方法は不明。口唇部はわ ずかに外反。	大原2号窯式 期。写真のみ
PL-82	30	灰輪陶器 鏡	フク上 口縁部片				微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形, 回転は右回り。施軸方法は不明。口唇部は外反。	光ヶ丘1号窯 式期～大原2 号窯式期。写 真のみ
PL-82	31	灰輪陶器 鏡	フク上 口縁部片				微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形, 回転は右回り。施軸方法は不明。口唇部は外反。	大原2号窯式 期。写真のみ
PL-82	32	灰輪陶器 鏡	フク上 体部片				微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形, 回転は右回り。施軸方法は不明。	東濃産、10世 紀代。写真の み
PL-82	33	灰輪陶器 鏡	フク上 体部片				微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形, 回転は右回り。施軸方法は不明。	東濃産、10世 紀代。写真の み
PL-82	34	灰輪陶器 鏡	フク上 体部片				微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形, 回転は右回り。施軸方法は不明。	東濃産、10世 紀代。写真の み
PL-82	35	灰輪陶器 鏡	フク上 体部片				微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形, 回転は右回り。施軸方法は不明。	東濃産、10世 紀代。写真の み
PL-82	36	灰輪陶器 鏡	フク上 体部片				微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形, 回転は右回り。施軸方法は不明。	東濃産、10世 紀代。写真の み
PL-82	37	灰輪陶器 鏡	フク上 体部片				微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形, 回転は右回り。施軸方法は不明。	東濃産、10世 紀代。写真の み
第11009 PL-82	38	黒色土器 短頸壺	床面～6.4 頸～胴部片	頸 口	4.0 9.5		細砂粒/還元焼/灰 灰	外面黒色処理。ロクロ整形, 回転は右回りか。胴部から頸 部の成形は風船技法か。	
第11009 PL-82	39	土師器 小型甕	貯蔵穴、フク上 口縁部～胴部上 半片	口 胴	10.6 11.4		細砂粒/良好/灰 白	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部 にヘラナデ。	
第11009 PL-82	40	土師器 甕	貯蔵穴、フク上 口縁部～胴部上 位片	口 胴	17.8		細砂粒/良好/に ぶい焼	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部は縦方向ヘラ削り。内面 は胴部に木目が残るヘラナデ。	
第11009	41	土師器 甕	貯蔵穴、フク上 口縁部～胴部上 位片	口 胴	18.6		細砂粒/良好/に ぶい焼	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部 に木目が残るヘラナデ。	
第11009	42	土師器 甕	貯蔵穴、フク上 口縁部～胴部上 半片	口 胴	20.4 25.3		細砂粒/良好/に ぶい焼	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部 に木目が残るヘラナデ。	
第11009	43	土師器 甕	貯蔵穴、フク上 口縁部～胴部上 位片	口 胴	20.6		細砂粒/良好/に ぶい焼	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部 に木目が残るヘラナデ。	
第11009 PL-82	44	土師器 甕	カマド袖 底部～胴部下位 片	底	4.4		細砂粒/良好/に ぶい焼	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。 ヘラナデでは細かい木目が残る。	
第11009 PL-82	45	土師器 甕	カマド袖、貯蔵 穴 胴部下位 片				細砂粒/良好/に ぶい焼	胴部は外面が縦方向ヘラ削り、内面は中位に横方向、下位 は縦方向ヘラナデ。ヘラナデでは細かい木目が残る。	
第11009	46	須恵器 片	頸部～胴部上位 片				細砂粒/還元焼/黄 灰	ロクロ整形, 回転は右回りか。胴部にて口縁部と結合。胴 部は外面がカキメ。内面はヘラナデ。	
第11009 PL-82	47	石製品 紡輪	1区16整穴	長 幅	38 39	厚 重	18 30.7	蛇紋岩	表面内面とも欠損が著しい。
第11009 PL-82	48	鉄製品 釘	完形か	長 幅	32.9 1.2	重	7.7 13.0		胴部が作られていないように見える。断面は正方形に近い。
第11009 PL-82	49	鉄製品 刀子	完形か	長 幅	9.0 1.3	重	8.9 10.8		刃部の一部が古い時期に欠損する。刃は不明瞭でやや丸み を帯びている。
第11009 PL-82	50	鉄製品 釘	フク上 完形	長 幅	3.5 0.7	厚 重	0.3 1.4		小型の釘。途中で90度曲がっている。胴部は平らに作られ ているが、折り返しの様子ははっきりとしない。
第11009 PL-82	51	鉄製品 釘	フク上 一部	長 幅	2.7 0.4	厚 重	0.4 1.2		釘の脚部か。体部、胴部がないため詳細は不明。

遺物観察表

17号竪穴建物出土遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出 上位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第11209 PL-83	1	須臾器 無台椀	フク上 底部～体部片	底 4.8	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロコク整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第11209 PL-83	2	土師器 甕	フク上 口縁部片	口 18.0	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部はヨコナデ。	
第11209	3	須臾器 甕	+6.1 口縁部片		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロコク整形、回転は右回りか。口唇部下に断面が幅広い三 角形の凸帯を作る。凸部頸部は欠損。	
第11209	4	須臾器 甕	-4.4 頸部～胴部上位 片		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	胴部の成形は不明。外面はカキメ状工具によるヘラナデ、 内面もヘラナデ。	
第11209	5	鉄製品 釘	フク上 一部	長 3.5 厚 0.4 幅 0.4 重 1.8		体部から脚部が残存する。脚部に縦方向の木目が残る木質 痕跡が残存しているか。	

18号竪穴建物出土遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出 上位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第11509 PL-83	1	須臾器 無台椀	+19.9 口縁部～底部片	口 13.0 高 3.5 底 5.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロコク整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第11509	2	須臾器 椀	カマド燃焼部 口縁部～体部片	口 14.8	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロコク整形、回転は右回り。	
第11509	3	須臾器 無台椀	+36.3 底部～体部片		細砂粒/還元焰/に ぶい黄褐	ロコク整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第11509 PL-83	4	須臾器 有台椀	+21.8～+32.3 底部～体部片	底 7.0 台 6.6	細砂粒/還元焰/灰	ロコク整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第11509 PL-83	5	須臾器 椀	フク上 口縁部片		細砂粒/還元焰/灰 黄褐	ロコク整形、回転は右回り。外面に墨書、残存が少なく判 読不能。	
第11509	6	土師器 甕	カマド袖 口縁部～胴部上 位片	口 18.8	細砂粒/良好/にぶ い黄	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部 にヘラナデ。	
第11509	7	土師器 甕	カマド煙道部 口縁部～胴部上 位片	口 19.0 胴 22.8	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部 にヘラナデ。	
第11509	8	土師器 甕	-5.3 口縁部～胴部上 位片	口 20.0	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部 にヘラナデ。口唇端部に凹線が通る。	
第11509 PL-83	9	須臾器 羽釜	+52.8 口縁部～胴部上 位片	口 18.4 跨 21.4	細砂粒/還元焰/に ぶい黄褐	ロコク整形、回転は右回り。跨は貼付。胴部は下方から跨 に向けての縦方向へラ削り。内面胴部に輪痕が残る。	
第11509	10	須臾器 羽釜	+31.0 口縁部～胴部上 位片		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロコク整形、回転は右回り。跨は貼付。胴部は下方から跨 に向けての縦方向へラ削り。	
第11509	11	須臾器 甕	+26.8 口縁部片		細砂粒/還元焰/黒 褐	ロコク整形、回転は右回りか。口唇部下に断面三角形の凸 帯を作る。	
第11509 PL-83	12	鉄製品 釘	+48.4 一部欠損	長 7.0 厚 0.6 幅 1.3 重 10.6		頭部が折れている釘。脚部は欠損する。やや下半部が横方 向に捻じれる。	
第11509 PL-83	13	鉄製品 鏝	+40.9 一部欠損	長 7.8 厚 0.5 幅 2.8 重 13.2		長頭闊狭三角形鏝。台形頭、両丸造。某部は途中から欠損 する。	
第11509 PL-83	14	鉄製品 鏝	+38.7 一部欠損	長 9.8 厚 0.4 幅 3.1 重 19.1		雁又鏝。某部は一部残存し、一方の対部が欠損する。対部 の欠けは古い時期の欠けと見られる。	
第11509 PL-83	15	鉄製品 不明製品	フク上 完形か	長 3.4 厚 0.5 幅 1.2 重 2.0		上部は平らになり、下部に行くにつれ、湾曲、捻じれが出る。	

1号竪穴状遺構出土遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出 上位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第11609 PL-83	1	須臾器 有台椀	体面～+13.9 底部～体部片	底 11.6	細砂粒/還元焰/灰	ロコク整形、回転は右回り。底部は回転へラ削り、高台は 削り出し。	

2号竪穴状遺構出土遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出 上位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第11709	1	土師器 杯	フク上 口縁部～体部片	口 12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部から底部は手持ちへラ削り。	
第11709	2	土師器 杯	フク上 口縁部～体部片	口 10.8	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部はヨコナデ、体部は上半が子、下半から底部は手 持ちへラ削り。	
第11709	3	須臾器 甕	+38.7 胴部片		細砂粒/還元焰/灰	胴部は叩き締め成形。外面には平打叩き痕、内面は同心円 状アテ痕跡が残る。残存片上半に降伏付着。	

43号土坑出土遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出 上位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第11809	1	須臾器 有台椀	+18.6 底部～体部片	底 台 6.4 5.3	細砂粒/還元焰/灰 白	ロコク整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第11809	2	土師器 甕	+20.8 口縁部～頸部片	口 17.8	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部 にヘラナデ。	

遺物観察表

採 掘 PL.No.	No.	種 類 種 別	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第142期	2	須恵器 杯	フク上 底部片	底 8.0		ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り。器面磨減。		
第142期	3	灰輪陶器 皿	+7.2 口縁部～体部片	口 14.8		微砂粒/還元焼/灰白	大原2号窯式 期～虎沢山1 号窯式期	
第142期	4	灰輪陶器 皿	フク上 底部片	底台 7.2 6.8		微砂粒/還元焼/灰白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転ヘラナデ。高台は厚付。高台は丸みを持つ三日月状を呈す。	大原2号窯式 期
第142期 PL-83	5	中国陶器か 天目碗	+12.0 口縁部から体部 1/8	口 底 (12.0) —	— /灰/	体部外面やや窪み、口縁部外面は横い積をなして上部が窪む。体部外面下位回転造形。造形より左回転の可能性が高い。体部下位面下端付近無軸。胎土・釉調から中国製品の可能性がある。	中世	
第142期 PL-83	6	中国陶器か 不明	+6.7 体部片	口 底 —	— /灰/	黒味が強い灰色。内外面の器表は光沢のある黒色釉。	中世か	
第142期 PL-83	7	中国陶器か 瓶類	+9.6 体部片	口 底 —	— /灰/	外面鉄輪。内面無軸。上部器壁薄い。	中世か	
第142期	8	常滑陶器 甕	+2.6 体部片	口 底 —	— /灰白/	外面全体に自然釉。内面横位盤で。	12～13世紀	
第142期	9	常滑陶器 甕か壺	-0.5 体部片	口 底 —	— /褐灰/	外面器表灰褐色。内面器表黒褐色。	中世	
第142期 PL-84	10	常滑陶器 甕	+7.9 胴部片	口 底 —	— /黄灰/	胴部上面に円形彫刻に巴文を刻んだ押印。内面横位盤で。	13～14世紀	
第142期	11	常滑陶器 甕	-1.4 体部片	口 底 —	— /灰黄緑/	内面丁寧な横位盤で。外面縦位盤で。	中世	
第143期 PL-84	12	在地系土器 茶釜か	+4.1 口縁部+胴部 1/5	口 底 (11.0) —	— 黒色鉱物含む/に ぶい/橙/	内外面器表浅黄褐色。内外面回転横位盤で。	中世	
第143期 PL-84	13	在地系土器 内耳銅	+1.8 口縁部片	口 底 —	— 白色鉱物と赤色粘 土粒含む/にぶい/ 橙/	器表褐色。器壁厚く、口縁部短い。	14世紀後半～ 15世紀中葉	
第143期 PL-84	14	在地系土器 片口鉢か	+3.5 体部片	口 底 —	— 石英含む/にぶい/ 橙/	光る極少鉱物を含む。外面器表厚減。内面下半の器表剥離。	中世	
第143期	15	在地系土器 内耳銅	+10.1 体部下位片	口 底 —	— 白色鉱物と赤色粘 土粒含む/にぶい/ 赤黒/	外面器表黒褐色。内面器表灰褐色。体部下位に丸みを持ち、丸底であろう。器壁厚い。	14世紀後半～ 15世紀	
第143期	16	職人系土器 火鉢	-0.3 体部片	口 底 —	— 白少鉱物少量含む/ 橙/	外面に粘土紐付け付。粘土紐より上に方形押印文。	中世	
第143期 PL-84	17	中国白磁 面取杯	フク上 体部片	口 底 —	— /灰白/	陶器質。体部小片で外面下部無軸。	15世紀	
第143期 PL-84	18	古瀬戸陶器 平碗	フク上 口縁部片	口 底 —	— /浅黄緑/	口縁部外面部の器壁薄くなる。内面から体部外面下位に灰輪。体部外面下位以下無軸。	15世紀前半～ 中葉	
第143期 PL-84	19	瀬戸・美濃 陶器 碗反皿か	フク上 口縁部片	口 底 —	— /黄灰/	口縁部外反。内外面灰輪。貫入入る。	16世紀中葉か	
第143期 PL-84	20	中国白磁 小皿	フク上 口縁部から体部 片	口 底 —	— /淡黄/	陶器質。内面から体部外面白磁輪。体部外面下位以下無軸。	15世紀	
第143期 PL-84	21	古瀬戸陶器 か 不詳	フク上 底部片	口 底 —	— /淡黄/	底部外面回転糸切調整。内面灰輪。	13世紀～15 世紀	
第143期 PL-84	22	製作地不詳 陶器 瓶類	フク上 体部下位片	口 底 —	— /灰黄/	中国陶器か。外面回転造形。外面器表はにぶい赤褐色。上部に鉄錆色の釉一部かかる。	中世か	
第143期	23	常滑陶器 甕か壺	フク上 体部片	口 底 —	— /黒褐/	外面器表にぶい赤褐色。内面器表黄褐色。	中世	
第143期	24	常滑陶器 片口鉢か	フク上 体部片	口 底 —	— /にぶい赤褐/	内面の器表はより減り平滑となる。常滑片口鉢Ⅱ類であろう。	中世	
第143期 PL-84	25	在地系土器 片口鉢	フク上 口縁部1/8	口 (32.2) 底 —	— /にぶい/橙/	器壁厚く、口縁部外反。口縁部端小さく突き出る。体部内下位使用により器表厚減。上位は使用により器表平滑。	15世紀前半頃	
第143期 PL-84	26	鉄製品 釘	+5.4 一部欠損	長 幅 0.8 厚 0.5 0.8 重 3.7		頭部が欠損する釘。正方形の断面であったと思われるが、一部劣化によりやや丸みを帯びる不定形になる。		
第143期 PL-84	27	鉄製品 釘	-0.5 完形	長 幅 6.5 厚 0.5 6.9 重 9.4		頭部を折り返している。釘の中心部で90°曲げられている。		
第143期 PL-84	28	鉄製品 釘か	+11.0 一部欠損	長 幅 5(6.1) 厚 0.4 6.8 重 3.3		断面四角形だが下端部は劣化により欠損する。頭部が確認できないため、釘とも断定しきれない。		
第143期 PL-84	29	鉄製品 釘か	-10.6 一部欠損	長 幅 6(6.1) 厚 0.6 6.8 重 7.5		欠損する頭部観察より断面はやや丸みを帯びる四角形。頭部も欠損により確認できない。		
第143期 PL-84	30	鉄製品 釘	-16.2 一部欠損	長 幅 3.2 厚 0.4 0.7 重 1.8		小型の釘。頭部先端部がわずかに欠ける。「し」の字状に捻じれる。		
第143期 PL-84	31	鉄製品 不明製品	-12.1 完形	長 幅 10.9 厚 0.5 9.5 重 9.5		断面四角形で両端部が尖る。		
第143期 PL-84	32	銭貨 宋通元貨か	-22.9 1/2	外 径 2.5 厚 0.15 内 径 1.5 重 1.2		「元」とう冠を確認し、宋通元貨の可能性が高い。背の形は浅いが、輪、郭は不明瞭。		

1号畑出土遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第145図 PL.84	1	瀬戸・美濃 陶器 碗	フク土 底部	口 底	— 器 — — 3.2	/灰白/	内面から高台輪軸施。貫入入。 江戸時代

6号土坑出土遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第147図 PL.84	1	鉄製品 釘	フク土 一部欠損	長 幅	3.9 0.6 厚 重 0.3 2.1		断面四角形。頭部が確認できないが脚部が細くなっている。 全体にむじれが見られる。

12号土坑出土遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第148図	1	須恵器 無台輪	フク土 底部～体部下位片	口 底	7.0	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。

13号土坑出土遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第148図	1	土師器 杯	フク土 口縁部～体部片	口	16.8	細砂粒/良好/橙	口縁部はココナデ、体部は手持ちへう削り、器面磨削のため単位不明。内面は体部から口縁部に斜放射状噴文。
第148図	2	須恵器 甕	フク土 口縁部片			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回りか。口唇部に降灰が付着。

36号土坑出土遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第151図	1	灰輪陶器 碗	フク土 口縁部片	口	15.6	微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は不明。口唇部は外反。 光ヶ丘1号窯式期～大原2号窯式期

39号土坑出土遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第152図	1	須恵器 有台輪	+73.4 底部片			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付が剥落

41号土坑出土遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第152図	1	鉄製品 釘か	フク土 一部欠損	長 幅	3.6 0.7 厚 重 0.4 3.5		上下端部が欠損している。断面は四角に見えるがやや鈍で わかりづらい。

遺構外出土遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第154図 PL.84	1	常滑陶器か 農か窓	+12.8 底部から体部下位片	口 底	— 器 — —	/にぶい黄橙/	断面中央灰白色。器表付近から器表にぶい黄橙色。外面木口状工具による撫で。内面撫で。 中世
第154図 PL.84	2	龍泉窯系青 磁 鬚連弁文碗	フク土 体部片	口 底	— 器 — —	/灰黄/	外面幅広の鬚連弁文。内面無文。内外面青磁釉。 13世紀
第154図 PL.84	3	鉄製品 釘	+65.5 一部欠損	長 幅	4.7 1.4 厚 重 0.4 4.5		上部は叩いて延ばされているか。脚部は欠損して確認できない。
第154図 PL.84	4	鉄製品 釘か	+59.1 一部	長 幅	3.2 0.5 厚 重 0.3 1.7		両端部が欠損する。端部に向かって断面長方形から正方形に近くなる。
第154図 PL.84	5	鉄製品 釘か	フク土 一部	長 幅	4.8 0.6 厚 重 0.3 2.7		両端部は古い欠損となるか。やや釘としては厚みが少ない 印象がある。

第10表 縄文時代 時期別土器数量(1)

区	遺構種	早期後葉	諸磯b(巾)	諸磯b(沈殿)	諸磯b(浮殿)	諸磯c	十三菩提	暗ヶ峯	前期後葉	前期末葉	松原	五頭ヶ台	阿玉台	中期中葉	加智利E2	加智利E3	加智利E4	郷土	中期後葉	中期	聖之内1	聖之内2	後期前葉	後期後半	不明	合計	
2	20号穴建物			1												9	1		14							25	
2	51土坑							1																		1	
1	60土坑					1			1																	2	
	合計		1	1				2								9	1		14							28	
1	1号穴建物											1				1				1						3	
1	2号穴建物		5					7	1					1	4					10				3	31		
1	3号穴建物		1											5	1					3					10		
1	4号穴建物				1									1	6		2			9					4	23	
1	5号穴建物			1																2						3	
1	6号穴建物			2	2						1				2					8					5	20	
1	7号穴建物		1												1										7	9	
1	8号穴建物																								4	4	
1	9号穴建物													1						1						2	
1	10号穴建物																			3						3	
1	11号穴建物																			2						2	
1	12号穴建物												2							1						3	
1	16号穴建物			1	1															4					7	13	
1	18号穴建物							1																		1	2
1	20土坑																			1						1	
1	29土坑				1																					1	2
1	43土坑											1														1	
1	50土坑											1				1										2	
1	1溝															1										1	2
1	1号穴状遺構							1							3					4						2	10
1	1面		1											2	1					4	1					14	23
1	2面			1	1										3		1			10						3	19
1	2-1面			1	1				1					1	4					12						3	23
1	2-2面																			1						2	3
1	3面(10解)												1													1	1
1	北トレンチ3面																			4						4	4
1	試掘トレンチ3面												1	2												3	3
1	遺構外(No1)				1																					1	1
	合計		2	13	7			9	2		2	6	13		28		3		80	1					57	223	
2	13号穴建物			2				1												1						2	6
2	17号穴建物																									1	1
2	19号穴建物															1				1						1	3
2	1面			1																1						1	2
2	2面		2	2			1	1	7					1	6					1					6	27	
2	2-1面			2				1	5						1					18						1	5
2	3面			1	2											1										1	5
	合計		8	4		2	1	13						1	9				22						11	71	
1	725-285 穴層			1	2								1							2						3	9
1	730-285 穴層																									1	1
1	730-290 穴層		3	1		1					1	1	4	6	2	1	2			13						35	34
1	730-295 穴層		2	5									2	4	1	1				16		2			1	34	35
1	730-295 短層															1				1						2	2
1	730-300 穴層		3	2			1						1	4	3					11		1				26	26
1	730-305 穴層		2				3								1	2	1			10						19	19
1	730-310 穴層		1	1			1									3	1			9			1			17	17
1	730-315 穴層			1			1													1						4	4
1	735-285 穴層			3									7	1						14						25	25
1	735-290 穴層		1	1			1						2	2	1	1	1			24						34	34
1	735-290 短層														1					1						1	1
1	735-295 穴層			5			1						4	7	7					15						39	39
1	735-300 穴層		3	4										5	3	3				13		1				32	32
1	735-300 短層				1																					1	1
1	735-305 穴層		1	1									1	2	4					10						19	19
1	735-310 穴層		3	5			1						2	7	1	2				31			1			53	53
1	735-315 穴層			5									2	4	5	5	1			21						43	43
1	735-320 穴層															1				3						4	4
1	735-320 2-2面						1						1	2	12		1			7						24	24

第11表 縄文時代 時期別土器数量(2)

区	遺構種	早期後葉	諸磯b(巾)	諸磯b(沈線)	諸磯c	十三宮堤	暗ヶ峯	前期後葉	前期末葉	松原	五頭ヶ台	阿玉台	中期中葉	加智利E2	加智利E3	加智利E4	郷土	中期後葉	中期	聖之内1	聖之内2	後期前葉	後期後半	不明	合計		
1	735-325 2-2面												2	1	13		2	25							43		
1	735-330 2-2面						1						1	1					2						5		
1	735-335 2-2面																1								1		
1	740-285 灰層		1										2						7			1			12		
1	740-290 灰層	1	1												1				11					1	16		
1	740-295 灰層		1	1						3	1	7	1	3					28			1			45		
1	740-300 灰層		2									6	4	2	1				14						29		
1	740-305 灰層		4	5			1					4	1	2					10						27		
1	740-310 灰層						1					1		1	4				7						14		
1	740-315 灰層		1	1							1	10		7					24						44		
1	740-320 灰層		1												2				1						4		
1	740-320 2-2面		1	1							1		2	10					9						24		
1	740-325 2-2面											4	1	16					16						37		
1	740-330 2-2面		1	1								5	1	7					12						28		
1	740-335 2-2面		1	1			1					1	1	13	1	1			17						37		
1	740-340 2-2面		2									3	3	13					11						32		
1	740-345 2-2面		2	1		1						1	2	8	1				9						25		
1	740-350 2-2面		2	1			2					1	4	3					3					2	18		
1	740-355 2-2面												1												1		
1	745-285 灰層											1	1	1									3		6		
1	745-285 灰層							1						1	1										3		
1	745-290 灰層		2									1		1					7						11		
1	745-295 灰層			2								2							10						14		
1	745-300 灰層		3	1			1					3	10	3	3				25						49		
1	745-305 灰層			1																					1		
1	745-310 灰層		5	4			1					2	3	2	6				25						48		
1	745-315 灰層		3				1						1	1	4		1		32						43		
1	745-320 2-2面		1	3	3					1		5	3	21					16						53		
1	745-325 2-2面		1	3	1							1	5	7	20				21						59		
1	745-330 2-2面		1									2	1	3	6			1	8						22		
1	745-335 2-2面			1	1						1			2		12			11						28		
1	745-340 2-2面		7	3			1							8					14						33		
1	745-345 2-2面		3	1									1	3					9						17		
1	745-350 2-2面		1									1	1	1					5						9		
1	750-300 灰層		1									1							6						8		
1	750-305 灰層		1	2						1	1	41	2						24				1	2	75		
1	750-310 灰層		1	1			1					8	1	2					12						26		
1	750-315 灰層			1								1	7	7					31						47		
1	750-320 2-2面		2									7	8						19						2	38	
1	750-325 2-2面		1	1			1					2	1	5					12						23		
1	750-330 2-2面		2	1								2	1	3					5					2	16		
1	750-335 2-2面		10									4	1	9												24	
1	750-340 2-2面		7				1							8					4							20	
1	750-345 2-2面			1									4	1					6							12	
1	750-350 2-2面		1										4	2	4				4							11	
1	755-315 灰層														1				2							3	
1	755-320 2-2面							1																		1	
1	755-325 2-2面		2	1									4	1	5				2							15	
1	755-330 2-2面		5	2			1					1		1	6				10							26	
1	755-335 2-2面		1			1	1					2		1	2				2							10	
1	755-340 2-2面		7				2					1	5	1					6							22	
1	755-345 2-2面			1		1								1					5							8	
1	755-350 2-2面												2						6							8	
1	755-355 2-2面																		2							2	
1	760-340 2-2面	2	2										1	1											6	12	
1	760-345 2-2面												2	2					6							3	13
1	760-350 2-2面												4	1								1				2	8
1	760-355 2-2面																									2	2
	合計	2	1	118	71	5	4	1	28	1	7	54	220	66	288	22	7	754	6	3	4	28	1690				

第12表 舗文石器集計表(器種別・石材別点数)

石材	薄片石器				石製品				礫石器				總計											
	石鏃	石匙	両面調整石器	ドリル	網形石器	スクレイパー	打製石斧	磨製石斧	二次加工薄片	石核	薄片	剥片		石棒	球状貝飾り	スタンプ形石器	磨石	凹石	散石	石皿	石皿	有石	磨器	磨
黒曜石	12				1	4	19	5	3	8	36													60
黒色頁岩	6				1	4	19	5	1	70														107
黒色頁岩	3	3				2	14	4		44														70
黒色安山岩	2				1			1		12														17
チャート	1									1	1													3
ホルンフェルス	1									1	14													15
メノウ											6			1										1
赤碧玉	1																							7
碧玉	1																							1
流紋岩					1						3													4
粗粒輝石安山岩							25	1	14						1									42
粗粒輝石安山岩										5					9	10	4	1	8	2	8			47
輝緑岩							1																	1
結晶片岩										1	1													2
砂岩							1				1													2
石英											1													1
石英																								1
四稜岩																								1
玄武岩							1																	1
總計	26	3	2	2	2	6	59	2	15	11	207	1	1	1	9	10	5	1	8	3	8	3	8	382

第13表 舗文石器集計表(器種別・石材別重量)

石材	薄片石器				石製品				礫石器				總計												
	石鏃	石匙	両面調整石器	ドリル	網形石器	スクレイパー	打製石斧	磨製石斧	二次加工薄片	石核	薄片	剥片		石棒	球状貝飾り	スタンプ形石器	磨石	凹石	散石	石皿	石皿	有石	磨器	磨	
黒曜石	12.1				0.1		5.3	36.9		34.6														89.0	
黒色頁岩	7.0				9.8	95.8	1087.0		206.1	229.6	582.4													2827.2	
黒色頁岩	3.9	54.4				76.2	1536.7		92.0	673.9														2437.1	
黒色安山岩	3.3				120.8	77.7			12.8	78.0														292.6	
チャート	0.7									411.1	6.4													418.2	
ホルンフェルス										107.4	149.8													257.2	
メノウ													8.3											8.3	
赤碧玉	2.0										21.4													23.4	
碧玉	2.3				1.4																			2.3	
流紋岩											30.0													31.4	
粗粒輝石安山岩							3011.4		78.9		438.7				114.7						648.9			4292.6	
粗粒輝石安山岩											72.1										5385.3	6241.1	1197.5	5354.3	26259.1
輝緑岩									22.5												1702.3	1431.7	41653.6		
結晶片岩											30.2	26.2												56.4	
砂岩							26.5			190.2														216.7	
石英											12.3													12.3	
四稜岩																								402.6	
玄武岩								60.3																60.3	
總計	31.3	54.4	130.6	1.5	87.2	172.0	6261.6	82.8	585.3	785.0	2129.8	26.2	8.3	114.7	5385.3	6241.1	1000.1	5354.3	26259.1	2351.2	1431.7	431.7	53102.7		

第14表 縄文石器集計表(掲載点数)

		剥片石器										小計	
		石鏃	石匙	両面調整石器	ドリル	楔形石器	スクレイパー	打製石斧	磨製石斧	二次加工剥片	石核	剥片	①
縄文時代	掲載	19	3	2	1	2		6	25	2	14	7	62
	未掲載	7			1			34			4	207	273
総計		26	3	2	2	2	6	59	2	15	11	207	335
掲載率		73%	100%	100%	50%	100%		42%	100%	7%	64%		

		石製品			礫石器							小計	総計	
		石棒	球状耳飾り	スタンプ形石器	磨石	凹石	敲石	石皿	台石	礫器	礫	礫 ②		
縄文	掲載	1	1	1	7	9	4	1	8	2			34	96
	未掲載				2	1	1			1	8	13	286	
総計		1	1	1	9	10	5	1	8	3	8	47	382	
掲載率		100%	100%	100%	78%	90%	80%	100%	100%	67%				

*遺構に共存しない遺物、欠損品、二次加工剥片、剥片については特徴的なものを除き未掲載遺物とした。

第15表 古墳時代以降石器集計表(掲載点数)

		石製品		礫石器	総計
		紡輪	砥石	こもあみ石	
古墳時代以降 写真掲載	掲載	2	2		4
	写真掲載			22	22
総計		2	2	22	26

第16表 鉄滓の重さ

区	遺構名	層位	№	内容	(g)	備考
1区	1号壜穴建物	1面	58	鉄滓	99	
1区	1号壜穴建物		71	鉄滓	26	
1区	8号壜穴建物		28	鉄滓	40	
1区	16号壜穴建物		58	鉄滓	48	
1区	16号壜穴建物		59	鉄滓	86	
1区	16号壜穴建物		60	鉄滓	32	
1区	16号壜穴建物		61	鉄滓	72	
1区	16号壜穴建物		63	鉄滓	89	
1区	16号壜穴建物		64	鉄滓	22	
1区	16号壜穴建物		65	鉄滓	131	
1区	16号壜穴建物		67	鉄滓	14	
1区	16号壜穴建物		68	鉄滓	10	
1区	16号壜穴建物		69	鉄滓	116	
1区	16号壜穴建物		70	鉄滓	53	
1区	16号壜穴建物		72	鉄滓	670	
1区	16号壜穴建物		73	鉄滓	420	
1区	16号壜穴建物		93	鉄滓	43	
1区	16号壜穴建物		121	鉄滓	172	
1区	16号壜穴建物 掘り方			鉄滓	64	
1区	50号土坑		15	鉄滓	970	

遺構名	(g)
1号壜穴建物	85
8号壜穴建物	40
16号壜穴建物	2042
50号土坑	970
計	3137

第17表 縄文石器集計表(遺構別・器種別点数)

出土位置	石 器 品										礫 石 器				備 考							
	石鏃	石匙	両面潤飾石器	下リル	楕形石器	刮片石器 スクレイパー	打製石斧	磨製石斧	二次加工刮片	石核	石錐	段状耳飾り	スタンブ形石器	磨石		凹石	磨石	台石	礫器	燧石		
1区1号埋穴遺物						1				1										2		
1区1号埋穴遺物						1														2		
1区2号埋穴遺物						1			1											3		
1区3号埋穴遺物									4											4		
1区4号埋穴遺物						1			5											6		
1区6号埋穴遺物						1			2											3		
1区7号埋穴遺物	1																			1		
1区8号埋穴遺物	1								1								1			3		
1区11号埋穴遺物						1														1		
1区16号埋穴遺物			1			2			1	4										8		
2区1号溝	1								1											2		
2区725-285									4					1						5		
2区730-290									1	6			1							8		
2区730-295						1			5							1				7		
2区730-300	1					1			5											7		
2区730-305									2											2		
2区730-310						1			4											5		
2区730-315									4											4		
2区735-285	1								2				1							4		
2区735-290	1								1	2										5		
2区735-295						2			1	8				1						12		
2区735-300			1			1														2		
2区735-305									1											1		
2区735-310									1	6			1	1						9		
2区735-315	2					1			1	1					1					6		
2区735-320															1					1		
2区735-325	1					1			1											3		
2区735-330									2											2		
2区740-285	1								3				1							5		
2区740-290	1					1			4											6		
2区740-295		1		1					1	10			2							16		
2区740-300	2					1			4											7		
2区740-305									7						1					8		
2区740-310	2				1				3						2					8		
2区740-315	1					1			1	1										4		
2区740-320						2			5											7		
2区740-325						1			10											11		
2区740-330									4					1						5		
2区740-335	1					1			2				1							5		
2区740-340						2			1	5										8		
2区740-345						2			1	1	1									5		
2区740-350													1			1				2		
2区745-285									3											3		
2区745-290	2								1	1								1		5		
2区745-295						2			2	1	7									12		
2区745-300	1					1			1	5				1						10		
2区745-305			1			3	2		1	10	1									17		
2区745-310						1	1		2	2			1							7		
2区745-315						3			2											5		
2区745-320						4			2					1						7		
2区745-325	1					1			1	3										6		
2区745-330						2				4				1						3		
2区745-335									1	4										1		
2区745-340	1					1			2											4		
2区745-345						3														3		
2区745-350													1							1		
2区750-305						2			4											6		
2区750-310						1			2							1	1	5		10		
2区750-315									4						2					6		
2区750-320		1							1											2		
2区750-325									1	3										4		
2区750-330									1	3				1						3		
2区750-335									4											4		
2区750-340	1					1			1											3		
2区750-345						2			1											3		
2区750-350									2											2		
2区750-355	1																			1		
2区755-320													1							1		
2区755-325									4											4		
2区755-330					1	1			3											5		
2区755-340						1			2											3		
2区765-325															1					1		
2区遺構内	1	1				1	3		1	3							1	1		11		
2区北トレンチ										1										1		
2区5号埋穴遺物													1							1		
2区20号埋穴遺物										1							1			2		
2区51号土坑						1			1											2		
2区遺構内	1						2		1	3										7		
総計	26	3	2	2	2	6	99	2	15	11	207	1	1	1	9	10	5	1	8	3	8	382

第19表 土坑計測表

縄文時代

遺構名	X軸	Y軸	形状	長径	短径	深さ	主軸方位
2区 51号土坑	62729 ~ 62731	-85355 ~ -85356	隅丸長方形	1.47	0.84	1.02	N-4°-W
2区 52号土坑	62736 ~ 62738	-85346 ~ -85347	隅丸長方形	1.68	0.58	0.57	N-0°
1区 53号土坑	62761 ~ 62763	-85348 ~ -85349	隅丸長方形	1.99	1.28	1.05	N-35°-E
1区 54号土坑	62743	-85352	円形	0.60	0.59	0.16	N-50°-W
1区 55号土坑	62746	-85354 ~ -85355	円形	0.75	0.71	0.33	N-62°-E
1区 56号土坑	62742 ~ 62744	-85350 ~ -85351	隅丸長方形	2.22	0.98	0.97	N-38°-W
1区 57号土坑	62742 ~ 62743	-85353 ~ -85354	不整形円形	0.83	0.78	0.23	N-62°-E
1区 58号土坑	62751 ~ 62752	-85355	不整形円形	0.65	0.58	0.35	N-23°-W
2区 59号土坑	62740 ~ 62741	-85353 ~ -85354	楕円形	1.01	0.84	0.20	N-74°-W
1区 60号土坑	62748 ~ 62749	-85341 ~ -85342	隅丸長方形	0.81	0.99	0.76	N-81°-W
1区 61号土坑	62754 ~ 62755	-85341	不整形円形	0.69	0.59	0.15	N-10°-W
1区 62号土坑	62740 ~ 62742	-85327 ~ -85328	隅丸長方形	1.97	0.98	0.76	N-14°-W
1区 63号土坑	62739 ~ 62741	-85323 ~ -85324	隅丸長方形	1.20	0.96	0.76	N-39°-W
1区 64号土坑	62739	-85325	円形	0.42	0.37	0.22	N-15°-E
1区 67号土坑	62741 ~ 62742	-85301 ~ -85302	不整形円形	0.65	0.60	0.15	N-26°-W
1区 68号土坑	62732 ~ 62733	-85294 ~ -85295	円形	0.96	0.90	0.24	N-32°-E
1区 69号土坑	62743 ~ 62744	-85290 ~ -85291	円形	0.76	0.61	0.41	N-53°-W
1区 70号土坑	62742 ~ 62743	-85309	楕円形	0.79	0.63	0.16	N-21°-W
1区 71号土坑	62748 ~ 62749	-85301 ~ -85302	楕円形か	(1.50)	(1.20)	0.40	N-28°-W

古墳時代

遺構名	X軸	Y軸	形状	長径	短径	深さ	主軸方位
2区 48号土坑	62692 ~ 62693	-85349 ~ -85350	やや楕円形	(1.10)	(0.89)	0.35	N-16°-E

飛鳥～平安時代

遺構名	X軸	Y軸	形状	長径	短径	深さ	主軸方位
1区 43号土坑	62744 ~ 62746	-85350 ~ -85352	隅丸長方形	2.02	1.01	0.42	N-8°-E
2区 46号土坑	62734 ~ 62735	-85347 ~ -85348	円形	1.40	1.10	0.42	N-6°-E
1区 50号土坑	62744 ~ 62746	-85343 ~ -85345	隅丸長方形	2.50	1.69	0.73	N-10°-E

中・近世

遺構名	X軸	Y軸	形状	長径	短径	深さ	主軸方位
1区 1号土坑	62762 ~ 62763	-85353	楕円形	1.00	0.68	0.08	N-14°-W
1区 2号土坑	62760 ~ 62761	-85352 ~ -85353	隅丸長方形	0.88	0.66	0.13	N-69°-E
1区 3号土坑	62759	-85350	円形	0.47	0.47	0.14	N-20°-E
1区 4号土坑	62758 ~ 62759	-85352 ~ -85353	楕円形	4.01	0.85	0.24	N-79°-W
1区 5号土坑	62755 ~ 62758	-85339 ~ -85342	隅丸長方形	3.55	0.70	0.42	N-30°-E
1区 6号土坑	62760 ~ 62761	-85342 ~ -85346	隅丸長方形	4.01	0.82	0.24	N-78°-W
1区 7号土坑	62761 ~ 62763	-85341	隅丸長方形	(1.84)	0.49	0.39	N-6°-W
1区 8号土坑	62759 ~ 62760	-85338 ~ -85341	隅丸長方形	2.58	0.58	0.48	N-80°-W
1区 9号土坑	62754 ~ 62755	-85336 ~ -85337	円形	0.94	0.71	0.10	N-43°-E
1区 10号土坑	62754 ~ 62755	-85335 ~ -85336	円形	0.75	0.66	0.09	N-47°-W
1区 11号土坑	62753	-85335	円形	0.51	0.50	0.24	N-16°-W
1区 12号土坑	62754 ~ 62755	-85334	隅丸長方形	1.37	0.31	0.14	N-10°-E
1区 13号土坑	62755 ~ 62756	-85338	円形	0.72	0.69	0.27	N-31°-E
1区 14号土坑	62756 ~ 62757	-85329 ~ -85330	円形	0.47	0.35	0.23	N-50°-E
1区 15号土坑	62756	-85329	円形	0.49	0.43	0.42	N-85°-W
1区 16号土坑	62756 ~ 62757	-85328 ~ -85329	円形	0.63	0.50	0.16	N-18°-W
1区 17号土坑	62756 ~ 62757	-85327 ~ -85328	円形	0.50	0.43	0.14	N-5°-E
1区 18号土坑	62755 ~ 62756	-85327 ~ -85328	円形	0.63	0.52	0.16	N-24°-W
1区 19号土坑	62755 ~ 62756	-85326 ~ -85327	円形	0.58	0.55	0.78	N-70°-E
1区 20号土坑	62752 ~ 62753	-85337	円形	0.71	0.65	0.28	N-62°-W
1区 21号土坑	62751	-85327	円形	0.45	0.45	0.07	N-7°-W
1区 22号土坑	62751 ~ 62752	-85327	円形	0.47	0.35	0.27	N-26°-E
1区 23号土坑	62751 ~ 62753	-85324 ~ -85325	隅丸長方形	2.35	0.46	0.20	N-3°-W
1区 24号土坑	62758	-85325 ~ -85326	円形か	0.50	(0.36)	0.35	N-53°-W
1区 25号土坑	62749 ~ 62751	-85324 ~ -85326	隅丸長方形	2.35	0.76	0.35	N-30°-E
1区 26号土坑	62751	-85326	円形	0.51	0.49	0.16	N-33°-E
1区 27号土坑	62744 ~ 62745	-85297 ~ -85298	隅丸長方形	1.43	0.62	0.05	N-6°-E
1区 28号土坑	62757 ~ 62758	-85327	円形	0.83	0.72	0.23	N-46°-W
1区 29号土坑	62746 ~ 62747	-85345 ~ -85346	円形	0.48	0.48	0.24	N-16°-W
1区 30号土坑	62739 ~ 62740	-85337 ~ -85338	円形	1.05	0.97	0.24	N-40°-E
1区 31号土坑	62744 ~ 62745	-85340 ~ -85341	隅丸長方形	1.52	0.48	0.10	N-38°-E
1区 32号土坑	62744 ~ 62747	-85338	隅丸長方形	2.70	0.50	0.45	N-4°-W
1区 33号土坑	62745 ~ 62746	-85326	円形	0.67	0.59	0.23	N-26°-W
1区 34号土坑	62745	-85324 ~ -85325	円形	0.81	0.69	0.56	N-30°-E
2区 35号土坑	62720 ~ 62721	-85352 ~ -85353	円形	1.02	1.02	0.17	N-25°-W
2区 36号土坑	62717 ~ 62718	-85351 ~ -85352	隅丸長方形	2.25	1.49	0.52	N-85°-E

中・近世

遺構名	X軸	Y軸	形状	長径	短径	深さ	主軸方位
1区 37号土坑	62750 ~ 62751	-85344	円形	0.42	0.40	0.17	N-52°-W
2区 38号土坑	62703 ~ 62705	-85348 ~ -85349	隅丸長方形	1.85	1.09	0.25	N-45°-W
1区 39号土坑	62746 ~ 62748	-85317 ~ -85319	円形	1.53	1.39	1.81	N-10°-E
1区 40号土坑	62739 ~ 62740	-85312 ~ -85314	隅丸長方形	2.12	0.62	0.79	N-85°-W
1区 41号土坑	62737	-85299	円形	0.41	0.40	0.18	N-47°-E
1区 42号土坑	62737	-85299	隅丸長方形	0.66	0.41	0.41	N-70°-W
2区 44号土坑	62725 ~ 62726	-85720 ~ -85721	隅丸長方形か	(0.77)	0.67	0.07	N-52°-W
2区 45号土坑	62731 ~ 62732	-85347 ~ -85348	円形	0.65	0.64	0.33	N-33°-E
1区 49号土坑	62754 ~ 62755	-85312 ~ -85313	隅丸長方形	(0.77)	0.53	0.43	N-40°-E
1区 65号土坑	62731	-85386 ~ -85387	隅丸長方形	0.88	0.55	0.28	N-51°-E
1区 66号土坑	62739 ~ 62740	-85294 ~ -85295	隅丸長方形	1.47	0.29	0.17	N-51°-W

第20表 ビット計測表

縄文時代

遺構名	長径	短径	深さ	主軸方位	備考
1区 233ビット	0.26	0.20	0.18	N-70°-E	
1区 234ビット	0.24	0.21	0.33	N-30°-E	
1区 235ビット	0.24	0.22	0.31	N-70°-W	
1区 236ビット	0.24	0.22	0.33	N-27°-E	

古墳時代

遺構名	長径	短径	深さ	主軸方位	備考
1区 228ビット	0.24	0.24	0.11	N-86°-W	
1区 229ビット	0.26	0.25	0.17	N-85°-E	
1区 230ビット	0.26	0.23	0.20	N-35°-W	
1区 231ビット	0.26	0.25	0.35	N-66°-W	
1区 232ビット	0.20	0.19	0.17	N-40°-W	

飛鳥～平安時代

遺構名	長径	短径	深さ	主軸方位	備考
1区 218ビット	0.30	0.26	0.15	N-20°-W	
1区 219ビット	0.20	0.20	0.16	N-71°-W	
1区 220ビット	0.34	0.28	0.27	N-70°-W	
1区 221ビット	0.34	0.32	0.09	N-76°-W	
1区 222ビット	0.25	0.22	0.07	N-40°-W	
1区 223ビット	0.26	0.20	0.09	N-14°-W	
1区 224ビット	0.30	0.30	0.08	N-46°-E	
1区 225ビット	0.28	0.24	0.31	N-50°-E	
1区 226ビット					欠番(42号土坑)
1区 227ビット					欠番(42号土坑)

中・近世

遺構名	長径	短径	深さ	主軸方位	備考
1区 1ビット	0.32	0.29	0.17	N-40°-W	
1区 2ビット	0.24	0.22	0.10	N-60°-W	
1区 3ビット	0.36	0.32	0.14	N-57°-W	
1区 4ビット	0.36	0.36	0.31	N-50°-E	
1区 5ビット	0.24	0.16	0.11	N-18°-W	
1区 6ビット	0.52	0.46	0.01	N-54°-W	
1区 7ビット	0.31	0.28	0.57	N-57°-W	
1区 8ビット	0.61	0.50	0.06	N-34°-E	
1区 9ビット	0.28	0.24	0.08	N-75°-W	
1区 10ビット	0.38	0.26	0.19	N-22°-E	
1区 11ビット	0.46	0.42	0.29	N-50°-W	
1区 12ビット	0.40	0.33	0.12	N-50°-W	
1区 13ビット	0.40	0.36	0.55	N-40°-E	
1区 14ビット	0.26	0.24	0.42	N-60°-E	
1区 15ビット	0.31	0.26	0.14	N-46°-W	
1区 16ビット	0.28	0.26	0.12	N-86°-E	
1区 17ビット	0.30	0.27	0.22	N-30°-W	
1区 18ビット	0.36	0.35	0.42	N-33°-E	
1区 19ビット	0.32	0.30	0.27	N-80°-E	
1区 20ビット	0.28	0.22	0.13	N-53°-W	
1区 21ビット	0.42	0.31	0.14	N-73°-E	
1区 22ビット	0.34	0.26	0.21	N-10°-W	
1区 23ビット	0.31	0.25	0.19	N-73°-E	
1区 24ビット	0.28	0.22	0.30	N-72°-W	
1区 25ビット	0.29	0.24	0.14	N-65°-E	
1区 26ビット					欠番(11号掘立)

中・近世

遺構名	長径	短径	深さ	主軸方位	備考
1区 27ビット					欠番(11号掘立)
1区 28ビット					欠番(12号掘立)
1区 29ビット	0.35	0.29	0.30	N-78°-W	
1区 30ビット	0.32	0.30	0.30	N-30°-W	
1区 31ビット	0.48	0.42	0.13	N-21°-E	
1区 32ビット	0.26	0.18	0.10	N-20°-E	
1区 33ビット					欠番(2号掘)
1区 34ビット					欠番(3号掘)
1区 35ビット	0.31	0.26	0.12	N-65°-W	
1区 36ビット	0.27	0.22	0.08	N-60°-W	
1区 37ビット	0.38	0.34	0.50	N-32°-E	
1区 38ビット	0.28	0.24	0.12	N-41°-W	
1区 39ビット					欠番(12号掘立)
1区 40ビット	0.36	0.32	0.28	N-35°-E	
1区 41ビット	0.26	0.23	0.11	N-17°-W	
1区 42ビット	0.24	0.22	0.11	N-30°-E	
1区 43ビット	0.32	0.29	0.72	N-20°-E	
1区 44ビット	0.25	0.25	0.11	N-80°-W	
1区 45ビット					欠番(2号掘立)
1区 46ビット					欠番(11号掘立)
1区 47ビット	0.24	0.23	0.18	N-20°-E	
1区 48ビット					欠番(11号掘立)
1区 49ビット	0.34	0.30	0.23	N-78°-E	
1区 50ビット	0.20	0.19	0.31	N-51°-W	
1区 51ビット	0.20	0.20	0.19	N-32°-E	
1区 52ビット	0.20	0.18	0.31	N-26°-E	
1区 53ビット	0.24	0.23	0.39	N-10°-E	
1区 54ビット	0.22	0.20	0.28	N-15°-E	
1区 55ビット	0.22	0.16	0.11	N-50°-E	
1区 56ビット	0.19	0.18	0.17	N-40°-E	
1区 57ビット					欠番(12号掘立)
1区 58ビット					欠番(11号掘立)
1区 59ビット	0.38	0.32	0.43	N-12°-W	
1区 60ビット	0.40	0.32	0.51	N-53°-W	
1区 61ビット					欠番(11号掘立)
1区 62ビット					欠番(12号掘立)
1区 63ビット					欠番(2号掘立)
1区 64ビット					欠番(14号掘立)
1区 65ビット	0.22	0.22	0.08	N-40°-E	
1区 66ビット					欠番(2号掘立)
1区 67ビット					欠番(14号掘立)
1区 68ビット					欠番(13号掘立)
1区 69ビット					欠番(15号掘立)
1区 70ビット					欠番(12号掘立)
1区 71ビット					欠番(11号掘立)
1区 72ビット					欠番(13号掘立)
1区 73ビット	0.20	0.15	0.31	N-33°-W	
1区 74ビット					欠番(14号掘立)
1区 75ビット	0.22	0.20	0.20	N-55°-W	
1区 76ビット	0.26	0.20	0.13	N-68°-W	
1区 77ビット					欠番(14号掘立)
1区 78ビット					欠番(2号掘立)
1区 79ビット	0.26	0.17	0.06	N-70°-E	
1区 80ビット					欠番(2号掘立)

中・近世

道標名	長径	短径	深さ	主軸方位	備考
1区 81ビット					欠番(13号願立)
1区 82ビット					欠番(13号願立)
1区 83ビット					欠番(15号願立)
1区 84ビット					欠番(14号願立)
1区 85ビット					欠番(13号願立)
1区 86ビット					欠番(12号願立)
1区 87ビット	0.20	0.20	0.12	N-13°-E	
1区 88ビット	0.26	0.22	0.16	N-38°-W	
1区 89ビット					欠番(15号願立)
1区 90ビット					欠番(14号願立)
1区 91ビット	0.26	0.20	0.39	N-43°-W	
1区 92ビット	0.22	0.20	0.21	N-22°-W	
1区 93ビット					欠番(12号願立)
1区 94ビット					欠番(14号願立)
1区 95ビット	0.22	0.17	0.17	N-5°-W	
1区 96ビット					欠番(15号願立)
1区 97ビット					欠番(13号願立)
1区 98ビット	0.20	0.14	0.09	N-30°-W	
1区 99ビット					欠番(5号願立)
1区 100ビット	0.24	0.20	0.21	N-26°-W	
1区 101ビット					欠番(15号願立)
1区 102ビット					欠番(14号願立)
1区 103ビット	0.22	0.20	0.31	N-17°-E	
1区 104ビット					欠番(14号願立)
1区 105ビット	0.22	0.20	0.18	N-40°-E	
1区 106ビット	0.36	0.30	0.39	N-42°-W	
1区 107ビット	0.25	0.25	0.15	N-25°-E	
1区 108ビット	0.28	0.23	0.10	N-36°-E	
1区 109ビット	0.32	0.26	0.19	N-5°-E	
1区 110ビット	0.22	0.20	0.16	N-23°-E	
1区 111ビット	0.24	0.24	0.28	N-30°-E	
1区 112ビット	0.28	0.24	0.20	N-10°-E	
1区 113ビット	0.32	0.26	0.27	N-55°-W	
1区 114ビット					欠番(5号願立)
1区 115ビット	0.36	0.33	0.22	N-7°-E	
1区 116ビット	0.26	0.22	0.34	N-75°-W	
1区 117ビット					欠番(5号願立)
1区 118ビット	0.22	0.20	0.14	N-60°-W	
1区 119ビット	0.18	0.14	0.07	N-70°-W	
1区 120ビット	0.28	0.26	0.11	N-66°-W	
1区 121ビット	0.50	0.44	0.40	N-40°-E	
1区 122ビット	0.24	0.23	0.11	N-75°-W	
1区 123ビット	0.41	0.36	0.06	N-68°-W	
1区 124ビット	0.50	0.36	0.25	N-77°-W	
1区 125ビット					欠番(5号願立)
1区 126ビット	0.21	0.20	0.13	N-5°-E	
1区 127ビット	0.22	0.20	0.15	N-15°-E	
1区 128ビット	0.36	0.32	0.21	N-50°-W	
1区 129ビット	0.26	0.23	0.18	N-35°-E	
1区 130ビット	0.36	0.32	0.12	N-30°-E	
1区 131ビット	0.33	0.30	0.17	N-57°-W	
1区 132ビット	0.34	0.22	0.16	N-24°-E	
1区 133ビット	0.24	0.20	0.31	N-14°-W	
1区 134ビット					欠番(11号願立)
1区 135ビット					欠番(14号願立)
1区 136ビット	(0.38)	(0.27)	0.23	N-55°-W	
1区 137ビット					欠番(12号願立)
1区 138ビット					欠番(13号願立)
1区 139ビット	0.52	0.46	0.54	N-46°-E	
1区 140ビット	0.56	0.50	0.48	N-29°-W	
1区 141ビット					欠番(12号願立)
1区 142ビット	0.23	0.20	0.13	N-15°-E	
1区 143ビット					欠番(13号願立)
1区 144ビット	0.26	0.22	0.29	N-65°-W	
1区 145ビット	0.26	0.20	0.28	N-16°-W	
1区 146ビット	0.40	0.32	0.06	N-18°-E	
1区 147ビット	0.25	0.20	0.45	N-72°-W	
1区 148ビット	0.26	0.24	0.28	N-53°-W	

道標名	長径	短径	深さ	主軸方位	備考
1区 149ビット	0.22	0.19	0.21	N-30°-E	
1区 150ビット	0.26	0.20	0.55	N-58°-E	
1区 151ビット					欠番(2号願立)
1区 152ビット	(0.23)	0.22	0.10	N-66°-W	
1区 153ビット	0.16	0.16	0.05	N-12°-E	
1区 154ビット	0.24	0.19	0.17	N-73°-W	
1区 155ビット	0.27	0.24	0.47	N-20°-W	
1区 156ビット	0.33	0.28	0.12	N-67°-W	
1区 157ビット	0.31	0.29	0.14	N-70°-W	
1区 158ビット	0.23	0.17	0.33	N-23°-E	
1区 159ビット	0.18	0.18	0.15	N-32°-E	
1区 160ビット	0.25	0.21	0.16	N-55°-W	
1区 161ビット	0.22	0.22	0.24	N-40°-E	
1区 162ビット	0.30	0.28	0.19	N-5°-W	
1区 163ビット	0.28	0.26	0.17	N-17°-E	
1区 164ビット	0.30	0.28	0.15	N-75°-E	
1区 165ビット	0.30	0.25	0.29	N-30°-E	
1区 166ビット	0.30	0.22	0.29	N-4°-E	
1区 167ビット	0.20	0.19	0.29	N-58°-E	
1区 168ビット	0.24	0.24	0.19	N-20°-E	
1区 169ビット	0.26	0.24	0.33	N-40°-E	
1区 170ビット	0.18	0.17	0.15	N-40°-W	
1区 171ビット	0.20	0.18	0.17	N-37°-E	
1区 172ビット	0.26	0.24	0.28	N-80°-W	
1区 173ビット	0.24	0.21	0.24	N-25°-E	
1区 174ビット	0.27	0.25	0.20	N-4°-E	
1区 175ビット	0.26	0.23	0.16	N-26°-E	
1区 176ビット	0.33	0.32	0.28	N-57°-E	
1区 177ビット	0.30	0.24	0.31	N-63°-W	
1区 178ビット	0.42	0.36	0.30	N-55°-E	
1区 179ビット	0.23	0.22	0.24	N-19°-E	
1区 180ビット	0.38	0.36	0.42	N-70°-E	
1区 181ビット	0.27	0.26	0.44	N-70°-W	
2区 182ビット	0.23	0.22	0.31	N-40°-E	
2区 183ビット					欠番(3号標)
2区 184ビット					欠番(3号標)
2区 185ビット					欠番(2号標)
1区 186ビット					欠番(2号標)
1区 187ビット	0.42	0.34	0.31	N-85°-W	
1区 188ビット					欠番(2号願立)
1区 189ビット	0.26	0.24	0.49	N-30°-W	
1区 190ビット	0.46	0.41	0.66	N-60°-E	
2区 191ビット	0.30	0.26	0.51	N-20°-E	
2区 192ビット	0.26	0.25	0.27	N-15°-W	
2区 193ビット	0.24	0.23	0.14	N-14°-W	
2区 194ビット	0.22	0.22	0.30	N-69°-W	
2区 195ビット	0.40	0.24	0.32	N-30°-E	
2区 196ビット	0.26	0.25	0.16	N-17°-E	
2区 197ビット	0.19	0.18	0.17	N-25°-E	
2区 198ビット	0.19	0.18	0.09	N-75°-W	
2区 199ビット					欠番(2号標)
2区 200ビット					欠番(2号標)
2区 201ビット					欠番(3号標)
2区 202ビット	0.30	(0.19)	0.29	N-15°-E	
2区 203ビット					欠番(2号標)
2区 204ビット	0.28	0.27	0.29	N-75°-W	
2区 205ビット	0.28	0.26	0.41	N-65°-W	
2区 206ビット	0.28	0.24	0.64	N-15°-E	
2区 207ビット	0.35	0.26	0.27	N-48°-W	
2区 208ビット	0.26	(0.14)	0.39	N-12°-E	
1区 209ビット	0.66	0.60	0.73	N-50°-E	
1区 210ビット					欠番(8号願立)
1区 211ビット					欠番(8号願立)
1区 212ビット					欠番(8号願立)
1区 213ビット	0.57	0.50	0.86	N-58°-W	
1区 214ビット					欠番(8号願立)
1区 215ビット					欠番(8号願立)
1区 216ビット	0.30	0.26	0.50	N-57°-E	
1区 217ビット	0.36	0.30	0.30	N-24°-W	

第21表 石器観察表

No	採 掘 国・ PL.No.	時 代	出土位置	取上 番号	出土 層位	器 種	形 態	石 材	残存 点 数	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備 考	
1		縄文	1区1号溝			石鏝	凸基有茎鏝	黒曜石	完形	1	24	10	5	1.0	
2		縄文	1区1号溝			刮片		ホルンフェルス	1	1				42.5	
3		縄文	2区51号土坑			スクレイパー		珪質頁岩	完形	1	45	32	14	18.6	
4		縄文	2区51号土坑			刮片		黒曜石	1	1				4.2	
5		縄文	1区1号竪穴建物		振り方	打製石斧		細粒輝石安山岩	完形	1	69	53	26	123.3	
6		縄文	1区1号竪穴建物		振り方	刮片		珪質頁岩	1	1				4.5	
7	第279148・PL.64	縄文	1区1号竪穴建物			打製石斧		珪質頁岩	完形	1	77	44	16	62.6	
8		縄文	1区2号竪穴建物	77		石核		黒曜石	完形	1	22	12	9	1.9	
9		縄文	1区2号竪穴建物			打製石斧		細粒輝石安山岩	欠損	1	64	66	20	103.4	
10		縄文	1区3号竪穴建物			刮片		珪質頁岩	4	4				74.4	
11	第269162・PL.65	縄文	1区4号竪穴建物	36		打製石斧		珪質頁岩	完形	1	84	48	18	84.8	
12		縄文	1区4号竪穴建物			刮片		赤碧玉	2	2				9.0	
13		縄文	1区4号竪穴建物		振り方	刮片		赤碧玉	1	1				4.3	
14		縄文	1区4号竪穴建物			刮片		珪質頁岩	1	1				8.1	
15		縄文	1区4号竪穴建物			刮片		黒色頁岩	1	1				4.6	
16	第279149・PL.64	縄文	1区6号竪穴建物	46		打製石斧		黒色頁岩	完形	1	97	30	13	61.4	
17		縄文	1区6号竪穴建物			刮片		黒色安山岩	1	1				3.8	
18		縄文	1区6号竪穴建物			刮片		黒色頁岩	1	1				9.4	
19	第259127・PL.63	縄文	1区7号竪穴建物	38		石鏝	凹基無茎鏝	黒曜石	欠損	1	18	16	3	0.7	産地分析
20	第259121・PL.63	縄文	1区8号竪穴建物			石鏝	凹基無茎鏝	黒曜石	完形	1	35	21	4	2.5	産地分析
21		縄文	1区8号竪穴建物			刮片		珪質頁岩	1	1				7.5	
22	第309120・PL.69	縄文	1区8号竪穴建物	30		台石		粗粒輝石安山岩	完形	1	149	114	52	1,071.1	
23	第269170・PL.66	縄文	1区11号竪穴建物	11		打製石斧		珪質頁岩	完形	1	83	73	29	224.5	
24		縄文	1区16号竪穴建物			石核		黒曜石	完形	1	20	26	13	5.4	
25	第289160・PL.65	縄文	1区16号竪穴建物	56		打製石斧		黒色頁岩	完形	1	179	64	23	290.9	
26	第279151・PL.64	縄文	1区16号竪穴建物	57		打製石斧		黒色頁岩	完形	1	116	46	19	127.2	
27		縄文	1区16号竪穴建物	1		ドリル		黒曜石	完形	1	10	5	2	0.1	
28		縄文	1区16号竪穴建物			刮片		黒色頁岩	1	1				13.2	
29		縄文	1区16号竪穴建物			刮片		黒曜石	1	1				2.4	
30		縄文	1区16号竪穴建物			刮片		石英	1	1				12.3	
31		縄文	1区16号竪穴建物			刮片		流紋岩	1	1				3.5	
32	第329180・PL.67	縄文	2区5号竪穴建物	19		凹石		粗粒輝石安山岩	完形	1	140	95	55	1,047.5	
33		縄文	2区20号竪穴建物	18		刮片		珪質頁岩	1	1				12.6	
34	第13915・PL.59	縄文	2区20号竪穴建物	1		台石		粗粒輝石安山岩	完形	1	185	153	79	3,135.6	
35		縄文	1区725-285グリッド		既削	刮片		赤碧玉	1	1				4.9	
36		縄文	1区725-285グリッド		既削	刮片		珪質頁岩	2	2				33.2	
37		縄文	1区725-285グリッド		既削	刮片		黒色頁岩	1	1				8.0	
38	第339192・PL.67	縄文	1区725-285グリッド		既削	磨石		粗粒輝石安山岩	完形	1	106	88	70	870.2	
39	第339178・PL.66	縄文	1区730-290グリッド	32		石核		ホルンフェルス	完形	1	68	65	26	107.4	
40		縄文	1区730-290グリッド		既削	刮片		珪質頁岩	3	3				14.5	
41		縄文	1区730-290グリッド		既削	刮片		黒色頁岩	2	2				17.1	
42		縄文	1区730-290グリッド		既削	刮片		黒曜石	1	1				0.5	
43	第379126・PL.70	縄文	1区730-290グリッド			スタンプ形石器		粗粒輝石安山岩	完形	1	84	37	25	114.7	
44	第289152・PL.65	縄文	1区730-295グリッド	38		打製石斧		珪質頁岩	完形	1	110	46	16	87.9	
45		縄文	1区730-295グリッド		既削	刮片		珪質頁岩	3	3				11.0	
46		縄文	1区730-295グリッド		既削	刮片		黒色安山岩	1	1				1.7	
47		縄文	1区730-295グリッド		既削	刮片		黒色頁岩	1	1				5.2	
48	第309121・PL.69	縄文	1区730-295グリッド			台石		粗粒輝石安山岩	完形	1	142	91	56	1,055.8	
49	第309135・PL.63	縄文	1区730-300グリッド	61		石鏝	平基無茎鏝	珪質頁岩	完形	1	27	20	3	1.5	
50		縄文	1区730-300グリッド	60		打製石斧		粗粒輝石安山岩	欠損	1	100	51	15	95.8	
51		縄文	1区730-300グリッド		既削	刮片		黒色頁岩	5	5				26.1	
52		縄文	1区730-305グリッド		既削	刮片		黒色頁岩	1	1				2.8	
53		縄文	1区730-305グリッド		既削	刮片		黒曜石	1	1				1.2	
54	第269164・PL.65	縄文	1区730-310グリッド	64		打製石斧		粗粒輝石安山岩	完形	1	114	46	21	134.1	
55		縄文	1区730-310グリッド		既削	刮片		黒色安山岩	1	1				1.5	
56		縄文	1区730-310グリッド		既削	刮片		黒色頁岩	3	3				22.7	
57		縄文	1区730-315グリッド		既削	刮片		珪質頁岩	2	2				3.5	
58		縄文	1区730-315グリッド		既削	刮片		黒曜石	2	2				0.3	
59		縄文	1区735-285グリッド			石鏝	凹基無茎鏝	黒曜石	欠損	1	19	9	3	0.3	
60		縄文	1区735-285グリッド		既削	刮片		黒曜石	1	1				0.1	
61		縄文	1区735-285グリッド		既削	刮片		粗粒輝石安山岩	1	1				11.0	
62	第339193・PL.67	縄文	1区735-285グリッド			磨石		粗粒輝石安山岩	完形	1	72	59	54	320.5	
63	第339191・PL.67	縄文	1区735-290グリッド			石核		黒曜石	完形	1	18	31	11	4.6	産地分析
64	第259125・PL.63	縄文	1区735-290グリッド	28		石鏝	凹基無茎鏝	黒曜石	完形	1	23	17	4	0.7	産地分析
65		縄文	1区735-290グリッド			二次加工刮片		珪質頁岩	完形	1	49	78	19	68.2	
66		縄文	1区735-290グリッド		既削	刮片		珪質頁岩	1	1				2.2	
67		縄文	1区735-290グリッド		既削	刮片		粗粒輝石安山岩	1	1				52.3	
68	第339177・PL.66	縄文	1区735-295グリッド	33		石核		チャート	完形	1	98	96	37	411.1	

No	挿入 PL No.	時代	出土位置	取上 番号	出土 層位	器種	形態	石材	残存 点数	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考		
69		縄文	IK735-295グリッド	41		打製石斧		珧質頁岩	完形	1	78	51	14	59.9		
70	第2004167・PL.66	縄文	IK735-295グリッド	21		打製石斧		粗粒輝石安山岩	完形	1	133	79	27	343.2		
71		縄文	IK735-295グリッド		既削	刮片		珧質頁岩	2					5.3		
72		縄文	IK735-295グリッド		既削	刮片		黒色安山岩	1					2.0		
73		縄文	IK735-295グリッド		既削	刮片		黒色頁岩	1					1.9		
74		縄文	IK735-295グリッド		既削	刮片		黒曜石	2					1.6		
75		縄文	IK735-295グリッド		既削	刮片		粗粒輝石安山岩	1					23.1		
76		縄文	IK735-295グリッド		既削	刮片		ホルンフェルス	1					7.8		
77	第3294189・PL.67	縄文	IK735-295グリッド			凹石		粗粒輝石安山岩	完形	1	91	66	46	322.4		
78	第3294165・PL.65	縄文	IK735-300グリッド	22		打製石斧		黒色頁岩	完形	1	157	51	31	310.3		
79	第3294186・PL.67	縄文	IK735-300グリッド	48		両面調整石器		珧質頁岩	完形	1	46	23	10	9.8		
80		縄文	IK735-305グリッド		既削	刮片		黒曜石	1					1.7		
81		縄文	IK735-310グリッド			二次加工刮片		砂岩	完形	1	59	80	31	190.2		
82		縄文	IK735-310グリッド		既削	刮片		珧質頁岩	1					3.7		
83		縄文	IK735-310グリッド	65	既削	刮片		結晶片岩	1					30.2		
84		縄文	IK735-310グリッド		既削	刮片		黒曜石	3					2.4		
85		縄文	IK735-310グリッド		既削	刮片		ホルンフェルス	1					1.5		
86		縄文	IK735-310グリッド			凹石		粗粒輝石安山岩	欠損	1	84	50	44	94.2		
87		縄文	IK735-310グリッド			磨石		粗粒輝石安山岩	完形	1	61	55	39	158.2		
88	第3104181・PL.67	縄文	IK735-315グリッド			石核		黒曜石	完形	1	18	26	14	5.4	産地分析	
89	第2004139・PL.64	縄文	IK735-315グリッド	67	石籠			赤碧玉	完形	1	33	15	5	2.0		
90		縄文	IK735-315グリッド	69	石籠			粗粒輝石安山岩	欠損	1	21	21	4	2.2		
91		縄文	IK735-315グリッド			打製石斧		珧質頁岩	完形	1	59	67	15	77.5		
92		縄文	IK735-315グリッド		既削	刮片		珧質頁岩	1					0.6		
93		縄文	IK735-315グリッド			敲石		閃緑岩	1	101	50	48	402.6			
94	第3104204・PL.68	縄文	IK735-320グリッド			敲石		粗粒輝石安山岩	完形	1	112	66	47	492.0		
95		縄文	IK735-325グリッド			スクレイパー		珧質頁岩	完形	1	58	68	10	46.1		
96		縄文	IK735-325グリッド			石籠		黒曜石	欠損	1	20	10	4	0.9		
97		縄文	IK735-325グリッド	2-2面	刮片			黒色安山岩	1					4.1		
98		縄文	IK735-330グリッド	2-2面	刮片			黒曜石	2					1.7		
99	第2004138・PL.64	縄文	IK740-285グリッド	25	石籠			凸基有葉礫	珧質頁岩	完形	1	30	14	4	1.6	
100		縄文	IK740-285グリッド		既削	刮片		黒色頁岩	1					12.1		
101		縄文	IK740-285グリッド		既削	刮片		黒曜石	2					0.9		
102	第3294190・PL.67	縄文	IK740-285グリッド			凹石		粗粒輝石安山岩	完形	1	91	88	62	689.3		
103	第2004137・PL.64	縄文	IK740-290グリッド	27	既削	石籠		凸基有葉礫	珧質頁岩	完形	1	30	14	4	1.2	
104	第2004153・PL.65	縄文	IK740-290グリッド	29		打製石斧		珧質頁岩	完形	1	90	46	13	68.8		
105		縄文	IK740-290グリッド		既削	刮片		珧質頁岩	2					9.3		
106		縄文	IK740-290グリッド		既削	刮片		黒曜石	1					0.8		
107		縄文	IK740-290グリッド		既削	刮片		ホルンフェルス	1					1.5		
108	第2704145・PL.64	縄文	IK740-295グリッド		既削	石籠		黒色頁岩	欠損	1	68	34	7	15.0		
109	第3004172・PL.66	縄文	IK740-295グリッド	37		打製石斧		珧質頁岩	完形	1	78	52	25	95.3		
110	第3104184・PL.67	縄文	IK740-295グリッド	34		ドリル		流紋岩	完形	1	30	11	6	1.4		
111	第3104185・PL.67	縄文	IK740-295グリッド		既削	二次加工刮片		黒曜石	完形	1	18	22	8	2.7	産地分析	
112		縄文	IK740-295グリッド		既削	刮片		珧質頁岩	4					23.5		
113		縄文	IK740-295グリッド		既削	刮片		黒色頁岩	2					34.8		
114		縄文	IK740-295グリッド		既削	刮片		黒曜石	2					0.8		
115		縄文	IK740-295グリッド		既削	刮片		粗粒輝石安山岩	2					43.8		
116		縄文	IK740-295グリッド		既削	磨石		粗粒輝石安山岩	完形	1	105	81	68	809.3		
117	第3304194・PL.68	縄文	IK740-295グリッド		既削	磨石		粗粒輝石安山岩	完形	1	119	94	64	998.1		
118		縄文	IK740-300グリッド	57	既削	石籠		凸基有葉礫	黒曜石	欠損	1	13	15	2	0.5	
119	第2004141・PL.64	縄文	IK740-300グリッド	51	既削	石籠		不明	珧質頁岩	欠損	1	25	16	4	0.7	
120	第2004160・PL.66	縄文	IK740-300グリッド	52	既削	打製石斧		黒色頁岩	完形	1	107	59	24	154.0		
121		縄文	IK740-300グリッド		既削	刮片		黒色安山岩	1					3.7		
122		縄文	IK740-300グリッド		既削	刮片		黒色頁岩	3					93.7		
123		縄文	IK740-305グリッド		既削	刮片		珧質頁岩	3					40.6		
124		縄文	IK740-305グリッド		既削	刮片		黒曜石	3					1.1		
125		縄文	IK740-305グリッド		既削	刮片		ホルンフェルス	1					1.3		
126	第3304191・PL.67	縄文	IK740-305グリッド		既削	凹石		粗粒輝石安山岩	完形	1	100	85	54	558.5		
127	第2704146・PL.64	縄文	IK740-310グリッド		既削	楔形石器		珧質頁岩	完形	1	26	31	14	9.5		
128	第2004136・PL.64	縄文	IK740-310グリッド		既削	石籠		凸基有葉礫	完形	1	20	17	5	1.5		
129	第2004142・PL.64	縄文	IK740-310グリッド		既削	石籠		未成品	黒曜石	完形	1	22	23	10	3.7	産地分析
130		縄文	IK740-310グリッド		既削	刮片		黒色安山岩	2					29.3		
131		縄文	IK740-310グリッド		既削	刮片		黒色頁岩	1					1.8		
132	第3304205・PL.69	縄文	IK740-310グリッド		既削	敲石		粗粒輝石安山岩	完形	1	123	42	27	231.1		
133	第3304206・PL.69	縄文	IK740-310グリッド		既削	敲石		粗粒輝石安山岩	完形	1	88	54	25	176.7		
134	第3104183・PL.67	縄文	IK740-315グリッド		既削	石核		黒曜石	完形	1	18	24	10	3.2	産地分析	
135	第2004128・PL.63	縄文	IK740-315グリッド	68	既削	石籠		凸基有葉礫	黒曜石	完形	1	15	13	3	0.5	産地分析
136		縄文	IK740-315グリッド		既削	打製石斧		珧質頁岩	欠損	1	51	43	13	33.9		
137		縄文	IK740-315グリッド		既削	刮片		珧質頁岩	1					11.8		

No	挿入 Fl.No.	時代	出土位置	取上 番号	出土 層位	器種	形態	石材	残存 点数	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	
138		縄文	ⅠR740-320グリッド		2-2面	打製石斧		黒色頁岩	欠損	1	51	34	16	35.4	
139		縄文	ⅠR740-320グリッド		2-2面	打製石斧		細粒輝石安山岩	欠損	1	57	53	15	61.2	
140		縄文	ⅠR740-320グリッド		2-2面	削片		黒色頁岩		1				6.8	
141		縄文	ⅠR740-320グリッド		2-2面	削片		黒曜石		1				1.0	
142		縄文	ⅠR740-320グリッド		2-2面	削片		細粒輝石安山岩		2				6.7	
143		縄文	ⅠR740-320グリッド		2-2面	削片		粗粒輝石安山岩		1				4.3	
144		縄文	ⅠR740-325グリッド		2-2面	打製石斧		細粒輝石安山岩	欠損	1	85	53	21	125.8	
145		縄文	ⅠR740-325グリッド		2-2面	削片		珪質頁岩		1				7.1	
146		縄文	ⅠR740-325グリッド		2-2面	削片		珪質頁岩		4				17.7	
147		縄文	ⅠR740-325グリッド		2-2面	削片		黒色頁岩		3				31.5	
148		縄文	ⅠR740-325グリッド		2-2面	削片		粗粒輝石安山岩		1				10.7	
149		縄文	ⅠR740-325グリッド		2-2面	削片		流紋岩		1				20.0	
150		縄文	ⅠR740-330グリッド		2-2面	削片		黒色安山岩		1				0.7	
151		縄文	ⅠR740-330グリッド		2-2面	削片		黒色頁岩		1				7.1	
152		縄文	ⅠR740-330グリッド		2-2面	削片		粗粒輝石安山岩		1				13.3	
153		縄文	ⅠR740-330グリッド		2-2面	削片		ホルンフェルス		1				16.1	
154	第300190・Pl.68	縄文	ⅠR740-330グリッド		2-2面	凹石		粗粒輝石安山岩	完形	1	114	64	37	377.2	
155	第200140・Pl.64	縄文	ⅠR740-335グリッド	14	2-2面	石鏝	凸基有葉鏝	碧玉	完形	1	44	16	5	2.3	
156		縄文	ⅠR740-335グリッド		2-2面	打製石斧		粗粒輝石安山岩	欠損	1	81	52	27	147.2	
157		縄文	ⅠR740-335グリッド		2-2面	削片		珪質頁岩		1				3.2	
158		縄文	ⅠR740-335グリッド		2-2面	削片		黒色頁岩		1				22.1	
159	第300199・Pl.68	縄文	ⅠR740-335グリッド		2-2面	凹石		粗粒輝石安山岩	完形	1	129	82	53	800.2	
160	第200166・Pl.65	縄文	ⅠR740-340グリッド	16	2-2面	打製石斧		粗粒輝石安山岩	完形	1	121	52	23	159.5	
161	第280154・Pl.65	縄文	ⅠR740-340グリッド	17	2-2面	打製石斧		細粒輝石安山岩	完形	1	107	47	22	169.5	
162		縄文	ⅠR740-340グリッド		2-2面	二次加工削片		黒色頁岩	完形	1	49	54	20	56.4	
163		縄文	ⅠR740-340グリッド		2-2面	削片		珪質頁岩		1				15.2	
164		縄文	ⅠR740-340グリッド		2-2面	削片		黒色安山岩		1				17.6	
165		縄文	ⅠR740-340グリッド		2-2面	削片		黒色頁岩		2				22.4	
166		縄文	ⅠR740-340グリッド		2-2面	削片		黒曜石		1				1.9	
167		縄文	ⅠR740-345グリッド		2-2面	石核		黒曜石	完形	1	24	15	40	1.8	
168		縄文	ⅠR740-345グリッド		2-2面	打製石斧		珪質頁岩	完形	1	42	40	11	27.0	
169		縄文	ⅠR740-345グリッド		2-2面	打製石斧		粗粒輝石安山岩	完形	1	82	30	11	46.4	
170		縄文	ⅠR740-345グリッド		2-2面	二次加工削片		黒色安山岩	完形	1	34	41	8	12.8	
171		縄文	ⅠR740-345グリッド		2-2面	削片		黒曜石		1				0.6	
172	第300195・Pl.68	縄文	ⅠR740-350グリッド		2-2面	磨石		粗粒輝石安山岩	完形	1	138	70	36	561.9	
173	第300212・Pl.70	縄文	ⅠR740-350グリッド		2-2面	凹石		粗粒輝石安山岩	欠損	1	171	107	67	1,462.2	
174		縄文	ⅠR745-285グリッド		2-2面	削片		赤碧玉		1				0.8	
175		縄文	ⅠR745-285グリッド		2-2面	削片		珪質頁岩		1				18.3	
176		縄文	ⅠR745-285グリッド		2-2面	削片		黒色安山岩		1				6.3	
177	第200131・Pl.63	縄文	ⅠR745-290グリッド	30	2-2面	石鏝	凹基無葉鏝	黒色頁岩	完形	1	16	13	2	0.5	
178	第200130・Pl.63	縄文	ⅠR745-290グリッド	26	2-2面	石鏝	凹基無葉鏝	チャート	完形	1	19	18	2	0.7	
179		縄文	ⅠR745-290グリッド		2-2面	二次加工削片		粗粒輝石安山岩	完形	1	56	53	19	78.9	
180		縄文	ⅠR745-290グリッド		2-2面	削片		黒色頁岩		1				1.7	
181	第300174・Pl.66	縄文	ⅠR745-290グリッド	31	2-2面	石器		粗粒輝石安山岩	完形	1	146	95	47	648.9	
182	第300182・Pl.67	縄文	ⅠR745-295グリッド		2-2面	石核		黒曜石	完形	1	26	20	10	4.8	産地分析
183	第200158・Pl.65	縄文	ⅠR745-295グリッド	35	2-2面	打製石斧		珪質頁岩	完形	1	132	55	21	152.2	
184	第200155・Pl.65	縄文	ⅠR745-295グリッド	36	2-2面	打製石斧		粗粒輝石安山岩	完形	1	101	55	17	95.1	
185		縄文	ⅠR745-295グリッド		2-2面	二次加工削片		珪質頁岩	完形	1	59	35	13	21.6	
186		縄文	ⅠR745-295グリッド		2-2面	二次加工削片		黒曜石	完形	1	18	13	7	1.5	
187		縄文	ⅠR745-295グリッド		2-2面	削片		赤碧玉		1				2.4	
188		縄文	ⅠR745-295グリッド		2-2面	削片		珪質頁岩		4				37.5	
189		縄文	ⅠR745-295グリッド		2-2面	削片		黒曜石		2				3.1	
190		縄文	ⅠR745-295グリッド		2-2面	石器		粗粒輝石安山岩		2				301.6	
191	第300176・Pl.66	縄文	ⅠR745-295グリッド	46	2-2面	石器		粗粒輝石安山岩	完形	1	210	107	69	1,603.2	
192		縄文	ⅠR745-300グリッド		2-2面	スクレイパー		黒色頁岩	完形	1	77	52	15	52.2	
193	第200127・Pl.63	縄文	ⅠR745-300グリッド		2-2面	石鏝	凹基無葉鏝	黒色頁岩	完形	1	31	19	3	1.9	
194		縄文	ⅠR745-300グリッド		2-2面	二次加工削片		黒曜石	完形	1	15	13	7	1.1	
195		縄文	ⅠR745-300グリッド		2-2面	削片		黒色頁岩		2				0.8	
196		縄文	ⅠR745-300グリッド		2-2面	削片		粗粒輝石安山岩		1				75.1	
197		縄文	ⅠR745-300グリッド		2-2面	削片		ホルンフェルス		1				6.4	
198		縄文	ⅠR745-300グリッド		2-2面	削片		流紋岩		1				6.5	
199		縄文	ⅠR745-300グリッド		2-2面	石器		粗粒輝石安山岩		1				380.6	
200	第300207・Pl.69	縄文	ⅠR745-300グリッド		2-2面	石器		粗粒輝石安山岩	完形	1	105	51	33	297.7	
201	第300217・Pl.70	縄文	ⅠR745-305グリッド	49	2-2面	磨石		結晶片岩	完形	1	59	25	14	26.2	
202	第200168・Pl.66	縄文	ⅠR745-305グリッド	63	2-2面	打製石斧		珪質頁岩	完形	1	112	71	22	178.4	
203		縄文	ⅠR745-305グリッド	43	2-2面	打製石斧		粗粒輝石安山岩	完形	1	74	59	21	108.4	
204		縄文	ⅠR745-305グリッド		2-2面	打製石斧		砂岩	完形	1	48	37	10	26.5	
205		縄文	ⅠR745-305グリッド		2-2面	削片		珪質頁岩		6				41.4	
206		縄文	ⅠR745-305グリッド		2-2面	削片		黒色頁岩		1				144.2	

No	挿入 PL No.	時代	出土位置	取上 番号	出土 層位	器種	形態	石材	残存 点数	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	
207		縄文	IK745-305グリッド		IX層	削片		黒曜石	2				3.8		
208		縄文	IK745-305グリッド		IX層	削片		ホルンフェルス	1				5.8		
209	第300473・Pl.66	縄文	IK745-305グリッド	59	IX層	磨製石斧		輝緑岩	欠損	1	35	30	22.5		
210	第300475・Pl.66	縄文	IK745-305グリッド		IX層	磨製石斧		変玄武岩	完形	1	85	46	12	60.3	
211	第3294187・Pl.67	縄文	IK745-305グリッド	47	IX層	両面調整石器		黒色安山岩	完形	1	60	58	31	120.8	
212		縄文	IK745-310グリッド		IX層	スクレイパー		珪質頁岩	完形	1	60	39	4	14.2	
213		縄文	IK745-310グリッド		IX層	打製石斧		黒色頁岩	完形	1	55	41	21	68.3	
214		縄文	IK745-310グリッド		IX層	二次加工削片		珪質頁岩	完形	1	68	70	21	102.1	
215		縄文	IK745-310グリッド		IX層	二次加工削片		黒色頁岩	完形	1	33	57	11	19.4	
216		縄文	IK745-310グリッド		IX層	削片		黒曜石	1				0.5		
217		縄文	IK745-310グリッド		IX層	削片		細粒輝石安山岩	1				65.3		
218	第3304190・Pl.68	縄文	IK745-310グリッド		IX層	磨石		珪質頁岩	完形	1	103	70	40	460.4	
219		縄文	IK745-315グリッド		IX層	打製石斧		珪質頁岩	欠損	1	61	44	15	52.2	
220		縄文	IK745-315グリッド		IX層	打製石斧		黒色頁岩	欠損	1	62	55	14	79.7	
221		縄文	IK745-315グリッド		IX層	打製石斧		細粒輝石安山岩	欠損	1	93	54	22	142.1	
222		縄文	IK745-315グリッド		IX層	削片		黒色安山岩	1				7.3		
223		縄文	IK745-315グリッド		IX層	削片		黒曜石	1				2.0		
224		縄文	IK745-320グリッド		2-2面	打製石斧		珪質頁岩	欠損	1	56	31	20	31.3	
225		縄文	IK745-320グリッド		2-2面	打製石斧		細粒輝石安山岩	欠損	1	100	43	19	110.9	
226	第2804150・Pl.65	縄文	IK745-320グリッド		2-2面	打製石斧		細粒輝石安山岩	完形	1	141	59	19	149.2	
227		縄文	IK745-320グリッド		2-2面	打製石斧		細粒輝石安山岩	欠損	1	87	54	14	63.6	
228		縄文	IK745-320グリッド		2-2面	削片		黒色頁岩	2				22.2		
229	第3404200・Pl.68	縄文	IK745-320グリッド		2-2面	四石	門基無蓋	粗粒輝石安山岩	完形	1	146	92	44	827.6	
230	第2804133・Pl.63	縄文	IK745-325グリッド		2-2面	石鏝		珪質頁岩	欠損	1	25	21	3	1.5	
231		縄文	IK745-325グリッド		2-2面	打製石斧		黒色頁岩	欠損	1	70	39	20	49.3	
232		縄文	IK745-325グリッド		2-2面	二次加工削片		珪質頁岩	完形	1	43	47	12	13.4	
233		縄文	IK745-325グリッド		2-2面	削片		珪質頁岩	2				22.3		
234		縄文	IK745-325グリッド		2-2面	削片		細粒輝石安山岩	1				54.8		
235		縄文	IK745-330グリッド		2-2面	打製石斧		黒色頁岩	欠損	1	57	35	17	37.1	
236		縄文	IK745-330グリッド		2-2面	打製石斧		細粒輝石安山岩	欠損	1	63	51	15	67.3	
237	第3404201・Pl.68	縄文	IK745-330グリッド		2-2面	四石		粗粒輝石安山岩	完形	1	144	82	42	806.8	
238		縄文	IK745-335グリッド		2-2面	二次加工削片		珪質頁岩	1	25	7	5	0.8		
239	第2304229・Pl.63	縄文	IK745-340グリッド	15	2-2面	石鏝	門基無蓋	黒色安山岩	完形	1	24	14	3	1.1	
240		縄文	IK745-340グリッド		2-2面	打製石斧		細粒輝石安山岩	欠損	1	102	55	27	127.0	
241		縄文	IK745-340グリッド		2-2面	削片		珪質頁岩	2				5.4		
242	第2804163・Pl.65	縄文	IK745-345グリッド		2-2面	打製石斧		細粒輝石安山岩	完形	1	80	39	14	49.0	
243	第2804151・Pl.64	縄文	IK745-345グリッド		2-2面	打製石斧		細粒輝石安山岩	完形	1	87	39	16	63.2	
244		縄文	IK745-345グリッド		2-2面	打製石斧		細粒輝石安山岩	欠損	1	58	56	11	48.1	
245	第3304197・Pl.68	縄文	IK745-350グリッド		2-2面	磨石		粗粒輝石安山岩	完形	1	93	81	46	486.8	
246	第2804161・Pl.65	縄文	IK750-305グリッド	53	IX層	打製石斧		珪質頁岩	完形	1	124	54	19	137.4	
247		縄文	IK750-305グリッド		IX層	打製石斧		黒色頁岩	欠損	1	44	47	8	18.1	
248		縄文	IK750-305グリッド		IX層	削片		珪質頁岩	2				38.9		
249		縄文	IK750-305グリッド		IX層	削片		黒色頁岩	1				1.9		
250		縄文	IK750-305グリッド		IX層	削片		細粒輝石安山岩	1				20.6		
251		縄文	IK750-310グリッド	50	IX層	打製石斧		珪質頁岩	欠損	1	63	66	16	94.7	
252		縄文	IK750-310グリッド		IX層	削片		黒曜石	1				0.2		
253		縄文	IK750-310グリッド		X層	削片		黒曜石	1				0.6		
254		縄文	IK750-310グリッド		IX層	鏝		粗粒輝石安山岩	5				749.5		
255	第3084213・Pl.70	縄文	IK750-310グリッド		IX層	台石		粗粒輝石安山岩	完形	1	252	88	70	2,545.0	
256		縄文	IK750-310グリッド		IX層	鏝		粗粒輝石安山岩	完形	1	63	35	34	99.1	
257		縄文	IK750-315グリッド		IX層	削片		黒色頁岩	2				32.7		
258		縄文	IK750-315グリッド		IX層	削片		細粒輝石安山岩	2				29.1		
259	第3704214・Pl.70	縄文	IK750-315グリッド		IX層	台石		粗粒輝石安山岩	完形	1	204	172	62	3,418.0	
260	第3704215・Pl.70	縄文	IK750-315グリッド	54	IX層	台石		粗粒輝石安山岩	欠損	1	115	114	96	1,014.9	
261	第2794143・Pl.64	縄文	IK750-320グリッド	19		石鏝		黒色頁岩	完形	1	51	65	10	25.1	
262		縄文	IK750-320グリッド		2-2面	削片		珪質頁岩	1				1.6		
263		縄文	IK750-325グリッド		2-2面	二次加工削片		黒色頁岩	完形	1	44	23	15	14.5	
264		縄文	IK750-325グリッド		2-2面	削片		珪質頁岩	1				3.8		
265		縄文	IK750-325グリッド		2-2面	削片		黒色頁岩	1				6.7		
266		縄文	IK750-325グリッド		2-2面	削片		細粒輝石安山岩	1				78.9		
267	第3704218・Pl.70	縄文	IK750-330グリッド	18		塊状耳飾り		メノウ	欠損	1	24	27	10	8.3	
268		縄文	IK750-330グリッド		2-2面	二次加工削片		黒色頁岩	完形	1	18	29	4	1.7	
269	第3404202・Pl.68	縄文	IK750-330グリッド		2-2面	四石		粗粒輝石安山岩	完形	1	98	91	50	717.4	
270		縄文	IK750-335グリッド		2-2面	削片		珪質頁岩	3				42.6		
271		縄文	IK750-335グリッド		2-2面	削片		黒色頁岩	1				21.9		
272	第2804126・Pl.63	縄文	IK750-340グリッド		2-2面	石鏝	門基無蓋	黒曜石	欠損	1	23	16	4	0.7	産地分析
273		縄文	IK750-340グリッド		2-2面	打製石斧		珪質頁岩	完形	1	36	35	8	15.1	
274		縄文	IK750-340グリッド		2-2面	削片		珪質頁岩	1				8.1		
275		縄文	IK750-345グリッド		2-2面	打製石斧		珪質頁岩	完形	1	75	42	18	62.6	

No	挿入 PL.No.	時代	出土位置	取上 番号	出土 層位	器種	形態	石材	残存 点数	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	
276		縄文	1区750-345グリッド		2-2面	打製石斧		黒色頁岩	完形	1	48	33	17	27.1	
277		縄文	1区750-345グリッド		2-2面	刮片		ホルンフェルス	1					27.6	
278		縄文	1区750-350グリッド		2-2面	刮片		珪質頁岩	1					6.3	
279		縄文	1区750-350グリッド		2-2面	刮片		ホルンフェルス	1					26.1	
280	第280H134・PL.63	縄文	1区750-355グリッド		2-2面	磨製石鏃		黒曜石	完形	1	17	18	1	0.4	産地分析
281	第340H203・PL.68	縄文	1区755-320グリッド		2-2面	磨石		粗粒輝石安山岩	完形	1	148	71	41	639.9	
282		縄文	1区755-325グリッド		2-2面	刮片		珪質頁岩	1					3.0	
283		縄文	1区755-325グリッド		2-2面	刮片		黒曜石	1					1.1	
284		縄文	1区755-325グリッド		2-2面	刮片		ホルンフェルス	2					5.4	
285	第279H147・PL.64	縄文	1区755-330グリッド		2-2面	楔形石器		黒色安山岩	完形	1	55	62	18	77.7	
286		縄文	1区755-330グリッド		2-2面	スクレイパー		珪質頁岩	完形	1	65	39	11	16.9	
287		縄文	1区755-330グリッド		2-2面	刮片		粗粒輝石安山岩	1					11.8	
288		縄文	1区755-330グリッド		2-2面	刮片		チャート	1					6.4	
289		縄文	1区755-330グリッド		2-2面	刮片		ホルンフェルス	1					0.4	
290		縄文	1区755-340グリッド		2-2面	打製石斧		粗粒輝石安山岩	完形	1	72	37	12	59.0	
291		縄文	1区755-340グリッド		2-2面	刮片		珪質頁岩	1					2.0	
292		縄文	1区755-340グリッド		2-2面	刮片		ホルンフェルス	1					7.4	
293	第338H208・PL.69	縄文	1区765-355グリッド	12	2-2面	石皿		粗粒輝石安山岩	欠損	1	282	192	90	5,354.5	
294		縄文	1区北トレンチ		3面	刮片		珪質頁岩	1					27.2	
295	第279H141・PL.64	縄文	1区道溝外	13	2-2面	石匙		黒色頁岩	完形	1	35	50	10	14.3	
296		縄文	1区道溝外		2-2面	スクレイパー		黒色頁岩	欠損	1	50	48	9	24.0	
297	第330H179・PL.67	縄文	1区道溝外	8		石核		黒曜石	完形	1	55	24	13	9.8	産地分析
298		縄文	1区道溝外	3		石鏃	凸基無著	珪質頁岩	欠損	1	23	12	3	0.5	
299	第280H156・PL.65	縄文	1区道溝外	10		打製石斧		珪質頁岩	完形	1	112	49	26	140.9	
300		縄文	1区道溝外	6		打製石斧		黒色頁岩	欠損	1	86	50	19	113.4	
301		縄文	1区道溝外	7		打製石斧		粗粒輝石安山岩	完形	1	81	49	20	94.5	
302		縄文	1区道溝外		1面	刮片		珪質頁岩	1					6.2	
303		縄文	1区道溝外		2面	刮片		珪質頁岩	1					5.2	
304		縄文	1区道溝外	2-1面	刮片			粗粒輝石安山岩	1					10.0	
305	第308H209・PL.69	縄文	1区道溝外	9		台石		粗粒輝石安山岩	欠損	1	216	220	94	6,561.0	
306		縄文	2区道溝外		2-1面	石核		珪質頁岩	完形	1	80	74	35	229.6	
307		縄文	2区道溝外		2-1面	石鏃	凹基無著	黒曜石	欠損	1	15	7	4	0.2	
308	第280H157・PL.65	縄文	2区道溝外	2	2-1面	打製石斧		黒色頁岩	完形	1	122	55	27	164.5	
309	第300H171・PL.66	縄文	2区道溝外	5	2-1面	打製石斧		粗粒輝石安山岩	完形	1	197	98	25	324.6	
310		縄文	2区道溝外		1面	刮片		珪質頁岩	1					3.1	
311		縄文	2区道溝外	4	2-1面	刮片		黒色頁岩	1					98.5	
312		縄文	2区道溝外		2-1面	刮片		黒曜石	1					0.1	
313	PL.74-44	古墳以降	1区2号竪穴建物	112		こもあみ石		花崗岩	完形	1	124	62	51	739.8	
314	PL.72-26	古墳以降	1区2号竪穴建物	72		こもあみ石		粗粒輝石安山岩	完形	1	161	63	47	597.7	
315	PL.73-41	古墳以降	1区2号竪穴建物	96		こもあみ石		閃緑岩	完形	1	171	62	47	772.5	
316	PL.74-42	古墳以降	1区2号竪穴建物	97		こもあみ石		閃緑岩	完形	1	137	72	43	788.0	
317	PL.72-34	古墳以降	1区2号竪穴建物	70		こもあみ石		粗粒輝石安山岩	完形	1	122	37	43	380.0	
318	PL.72-25	古墳以降	1区2号竪穴建物	71		こもあみ石		粗粒輝石安山岩	完形	1	140	63	45	751.5	
319	PL.72-27	古墳以降	1区2号竪穴建物	73		こもあみ石		粗粒輝石安山岩	完形	1	143	72	41	726.3	
320	PL.72-28	古墳以降	1区2号竪穴建物	74		こもあみ石		粗粒輝石安山岩	完形	1	110	44	39	370.4	
321	PL.73-31	古墳以降	1区2号竪穴建物	86		こもあみ石		粗粒輝石安山岩	完形	1	85	51	34	231.8	
322	PL.73-32	古墳以降	1区2号竪穴建物	87		こもあみ石		粗粒輝石安山岩	欠損	1	86	66	40	320.1	
323	PL.73-34	古墳以降	1区2号竪穴建物	89		こもあみ石		粗粒輝石安山岩	完形	1	133	60	34	418.3	
324	PL.73-35	古墳以降	1区2号竪穴建物	90		こもあみ石		粗粒輝石安山岩	完形	1	135	64	47	500.9	
325	PL.73-36	古墳以降	1区2号竪穴建物	91		こもあみ石		粗粒輝石安山岩	完形	1	128	55	39	409.1	
326	PL.73-38	古墳以降	1区2号竪穴建物	93		こもあみ石		粗粒輝石安山岩	完形	1	129	57	50	491.0	
327	PL.73-39	古墳以降	1区2号竪穴建物	94		こもあみ石		粗粒輝石安山岩	完形	1	140	50	47	690.1	
328	PL.73-40	古墳以降	1区2号竪穴建物	95		こもあみ石		粗粒輝石安山岩	完形	1	126	59	41	557.9	
329	PL.74-43	古墳以降	1区2号竪穴建物	98		こもあみ石		粗粒輝石安山岩	完形	1	131	56	47	637.3	
330	PL.72-29	古墳以降	1区2号竪穴建物	75		こもあみ石		変質安山岩	完形	1	138	61	28	542.0	
331	PL.73-30	古墳以降	1区2号竪穴建物	76		こもあみ石		変質安山岩	完形	1	125	53	34	342.0	
332	PL.73-33	古墳以降	1区2号竪穴建物	88		こもあみ石		変質安山岩	完形	1	149	63	49	719.3	
333	PL.73-37	古墳以降	1区2号竪穴建物	92		こもあみ石		変質安山岩	完形	1	150	56	40	567.1	
334	PL.71-19	古墳以降	1区8号竪穴建物	29		こもあみ石		粗粒輝石安山岩	完形	1	137	57	38	503.3	
335	第808H2・PL.79	古墳以降	1区11号竪穴建物	10		砥石		凝灰岩	完形	1	103	39	41	304.4	
336	第1010H20・PL.81	古墳以降	1区13号竪穴建物	71		砥石		凝灰岩	完形	1	47	44	23	52.4	
337	第1008H7・PL.82	古墳以降	1区16号竪穴建物	71		紡輪		蛇紋岩	完形	1	38	39	18	30.7	
338	第1008H10・PL.83	古墳以降	1区道溝外			紡輪		蛇紋岩	完形	1	42	40	19	39.7	

*時代は、遺物の時代を示すもので、出土した遺物の時代や共存を示すとは限らない。

*刮片・鏃は、遺構別・石材別に点数と重量の合計値を記載

写真図版



1 小泉天神西遺跡遠景(西から)



2 小泉天神西遺跡遠景(南から)



1 小泉天神西遺跡1区2面近景(上空から)



2 小泉天神西遺跡1区4面近景(上空から)



1 4～6号トレンチ配置(南から)



2 4～6号トレンチ配置(東から)



3 7～12号トレンチ配置(東から)



4 基本土層セクション(南から)



5 1号トレンチセクション(東から)



6 6号トレンチセクション(南から)



7 7号トレンチセクション(南から)



8 8号トレンチセクション(南から)



9 9号トレンチセクション(南から)



10 10号トレンチセクション(南から)



11 11号トレンチセクション(南から)



12 12号トレンチセクション(南から)



13 テフラ分析試料採取地点(南から)



14 テフラ分析試料採取地点(南から)



15 テフラ分析試料採取状況(南から)



1 20号竪穴建物全景(西から)



2 20号竪穴建物遺物出土状況(西から)



1 20号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



2 20号竪穴建物が検出状況(北東から)



3 20号竪穴建物がセクション(北西から)



4 20号竪穴建物が掘り方遺物出土状況(南西から)



5 51号土坑セクション(東から)



6 51号土坑全景(東から)



7 51号土坑逆茂木痕出土状況(東から)



8 52号土坑全景(西から)



9 53号土坑セクション(南東から)



10 53号土坑全景(南東から)



1 54号土坑セクション(北東から)



2 54号土坑全景(北東から)



3 55号土坑セクション(南から)



4 55号土坑全景(南から)



5 56号土坑セクション(北西から)



6 56号土坑全景(北東から)



7 56号土坑P 1セクション(北東から)



8 56号土坑P 2セクション(北東から)



9 56号土坑P 3セクション(北東から)



10 57号土坑セクション(南から)



11 57号土坑全景(南から)



12 58号土坑セクション(南から)



13 58号土坑全景(東から)



14 59号土坑セクション(南から)



15 59号土坑全景(南から)



1 60号土坑セクション(南から)



2 60号土坑全景(東から)



3 60号土坑P1セクション(南から)



4 61号土坑セクション(東から)



5 61号土坑全景(北から)



6 62号土坑セクション(南東から)



7 62号土坑全景(南西から)



8 63号土坑セクション(北東から)



9 63号土坑全景(北西から)



10 64号土坑セクション(北西から)



11 64号土坑全景(北から)



12 67号土坑セクション(北西から)



13 67号土坑全景(南から)



14 68号土坑セクション(南から)



15 68号土坑全景(南から)



1 69号土坑セクション(南から)



2 69号土坑全景(南から)



3 70号土坑セクション(南東から)



4 70号土坑全景(南東から)



5 71号土坑セクション(南から)



6 71号土坑全景(南東から)



7 233号ピットセクション(南から)



8 233号ピット全景(南東から)



9 234号ピットセクション(南から)



10 234号ピット全景(南から)



11 235号ピット全景(南から)



12 236号ピットセクション(南から)



13 236号ピット全景(南から)



14 遺構外遺物出土状況1(東から)



15 遺構外遺物出土状況2(東から)



1 19号竪穴建物全景(西から)



2 2区全景(南から、写真左下に19号竪穴建物)



3 19号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



4 19号竪穴建物焼土全景(北から)



5 19号竪穴建物掘り方全景(西から)



1 19号竪穴建物セクションA-A' (北から)



2 19号竪穴建物セクションB-B' (東から)



3 19号竪穴建物掘り方セクション(北から)



4 48号土坑セクション(西から)



5 48号土坑全景(西から)



6 228号ピットセクション(南から)



7 228号ピット全景(南から)



8 229号ピットセクション(南から)



9 229号ピット全景(南から)



10 230号ピットセクション(南から)



11 230号ピット全景(南から)



12 231号ピットセクション(南から)



13 231号ピット全景(南から)



14 232号ピットセクション(南から)



15 232号ピット全景(南から)



1 1号竪穴建物遺物出土状態(西から)



2 1号竪穴建物セクション(東から)



3 1号竪穴建物全景(西から)



4 1号竪穴建物掘り方セクションB-B'(西から)



5 1号竪穴建物掘り方全景(西から)



1 2号竪穴建物セクション(西から)



2 2号竪穴建物遺物出土状態(北から)



3 2号竪穴建物遺物出土状態(北から)



4 2号竪穴建物遺物出土状態(南から)



5 2号竪穴建物遺物出土状態(南から)



6 2号竪穴建物掘り方セクション(西から)



7 2号竪穴建物全景(西から)



8 2号竪穴建物カマドセクション(西から)



1 2号竪穴建物カマド全景(西から)



2 2号竪穴建物P 1全景(南から)



3 2号竪穴建物P 2全景(南から)



4 2号竪穴建物P 3全景(南から)



5 2号竪穴建物P 4全景(南から)



6 2号竪穴建物P 5全景(北から)



7 2号竪穴建物P 6全景(南から)



8 2号竪穴建物P 7全景(南から)



1 3号竪穴建物セクション(南から)



2 3号竪穴建物遺物出土状況(南から)



3 3号竪穴建物全景(南から)



4 3号竪穴建物カマド振り方セクション(西から)



5 3号竪穴建物カマド全景(西から)



6 3号竪穴建物カマド振り方セクション(南から)



7 3号竪穴建物カマド全景(西から)



8 3号竪穴建物貯蔵穴全景(西から)



1 4号竪穴建物セクション(西から)



2 4号竪穴建物遺物出土状況(西から)



3 4号竪穴建物全景(西から)



4 4号竪穴建物掘り方セクション(西から)



5 4号竪穴建物掘り方全景(西から)



6 4号竪穴建物カマドセクション(北から)



7 4号竪穴建物カマド遺物出土状況(西から)



8 4号竪穴建物カマド全景(北から)



1 4号竪穴建物1号土坑全景(西から)



2 4号竪穴建物P2全景(北から)



3 4号竪穴建物P3全景(南から)



4 4号竪穴建物P4全景(南から)



5 4号竪穴建物P5全景(西から)



6 4号竪穴建物P6全景(西から)



7 4号竪穴建物調査作業風景(南から)



8 4号竪穴建物調査作業風景(南から)



1 5号竪穴建物掘り方セクション(北から)



2 5号竪穴建物掘り方全景(西から)



3 5号竪穴建物カマド掘り方遺物出土状況(南から)



4 5号竪穴建物カマド構築材出土状況(北から)



5 5号竪穴建物カマド掘り方セクション(西から)



6 5号竪穴建物カマド掘り方全景(西から)



7 5号竪穴建物セクション(東から)



8 5号竪穴建物1号床下土坑全景(東から)



1 6号竪穴建物セクション(南から)



2 6号竪穴建物全景(西から)



3 6号竪穴建物カマドセクション(南から)



4 6号竪穴建物カマド遺物出土状況1(西から)



5 6号竪穴建物カマド遺物出土状況2(西から)



6 6号竪穴建物カマド掘り方セクション(南から)



7 6号竪穴建物カマド全景(西から)



8 6号竪穴建物カマド掘り方全景(西から)



1 7号竪穴建物セクション(西から)



2 7号竪穴建物遺物出土状況(北から)



3 7号竪穴建物全景(北から)



4 7号竪穴建物貯蔵穴遺物出土状況(北から)



5 8号竪穴建物遺物出土状況1(西から)



6 8号竪穴建物遺物出土状況2(西から)



7 8号竪穴建物遺物出土状況3(西から)



8 8号竪穴建物全景(北から)



1 8号竪穴建物掘り方セクション(南から)



2 8号竪穴建物掘り方全景(西から)



3 8号竪穴建物カマドセクション(南から)



4 8号竪穴建物カマドセクション(西から)



5 8号竪穴建物カマド遺物出土状況(西から)



6 8号竪穴建物カマド掘り方セクション(西から)



7 8号竪穴建物カマド掘り方セクション(西から)



8 8号竪穴建物カマド掘り方全景(西から)



1 8号竪穴建物1号床下土坑全景(南から)



2 8号竪穴建物2号床下土坑全景(南から)



3 8号竪穴建物3号床下土坑全景(南から)



4 8号竪穴建物4号床下土坑全景(南から)



5 9号竪穴建物全景(北から)



6 9号竪穴建物セクション(西から)



7 9号竪穴建物掘り方セクション(西から)



8 9号竪穴建物掘り方全景(北から)



1 10号竪穴建物セクション(西から)



2 10号竪穴建物遺物出土状況(西から)



3 10号竪穴建物全景(西から)



4 10号竪穴建物カマドセクション(西から)



5 10号竪穴建物全景(西から)



6 10号竪穴建物カマド掘り方セクション(西から)



7 10号竪穴建物カマド掘り方全景(西から)



8 10号竪穴建物掘り方全景(西から)



1 11号竪穴建物セクション(西から)



2 11号竪穴建物遺物出土状況(北から)



3 11号竪穴建物掘り方セクション(北西から)



4 11号竪穴建物掘り方全景(西から)



5 11号竪穴建物カマド掘り方セクション(西から)



6 11号竪穴建物囲み石出土状況(西から)



7 11号竪穴建物カマド全景(西から)



8 11号竪穴建物カマド掘り方全景(西から)



1 12号竪穴建物セクション(西から)



2 12号竪穴建物全景(西から)



3 12号竪穴建物掘り方全景(西から)



4 12号竪穴建物カマド遺物出土状況(西から)



5 12号竪穴建物カマドセクション(西から)



6 12号竪穴建物カマド全景(西から)



7 12号竪穴建物カマド全景(西から)



8 12号竪穴建物カマド掘り方全景(西から)



1 13号竪穴建物セクション(西から)



2 13号竪穴建物遺物出土状況(西から)



3 13号竪穴建物掘り方全景(西から)



4 13号竪穴建物カマドセクション(西から)



5 13号竪穴建物カマド掘り方全景(西から)



6 13号竪穴建物カマド全景(西から)



7 13号竪穴建物鉄製品出土状況(西から)



8 13号竪穴建物カマド掘り方セクション(西から)



1 14号竪穴建物セクション(西から)



2 14号竪穴建物全景(西から)



3 14号竪穴建物カマド掘り方セクション(西から)



4 14号竪穴建物カマド掘り方セクション(西から)



5 14号竪穴建物掘り方セクション(北から)



6 14号竪穴建物1号床下土坑セクション(南から)



7 14号竪穴建物1号床下土坑全景(南から)



8 14号竪穴建物掘り方全景(西から)



1 16号竪穴建物セクション(西から)



2 16号竪穴建物遺物出土状況(西から)



3 16号竪穴建物全景(西から)



4 16号竪穴建物全景(西から)



5 16号竪穴建物掘り方セクション(西から)



6 16号竪穴建物掘り方全景(西から)



7 16号竪穴建物カマドセクション(南から)



8 16号竪穴建物カマド掘り方セクション(西から)



1 17号竪穴建物セクション(西から)



2 17号竪穴建物遺物出土状況(西から)



3 17号竪穴建物掘り方セクション(西から)



4 17号竪穴建物カマド掘り方セクション(西から)



5 17号竪穴建物掘り方全景(西から)



6 17号竪穴建物カマド掘り方遺物出土状況(西から)



7 17号竪穴建物カマド遺物出土状況(西から)



8 17号竪穴建物カマド全景(西から)



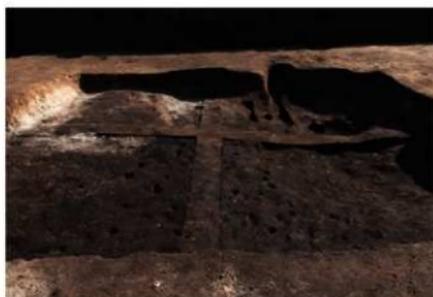
1 18号竪穴建物セクション(北から)



2 18号竪穴建物遺物出土状況(西から)



3 18号竪穴建物掘り方全景(西から)



4 18号竪穴建物掘り方セクション(西から)



5 1号竪穴状遺構セクション(北西から)



6 1号竪穴状遺構遺物出土状況(西から)



7 2号竪穴状遺構全景(北西から)



8 2号竪穴状遺構セクション(南から)



1 43号土坑セクション(南から)



2 43号土坑遺物出土状況(南から)



3 46号土坑セクション(南から)



4 46号土坑全景(西から)



5 50号土坑セクション(北から)



6 50号土坑遺物出土状況(北から)



7 50号土坑遺物出土状況(東から)



8 50号土坑須恵器出土状況(東から)



9 50号土坑全景(北から)



10 218号ピットセクション(南から)



11 222号ピットセクション(南から)



12 222号ピット全景(南から)



13 223号ピットセクション(南から)



14 223号ピット全景(南から)



15 224号ピットセクション(北から)



1 224号ピット全景(北から)



2 225号ピットセクション(南から)



3 225号ピット全景(南から)



4 1区北西部全景(上空から)



1 2号掘立柱建物全景(南から)



2 2号掘立柱建物P 1全景(東から)



3 2号掘立柱建物P 2全景(南から)



4 2号掘立柱建物P 3全景(西から)



5 2号掘立柱建物P 4全景(北から)



6 2号掘立柱建物P 5全景(北から)



7 2号掘立柱建物P 6全景(南から)



8 2号掘立柱建物P 8全景(北から)



9 2号掘立柱建物P 9全景(南から)



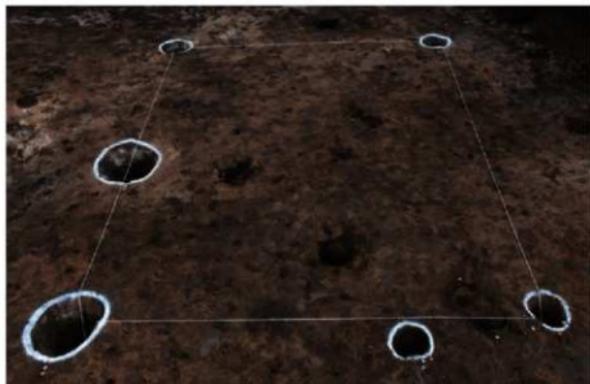
10 5号掘立柱建物P 1全景(南から)



11 5号掘立柱建物P 2全景(南から)



12 5号掘立柱建物P 3全景(南から)



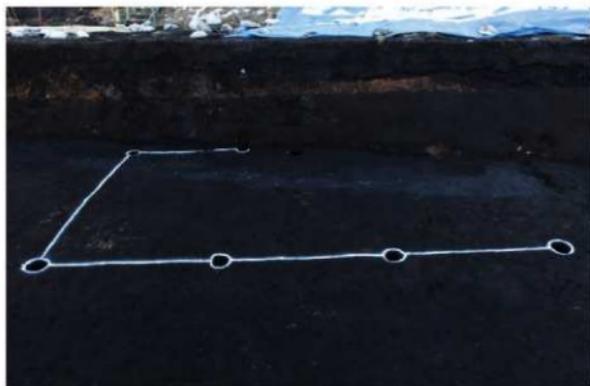
1 5号掘立柱建物全景(南から)



2 5号掘立柱建物P 4全景(南から)



3 5号掘立柱建物P 5全景(南から)



4 6号掘立柱建物全景(北から)



5 6号掘立柱建物P 1全景(北から)



6 6号掘立柱建物P 2全景(北から)



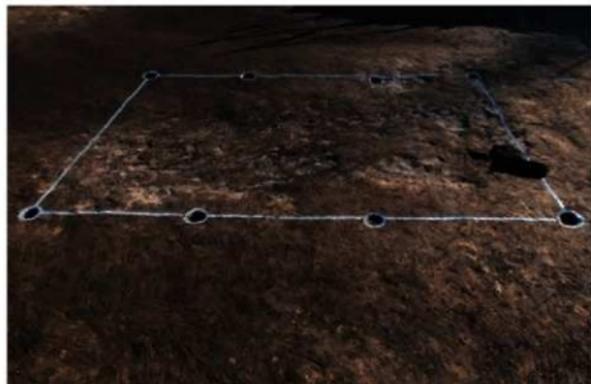
7 6号掘立柱建物P 3全景(北から)



8 6号掘立柱建物P 4全景(北から)



9 6号掘立柱建物P 5全景(北から)



1 7号掘立柱建物全景(北から)



2 7号掘立柱建物P1全景(南から)



3 7号掘立柱建物P3全景(南から)



4 7号掘立柱建物P4全景(南から)



5 7号掘立柱建物P5全景(南から)



6 7号掘立柱建物P6全景(南から)



7 7号掘立柱建物P7全景(南から)



8 7号掘立柱建物P8全景(南から)



9 8号掘立柱建物全景(南から)



1 8号掘立柱建物P1全景(東から)



2 8号掘立柱建物P2全景(東から)



3 8号掘立柱建物P3全景(西から)



4 8号掘立柱建物P4全景(西から)



5 8号掘立柱建物P5全景(西から)



6 9号掘立柱建物全景(西から)



7 9号掘立柱建物P1全景(南から)



8 9号掘立柱建物P2全景(南から)



9 9号掘立柱建物P3全景(南から)



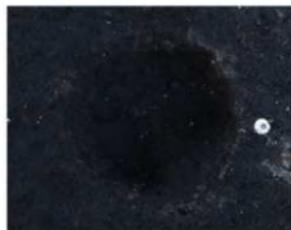
10 9号掘立柱建物P4全景(南から)



11 9号掘立柱建物P6全景(南から)



12 9号掘立柱建物P7全景(南から)



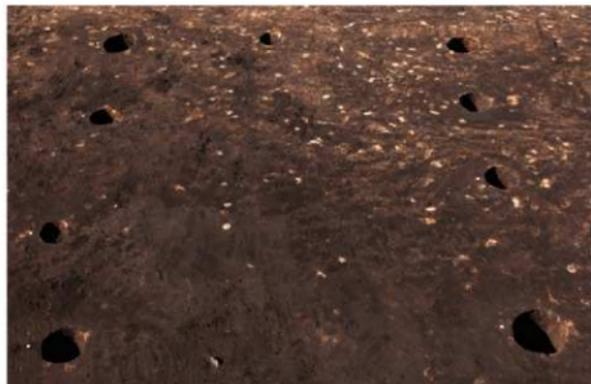
1 9号掘立柱建物P 8 全景(南から)



2 9号掘立柱建物P 9 全景(南から)



3 9号掘立柱建物P10 全景(南から)



4 10号掘立柱建物全景(南から)



5 10号掘立柱建物P 1 全景(南から)



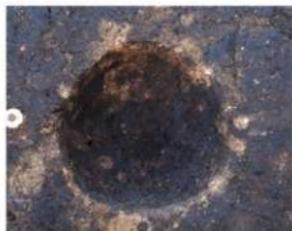
6 10号掘立柱建物P 2 全景(南から)



7 10号掘立柱建物P 3 全景(南から)



8 10号掘立柱建物P 4 全景(南から)



9 10号掘立柱建物P 5 全景(南から)



10 10号掘立柱建物P 6 全景(南から)



11 10号掘立柱建物P 7 全景(南から)



12 10号掘立柱建物P 8 全景(南から)



1 10号掘立柱建物P 9全景(南から)



2 11号掘立柱建物P 1全景(南から)



3 11号掘立柱建物P 2全景(南から)



4 11号掘立柱建物全景(南から)



5 11号掘立柱建物P 3全景(北から)



6 11号掘立柱建物P 4全景(北から)



7 11号掘立柱建物P 5全景(南から)



8 11号掘立柱建物P 6全景(南から)



9 11号掘立柱建物P 7全景(南から)



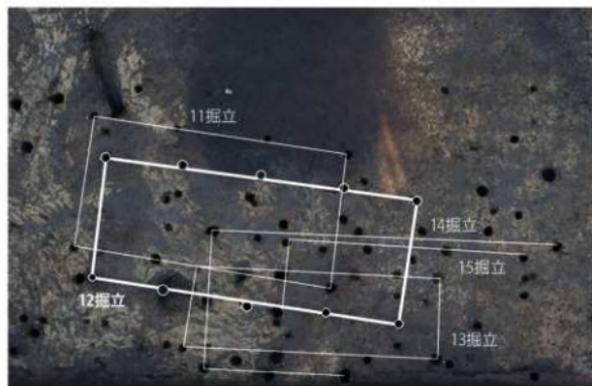
10 11号掘立柱建物P 8全景(南から)



11 12号掘立柱建物P 1全景(南から)



12 12号掘立柱建物P 2全景(南から)



1 12号掘立柱建物全景(南から)



2 12号掘立柱建物P 3全景(北から)



3 12号掘立柱建物P 4全景(南から)



4 12号掘立柱建物P 5全景(南から)



5 12号掘立柱建物P 6全景(南から)



6 12号掘立柱建物P 7全景(南から)



7 12号掘立柱建物P 8全景(南から)



8 12号掘立柱建物P 9全景(北から)



9 12号掘立柱建物P 10全景(南から)



10 13号掘立柱建物P 1全景(南から)



11 13号掘立柱建物P 2全景(南から)



12 13号掘立柱建物P 3全景(南から)



1 13号掘立柱建物全景(南から)



2 13号掘立柱建物P 4全景(南から)



3 13号掘立柱建物P 5全景(北から)



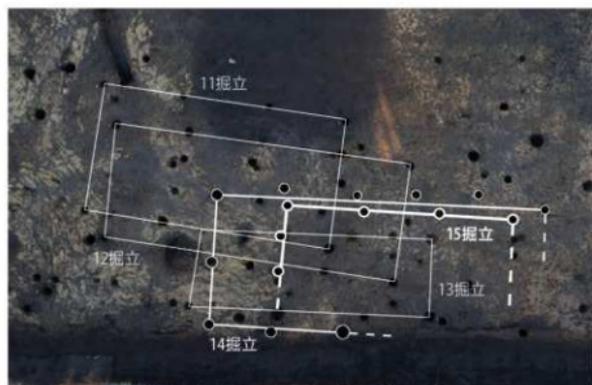
4 13号掘立柱建物P 6全景(北から)



5 13号掘立柱建物P 7全景(北から)



6 13号掘立柱建物P 8全景(北から)



7 14・15号掘立柱建物全景(南から)



8 14号掘立柱建物P 1全景(南から)



9 14号掘立柱建物P 2全景(北から)



1 14号掘立柱建物P 3 全景(南から)



2 14号掘立柱建物P 4 全景(南から)



3 14号掘立柱建物P 5 全景(南から)



4 14号掘立柱建物P 6 全景(南から)



5 14号掘立柱建物P 7 全景(北から)



6 14号掘立柱建物P 8 全景(北から)



7 14号掘立柱建物P 9 全景(北から)



8 14号掘立柱建物P 10 全景(北から)



9 15号掘立柱建物P 1 全景(南から)



10 15号掘立柱建物P 2 全景(南から)



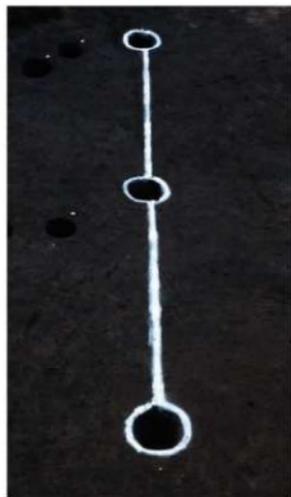
11 15号掘立柱建物P 3 全景(南から)



12 15号掘立柱建物P 4 全景(南から)



13 15号掘立柱建物P 5 全景(南から)



1 1号柵全景(東から)



2 1号柵P 1全景(南から)



3 1号柵P 2全景(南から)



4 1号柵P 3全景(南から)



5 2号柵P 1全景(南から)



6 2号柵P 2全景(南から)



7 2号柵P 3全景(南から)



8 2号柵P 4全景(南から)



9 2号柵P 5全景(南から)



10 2号柵P 6全景(南から)



11 3号柵P 1全景(南から)



12 3号柵P 2全景(南から)



13 3号柵P 3全景(南から)



14 3号柵P 4全景(北から)



1 1号溝全景(南から)



2 1号溝遺物出土状況(南から)



3 1号溝セクション(北から)



4 1号溝遺物出土状況(南から)



5 1号燵セクション(西から)



6 1・2号燵全景(西から)



7 3号燵セクション(西から)



8 3号燵全景(東から)



1 1号土坑セクション(南から)



2 1号土坑全景(南から)



3 2号土坑セクション(南から)



4 2号土坑全景(南から)



5 3号土坑セクション(東から)



6 3号土坑全景(東から)



7 4号土坑セクション(南から)



8 4号土坑全景(南から)



9 5号土坑セクション(東から)



10 5号土坑全景(北から)



11 6号土坑セクション(東から)



12 6~8号土坑全景(西から)



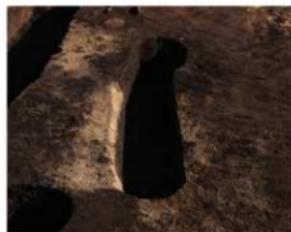
13 7号土坑セクション(北から)



14 7号土坑全景(南から)



15 8号土坑セクション(西から)



1 8号土坑全景(西から)



2 9号土坑セクション(南から)



3 9号土坑全景(北から)



4 10号土坑セクション(南から)



5 10号土坑全景(北から)



6 11号土坑セクション(東から)



7 11号土坑全景(北から)



8 12号土坑セクション(南から)



9 12号土坑全景(北から)



10 13号土坑セクション(東から)



11 13号土坑全景(北から)



12 14号土坑セクション(南から)



13 14号土坑全景(北から)



14 15号土坑セクション(南から)



15 15号土坑全景(北から)



1 16号土坑セクション(南から)



2 16号土坑全景(北から)



3 17号土坑セクション(南から)



4 17号土坑全景(北から)



5 18号土坑セクション(南から)



6 18号土坑全景(西から)



7 19号土坑セクション(南から)



8 19号土坑全景(南から)



9 20号土坑セクション(南から)



10 20号土坑全景(北から)



11 21号土坑セクション(東から)



12 21号土坑全景(北から)



13 22号土坑セクション(東から)



14 22号土坑全景(北から)



15 23号土坑セクション(北から)



1 23号土坑全景(北から)



2 24号土坑セクション(南から)



3 25号土坑セクション(南から)



4 25号土坑全景(南から)



5 26号土坑セクション(南から)



6 26号土坑全景(北から)



7 28号土坑セクション(南から)



8 28号土坑全景(南から)



9 29号土坑セクション(南から)



10 29号土坑全景(北東から)



11 30号土坑・136ビット他セクション(南から)



12 30号土坑全景(北から)



13 31号土坑セクション(南から)



14 31号土坑全景(北から)



15 32号土坑セクション(南から)



1 32号土坑全景(北から)



2 33号土坑セクション(西から)



3 33号土坑全景(西から)



4 34号土坑セクション(南から)



5 34号土坑全景(南から)



6 35号土坑セクション(南から)



7 35号土坑全景(南から)



8 36号土坑セクション(南から)



9 36号土坑全景(北から)



10 37号土坑セクション(南から)



11 37号土坑全景(南から)



12 38号土坑セクション(西から)



13 38号土坑全景(西から)



14 39号土坑セクション(南から)



15 39号土坑全景(東から)



1 40号土坑セクション(西から)



2 40号土坑全景(東から)



3 41号土坑セクション(東から)



4 41号土坑遺物出土状況(東から)



5 42号土坑全景(北から)



6 44号土坑セクション(西から)



7 44号土坑全景(西から)



8 45号土坑セクション(南から)



9 45号土坑全景(北から)



10 47号土坑セクション(東から)



11 48号土坑全景(西から)



12 49号土坑セクション(南から)



13 49号土坑全景(西から)



14 65号土坑全景(南から)



15 66号土坑セクション(南西から)



1 1号ビット全景(南から)



2 2号ビット全景(東から)



3 3号ビット全景(北から)



4 4号ビット全景(南から)



5 5号ビット全景(南から)



6 6号ビット全景(南から)



7 7号ビット全景(南から)



8 8号ビット全景(東から)



9 9号ビット全景(東から)



10 10号ビット全景(東から)



11 11号ビット全景(東から)



12 12号ビット全景(北から)



13 13号ビット全景(東から)



14 14号ビット全景(東から)



15 15号ビット全景(北から)



1 16号ビット全景(北から)



2 17号ビット全景(北から)



3 18号ビット全景(北から)



4 19号ビット全景(北から)



5 20号ビット全景(北から)



6 21号ビット全景(北から)



7 22号ビット全景(北から)



8 23号ビット全景(北から)



9 24号ビット全景(北から)



10 25号ビット全景(北から)



11 29号ビット全景(南から)



12 30号ビット全景(南から)



13 31号ビット全景(南から)



14 32号ビット全景(南から)



15 35号ビット全景(南から)



1 36号ビット全景(南から)



2 37号ビット全景(南から)



3 38号ビット全景(南から)



4 40号ビット全景(南から)



5 41号ビット全景(南から)



6 42号ビット全景(南から)



7 43号ビット全景(南から)



8 44号ビット全景(北から)



9 47号ビット全景(北から)



10 49号ビット全景(北から)



11 50号ビット全景(北から)



12 51号ビット全景(北から)



13 52号ビット全景(南から)



14 53号ビット全景(南から)



15 54号ビット全景(南から)



1 55号ビット全景(南から)



2 56号ビット全景(南から)



3 59号ビット全景(南から)



4 60号ビット全景(南から)



5 65号ビット全景(北から)



6 73号ビット全景(西から)



7 75号ビット全景(南から)



8 76号ビット全景(南から)



9 79号ビット全景(東から)



10 87号ビット全景(南から)



11 88号ビット全景(南から)



12 91号ビット全景(南から)



13 92号ビット全景(南から)



14 95号ビット全景(南から)



15 98号ビット全景(南から)



1 100号ピット全景(南から)



2 103号ピット全景(南から)



3 105号ピット全景(南から)



4 106号ピット全景(南から)



5 107号ピット全景(南から)



6 108号ピット全景(南から)



7 109号ピット全景(北から)



8 110号ピット全景(北から)



9 111号ピット全景(北から)



10 112号ピット全景(南から)



11 113号ピット全景(南から)



12 115号ピット全景(南から)



13 116号ピット全景(南から)



14 118号ピット全景(南から)



15 119号ピット全景(南から)



1 120号ビット全景(南から)



2 121号ビット全景(南から)



3 122号ビット全景(南から)



4 123号ビット全景(北から)



5 124号ビット全景(北から)



6 126号ビット全景(南から)



7 127号ビット全景(南から)



8 128号ビット全景(北から)



9 129号ビット全景(北から)



10 130号ビット全景(北から)



11 131号ビット全景(北から)



12 132号ビット全景(北から)



13 133号ビット全景(南から)



14 136号ビット全景(北から)



15 139号ビット全景(北から)



1 140号ピット全景(北から)



2 142号ピット全景(北から)



3 144号ピット全景(南から)



4 145号ピット全景(北から)



5 146号ピット全景(北から)



6 147号ピット全景(北から)



7 148号ピット全景(北から)



8 149号ピット全景(南から)



9 150号ピット全景(北から)



10 152号ピット全景(北から)



11 153号ピット全景(南から)



12 154号ピット全景(東から)



13 155号ピット全景(北から)



14 156号ピット全景(南から)



15 157号ピット全景(南から)



1 158号ピット全景(南から)



2 159号ピット全景(南から)



3 160号ピット全景(南から)



4 161号ピット全景(南から)



5 162号ピット全景(南から)



6 163号ピット全景(南から)



7 164号ピット全景(南から)



8 165号ピット全景(南から)



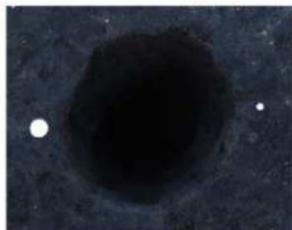
9 166号ピット全景(南から)



10 167号ピット全景(南から)



11 168号ピット全景(北から)



12 169号ピット全景(南から)



13 170号ピット全景(南から)



14 171号ピット全景(南から)



15 172号ピット全景(北から)



1 173号ピット全景(南から)



2 174号ピット全景(南から)



3 175号ピット全景(北から)



4 176号ピット全景(南から)



5 177号ピット全景(南から)



6 178号ピット全景(南から)



7 179号ピット全景(北から)



8 180号ピット全景(北から)



9 181号ピット全景(南から)



10 182号ピット全景(南から)



11 187号ピット全景(南から)



12 189号ピット全景(北から)



13 190号ピット全景(西から)



14 191号ピット全景(南から)



15 192号ピット全景(南から)



1 193号ピット全景(北から)



2 194号ピット全景(南から)



3 195号ピット全景(南から)



4 196号ピット全景(北から)



5 197号ピット全景(北から)



6 198号ピット全景(北から)



7 202号ピット全景(西から)



8 204号ピット全景(北から)



9 205号ピット全景(南から)



10 206号ピット全景(北から)



11 207号ピット全景(北から)



12 208号ピット全景(西から)



13 209・213号ピット全景(東から)



14 216号ピット全景(東から)



15 217号ピット全景(南から)

縄文時代

縄文時代

20号竪穴建物



1



2



3



4



5

51号土坑



1

60号土坑



1

2

遺構外出土遺物



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



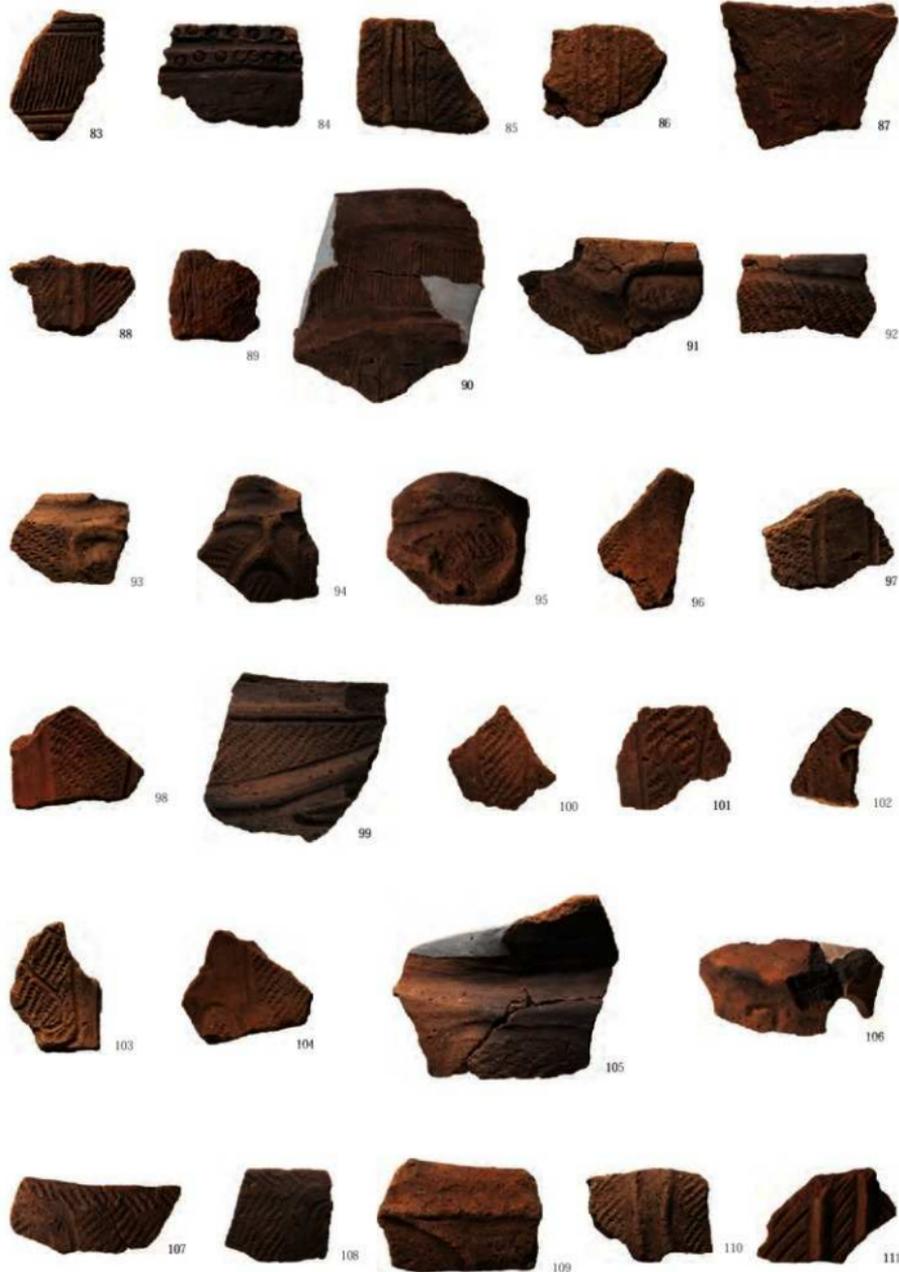
15

縄文時代：20号竪穴建物、51号土坑、60号土坑、遺構外出土遺物(1)





繩文時代：遺構外出土遺物(3)











167



168



169



170



171



172



173



174



175



176



177

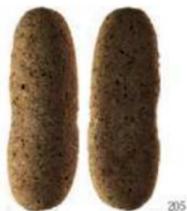


178



縄文時代：遺構外出土遺物(9)







212



213



214



215



216



217



218

古墳時代

19号竪穴建物



1

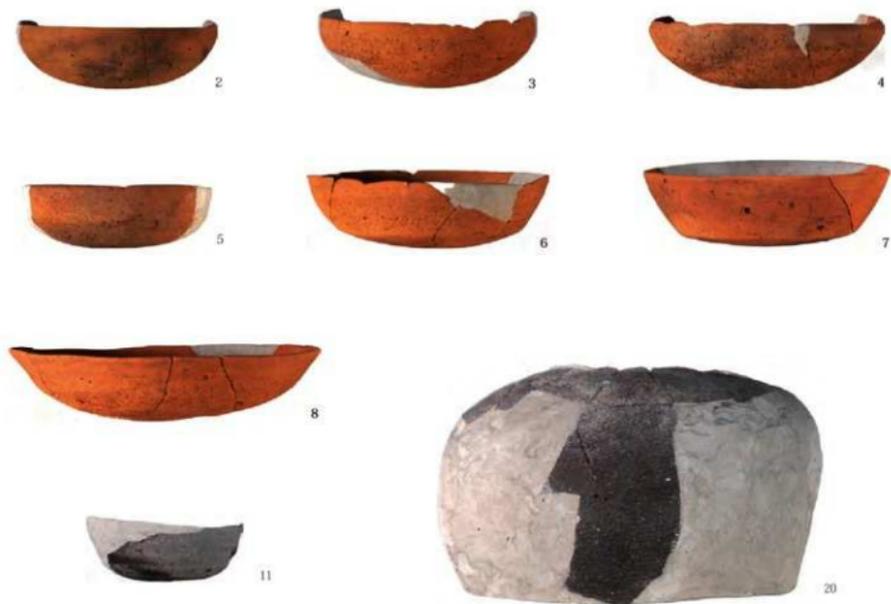
飛鳥～平安時代

飛鳥～平安時代

1号竪穴建物



2号竪穴建物





16



22・23



24



25



26



27



28



29



2号竪穴建物



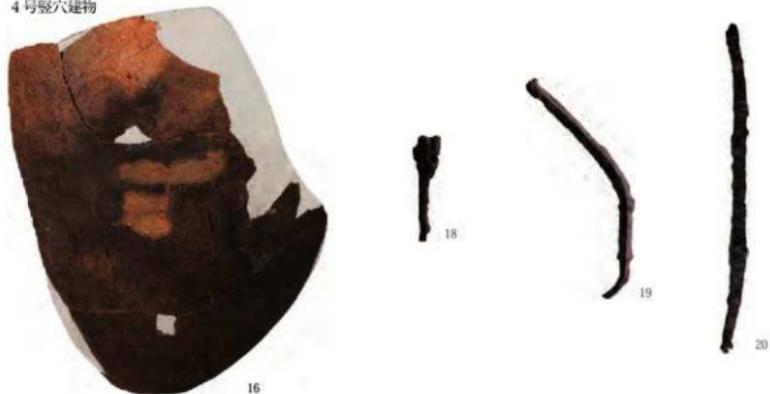
3号竪穴建物



4号竪穴建物



4号竪穴建物



5号竪穴建物



6号竪穴建物



6号竪穴建物



7号竪穴建物



8号竪穴建物



10号竪穴建物



飛鳥～平安時代

11号竪穴建物



2

12号竪穴建物



2



3



4



8



9



14



10



11



12



13



18



19

飛鳥～平安時代

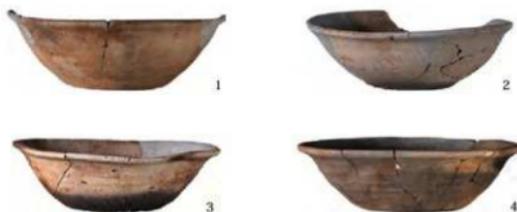
13号竪穴建物



14号竪穴建物



16号竪穴建物



飛鳥～平安時代：13・14・16号竪穴建物出土遺物(1)



飛鳥～平安時代、中・近世

17号竪穴建物



18号竪穴建物



1号竪穴状遺構



50号土坑



遺構外出土遺物



中・近世

8号掘立柱建物



1号溝



飛鳥～平安時代：17・18号竪穴建物出土遺物、1号竪穴状遺構、50号土坑、遺構外出土遺物 中・近世：8号掘立柱建物、1号溝出土遺物(1)



遺構外出土遺物



中・近世：1号溝出土遺物(2)、1号畑、6・41号土坑、遺構外出土遺物

報 告 書 抄 録

書名ふりがな	こいずみてんじんにしいせき
書 名	小泉天神西遺跡
副書名	上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	751
編著者名	麻生敏隆・岩崎泰一・矢口裕之・橋本 淳・神谷佳明
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20250317
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住 所	群馬県渋川市北碓町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	こいずみてんじんにしいせき
遺 跡 名	小泉天神西遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんひがしがつたまちおおあざこいずみあざてんじんにし
遺跡所在地	群馬県吾妻郡東吾妻町大字小泉字天神西
市町村コード	10429
遺跡番号	0202
北緯(世界測地系)	36561335
東経(世界測地系)	138880218
調査期間	20221201-20230331、20230401-20230531
調査面積	2886.70㎡
調査原因	道路建設
種 別	集落/その他
主な時代	縄文/古墳/飛鳥～平安/中・近世
遺跡概要	集落—縄文—竪穴建物1、土坑19、ピット4/古墳—竪穴建物1、土坑1、ピット5、/飛鳥～平安—竪穴建物17、竪穴状遺構2、土坑3、ピット10/中・近世—掘立柱建物12、櫓3、溝1、畑3、土坑47、ピット149。
特記事項	7世紀後半以降10世紀後半の間に建てられた17棟の飛鳥～平安時代の竪穴建物のうち、7世紀末から8世紀初頭に比定される2号竪穴建物から、官衙や寺院との関連が想定される大型圍足面硯出土。
概 要	吾妻川の右岸に形成された河岸段丘上位面上に位置する。縄文時代の中期後葉の石囲いを持つ竪穴建物や土坑があり、遺構外遺物として、早期～後期までの土器が出土し、特に中期の土器の出土量が多い。古墳時代は前期後葉の竪穴建物が1棟、少数の土坑、ピットがあるのみである。5～6世紀の建物が欠落し、飛鳥～平安時代には、17棟の竪穴建物のうち、7世紀後半から10世紀後半まで建物が存続する。7世紀後半に集落の画期がある。中・近世には、掘立柱建物が12棟中央部に集中して建てられている。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第751集

小泉天神西遺跡

上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和7(2025)年3月14日 印刷

令和7(2025)年3月17日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／ジャーナル印刷株式会社

